

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
222	302住	9	壺	1/8口~体	(16.4)	-	(7.3)	にぶい黄橙	有0.4 白色、赤色 粗石	ほぼ良好	口：ヘラ、ヨコナデ 頭：棒状工 具ヨコナデ 体上：ナデ?	口：ヨコハケ?ナデ 体上：ケズリ	図示
222	305住	1	坏	1/3口~体	(10.9)	-	(5.4)	にぶい赤褐	粗、多0.5-1.0 長石	良好	ケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケケズリ	〃
222	〃	2	坏	2/3全位	14.9	-	6.6	橙	有0.2-0.5 白色、赤色、石英	良好	ケズリ後ミガキ	口：ヨコナデ 体：ミガキ	〃
222	〃	3	坏	1/4口~体	14.0	-	(4.1)	にぶい橙	多0.5-1.0 火山岩、小礫	良好	ケズリ	ナデ?	〃
222	306住	1	内黒坏	1/3口~体	13.8	-	(3.6)	にぶい黄橙	密、極少	ほぼ良好	口：ヨコナデ、ハケナデ 体：ケズリ	ヨコミガキ	カマド付近
222	〃	2	内黒坏	完形	14.2	-	3.2	黄灰	少、密	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ビット19 図示
222	〃	3	内黒坏	4/5全位	15.6	-	5.7	にぶい橙	少1.0 白色、赤色 粗石	ほぼ良好	口：ハケナデ 体：手持ち 回転ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
222	〃	4	内黒高坏	ほぼ完形	18.3	14.9	16.7	橙	有0.3-0.8 長石	良好	坏：ナデ+ミガキ? 脚上： タテケズリ 脚中：タテミガ キ 脚指：ヨコナデ	坏：ミガキ 脚：弱いハケ ケズリ 脚指：ヨコナデ	ビット5 図示
222	〃	5	鉢	1/2全位	(12.2)	-	(13.9)	にぶい橙	少0.3 白色粗石	良好	口：ヨコハケ 体：ハケケ ズリ後ヨコミガキ	ユビオサエ後ヨコミガキ	図示
222	〃	6	長頸壺	1/3頸~肩	-	-	(8.5)	橙	少0.2 長石	良好	頭：タテミガキ 体：ヨコミガキ	頭：タテミガキ 体上：タ テヘラ 体中：ユビオサエ	〃
223	309住	1	坏	2/5全位	14.7	-	4.2	浅黄橙	少0.2-0.5 長石、石英	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
223	〃	2	坏	ほぼ完形	16.0	-	6.95	橙	有0.2-0.5 長石、石英	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：放射ナメミガキ	図示
223	〃	3	鉢	1/4口~体	(12.6)	-	(7.8)	明赤褐	多0.2長石、 3.0礫	良好	口：ナデ 体：ハケ	口：ヨコハケ 体：タテハケ	
223	〃	4	坏	3/5全位	15.5	-	9.8	橙	有0.3-1.0 石英、赤色粗石	やや不良	口：ヨコナデ 頭：ケズリ オサエ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケ (板) ナデケズリ	図示
223	〃	5	高坏	脚	-	(16.8)	(9.35)	にぶい褐	有0.2-1.0 白色粗石	良好	脚：タテミガキ 脚指：ヨコミガキ	脚：縦長ヨコケズリ 脚指：ヨコミガキ又はハケ	〃
223	312住	1	小型坏	4/5全位	(9.8)	-	4.1	にぶい褐	多0.2-1.0 白色礫	良好	口：ヨコハケ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケオサエ	〃
223	〃	2	甕	1/4口~肩	(19.0)	-	(9.7)	橙	粗、多0.5-4.0 小礫	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口：ナデ 体：ケズリ	カマド図示
223	315住	1	小型甕	1/5底	-	(6.6)	(2.0)	黒褐	多0.2-0.5 長石	ほぼ良好	体：タテミガキ 底：ケズリ	体：ハケミガキ	
223	〃	2	壺	1/5口縁	(18.4)	-	(4.2)	橙	有0.2-0.5 長石	良好	口：ナデ 体：弱いハケ	ヨコナデ	
223	317住	1	須恵坏	ほぼ完形	10.4	-	3.9	灰	有0.3-2.0 石英、雲母	良好	口：ロクロナデ 体：回転ヘラケズリ	ロクロ	図示
223	〃	2	坏	完形	13.8	-	4.2	明赤褐	多0.1-3.0 長石、赤色粗 石、小礫	良好 (黒斑有)	ヘラケズリ後ナデ	ヨコミガキ	
223	〃	3	坏	1/6口~体	(15.0)	-	(4.5)	にぶい赤褐	有0.1-1.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 体：ヨコナメミガキ	口：ヨコミガキ 体：ナメミガキ	
223	〃	4	坏	1/3全位	(15.5)	-	(4.9)	外：橙 内：黄灰	有0.1-0.5 長石、赤色粗石	良好	ヨコミガキ	口：ヨコハケ 体：ヨコミガキ	
223	〃	5	坏	1/6口~体	(15.5)	-	(3.35)	外：黄灰 内：橙	有0.1-1.0 小礫	ほぼ良好	剥落	剥落	図示
223	〃	6	甕	1/2体~底	-	8.7	(11.0)	にぶい褐	粗0.2-1.0 長石	やや不良 (黒斑)	体：ヘラナデケズリ 底：ヘラ	体：ヘラケズリ+ナデ?	カマド図示 接合痕： 体1
223	〃	7	須恵甕	1/6口~体	-	-	(9.7)	オリーブ黒	少、密0.1-0.5 長石	ほぼ良好	口：炭灰文(3集) 沈線 頭：炭灰文 (16集) ヘラナデ 体上：ロクロ	ヨコミガキ	
223	319住	1	高坏	1/2坏	-	-	(5.0)	橙	有0.2-0.5 赤色粗石	良好	坏：タテミガキ	坏：ナデ	図示
223	320住	1	坏?	1/4口~体	(16.6)	-	(3.8)	にぶい褐	有0.1-1.2 長石	良好	ナナメ放射ミガキ	ナナメ放射ミガキ	〃
223	〃	2	高坏	2/5脚	-	16.6	(9.8)	橙	多0.2-0.3 長石、角礫、雲母	良好	脚：タテミガキ 脚指：ヨコミガキ	脚：ヨコケズリ 脚指：ナデ	〃
223	〃	3	甕	1/5口~体	(17.5)	-	(12.0)	橙	多0.5-2.0 石英、長石	良好	口：ナデ 頭：ハケナデ+ ヘラオサエ 体上：ナデ	口：ヨコハケ 体：ケズリナデ	ビット5 図示
223	〃	4	甕	1/3口~体	(19.4)	-	(6.9)	橙	有0.2-1.0 長石	良好	口：ヨコナデ 頭：ユビオ サエ? 体上：タテケズリ	口：ナデ 体：ハケケズリ	
223	〃	5	甕	1/3口~底	19.3	6.7	(27.5)	橙	有0.2-0.5 長石	良好	口：ヨコハケ 体上：ハケ 体下：タテハケ	口：ヨコナデ 体上：ナデオサエ 底：ハケオサエ 体下：ハケ	図示 接合痕： 頭2、体下1
223	321住	1	須恵器	1/6口~体	(12.2)	-	(3.1)	灰	少0.2 長石	良好	ロクロ	ロクロ	
223	〃	2	坏	ほぼ完形	14.7	-	4.7	にぶい橙	多0.5-2.0 長石	ほぼ良好	ヨコナデ?	ナデ?	図示
223	〃	3	坏	1/4口~体	(14.0)	-	(4.2)	橙	有0.2-0.5 白色粗石	良好	体上：ヨコミガキ 体下：ケズリ	ヨコミガキ	
223	〃	4	坏	ほぼ完形	14.6	-	4.1	にぶい褐	多0.3-2.0 赤色、白色粗石	ほぼ良好	ミガキ不明瞭	ミガキ	図示
223	〃	5	坏	ほぼ完形	14.8	-	4.7	橙	多0.2-1.5 白色粗石	良好	ケズリ後ミガキ?	ミガキ	〃
223	〃	6	坏	3/4全位	13.4	-	4.3	橙	多0.2-1.5 石英、長石、角礫	良好	口：ヨコミガキ 体：ナデケズリ	ミガキ	〃
224	〃	7	坏	1/4口~体	(12.8)	-	(3.6)	橙	粗、多0.2-5.0 火山岩、軽石	やや不良	ナデ?	ナデ?	ビット7 図示
224	〃	8	坏	1/2口~体	(13.6)	-	(4.1)	にぶい橙	少0.2 長石	良好	ヨコミガキ	口唇：やや面取気味 体：ヨ コミガキ 底：タテミガキ	カマド図示
224	〃	9	坏	1/3全位	(13.8)	-	(4.0)	にぶい褐	多0.5-1.0 長石	良好	口：ナデ 体：ナデケズリ 底：ミガキ	ナデ不明瞭	図示
224	〃	10	坏	2/3全位	(14.2)	-	4.8	橙	多0.2-1.5 石英、長石、角礫	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ後ナデ?	ナデ	
224	〃	11	坏	4/5全位	14.4	-	4.9	橙	有0.2-0.3 白色粗石、角礫	良好	口：ナデ 体：ミガキ	口：ナデ 体：ヨコミガキ 底：ヨコミガキ+タテミガキ	図示
224	〃	12	内黒坏	2/3全位	14.0	4.2	5.4	橙	密0.3-0.5 長石	良好	体：ヨコミガキ 体：ミガキ	口：ヨコミガキ 体：ヘラ によるナデ後タテミガキ	ビット10 図示
224	〃	13	坏	3/4全位	13.2	-	4.4	にぶい黄橙	有0.3-1.0 赤色、白色粗石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ後ミガキ?	口：ヨコハケ 体：ヨコミガキ	図示
224	〃	14	坏	4/5全位	(10.0)	-	4.6	にぶい赤褐	多、粗0.2-0.5 長石、石英	良好	ヨコミガキ?	ヨコミガキ	〃
224	〃	15	小型甕	1/5口~体	(12.0)	-	(7.0)	にぶい赤褐	多0.5-1.0 長石、石英、雲母	やや不良	口：ハケヨコナデ 体：ケズリ	ナデ?	

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
224	321住	16	小型壺	完形	10.4	5.0	10.2	浅黄橙	有0.5-1.0 小石、長石	良好	口：タテミガキ 体：ヨコミガキ	ミガキ?	カマド図示
224	〃	17	内黒高坏	1/5脚	-	-	(5.3)	橙	有0.2-0.5 石英、長石	良好	脚上：ケズリオサエ 脚上：ナデ	脚：ナデ 接合部：オサエ	
224	〃	18	蓋	1/10ツمام	-	-	(3.1)	にぶい黄橙	有0.2-0.5 長石、赤色粒子	良好	ツمام上：オサエ ツمام下：ケズリ	天井：ナデ	
224	〃	19	坏	ほぼ完形	10.4	-	(7.4)	にぶい橙	有0.3-1.0 長石	やや不良	体：ヨコミガキ 底：焼成後剥落	ヨコミガキ	図示
224	〃	20	壺	1/5口	(16.4)	-	(5.8)	にぶい黄橙	多0.3-3.0 小礫	良好	口：ヨコハケ	口：ヨコナデ	〃
224	〃	21	壺	2/5口	(17.8)	-	(3.4)	橙	有0.2-2.0 赤色粒子、雲母	良好	口唇：面取り 口：ハケ(回転)	口：ハケ(回転)	
224	〃	22	壺	1/3口~体	(17.6)	-	(7.8)	にぶい黄橙	有0.5-1.0 白色長石	良好	口：ヨコハケ+タテミガキ 体上：ヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ヘラ、ユビオサエ	図示 接合痕： 頸1
224	〃	23	須恵壺	1/5口	(15.3)	-	(3.8)	灰	有0.1-1.0 長石	良好	口縁下：浅い沈線 頸：クロコハケ	口：クロコハケナデ	図示
224	〃	24	甌	1/5底	-	-	(3.0)	橙	粗多0.5-2.0 小礫	良好	底：ケズリ	底：ナデ?	〃
224	〃	25	甕	1/2体~底	-	8.6	(27.8)	にぶい赤褐	有0.1-1.0 長石、石英、雲母	良好	体上：ヨコナデ 体下：ケズリ 底：ヘラナデ	体：ヘラナデ 接合部：ハケオサエ	カマド図示 接合痕： 体下1
224	〃	26	甌	1/3全位	(30.2)	-	(24.6)	浅黄橙	有0.1-0.5 白色粒子	良好	口：ヨコハケ 体：ナデ?	口：強いヨコハケ 体上：ハケ ヨコハケナデ 体中：ハケ 後ケズリ 体下：ハケナデ 体下縁：面取りヨコケズリ	カマド図示
224	〃	27	壺?	1/3体~底	-	(8.2)	(18.5)	にぶい黄橙	多0.5-1.0 小礫	良好	体上：タテミガキ 体下：ケズリ 底：ヘラ調整	体中：接合部ヨコナデ 体下：ナデ	図示
224	〃	28	甕	1/3体~底	-	7.8	(21.2)	浅黄橙	有0.5-1.0 長石	良好	体中：ヨコミガキ+ナメミガキ 体下：タテミガキ 体下縁：強い タテミガキ 底：ヘラ調整	体：ヨコミガキ	〃
224	〃	29	甕	1/5口~体	(28.2)	-	(15.4)	にぶい黄橙	有0.5-2.0 小礫	良好	口唇：ナデ 体：ヨコミガキ	ヨコミガキ	〃
225	323住	1	内黒大型坏	1/5口~体	(19.2)	-	(5.2)	橙	有0.1-0.5 長石	良好	口：ナデ 体上：ヨコミガキ 体下：ヨコナデ	口：ナデ 体：ヨコ、ヨコ ナメミガキ	〃
225	325住	1	小型甕	1/3口~体	(12.4)	-	(11.7)	橙	有0.2-2.0 長石、石英	良好 (黒斑有)	口：ヨコハケ 頸：タテハケ 体：ナメヨコケズリ	口：ヨコハケ 体上：ナメ メケズリ 体下：ハケナデ	接合痕： 頸1
225	〃	2	須恵横瓶	1/2口~体	(13.7)	-	(24.0)	灰	極少0.1 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ハケナデ後平行タタキ	口：ヨコナデ 口：クロコハケ キオサエ一部平行タタキ様の底	床下：床下 接合痕： 体中1
225	〃	3	甕	1/4口~体	(17.4)	-	(19.2)	橙	有0.2-1.0 赤色粒子	良好	口：ヨコハケナデ 頸：タテミガキ 体：ナメタテミガキ	口：ヨコナデ 体：ハケ 体：ナデ	床下 接合痕： 頸1、体2
225	326住	1	内黒坏	完形	11.6	-	4.7	浅黄橙	有0.2-0.5 石英、赤色粒子	良好	体：回転ヨコナデ 底：ケズリ	ミガキ	図示
225	〃	2	内黒坏	ほぼ完形	14.1	-	3.9	にぶい橙	有0.2-3.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ 底：ヘラケズリ	ミガキ	カマド図示
225	〃	3	内黒高坏	1/2坏全位	(15.8)	-	(7.3)	にぶい橙	有0.1-0.3 長石、赤色粒子	良好	体：ヨコミガキ	ヨコミガキ	図示
225	〃	4	蓋	1/5 つまみ付近	-	-	(3.6)	にぶい黄橙	少0.2 長石	良好	ツمام上：ハケナデ 天井：ミガキ	天井：ミガキ	
225	〃	5	甕(甌)	1/5口~体	(17.3)	-	(11.2)	明赤褐	有0.1-2.0 長石、赤色粒子	良好	口：ヨコハケナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコハケナデ 体：ヘラナデ	ピット2 図示
225	〃	6	甕	4/5ほぼ完形	15.9	7.1	21.1	にぶい褐	少0.2 長石	やや不良	口：ナデ 頸：ヨコハケ 体上：ヨコ ナメミガキ 体中：タテミガキ 体 下縁：ヨコミガキ 底：ミガキ	口：ヨコハケ 体上：ヘラ ナデ 体下：ヘラナデ?	
225	〃	7	甕	1/3口~体	(21.0)	-	(32.8)	褐	有0.1-1.0 石英、雲母、長石	良好	口：ヨコナデ 体上：ケズリ 体 中：ケズリ 体下：ナメケズリ	口：ナデ 体上：ヘラナデ 体中：タテナメ へラナデ 体下：ヨコヘラ、ヘラケズリ	カマド図示
225	327住	1	須恵坏	1/3全位	(11.7)	-	(4.3)	褐灰	少0.1-0.3 長石	良好	口：クロコ 体：クロコ 底：ヘラケズリ(逆位反時計回り)	口：丸み、微かな凹線 口：クロコ	
225	〃	2	坏	1/6全位	11.9	3.2	4.4	明赤褐	有0.1-0.2長石	良好	口：強いハケ 体：ケズリ 底：ケズリ (中央タテ後開反時計回り)	口：ヘラミガキ 稜：ヘラ ミガキ 体：ナデ?	図示
225	〃	3	坏	ほぼ完形	13.1	-	4.7	橙	多0.2-1.0 長石、石英	良好	ケズリ後ミガキ	ナデ? 剥落	〃
225	〃	4	坏	1/2全位	13.9	-	4.5	橙	粗多0.2-7.0 赤色粒子、礫	良好	体：ナデ不明瞭 底：手持ちケズリ	ヨコナデ?	〃
225	〃	5	須恵高坏	1/5脚	-	(13.0)	(5.4)	灰	ほとんどなし	良好	脚：沈線2		ピット6図示 3方スキャン
225	〃	6	黒色坏	1/6全位	(19.2)	-	(3.4)	黒褐	少0.1 長石	良好	体：ヨコミガキ	体：ヨコミガキ 底：タテミガキ	
225	〃	7	内黒坏	1/4全位	(15.5)	-	(4.4)	にぶい黄橙	有0.1-2.0 雲母、長石、 赤色粒子	良好	体：ヨコナデ 底：ヘラケズリ	ヘラミガキ	床下
225	〃	8	小型鉢	2/3全位	(8.9)	5.6	7.5	にぶい褐	有0.1-0.2 長石、石英	良好	口：ヨコハケナデ 体上：ケズリ 体中-下：ナデ又はケズリ	口：ナデ 体上-中：ケズリ 体下：ユビオサエ	ピット4 図示
226	〃	9	坏	1/6口~体	(13.5)	-	(5.7)	明赤褐	多0.1-0.5 石英、雲母	良好	口：ヨコナデ 体：ハケ	口：ヨコケズリ 体：ナデ?	
226	〃	10	壺	1/5口~体	17.5	-	(10.8)	橙	有0.2-2.0 長石	良好	口~体上：ヨコミガキ	口~体上：ヨコミガキ	ピット10図示 接合痕： 頸1
226	〃	11	壺	1/6口~体	(17.7)	-	(18.7)	橙	有0.2-0.3 長石	良好	口唇：面取り 口：ヨコナ デ 体上：ヨコミガキ	口：ナデ 体上：ナデ(ハ ケ残る) 体中：ナデ	ピット4図示 接合痕： 体中1
226	328住	1	須恵高台坏	1/2底	-	10.3	(3.2)	灰	有0.2 長石	良好	体：クロコ 高台：ヨコナデ 底：クロ コロ回転ヘラケズリ(逆位時計回り)	体：クロコ	
226	331住	1	内黒坏	1/3全位	(14.2)	-	4.5	赤褐	有0.1-0.5 長石	良好	口：ヨコナデ(ハケ) 体：ナデケズ リ 底：手持ちケズリ(逆位時計回り)	ヨコミガキ	
226	〃	2	内黒坏	2/3全位	(15.0)	-	4.1	にぶい橙	少0.1 長石	良好	口：ナデ 体-底：手持ちケズリ	ヨコミガキ	カマド付近
226	〃	3	小型鉢	1/3全位	(15.0)	7.6	9.4	橙	少0.1-0.5 長石	良好	ナデケズリ	ヨコミガキ	カマド図示
226	〃	4	小型鉢	ほぼ完形	12.0	6.5	9.2	明赤褐	有0.2-0.5 長石	良好	口：ヨコナデ(ハケ) 体上：ミ ガキ 体中-下：ケズリ	口：ナデ オサエ(ハケ) 体上-中(ハケ) 体下：ハケ又はヘラ	カマド ピット2図示
226	〃	5	鉢	ほぼ完形	13.0	-	11.4	橙	粗多0.2-1.0 石英、赤色粒子 小礫	やや不良	ヘラケズリ後ナデミガキ 底：ヘラ後ミガキ	ナデ	カマド図示
226	〃	6	小型鉢	ほぼ完形	9.7	4.6	7.3	にぶい赤褐	多1.0 小礫	良好	口：ハケナデ 体：ハケケ ズリ 底：ヘラ調整	口：ヨコハケ 体：ヘラナデ	
226	〃	7	小型甕	1/4口~体	(11.2)	-	(5.3)	にぶい橙	多0.3-1.0 赤色粒子	良好	口：ヨコハケ 体：ナデ	ナデ	接合痕： 体下1
226	〃	8	小型甕	1/2口~体	(15.6)	-	9.8	にぶい赤褐	粗多0.3-1.5 長石、小礫	やや不良	口：ハケ 体：ケズリ	口：短巾のハケ 体：ヘラ	
226	〃	9	壺	口~体全周	20.6	-	(12.0)	橙	多0.1-1.0 石英、赤色粒 子、雲母	良好	口：ナデ 頸：棒状工具で 沈線全周 体：ミガキ	ミガキ	カマド図示

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
226	331住	10	甕	ほぼ完形	18.8	6.4	33.0	にぶい褐	多0.2-2.0 雲母、長石、石英	良好 (黒斑有)	口：ハケナデ(強) 体上：タテミガキ 体下：タテケズリ、ケズリ 体中：ヨコ コナデケズリ 底：ヘラケズリナデ	口：ナデ 体上~中：ヨコ ハケ 体下：タテハケ	カマド図示 接合痕： 体下1
226	334住	1	須恵坏	1/6口~体	(12.9)	-	(3.7)	灰	多0.2~0.3 長石	良好	ロクロ	ロクロ	
226	"	2	内黒坏	2/3全位	14.9	7.9	5.7	にぶい橙	有0.1~1.0 長石	良好	ヨコナデ 底：手持ちヘラ調整	ヨコミガキ	床上
226	"	3	小型甕	1/5口~体	(14.9)	-	(9.9)	にぶい褐	粗0.2~7.0 小礫有り	良好	口：ヨコハケ 体：ケズリ	口：ヨコハケ 体：ナデケズリ	
226	"	4	甕	1/6口~体	(31.8)	-	(10.4)	にぶい橙	有0.2~3.0 長石、赤色粒 子、小礫	良好	口唇：面取り 口：ヨコハ ケナデ 体：ミガキ	口：ヨコミガキ 剥落顕著 体：ヘラナデ	床下
226	"	5	甕	1/3口~底	(17.3)	-	(26.2)	橙	粗0.3~10.0 小礫多	やや不良	口：ハケナデ 体：タケテ ズリ後ヨコケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ、ナナメタテ	図示
227	336住	1	須恵坏	1/4全位	10.3	-	4.5	灰	有0.2~1.5 石英、長石	良好	受け部：明瞭 体下~底：回転ヘラケズリ	口唇：凹面 体：ロクロ	
227	"	2	坏	4/5ほぼ完形	12.0	2.0	7.0	にぶい黄橙	密0.2~1.5 白色、赤色粒 子	ほぼ完了	ヨコミガキ	ヨコミガキ 頸：稜を持つ	図示
227	"	3	坏	1/4全位	(12.8)	-	(3.8)	浅黄橙	密0.3~0.5 赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ミガキ	タテミガキ	
227	"	4	坏	4/5全位	18.5	4.0	4.3	橙	有0.3~2.0 白色粒子	ほぼ良好	口~体：ヨコミガキ(有稜 部をもって深く大きく外反 する) 底：手持ちケズリ	ヨコミガキ	図示
227	"	5	坏	1/4口~体	(12.1)	-	(5.5)	にぶい褐	粗、多0.1~1.5 石英、長石	やや不良	やや強いヨコハケケズリ か?	体上：ヨコハケ	"
227	"	6	甕	1/4口~体	(16.8)	-	(4.3)	橙	粗、多1.0 石英	ほぼ良好	ヨコナデ	ヨコナデ	接合痕： 体上1
227	"	7	片口鉢	片口	(18.0)	-	(5.0)	褐	有0.2~0.4 白色粒子	やや良好	ナナメミガキ	ヨコハケ	
227	337住	1	坏	完形	12.9	-	4.4	灰白	有1.0~2.0 赤色粒子	ほぼ良好	体：ヨコナデ後タテミガキ	体：ヨコナデ後タテミガキ	図示
227	"	2	坏	3/4全位	12.2	-	5.7	橙	粗、多1.0 石英多	ほぼ良好	体：ナデ?	体：ミガキ?	"
227	"	3	壺	1/5口	14.9	-	(4.5)	黄橙	有0.5~1.0 白色、赤色粒 子	ほぼ良好	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	"
227	"	4	甕	1/4口	(18.2)	-	4.4	にぶい橙	粗0.5~0.8 石英、雲母、角閃石	ほぼ良好	口：ヨコナデ	口：ナデ?	
227	"	5	坏	1/5口~体	(14.6)	-	(3.4)	にぶい黄橙	少0.2~0.6 角閃石、白色粒 子	ほぼ良好	体：タテミガキ	体：タテミガキ	
227	338住	1	坏	1/4全位	(13.7)	-	(4.8)	にぶい橙	粗0.6~1.0 赤色、白色、 赤色粒子	ほぼ良好	体上：ヨコナデ 体中：ケズリ	体：ミガキ	図示
227	"	2	坏	1/4口~体	(13.8)	-	(3.7)	橙	有0.2~1.0 白色粒子	良好	ヨコミガキ	タテミガキ	
227	"	3	坏	ほぼ完形	14.3	-	6.1	浅黄橙	密1.0 白色粒子	ほぼ良好	体：ヨコミガキ 底：ヨコ、タテミガキ	ヨコミガキ	図示
227	"	4	坏	ほぼ完形	15.7	-	5.1	橙	粗、多0.5~2.0 白色礫	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：ケズリ	ナデ?不明瞭	"
227	"	5	坏	1/3全位	(17.2)	-	(5.7)	にぶい橙	有0.2~0.5 白色、黒色粒 子	やや不良 (内面黒斑)	体：ヨコミガキ 底：ナデケズリ?	口：ヨコナデ 体：ミガキ	カマド図示
227	"	6	坏	1/4全位	(19.8)	-	(4.7)	にぶい黄橙	有0.2~1.5 白色、黒色粒 子	良好	体上：ヨコナデ 体下：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：ミガキ	床下
227	"	7	甕	1/4底	-	(15.4)	(5.5)	にぶい橙	少0.2~1.0 白色粒子	良好	体下：ミガキ 接合痕ユビ オサエ	体中：ミガキ 体下：ヨコケズリ	
227	"	8	坏	1/3口~体	(11.8)	-	(6.8)	明黄褐	有0.3~0.8 白色粒子	やや不良 (黒斑多)	口：ヨコナデ 体：ヨコケズリ	口：ヨコナデ 体：タテハケ	
227	"	9	小型甕	1/3口~底	(14.8)	(5.9)	(12.1)	赤褐	粗0.5~1.0 石英	良好	体上：ナデ? 体下：ヘラオサエ?	ナデ?不明瞭	図示
227	"	10	壺	1/3体	-	-	(8.8)	橙	粗0.2~2.2 白色粒子	良好	タテナメミガキ	強いヨコハケ	"
227	"	11	甕	ほぼ完形	18.0	6.7	21.0	にぶい橙	粗、多 0.2白色粒子 1.0赤色粒子	ほぼ良好	口：ハケヨコナデ 体上~体中： タテハケ後タテ、ヨコハケ 体 下：タテケズリ	口：ヨコナデ 体上~中：ヨコハ ケ不明瞭 体下：ヨコケズリ後タ テケズリ	図示 接合痕： 体下1
227	339住	1	坏	完形	13.4	-	5.3	明黄褐	密少	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：放射ケ ズリ後ミガキ後ケズリ	ケズリ?後ミガキ	カマド左 図示
227	"	2	坏	ほぼ完形	12.8	-	5.6	にぶい黄橙	少0.2 白色粒子	良好 (外面黒斑多)	体上：ヨコナデ 体中：ケズ リ後ミガキ 体下：ミガキ	体上：ヨコナデ 体中：放射ミガキ	"
227	"	3	坏	1/4全位	18.1	-	(3.9)	にぶい黄橙	有0.3~1.5 白色粒子	良好	体上：ヨコナデ 体中：ハケケズリ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	
227	"	4	坏	完形	11.9	-	4.6	にぶい黄橙	少0.2 白色粒子	ほぼ良好 (黒斑有)	口：ヨコナデ 体~底：ハ ケケズリ後ミガキ	口：ヨコナデ 体：放射ミガキ	カマド左 図示
227	"	5	坏	1/2全位	12.3	-	5.3	にぶい黄橙	有0.5~1.0 白色粒子	やや不良 (黒斑多)	ヨコミガキ	タテミガキ	
227	"	6	坏	ほぼ完形	15.5	-	5.9	にぶい黄橙	少0.2 白色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：タテ ミガキ 体下：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：放射ナナメミガキ	カマド左 図示
227	"	7	坏	完形	14.6	-	4.7	にぶい黄橙	少0.3 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	ナデ後放射ミガキ	"
227	"	8	坏	1/3全位	18.2	-	(6.3)	浅黄橙	有0.5~1.0 長石、石英	良好	口：ヨコハケナデ 体：ヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体：放射ミガキ	"
227	"	9	坏	完形	13.7	-	4.9	灰黄褐	少0.2 白色粒子	ほぼ良好	口：ハケヨコナデ 体上：タテミガ キ 体中~体下：ヨコミガキ後タテミ ガキ 底：ケズリ	口：ヨコナデ 体：放射ナナメミガキ	"
227	"	10	坏	1/4全位	16.1	-	4.2	にぶい黄橙	有0.2~0.5 長石、石英	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコケズリ	ヨコナデ後放射ミガキ	カマド図示
227	"	11	坏	1/4全位	18.1	-	(3.9)	にぶい黄橙	有0.5 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：放射タテミガキ	
228	"	12	高坏	ほぼ完形	14.8	12.0	11.7	浅黄橙	有0.2~0.4 白色粒子	良好	坏：タテミガキ 坏底：タテ ミガキ 接合部：オサエ 瓦 脚：タテミガキ	坏：タテミガキ 坏底：ミ ガキ 脚：ヘラケズリ	カマド左 図示
228	"	13	高坏	ほぼ完形	14.8	12.0	12.8	にぶい黄橙	有0.2~0.5 長石、石英、 角閃石	良好	坏：ヨコナデ後タテミガキ 坏底：タ テミガキ 脚：タテミガキ	坏：ヨコナデ後タテミガキ 坏底：ヨコ ハケケズリ 脚：タテミガキ	"
228	"	14	高坏	ほぼ完形	17.5	(14.4)	13.9	橙	有0.2 白色粒子	良好	坏：ハケヨコナデ後タテミガキ 坏底： ミガキ 接合部：ケズリオ サエ 脚：タテミガキ	口唇：ヨコナデ 坏：タテ ミガキ 脚上：ケズリ 脚 下：ヨコナデ	"
228	"	15	高坏	ほぼ完形	14.3	-	(10.2)	橙	多0.2~1.0 長石、火山岩	良好	坏：タテ条線? 坏底：条線 脚：条線	坏：強いハケ 脚：シボリ?	カマド図示
228	"	16	高坏	ほぼ完形	16.0	13.3	12.8	にぶい黄橙	密や粗1.0~0.2 白色粒子	良好	坏：ヨコミガキ 坏底：ヘラオサエ 接合部：ヘラオサエ 脚：タテミガキ	坏：ヨコミガキ 脚：ヘラ ケズリ 裾：ヨコナデ	カマド左図示 接合痕： 脚中1
228	"	17	鉢	完形	11.4	-	8.2	にぶい黄橙	有0.2~0.5 石英	やや不良	口：ヨコナデ 体：ケズリ後ヨコミガキ	口~体中：ヨコナデ 底：ハケオサエ	カマド左図示 接合痕： 体上1

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
228	339住	18	鉢	完形	11.1	-	8.5	明赤褐	有0.2~0.5長石、石英多	良好(黒斑有)	口唇:ヨコナデ 口:弱いハケナデ 体:ヨコナデ後タテミガキ	口~体中:ヨコナデ 底:連続ヘラオサエ	カマド図示
228	"	19	坏	ほぼ完形	11.0	-	6.2	にぶい黄橙	少0.3~0.5白色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ後ミガキ	口:ヨコミガキ 体:ミガキ	
228	"	20	内黒鉢	ほぼ完形	-	-	(7.9)	暗灰黄	密、有0.2白色粒子	ほぼ良好	体:ヨコミガキ	口:ヨコミガキ 体:連続ナメ放射ミガキ	カマド図示
228	"	21	内黒鉢	ほぼ完形	(11.4)	-	(8.6)	にぶい黄橙	やや有0.2~0.5白色粒子	やや不良(黒斑多)	口:ヨコナデ 頸:強いハケナデ 体上~体中:弱いケズリ 体下:手持ちケズリ	口:ヨコナデ? 体:ケズリ	カマド右図示
228	"	22	甌	ほぼ完形	14.0	3.5	8.6	赤褐	多0.2~1.0長石、石英	良好	体上:割落使用底 体下:工具による細い筋 体下端:ヨコケズリ	放射ナメミガキ	カマド右図示 接合痕:体5
228	"	23	小型甕	1/3口~体	(13.2)	-	(8.3)	にぶい赤褐	多0.2~0.5長石、石英	良好	口:ヨコナデ 体上:ケズリ	口:ヨコナデハケ 体上:ハケケズリ(強、凹む)	カマド左図示
228	"	24	小型甕	ほぼ完形	11.5	5.6	18.0	明褐	有0.2~1.0長石、石英、雲母	良好	口:強いヨコナデ 頸:ハケケズリ 体:ナデケズリ 底:ケズリ	口:強いヨコナデ 体中:ハケケズリ	カマド図示 接合痕:体中1
228	"	25	甕	ほぼ完形	16.4	6.7	29.0	にぶい黄橙	有0.2~1.0長石、石英	良好	口唇:ナデ 口:ヨコハケ 体上:ミガキ 体中:ハケ? 体下:ハケケズリ	ヨコナデ	カマド右図示 接合痕:体中9
228	"	26	甕	ほぼ完形	17.6	6.3	26.9	にぶい黄橙	有0.2~1.0長石、石英	良好	口~体下:ケズリ 頸:ケズリ後タテミガキ 底:ケズリ?	口~頸:ナデ 体中:ハケ?	カマド右図示 接合痕:体上1
228	"	27	甕	1/4口~体	(25.5)	-	(20.1)	橙	有0.2~0.5長石	良好	口:ナデ後ヨコミガキ 体:タテミガキ	口~体:ナデ	カマド図示
228	"	28	須恵甕	1/5口~体	(20.7)	-	(9.8)	暗青灰	有0.2~2.0長石	良好	口:稜線後波状文(16条) 体上:平行タタキ	口~体:ロクロ	カマド左図示
229	341住	1	内黒坏	1/3全位	(16.0)	-	3.7	にぶい黄橙	粗、多0.1~2.0長石、石英、小礫	良好	ケズリ後ナデ	ミガキ	図示
229	"	2	坏	ほぼ完形	14.6	-	5.5	橙	多0.2~2.0赤色礫	良好	口~体上:ハケ風ナデ 体中:ナデ 体下:ケズリ	口~体中:ナデ 体下:ミガキ残る	"
229	"	3	坏	1/2全位	(11.2)	5.4	3.7	明赤褐	有0.1~3.0長石、小礫	良好	口唇:やや外反 口:ヨコナデ 体下~底:ナデ	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ビット1 図示
229	"	4	内黒高坏	1/3全位	-	(9.5)	(8.5)	橙	有0.1~0.3長石	良好	坏:ナデケズリ 脚上:ヘラケズリ+ナデ	坏:ヘラミガキ 脚上:ナデ 脚上:ヘラナデ	
229	"	5	内黒高坏	4/5全位	-	(10.2)	(11.3)	橙	少0.1~0.3長石	良好	ミガキ 脚:やや面取り	坏:ミガキ 脚上:回転ケズリ 脚上:ケズリ	図示
229	"	6	小型鉢	2/3口~体	8.0	-	(6.9)	にぶい橙	少0.1長石	やや不良	口:ハケナデ 頸:洗練一用 体上:ミガキ 体下:ナデ後ミガキ	口~体上:ナデミガキ 体中~体下:ハケ	
229	"	7	小型壺	2/3全位	-	(4.4)	(11.6)	にぶい橙	少0.2~1.0長石、赤色粒子	良好	ヨコナデ 底:ナデ?	ヨコナデ	接合痕:体上1
229	"	8	甌	2/3全位	-	3.8	10.5	褐	粗、多0.2~5.0長石、礫	やや不良	ナデ	ミガキ 粘土紐接合痕の凸凹あり	図示
229	"	9	(内黒)甌	2/5全位	(15.4)	(3.8)	12.8	橙	粗、多0.1~1.0長石、石英	良好	口:ヨコナデ 体:ケズリ	体中:ヘラナデ 体下:ヘラ、オサエ 体下端:ケズリ	図示 内面黒色
229	"	10	小型甕	2/5全位	14.9	-	(9.0)	橙	多0.1~5.0小礫目立つ	良好	ナデ?	ハケナデ(ヨコ)	図示
229	"	11	小型甕	1/5口縁	(15.6)	-	(6.6)	橙	粗、多0.1~4.0赤色礫多	良好	口:ヨコヘラナデ 体:タテハケ	ナデ? ヘラケズリ	"
229	"	12	壺	1/4口~体	(26.0)	-	(11.0)	橙	粗、有0.1~2.0長石、小礫	良好	口:やや面取気味 体:ヨコミガキ	口:ヨコミガキ 体上:ヘラによる強いオサエ 体中:ミガキ	
229	"	13	甕	2/3口~体	(18.5)	-	(28.5)	にぶい橙	有0.1~2.0長石、礫	良好	口:ハケ 体上:ナデ(ケズリ)底:やや残る(後ハケ) 体中:タテケズリ	口:ヨコナデ 体上:タテケズリ 体中:ヨコケズリ 体下:タテケズリ	接合痕:体上1
229	342住	1	坏	2/3全位	(13.9)	-	3.95	橙	有0.1~1.0長石、小礫	良好	口辺:ミガキ	ヨコミガキ	図示
229	"	2	高坏	1/4脚	-	(12.4)	(5.5)	褐	粗0.1~0.5長石	良好	脚:ヨコミガキ(不明)	口:ヨコミガキ 体:ナナメミガキ	図示
229	"	3	鉢	1/8口辺	22.2	-	(6.4)	にぶい褐	少0.1~0.5長石多、石英	良好	口:ヨコミガキ 体:ミガキ	口:ヨコミガキ 体:ナナメミガキ	図示
229	343住	1	内黒坏	1/5口~体	(14.8)	-	(3.7)	にぶい褐	有0.2~1.0長石、小礫	良好	ナデ	ナデ	
229	"	2	坏	完形	14.8	-	5.5	橙	有0.2~1.0長石	良好	体:ヨコナデ 底:中央部ナデケズリ後手回転ケズリ(反時計)	ヘラミガキ	ビット6 図示
229	"	3	内黒坏	完形	14.8	-	5.0	橙	少0.5長石	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ+タテミガキ	"
229	"	4	内黒坏	1/5全位	(19.0)	-	(6.5)	褐	有0.1~0.5長石、赤色粒子	良好	口~体中:ヨコナデ 体下:ケズリ 逆位時計回り 底:糸切	ミガキ	図示
229	"	5	坏	1/4口~体	(14.4)	-	(6.3)	にぶい褐	有0.2~0.5長石	良好	口~体中:ナデケズリ 体下:ケズリ	口:ナデ 体:ハケ	ビット1 図示
229	"	6	小型甕	1/4口~体	(8.8)	-	(5.9)	褐	有0.1~0.5長石、赤色粒子	良好	口~体上:回転ナデ 体中:ナデ	ナデ	ビット3 図示
229	"	7	甕	1/6口~体	(22.0)	-	(10.0)	にぶい橙	粗0.1~2.0赤色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ナデ	ビット3 図示 接合痕:頸1
229	"	8	甕	1/8口~体	(16.0)	-	(12.4)	明赤褐	多0.2~1.0長石、石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	図示
230	344住	1	須恵环蓋	1/6全位	(15.4)	-	(3.5)	灰	少0.5~1.0白色粒子	良好			
230	"	2	坏	1/4全位	(12.6)	-	5.2	浅黄橙	有0.3~0.8赤色、黒色粒子	ほぼ良好	ミガキ	ヘラミガキ	床下
230	"	3	坏	1/4口~体	(14.4)	-	-	にぶい黄橙	有0.3~0.8白色、黒色粒子	ほぼ良好	ナデミガキ	放射ミガキ	"
230	"	4	内黒坏	1/3口~体	(12.6)	-	(5.5)	黒褐	粗、有0.5~1.0赤色粒子	やや不良	口:ヨコナデ 体上:ミガキ	ヨコミガキ	
230	"	5	内黒坏	2/5全位	(11.0)	-	(4.6)	橙	有0.5~2.0赤色粒子	ほぼ良好	口、体:ヨコナデ 底:手持ちケズリ	ヘラミガキ	
230	"	6	坏	ほぼ完形	13.1	-	4.4	にぶい黄橙	密、少0.2黒色粒子	ほぼ良好	口~体上:ヨコナデ 底:ケズリ後ミガキ	ヨコミガキ	図示
230	"	7	須恵环蓋	1/10体	(14.0)	-	(3.1)	灰	少0.1長石	良好	ロクロ	ロクロ	
230	"	8	内黒坏	1/3全位	(13.8)	-	4.5	橙	粗、多0.5~1.0長石、石英	ほぼ良好	ケズリ後ミガキ	ヨコミガキ	
230	"	9	内黒坏	完形	12.9	-	4.7	浅黄橙	多1~2.5長石	良好	体上~体中:ヨコナデ 体下:ケズリ 逆位時計回り(時計回り)	ヨコミガキ	
230	"	10	内黒坏	完形	18.4	-	4.4	にぶい黄橙	多1.0角礫	良好	口:ヨコナデ 体上~底:ケズリ	ヨコケズリ	図示
230	"	11	坏	3/4全位	12.8	-	(3.9)	暗赤褐	有0.5~1.0長石、石英、黒色粒子	やや不良	口:ヨコナデ 体上:底:ヨコケズリ 底:逆位時計回り(時計回り)	ヨコハケ後放射ミガキ	"
230	"	12	坏	1/6口~体	(15.4)	-	(3.9)	浅黄橙	有0.1~2.0長石、石英	良好	ヨコミガキ	口~体中:ヨコミガキ 体下:タテミガキ	

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
230	344住	13	坏	3/4全位	16.2	-	6.4	橙	有0.2白色石英 0.8赤色粒子	やや不良	口：ヨコナデ 体上～底：ヨコケズリ	口～体上：ヨコナデ 体中～底：放射ミガキ	
230	〃	14	小型鉢	1/4全位	(8.2)	(5.4)	(7.5)	黒褐	多0.3～0.5 白色粒子	やや不良	ヨコナデ後体下～底：ケズリ 後ミガキ？ 底：ヘラケズリ	ヨコナデ	
230	〃	15	壺	1/4口～体	(15.2)	-	(5.0)	橙	密、少0.1 白色粒子	良好	ナデ？	ナデ？	カマド床下
230	〃	16	甌	1/4底	-	(8.0)	(6.5)	浅黄橙	有0.5 石英	良好	体下：タテケズリ 体下：ヨコケズリ	体下：タテミガキ 体下：ヨコミガキ	穿孔：内後外
230	〃	17	甕	1/5口～体	(18.8)	-	(6.0)	明赤褐	有0.2～2.0 白色礫粒子	良好	口：ヨコナデ 体上：タテケズリ	ハケナデ？	
230	〃	18	甕	1/4口～体	(27.0)	-	(11.5)	明赤褐	有1.0 長石、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコハケ 体上：ヨコケズリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコハケ後ミガキ	図示
230	346住	1	坏	1/5口～体	(14.0)	-	(5.7)	橙	有0.1～0.3 長石	良好	口：ヨコナデ 体上～体下：ナデケズリ	口：ヨコナデ 体上～体下：タテミガキ	
230	〃	2	坏	1/5口～体	(11.6)	-	(5.4)	にぶい赤褐	有0.1～0.3 長石、石英	良好	口：ヨコナデ 体上～体 下：ヨコナデミガキ	口：ヨコナデ 体上～体下：タテミガキ	
230	〃	3	坏	1/5口～体	(12.4)	-	(3.8)	にぶい橙	有0.2～0.5 長石、小礫	良好	ナデ？	ナデ不明瞭	図示
230	〃	4	甕	1/4口～体	(27.8)	-	(9.9)	浅黄橙	有0.2～1.0 長石他、小礫	良好	口：ヨコハケ 体上：ナデ	口：ヨコナデ 体上：ナデ	
230	〃	5	甕	1/2口～体	19.2	-	(11.0)	明赤褐	有0.2～1.0 長石、石英	良好	口：ヨコハケ 体上：ナデ	口：ヨコハケ 体上：ナデ、ヘラオサエ	図示 接合痕： 体上1
230	347住	1	甕	ほぼ完形	18.1	7.6	37.5	にぶい黄橙	粗、多0.5～2.0 石英、長石	やや不良	口：ヨコナデ 体上～中：ハケ ケズリ 体下：ヘラケズリ、ハケ ケズリ 底：突出して外反する	口：ヨコナデ 体：ヨコハ ケ 体下：ヘラオサエ	図示
230	〃	2	坏	3/4全位	14.0	-	4.4	にぶい褐	有0.1～2.0 長石、角閃石	良好	ヨコミガキ	放射ミガキ	ビット5 図示
230	〃	3	坏	1/5全位	15.0	-	5.0	橙	有0.1～0.2 長石	良好	口：ヨコナデ 体～底：ヨ コナデケズリ痕残る	口：ナデ 体～底：ナナメ放射ミガキ	床上
230	〃	4	坏	完形	18.4	11.0	3.7	橙	粗、有0.3～0.5 石英、長石	良好	口～体：ナデ 底：ケズリ後ナジ	ナデ	ビット5図示 磨耗顕著
230	〃	5	小型甕	1/3全位	16.0	6.2	13.8	明赤褐	粗、多 0.2～1.0	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラナ デケズリ 底：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ナデケズリ	ビット2 図示
230	〃	6	小型鉢	完形	9.6	3.6	6.5	にぶい橙	少0.2 長石	良好	タテミガキ 底：ヨコミガキ後周縁タテ	口～体中：タテミガキ 体下：ヨコミガキ	図示
230	〃	7	甌	1/2全位	(18.2)	6.1	11.6	橙	有0.5 石英、雲母	良好	口：ヨコナデ 体上～中：ハケ 体下：ヘラケズリ 底：ヘラ後孔 7(穿孔方向内から4、外から3)	ケズリあと	〃
231	350住	1	坏	1/6口～体	11.2	-	(3.0)	明赤褐	有0.2～0.6 長石、石英	良好	ヨコナデ	ヨコヘラナデ	
231	〃	2	坏	4/5全位	13.0	-	4.4	明赤褐	粗0.1～0.5 長石、石英	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口～体中：ヨコナデ 体下～底：ヘラミガキ	図示
231	〃	3	小型甕	1/4口～体	(15.8)	-	(8.8)	にぶい褐	有0.1～0.5 長石、石英、雲母	やや不良 (黒斑有)	口縁：ナデ 頸：オサエケ ズリ 体：ケズリ	口：ナデ 体：ヘラナデ	ビット4 図示
231	〃	4	内黒大型坏	1/3全位	(26.8)	-	(15.7)	橙	有0.2～0.6 長石	良好	ヨコヘラミガイ	摩耗、ミガキ？	
231	351住	1	小型鉢	2/3全位	(11.4)	-	9.0	黒褐	粗、多0.1～0.3 長石、赤色粒子	やや不良	口：ヨコハケ 体～底：タ テケズリ後底ヨコケズリ	口～体上：ヨコハケ 体下 ～底：ヘラナデ後ミガキ	図示
231	〃	2	内黒小型鉢	ほぼ完形	9.2	-	6.25	黒褐	有0.1 長石	不良 (黒っぽい)	口：ハケ 体：ヘラナデ 底：ケズリ	口～体中：ケズリ後ミガキ	〃
231	〃	3	内黒坏	1/6全位	(12.4)	-	(5.4)	褐	有0.1～1.0 長石、小礫	良好	口～体上：ヨコナデ、タテハ ケ 体下：ケズリ 底：ケズリ	ミガキ	〃
231	〃	4	坏	1/2全位	(12.8)	-	5.2	黒褐	有0.1～0.5 長石	不良 (全体黒)	口～体上：ハケ 体中 体下～底：ケズリ 底：ケズリ	口～体上：ハケ 体下～底：ヘラナデ	〃
231	〃	5	坏	ほぼ完形	11.5	-	5.5	明赤褐	有0.2～2.0 長石、石英	良好	口～体上：ハケナデ 体中 ～下：ケズリ 底：ケズリ	口～体上：ハケ 体下～底：ヘラナデ	〃
231	〃	6	内黒坏	1/4口～体	(14.2)	-	4.3	橙	多0.1～1.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	ミガキ？	
231	〃	7	台付甕	4/5台部	-	9.1	(8.5)	橙	有0.1～0.2 長石	良好 (硬質)	脚：ミガキ	脚上：接合オサエ 脚中：ヨコハ ケ、オサエ 脚下：孔1未貫通	
231	〃	8	内黒鉢	ほぼ完形	16.4	-	11.7	にぶい黄褐	粗、多0.2～1.0 長石、石英、小礫	良好	口縁：ヨコナデ 頸：ヘラオ サエ(凹) 体～底：ケズリ	口～体上：ヨコミガキ 体 下～底：放射ミガキ	図示
231	〃	9	壺	底	-	7.0	(9.0)	浅黄橙	少0.1 長石	良好	ヨコミガキ 底：ナデ調整	タテミガキ	〃
231	〃	10	甌(把手付)	把手	-	-	(12.1)	にぶい褐	多0.1～1.0 小礫	良好	把手：ナデ後ミガキ	ヨコナデ+ナナメナデ	〃
231	〃	11	甕	3/5全位	21.6	-	24.1	にぶい赤褐	多0.2～5.0 長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体上～中： タテハケ 体下：ナデ	口：ヨコナデ (ハケ気味) 体：ナデ	図示 接合痕：体2 スス(内面から9cm まで)
231	〃	12	甕	1/2体～底	-	7.0	(26.4)	橙	粗0.3～1.0 角礫	良好	ナデ、残り悪し 底：ナデ調整	ナデ	図示
231	〃	13	甕	3/4口～体	(20.4)	-	(12.7)	明赤褐	有0.1～1.0 長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコナ デケズリ 体中：タテケズリ	ヨコナデ	
231	〃	14	壺	底	-	(12.8)	(10.3)	橙	少0.1 長石	良好	化粧土？後ミガキ 体下： ナデ 底：ナデ調整	体中：ヨコハケ後タテミガ キ 体下：タテハケ後ヘラ	ビット9・10
232	352住	1	坏	1/3全位	(14.3)	-	(4.8)	にぶい黄橙	有0.1～0.3 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ナナメミガキ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	ビット3 図示
232	〃	2	坏	1/4全位	(15.2)	-	6.1	橙	有0.2～2.0 長石	良好	ヨコミガキ	口縁：ナデ 体～底：タテミガキ	〃
232	353住	1	坏	完形	12.9	-	6.2	橙	粗0.1～1.0 長石、石英、雲母	良好	口～体上：ナデ 体下～底：ナ デナケズリ、ケズリ底に集中	口縁：強く外反 体～底：ナ ナメ放射状にタテミガキ(条 痕)を入れた後ナナメミガキ	ビット図示
232	〃	2	壺	2/5口縁～体	(16.4)	-	(24.5)	浅黄	粗0.2～0.6 長石、石英、角閃石	ほぼ良好	口縁：やや面取気味 口辺：ヨコナ デ 頸：ヨコミガキ 体：タテミガキ	口：ヨコナデ	ビット図示 接合痕：体上1 体下1
232	〃	3	甌	ほぼ完形	21.1	6.9	22.2	にぶい黄橙	有0.1～2.0 長石、赤色粒子	ほぼ良好	タテヘラナデ	タテミガキ 体下：面取り	図示 接合痕： 体3
232	〃	4	坏	ほぼ完形	12.5	-	6.7	橙	有0.1～0.3 長石	良好	口縁：ナデ 口辺：ハケ 頸：ハ ケ 体上：ナデナケズリ 体下： ヘラナデ 底：ケズリ	口縁：ナデ 体：ヘラ後ミ ガキ 底：ミガキ	ビット図示
232	〃	5	壺	1/3口～体	12.8	-	(4.7)	橙	粗0.1～1.0 長石、雲母、角閃石	良好	口縁：面取り 口辺：ヨコナデ 頸： ケズリオサエ 体上：ヨコハケナデ	口～体上：ヨコナデ 頸：ヨコナデ後ナデ痕？	図示 接合痕：体4
232	〃	6	小型壺	3/5口～体	11.8	-	(9.2)	赤	粗0.1～1.0 長石、角閃石、雲母	良好	ナデ	体上：ヘラナデ	ビット図示 接合痕：頭1
232	〃	7	甕	1/5口辺	17.7	-	-	橙	有0.3～1.0 雲母、長石	良好	ヨコナデ？	ヨコナデ	図示 接合痕：体上2
232	〃	8	甕	1/5口辺	16.5	-	-	黒褐	有0.1～1.0 長石、雲母	良好	口：ヨコハケ 体上：ハケ状工 具でのナデ？ タテナメ切合不明	口：ナデ 体上：ヨコハケ	ビット図示

第1節 国分寺周辺遺跡群

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
232	353住	9	甕	4/5体	(26.2)	7.3	27.7	にぶい橙	有0.1~1.0長石、石英、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 頸：ナナメハケナデ 体上：中へラナデ(ヨコ) 体下：ヘラナデ(タテ) 底：へラ調整	口：ヨコナデ 体：ヨコヘラナデ	図示 接合痕：頸~体3
232	354住	1	坏	1/4全位	(14.0)	-	(4.2)	橙	有0.1~0.5赤色粒子、長石	良好	口~体上：ヨコナデ、やや外反する、体下~底：ケズリ後ナデ?	ナデ	図示
232	"	2	内黒坏	1/3全位	(15.6)	-	7.0	橙	有0.2~1.0長石	良好	口唇：やや外反 ナデ、丸底	ミガキ主にヨコ	カマド図示
232	"	3	小型鉢	ほぼ完形	9.4	-	8.8	明赤褐	多0.1~3.0長石、石英、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ	口~体上：へラヨコナデ後へラタテナデ 体下~底：へラヨコナデ後ヨコヘラ	"
232	"	4	内黒坏	4/5全位	12.0	-	3.7	にぶい黄橙	粗、多0.2~3.0白色粒子(バミス?)	良好	ヨコナデ 底：へラ調整	ヨコミガキ	図示
232	"	5	内黒坏	1/4口~体	(15.8)	-	(3.6)	にぶい黄橙	有0.1~2.0長石	良好	口：ヨコナデ	ヨコミガキ	
232	"	6	甗	2/3全位	-	7.4	(10.0)	橙	極粗、0.5~2.0赤色粒子(礫)	良好	体下：タテケズリ 体下端：ヨコナデ	ヨコナデ	カマド図示 孔7
232	"	7	小型鉢	2/3全位	10.8	-	(9.2)	にぶい赤褐	粗、多0.1~1.5赤色粒子	良好	口：ミガキ 体：へラケズリ 底：ミガキ	口：ミガキ 体：へラナデ後一部ミガキ	カマド図示
232	"	8	内黒小型鉢	ほぼ完形	11.4	-	10.5	明赤褐	粗、多0.1~3.0長石、石英、赤色粒子	ほぼ良好(黒斑有)	口：ヨコナデ 体：へラケズリ+ナデ	口~体上：ヨコミガキ 体下~底：タテ・ナナメミガキ	図示
232	"	9	壺	1/5口~肩	13.8	-	(7.5)	橙	少0.1~2.0長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体上：ミガキ	口：ミガキ、ナデ 頸：ミガキ 体上：へラナデ	"
232	"	10	甕	1/4口~肩	22.6	-	(9.3)	にぶい黄橙	少0.1~1.5長石	良好	口：ヨコナデ 体上：ミガキ、ケズリ+ナデ	口：ヨコミガキ 体上：ハケヨコナデ	"
233	"	11	甕	2/3全位	(15.2)	2.7	22.8	明赤褐	極粗、多0.5~3.0赤色礫	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ケズリタテ 体下：ヨコ 底：手持回転ケズリ	口~体：へラナデ 体下：ハケ?	カマド図示 接合痕：口1、体4
233	"	12	甕	完形	17.4	3.5	27.6	にぶい黄橙	有0.1~5.0長石	良好	口：ヨコナデ 体：ナデの様なケズリ 底：ケズリ	へラナデ	カマド図示
233	"	13	甕	ほぼ完形	17.8	5.4	29.6	明褐	多粗、0.1~5.0小礫	良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ(一部ヨコケズリ) 底：ケズリ	口：ヨコハケナデ 体：へラナデ	カマド図示 接合痕：口1、体5
233	356住	1	須恵坏	3/5全位	15.1	6.3	4.5	灰	有0.1~0.5黒色粒子、長石	良好	ロクロ 底：手持ちへラ調整	ロクロ	カマド
233	"	2	須恵高台坏	1/6口~体	(20.4)	-	(4.7)	灰	少0.1~0.5長石	良好	ロクロ	ロクロ	カマド、床上
233	357住	1	須恵坏蓋	ツマミ~体	-	-	(2.4)	灰	少0.1長石	良好	ロクロ	ロクロ	
233	"	2	須恵坏	1/6口~体	(13.0)	-	(3.2)	外：にぶい黄橙 内：黄灰	少0.1長石	良好	ロクロ	ロクロ	
233	"	3	須恵広口甕	1/4口~体	(21.9)	-	(14.6)	灰白	有0.1~0.2長石	良好	頸：ロクロ 体：平行タタキ痕後ロクロ	ロクロ	
233	359住	1	内黒坏	完形	12.2	-	4.3	にぶい黄橙	粗、多0.5~1.2赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体下~底：手持ケズリ	ヨコミガキ	
233	"	2	内黒坏	完形	13.2	-	4.1	にぶい黄橙	多0.5~1.0白色粒子	良好(黒斑少)	体：ヨコナデ 底：逆位手持、中央ケズリ後外周ケズリ(時計回り)	へラミガキ(ヨコ+ナナメヨコ)	図示
233	"	3	高坏	脚	-	5	(1.8)	浅黄橙	密0.1赤色、雲母少	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	"
233	"	4	甕	1/4肩	-	-	(5.3)	黒褐	0.2白色粒子	やや不良	頸：ヨコナデ 体上：タテハケ	頸：ハケ	床下
233	"	5	内黒坏	ほぼ完形	12.0	-	4.9	にぶい橙	粗、少0.5~1.5赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体底：逆位手持、中央ケズリ後外周ケズリ(時計回り)	ヨコミガキ	図示 黒色吸着不良
233	"	6	内黒高坏	1/3口~体	(16.6)	-	(4.6)	橙	有0.2~0.3赤色粒子	良好	ヨコナデ 体底：ケズリ	ミガキ	
233	"	7	甗	底	-	-	(2.7)	灰褐	有0.2~0.5赤、白色粒子	やや不良	へラヨコナデ	へラヨコナデ	
233	"	8	甕	1/4口縁	(17.4)	-	(3.4)	橙	有0.2白色粒子、雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
233	360住	1	須恵坏	1/4全位	(14.0)	(8.0)	4.2	灰	密0.1黒色粒子	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	カマド他
233	"	2	須恵坏	1/6口~体	(14.0)	-	(3.8)	灰	密少0.5~2.0白色	良好	ロクロ	ロクロ	
233	"	3	須恵高台坏	1/2底	-	(9.8)	(3.5)	青灰	密、少0.3白色粒子	良好	ロクロ		
233	"	4	坏	1/5全位	(14.0)	(8.0)	5.1	明赤褐	有0.2白色、黒色	良好	口~体中：ヨコナデ 体下：ケズリ 底：へラ切り		カマド
233	"	5	甕	1/3口縁	(21.4)	-	(5.0)	明赤褐	多0.3~0.5白色粒子	良好	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ	カマド床上
233	"	6	甕	1/3口~体	(27.5)	-	(20.6)	にぶい褐	有0.5~1.0白色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコケズリ 体中~体下：タテナメケズリ	口：ヨコナデ 体上~体中：ヨコナデ後指オサエ	カマド 接合痕：体下1
233	361住	1	坏	1/3全位	(12.6)	(6.2)	4.2	外：黄灰 内：にぶい黄橙	多0.2~0.5長石、小礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ?	
233	"	2	内黒坏	1/3全位	(13.2)	5.0	4.3	明赤褐	有0.1~0.5長石	良好	ロクロ 底：糸切	タテミガキ	図示 黒色不良
233	"	3	内黒坏	1/3全位	(14.2)	(7.2)	4.2	橙	有0.1~2.0長石、小礫	良好	ロクロ 底：糸切	ヨコミガキ+タテミガキ	黒色不良
233	"	4	内黒坏	1/3口~体	(15.8)	-	(5.4)	橙	粗、多0.1~1.5長石、雲母、小礫	良好	ナデ	ミガキ不明瞭	図示
234	362住	1	坏	1/5口~体	(15.8)	-	(3.6)	橙	少0.1~0.3長石、角閃石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
234	"	2	高坏	ほぼ完形	15.8	8.8	8.6	浅黄橙	有0.1~1.0長石、小礫	良好	ナデ?	坏：ナデ不明瞭 脚：へラナデ不明瞭	図示
234	"	3	甕	1/10口縁	(19.4)	-	(5.8)	橙	粗、多0.1~1.5長石、小礫	良好	ミガキ	ナデ?	"
234	363住	1	須恵坏	1/3口~体	(13.9)	-	(3.9)	灰オリーブ	少0.1~0.5長石、石英	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	
234	"	2	須恵高台坏	2/5全位	(12.7)	(9.4)	4.0	灰	有0.1~0.5長石、小礫	良好	ロクロ 底：回転へラケズリ後タテケズリ	ロクロ	図示
234	"	3	小型甕	2/5全位	(12.6)	(7.1)	11.5	灰褐	多0.1~1.3長石、石英、小礫	やや不良	口~体中：ロクロによる回転ヨコハケ 頸：タテミガキ 体下：ケズリ 底：へラ調整	ヨコナデケズリ	"
234	"	4	甕	1/10口縁	(20.9)	-	(9.6)	橙	口：へラナデ 体上：へラケズリ後ヨコナデ	良好	口：へラナデ 体上：へラケズリ後ヨコナデ	口：ヨコナデケズリ 体上：ヨコハケ	図示 接合痕：頸1
234	366住	1	坏	1/2全位	(9.4)	-	5.3	にぶい橙	有0.3白色粒子	ほぼ良好	体上：ヨコナデ 体下：ケズリ	ヨコナデ	
234	"	2	坏	1/5口~体	13.4	-	(4.7)	明赤褐	多0.2~0.5白色粒子、石英	ほぼ良好	ナデ又はミガキ?	ヨコナデ?	
234	"	3	坏	1/2全位	13.4	-	(4.8)	にぶい黄橙	有0.5~1.0長石、角閃石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	

第3章 調 査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
234	366住	4	内黒環	1/2全位	(12.8)	-	(4.6)	にぶい橙	有0.3~1.0 赤色、黒色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ後ミガキ	口：ヨコナデ 体：ややナ ナメの放射状ミガキ	ビット 2 図示
234	〃	5	環	3/5全位	12.6	-	6.1	明赤褐	多0.5 石英、角閃石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：放射状ミガキ	床上
234	〃	6	環	4/5全位	13.3	-	4.5	橙	多0.1~0.3 長石、黒色粒子	良好 (外黒斑)	ケズリ後ナデ？不明瞭	口：ヨコナデ 体：ナデ？	
234	〃	7	高環	3/4環	17.0	-	(6.1)	橙	密、少0.5~1.0 角閃石	良好	口：ヨコナデ 環：タテミガキ (不明瞭)	タテミガキ？	カマド図示
234	〃	8	高環	1/3脚	-	11.0	(5.9)	にぶい橙	有0.3~1.0 白色、黄色粒子	良好	ヨコナデ後タテミガキ	脚：ヨコケズリ 脚襪：ヨコナデ	
234	〃	9	高環	3/4環 1/2脚	15.2	-	(4.4)	にぶい黄橙	有0.2~1.5 白色、黄色粒子	良好	口：ヨコナデ 環：タテミガキ 脚襪：タテミガキ 脚襪：ヨコナデ	環：タテミガキ 脚：ヘラ	カマド図示
234	〃	10	小型壺	1/5頸~体	-	-	(7.7)	浅黄橙	少0.2~0.5 白色粒子	良好	ナデミガキ	ヨコナデ	床上 接合痕： 頸1体2
234	〃	11	小型壺	1/3口~体	(10.4)	-	(10.6)	明赤褐	有0.2~1.5 石英	良好	口：タテミガキ 体：磨耗顕著	口：ナデ？ 体：ナデ	接合痕： 頸1体3
234	〃	12	甕	1/4口~体	(15.0)	-	(9.1)	明褐	有1.0 黒色、火山岩	良好	口~体：ヨコナデ 頸：ケ ズリ痕 体：指オサエ	ヨコナデ	図示
234	〃	13	小型甕	1/3口~体	(13.6)	-	(12.3)	明赤褐	有0.5~1.0 石英、白色粒子	良好	口：ハケ？ ロー依：ヨコナデ 体下：ナメケズリ (串状工具？)	口：ヨコナデ 頸：指オサエ 体：ケズリ 体下：ハケ	図示 接合痕： 体2
234	〃	14	甕	1/2口~体	(16.0)	-	(14.9)	赤褐	多0.5~1.0 石英、角閃石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ハケケズリ	ヨコナデ 接合部指オサエ	カマド図示 接合痕： 頸1
234	〃	15	壺	1/5体~底	-	8.0	(8.3)	赤褐	有0.2~0.5 白色粒子	良好	体：ミガキ (やや不明瞭)	ナデ？	
234	367住	1	須恵環蓋	3/5全位	(20.7)	-	5.0	赤灰	少0.2 長石	良好 (内や酸化)	天井上：ヘラケズリ (正位反 時計回り) 天井下：ロクロ		図示
234	〃	2	須恵環	3/5全位	(14.1)	8.0	4.2	褐灰	有0.2~2.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：手持ヘラ調整	ロクロ	
234	〃	3	須恵環	ほぼ完形	13.8	7.5	4.0	灰黄	やや粗、和1~3.0 長石、小礫	ほぼ良好 (やや酸化気味)	体：ロクロ 底：手持ヘラ調整	ロクロ	図示
234	〃	4	須恵環	3/5全位	(14.2)	8.0	4.4	灰オリーブ	少0.1~2.0 長石、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：ヘラ切ヘラ調整	ロクロ	
234	〃	5	須恵環	3/5全位	(14.4)	6.2	4.5	灰	少0.1~0.5 長石、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	ビット 1 図示
234	〃	6	須恵環	ほぼ完形	13.1	8.5	3.9	灰	少0.1 長石	良好	体：ロクロ 底：手持ヘラケズリ	ロクロ	図示
234	〃	7	内黒環	1/5口~体	(15.2)	-	(3.7)	橙	少0.1 長石	良好	口：ヨコミガキ 体：ケズリ	ヨコミガキ	〃
235	〃	8	須恵甕	1/6口~頸	(20.4)	-	(4.5)	黒褐	有0.1~0.5 長石、雲母	良好	口~頸：ロクロ 頸：工具オサエ？	ロクロ	
235	〃	9	甕	1/10口~体	(14.0)	-	(5.0)	明赤褐	少0.1 長石	良好	口：ナデ 体上：ヨコケズリ	ハケヨコナデ	図示
235	〃	10	須恵甕	1/5体~底	-	(15.9)	(15.7)	浅黄橙	粗、多0.1~10.0 長石、黒色粒子	還元不良	体中：平行タタキ 体下：平行タタキ 後ヨコケズリ 底：ヘラ調整	体中：オサエ痕 底：ハケ	
235	368住	1	須恵環	3/5全位	12.4	6.6	3.8	褐灰	有0.1~1.0 長石、黒色粒子	良好	ロクロ 底：ヘラ調整	ロクロ	焼き歪み 底土砂溶着
235	〃	2	内黒環	2/3全位	14.2	-	5.6	明褐	有0.2長石 1.0小礫	ほぼ良好	口~体上：ヨコミガキ 体中~底：ケズリ (ナデ)	ヨコミガキ	
235	〃	3	内黒環	2/3全位	14.4	-	5.0	橙	少0.1~3.0 長石、角閃石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体下~底：逆位手 持面ケズリ (時計回り)	ヨコ、ナナメミガキ	図示
235	〃	4	内黒環	完形	14.8	-	4.9	にぶい橙	少0.1~1.5 長石、小礫	ほぼ良好	体：ナデ 体下~底：外周ケズリ の後中央ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	〃
235	〃	5	内黒環	ほぼ完形	12.2	-	4.3	にぶい橙	粗、多0.2~3.0 長石、小礫	良好	ヨコナデ	ヨコミガキ	図示 摩耗
235	〃	6	内黒環	4/5全位	13.4	-	4.4	にぶい橙	有0.2~1.0 長石、小礫	良好	口：ヨコナデ	ヨコミガキ	図示
235	〃	7	内黒環	2/3全位	(14.4)	-	4.6	橙	有0.1~1.5 長石、小礫	ほぼ良好 (外に黒斑有)	体：ヨコナデ 体下~底：外周ケ ズリの後中央ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	〃
235	〃	8	内黒鉢	3/5全位	14.6	-	(9.5)	にぶい黄橙	極少0.1~2.0 長石	良好	口：ヨコミガキ 体~底：ケズリ	ヨコミガキ	〃
235	〃	9	鉢	1/5口~体	22.0	-	(7.9)	灰褐	多0.1~1.0 長石、角閃石	やや不良	口唇：面取り気味 口~体：ナデ	口：ナデ 体：ヘラ、ヨコナデ	
235	〃	10	甕	2/3口~体	22.2	-	(28.5)	明赤褐	多0.1~3.0 長石、石英、 赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	ヨコヘラナデ	カマド図示 接合痕： 体4
235	〃	11	甕	1/3口~体	(20.8)	-	(29.6)	明赤褐	少0.1~1.0 長石、石英、小礫	良好 (黒斑有)	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ヨコヘラナデ	カマド図示 接合痕： 体1
235	〃	12	甕	1/2口~底	20.8	5.8	(30.4)	赤褐	少0.1~1.5 長石、石英、雲母	ほぼ良好	口：ユビオサエ後ヨコハケ 体上：ヘラケズリ 体下： ヘラケズリ 底：葉脈痕	口：ヘラナデ 頸：ヘラナデ	図示 接合痕： 体2
235	〃	13	甕	ほぼ完形	19.7	5.6	30.6	にぶい赤褐	少0.1~1.0 長石、雲母、小礫	良好	口：ナデ 頸：ツメアト 体：ケズリ 底：ヘラ調整	口：ヨコナデ 体：ヘラナデオサエ	カマド図示 接合痕： 体2
235	〃	14	甕	1/2口~体	21.0	-	(22.2)	にぶい褐	多0.1~2.0 長石、赤色粒子	ほぼ良好 (黒斑多)	口：ヘラナデ 体：ヘラケズリ	ヨコナデ	図示
236	〃	15	甕	1/3口~体	17.2	-	(17.5)	明褐	有0.1~2.0 長石、角閃石	ほぼ良好 (黒斑やや有)	口：ヨコハケまたはヘラナ デ 体：ヘラナデオサエ	ヨコナデ	カマド図示 接合痕： 体4
236	〃	16	甕 (把手付)	1/4口~体	(25.4)	-	(15.8)	にぶい黄橙	多0.1~2.0 長石、石英	ほぼ良好 (黒斑有)	口：ヨコナデ 把手：ケズリオ サエ 体：タテケズリ後タテミガキ	口：ヘラ後ヨコミガキ 把手：ケズリ 体中：ヨコミガキ	
236	369住	1	須恵壺	1/10口	(11.0)	-	(4.7)	橙	少0.2~1.5 長石、石英	内部還元 表面赤化 軟質気味？	ナデ (剥落気味)	ナデ	接合痕： 頸 1
236	〃	2	環	1/5口~体	(13.8)	-	(3.6)	橙	少0.1~1.0 長石、小礫	良好	口：ヘラハケナデ 体：ミガキ	ヨコナデ	カマド図示
236	〃	3	環	2/3全位	17.8	-	4.2	にぶい黄	多0.1~1.0 長石、雲母	ほぼ良好	ヘラケズリ後ミガキ	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	
236	〃	4	環	2/3全位	13.6	-	7.5	明黄褐	少1.0~2.0 石英	ほぼ良好	ナデ	ナデ	図示
236	〃	5	甕	2/3全位	(13.2)	-	11.1	にぶい黄橙	有0.1~0.3 長石、石英、角閃石	良好	口：折返し 体：ハケナデ	口：ヨコハケ 体：タテハ ケ 底：ユビオサエ	カマド図示
236	〃	6	壺	1/10口縁	(14.2)	-	(4.3)	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石、小礫	良好	口：タテミガキ 頸：ヨコミガキ	口~頸：ヨコミガキ	図示
236	〃	7	甕	2/3口~体	15.9	-	(24.0)	にぶい赤褐	有0.1~1.0 長石、雲母、小礫	やや不良	口~頸：ヨコナデケズリ 体：ケズリ 体下：ヨコナデ	口~頸：ハケナデ 体：ヨコヘラナデ	〃
236	〃	8	甕	2/3口~底	17.0	5.9	(31.4)	にぶい褐	少0.1~1.5 長石、石英、雲母	良好	頸：タテミガキ 体上：ヨコミガ キ 体：タテ、ナナメミガキ 体 下：ヨコミガキ 体下~底：ケズ リ後ナデ 底：ヘラケズリ	頸：ヨコナナメミガキ 体中：ヨコヘラナデ	カマド図示 接合痕： 体5

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
236	370住	1	坏	1/5口~体	(12.6)	-	(4.9)	にぶい黄橙	有0.1~0.5長石、角閃石	良好	ナデ	ヨコナデ	図示
236	"	2	小型鉢	ほぼ完形	11.1	-	8.2	にぶい褐	少0.1~1.0長石	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 体一底：ヨコナナメミガキ	口：ヨコミガキ 体一底：タテナメミガキ	"
236	"	3	甕	1/5口~肩	(18.4)	-	(6.9)	橙	有0.1~2.0赤色粒子、小礫、長石、雲母	良好	口：やや面取り気味 頸：ナデ	口一頸：ヨコヘラナデ	"
236	"	4	甕	3/4口~体	13.2	-	(14.0)	橙	多粗0.1~1.0長石、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上~下：ケズリ	ヘラナデ	図示 接合痕： 体1
236	"	5	壺	ほぼ完形	19.0	6.4	28.7	にぶい黄橙	多0.1~2.0長石、小礫	良好 (黒斑有)	口一頸：ヨコナデ 体：ケズリ 体上：ハケ後ミガキ 体：ヨコケズリ 体下：ナデ? 底：ヘラナデ	口一頸：ヨコナデ 体：ヨコハケ 体下：ハケ	図示 接合痕： 体2
237	371住	1	坏	1/5口~体	(15.7)	-	(4.2)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、小礫	良好	口一体上：ヨコナデ 体下：ミガキ	ミガキ	床上
237	"	2	坏	2/3全位	12.8	-	8.1	にぶい黄橙	有0.1~0.5長石	ほぼ良好 (黒斑有)	ケズリ後ヨコミガキ	口：ヘラナデミガキ 体上 一底：ヨコナナメミガキ	
237	372住	1	坏	1/3口~体	(19.6)	-	(6.7)	にぶい黄橙	有0.1~長石	良好	口一体上：ヨコミガキ 体下：タテミガキ	口：ヨコミガキ	ビット1 図示
237	"	2	小型壺	3/5口縁部欠	6.7	4.0	7.8	明褐	約0.1~1.0長石、石英、雲母	ほぼ良好	口一頸：ヨコナデ 体：ヨコナナメナデ 体下~底：ナデ	口一体：ナデ 体下~底：ナデ	"
237	"	3	内黒小型鉢	4/5全位	(8.1)	3.3	8.3	明赤褐	少0.1長石、石英	やや不良	口一頸：ヨコナデ 体：ヘラケズリ後 ナデ? 底：ヘラナデ	口一頸：ヨコナデ (一部ハケ) 体上：ヨコハケ 体下：ヨコヘラナデ	図示
237	"	4	高坏	1/2坏	15.1	-	(4.8)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、石英	良好	口：ハケ 坏部：ヘラケテ ナデ後ヨコナデ	坏部：手持ヨコハケ後タテミガキ	ビット1 図示
237	373住	1	須恵坏	3/5全位	13.3	7.5	4.2	灰	多0.1~2.0長石	良好	口一底：逆位手持回転 ヘラケズリ (時計回り)	口一底：逆位手持回転 ヘラケズリ (時計回り)	図示
237	"	2	須恵高台坏	1/5全位	19.4	15.0	3.8	黄灰	有0.2長石	良好	口一底：逆位手持回転 ヘラケズリ (時計回り)	口一底：逆位手持回転 ヘラケズリ (時計回り)	図示
237	"	3	坏	1/4全位	(13.0)	-	(4.3)	外：黒褐 内：赤	有0.1~0.5長石	良好	ナデ?	ナデ?	"
237	"	4	甕	1/4口~肩	(19.1)	-	7.2	橙	密0.1~0.2長石	良好	口：ナデ 体上：ヨコケズリ	口一頸：ヘラヨコナデ	接合痕： 口1
237	374住	1	須恵坏	1/3口~体	(11.2)	-	(3.2)	黄灰	有0.1~0.5長石	良好	口一体中：ロクロ 体下：手持ヘラケズリ	ロクロ	
237	"	2	須恵坏	1/5口~体	(12.1)	-	(3.7)	灰	少0.2長石	良好	口一体中：ロクロ 体下：回転ヘラケズリ	ロクロ	
237	"	3	坏	1/4口~体	(14.1)	-	(3.7)	浅黄橙	少0.2長石	良好	ヘラナデ (ミガキ)	ヨコミガキ	床上
237	"	4	小型鉢	1/3口~体	(12.4)	-	(4.3)	褐灰	少	不良	口：ヨコハケ 体：ヘラ	ヨコハケ	図示 内面黒斑
237	"	5	内黒坏	1/5全位	(13.5)	(5.6)	(4.0)	橙	少0.1~2.0長石	良好	ヨコミガキ 底：ヘラ調整	ヨコナナメミガキ	
237	"	6	内黒坏	1/5口~体	(14.9)	-	(3.4)	橙	有0.1~2.0長石、小礫	良好	ケズリ後ナデ?	ヨコミガキ	図示
237	"	7	内黒坏	1/5口~体	(12.3)	-	3.5	にぶい黄橙	少0.1長石	良好	体：ヘラ後ミガキ	ヨコミガキ	カマド
237	375住	1	坏	完形	11.8	-	5.2	橙	有0.1~1.0長石	良好	ヨコミガキ	タテミガキ	図示
237	"	2	坏	完形	12.9	-	5.3	橙	有0.2~1.0長石、雲母、小礫	良好	口：ヨコナデ 体上~底：ケズリ後ナデ	口：ヨコナデ 体上~底：ヨコミガキ	"
237	"	3	坏	ほぼ完形	15.1	-	5.5	にぶい黄橙	少	良好	ヘラミガキ 体：ミガキケズリ	口：ヨコミガキ 体一底：放射ナメミガキ	図示 内面黒斑
237	"	4	坏	完形	14.3	-	5.4	橙	少0.1~0.5長石	良好	ヨコミガキ+ナナメミガキ	底：ヨコミガキ 口一体：手持 回転ヨコミガキ ヘラ記号	ビット1 図示
237	"	5	高坏	1/2坏	16.0	-	5.6	橙	少0.1長石	良好	口一体：放射ミガキ 体：放射ミガキ	ヨコミガキ	図示
237	"	6	高坏	完形	17.6	13.1	13.7	にぶい黄橙	少0.1~0.5長石、雲母	良好	口一ハケ子後ナナハケ 坏底：ナ デ 坏部：ヨコナデ 頸：タテミガ キ 脚：ヨコミガキ 脚端：ナデ	口一ハケ子後ナナハケ 坏底：ナ デ 坏部：ヨコナデ 頸：タテミガ キ 脚：ヨコミガキ 脚端：ナデ	ビット1 図示
237	"	7	高坏	4/5全位	17.0	15.4	15.1	橙	少0.1~1.0長石、赤褐色粒子	良好	口一坏中：ヨコナデ 坏底 一底：タテミガキ	口一坏中：ヨコナデ 坏底 一底：タテミガキ	図示
237	"	8	小型鉢	ほぼ完形	11.1	-	8.8	浅黄橙	少0.1~0.3長石、赤色粒子	良好	口一体中：ナデ後ヨコミガ キ 底：ケズリ後ナデ	口一体上：ヨコミガキ 体一底：放射ミガキ	図示 底に黒斑
237	"	9	小型鉢	2/3全位	10.6	-	8.0	にぶい褐	有0.1~0.5長石、雲母	やや不良	口：ヨコナデ 体上~底： ケズリ後ナメヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ヨコナデ 体一底：放射タテミガキ	図示 黒斑有
237	"	10	片口鉢	片口	9.0	-	6.4	にぶい黄橙	少0.1長石	ほぼ良好	ヨコナデ	ヨコナデ	カマド
237	"	11	小型甕	1/4口~体	9.0	-	8.3	にぶい橙	少0.1~0.5長石、石英	良好	口一体上：ナデ後タテミガ キ	口：ヨコナデ 体上：ヨコナデケズリ	接合痕： 体1
237	"	12	小型鉢	2/3全位	12.0	-	9.2	褐灰	少0.1~0.2長石	良好	ヨコミガキ	口一体上：ヨコミガキ 体一底：ヨコミガキ	図示
237	"	13	坏	ほぼ完形	15.6	-	10.2	にぶい黄橙	有口ばい 0.1~1.0長石	良好	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ 体上：ヨコミガキ 体一底：ナメ放射ミガキ	ビット1 図示 黒斑有
237	"	14	小型甕	ほぼ完形	13.5	4.6	13.7	明赤褐	有0.1~1.5角閃石、石英	良好	口一体中：ヨコナデ 体下：タテ ケズリ 底：ヘラケズリ	ヨコナデ	カマド 図示
238	"	15	甕	1/4全位	19.4	4.6	21.6	にぶい橙	少0.1~1.0長石	良好	口一体上：ヨコミガキ 体一底：タテミガキ	口一体下：ヨコミガキ 体下底：ヨコナデ	"
238	"	16	甕	2/3口~体	15.2	-	23.4	橙	約0.1~1.0長石、雲母、石英	良好	口：ヨコナデ 体上：ハケケテナ デ 体中~体下：タテミガキ	口：ヨコナデ 体上：ヘラヨコナデ	カマド 図示 体1
238	"	17	甕	2/5口~体	15.2	-	22.2	橙	有0.1~1.0長石、赤色粒子	良好	タテナデ後タテミガキ	ヨコナデ 接合痕目立つ	図示 接合痕： 体1、6
238	"	18	小型甕	2/3口~体	16.0	-	14.6	橙	有0.1~1.0長石、角閃石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	ヨコナデ	図示
238	"	19	甕	1/4口~体	17.0	-	13.7	明赤褐	有0.1~1.0長石、石英	良好	口：ヨコナデ 頸：ナデケズリ後 タテミガキ 体：タテミガキ	口一体上：ヨコハケナデ 体中：ヨコケズリ	"
238	"	20	甕	ほぼ完形	16.4	6.7	29.5	橙	有0.1~0.2長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上中：ナナハケ 体下：ヨコハケ 底：ヘラ切	口一底：ヨコナデ	カマド 図示 接合痕： 体1、体2
238	"	21	甕	ほぼ完形	17.5	6.0	30.2	橙	有0.2~0.5長石	ほぼ良好	口一体上：ヨコナデ 体中~下： ハケナデナメ 底：ヘラ調整	口：ヨコミガキ 体上：ヨコハケナ デ 体下：ヨコナデ、ヘラナデ	図示 接合痕： 体1
238	376住	1	坏	1/5全位	(16.2)	-	4.1	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石、小礫	良好	体上：タテミガキ	口：ヨコナデ 体：タテミ ガキ 丸味を持つ平底	ビット6 図示
238	"	2	坏	1/5口~体	(14.6)	-	(4.6)	にぶい黄橙	少0.1~0.5長石、角閃石	良好	口一体上：ヨコミガキ 体下 一底：ヘラケズリ後ナデ	タテミガキ	床上
238	"	3	内黒坏	2/3全位	(14.0)	-	3.9	浅黄橙	種少0.1~1.0長石、石英、小礫	良好	ヨコミガキ? 調整不明瞭	ヨコナナメミガキ	"
238	"	4	坏	完形	11.7	-	6.7	にぶい黄橙	少0.1~1.0長石、赤色粒子	良好	口唇：短く外反 体上：ナデ 体中~底：ヨコミガキ 丸底	タテナメミガキ	図示

第3章 調 査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
238	376住	5	甕	1/5口縁	18.0	-	(4.8)	黒褐	有0.2~1.0長石、小礫	不良	ハケヨコナデ	ハケナデ	図示
238	"	6	小型壺	1/3全位	(12.2)	4.6	14.2	浅黄橙	有0.2~1.0長石、小礫	やや不良(黒斑有)	口:ヨコナデ後タテミガキ 体上:ヨコナデ後タテミガキ? 体下:ケズリ後タテミガキ 底:やや中央が上る平底、ミガキ	口:タテミガキ 体:主にヨコミガキ	
238	"	7	甕	ほぼ完形	17.9	6.9	29.8	橙	有0.1~1.0長石、小礫	ほぼ良好(黒斑有)	口:ヨコナデ 体:ナデケズリ 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ハケナデ	図示
239	378住	1	須恵環	1/2全位	(14.2)	5.6	4.2	灰	有0.1~3.0長石、小礫	良好(やや還元不良)	ロクロ 底:糸切	ロクロ	
239	"	2	内黒環	1/4全位	(16.0)	6.6	4.5	にぶい黄橙	多0.1~2.0雲母、石英、黒色粒子	良好	ロクロ 底:糸切	ヨコミガキ	図示
239	"	3	甕	1/6口~肩	(19.6)	-	(4.5)	橙	有0.2~0.5長石、角閃石	良好	口:ヨコナデ 体上:ヘラオサエ、ヨコミガキ	ヘラナデ?	"
239	379住	1	坏	完形	14.4	-	7.3	橙	多0.1~1.5長石、赤色粒子、角閃石	やや不良(黒斑有)	口:ヨコナデ 体-底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体-底:ヘラナデ	ビット1 図示
239	"	2	小型壺	1/6口~肩	(8.4)	-	(2.5)	にぶい黄褐	有0.1~0.5長石、赤色礫	やや不良	ミガキ	口:ミガキ 体:ヘラナデ	ビット3 図示 接合痕:体上1
239	"	3	小型壺	2/3口~体	14.8	-	(13.6)	にぶい褐	多0.2~1.0長石、石英	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	ヘラナデ	図示 接合痕:頸1
239	"	4	甕	1/5体~底	-	6.6	(21.2)	暗褐	有0.1~1.5長石、石英、小礫	やや不良	体中:ナデ 体下:ケズリ後ナデか? ナデ 底:ナデ中央凹む	ナデ	ビット3 図示 接合痕:体5
239	"	5	甕	2/5口~肩	18.0	-	(13.6)	褐	粗、多0.1~1.2角閃石、石英、雲母、長石	ほぼ良好(黒斑有)	ヨコナデ	ヨコナメナデ 口縁は厚め	図示 接合痕:体上1
239	"	6	甕	3/5口~体	19.4	-	(20.7)	にぶい褐	有0.1~1.0長石、石英、雲母	良好(黒斑有)	口:ヘラナデ 体:ヘラナデ	口:ヘラナデ 体上:ヘラナデ(後文残る) 体中:ヘラナデ	図示 接合痕:体4
239	380住	1	須恵高台環	1/5底	-	9.6	(2.4)	灰	有0.1~0.2長石	良好	ロクロ 底:回転ヘラ	ロクロ	カマド
239	"	2	内黒高環	脚	-	13.0	-	橙	有0.1~2.0長石、角閃石、小礫	良好	脚上:タテケズリ 脚中:ヨコナデ	脚上:ヨコナデケズリ 脚中:ヨコナデ	ビット2 図示
239	"	3	高環	脚	-	12.2	(11.8)	明黄褐	多0.1~5.0長石、小礫	良好	ヨコナデ不明瞭	脚上:ヨコヘラナデケズリ 脚中:ナデ	図示
239	383住	1	坏	2/3全位	(11.5)	-	3.1	橙	有0.1~1.0長石、赤色礫	良好	口~体上:ナデ 体下~底:ヘラケズリ 厚手の底部	口:ヨコミガキ	カマド 図示
239	"	2	坏	1/3全位	(12.6)	(7.6)	(4.8)	黒	少0.1~1.0長石、赤色礫	やや不良	口~体上:ナデミガキ 体下~底:中央ヨコケズリ後手持ケズリ、逆位反時計回り	口~体上:ナデミガキ 体下~底:ハケナデ、タテヨコミガキ	黒っぽい色調
239	"	3	坏	3/4全位	12.5	-	4.6	橙	少0.1長石	良好(内面縁黒斑)	口:ヨコナデ 体-底:ケズリ後ナデ、逆位タテケズリ後反時計ケズリ後ナデ	口:ヨコミガキ 体上:タテミガキ 体下~底:ヨコミガキ	カマド 図示
239	"	4	内黒環	1/4全位	(13.6)	-	(3.6)	にぶい黄橙	少0.1~1.0長石	やや不良	口~体上:ヨコナデ 体下~底:ヘラケズリ	口~体上:ヨコミガキ 体下~底:タテミガキ	
239	"	5	内黒環	1/4全位	(12.4)	(6.8)	4.8	黒褐	有0.1~0.5長石、小礫	やや不良	口~体:ヨコナデ 底:ヘラケズリ(タテ)	ナデ 底:棒状工具で沈澱を一週施す	ビット3 図示
239	"	6	内黒環	3/4全位	14.0	-	4.4	にぶい黄橙	少0.1長石	良好	ナデケズリ	ヨコミガキ	カマド 図示
239	"	7	小型甕	1/3口~肩	(8.9)	-	(5.2)	黒褐	有0.1~0.5長石	やや不良	口:ナデ 体上:ケズリ	ナデ	
239	"	8	壺?	1/3口	(15.7)	-	(6.6)	橙	少0.1~0.2長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
239	"	9	壺	1/4体~底	-	(8.6)	(17.35)	にぶい橙	有0.1~3.0長石、赤色礫	ほぼ良好	ヨコナメケズリ 底:ヘラ調整	ヨコハケナデ	図示
239	"	10	壺	1/3口~体	(19.4)	-	(13.5)	橙	有0.1~1.0長石、赤色礫	ほぼ良好(黒斑有)	口:ヨコナデ 頸:ユビオサエ 体上:ヨコナメミガキ	口:ヨコナデ 頸:ヘラナデ 体上:ハケナデ不明瞭	
240	"	11	甕	1/2口~体	(18.3)	-	(17.0)	にぶい赤褐	少0.1長石、0.34礫	ほぼ良好	口:ヘラヨコナデ 体:タテケズリ後ミガキ	ヨコナデ	カマド 図示
240	"	12	甕	1/3口~体	(18.6)	-	(9.6)	橙	有0.1~4.0長石、小礫	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ナデケズリ	口:ハケナデ 体:ヨコヘラナデ	"
240	384住	1	黒色環	1/3全位	(14.8)	-	(4.0)	黒褐	有0.1~1.0長石、小礫	不良(黒っぽい)	口:ヨコナデ(ハケ?) 体:ケズリ後ナデ?	口:ヨコミガキ 体:タテミガキ	図示 黒っぽい色調
240	"	2	内黒環	1/2口~体	(18.2)	-	(5.5)	橙	有0.1~1.0長石、赤色礫	良好	口:ヨコハケナデ 体:逆位手持ケズリ	口:ヨコミガキ 体:放射ミガキ	
240	"	3	内黒環	1/3全位	(13.4)	-	(3.7)	灰黄褐	少0.1長石	ほぼ良好	口:ハケナデ 体上:ナデ 体下:ハケナデ 底:逆位手持ケズリ(反時計回り)	ヨコミガキ	
240	"	4	内黒環	1/3口~底	(14.4)	-	(4.2)	浅黄橙	有0.1~1.0長石、石英	ほぼ良好	口~体中:ナデ? 体下:ヘラナデ、逆位手持ケズリ(時計回り)	ヨコミガキ不明瞭	
240	"	5	壺(転用甌)	1/3体~底	-	(8.2)	(14.8)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石	良好	ヘラヨコナデ後ヨコミガキ 底:ナデ調整	ヨコヘラナデ	図示 焼成後、底部打欠(内面から)
240	385住	1	内黒環	1/2全位	(14.9)	-	(4.5)	赤褐	有0.1~2.0長石、赤色礫	良好	口~体:ヨコナデ 底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
240	"	2	小型甕	2/3全位	(12.0)	6.4	10.8	明赤褐	有0.1~2.0長石、石英、雲母	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ナデケズリ 体中:ナデケズリ後タテミガキ 底:ヘラケズリ、ナデ調整	口~体上:ヨコナデ 体下:タテミガキ	図示 接合痕:体2
240	"	3	甕	2/3全位	(22.5)	6.0	35.9	にぶい褐	有0.1~0.5長石	ほぼ良好	口:ヨコヘラナデ 体:ヘラケズリ 底:葉脈痕	口:ヨコナデ 体:ヨコナデ(痕が残る)	図示 接合痕:体4
240	"	4	甕	1/2全位	(16.7)	(6.4)	(28.1)	明褐	少0.1~1.0長石5.0mm小石	良好(黒斑有)	口:ヨコナデ 体上:タテナデ 体下:ヨコナデ 底:ヘラ調整	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	図示 接合痕:体1
240	388住	1	壺	1/5口縁	17.8	-	(7.5)	橙	有0.1~1.0石英、雲母、赤色礫、角閃石	良好	ナデ、ナメヘラオサエ?	ナデ	ビット2
240	392住	1	内黒環	1/4口~底	(14.2)	-	(4.3)	にぶい黄橙	少0.1~2.0長石、赤色礫	ほぼ良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
240	"	2	坏	1/4口~体	(16.4)	-	(4.0)	橙	有0.1~0.2長石、石英	良好	口:ナデ 体:ケズリ後ヨコミガキ	口:ヨコナデ 体:タテミガキ	
240	"	3	内黒環	1/4口~体	(22.6)	-	(8.5)	橙	少	良好	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	
240	"	4	高環	2/5脚	-	10.9	(5.8)	橙	少0.2~0.5長石	良好(赤色気味)	脚上:ヘラオサエ 脚中:タテミガキ	脚上:ナデオサエ 脚中:ヨコヘラナデ	
240	"	5	壺	1/6肩	-	(6.0)	にぶい褐	多0.1~1.0長石	良好	頸:ヨコハケナデ 体上:タテミガキ、ヨコミガキ	体上:ヨコヘラナデ		
241	"	6	甕	1/2口~体	20.8	-	(36.5)	明褐	有0.1~1.0長石	ほぼ良好	ヨコナデ	ヘラヨコナデ	図示
241	393住	1	内黒環	1/3口~体	(12.5)	-	(3.2)	浅黄橙	少0.1角閃石	良好	口~体上:ヨコナデ、やや稜有	ミガキヨコナデ	"
241	"	2	坏	ほぼ完形	11.6	-	4.4	にぶい黄橙	有0.1~0.2長石	良好	口~体上:ヨコハケ 体下~底:手持ケズリ	口:ヨコミガキ後タテミガキ	ビット1
241	"	3	坏	1/5口~体	(13.6)	-	(4.1)	橙	有0.1~1.0長石、石英	良好	ヨコミガキ	ヨコナメミガキ	

第1節 国分寺周辺遺跡群

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
241	393住	4	坏	1/5口~体	(16.8)	-	(6.9)	橙	有0.1~1.0長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	ヨコミガキ	
241	"	5	高坏	1/4脚	-	-	(5.4)	浅黄橙	有0.1~0.5長石、雲母、赤色粒子	良好	脚上：タテミガキ 脚上：ヨコナデミガキ 脚上：ヨコミガキ	脚上：ナデオサエ 脚上：ヨコミガキ	内面：丁寧に仕上げ
241	"	6	内黒直口壺	1/3頸	(9.7)	-	(4.8)	にぶい黄橙	少0.1長石	ほぼ良好	口：タテミガキ 頸：ヨコミガキ (オサエ)	ナナメミガキ	口外：黒色処理影響有
241	395住	1	須恵坏	1/8口~体	(11.6)	-	(3.5)	黄灰	有0.1~1.0長石	良好	口~体中：ロクロ 体下：回転ヘラケズリ	ロクロ	図示
241	"	2	須恵小型瓶	1/10頸	-	-	(4.0)	灰	少0.1~0.2長石	良好	頸：浅い沈線2条	ヨコナデ	
241	"	3	須恵壺	1/6肩	-	-	(4.4)	黄灰	有0.1~1.0長石	良好	体上：沈線2条の間に描線状文(6条)	ヨコナデ後ユビオサエ	外：自然釉
241	"	4	坏	3/5全位	10.8	-	-	明赤褐	角閃石、長石、石英	良好	口：ナデ 体~底：ヨコケズリ	ヘラヨコナデ	
241	"	5	坏	2/5全位	(13.2)	-	4.9	内：黄灰 外：にぶい黄橙	有0.1~0.3長石	良好	口~体上：ヨコミガキ 体中~底：ヨコミガキ	ヨコナメミガキ	
241	"	6	坏	完形	13.4	-	5.5	にぶい黄橙	少0.1~0.5長石、小礫	良好	ヨコミガキ	放射ミガキ	ビット2図示
241	"	7	坏	ほぼ完形	13.2	-	5.0	内：にぶい黄橙 外：褐	有0.1~1.5長石、石英	ほぼ良好	口~体上：ヨコミガキ 体中~底：ケズリ後ナデ	クテナナメミガキ	"
241	"	8	内黒高坏	4/5坏	10.2	6.2	6.5	にぶい褐	少0.1~1.0長石、赤色粒子	良好	口上：ヨコナデ 口中~口底：ナナメケズリ 脚上：ナデ 脚上：ナデケズリ 脚上：ナデ	坏：ヨコナメミガキ 脚：ヘラケズリナデ	図示
241	"	9	坏	1/5口~体	14.0	-	(6.0)	にぶい褐	有0.1~0.5長石、赤色粒子	やや不良	口：ヨコナデ 体上：ハケ? ナメ 体中：ハケヨコ	ヨコナデ	接合痕：体上1
241	"	10	坏	1/4口~体	(22.0)	-	(6.1)	橙	有0.1~0.5長石、石英	良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	ビット2図示
241	"	11	甗	1/3全位	(7.2)	-	9.2	明赤褐	有0.1~1.0長石、石英	良好	ヨコヘラナデ	体：ヨコヘラナデ 体下端：ヨコヘラナデ	図示 内：黒斑
241	"	12	小型甗	1/2口~体	14.0	-	(8.6)	にぶい赤褐	有0.1~2.0長石、石英	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：ヨコヘラナデ	
241	"	13	台付甗	1/3体~脚	-	9.0	(4.8)	明褐	少0.1~2.0雲母、長石、石英	ほぼ良好	体下：ヘラナデ 脚上：ヨコナデ	体下：ヘラナデ 脚上：ヘラケズリ 脚上：ヨコナデ	
241	396住	1	坏	1/4全位	13.2	-	3.7	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、石英	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ (ケズリ?)	ヨコナデ クテナナデ	
241	"	2	坏	1/4口~体	(17.0)	-	(5.0)	にぶい黄橙	有0.1~0.3長石	良好	ヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体：放射ミガキ	床上
241	"	3	内黒坏	ほぼ完形	12.4	-	3.7	にぶい黄橙	少0.1~0.3長石	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 体：ケズリ ナデ 底：ヘラケズリナデ	ヨコミガキ	カマド図示
241	"	4	内黒坏	1/3全位	13.6	-	3.9	橙	有0.1~4.0長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 体~底：ヨコケズリ	ヨコミガキ	カマド付近
241	"	5	甗	1/10底	-	6.5	(2.4)	黄橙	有0.3長石、礫	不良	ヘラナデ (タテ) 底：ヘラナデ後ヘラケズリ	ヘラナデ	カマド図示 黒斑多
241	"	6	甗	1/4体	-	(8.4)	(8.8)	にぶい黄橙	有0.1~0.2長石	やや不良	ミガキ	ヨコミガキ 体下端：ヨコナデ	カマド付近
241	"	7	甗	ほぼ完形	19.4	6.2	34.0	橙	多0.1~1.0長石、赤色礫	良好	口：ヨコナデ 底：ヘラ調整 体：タテケズリ	口：ヨコナデ 体上~体中：ハケナジ 体下：ヘラナデ	カマド図示 接合痕：体中1
241	397住	1	小型甗	1/3口~体	(11.3)	-	(5.3)	橙	少0.1~0.5長石、赤色粒子	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
241	398住	1	坏	ほぼ完形	12.6	-	5.7	にぶい赤褐	有0.1~0.3長石	ほぼ良好	口~体上：ヨコナデ 体~底：ヨコケズリ	ヨコナデ	図示
241	"	2	坏	1/4全位	(12.7)	-	6.2	にぶい赤褐	有0.1~0.3長石	良好	口~体上：ヨコミガキ 体下~底：ヨコケズリ	口：ヨコミガキ 体~底：タテナメミガキ	
242	"	3	小型甗	1/2全位	10.3	5.2	14.5	にぶい赤褐	少0.2~1.0長石、石英、角閃石	良好	口縁：ヨコナデ 頸：ナデ 体：ナデ 底：ヘラ調整	口~頸：ナデ 体：ヨコナデ	図示 器形が口縁で削れている
242	"	4	甗	1/4口~体	(28.0)	-	(13.4)	にぶい黄橙	有0.1~0.5長石	良好	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	図示
242	"	5	甗	1/3口~体	17.0	-	(19.7)	灰褐	多0.1~1.0雲母多量	やや不良	体：ヨコミガキ 頸：ヨコナメミガキ 体：タテミガキ	口~頸：ナナメミガキ 体上：ヘラナデ	図示 接合痕：体2
242	3400住	1	小型坏	完形	7.0	-	4.7	にぶい黄橙	少0.1長石	ほぼ良好	体：ヨコミガキ	体：ナナメ放射ミガキ	ビット8 図示
242	"	2	小型坏	ほぼ完形	9.3	-	5.6	黒	有0.1~0.3長石	やや不良	体：ヨコ後ナナメミガキ	体：ヨコミガキ後放射ミガキ	カマド右 図示
242	"	3	坏	ほぼ完形	12.1	-	4.6	にぶい黄橙	少0.1~0.3長石	良好	体：ヨコミガキ	体：タテ、放射ミガキ	床上
242	"	4	坏	1/5口~体	(13.8)	-	(4.9)	橙	少0.1~長石	良好	口：ヨコミガキ 体下：タテミガキ	口：ヨコミガキ 体：剥落 気味 体下：ミガキ	
242	"	5	坏	1/4全位	(14.8)	-	(4.9)	橙	少0.1~0.5赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	体：ヨコナデタテミガキ	
242	"	6	坏	完形	14.6	-	5.0	橙	少0.1~1.5雲母、長石、石英	ほぼ良好	口：ナデ 体~底：ヨコミガキ	体~底：タテミガキ	カマド右 図示
242	"	7	坏	ほぼ完形	12.7	-	4.3	橙	多0.1~1.0長石、石英	良好	体：剥落顕著 (ヨコミガキ)	体：剥落顕著、ミガキ?	"
242	"	8	坏	2/3全位	13.6	-	4.6	にぶい黄橙	少0.1~0.3長石	良好	体：ヨコナメミガキ	口：ヨコミガキ 体：ヨコナメミガキ	カマド付近
242	"	9	坏	1/3全位	(13.5)	-	4.9	にぶい黄橙	少0.1~0.5長石	良好 (還元気味)	口：ヨコナデ 体~底：ヨコミガキ	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	
242	"	10	坏	2/3全位	(14.6)	-	4.5	橙	少0.1~0.4長石、赤色粒子	良好	ヨコミガキ	口：ヨコナメミガキ 体：タテミガキ	カマド図示
242	"	11	大型坏	2/3全位	18.6	-	6.8	橙	少0.1長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヨコナメミガキ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	"
242	"	12	坏	完形	11.8	-	7.0	にぶい黄橙	少0.1角閃石、石英	良好	体：ヨコミガキ	口：ヨコナデ 体：ヨコヘラナデ	図示
242	"	13	内黒小型壺	ほぼ完形	12.6	-	8.9	にぶい橙	少0.1~0.3長石	ほぼ良好	口~体：タテミガキ 体：ヨコミガキ	体：タテナメミガキ 体：放射ミガキ後ヨコミガキ	
242	"	14	小型壺	ほぼ完形	12.6	3.2	9.6	にぶい黄褐	少0.1~0.5長石	ほぼ良好	口~体ヨコミガキ 体下：タテミガキ 底：上げ底(ナデ)	体：ヨコミガキ 体：多方向ミガキ	カマド右 図示
242	"	15	高坏	1/3口~体	16.2	-	(2.9)	橙	少0.1~1.0長石、角閃石、石英	良好	口~体：ヨコナデ後、暗文を2段施す(波状1条)	体：ヨコミガキ	図示
242	"	16	高坏	ほぼ完形	17.2	12.9	14.0	橙	有0.1~0.3長石	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 環：ヨコナメミガキ 脚上：タテミガキ	環：放射ミガキ 脚上：ヨコハケ 脚上：ヨコナデ	カマド右 図示
242	"	17	高坏	ほぼ完形	17.3	13.7	14.3	橙	少0.1~1.0長石、石英、小礫	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 環：タテミガキ 脚上：ミガキ 脚上：タテミガキ	環：タテミガキ後ヨコ 脚上：ヨコハケ 脚上：ヨコナデ	"
242	"	18	坏転用甗	3/4全位	12.1	-	5.9	にぶい橙	有0.1~0.3長石	良好	体：タテミガキ	体：ヨコミガキ	"

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
242	3400住	19	小型甕	1/5口~体	(12.8)	-	(7.4)	赤褐	有0.1~1.0長石、石英	良好	口：ヨコナデ後ヨコミガキ	口~体上：ヨコナデ	カマド右図示 接合痕： 頸1
242	"	20	小型甕	ほぼ完形	12.1	5.5	12.4	赤褐	有0.1~0.5長石、石英	ほぼ良好	口~体上：(ハケ)ヨコナデ 体下：タテナミガキ 底：上げ底へラ調整	口~体上：ヨコナデ 体下：タテナミガキ	カマド右図示 接合痕： 体2
242	"	21	小型甕	1/10口縁	(14.4)	-	(6.3)	明赤褐	有0.1~1.0長石	良好	口：ヨコナデ 体上：タテナミガキ後ナデ	口：ヨコナデ 体上：ヨコナデ	図示
242	"	22	甌	ほぼ完形	15.2	5.0	10.9	橙	有0.2~1.0長石、石英	良好	体：タテミガキ	体：タテミガキ 体下：ヨコナデ	カマド右 図示
242	"	23	壺	1/5口縁	(17.3)	-	(4.1)	にぶい橙	少0.1~2.0長石、角閃石、赤色粒子	良好	口：ナナメ放射ミガキ	口：ナナメガキ	床上
242	"	24	小型壺	1/10口縁	12.9	-	2.9	にぶい褐	有0.1~0.5長石	良好	口：タテミガキ	口：ヨコミガキ、ヨコケズリ	カマド右 図示
242	"	25	壺	1/3口~肩	(17.7)	-	(10.0)	明赤褐	多0.1~1.0長石、赤色粒子	良好	口：ヨコミガキ (ナナメミガキ) 体上：タテミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ヨコナデ	床上 接合痕： 体5
242	"	26	壺転用甌	1/5底	-	(9.4)	(4.2)	橙	有0.1~1.5長石、赤色粒子	良好	体下：タテナミガキ	体下：ヨコハケ 底：ヨコ欠き整形	カマド図示
242	"	27	壺	1/10底	-	7.7	(4.5)	にぶい褐	多0.2~1.5長石、赤色粒子	良好	体下：タテミガキ、ヨコミガキ	体下：ヨコナデ、ヨコハケ 底：ハケケズリ	図示
243	"	28	甕	3/4全位	(17.7)	6.0	29.4	にぶい赤褐	有0.1~1.0長石、小礫	やや不良	口：ヨコナデ 体上：ナナミガキ 体下：タテハケ 底：へラ調整	口：ヨコナデ 体上：へラナデ	カマド右 図示
243	"	29	小型甕	ほぼ完形	11.0	-	16.0	橙	有0.1~1.0雲母、長石、石英	良好	口縁：面取り気味 体上：ヨコミガキ 体下：タテミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ヨコナデ 体下：ヨコナデ	カマド右 図示 接合痕： 頸1
243	"	30	壺	1/5口~肩	(15.3)	-	(8.6)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、赤色粒子、石英	良好	口：ヨコナデ 体上：ナナミガキ 体上：タテミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ナデオサエ	
243	"	31	甕	ほぼ完形	22.5	-	27.3	にぶい赤褐	多0.1~1.0角閃石、石英、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテハケケズリ 底：中央凹、へラケズリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコナデ	カマド右 図示 接合痕： 体1
243	"	32	甕	1/2体~底	-	(9.1)	(24.2)	明赤褐	有0.1~1.5長石	良好	体：タテケズリ一部ナデ 体下：上げ底ケズリ	体：タテナミケズリ 体下：ヨコナデ	カマド図示
243	"	33	甕	3/4全位	16.5	7.5	32.6	にぶい赤褐	有0.1~0.3長石、石英、雲母	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコナデ、ナナメケズリ 体下：タテケズリ 底：へラケズリ	口：ヨコナデ 体上：ナナメヨコへラナデ	
243	"	34	甕	3/4全位	19.8	(8.0)	33.8	赤褐	少0.1~1.0長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテナミケズリ 底：へラ調整	口：ヨコミガキ 体上：ヨコハケ 体下：ヨコナデ	カマド右 図示 接合痕： 体1
243	401住	1	内黒環	1/3全位	(12.6)	-	4.0	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：へラケズリ	体：ミガキ	
243	"	2	内黒環	1/5体	16.0	-	5.8	にぶい黄橙	有0.1~2.0長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：へラケズリ	体：ヨコミガキ	床上
243	"	3	小型甕	2/5全位	(12.9)	(5.0)	10.3	にぶい橙	多0.1~3.0小礫	やや不良	口：ヨコナデ 体：へラケズリ	体：ヨコナデ	
243	"	4	小型甕	2/5全位	(14.0)	(4.0)	9.5	橙	多0.1~3.0小礫	やや不良	口：ヨコナデ 体：へラケズリ	体：ヨコナデ	
244	403住	1	甕	1/5口~体	(19.6)	-	(8.0)	暗灰黄	多0.1~2.0長石	やや不良	口：ヨコナデ後へラケズリ	口~体上：ヨコナデ	
244	407住	1	内黒環	ほぼ完形	14.0	-	3.4	にぶい橙	多0.1~3.0長石、石英	良好	手持回転ケズリ (反時計回り)	ヨコミガキ	カマド図示
244	"	2	内黒高環	2/3環	16.2	-	(4.4)	にぶい橙	多0.1~4.0長石	やや不良	ヨコナデ	ヨコミガキ	"
244	"	3	球胴甕	1/10口~体	(16.6)	-	(11.9)	にぶい黄橙	やや前1~3.0長石	良好	口：ヨコナデ 体：ナナメミガキ	ヨコミガキ	
244	"	4	甕	1/10口縁	(20.8)	-	(7.3)	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口唇：面取 口：ヨコナデ 体上：ヨコナデ 体下：ナデ	ヨコナデ	接合痕： 頸下1
244	409住	1	環	2/5全位	(10.0)	-	4.0	橙	多0.1~3.0長石、赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体~底：へラミガキ	ナデ?	
244	"	2	内黒環	2/3全位	(14.8)	-	4.4	浅黄橙	多0.1~3.0長石、赤色粒子	良好	体：ナデ 底：手持回転ケズリ (反時計回り)	ヨコミガキ	
244	"	3	高環	1/3環	(15.9)	-	(4.8)	にぶい黄橙	多0.1~2.0長石	良好	口：ヨコナデ 環：ヨコケズリ	ヨコミガキ	カマド図示
244	"	4	内黒高環	2/3全位	(13.5)	9.0	10.7	浅黄橙	有0.1~3.0長石、赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 環：ケズリ後ヨコナデ 体下：タテケズリ 脚端：ヨコナデ	環：ヨコミガキ 脚：ヨコナデ 脚端：ナデ	図示
244	"	5	内黒環	2/3全位	(13.4)	-	4.4	にぶい橙	有0.1~2.0長石、赤色粒子	やや不良	口：ヨコナデ 体~底：ケズリ	タテミガキ	
244	"	6	甕	1/5口~体	(12.8)	-	(16.4)	橙	少0.1~5.0長石	良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ	口：ヨコナデ 体：ヨコハケ	床下
244	"	7	須恵横瓶	1/10口~体	(13.8)	-	(4.4)	灰	少0.2~0.3長石	良好	口：ロクロ 体上：平行タタキ目	口：ロクロ 体上：ロクロ?	接合痕： 頸1
244	"	8	甕	2/3全位	22.5	8.8	30.3	浅黄橙	多0.2~1.0石英、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコケズリ 体中~体下：タテケズリ 底：へラケズリ	ヨコナデ	カマド右 図示 接合痕： 体下1
244	410住	1	須恵環	1/5体	(14.9)	-	(3.5)	灰白	多0.1~2.0長石	軟質	ロクロ	ロクロ	
244	411住	1	環	ほぼ完形	(12.6)	-	(5.0)	浅黄橙		やや不良	体：ヨコナデ 底：手持回転ケズリ (反時計回り)	ヨコナデ?	
244	"	2	環	完形	12.5	-	5.0	橙	有0.1~2.0長石	良好	体：ヨコナデ 底：逆位手持中央ケズリ後外周ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	図示
244	"	3	環	1/2全位	14.0	-	4.7	にぶい橙	有0.1~2.0長石、赤色粒子	良好	体：ヨコナデ 底：逆位手持中央ケズリ後外周ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	"
244	"	4	内黒環	ほぼ完形	13.1	-	3.7	にぶい黄橙	多0.1~10.0礫	やや不良	体：ヨコナデ 底：逆位手持中央ケズリ後外周ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	"
244	"	5	内黒環	完形	11.5	-	4.4	橙	多0.1~3.0長石、赤色粒子	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：手持ケズリ		"
244	"	6	内黒環	ほぼ完形	14.3	-	3.7	にぶい黄橙	少0.1~3.0長石、赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体~底：ケズリ後ミガキ?	ヨコミガキ	"
244	"	7	内黒環	1/10全位	14.1	-	(4.0)	灰黄褐	少	ほぼ良好	体：ハケナデ 底：へラケズリ (ミガキ?)	体：ハケナデ 底：ヨコミガキ	
244	"	8	内黒環	完形	13.8	-	4.6	橙	少0.1~3.0長石	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：手持ケズリ (反時計回り)	ヨコミガキ	
244	"	9	内黒環	完形	13.2	-	4.8	橙	多0.1~5.0小礫、長石	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：手持ケズリ	ミガキ	図示
244	"	10	内黒環	完形	13.0	-	4.5	浅黄橙	多0.1~3.0長石、赤色粒子	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：手持ケズリ	ヨコミガキ	"
244	"	11	内黒環	完形	13.3	-	4.9	にぶい黄橙	多0.1~3.0長石、赤色粒子	良好	体：ヨコナデ 底：逆位手持中央ケズリ後外周ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	"
244	"	12	内黒環	完形	13.6	-	4.9	にぶい黄橙	少0.1~3.0長石、小礫	良好	体：ヨコナデ 底：逆位手持中央ケズリ後外周ケズリ (時計回り)	ヨコミガキ	"
244	"	13	内黒鉢	2/5全位	(15.9)	(5.0)	10.2	にぶい橙	有0.1~4.0長石、赤色粒子	良好	口~体中：ヨコミガキ 体下~底：へラケズリ	ヨコミガキ	"

第1節 国分寺周辺遺跡群

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
244	411住	14	内黒小型鉢	完形	9.0	4.0	7.2	橙	多0.1~2.0 長石、赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体～底：ヘラケズリ	ヨコナデ	図示
244	"	15	内黒高坏	3/4全位	(15.5)	11.6	14.2	橙	有0.1~3.0 長石、赤色粒子	良好	坏：ヨコナデ 脚：タテケズリ 脚根：ヨコナデ	坏：ヨコミガキ 脚：ヨコハケ 脚根：ヨコナデ	"
244	"	16	内黒小型甕	ほぼ完形	13.7	-	11.6	明黄褐	多0.1~4.0 長石	良好	口～体上：ヨコミガキ 底：ヘラケズリ	ヨコミガキ	カマド図示
245	"	17	内黒鉢	ほぼ完形	27.5	-	12.4	橙	多0.1~3.0 長石、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコミガキ 体～底：ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
245	"	18	小型壺	2/3全位	12.8	-	13.2	浅黄橙	多0.1~3.0 長石、赤色粒子	良好	口～体上：ヨコミガキ 体中～底：ヘラケズリ後ナデ	口：ヨコナデ 体～底：ヨコミガキ	"
245	"	19	甗	ほぼ完形	(16.7)	4.0	12.5	橙	少0.1~0.5 長石	やや不良	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	ヨコナデ 体下端：ナデ	カマド図示
245	"	20	壺	1/2口～体	(25.2)	-	(18.6)	にぶい黄橙	有0.1~4.0 赤色粒子	良好	口：ヨコミガキ 体：ヨコナメミガキ	口：ヨコミガキ 体：ヨコハケ	図示
245	"	21	壺	1/2口～体	22.1	-	(26.3)	にぶい黄橙	有0.1~4.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ナナメミガキ	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	"
245	"	22	壺	2/5口と底	(30.0)	7.8	(34.3)	浅黄橙	有0.5~3.0 小礫	良好	口唇：面取 口：ナデ 体上：ヨコミガキ 体中～底：ヘラケズリ後ナデ	口：ヨコナメミガキ 体上：ナデ 体下：ナデ	図示 底部接合痕：キザミ有
245	"	23	壺	ほぼ完形	29.2	7.9	27.6	橙	有0.1~4.0 長石、赤色粒子	良好	口唇：面取 口：ヨコナデ 体上：ナナメミガキ 底：ナデ	口：ヨコミガキ 体：ヨコミガキ	図示
245	"	24	甕	ほぼ完形	25.8	9.0	23.4	にぶい橙	多0.1~5.0 長石、赤色粒子	やや不良	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ 底：ヘラナデ	口：ヨコナデ 体上～中：ヨコヘラナデ	
245	"	25	壺	1/2全位	(17.0)	6.9	20.3	にぶい黄橙	少0.1~4.0 長石、赤色粒子	良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコナメミガキ 体中～底：ヘラケズリ 底：ミガキ	ヨコナデ	図示
245	"	26	甕	2/5体	15.8	-	(9.1)	橙	多0.1~3.0 長石、赤色粒子	良好	口唇：面取 口：ヨコナデ 体上：ヨコケズリ?	ヨコナデ	カマド図示
246	"	27	甕	3/4体～底	-	5.2	(29.1)	明赤褐	多0.1~3.0 長石、石英	やや不良	タテケズリ 底：葉脈痕	体上：ヨコハケナデ 体中～底：ヘラナデ	"
246	"	28	甕	ほぼ完形	17.8	4.2	29.6	橙	多0.1~4.0 長石、赤色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ 底：ヘラナデ	口：ヨコナデ 体：ヨコハケナデ	"
246	"	29	甕	1/3口～体	(19.0)	-	(15.0)	明赤褐	有0.1~2.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	ヨコハケナデ	
246	"	30	甕	2/5口～体	(16.7)	(5.0)	(13.8)	にぶい橙	多0.1~10.0 礫	不良	口：ヨコナデ 体上：ヘラケズリ 体下：タテケズリ	体上：ヨコハケ 体下：タテハケ	図示
246	412住	1	坏	1/2全位	(10.9)	(5.0)	2.6	橙	有0.1~2.0 長石、雲母、黒色粒子	不良	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
246	"	2	坏	完形	10.95	4.8	2.8	橙	多0.1~2.0 雲母、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
246	"	3	坏	2/3全位	10.8	4.0	3.5	浅黄橙	有0.1~3.0 褐色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
246	"	4	坏	ほぼ完形	10.1	4.7	2.85	橙	多0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ロクロ	図示 歪む
246	"	5	内黒坏	ほぼ完形	13.35	6.1	3.9	橙	有0.1~2.0 褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	図示
246	"	6	内黒坏	2/3全位	13.8	(6.0)	4.4	にぶい橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	"
246	"	7	内黒坏	ほぼ完形	16.0	6.5	4.9	にぶい橙	多0.1~2.0 長石、雲母	良好	口：ロクロ 底：糸切	タテミガキ 暗文有	"
246	"	8	内黒坏	1/3全位	(15.2)	(8.6)	6.0	にぶい橙	多0.1~2.0 長石	やや不良	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ミガキ	床上
246	"	9	皿	2/3全位	13.5	6.3	2.8	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ミガキ?	図示
246	"	10	緑釉陶器皿	1/5口縁	(14.6)	-	(1.4)	地：灰 塗：灰オリーブ	無	良好	体：ロクロ	体：ロクロ	カマド 内外面に施釉
246	"	11	灰釉坏	1/3全位	(13.0)	7.8	3.9	灰黄	無	良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ロクロ 施釉：刷毛塗	図示 内面底に重 ね焼き痕有
246	"	12	灰釉坏	1/2全位	(18.0)	(10.6)	5.7	灰白	無	良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整 煤附着 施釉：漬け掛け	ロクロ	
246	"	13	羽釜	1/5口底	(26.0)	-	(24.0)	赤褐	粗0.2~2.0 長石、石英、雲母	良好	口：回転ケズリ 脚：ナデ 体中～体下：ケズリ 体下：平行タテキ後ケズリ	口：回転ナデ 体中：ユビ オサエ後ナデ 体下：ナデ 後タテキオサエ	図示
246	413住	1	坏	1/2全位	(14.6)	7.3	4.1	橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	カマド外図示
246	"	2	坏	1/2全位	(17.6)	6.4	5.4	橙	多0.1~2.0 長石、石英	ほぼ良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ナデ?	カマド図示 黒色吸着不良
246	"	3	内黒坏	1/2全位	(18.3)	8.2	5.3	浅黄橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	ビット1 図示
246	"	4	内黒坏	1/2口～体	(12.0)	(4.3)	4.5	灰白	有0.1~1.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	カマド外 図示
246	"	5	内黒坏	1/2全位	13.6	5.2	4.1	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	"
246	"	6	内黒坏	1/2全位	(13.2)	7.1	3.9	橙	多0.1~2.0 褐色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	ビット1 図示
246	"	7	内黒坏	2/3全位	13.1	6.0	4.2	浅黄橙	多0.1~2.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切 一部被熱有	弱いミガキ	カマド図示
246	"	8	内黒坏	ほぼ完形	13.3	5.4	4.0	橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	カマド外 図示
246	"	9	内黒坏	1/2全位	(13.6)	6.2	3.9	橙	多0.1~5.0 小礫、長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	"
246	"	10	内黒坏	1/2全位	(13.6)	(5.8)	4.3	明赤褐	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	カマド図示
246	"	11	内黒坏	ほぼ完形	(13.3)	5.5	3.8	橙	多0.1~2.0 黒色粒子	不良	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	ビット1 図示
246	"	12	内黒坏	1/2全位	(13.4)	5.8	4.3	灰白	少0.1~0.2 長石	良好	体：ロクロ 底：糸切 暗紋有	暗紋風ミガキ「+」	
247	"	13	皿	4/5口～体	12.9	6.9	3.7	明赤褐	有0.1~1.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：回転ヘラ調整	タテミガキ	カマド図示
247	"	14	内黒皿	4/5口～体	13.8	(7.3)	3.8	明赤褐	有0.1~1.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	カマド外 図示
247	"	15	内黒皿	ほぼ完形	13.0	6.3	2.7	橙	有0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラナデ	タテミガキ	カマド図示
247	"	16	内黒皿	完形	13.0	6.1	2.7	浅黄橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	ビット1 図示
247	"	17	内黒皿	ほぼ完形	13.6	6.6	2.4	にぶい黄橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	やや不良	体：ロクロ 底：回転ヘラナデ	タテミガキ	"

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
247	413住	18	灰釉段皿	1/3全位	(14.0)	(7.5)	2.5	灰白	少0.1~0.2 黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整	ロクロ	施釉:内外 面刷毛塗り
247	"	19	灰釉皿	1/3全位	(14.8)	(7.0)	2.5	灰オリーブ	少0.1 黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整	ロクロ	カマド図示 施釉:内外 面刷毛塗り
247	"	20	小型甕	2/3全位	(10.7)	5.2	10.3	褐	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	やや不良	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	ピット1 図示
247	"	21	埴	ほぼ完形	(15.1)	7.1	6.8	橙	多0.1~5.0 褐色粒子	やや不良	体:ロクロ 底:糸切	ナデ?	カマド図示
247	"	22	内黒埴	ほぼ完形	14.7	7.0	5.2	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	やや不良	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整	ミガキ?	カマド外 図示
247	"	23	内黒埴	2/3全位	14.7	6.4	5.0	明褐	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	やや不良	体:ロクロ 底:ヘラ調整	ロクロ	"
247	"	24	灰釉埴	1/2全位	(12.8)	(5.8)	5.0	灰白	少 黒色粒子	良好	体:ロクロ	ロクロ	カマド図示 施釉:不明
247	"	25	灰釉埴	1/3全位	(18.4)	(7.8)	6.2	灰白	少0.1 黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:ヘラ調整	ロクロ	カマド図示 施釉:内外 面刷毛塗り
247	"	26	須恵長頸壺	1/3体~底	-	7.3	7.2	褐灰	有0.1~2.0 長石	良好	体中:ロクロ 体下:カキ 目 底:回転ヘラ調整	ロクロ	ピット1 図示
247	"	27	甕	1/3口~体	(23.3)	-	(15.3)	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	良好	口~体上:ロクロ 体中:タテケズリ	口~体上:ヨコナデ 体中:タテハケ	カマド図示
247	"	28	須恵長頸壺	1/2体~底	-	14.2	28.5	灰	有0.1~10.0 小礫、長石、 褐色粒子	良好	ロクロ 体中:条痕有 底:ヘラ調整	ロクロ	ピット1 図示
247	414住	1	須恵坏	1/5口縁	(11.9)	-	(3.8)	灰	少	良好	口~体:ロクロ 底:手持ちケズリ	ロクロ	
247	"	2	内黒高坏	1/3坏	(13.5)	-	(4.5)	にぶい橙	少0.1~3.0 長石	良好	口:ヨコナデ 坏下:ミガキ	ヨコミガキ	床上
247	"	3	内黒高坏	2/3全位	(14.0)	(11.5)	11.9	橙	多0.1~3.0 赤色粒子	やや不良	坏:ヨコナデ 脚:タテケ ズリ 裾:ヨコナデ	坏:ヨコミガキ 脚:ヘラ オサエ 裾:ナデ	カマド図示
247	"	4	甗	完形	16.2	-	13.1	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケ ズリ 底:ヘラケズリ後ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケナデ	カマド右 図示
247	"	5	甕	ほぼ完形	21.0	6.0	34.5	明赤褐	多0.1~3.0 長石、赤色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:タテケ ズリ 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ヨコナデ	カマド図示
247	"	6	小型甕	完形	15.3	-	12.7	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケナデ	"
247	"	7	内黒小型甕	3/5全位	(12.8)	(5.0)	11.6	橙	有0.1~3.0 褐色粒子	やや不良	体:ヨコナデ 体:タテケ ズリ 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	
247	"	8	壺	1/2口~体	22.8	-	19.1	橙	多0.1~2.0 長石、小礫	良好	口:ヨコナデ 体:ナナメミガキ	口:ヨコナデ 体:ナナメミガキ	カマド右 図示
248	415住	1	甕	1/5口~体	(12.6)	(6.2)	(7.9.4)	橙	多0.1~3.0 長石	良好	口唇:面取り 体:ヨコナデ 体 下:ヘラケズリ 底:ヘラケズリ	体:ヨコナデ	床上
248	416住	1	甕	2/5口~体	14.4	-	(16.4)	橙	多0.1~5.0 褐色粒子	ほぼ良好	口縁:ヨコナデ 体:タテケズリ	口:ヨコハケ 体:ヘラナデケズリ	ピット3
248	417住	1	須恵坏	2/3全位	(14.6)	-	4.9	橙	有0.1~2.0 褐色粒子	軟質	体:ロクロ 底:タタキ目	体:ロクロ	半還元
248	"	2	須恵摺鉢	2/5体~底	-	6.8	(7.3)	灰	少	良好	体:ロクロ 体下:ナデ 底:剃突多	体下:ロクロ	
248	"	3	須恵甕	1/5口~体	20.4	-	(11.5)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石、小礫	軟質	口~体上:ロクロ 一部平 行タタキ	口~体上:ロクロ	
248	418住	1	須恵坏蓋	1/3口縁	(9.8)	-	(1.8)	灰	少0.1~0.3 長石	良好	天井:ロクロ	天井:ロクロ	
248	"	2	須恵坏	1/5口縁	(10.4)	-	(3.3)	灰	有0.5~1.0 褐色粒子	良好	体:ロクロ 体下:ケズリ	体:ロクロ	
248	"	3	内黒高坏	1/3口~体	(16.6)	-	(4.8)	橙	多0.1~2.0 褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ナデケズリ	体:ヨコミガキ	
248	"	4	山型甕	1/5口~体	(13.8)	-	(6.4)	にぶい褐	少	やや不良	口:ヨコナデ 体上:ケズリ	口:ヨコナデ	
248	419住	1	須恵坏	1/4全位	(11.6)	-	4.0	灰	多0.1~2.0 長石	良好	体:ロクロ	体:ロクロ	
248	"	2	内黒坏	2/3全位	(13.8)	-	3.3	浅黄橙	有0.1~3.0 褐色粒子	やや不良	口縁:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	体:ヨコミガキ	
248	"	3	内黒坏	1/3全位	(14.2)	-	3.9	にぶい橙	有0.1~2.0 褐色粒子、長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	体:ミガキ	
248	"	4	内黒坏	ほぼ完形	14.9	-	3.3	にぶい黄橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口~体:ヨコナデ 体下~底: ヘラケズリ (反吻計回り)	体:ヨコミガキ	
248	"	5	内黒鉢	ほぼ完形	14.3	-	9.3	にぶい黄橙	多0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ナナメ ミガキ 底:ヘラケズリ	体:ヨコミガキ	図示
248	"	6	須恵提瓶	2/3全位	7.8	-	21.2	オリーブ灰	少0.1~2.0 褐色粒子	良好	口~頸:ロクロ ツマミ:ヘラケ ズリ 体:カキ目 (回転)	口~頸:ロクロ 体:ロクロ	体上~体中:自然 釉底部に焼き白成が閉鎖に残る
248	"	7	内黒鉢	ほぼ完形	20.6	-	11.1	にぶい橙	有0.1~2.0 褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	体:ヘラオサエ	図示
248	"	8	内黒鉢	2/3全位	(17.3)	-	10.5	にぶい橙	多0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	ヘラナデ後ヨコミガキ	"
248	"	9	小型甕	2/5口~体	(16.2)	-	(15.4)	にぶい褐	多0.1~3.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ後ナデ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	
248	"	10	鉢	ほぼ完形	13.2	5.7	10.3	にぶい赤褐	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	体:ヨコナデ 底:ヘラ調整	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	床上
248	"	11	甕	1/2口~体	14.8	-	(13.7)	橙	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヨコナナメミガキ	口:ヨコナデ 体:ナナメミガキ	図示
248	"	12	甕	1/2全位	(24.4)	(6.1)	(29.5)	橙	有0.1~10.0 小礫、長石	良好	口:ヨコナデ 体:ナデ? 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ?	"
249	"	13	甕	1/3全位	(20.0)	8.0	(31.7)	にぶい黄橙	有0.1~10.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ナナメ ナデ 底:兼条痕	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	"
249	420住	1	坏	3/4全位	15.1	-	4.9	浅黄橙	有0.1~3.0 長石、小礫	良好	体:ヨコナデ 底:静止ヘラケズリ	ナナメミガキ	
249	"	2	内黒坏	ほぼ完形	8.9	-	3.5	明黄褐	有0.1~3.0 長石	良好	体:ヨコナデ 底:ケズリ?		図示
249	"	3	内黒坏	ほぼ完形	13.2	5.7	4.8	にぶい黄橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	体:ヨコナデ 底:静止ヘラケズリ	ヨコミガキ	
249	"	4	長頸壺	2/5頸	-	-	(6.8)	浅黄橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	ヨコナデ	頸:ヨコナデ 体上:オサ エ 体中:ヨコナデ	図示 内面体上シ ボリ痕有
249	"	5	内黒坏	ほぼ完形	12.9	-	4.2	にぶい黄橙	有0.1~2.0 小礫、褐色粒子	ほぼ良好	体:ヨコミガキ 底:静止ヘラケズリ	ヨコミガキ	
249	"	6	内黒短頸壺	1/5口~体	(12.4)	-	(6.9)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	やや不良	ヨコミガキ	ヨコミガキ	

第1節 国分寺周辺遺跡群

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
249	420住	7	甕	2/3口~体	21.9	-	(31.9)	にぶい黄橙	有0.1~5.0小礫、褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：タテクスリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	図示
249	〃	8	甕	ほぼ完形	21.7	5.6	34.0	黄橙	多0.1~10.0小礫、褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテクスリ 底：葉脈痕	口：ヨコナデ 体：ナメハケナデ	〃
249	421住	1	内黒坏	ほぼ完形	15.2	5.4	4.3	にぶい橙	多0.1~3.0長石、褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体-底：逆位手持中央ケズリ後ナデケズリ (原研計回り)	ヨコミガキ	〃
249	〃	2	甕	1/3口~体	-	-	22.0	にぶい黄橙	多0.1~10.0小礫、褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテクスリ	口：ヨコナデ 体：ハケナデ	〃
249	〃	3	甕	1/5口~体	(22.1)	-	(7.8)	にぶい橙	有0.1~2.0黒色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	カマド 接合不能の 体下有
249	423住	1	坏	1/6口~底	(10.4)	-	(2.8)	灰褐	少0.2~2.0長石	やや不良	体：ヨコナデ 体下：ヘラクスリ	体：ヨコナデ	
249	〃	2	坏	ほぼ完形	13.2	-	4.3	黄橙	多0.1~3.0褐色粒子	良好	体：ナデ?	体：ヨコナデ後ミガキ?	図示
249	〃	3	坏	1/4全位	(12.4)	-	(3.8)	灰褐	有0.1~2.0長石、褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ	体：ヨコナデ	カマド付近
249	〃	4	坏	ほぼ完形	14.1	-	4.6	橙	多0.1~5.0長石、褐色粒子	ほぼ良好	体：ヨコナデ 体下-底：ヘラクスリ	体：ミガキ	図示
249	〃	5	内黒坏	完形	13.1	-	4.0	浅黄橙	多0.1~2.0長石	良好	口：ヨコナデ 体-底：逆位手持中央ケズリ後ナデケズリ (原研計回り)	体：ヨコミガキ	〃
249	〃	6	内黒坏	ほぼ完形	14.2	-	6.2	浅黄橙	多0.1~3.0小礫、長石	ほぼ良好	口：ヘラミガキ 体：ケズリ後ナデ 底：ナデ	体：ヨコミガキ	床上
249	〃	7	坏?	体	-	-	-	にぶい褐	少0.1~0.3長石、石英	良好	ナデ	ナデ?	試%66 内面ターナル状の付着物
250	〃	8	内黒鉢	1/6口~底	(10.4)	-	(6.6)	にぶい黄橙	少0.1~1.0褐色粒子	良好	口-体：ヨコナデ 体下：ヘラナデ	体：ヨコミガキ	
250	〃	9	小型甕	ほぼ完形	13.4	-	(10.3)	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラクスリ	体：ヨコナデ	図示
250	〃	10	甕	ほぼ完形	14.9	-	10.5	橙	多0.1~3.0長石、褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラクスリ	体：ヨコナデ	
250	〃	11	内黒小型甕	ほぼ完形	15.5	-	14.5	にぶい黄橙	多0.1~3.0小礫、長石	良好	口-頸：ヨコナデ 体：ヘラクスリ	体：ヨコミガキ	
250	424住	1	須恵高台坏	1/3底	-	11.5	(2.2)	灰	多0.1~2.0長石	良好	体下-高台：ロクロ 底：回転ヘラ調整	底：ロクロ	図示
250	〃	2	(須恵高台坏) 飯用碗	1/3底	-	11.3	(1.8)	灰褐	少0.1長石	やや軟質	高台：ロクロ 底：回転ヘラ調整	底：ロクロ	図示 擦痕、墨痕有
250	425住	1	内面坏	1/4全位	(11.6)	-	4.3	橙	少0.1~0.5長石	良好	口：ヨコナデ 体：ナデ	体：ミガキ	
250	〃	2	内黒高坏	3/5全位	(14.7)	7.9	11.4	褐	多0.1~3.0長石、石英	やや不良	口：ヨコナデ 坏：ナデ? 胴：ケズリ後ナデ? 裾：ヨコハケ	坏：タテミガキ 胴：ヨコヘラナデ 裾：ヘラナデ	カマド 図示
250	427住	1	須恵坏	ほぼ完形	12.3	6.3	3.75	灰	有0.1~3.0長石、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：手持回転ヘラ後静止ヘラ調整、ヘラ記号	ロクロ	図示 底中央に「一」ヘラ記号
250	〃	2	須恵高台坏	1/5底	-	10.4	(1.8)	黄灰	有0.1~2.0黒色粒子、長石	良好	ロクロ 底：回転ヘラ調整 後ヘラ記号	ロクロ	底中央に「々」ヘラ記号
250	〃	3	小型鉢	2/5口~体	(12.7)	-	(8.2)	にぶい黄橙	多0.1~5.0小礫、長石	ほぼ良好	口径：ヨコナデ 体：ヘラクスリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ?	カマド
250	〃	4	甕	2/5口~体	(26.9)	-	(16.2)	浅黄橙	多0.1~10.0小礫、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヨコケズリ	体：ヨコミガキ	図示
250	428住	1	坏	ほぼ完形	12.2	-	5.0	にぶい橙	少0.1~0.2長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体下-底：ヘラクスリ	体：ナメミガキ	〃
250	〃	2	坏	ほぼ完形	13.2	7.0	4.2	にぶい橙	有0.1~5.0小礫、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ	体：ミガキ?	
250	〃	3	坏	ほぼ完形	(13.3)	-	5.6	にぶい橙	少0.1~2.0長石、石英	やや不良	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ	体：タテミガキ	
250	〃	4	坏	ほぼ完形	14.4	-	5.7	にぶい橙	有0.1~3.0長石	良好	体：ヨコナデ後ミガキ 底：ヘラクスリ	体：タテミガキ	図示
250	430住	1	坏	1/2全位	14.4	-	3.9	橙	多0.1~5.0褐色粒子	良好	体：ナデ 底：ヘラクスリ?	ナデ?	〃
250	〃	2	小型鉢	2/3全位	(13.2)	-	7.3	赤褐	有0.1~3.0長石	良好	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ	ヨコナデ	
250	〃	3	内黒坏	1/2全位	14.0	-	3.8	にぶい黄橙	多0.1~2.0褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ	ヨコミガキ	図示
250	〃	4	内黒坏	3/4全位	20.1	-	8.1	にぶい黄橙	有0.1~2.0長石	良好	口：ヨコナデ 体-底：ヘラクスリ後ナデ	ヨコミガキ	
250	〃	5	甕	1/6口~体	(22.5)	-	(12.7)	にぶい橙	有0.1~5.0褐色粒子、長石	良好	口：ヨコナデ 体上：ハケクスリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコハケ	図示
250	〃	6	甕	1/2口~体	18.8	-	(16.9)	明黄褐	多0.1~3.0褐色粒子、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：ヘラクスリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコハケナデ	
250	431住	1	須恵蓋	完形	14.2	-	4.4	灰	少0.1~1.0長石	良好	ロクロ	ロクロ	
250	〃	2	須恵高台坏	2/3全位	(14.0)	(7.6)	4.4	灰	多0.1~1.0黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラクスリ	ロクロ	
250	432住	1	内黒坏	1/2全位	(13.0)	-	3.8	にぶい黄橙	有0.1~2.0褐色粒子	良好	体：ヨコナデ 底：静止ヘラクスリ	ヨコミガキ	
250	〃	2	蓋	1/6 つまみ~天井	-	-	(3.0)	橙	有0.1~1.0石英、長石	良好	つまみ：タテミガキ 接合部：オサエ 天井：タテミガキ	天井：ナデミガキ	
250	〃	3	小型壺	ほぼ完形	11.4	9.0	12.5	橙	多0.1~4.0小礫、褐色粒子	良好	ナデ	口：ヨコナデ 体-底：ヘラナデ	
251	433住	1	坏	完形	13.2	-	4.6	にぶい黄褐	有0.1~0.3長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 底：ヘラクスリ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	図示
251	〃	2	坏	ほぼ完形	13.4	-	6.1	にぶい黄橙	有0.1~2.0長石	やや不良	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ 底：ヘラクスリ後ミガキ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	〃
251	434住	1	坏	1/3全位	(12.8)	5.1	4.7	にぶい褐	有0.1~2.0褐色粒子	ほぼ良好	口-体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	〃
251	〃	2	内黒坏	ほぼ完形	13.7	5.5	3.8	にぶい橙	有0.1~3.0長石	良好	口-体：ロクロ 底：糸切	ミガキ	〃
251	〃	3	内黒坏	1/2全位	(13.5)	4.5	5.0	にぶい橙	有0.1~2.0褐色粒子	良好	口-体：ロクロ 底：糸切	ミガキ	
251	〃	4	内黒坏	1/2全位	(16.1)	6.8	4.5	にぶい黄橙	少0.1~0.2長石	ほぼ良好	口-体：ロクロ 底：糸切	ミガキ	図示
251	〃	5	内黒坏	2/3全位	(12.9)	6.7	4.1	明黄褐	多0.1~2.0褐色粒子、長石	やや不良	口-体：ロクロ 底：ヘラクスリ?	ミガキ?	床上
251	〃	6	内黒坏	完形	13.8	5.4	4.4	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口-体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	図示

第3章 調 査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
251	434住	7	内黒坏	1/3全位	(15.5)	5.9	5.1	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	良好	ロクロ 底:糸切	ミガキ	
251	〃	8	黒色高台皿	2/3全位	(13.0)	6.5	2.5	橙	有0.1~0.2 長石	良好	ロクロ 底:ヘラナデ	ミガキ	床上
251	〃	9	甕	1/10口~体	(25.0)	-	(15.4)	にぶい黄橙	有0.1~5.0 小礫	やや不良	口:ロクロ 体:タテケズリ	口:ヨコナデ 体上:ヨコ ハケ 体中:ナデ	床直
251	〃	10	甕	1/3口~体	23.4	-	-	橙	有0.1~2.0 長石	良好	口~体上:ロクロ 体中:ヘラケズリ	口~体上:ロクロ	図示
251	435住	1	鉢	口縁	(36.1)	-	(6.0)	橙	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ後ミガキ	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	
251	〃	2	甕	口~体	(19.4)	-	(15.1)	橙	有0.1~5.0 小礫、長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:タテナデ	ヨコナデ	図示
251	436住	1	高坏	1/2脚	-	(11.4)	(6.0)	灰白	有0.1~3.0 小礫、長石	良好	脚下:タテケズリ 脚下端:ヨコミガキ	脚下:ヨコヘラケズリ 脚下端:ヨコナデ	床下
251	〃	2	壺	1/5体~底	-	8.5	(11.8)	にぶい橙	粗、多0.5~4.0 長石、小礫	ほぼ良好	体中:ヨコミガキ 体下:ヨコミガキ 体下底:ヨコナデ 底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
251	437住	1	甕	ほぼ完形	20.6	-	(33.3)	浅黄橙	有0.1~5.0 小礫	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:タテケズリ	ヨコナデ	〃
251	438住	1	高坏	1/10脚	-	(13.7)	(4.1)	にぶい黄橙	少0.1 長石	やや不良	ヨコミガキ	ヨコナデ	〃
251	〃	2	甕	2/5全位	(24.0)	-	6.5	浅黄	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	ヨコミガキ	ヨコナデミガキ 体下底:ナデ	〃
251	439住	1	須恵坏	1/2全位	(14.9)	(10.2)	4.35	灰	少0.1~0.3 長石	良好	ロクロ 底:回転ヘラケズリ	ロクロ	図示 へろ記号「大」 火槽
252	441住	1	須恵小型壺	1/3口縁	(9.3)	-	(3.7)	灰	少0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	ロクロ	
252	〃	2	内黒坏	1/3全位	(15.1)	-	(4.5)	浅黄橙	多0.2~1.0 長石、小礫	良好	口~体上:ヨコミガキ 体下~底:ケズリ	ヨコミガキ+タテミガキ	焼土
252	〃	3	高坏	2/5脚	-	-	(12.2)	橙	多0.1~3.0 小礫、長石	良好	タテミガキ	坏底:ミガキ 脚:ヨコヘラケズリ	図示
252	〃	4	甕	1/2口~体	(17.0)	-	(7.9)	明赤褐	多0.1~2.0 小礫、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体上:タテケズリ	口:ヨコナデ 体上:ヘラナデ	床直
252	〃	5	甕	1/4口~体	(20.9)	-	(22.0)	明赤褐	多0.1~4.0 小礫、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケナデ	図示
252	〃	6	甕	1/3口~体	(19.5)	-	(20.0)	褐	多0.1~5.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:タテケズリ	ヨコナデ	
252	〃	7	甕	1/3口~体	(19.5)	-	(20.0)	褐	有0.1~6.0 長石、小礫	やや不良	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口~体:ヨコナデ	図示
252	442住	1	坏	1/3全位	-	-	(5.4)	橙	有0.1~2.0 長石	良好	体:ミガキ	口唇体:ヨコナデ 体:タテミガキ	
252	〃	2	坏	1/3体~底	-	-	(4.8)	にぶい黄橙	少	良好	体:ヨコナメミガキ	体:ヘラナデ	接合痕: 底1
252	〃	3	坏	2/3全位	-	-	(5.9)	にぶい黄橙	少	良好	体:ミガキ	体:ヘラオサエ後ミガキ	床上 接合痕: 底1
252	〃	4	高坏	1/3脚	-	-	(8.6)	浅黄橙	有0.1~3.0 長石	良好	脚:タテミガキ	脚:ヘラケズリ 裾:ヨコナデ	脚内部シ ボリ痕
252	〃	5	甕	1/2口~体	(18.3)	-	(17.6)	橙	有0.1~1.0 長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ハケナデ	図示 接合痕: 体2
252	443住	1	須恵环蓋	1/5口縁	(13.4)	-	(4.1)	褐灰	少0.2 長石	良好	天井:ケズリ正位(反時計 回り)	天井:ロクロ	
252	〃	2	坏	1/3全位	(11.2)	-	(5.3)	浅黄橙	少	良好	体:ヨコミガキ 底:ヘラケズリ後ナデ	体:タテミガキ	
252	〃	3	甕	1/10頸	(10.0)	-	(3.5)	浅黄橙	少	良好	口:ヨコミガキ	口:ヨコミガキ	床上
252	444住	1	須恵坏	1/3全位	(13.0)	(5.8)	3.7	灰黄褐	少	やや軟質	体:ロクロ 底:静止糸切り	体:ロクロ	
252	〃	2	須恵坏	1/3全位	(14.8)	-	3.8	灰	有0.2~0.3 長石	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ切り	体:ロクロ	
252	〃	3	高坏	1/3脚	-	-	(5.65)	にぶい橙	少0.1~1.0 長石	良好	脚:タテケズリ 裾:ヨコナデ	坏底:ミガキ 脚:ヨコヘ ラケズリ 裾:ヨコナデ	
252	445住	1	坏	完形	12.7	3.4	4.1	にぶい黄橙	少0.1~5.0 小礫、石英	やや不良	体:ヨコナデ 底:逆位手拵中央 ケズリ後外周ケズリ(反時計回り)	体:ヨコナデ	図示
252	〃	2	高坏	1/3脚	-	8.4	(7.1)	橙	多0.1~3.0 小礫	良好	脚:タテケズリ 裾:ヨコナデ	坏底:ナデ 脚:ヘラケズ リ 裾:ヨコナデ	
252	〃	3	蓋	つまみ	(4.7)	-	(2.7)	浅黄橙	有0.1~3.0 長石	良好	つまみ:ミガキ 天井:ナデ	つまみ:ミガキ 天井:ナデ	
252	〃	4	内黒坏	1/2全位	(22.1)	-	8.1	橙	多0.1~3.0 小礫	やや不良	体:ヨコミガキ 底:ヘラナデ	体:ヨコミガキ	図示
252	〃	5	甕	1/5口~体	(25.8)	-	(11.6)	橙	有0.1~3.0 小礫	良好	口:ヨコナデ 体:タテミガキ	口~体:ヨコナデミガキ	〃
252	〃	6	甕	1/3口~体	(21.6)	-	(22.7)	明褐	粗、1~3.0 褐色粒子、黒色粒子	良好	口:ヨコナデ ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	〃
253	446住	1	須恵坏	2/3全位	(13.6)	4.3	4.3	灰黄	多	軟質	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	〃
253	〃	2	内黒坏	1/3全位	(13.1)	6.3	3.8	明褐	有0.1~5.0 褐色粒子、長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	タテミガキ	〃
253	〃	3	内黒高台皿	1/2全位	(12.8)	(6.7)	2.8	橙	多0.1~2.0 褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:ヘラ調整	タテミガキ	〃
253	〃	4	内黒坏	1/5全位	(13.7)	(6.2)	2.8	橙	有0.1~3.0 褐色粒子、長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	タテミガキ	〃
253	〃	5	内黒鉢	1/5口~体	(21.4)	-	(8.0)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	ヨコミガキ	〃
253	〃	6	鉢	1/5全位	(22.8)	8.3	10.8	橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	口:ヨコナデ 体:ミガキ	〃
253	447住	1	坏	1/10口~体	(15.6)	-	(4.1)	にぶい黄橙	多0.1~2.0 長石	須恵質	口~体中:ヨコミガキ 坏底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
253	〃	2	坏	1/6口~体	(14.8)	-	(3.5)	灰黄褐	有0.1~0.5 長石	やや不良	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
253	〃	3	坏	1/2全位	(13.5)	-	(4.7)	浅黄橙	有0.1~3.0 褐色粒子	良好	ヨコミガキ	放射ナメミガキ	床上
253	〃	4	内黒高坏	1/2坏	16.1	-	(5.2)	にぶい橙	多0.1~5.0 小礫、長石	良好	口:ヨコナデ 坏下~接合部:ケズリ	ヨコミガキ	
253	〃	5	須恵甕	1/5口~体	17.2	-	(5.8)	黄灰	0.1~3.0 小礫	やや軟質	口:ロクロ 体上:平行タタキ	口:ヨコナデ 体上:タタキ痕	

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
253	448住	1	須恵坏蓋	1/2体	(10.0)	-	(2.0)	灰	多0.1~2.0 黒色粒子	良好	天井：ロクロ	天井：ロクロ	
253	"	2	須恵坏蓋	1/2全位	(9.4)	-	2.7	灰	多0.1~2.0 小礫、黒色粒子	良好	ロクロ 表面に自然釉	ロクロ	
253	"	3	須恵蓋	ほぼ完形	15.1	-	4.9	灰	多0.1~5.0 黒色粒子	良好	ロクロケズリ後ロクロ	ロクロ	図示
253	"	4	須恵高台坏	2/3全位	(10.4)	7.2	4.1	灰	有0.1~2.0	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ 自然釉付着	ロクロ	カマド
253	"	5	須恵高台坏	1/10体~底	-	(9.6)	(1.85)	灰白	多0.2~1.5 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ後ヘラ記号「一」	ロクロ	
253	"	6	須恵高台坏	4/5全位	16.2	10.9	4.3	灰	有0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	図示
253	"	7	須恵高台坏	1/3全位	(17.1)	(12.1)	4.0	灰	有0.1~3.0 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	ビット6 図示
253	"	8	須恵高台坏	ほぼ完形	16.7	10.9	4.3	灰	多0.1~5.0 小礫、長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	
253	"	9	須恵坏	1/3口~体	(12.8)	-	(3.1)	灰	少0.1~0.2 長石	良好	体：ロクロ 体中に2条の沈線有	ロクロ 口に1条の沈線有	
253	"	10	須恵坏	1/2全位	(12.6)	6.0	4.0	灰	有0.1~2.0 長石	やや軟質	体：ロクロ 底：静止ヘラ	ロクロ	ビット6 図示
253	"	11	須恵坏	2/3全位	13.1	7.0	4.4	にぶい黄橙	少0.1~3.0 長石	軟質	体：ロクロ 底：静止ヘラ	ロクロ	図示
253	"	12	須恵坏	1/3全位	(14.0)	(8.0)	4.8	灰	少0.1~1.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：静止ヘラ	ロクロ	
253	"	13	須恵壺	1/3底	-	10.0	(6.3)	灰	有0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ後ヘラ調整	ロクロ	
253	"	14	須恵皿	1/3口~体	(19.5)	(8.0)	(2.5)	黄灰	有0.1~5.0 小礫、長石	軟質	ロクロ	ロクロ	
253	"	15	須恵大皿(磐)	1/3全位	(38.4)	-	(9.8)	灰	有0.1~5.0 長石、黒色粒子	軟質	体：ヨコナデ 底：ヘラケズリ	ロクロ	図示
253	"	16	内黒高坏	1/3坏	(14.0)	-	(4.0)	橙	多0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	ミガキ?	須恵器模倣か
253	"	17	内黒高坏	1/3口~脚	16.5	-	(8.6)	橙	多0.1~3.0 長石、石英	良好	坏：ヨコナデ 脚：ヨコナデ 一条の沈線	坏：ミガキ 脚：ヨコナデ	
253	"	18	内黒高坏	1/5口~脚	(15.2)	-	(7.2)	橙	多0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	坏：ミガキ 脚：ヨコナデ	須恵器模倣か
253	"	19	内黒高坏	ほぼ完形	(18.5)	(10.4)	12.2	浅黄橙	多0.1~3.0 長石	良好	口：ヨコナデ 坏：ヘラケズリ後ナデ 脚：ヘラケズリ 脚端：ヨコナデ	坏：ミガキ 脚：ヨコナデ 脚端：ヨコナデ	
253	"	20	内黒高坏	1/5脚	-	-	(4.1)	橙	多0.2~1.0 長石、石英	良好	ロクロ 三条の沈線	脚：ヨコナデ	須恵器模倣か
253	"	21	内黒高坏	1/5脚	-	-	(5.0)	明赤褐	多0.2~1.0 長石、石英	良好	ロクロ 一条の沈線	ロクロヨコナデ	須恵器模倣か
253	"	22	内黒高坏	1/5脚端	-	11.3	(3.3)	橙	多0.1~2.0 石英、長石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
253	"	23	内黒高坏	1/5坏	(15.7)	-	(4.1)	橙	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 坏：ヘラケズリ後ナデ	ミガキ	
253	"	24	内黒高坏	ほぼ完形	15.4	9.4	7.9	橙	有0.1~1.0 長石	良好	ヨコナデ	坏：ミガキ 脚：ヨコナデ	図示
254	449住	1	坏	ほぼ完形	13.8	-	4.2	橙	有0.1~5.0 小礫	良好	体：ヨコミガキ 底：ヘラケズリ後ミガキ	体：ヨコミガキ	"
254	"	2	内黒坏	1/3全位	(11.8)	-	4.8	灰褐	有0.1~0.5 長石	ほぼ良好	体：ヨコミガキ 底：ミガキ	ヨコミガキ	ビット2 図示
254	"	3	内黒坏	完形	13.6	-	4.1	橙	有0.1~2.0 小礫	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	図示
254	"	4	内黒坏	完形	13.2	-	4.8	橙	多0.1~3.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ後ナデ 底：ヘラケズリ後ミガキ	ヨコミガキ	"
254	"	5	内黒鉢	1/2全位	(18.2)	-	13.5	橙	多0.1~3.0 小礫	良好	口~体上：ヨコナデ 体中~底：ヨコナデ	ヨコミガキ	"
254	"	6	甗	1/3体~底	-	(8.8)	(16.5)	橙	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	体：ヘラナデ	体中：タテミガキ 体下：ヘラナデ 体下端：オサエ	"
254	"	7	甗	1/3体~底	-	-	(10.0)	にぶい橙	有0.1~3.0 長石	良好	体：ヨコミガキ 底：ヘラケズリ	体：ヨコミガキ 底：ハケナデ	ビット2 図示 孔体：13
254	"	8	小型甗	2/3口~体	(16.0)	-	(16.7)	にぶい赤褐	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	ヨコナデ	
254	"	9	小型甗	1/5口~体	(13.3)	-	(10.4)	にぶい橙	有0.1~3.0 褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	
254	"	10	甗	1/3口~体	(18.2)	-	(22.5)	橙	多0.1~3.0 褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ	口：ヨコナデ 体上~体中：ヨコナデ 体下：ケズリ後ナデ	
254	450住	1	内黒坏	ほぼ完形	13.9	-	4.2	橙	少0.1~1.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体~底：ヘラケズリ	体：ヨコミガキ	床上
254	452住	1	須恵高坏	1/2坏	13.7	-	(5.0)	灰	有0.1~0.5 長石	良好	坏：ロクロ (右回転)	坏：ロクロ	図示
254	"	2	内黒坏	1/4口~体	(15.3)	-	(3.1)	にぶい黄橙	少0.1~0.5 長石、褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ後ヘラナデ	体：ヨコミガキ	
254	"	3	甗	1/4口縁	(21.5)	-	(7.8)	橙	多0.1~3.0 褐色粒子、長石、珪石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケナデ	床上
254	453住	1	坏	1/8口~体	(11.3)	-	(4.0)	にぶい橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：暗文風タテミガキ	内外面に黒色物質残
254	455住	1	内黒坏	1/4全位	(13.0)	-	3.8	にぶい橙	有0.1~2.0 長石	良好	口：ナデ 体：ヘラナデ後ヨコミガキ 底：ヘラケズリ	体：ヨコミガキ	図示
254	"	2	内黒坏	完形	13.0	3.8	4.0	橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	口唇：ヨコナデ 体~底：ヘラケズリ後ヘラナデ	体：ヨコミガキ	"
254	"	3	坏(有孔)	1/3全位	(13.2)	7.0	4.9	にぶい黄橙	少0.1 長石	ほぼ良好	口唇：ヨコナデ 体：ヨコナデ 底：ケズリ後ナデ	体上：ヨコハケ 体下：底中心ヘラオサエ 孔：ケズリ	"
254	"	4	内黒坏	ほぼ完形	12.5	-	3.4	橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	口唇：ヨコナデ 体：ケズリ後ヘラナデ 底：ヘラケズリ	体：ヨコミガキ	"
254	"	5	甗	2/5口~底	(17.1)	-	(13.0)	橙	有0.1~2.0 小礫	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ一部ハケナデ	"
254	"	6	甗	ほぼ完形	(20.0)	-	37.0	橙	體有0.1~0.5長石 3.0~6.0小角礫	良好	口：ヨコハケ 体：タテケズリ 体下：ヨコケズリ 底：縦線残	口：ヨコハケ 体：ハケナデ	"
254	458住	1	高坏	1/2脚	-	12.7	(9.0)	浅黄橙	少0.1~1.0 長石	良好	脚：ヘラケズリ 脚端：ヨコナデ	脚：ヨコヘラケズリ 脚端：ヨコナデ	"
254	"	2	内黒高坏	3/5体~脚	-	-	(9.6)	橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	坏：ヘラナデ 脚：ヘラミガキ 脚端：ヨコナデ	坏：ミガキ 脚：ヨコヘラケズリ 脚端：ヨコミガキ	"

第3章 調 査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
255	459住	1	内黒坏	完形	14.0	-	4.5	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口唇:ヨコナデ 体:ヨコミガキ 底:ヘラケズリ後ミガキ	体:ヨコミガキ	図示
255	"	2	内黒高坏	脚	-	10.0	(8.8)	にぶい黄橙	多0.1~0.3長石	良好	脚:ヘラミガキ 裾:ヨコナデ	脚下:ヨコヘラケズリ 裾:ヨコミガキ	"
255	"	3	甌	完形	15.2	-	10.1	橙	有0.1~3.0小礫、長石	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口唇:ヨコナデ 体上:ヨコミガキ 体:ヘラオサエ後ヨコナデ	図示 孔:7 (外から内)
255	460住	1	内黒坏	1/4全位	(12.9)	(8.4)	7.2	浅黄橙	有0.1~3.0褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	ヨコミガキ	
255	"	2	内黒坏	ほぼ完形	14.2	-	4.4	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
255	"	3	内黒鉢	1/2全位	(12.9)	(8.4)	7.2	浅黄橙	有0.1~3.0長石、褐色粒子	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	"
255	461住	1	須恵坏蓋	完形	20.6	-	4.7	褐灰	有0.1~2.0長石	良好	ロクロ	ロクロ	ビット2 図示
255	462住	1	内黒坏	ほぼ完形	13.6	5.0	3.5	橙	多0.1~4.0長石、石英	良好	ロクロ 底:糸切	タテミガキ	図示
255	463住	1	須恵坏	2/3全位	14.0	4.9	3.7	灰	粗、有0.3石英、雲母	やや不良(軟質)	ロクロ 底:糸切	ロクロ	"
255	"	2	須恵坏	3/5全位	13.5	6.2	3.6	灰白	粗、有0.3石英	やや不良(軟質)	ロクロ	ロクロ	カマド図示
255	"	3	坏	4/5全位	13.9	6.1	3.9	褐灰	有0.3白色粒子	不良(黒斑多)	ヨコナデ 底:回転ヘラ切	ナデ	図示
255	"	4	坏	1/5口~体	(16.4)	-	(3.6)	橙	鈔、1.0以下石英、礫石、赤色礫	良好	ナデ? 不明瞭	体:ナデ、不明瞭	
255	"	5	内黒坏	2/3全位	14.0	6.5	3.6	にぶい黄橙	有1.0~2.0雲母、白色粒子	やや良好(軟質)	口唇:やや外反 ロクロ 底:糸切	口:ヨコナデ 放射気味の タテミガキ	ビット1 図示
255	"	6	内黒坏	完形	14.0	5.3	3.7	灰褐	有0.5褐色、白色粒子	良好	ヨコナデ 底:糸切	放射タテミガキ後ヨコミガキ	"
255	"	7	内黒坏	完形	16.0	7.2	5.1	褐	有1.0以下石英、雲母	良好	ロクロ 底:静止ヘラ調整	口:ヨコミガキ 体:ヨコ ミガキ後放射ミガキ	"
255	"	8	内黒坏	2/5底	-	7.9	(3.6)	にぶい黄橙	粗、多2.0赤色粒子	不良(軟質)	ヨコナデ 底:糸切後付高台	ナデ 台:ヨコナデ	
255	"	9	内黒坏	2/3全位	16.0	5.4	4.4	にぶい褐	有1.0白色粒子	やや不良	ロクロ 底:糸切(上げ底気味)	口:ヨコミガキ 体:タテミガキ	図示
255	"	10	内黒坏	ほぼ完形	13.8	5.2	4.9	灰黄	石英、長石	良好	ロクロ 底:糸切	口唇:やや外反 ミガキ	"
255	"	11	内黒坏	完形	16.4	5.6	5.0	浅黄	鈔、0.2~0.5長石、石英、赤色礫	良好	口:ロクロ 体:ヨコナ デ、不明瞭 底:糸切	口唇:やや外反 ミガキ	床直
255	"	12	内黒高台皿	完形	13.8	6.3	2.8	にぶい橙	有3.0白色粒子、石英	良好(黒斑有)	口~体:ロクロ 台:ヨコ ナデ 底:糸切後付高台	口唇:ヨコナデ 体:放射 タテミガキ 台:ヨコナデ	ビット図示
255	"	13	内黒坏	1/10底	-	7.6	(2.5)	にぶい黄橙	有2.0石英、白色粒子	(軟質)	ヨコナデ 底:糸切	ミガキ不明瞭	"
255	"	14	内黒坏	ほぼ完形	16.0	6.2	5.2	にぶい褐	粗、0.1以下石英、礫石、火山岩	やや不良	ロクロ 底:回転ヘラ切	ミガキ	図示
255	"	15	内黒坏	4/5口~体	16.6	5.9	5.2	にぶい褐	有1.0石英、長石、火山岩	やや不良(ムラ多)	ロクロ 底:回転ヘラ切	ミガキ	"
255	"	16	内黒高台皿	ほぼ完形	13.1	5.3	3.3	にぶい黄褐	有0.5~3.0多	不良(黒斑多)	ナデ 底:回転ヘラ切、付高台	口唇:やや外反 体:ヘラ ミガキ 台下端:面取気味	"
255	"	17	内黒坏	1/6口~体	(22.0)	-	(5.3)	にぶい黄橙	多0.2白色粒子	良好(軟質)	口唇:ナデ 体:ロクロ	体:ナデ	
255	"	18	甌	1/5口縁	(20.5)	-	(5.8)	にぶい橙	多0.2~0.5雲母、白色粒子	良好	口~頸:ヨコナデ	口~頸:ヨコナデ	接合痕: 頸2
255	"	19	甌	1/8口~体	(23.2)	-	(9.5)	橙	多0.5~1.0石英、雲母、赤色粒子	良好	口唇:ナデ 頸:ハケナデ 体上:ハケヨコナデ	口:ヨコナデ 体上:ヨコハケ	
255	"	20	甌	1/5体~底	-	5.5	(17.2)	褐	多0.5~1.0石英	ほぼ良好	体:タテケズリ 底:ヘラケズリ	体:ハケ	カマド図示
255	"	21	須恵甌	1/6肩	-	-	(9.0)	地:暗灰 釉:灰白	少0.3白色粒子	良好	頸:ロクロ 肩:平行タタキ	頸:ロクロ 肩:タタキオサエ	カマド図示 外面体上自然 釉
255	464住	1	内黒坏	完形	14.2	6.3	4.4	浅黄橙	有0.1~2.0長石、石英	良好	体:ロクロ 底:糸切	体:ヨコミガキ後タテミガキ	
255	466住	1	須恵坏蓋	1/3全位	(12.4)	-	2.7	暗灰	少、密0.5以下白色粒子	ほぼ良好	天井:ロクロ	天井:ロクロ	
255	"	2	須恵坏	1/4全位	(10.6)	(6.0)	3.7	白灰褐	少1.0白色粒子、石英	やや軟質	体:ロクロ 底:回転ヘラ 切後ヘラ調整	口:ロクロ	
256	468住	1	須恵坏	4/5全位	13.1	5.1	4.2	灰	1.0白色粒子	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ切痕	体:ロクロ 底中央:やや突出	床上
256	"	2	須恵坏	1/4全位	(13.3)	(6.7)	4.0	暗灰	少1.0以下白色粒子多	ほぼ良好	体:ロクロ 底:ヘラ調整	体:ロクロ	カマド床上 火燗
256	"	3	須恵坏	1/2全位	(13.9)	9.0	3.8	灰	有1.0黒色粒子	やや軟質	体:ロクロ 底:回転ヘラ切未調整	体:ロクロ	床上
256	"	4	須恵坏	1/3全位	(14.0)	(7.6)	3.6	灰	有1.0~3.0黒色礫	軟質	体:ロクロ 底:回転ヘラ切未調整	口唇:やや面取り気味 体:ロクロ	
256	"	5	須恵坏	1/3全位	(14.6)	(8.0)	4.7	赤褐	有0.5以下白色粒子、石英	やや不良	体:ロクロ 底:静止ヘラ調整	体:ロクロ	
256	"	6	須恵坏蓋	1/3つまみ欠	(15.3)	-	(2.5)	灰	有0.4黒色粒子	良好	天井:ロクロ 口縁:縁を持つ	天井:ロクロ	カマド
256	"	7	須恵高台坏	1/6全位	(14.4)	(11.4)	3.5	黄灰	有0.2白色粒子	ほぼ良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整後付高台	体:ロクロ	"
256	"	8	須恵高台坏	1/3全位	(14.6)	(10.8)	3.5	褐灰	少0.5白色粒子	ほぼ良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整	体:ロクロ	外面自然釉
256	"	9	小型甌	1/6口~肩	(19.3)	-	(6.8)	浅黄橙	少、密1.0石英	良好	口唇:洗線 頸:ヨコナ デ 肩:タテハケナデ 体:ケズリ	口唇:ヨコナ デ 肩:ハケナデ	カマド 須恵甌模倣
256	"	10	内黒坏	2/3全位	(14.6)	6.5	4.8	橙	少0.1~0.5黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切後縁 辺部手持ヘラケズリ	口唇:ヨコナ デ 体:手持ミガキ	
256	"	11	内黒坏	1/4全位	(17.3)	(8.6)	5.6	にぶい橙	鈔、0.5以下白色粒子、黒色粒子	良好	口唇:ミガキ 体上:ヨコ ミガキ 体下:ヘラケズリ 底:手持ヘラケズリ平底	口:ヨコナ デ 体:ヨコミガキ	床下
256	"	12	小型甌	2/3底	-	6.9	(5.0)	灰黄褐	有1.0石英、赤色粒子	良好	体下:ナメケズリ 底上:ヨコ ケズリ 底:静止ヘラ切り	体:ロクロ 底:ハケナデ	
256	"	13	甌	1/6口~肩	(21.2)	-	(10.6)	にぶい赤褐	有0.1~0.3長石	良好	口:ヨコナ デ 肩:ケズリ 体:ケズリ	ヨコナ デ	床上
256	469住	1	須恵坏蓋	3/5全位	20.1	-	3.8	明赤褐	有1.0~2.0白色粒子	やや酸化気味	ロクロ後ケズリ	ロクロ	
256	"	2	須恵坏	1/2全位	(13.2)	(7.0)	3.9	灰	有2.0~5.0白色礫	やや軟質	ロクロ 底:ヘラ切り	口唇:やや外反 ロクロ	

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
256	469住	3	内黒環	1/3底	-	(5.8)	(1.6)	明褐	砂少	良好	体~底:手持ヘラケズリ	ミガキ	
256	"	4	須恵甕	1/6体	(18.0)	-	(7.3)	灰褐	密、少1.0白色粒子	良好	口:ヨコナデ 頸:タタキ後ナデ 体上:タタキ目	口:ヨコナデ 体:オサエ痕	
256	"	5	甕	1/6口縁	(16.0)	-	(5.5)	にぶい赤褐	有1.0以下白色、赤色粒子	やや不良	口:ヨコナデ 頸:ヨコナダメズリ	ヨコナデ	
256	"	6	甕	1/3口~体	(20.2)	-	(20.3)	にぶい褐	有1.0以下石英	良好	口:ヨコナデ 体上:ヨコナダメズリ 体下:タテナメケズリ	口~体中:ヨコナデ 体下:ヨコナダメハケ	接合痕:体下1
256	470住	1	内黒環	1/4全位	(12.8)	-	5.0	明黄褐	有1.0赤色粒子、石英	良好	口唇:やや外反 体:ヨコナデ?不明瞭 底:手持ケズリ痕有	口唇:ヨコナデミガキ 体:ミガキ、不明瞭	
256	"	2	内黒環	1/4全位	(14.0)	-	(4.6)	黄橙	有0.1~1.0小礫	良好	口:ハケナデ 体~底:ケズリ	ヨコミガキ	図示
256	"	3	内黒高環	4/5口~脚	12.3	-	-	にぶい橙	有0.1~2.0長石、黒色粒子	良好	口:ヨコナデ 環:ヘラケズリ後ヘラナデ 脚上:タテケズリ	環:ヨコミガキ 脚:ケズリオサエ	"
256	"	4	内黒大型環	1/3全位	(24.2)	-	11.4	明黄褐	有0.5以下白色粒子	良好	口:ヨコナデ 体~底:タテナメケズリ	ヨコミガキ	"
256	"	5	甕	4/5体中欠	(20.1)	-	-	橙	多0.1~10.0小礫、長石	やや不良	口:ヨコナデ 体~底:タテケズリ	口:ヨコナデ 体上:ケズリ後コハケ 体下:タテハケ	"
256	473住	1	環	ほぼ完形	12.3	-	4.5	浅黄橙	密、少1.0~3.0小礫	良好	口~体上:ヨコナデ 体下~底:逆位手持	ヨコミガキ	"
256	"	2	内黒環	完形	13.5	-	3.7	浅黄橙	有1.0白色、赤色粒子	やや軟質	ヨコナデ(ナデミガキ)	ヨコミガキ	"
256	"	3	内黒環	1/3口~体	(15.2)	-	(3.5)	浅黄橙	多0.5石英、白色粒子	ほぼ良好	ヨコナデ	口唇:やや外反 体:ミガキ?不明瞭	"
257	"	4	鉢	1/2全位	11.4	-	11.9	にぶい橙	粗、有0.2~0.5石英、白色粒子	不良(軟質)	口:ヨコナデ 体:ケズリ 体下:ケズリ後ミガキ 底:ケズリ	ナデ	
257	"	5	甕	1/3口~体	(20.0)	-	(14.5)	明赤褐	有0.3~0.8石英、白色粒子	ほぼ良好(焼ムラ)	口:ヨコハケナデ 体:タテケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケ?	
257	"	6	甕	1/3口~体	(19.6)	-	(18.5)	にぶい黄橙	多0.5~4.0赤色粒子	やや軟質	口:ヨコハケナデ 体:タテケズリ	口:ヨコハケナデ 体:ヨコナデ後タテハケ	
257	474住	1	内黒環	2/5全位	(16.0)	(7.0)	5.2	橙	有1.0~3.0白色小礫	良好	口~底:静止ヘラ調整	ヨコミガキ	
257	476住	1	甕	1/5口縁	(22.5)	-	(6.8)	赤褐	密、0.3雲母、白色粒子	良好	口唇:ナデ 口:ハケナデ 頸:ケズリ	口:ハケナデ 頸:ナデ	接合痕:口1
257	"	2	甕	2/3全位	(23.6)	(5.4)	(31.0)	明褐	有0.2~1.0白色粒子	ほぼ良好(焼ムラ)	口:ハケナデ 頸:ヨコハケ 体上:ヨコケズリ 体下:タテナメケズリ 底:静止ヘラケズリ	口:ヨコナデ(布?) 体上:ハケナデ? 体下:ヨコハケ	接合痕:体2
257	501住	1	皿	ほぼ完形	9.3	4.4	2.1	にぶい黄橙	有0.2~5.0長石、礫	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	図示
257	"	2	高台皿	ほぼ完形	10.5	6.9	2.7	灰白	少	良好	ロクロ及びヨコナデ	ロクロ	"
257	502住	1	環	ほぼ完形	10.6	4.3	3.3	にぶい黄橙	有0.1~2.0長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	カマド図示
257	"	2	環	2/3全位	10.8	4.6	3.9	にぶい橙	少0.1~2.0長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	図示
257	"	3	環	2/5全位	(11.7)	5.0	3.8	にぶい橙	少0.1~5.0褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	"
257	"	4	環	1/3全位	10.4	4.9	4.6	灰白	少0.1~2.0褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	
257	"	5	環	2/3全位	(11.6)	4.2	3.3	橙	有0.1~1.0	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	図示
257	"	6	環	完形	10.5	4.5	3.8	橙	少0.1~2.0長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	カマド図示
257	"	7	内黒環	2/3全位	13.1	5.5	4.4	橙	有0.1~2.0長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	タテミガキ	
257	"	8	埴	1/3底	-	(7.8)	(2.9)	にぶい橙	多0.1~3.0褐色粒子	良好	底~高台:ロクロ	高台:ロクロ	
257	"	9	環	完形	12.2	5.4	4.1	にぶい黄橙	有0.1~3.0長石、褐色粒子	ほぼ良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	カマド図示 内外面:二次被熱顯著 外縁スス付着
257	"	10	内黒環	2/5全位	(11.3)	5.9	4.2	にぶい黄橙	有0.1~2.0褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	暗文ミガキ	カマド
257	"	11	内黒埴	1/3全位	(14.2)	7.2	6.0	にぶい橙	有0.1~3.0長石	不良	体:ロクロ 底:糸切	ミガキ	
257	"	12	灰釉埴	2/5全位	(15.4)	8.2	5.2	灰白	少、緻密	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラケズリ 施釉:刷毛塗	ロクロ	図示
257	"	13	甗	1/3体~底	-	(17.9)	(17.5)	明赤褐	多0.1~5.0褐色粒子	ほぼ良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
257	"	14	小型甕	1/4口縁	(15.5)	-	(3.9)	橙	有0.1~3.0長石、褐色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	
257	"	15	灰釉皿	1/3全位	(13.7)	(7.7)	2.4	浅黄	少、緻密	良好	体:ロクロ 底:回転ナデ 施釉:刷毛塗	ロクロ	図示
257	"	16	灰釉埴	2/5全位	(15.0)	7.8	5.5	地:灰白 釉:灰	少、緻密	良好	体:ロクロ 底:回転ナデ 施釉:漬け掛け	ロクロ	"
257	"	17	灰釉輪花皿	1/2全位	14.0	6.9	2.9	地:灰黄 釉:オリーブ灰	少、緻密	良好	体:ロクロ 底:回転ナデ 施釉:刷毛塗	ロクロ	
257	"	18	灰釉壺	1/8頸~体	-	-	(7.0)	灰白	無、緻密	良好	ロクロ 施釉:全面	ロクロ 施釉:頸	
257	"	19	甕	1/4口~体	(21.7)	-	(15.0)	橙	多0.1~3.0石英、雲母	良好	ロクロ	口:ロクロ 体上:ロクロ後ヘラナデ	カマド
258	503住	1	須恵高台環	2/3全位	15.0	10.3	4.3	暗灰黄	密0.3黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ調整	ロクロ	付高台
258	"	2	有稜環	1/3全位	(14.1)	-	4.2	にぶい褐	粗、多0.2褐色粒子 0.5~3.0赤色粒子	やや不良	体:ヨコナデ 底:ヘラケズリ	体:ヨコミガキ 底:ミガキ	
258	"	3	丸底環	1/3全位	(14.3)	-	5.1	にぶい橙	粗、多0.2~1.0石英	ほぼ良好(黒斑有)	体:ヨコナデ 底:ケズリ	口:ヨコナデ 底:ミガキ	カマド左図示
258	"	4	甕	1/6口~体	(25.0)	-	(7.0)	橙	粗、多0.3~2.0白色粒子、赤色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ケズリ後ミガキ	口~体:ヨコナデ	カマド図示
258	505住	1	環	2/3全位	(13.7)	5.4	4.4	にぶい黄橙	有0.2~0.5赤色粒子	ややもろい	体:ロクロ明瞭 底:糸切	ミガキ?	図示
258	"	2	内黒環	1/3全位	(12.3)	4.6	4.7	にぶい橙	有0.3~1.0雲母、褐色粒子、赤色粒子	ほぼ良好	体:ロクロ明瞭 底:糸切後ヘラ調整	ロクロ	"
258	"	3	内黒環	1/3全位	(13.2)	6.3	4.0	にぶい黄橙	有0.2~0.3赤色粒子	良好	体:ロクロヨコナデ 底:糸切	ミガキ	"
258	"	4	内黒環	2/5全位	(16.0)	6.6	4.2	橙	多0.5~1.0石英、長石、黒色粒子	ほぼ良好	体:ロクロヨコナデ 底:糸切	ロクロ	"

第3章 調 査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
258	505住	5	内黒環	1/5口~体	(16.8)	-	(5.2)	橙	有0.5~3.0 白色粒子	良好	体：ロクロヨコナデ明瞭	ミガキ	図示
258	"	6	内黒環	3/4全位	14.2	5.7	4.4	にぶい橙	有0.2黒色粒子 1.5珪藻	やや不良	体：ロクロ 体上~底：ラセン状の沈線	ミガキ	"
258	"	7	内黒環	2/3全位	(13.5)	6.1	4.3	橙	粗0.2~0.7 石英、白色粒子	ほぼ良好	体：ヨコナデ 底：糸切	ミガキ?	焼成後 底部穿孔
258	"	8	小型甕	2/3全位	(8.8)	6.6	9.1	にぶい赤褐	粗、有0.3~1.0 白色粒子	やや不良	口~体中：ロクロ 体下：ロ クロ後ヨコナズリ 底：糸切	体：ロクロ 体下：ロクロ	
258	"	9	小型甕	1/5全位	(10.6)	6.8	13.2	橙	粗、有0.5 黒色粒子、雲母	やや不良	口~頸：ロクロ 体上~体 中：ヘラナデ 体下：ヘラケ ズリ 底：糸切後ヘラ調整	口~体：ヨコナデ 底付：ロクロ	図示
258	"	10	小型甕	1/3口~体	(13.0)	-	(8.4)	橙	有0.3~1.5 白色粒子	良好	ロクロかヨコナデ	ヨコナデ	"
258	"	11	甌	1/6口~体	(33.0)	-	(16.8)	にぶい橙	有0.2 白色粒子	ほぼ良好	口：ロクロ 体：タテハケ	口：ロクロヨコナデ 体：ナデ	"
258	506住	1	須恵環	1/3全位	(12.8)	(7.5)	3.7	灰	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	火燻
258	"	2	内黒環	ほぼ完形	13.1	5.0	4.0	明黄褐	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	やや不良	ロクロ	ミガキ	図示
258	"	3	内黒環	完形	12.4	5.2	3.9	にぶい橙	有0.1~3.0 長石、角閃石	良好	ロクロ 内外面に二次被 熱、黒色油脂付着	タテミガキ	"
258	"	4	内黒環	ほぼ完形	13.4	5.1	4.0	にぶい黄橙	多0.1~3.0 黒色粒子、長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	口：ヨコナデ 体：ミガキ	
258	"	5	内黒環	2/5全位	(12.1)	(5.0)	4.2	橙	多0.1~3.0 褐色粒子、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	不明	図示
258	"	6	内黒環	完形	12.8	4.9	4.0	黄橙	多0.1~2.0 褐色粒子	良好	ロクロ	ミガキ	"
258	"	7	内黒環	完形	13.3	5.7	3.4	明黄褐	有0.1~2.0 長石、石英	良好	体：ロクロ 底：糸切	口：ヨコナデ 体：ミガキ	"
258	"	8	内黒環	完形	13.8	4.1	4.2	黄橙	少0.1~3.0 長石、雲母	良好	タテミガキ	タテミガキ	"
258	"	9	内黒環	完形	13.6	5.1	4.5	橙	多0.1~5.0 長石、褐色粒子	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	"
258	"	10	内黒環	ほぼ完形	13.5	6.7	3.8	浅黄橙	有0.1~1.0 長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	口：ヨコナデミガキ 体：タテミガキ	"
258	"	11	内黒環	完形	16.8	6.6	5.0	にぶい黄橙	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	ロクロ	口：ヨコナデ 体：タテミガキ	
258	"	12	内黒環	ほぼ完形	15.2	7.4	5.4	橙	多0.1~3.0 長石、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	図示
258	"	13	小皿	ほぼ完形	13.1	5.2	2.1	にぶい黄橙	有0.1~3.0 黒色、緑色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデミガキ	"
258	"	14	黒色高台皿	3/4全位	12.0	5.4	2.9	黒	有0.1 長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	暗文風タテミガキ	
258	"	15	内黒高台皿	ほぼ完形	13.3	6.4	3.3	橙	多0.1~2.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	図示
258	"	16	灰釉皿	1/5底	-	7.7	(2.0)	灰白	少量約1~0.3 黒色粒子	良好	施釉：刷毛塗	施釉：刷毛塗	
258	507住	1	環	1/3全位	13.8	7.8	4.9	にぶい橙	有0.1~2.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ	図示
258	508住	1	須恵環	1/2全位	(13.2)	(8.4)	3.6	灰オリーブ	有0.1~2.0 黒色粒子	やや軟質 良好	体：ロクロ 底：ヘラケズリ	ロクロ	火燻
258	"	2	須恵環	3/5全位	(14.0)	(7.0)	4.0	にぶい橙	有0.1~2.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：静止ヘラ	ロクロ	
258	"	3	須恵環	1/2全位	(14.0)	8.2	3.5	灰	多0.1~3.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	
258	"	4	須恵環	2/5全位	(13.2)	(6.5)	3.9	灰オリーブ	有0.1~3.0 長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	
258	"	5	須恵環	3/5全位	14.5	8.4	3.9	にぶい黄橙	有0.1~0.3 長石、黒色粒子	軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	
258	"	6	須恵高台環	完形	12.2	9.0	4.1	灰オリーブ	有0.1~2.0 黒色粒子、長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	
258	"	7	須恵高台環	1/5全位	(15.6)	(11.0)	6.1	暗灰	多0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	
259	"	8	須恵蓋	2/5ツマミ	-	-	(2.0)	灰	有0.1~1.0 長石	ほぼ良好	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	
259	"	9	須恵蓋	3/4全位	13.8	-	3.4	灰オリーブ	少0.1~0.3 長石、黒色粒子	良好	ロクロ	つまみ：ロクロ 天井：ロクロ	カマド
259	"	10	須恵蓋	2/5口~体	(16.8)	-	(2.6)	青灰	有0.1~1.0、5.0 小礫、長石	良好	ロクロ	ロクロ	焼き歪み
259	"	11	須恵蓋	2/5口~体	(17.4)	-	(3.7)	灰	少、緻密	良好	ロクロ	ロクロ	
259	"	12	内黒環	2/5全位	(16.5)	(8.8)	5.1	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石	良好	体：ロクロ 底：静止ヘラケズリ	ミガキ	
259	"	13	内黒環	1/4全位	(13.2)	(9.4)	3.5	にぶい黄橙	有0.1~0.3 長石	良好	体：ロクロ 底：ヘラケズリ	ヨコミガキ	
259	"	14	内黒環	2/5全位	(13.8)	(6.6)	4.3	にぶい黄橙	粗0.1~1.0 褐色粒子、黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ	
259	"	15	高環	1/5脚	-	(10.8)	(6.2)	にぶい橙	有0.1~1.0 長石	良好	脚：ヘラケズリ 脚根：ヨコナデ	脚：ヨコヘラケズリ 脚根：ヨコナデ	
259	"	16	内黒鉢	1/2体~底	-	9.2	(8.5)	橙	有0.1~2.0 長石、雲母	良好	体中：ロクロ 体下：ヘラケ ズリ 底：静止ヘラケズリ	ヨコミガキ	カマド
259	"	17	黒色無頸壺	1/10口	(16.2)	-	(2.5)	黒	多0.1~1.0 長石	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	
259	"	18	甕	1/10口~体	(16.0)	-	(5.5)	橙	多0.1~1.0 長石	良好	ヨコナデ	口：ヨコナデ 体上：ナデケズリ	
259	"	19	須恵短頸壺	1/3口~体	(12.3)	-	(14.2)	オリーブ黒	有0.1~1.0 黒色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	自然釉： 外/口~体上 内/口
259	"	20	須恵短頸壺	1/10口~体	(14.9)	-	(14.4)	褐灰	有0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	ロクロ	自然釉： 外/口~頸 内/口~体上
259	"	21	甕	1/10口~体	(18.5)	-	(7.0)	にぶい黄橙	多0.1~10.0 小礫、長石、雲母	良好	口：ヨコナデ 体上：タテケズリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコハケ	
259	"	22	須恵 突帯文四耳壺	1/5体	-	-	(17.2)	黒褐	少	良好	体上：タテ後ナデ 突帯： 貼り付け 把手：ケズリ貼り 付け 体中：平行タテ	タタキオサエ	把手穿孔 未貫通

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
259	508住	23	須恵甕	1/10口~体	(33.4)	-	(10.1)	黄灰	多0.1~3.0 黒色粒子	良好	口：ロクロ 体上：平行タタキ	口縁：ロクロ 頸：ヨコナ 体上：ナナメハケナデ	
259	"	24	甕	1/3口~体	(23.6)	-	(24.3)	橙	有0.1~1.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体上：ヘラケ ズリ 体中~体下：ハケナデ	図示
259	509住	1	内黒坏	1/3全位	(13.1)	-	(3.7)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石	良好	体：ヨコナデ 底：静止ヘラケズリ	ヨコミガキ	
259	"	2	内黒坏	完形	13.0	-	4.0	にぶい黄橙	有0.1~2.0 褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体~底：ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
259	"	3	内黒坏	1/3全位	(14.8)	-	4.0	にぶい黄橙	多0.1~1.0, 5.0 長石、小礫	やや不良	口：ヨコナデ 体：ヘラケ ズリ 底：静止ヘラケズリ	ヨコナナメミガキ	
259	"	4	内黒坏	1/5全位	(14.0)	-	4.0	にぶい黄橙	有0.1~5.0 長石、小礫	良好	体：ヨコナデ 底：静止ヘラケズリ	ヨコナナメミガキ	
259	"	5	内黒高坏	1/3脚	-	-	(8.0)	にぶい橙	多0.1~2.0 長石	ほぼ良好	脚：タテミガキ	坏底：ミガキ 脚：ヘラオサエ	図示
259	"	6	高坏	1/2脚	-	13.0	(10.0)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 小礫、長石	良好	脚：ヘラケズリ 脚端：ヨコナデ	脚端：ヨコナデ	"
259	"	7	甕	1/4口~体	(19.2)	-	(7.9)	にぶい褐	有0.1~3.0 長石、黒色粒子	良好	口：ヨコナデ 体上：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体上：ナデケズリ	
259	"	8	甕	1/3口~体	(18.9)	-	(22.0)	褐	多0.1~5.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	カマド図示
260	510住	1	須恵高台坏	1/2全位	(16.6)	(12.4)	4.8	灰	少0.1~1.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ナデ	ロクロ	カマド左 図示
260	"	2	高坏	2/3全位	(15.0)	(9.2)	8.0	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石	良好	ヨコナデ	坏：ヨコミガキ 脚：ヨコナデ	カマド図示
260	"	3	小型甕	2/5口~体	(10.4)	-	(7.1)	橙	少0.1~1.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	
260	"	4	甕	2/5口~体	(17.8)	-	21.7	橙	有0.1~2.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ、ナデ	口：ヨコナデ 体：ハケナデ	カマド図示
260	"	5	甕	1/3口~体	(25.2)	-	(20.5)	にぶい赤褐	多0.1~1.0 長石、褐色粒子	良好	口：ヨコナデ 体：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケナデ	"
260	511住	1	坏	1/3全位	(10.0)	5.0	2.6	にぶい橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	ビット3 図示
260	"	2	坏	1/2全位	(10.6)	4.6	2.9	にぶい橙	多0.1~2.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
260	"	3	内黒坏	底	-	6.3	(1.7)	にぶい橙	有0.1~1.0 褐色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ?	
260	"	4	灰釉皿	ほぼ完形	12.2	6.8	2.6	灰白	少、緻密	良好	体：ロクロ 底：回転ナデ 施釉：刷毛	ロクロ	図示
260	"	5	灰釉段皿	ほぼ完形	12.0	6.6	3.9	灰白	少、緻密	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示 底部調整粗雑
260	"	6	灰釉碗	ほぼ完形	12.6	6.0	3.6	灰白	少、緻密	良好	体：ロクロ 底：回転ナデ 施釉：刷毛塗	ロクロ	ビット1 図示
260	"	7	灰釉碗	ほぼ完形	13.1	7.1	2.5	灰白	少、緻密	良好	体：ロクロ 底：回転ナデ 施釉：漬け掛け	ロクロ	図示
260	"	8	灰釉碗	2/5体~底	-	(8.9)	(3.8)	灰白	少 黒色粒子	良好	ロクロ 施釉：漬け掛け?	ロクロ	
260	"	9	羽釜	1/6口縁	(26.0)	-	(7.6)	橙	多0.1~2.0 角閃石、長石	良好	口：ヨコナデ 頸：ヨコナ デ 体：タテケズリ	ヨコナデ	図示 口縁折返
260	"	10	羽釜	1/3口~体	28.7	-	(14.9)	明赤褐	多0.1~2.0 石英	良好	口：ヨコナデ 器：ヨコナ デ 体：ヘラケズリ	ヨコナデ	ビット1 図示
260	512住	1	甕	1/3口~底	(20.3)	-	(22.0)	明赤褐	多0.1~2.0 褐色粒子	ほぼ良好	ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体中：ヨコハケ	図示
260	513住	1	甕	1/6口縁	(23.2)	-	(8.2)	浅黄橙	有0.1~1.0 長石、褐色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	
260	514住	1	須恵蓋	ほぼ完形	16.5	-	3.1	褐灰	有0.1~3.0 褐色粒子	やや軟質	ロクロ	ロクロ	カマド 火燗
260	"	2	須恵蓋	1/5天井	(15.5)	-	(3.0)	灰	多0.1~1.0 黒色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	カマド
260	"	3	須恵高台坏	1/2全位	(15.3)	9.7	4.3	灰	少0.1~2.0 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：回転後周脚ヘラケズリ	ロクロ	カマド図示
261	515住	1	須恵高台坏	ほぼ完形	17.2	13.6	3.6	褐灰	有0.1~2.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	図示
261	"	2	須恵坏	2/5全位	14.2	(10.2)	3.5	灰白	多0.1~2.0 黒色粒子	やや軟質	体：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	ロクロ	
261	"	3	須恵坏	2/5全位	(14.2)	(8.0)	4.4	灰	少0.1~5.0 小礫、長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	
261	"	4	須恵坏	ほぼ完形	14.3	7.7	4.7	橙	少0.1~5.0 小礫、褐色粒子	軟質	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ロクロ	図示
261	"	5	須恵長頸壺	ほぼ完形	(7.2)	6.7	21.0	灰	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口~体下：ロクロ 体中：ロ クロ沈線 底：ヘラケズリ?	ロクロ	"
261	"	6	須恵甕	1/6口~体	(31.6)	-	(12.3)	にぶい橙	多0.1~5.0 長石、褐色粒子	不良	口：ロクロ 体上：平行タタキ	ロクロ	
261	"	7	甕	1/10口~体	(34.0)	-	(9.0)	橙	多0.1~3.0 小礫、長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコケズリ	口：ヨコナデ 体上：ヨコミガキ	カマド図示
261	"	8	甕	口~底	(21.0)	6.1	(29.0)	明赤褐	有0.1~0.5 長石、石英	良好	口：ヨコハケ 頸：ケズリ 体中~体 下：タテケズリ 底：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体中~体下：ハケ	カマド図示 接合痕： 目録1
261	517住	1	須恵高台坏	1/5全位	(14.4)	10.8	4.3	灰	多0.1~2.0 長石	良好	口~体：ロクロ 底：回転ヘラ切り	ロクロ	
261	"	2	小型甕	ほぼ完形	13.7	5.6	14.4	明赤褐	多0.1~1.0 長石	ほぼ良好	口：ヨコナデ 体~底：ヘラケズリ	ヨコナデ	図示
261	"	3	甕	1/3口~体	11.1	-	(13.9)	橙	多0.1~2.0 長石、小礫	ほぼ良好	口~体上：ロクロ 体中：ヘラケズリ	口~体上：ヨコナデ 体中：ハケナデ	"
261	520住	1	須恵蓋	ほぼ完形	15.1	-	3.4	黄灰	多0.1~2.0 黒色粒子	やや軟質	ロクロケズリ	ロクロ	
261	"	2	須恵高台坏	ほぼ完形	16.7	12.6	5.9	褐灰	少0.1~1.0 長石	良好	体：ロクロ 底：手持ち回転ヘラケズリ	ロクロ	図示
261	"	3	須恵坏	完形	13.2	7.5	4.0	灰	少0.1~0.5 黒色粒子	良好	体：ロクロ 底：静止ヘラケズリ	ロクロ	図示 火燗
261	"	4	内黒坏	1/5全位	(13.8)	9.0	3.4	橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	体：ヨコナデ 底：ヘラケズリ	ミガキ?	
261	"	5	須恵甕	1/5口~体	(25.2)	-	-	にぶい黄橙	多0.1~3.0 長石	やや不良	口~頸：ロクロ 体：平行タタキ	口：ロクロ 体：オサエ後ヨコナデ	
261	"	6	小型甕	1/2全位	(12.2)	(6.6)	13.2	にぶい黄橙	多0.1~1.0 長石、角閃石	良好	口~体上：ロクロ	ロクロ	カマド

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
261	520住	7	小型甕	2/5口~底	(14.1)	8.5	(15.4)	橙	多0.1~10.0 小礫、長石	良好	口~体中:ロクロ、体下:ヨコナデ 底:ヘラケズリ	ヨコナデ	図示
261	"	8	甕	3/5全位	(22.2)	4.9	30.1	赤褐	有0.1~2.0 長石	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	
262	522住	1	坏	1/8口~体	(15.6)	-	(3.3)	にぶい橙	有0.1~5.0 小礫、長石	ほぼ良好	口:ヨコミガキ 体下~底:ヘラケズリ	体:ヨコミガキ?	
262	"	2	内黒坏	2/5全位	(13.8)	(8.0)	3.5	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
262	"	3	内黒坏	完形	14.8	8.3	5.2	明赤褐	有0.1~2.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	ヨコナデ 底:静止ヘラケズリ	クテミガキ	
262	"	4	内黒坏	1/4口~体	(17.2)	-	(5.8)	にぶい黄橙	少0.1 雲母、長石	良好	口~体上:ヨコナデ 体下:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
262	"	5	坏	1/10口縁	(12.7)	-	(5.9)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口~体:ヨコミガキ 体下:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
262	"	6	内黒鉢	ほぼ完形	(20.5)	-	10.0	にぶい黄橙	有0.1~3.0 小礫、長石	良好	口~体上:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示 接合部: 体外5
262	"	7	小型甕	完形	14.2	5.5	12.5	橙	多0.3~3.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ハクナデ	図示
262	"	8	小型甕	ほぼ完形	15.4	7.2	15.0	にぶい橙	多0.1~3.0 小礫	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ヨコナデ	二次被熱 影響顕著
262	"	9	甕	ほぼ完形	19.2	7.0	10.2	橙	有0.1~3.0 長石、黒色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ 孔端:ヨコナデ	図示
262	"	10	甕	2/5体~底	-	7.2	(26.0)	橙	有0.1~3.0 褐色粒子、長石	良好	体:ヘラケズリ 底:薬眼痕	ヨコナデ	
262	"	11	甕	1/2体~底	-	5.5	(34.5)	にぶい黄橙	多0.1~3.0 小礫、長石	ほぼ良好	体上:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラナデ	ヨコナデ	図示 外:二次被熱
262	"	12	甕	ほぼ完形	20.0	8.6	18.0	にぶい黄橙	多0.1~3.0 褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ 底:ヘラナデ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	外:二次被熱で荒れる
262	"	13	甕	1/5口~体	16.3	-	(16.4)	にぶい褐	多0.1~5.0 小礫、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	口:ヨコナデ 体:ヨコナデ	
262	523住	1	須恵坏蓋	ほぼ完形	18.8	-	4.2	灰	多0.1~2.0 小礫、長石	良好	天井上:ロクロヘラケズリ 天井下:ロクロ	天井:ロクロ	図示
262	"	2	須恵坏	ほぼ完形	14.5	7.0	4.3	灰褐	多0.1~3.0 長石	軟質	ロクロ 底:回転ヘラ切り	ロクロ	"
262	524住	1	須恵坏	ほぼ完形	13.8	7.0	4.0	灰	多0.1~2.0 長石	良好	ロクロ 底:静止ヘラ調整	ロクロ	
262	"	2	須恵坏	ほぼ完形	14.3	7.8	4.0	灰	有0.1~2.0 長石、黒色粒子	良好	ロクロ 底:静止ヘラケズリ	ロクロ	図示
262	"	3	須恵高台坏	ほぼ完形	12.4	8.1	4.2	暗青灰	多0.1~3.0 長石、黒色粒子	良好	ロクロ 底:回転ヘラ調整	ロクロ	"
262	"	4	須恵高台坏	1/2全位	(13.0)	(9.2)	(3.6)	明黄褐	有0.1~0.5 10.0 小礫 長石、黒色粒子	酸化	ロクロ 底:回転ヘラケズリ	ロクロ	須恵模倣 土師器?
262	525住	1	須恵蓋	ほぼ完形	14.9	-	2.2	赤褐	有0.1~5.0 小礫、長石	やや不良 (酸化気味)	天上:ロクロケズリ 天下:ヨコナデ	ヨコナデ	火瘻
262	"	2	須恵蓋	1/2全位	(14.0)	-	3.8	灰	有0.1~1.0 長石	やや軟質	つまみ:ロクロ 天上:回転 ヘラケズリ 天下:ロクロ	ロクロ	
262	"	3	須恵蓋	1/2全位	(19.3)	-	4.8	にぶい赤褐	少	ほぼ良好 (やや酸化気味)	天上:ケズリ 天下:ロクロ	ロクロ	
262	"	4	須恵坏	1/4全位	(14.4)	(7.0)	4.0	灰オリーブ	多0.1~1.0 長石	やや軟質	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	火瘻
262	"	5	甕	1/3口~体	14.6	-	(9.0)	にぶい赤褐	多0.1 長石	やや不良	口:ヨコナデ 体:ヨコハケ	口:ヨコナデ 体:ヘラナデ	
262	"	6	甕	1/4口~体	19.8	-	(21.2)	にぶい橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ナナメケズリ	口:ヨコナデ 体:ヨコハケ	
263	532住	1	内黒坏	3/4全位	12.4	4.6	4.5	橙	有0.1~2.0,5.0 小礫、長石、褐色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	クテミガキ	
263	"	2	内黒坏	ほぼ完形	12.2	4.3	4.5	橙	多0.1~10.0 小礫、長石	良好	体:ロクロ 底:糸切	ヨコミガキ?	
263	"	3	灰釉埴	2/5全位	(13.6)	6.4	4.6	釉:灰オリーブ 地:灰	少、緻密	良好	施釉:漬け掛け		
263	"	4	灰釉埴	2/5全位	(13.6)	(6.6)	4.6	灰オリーブ	有0.1~2.0 長石	良好	施釉:刷毛塗		
263	"	5	灰釉埴	ほぼ完形	14.1	6.8	4.2	灰白	少、緻密	良好	施釉:刷毛塗 底:回転ヘラ調整		
263	"	6	灰釉皿	2/5全位	(13.0)	7.6	2.2	釉:オリーブ灰 地:灰白	少0.1~0.2 黒色粒子	良好	施釉:刷毛塗 底:回転ヘラ調整		輪花皿
263	535住	1	内黒坏	ほぼ完形	11.1	-	3.9	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石	良好	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	ヨコミガキ	カマド左 図示
263	"	2	内黒高坏	1/5脚	-	-	5.6	にぶい橙	多0.1~3.0 長石	良好	脚:ケズリ後ミガキ	脚:ミガキ 脚:ヘラケズリ	
263	"	3	鉢	完形	10.4	-	10.3	橙	多0.1~3.0 小礫、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヨコヘラケズリ	口:ヨコナデ 体上:ヨコ ハケ 体下:ヨコナデ	図示
263	"	4	内黒鉢	完形	11.9	-	8.3	橙	多0.1~3.0 小礫、長石	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ヨコナデ後ミガキ	"
263	536住	1	内黒坏	1/3全位	(13.2)	8.8	3.5	にぶい橙	多0.1~3.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ヨコミガキ	"
263	"	2	内黒坏	ほぼ完形	14.0	-	4.9	にぶい黄橙	多0.1~1.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
263	"	3	鉢	ほぼ完形	13.3	-	6.9	にぶい橙	多0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	口:ヨコナデ 体:ヘラケズリ後ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ヨコハケ	ピット1 図示
263	"	4	内黒鉢	1/2全位	20.6	-	11.6	にぶい橙	多0.1~2.0 長石、褐色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ヨコケズリ	口:ヨコミガキ 体:ヨコ ミガキ後クテミガキ	"
263	"	5	甕	3/5全位	22.6	7.2	26.0	にぶい赤褐	多0.1~2.0 長石	ほぼ良好	口:ヨコハケ 体:クテケ ズリ 底:ヘラ調整	口:ヨコハケ 体:ヨコハケナデ	図示
263	537住	1	内黒坏	口縁	(13.6)	7.0	3.3	にぶい黄橙	有0.1~3.0 小礫、長石	良好	口:ヨコナデミガキ 体上: ヨコナデ 体下:ヘラケズリ	ヨコミガキ	床上
263	538住	1	須恵坏蓋	2/5口~体	(19.1)	-	(2.8)	灰	有0.1~3.0 長石、褐色粒子	良好	天井上:回転ヘラケズリ 天井下:ロクロナデ	ロクロ	内面:自然粘
263	"	2	須恵高台坏	2/5全位	(14.8)	9.1	6.7	灰	多0.1~2.0 長石、黒色粒子	良好	ロクロ 底:糸切	ロクロ	
263	601住	1	内黒坏	ほぼ完形	13.6	-	4.4	橙	少1.0 白色	やや軟質	ナデ 底:ヘラケズリ(手 持ち)	ナデ	図示
263	"	2	内黒坏	完形	15.0	-	4.0	橙	有1.0~2.0	良好	口:ヨコナデ 体~底:ケズリ	ヨコミガキ	"

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
263	601住	3	内黒環	1/2全位	13.8	6.9	4.3	にぶい黄橙	多1.0	やや不良	口:ヨコナデ 体:ケズリ後ナデ 底:静止ヘラケズリ	口:ナデ 体:ヨコミガキ	
263	"	4	内黒環	ほぼ全形	14.6	-	4.2	橙	有1.0~2.0	やや良好	口:ナデ 体:ケズリ 底:手持回転ヘラケズリ	ヨコミガキ	図示
263	"	5	内黒環	4/5全位	(13.2)	-	4.6	にぶい黄橙	少1.0	やや不良	口:ヨコナデ 体:ケズリ 底:手持回転ヘラケズリ	ヨコミガキ	
263	"	6	内黒環	2/5全位	(14.0)	(8.2)	4.3	にぶい橙	有1.0 赤色粒子	良好	口:ナデ 体:ヨコミガキ 底:ヘラケズリ	ヨコミガキ	
263	"	7	内黒環	1/5口~底	(13.4)	-	(3.5)	にぶい黄橙	有1.0~2.0 白色粒子	良好	体:ヨコナデ 底:ケズリ	ヨコミガキ	
263	"	8	小型甕	ほぼ全形	12.4	6.9	13.6	橙	多0.5~2.0 赤色塵、白色塵	やや軟質	口:ヨコナデ 体:ナデケズリ 底:ヘラ調整	口:ヨコナデ 体:ヨコナメハケ	図示
263	"	9	甕	4/5全位	27.2	7.0	28.8	橙	多2.0	良好(軟質)	口:ヨコナデ 体上:ナメミガキ	口~体上:ヘラヨコミガキ 体下:ナデ?	接合痕: 体下1
264	"	10	甕	2/5口~体	(20.6)	-	(8.5)	にぶい橙	有0.5黒 3.0火岩石	良好	口:ヨコナデ+ナデ 体:ヨコミガキ	口:ヨコナデ 体:ヨコミガキ	
264	"	11	甕	2/5口~体	(18.0)	-	(23.3)	橙	多2.0~4.0 白色粒子	不良(軟質)	口:ナデ 体:ヘラケズリ	口:ナデ 体:ヘラケズリ	接合痕: 体上1
264	602住	1	環	1/2全位	(12.8)	-	4.8	橙	密、少0.3 白色粒子、赤色粒子	良好	ヨコハケナデ 底:ヘラケズリ	体上:ハケナデ 底:放射ミガキ	
264	"	2	環	1/2全位	(13.3)	-	4.1	黒褐	有1.0 石英	良好	ナデ、ミガキ	ヨコミガキ	カマド図示
264	"	3	環	3/5全位	15.2	-	4.6	明褐	粗、多2.0 赤色粒子	やや不良(黒斑)	口唇:ナデ ロー体:ミガキ 底:ケズリ	口~体:ミガキ 底:ミガキ	
264	"	4	内黒環	4/5口~体	13.0	-	(4.5)	にぶい橙	粗、多0.5~1.0 白色粒子、赤色粒子	ほぼ良好(やや環元)	口:ヨコナデ 体:ケズリ+ナデ	口:ナデ 体:ヨコミガキ	
264	"	5	小型甕	2/3全位	14.5	6.6	15.4	明赤褐	有0.3 白色粒子	ほぼ良好	口:ヨコハケナデ 体:ナデ	口:ヨコハケナデ 体:ナデ	
264	"	6	壺	2/5口~体	(21.9)	-	(22.2)	橙	多1.0~2.0 白色粒子	ほぼ良好(外:黒斑)	口:ヨコハケナデ 体:ミガキ	口:ヨコハケナデ 体上:ミガキ 体下:不明	図示 接合痕: 体下1
264	"	7	壺	2/5底	-	7.4	(13.1)	橙	粗0.2~1.5 石英、白色粒子	良好	タテミガキ	ヨコナデ	図示 接合痕: 体下2
264	"	8	甕	2/5口~体	(20.2)	-	(16.3)	にぶい褐	少	良好	口:ヨコハケナデ 体:タテケズリ	口:ヨコハケナデ 体上:ヨコハケ 体中:ヨコナメハケ	
264	"	9	甕	3/4全位	(18.8)	7.3	31.2	明赤褐	有0.2 白色粒子	良好	口:ヨコナデ 体上:ケズリ 体中~体下:ケズリ後ナデ 底:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデミガキ?	図示
264	"	10	甕	3/4体~底	-	5.6	(21.2)	橙	有0.5 白色粒子	良好	頸:ヨコハケナデ 体:ナデ 底:葉脈痕	ナデ	カマド
264	"	11	甕	1/3口~体	(17.2)	-	(16.1)	明赤褐	有0.2 雲母、白色粒子	ほぼ良好	口:ヨコハケ 体上:ミガキ 体中~体下:ケズリ?	口~体上:ヘラミガキ 体中~体下:不明ナデ	
265	603住	1	須恵環	1/3体~底	-	(7.2)	(3.2)	褐灰	密、少0.3以下	ほぼ良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	火樺
265	"	2	須恵環	1/3全位	(13.6)	(8.2)	4.3	褐灰	密0.2 少、白色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	火樺
265	"	3	環	1/5口~体	(13.8)	(7.2)	(4.3)	橙	密、少	良好	体:ロクロ 底:糸切	ロクロ	
265	"	4	甕	1/10口縁	(22.5)	-	(5.4)	にぶい褐	多0.2~0.5 石英	良好	口:ヨコナデ 体上:ヨコケズリ	ヨコケズリ	カマド
265	"	5	甕	1/5口~体	(18.8)	-	(15.5)	にぶい黄橙	多0.5 黒色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ	カマド図示
265	"	6	須恵大甕	1/2口~底	-	(17.8)	-	黒褐	密、少	良好	口:ヨコナデ後上部磨滅状文 下部磨滅線施文 体:平行タタキ 底:ヘラケズリ後ナデ	口:ロクロ 体:工具オサエ 底:ヘラケズリ	カマド 外面上部 自然縮
265	"	7	甕	2/5口~体	(21.0)	-	(19.5)	にぶい赤褐	多0.2~0.5 雲母	ほぼ良好	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ナデ 体:ハケ	カマド左 図示
265	604住	1	内黒環	全形	11.7	-	3.5	橙	有0.5~1.0 白色粒子	ほぼ良好	体:ヨコナデ 底:手持ちヘラケズリ	体:ミガキ	図示
265	"	2	内黒環	1/10全位	(15.6)	(7.6)	5.5	にぶい黄橙	有0.5~1.0 白色粒子	やや不良	体:ヨコナデ 底:静止ヘラケズリ	体:ミガキ	"
265	605住	1	須恵環蓋	ほぼ全形	18.1	-	3.8	灰赤	有1.0 白色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	
265	"	2	須恵環	ほぼ全形	13.4	7.2	4.1	灰黄褐	密、少0.5 白色粒子	良好	体:ロクロ 底:静止ヘラケズリ	ロクロ	図示
265	"	3	須恵環	2/5全位	(13.4)	(8.0)	4.1	褐灰	粗、有0.5 黒色粒子、石英	ほぼ良好	体:ロクロ 底:回転ヘラ切	ロクロ	
265	"	4	内黒環	1/5体~底	-	5.6	-	暗褐	有0.1~0.5 長石	不良	体上:ナデ 体下:ケズリ 底:回転ヘラケズリ	ミガキ	図示
265	606住	1	須恵環	ほぼ全形	8.8	-	2.7	暗紫灰	有0.2~0.5 粗、白色粒子	ほぼ良好	体:ロクロ 底:回転ヘラケズリ	ロクロ	"
265	"	2	須恵環	1/5体~底	-	4.8	(2.3)	灰白	少0.1 雲母	不良軟質	体:ロクロ 底:糸切	体:ロクロ	
265	"	3	須恵環	1/2底	-	6.4	(2.1)	灰オリーブ	密、少0.2、白色粒子	良好	体:ロクロ 底:手持ちヘラ調整	ロクロ	図示 火樺
265	"	4	須恵環	3/5全位	(13.2)	-	5.0	灰	有0.5~1.0 石英	やや不良 酸化気味	体:ロクロ 底:静止ヘラケズリ	ロクロ	
265	"	5	須恵高台環	1/10全位	(14.2)	(10.0)	2.7	灰	密、少	良好	ロクロ	ロクロ	
265	"	6	内黒環	1/10全位	(14.0)	(6.0)	3.5	明褐	密、有0.2 黒色粒子	良好	体:ロクロ 底:糸切	ミガキ	
265	"	7	須恵甕	1/8口~体	(19.0)	-	(5.4)	青灰	有0.1 白色粒子	良好	口:ロクロ 体上:平行タタキ	ロクロ	
265	"	8	鉢	1/5体	-	-	(7.0)	褐	粗、多1.0 石英	不良軟質	ケズリ	ナデ	
265	"	9	小型甕	1/5体~底	-	(11.0)	(7.0)	橙	粗0.2 石英	良好	ロクロ 底:糸切	タテハケ 体下:ロクロハケ 底:ケズリ	
265	607住	1	須恵環	2/5全位	(12.7)	(7.2)	3.7	灰	粗、有0.5~2.0 黒色塵	良好	ロクロ 底:糸切	ロクロ	カマド 火樺
265	"	2	須恵環	2/5全位	(12.5)	(6.8)	3.8	灰	有0.5 黒色塵	良好	ロクロ 底:糸切	ロクロ	火樺
265	"	3	須恵環	3/5全位	(13.9)	(7.6)	3.3	灰	粗、有0.5~2.0 黒色塵	良好	ロクロ 底:糸切	ロクロ	火樺
265	"	4	須恵高台環	1/5底	-	(10.4)	-	灰	粗、有0.2~1.0 黒色塵	良好	ロクロ 底:回転ヘラ削り後付高台	ロクロ	
265	"	5	甕	1/5口~体	(18.8)	-	(10.0)	橙	粗、多0.2~0.5 石英、長石、黒色粒子	ほぼ良好	口:ヨコナデ~指オサエ 体:ヨコケズリ	口:ヨコナデ 体:ナデ?	カマド

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
266	305建	1	須恵環	口~体	(12.7)	-	(3.2)	灰	極少	良好	体：ロクロ 体下：ケズリ	体：ロクロ	
266	308建	1	坏	ほぼ完形	(14.0)	-	5.5	にぶい黄橙	有0.1~1.5 長石、角礫	良好	ケズリ後ヨコミガキ	ヨコ、ヨコナメミガキ	
266	〃	2	高坏	1/2脚	-	8.7	(7.3)	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石、赤色礫	良好	脚：タテミガキ 裾：ヨコミガキ	脚：ヨコケズリ 裾：ヨコナデ	
266	401建	1	須恵環	3/4全位	13.9	7.9	4.1	灰	有0.1~0.2 長石、火山岩粒	軟質	ロクロ 底：ヘラ切	ロクロ	
266	506建	1	坏	1/8口~体	(13.4)	-	(3.6)	にぶい橙	少0.1~0.5 長石	良好	体：ヨコナデ 体下：ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ	
266	3002坑	1	坏	1/3全位	(15.2)	-	(4.2)	外：にぶい黄橙 内：褐灰	多0.1~3.0 長石、赤色礫 小礫	良好	ケズリ後ナデ	体：ヨコミガキ 体下~底：タテミガキ	図示
266	3056坑	1	坏	2/3全位	(12.3)	-	5.1	外：にぶい黄橙 内：灰黄	有0.1~1.0 長石	良好	口~体：ヨコミガキ 底：タテミガキ	口唇：ヨコミガキ 体~底：タテミガキ	〃
266	〃	2	壺	1/5口縁	(15.5)	-	(5.85)	にぶい黄橙	多0.1~1.0 長石、赤色礫 角閃石	良好	口：ヨコミガキ 体上：ヨコナメミガキ	口：ヨコミガキ 体上：ヨコミガキ	〃
266	3079坑	1	甗	7/10全位	22.8	9.4	21.8	にぶい黄橙	少 空隙多い	良好	口~頸：ヨコナデ 体：ヘラナデ	口：ミガキ後ヨコナデ 体：ヘラナデ	図示 接合痕： 体1
266	3100坑	1	甗	4/5口~体	19.75	-	(22.0)	橙	多2.0~4.0 小礫	良好	口~頸：ヨコナデ 頸~体下：ヘラケズリ	口：ヨコナデ 体：ヘラナデ	図示 接合痕： 口1 体2 口縁部取付痕
266	〃	2	甗	完形	22.0	8.4	33.2	赤	多0.1~2.0 長石、石英 角閃石、石英	良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコ ケズリ 底：葉脈痕 体中 ハケ 体下：ヨコナデ	口：ヨコナデ 体上~体中： ヨコハケ 体下接合部：ヨコ ハケ 体下：ヨコナデ	図示 接合痕： 体中2、体下1
266	3150坑	1	須恵環	1/3全位	(13.9)	7.6	(4.4)	灰	多0.1~2.0 長石、石英	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示
266	〃	2	須恵環	1/3口~体	(14.8)	-	(5.7)	外：灰 内：灰	多0.1~2.0 長石	良好	ロクロ	ロクロ	〃
266	〃	3	須恵高台環	1/4全位	(14.1)	(9.6)	6.65	外：灰 内：灰黄	多0.1~1.0 長石、石英	ほぼ良好 やや酸化気味	ロクロ	ロクロ	〃
266	3187坑	1	須恵環	ほぼ完形	14.7	8.1	5.2	灰白	多0.1~2.0 長石、火山岩 粒、石英	やや軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示 火線
266	3190坑	1	須恵高台環	1/3体~底	-	(10.2)	(2.5)	オリーブ灰	有0.1~1.0 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラ切	ロクロ	図示 付高台
266	3205坑	1	須恵高環	1/2脚	-	12.1	(8.7)	灰	有0.1~1.0 長石	良好	脚：ロクロ後洗線(3条) 後スカシ(切り取り)	ロクロ	図示 三角透し3
266	〃	2	鉢	2/3全位	11.8	7.0	11.7	にぶい橙	粗、多0.2~2.0 赤色礫、長石、 雲母、小礫	ほぼ良好	口~体下：ヘラケズリ後ナ デ 体下端：ヘラケズリオ サエ 底：ヘラケズリナデ	ヨコナデ	図示
266	〃	3	甗	1/3口~体	20.2	-	(12.6)	赤褐	多0.1~1.2 長石、石英 角閃石、雲母	良好	口：ヨコナデ 体上：ヨコケズリ 体中：タテナメケズリ	ヨコナデ	〃
266	3361坑	1	坏	1/3全位	(13.1)	-	4.7	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石、石英	良好	口~体下：ヨコミガキ 体下~底：タテミガキ	ヨコナメミガキ	〃
266	3420坑	1	高坏	1/5脚	-	(10.0)	(5.65)	にぶい橙	少0.1~1.0 長石、角礫	良好	坏：タテミガキ 脚上：タ テミガキ 脚下：ヨコナデ	坏：タテミガキ 脚上：オサエ 脚中：ヨコハケ 脚下：ヨコナデ	〃
266	〃	2	高坏	1/2脚	-	13.1	(6.5)	にぶい黄橙	多0.1~1.2 長石、雲母、石英	良好	ヨコナデ	脚上~脚中：ヨコケズリ 脚下~裾：ヨコナデ	〃
266	〃	3	高坏	1/2脚	-	(12.1)	(6.9)	浅黄橙	有0.1~0.5 長石、赤色礫	良好	タテミガキ	脚上~脚中：タテケズリ 脚下~裾：ヨコナデ	〃
266	3423坑	1	小型甗	1/5口~体	12.2	-	(4.6)	にぶい橙	有0.1~3.0 長石、小礫	良好	口：ヨコナデ 棒状工具痕 あり 体上：ヨコケズリ	口：タテミガキ 体上：ヨコナデ	〃
267	3374坑	1	須恵環蓋	1/6口~体	(15.0)	-	(4.5)	灰	多0.1~0.5 長石	良好	ロクロ	ロクロ	〃
267	〃	2	内黒環	1/2全位	(16.2)	(6.6)	4.8	にぶい黄褐	多0.1~0.5 長石	良好	口~体：ロクロ 体下：ケズリ 底：手持回転ヘラケズリ	口：ヨコミガキ 体：タテミガキ	〃
267	456坑	1	坏	3/5口~底	(12.0)	-	4.5	にぶい赤褐	有0.1~1.0 長石、石英	良好	ヨコナデ 底：ケズリ後ナデ	ヨコミガキ	
267	〃	2	内黒環	3/4全位	13.7	-	3.8	橙	多0.1~1.0 長石、赤色礫	ほぼ良好	ヨコナデ	ヨコミガキ	図示
267	〃	3	内黒環	4/5口~体	(14.0)	-	(4.6)	にぶい橙	有0.2~1.0 赤色礫	良好	口~体上：ヨコミガキ 体下：ケズリ	ミガキ	
267	〃	4	内黒環	1/6口~体	(14.1)	-	(4.0)	灰黄褐	少0.2 長石	良好	ヨコナデ 底：ヘラケズリ	ヨコミガキ	
267	〃	5	内黒高環	2/3坏	(17.6)	-	(7.7)	橙	多0.2~3.0 長石、小礫	良好	ヨコナデ	ヨコミガキ	図示
267	〃	6	甗	2/5口~体	(16.0)	-	(16.3)	明褐	多0.2~0.5 長石、石英	良好	口：ヨコナデ 体：ケズリ	口：ヨコナデ 体：ケズリ、ナデ	
267	〃	7	内黒甗	1/3口~体	(20.3)	-	(8.6)	にぶい橙	有0.1~1.0 長石、赤色礫	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	図示
267	457坑	1	須恵高台環	1/2体~底	-	9.6	(4.35)	灰白	多0.1~1.0 長石	軟質	ロクロ 底：手持回転ヘラケズリ	ロクロ	
267	〃	2	須恵高環	1/2脚	-	(9.5)	(6.6)	地~灰白 自然釉~オリーブ灰	有0.1~2.0 長石	良好	ロクロ 自然釉	ロクロ 坏：自然釉	
267	〃	3	坏	ほぼ完形	13.5	-	3.9	橙	有0.1~0.5 長石、小礫	良好	ヨコハケ 剥落有	ヨコミガキ 剥落多	図示
267	〃	4	高坏	2/5脚	-	(11.6)	(4.2)	橙	有0.1~3.0 長石、褐色礫	良好	脚：タテケズリ 脚下端：ヨコナデ	ヨコナデ	
267	〃	5	内黒環	2/5全位	(13.1)	-	4.5	にぶい橙	多0.1~3.0 小礫、長石	良好	口：ヨコナデ 体~底：手持ヘラケズリ	ヨコミガキ	
267	〃	6	内黒高環?	2/5口~体	(9.9)	-	(1.9)	橙	有0.1~2.0 長石	良好	ケズリ後ナデ	ヨコミガキ	
267	〃	7	須恵小型甗	4/5全位	(10.2)	(6.0)	9.5	灰	有0.1~0.2 長石	良好	ロクロ 底：手持ヘラケズリ	ロクロ	
267	〃	8	甗	1/6口縁	(24.5)	-	(7.5)	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石	良好	口：ヨコナデ 体：ヨコケズリ	ヨコナデ	図示
267	4503坑	1	須恵環蓋	1/5体	(17.2)	-	(2.15)	灰	多0.1~0.5 長石	良好	天井上：ロクロケズリ 天井下：ロクロ	ロクロ	
267	〃	2	内黒環	1/5口~体	(14.0)	-	(3.2)	にぶい橙	有0.1~1.0 長石、角閃石	良好	ロクロ	口：ヨコミガキ 体：暗文風ミガキ痕	
267	〃	3	内黒環	1/2全位	(16.0)	(6.4)	4.8	にぶい橙	有0.1~2.0 長石、小礫	良好	体：ロクロ 底：糸切	口：ヨコナデミガキ 体：放射ミガキ	図示
267	〃	4	内黒環	ほぼ完形	13.1	6.3	4.25	橙	有0.1~2.0 長石、石英、 角閃石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ナデ後暗文風ミガキ	〃
267	〃	5	内黒塊	1/2全位	(16.3)	6.85	5.9	にぶい橙	多0.1~1.5 長石、葉脈、角閃 石、赤色礫	良好	体：ロクロ 体下：ヨコナ デ 底：糸切	ヨコミガキ ヘラ記号 「十」?	図示 付高台

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
267	4503坑	6	内黒埴	完形	16.0	6.75	5.8	にぶい橙	有0.1~2.0長石、石英、角閃石、赤色磁	良好	体：ロクロ 底：糸切	口：ヨコミガキ後タテミガキ（暗文風）	図示 須恵庄痕
267	4507坑	1	須恵坏蓋	1/5ツマミ~天井	-	-	(2.6)	灰	多0.1~1.0長石、火成岩	良好	ロクロ	ロクロ	図示
267	"	2	須恵高坏	1/10口~体	(16.8)	-	(3.1)	灰	少0.1~0.5長石	良好	ロクロ	ロクロ	"
267	"	3	須恵高坏	1/3脚	-	-	(7.1)	灰	多0.1~0.3長石	良好	ロクロ	脚：ケズリ 脚下一帯：ナデ	"
267	"	4	須恵小型甕	1/5口~頸	(10.0)	-	(3.3)		多0.1~0.5長石	良好	ロクロ	ロクロ 自然袖付着	"
267	4538坑	1	内黒坏	1/6全位	(16.4)	4.0	4.4	にぶい黄橙	多0.1~1.0長石、石英、小礫	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ミガキ	"
267	4589坑	1	須恵甕	1/5口~体	(19.0)	-	(6.0)	灰褐	有0.1~長石	やや酸化気味	ロクロ後平行タテキ後ロクロ	ロクロ	"
267	4624坑	1	坏	1/4全位	(14.5)	-	4.4	にぶい褐	多0.1~2.0長石、赤色磁	良好	口~体中：ナデ 体下~底：周縁ケズリ後タテケズリ	口~体中：ヨコナデ 体中~底：暗文風タテミガキ	図示
267	"	2	高坏	1/3口~体	(14.4)	-	(4.7)	にぶい橙	有0.1~2.0長石、赤色磁	良好	ヨコミガキ	ヨコミガキ	"
268	587坑	1	灰釉埴	1/4底	-	-	(2.8)	にぶい黄橙	少、緻密	良好	体：ロクロ 底：回転ナデ	ロクロ	図示 施釉：不明
268	610坑	1	甕	1/2全位	20.2	8.4	34.2	褐	有2雲母、白色磁	やや不良 (焼ムラ)	口：ヨコナデ 体：ナデ、ケズリ 底：薬脈痕	口：ヨコナデ 体：ヨコナデケズリ	図示
268	"	2	甕	1/10口辺	(23.1)	-	(11.0)	橙	粗、多0.5~1.0角礫	良好	口：ヨコナデ 体：タテケズリ	口：ヨコナデ 体：ハケ状ナデ	"
268	"	3	甕	3/5口~体	(21.0)	-	(25.0)	暗褐	密0.2黒色磁	やや不良	口：ヨコナデ 体：ヨコナデ（不明瞭）	口：ヨコナデ 体上~中：ハケヨコナデ 体下：ナデ	図示 薬脈痕
268	"	4	甕	1/2口~体	17.0	-	(25.0)	にぶい黄橙	粗、多0.1~1.5白色磁	ほぼ良好 (黒斑有)	口：ヨコナデ 体：タテハケナデ	口：ヨコナデ 体：ヨコハケナデ	図示
268	"	5	甕	1/10底	-	7.6	(7.2)	橙	粗	ほぼ良好 (黒斑有)	体下：ミガキ 底：ヘラケズリ	ヘラナデ	"
268	621坑	1	小皿	ほぼ完形	8.2	3.6	1.5	橙	密、少	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	
268	"	2	小皿	ほぼ完形	9.4	5.1	1.9	にぶい黄橙	有0.1~0.2白色磁	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	上図示
268	"	3	小皿	完形	9.0	3.9	2.05	にぶい黄橙	粗0.2白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示
268	"	4	小皿	完形	9.5	5.0	2.3	にぶい橙	粗0.5~1.5赤色磁	やや不良	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	5	小皿	ほぼ完形	9.7	4.8	2.2	にぶい橙	密0.2~1.0雲母	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	6	小皿	完形	10.0	4.9	2.1	橙	粗0.2~0.8赤色磁、3.0礫	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	7	小皿	完形	9.5	5.2	1.6	橙	有0.5白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	8	小皿	ほぼ完形	9.3	4.5	2.0	橙	粗0.2~1.0白色磁、赤色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	9	小皿	完形	9.8	4.7	1.7	にぶい黄橙	有0.2~1.0白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	10	小皿	ほぼ完形	9.05	4.8	2.0	橙	粗0.3~0.5赤色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	11	小皿	完形	10.05	5.3	1.95	橙	有0.3~1.0赤色磁	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	12	小皿	完形	9.7	4.8	1.85	橙	有0.2白色磁、2.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	13	小皿	完形	9.8	4.9	2.0	橙	粗0.2~0.8白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	14	小皿	完形	9.0	4.8	1.95	黄橙	粗0.5赤色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	15	小皿	完形	10.4	5.0	2.1	黄橙	粗0.2~0.5石英、10.0礫	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示
268	"	16	小皿	完形	10.7	4.4	2.1	橙	有1.5礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	17	小皿	ほぼ完形	(12.0)	(6.8)	(2.4)	橙	粗0.2~1.0白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	18	小皿	完形	9.2	3.8	1.4	にぶい黄橙	密0.2黒色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
268	"	19	小皿	完形	9.1	5.0	2.1	橙	粗0.2~0.5石英、白色磁、8.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	20	小皿	完形	10.0	6.5	2.4	浅黄橙	粗0.2~0.5石英、白色磁、8.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	21	小皿	完形	10.4	6.4	2.4	浅黄橙	粗0.2~0.5石英、8.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	粗悪品
268	"	22	小皿	完形	10.5	5.7	1.8	浅黄橙	粗、有0.2~2.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	23	小皿	完形	9.9	6.2	2.2	黄橙	粗、有0.3~2.0白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	24	小皿	完形	8.7	4.5	1.7	浅黄橙	粗0.2~0.5白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	25	小皿	完形	9.9	5.5	2.15	浅黄橙	粗、多0.5~2.0石英	ほぼ良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	26	小皿	完形	9.8	6.8	2.0	浅黄橙	粗、有0.2白色磁、1.0礫	良好	ロクロ 底：糸切後空いた穴を粘土で埋める	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	27	小皿	完形	9.6	4.7	2.05	橙	粗1.0小礫	良好 (酸化気味)	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	28	小皿	完形	10.2	6.0	2.0	浅黄橙	粗0.2~1.0白色磁	ほぼ良好 (黒斑有)	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	29	小皿	完形	9.1	6.3	2.2	明黄褐	粗0.2白色磁、0.5~5.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	30	小皿	完形	10.0	5.3	2.4	黄橙	粗、有0.3~2.0白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	31	小皿	完形	9.5	6.0	1.45	にぶい黄橙	粗0.2~3.0礫	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	32	小皿	完形	10.0	5.9	2.15	にぶい黄橙	粗1.0白色磁	良好	ロクロ 底：糸切	ロクロ	下図示 粗悪品

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
268	621坑	33	小皿	完形	9.4	5.7	2.15	浅黄橙	粗0.2-0.5, 白色粒子2.0燻	ほぼ良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	34	小皿	完形	10.4	5.0	2.1	黄橙	粗0.2~0.8 赤色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	35	小皿	完形	9.6	6.2	2.5	にぶい黄橙	粗0.2-0.5, 石灰 10.0燻	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ下図示	下図示 粗悪品
268	"	36	小皿?	完形	12.4	7.4	2.9	にぶい黄橙	粗0.2~0.5 白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	上図示 粗悪品
268	"	37	小皿	完形	10.2	6.0	1.95	浅黄橙	粗0.2~1.0 白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	38	小皿	完形	10.8	7.1	1.9	にぶい黄橙	粗0.2~1.0 白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	39	小皿	完形	8.7	5.1	2.2	にぶい黄橙	有0.2~1.0 白色粒子	不良 (外面全黒斑)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	粗悪品
268	"	40	小皿	完形	9.3	5.3	1.8	明黄褐	粗0.2~3.0 白色粒子、燻	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	41	小皿	完形	9.1	5.5	2.0	浅黄橙	粗0.2~2.0 燻	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	42	小皿	完形	10.0	6.2	3.0	浅黄橙	粗有0.2~1.5 白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	下図示 粗悪品
268	"	43	高台小皿	完形	10.2	4.8	4.3	明黄褐	密0.2 石英	良好 (黒斑有)	ロクロ	ロクロ	上図示
268	"	44	高台小皿	ほぼ完形	9.8	5.1	3.7	にぶい黄橙	粗0.3~1.0 黒色粒子	ほぼ良好 (黒斑有)	ロクロ	ロクロ	"
268	"	45	高台小皿	完形	9.6	5.3	3.4	明赤褐	密0.2~1.0 長石、白色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	46	高台小皿	完形	10.0	5.3	3.2	明赤褐	密0.2~1.0 長石、白色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	47	高台小皿	ほぼ完形	9.8	5.3	3.2	明赤褐	密少0.2~0.5 石英	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	48	高台小皿	完形	10.0	5.1	2.6	にぶい黄橙	密少0.2~0.5 赤色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	49	高台小皿	完形	10.5	5.7	2.9	明黄褐	有0.1~0.2 白色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	50	高台小皿	4/5 高台のみ欠	9.3	-	(1.9)	橙	少0.2 白色粒子	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
268	"	51	高台小皿	2/3全位	(10.5)	5.4	2.8	にぶい黄橙	少0.2 白色粒子	良好 (黒斑有)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
268	"	52	小壜	完形	9.8	5.1	3.4	黄橙	粗0.2~1.0 雲母、石英、 赤色粒子	良好	ロクロ 底: 手持回転ヘラ ケズリ	ロクロ	上図示
268	"	53	小壜	ほぼ完形	10.7	4.8	3.0	橙	有0.2~0.5 石英、赤色粒子	ほぼ良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
268	"	54	灰釉段皿	4/5全位	(10.8)	(6.0)	2.1	灰白	密	良好	ロクロ 底: ヘラ調整 施釉: 漬け掛け?	ロクロ	底部内面 に未痕
268	"	55	坏	ほぼ完形	14.8	5.8	4.1	にぶい橙	粗0.3~1.0 雲母、赤色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	上図示
268	"	56	坏	完形	14.6	6.2	4.0	浅黄橙	粗5.0 白色燻	良好 (黒斑有)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
268	"	57	坏	2/5全位	(15.8)	(6.3)	4.7	にぶい黄橙	粗0.2~1.0 黒色粒子、赤色粒子	良好 (環元気味)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	58	坏	完形	14.6	5.6	3.8	にぶい橙	粗0.2~1.0 白色粒子、赤色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	上図示
269	"	59	坏	ほぼ完形	16.4	6.3	4.3	にぶい橙	粗0.2 長石	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	60	坏	1/5口~体	(13.8)	(5.2)	(3.7)	にぶい黄橙	粗0.2~0.3 黒色粒子、白色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	"
269	"	61	坏	ほぼ完形	14.7	5.8	3.8	にぶい赤褐	粗0.5~1.0 赤色粒子、白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	上図示
269	"	62	坏	完形	14.9	5.2	3.9	にぶい黄橙	有0.3 赤色粒子	やや不良	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	63	坏	完形	15.5	6.5	4.3	にぶい橙	粗2.0 白色燻	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	64	坏	完形	15.0	7.0	4.0	橙	粗1.0 黒色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	上図示
269	"	65	内黒坏	ほぼ完形	15.2	5.8	4.7	明灰黄	粗0.3 白色粒子、赤色粒子 2.0燻	やや不良	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	66	高台坏	完形	15.0	6.0	4.6	にぶい黄橙	粗0.5~1.0 赤色粒子、黒色粒子	良好 (軟質)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	67	高台坏	完形	16.7	7.7	5.8	浅黄橙	有0.3赤色粒子 10.0燻	良好	ロクロ	ロクロ	"
269	"	68	高台皿	完形	13.7	8.4	4.5	浅黄橙	粗5.0 白色燻	良好 (黒斑有)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	"
269	"	69	内黒高台坏	1/5全位	(18.2)	(7.0)	(5.1)	灰黄褐	密、少	ほぼ良好	ロクロ	ロクロ	"
269	638坑	1	須恵坏	ほぼ完形	14.1	8.2	3.9	褐	有0.2白色粒子 2.0燻	酸化気味	ロクロ 底: 手持回転ヘラ ケズリ	ロクロ	"
269	639坑	1	小皿	完形	9.3	5.7	2.4	にぶい黄橙	粗0.2~1.0 白色粒子	良好	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	図示 粗悪品
269	"	2	小皿	完形	8.4	5.1	1.8	にぶい黄橙	有0.2~1.0 白色粒子	やや不良 (黒斑有)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	図示 粗悪品
269	"	3	小皿	完形	8.2	4.0	1.6	橙	粗0.3 赤色粒子	やや不良 (黒斑有)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	図示
269	"	4	小皿	完形	9.0	4.4	1.9	灰褐	粗0.2~1.0 黒色粒子、赤色粒子	良好 (環元気味)	ロクロ 底: 糸切	ロクロ	図示 粗悪品
269	301溝	1	坏	1/4口~体	14.0	-	(4.1)	橙	多0.1~1.0 長石、角閃石	良好	ヨコナナメケズリ後ヨコミ ガキ	タテミガキ	図示
269	"	2	坏	2/3全位	12.2	-	4.4	橙	粗0.1~1.0 長石、石英、角 閃石、赤色粒子	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	"
269	"	3	坏	1/3全位	15.6	-	(4.7)	にぶい黄橙	粗多0.1~3.0 石英	良好	不明	ヨコナデ	"
269	"	4	内黒坏	2/3全位	15.1	8.5	3.6	明赤褐	有0.1~1.0 長石、燻	やや不良	口~体: ヨコナデ 底: ヘラケズリ	ヨコミガキ	"

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
269	301溝	5	内黒坏	1/5底	-	-	(1.8)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石	やや不良	ヨコミガキ	タテ放射ミガキ	図示
269	"	6	内黒坏	1/3全位	14.6	-	(4.7)	にぶい黄橙	多0.1~1.0長石、角閃石、小礫	良好	口~体:ヨコミガキ 底:ナナメミガキ	タテミガキ	"
269	"	7	小型甕	1/5底	-	5.8	(3.2)	にぶい褐	多0.1~2.0長石、石英	ほぼ良好	ナナメハケ 底:ケズリナデ	ヘラケズリ	
269	"	8	甕	1/5底	-	8.3	(12.3)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石	良好	ナナメミガキ	ナナメミガキ	図示
269	302溝	1	坏	1/4全位	(14.2)	-	4.8	にぶい黄橙	少0.2長石	良好	放射ミガキ	放射ミガキ	"
269	"	2	坏	2/3全位	13.8	-	4.6	橙	少0.1~0.3長石	良好	ヨコナナメミガキ	タテミガキ	"
269	"	3	鉢	1/5口~体	(23.3)	-	(9.9)	灰黄褐	多0.1~1.0長石	良好	口:ヨコナデ 体:ナデミガキ	口:ヨコミガキ 体上~体中:タテミガキ 体下:ヨコケズリ後タテミガキ	
269	"	4	坏	1/5口~体	(16.2)	-	(5.0)	にぶい黄橙	有0.1~1.5長石、赤色礫	良好	口~体中:ヨコミガキ 体下:タテミガキ	タテミガキ	
269	"	5	内黒坏	ほぼ完形	12.5	-	5.1	にぶい橙	多粗0.1~1.0長石、角閃石	良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ(逆位反時計回り)	ヨコヘラナデ	図示
269	"	6	高坏	1/2脚	-	12.1	(7.1)	にぶい黄橙	有0.1~4.0小礫	良好	底:ヨコナデ 接合部:ツメ痕? 脚:ヨコナデ 脚端:曲取気味	脚上:接合のまま 脚中~脚端:ヨコヘラナデ	"
269	"	7	高坏	ほぼ完形	13.9	9.7	8.7	橙	有0.1~1.0長石、角閃石	良好	タテミガキ	環:タテミガキ 脚:ヨコミガキ	"
269	"	8	甕	1/3口~体	(27.0)	-	(18.5)	橙	多0.1~1.0長石、石英	良好	口:ヨコナデ 体:タテミガキ	口:ヨコナデ 体:ヨコヘラナデ	
270	"	9	甕	ほぼ完形	27.9	9.0	24.8	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、小礫	良好	口:ヨコハケナデ 体上: リ 体下:ナナメケズリ	口:ヨコハケナデ 体:タテハケナデ	図示
270	305溝	1	須恵坏	1/10口~体	(15.6)	-	(2.8)	灰	有0.1~0.5長石	ほぼ良好	ロクロ	口唇:面取り 口~体:ロクロ	
270	"	2	須恵長頸壺	1/5頸	9.8	-	(7.1)	外:灰 内:オリーブ灰	少	良好	ロクロ 頸中:浅い二条の沈線 自然釉(暗緑色)	口唇:やや突出 頸:ロクロ自然釉(光沢のある緑灰色)	図示
270	"	3	甕	1/4口~体	(20.6)	-	(7.1)	にぶい橙	多0.1~2.0長石、小礫	良好	ヨコミガキ	口:ヨコミガキ 体上:ヨコナデ	
270	"	4	坏	ほぼ完形	13.5	-	4.5	にぶい赤褐	多0.1~2.0長石、石英	やや不良	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ(外周ケズリ後中央ケズリ)	口:ヨコナデ 体~底:放射ミガキ	図示
270	"	5	坏	1/5口~体	(13.9)	-	(3.7)	にぶい黄橙	有0.1~1.0長石、赤色粒子	良好	口~体中:ヨコナデ 体下:周開ヨコケズリ	タテミガキ	
270	"	6	坏	1/4全位	(13.2)	-	(4.5)	にぶい橙	有0.1~1.5長石、赤色粒子	良好	口:ヨコナデ 体~底:外周ケズリ後中央タテケズリ	ヨコミガキ	
270	"	7	内黒坏	1/5口~体	(12.4)	-	(4.2)	にぶい橙	有0.1~0.5長石	良好	口:ヨコナデ 体:外周ケズリ	ヨコミガキ	
270	"	8	内黒坏	1/3全位	(12.0)	-	4.8	にぶい黄橙	多0.1~2.0長石、石英、赤色粒子	ほぼ良好	体:ヨコナデ 底:周開ケズリ後中央タテケズリ	ヨコミガキ	
270	402溝	1	須恵平瓶	1/5口~体	(7.6)	-	(10.5)	灰	有0.1長石	良好	口:ロクロ 頸:つないだ後ナデ 体:ロクロ	ロクロ	
270	"	2	須恵短頸壺	1/3口~体	(15.4)	-	(9.2)	オリーブ灰	多0.1~2.0長石	良好	ロクロ	ロクロ	
270	"	3	内黒坏	1/6口~体	(19.6)	-	(4.3)	明赤褐	有0.1~2.0長石、小礫	良好	ヨコミガキ	ナナメミガキ	
270	"	4	高坏	1/3脚	-	8.7	(3.0)	橙	有0.1~1.0長石	良好	脚:ケズリ後タテミガキ 脚端:ヨコナデ	脚上:ヨコナデ 脚中:ケズリ後ヨコナデ 脚下:ヨコナデ	
270	"	5	甕	1/6口~体	(19.6)	-	(6.6)	明赤褐	有0.1~1.0赤色粒子	良好	口:ヨコケズリ後ナデ 体上:ケズリ?	ヨコナデ	
270	501溝	1	内黒坏	底	-	5.2	(1.8)	橙	有0.1~3.0小礫、長石	良好	ロクロ 底:糸切	ミガキ	
270	"	2	内黒坏	3/5全位	-	6.0	(3.8)	にぶい橙	有0.1~3.0長石	良好	ロクロ 底:糸切	ヨコミガキ	
270	"	3	内黒坏	1/5口縁	(13.0)	-	(4.2)	浅黄橙	少0.1~2.0褐色粒子、黒色粒子	良好	ロクロ	ミガキ	
270	"	4	内黒坏	1/5口縁	(7.2)	-	(3.9)	にぶい橙	有0.1~1.0長石	良好	ロクロ	タテミガキ	
270	"	5	高台坏	1/5全位	14.1	8.2	4.9	橙	有0.1~5.0長石、褐色粒子	良好	ロクロ 底:糸切	ミガキ	
270	"	6	灰釉皿	1/5全位	(13.3)	6.2	2.2	灰白	少、緻密	良好	ロクロ 施釉:漬け掛け 底:回転ヘラ調整	ロクロ	
270	"	7	灰釉碗	1/3体~底	-	8.6	(5.2)	灰白	少、緻密	良好	ロクロ 施釉:刷毛塗 底:回転ヘラ調整	ロクロ 施釉全面:刷毛塗	
270	502溝	1	坏	3/10全位	(12.2)	-	4.2	明褐	有0.1~0.2長石	良好	ヘラケズリ	ナデ調整	焼成後穿孔2 フタ転用?
270	"	2	内黒坏	3/5全位	(13.9)	-	4.3	浅黄橙	多0.1~4.0小礫、長石	良好	口:ヨコナデ 体~底:ヘラケズリ	ヘラミガキ	
270	508溝	1	須恵坏	3/10全位	(13.4)	(5.6)	4.5	灰	有0.2~3.0黒色礫	良好	ロクロ 底:回転ヘラ切り	ロクロ	
270	"	2	内黒坏	1/2全位	11.7	-	4.7	浅黄橙	有0.1~3.0長石	良好	口~体:ヨコナデ 底:ヘラケズリ	体:ヘラオサエ後ヨコミガキ	
270	"	3	内黒坏	1/3口縁	(17.3)	-	(3.0)	浅黄橙	少0.1~2.0長石	良好	ナデ?	ミガキ?	
270	"	4	高坏	1/3脚	-	(10.9)	(7.0)	浅黄橙	少0.1~1.0長石	良好	脚:タテヘラケズリ 脚端:ヨコナデ	脚:ヨコヘラケズリ 脚端:ヨコナデ	
270	601溝	1	須恵坏	1/5口	(14.7)	-	(3.8)	褐灰	有0.1~0.5黒色粒子	良好	ロクロ	ロクロ	火襷
270	"	2	小型甕	底	-	6.6	(2.5)	黒	密0.1白色粒子	黒斑多	体:ケズリ 底:手持回転ケズリ	ヘラケズリ	
270	"	3	内黒坏	7/10 ほぼ完形	11.5	6.4	3.6	明褐	多粗0.3~0.5白色粒子	ほぼ良好	口~体:ヨコナデ 底:ヘラ調整	ミガキ	
270	"	4	内黒坏	1/10口	(18.6)	-	(5.0)	橙	多0.2~1.0赤・白色粒子	良好	ヨコナデ	ミガキ?	
270	"	5	須恵高台坏	底	-	8.8	(1.2)	灰赤	粗0.5~1.0白色粒子	やや不良 酸化気味	底:回転ヘラケズリ、付高台		
271	SX301	1	須恵坏	1/4口~体	(6.9)	-	(3.2)	灰	有0.1長石	良好	ロクロ	ロクロ	図示
271	"	2	内黒坏	2/3全位	13.6	-	4.1	明赤褐	少0.1~0.2長石	良好	ロクロ 底:糸切後周辺ナデ	口:ヨコミガキ 体:タテミガキ	"
271	SX401	1	甕	1/5底	-	7.4	(7.5)	橙	多0.1~0.4長石、角礫	良好	体:ナデ? 体下:ケズリ のこり 底:ヘラケズリ	ハケナデ	"

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
271	遺構外	1	須恵蓋	1/5体	(13.7)	-	(2.1)	外：灰 内：灰	有0.1~1.0 長石、石英	やや不良 (内面橙色)	つまみ：環状付けツツミ 天井：ロクロ	天井：ロクロ	
271	"	2	須恵坏	1/2全位	13.0	9.6	3.9	灰	有0.1~0.3 長石	良好	体：ロクロ 底：ヘラケズリナデ	ロクロ後底ハケナデ	
271	"	3	須恵甕	1/4口縁	(32.4)	-	(9.8)	赤灰	有0.1~1.0 長石、雲母	ほぼ良好	口：ロクロ 棒状工具で回 転施文(?) よわい	ロクロ	
271	"	4	須恵蓋	1/3全位	(18.0)	-	3.0	灰	有0.1~0.5 長石	良好	天井上：ロクロケズリ 天井下：ロクロ	天井：ロクロ	焼成前 刻書「廣」
271	"	5	須恵甕	1/5体~底	-	4.6	(4.8)	灰	有0.1~1.0 長石	良好	体下：ヨコナデ後刺突文 底：ヘラナデ		内面察変 顕著
271	"	6	須恵甕	1/10口~体	(18.8)	-	(11.9)	灰	有0.1~0.3 長石	良好	口~頸：ロクロ 体上：平 行タタキ後ヨコナデ	口~体上：ロクロ	
271	"	7	須恵坏	1/5全位	12.6	9.6	4.4	灰	少0.1~0.2 長石、石英	良好	体：ロクロ 底：ヘラケズリ	ロクロ	底面外に 焼成前 刻書「大」
271	"	8	須恵長頸壺	ほぼ完形	-	7.7	(12.4)	灰	有0.1~0.3 長石	良好	ロクロ	ロクロ	
271	"	9	灰釉段皿 (転用碗)	1/5全位	(9.6)	5.0	1.9	灰白	密	良好	施釉：口縁内面にわずかに のこる		内面朱痕
271	"	10	内黒坏	1/10底	-	-	-	暗灰黄	多0.1~1.0 長石	良好	ヘラケズリ	ミガキ	底面外に 焼成後 へろ記号「十」
271	"	11	内黒灰	1/8口~体	(14.2)	-	3.8	橙	有0.2~0.5 長石、赤色粒子	良好	ヨコナデ	ミガキ	内面に油 脂分付着
271	"	12	小型甕	1/10体	-	-	-	褐	有0.1~0.5 長石、雲母	ほぼ良好	頸：ナデ 体上：ケズリ	頸~体上：ヨコハケナデ	試No98内面 油脂分付着
271	"	13	須恵坏	1/2底	-	-	-	灰	有0.1~0.3 長石、黒色粒子	良好	底：回転ヘラケズリ	ロクロ	内面に 墨書「の」
271	"	14	内黒高台坏	1/3底	-	(9.1)	-	にぶい橙	少0.1~0.2 長石	良好	体下~高台：ロクロ 底：回転ヘラケズリ	底：ミガキ	焼成前 刻書「空」
271	"	15	坏	1/2全位	(13.6)	-	4.6	にぶい黄橙	有0.1~1.0 長石、赤色粒子	良好	口唇：ナデ 体上：ヨコミ ガキ 体下~底：ケズリ	口唇：ナデ 体：タテミガキ	底面外に 刻書「十」
271	"	16	内黒塊	底	-	-	(1.5)	橙	有0.2~0.3 礫石	良好	底：回転	ナデ	底面外に 爪オサエ痕?
271	"	17	甕	1/3体~底	-	-	(4.9)	にぶい橙	多0.1~1.5 長石	良好	ミガキ 多方向	ヘラナデ 円形の孔：ナデ	
271	"	18	内黒坏	1/4底	-	(6.8)	-	黄橙	有0.2~0.5 長石	良好	底：掃描きで(格子) 施文		
271	"	19	羽釜	口辺	(27.1)	-	(7.6)	にぶい褐	多0.1~2.0 長石、石英	良好	ロクロ	ハケナデ	焼成前 刻書「大」
271	"	20	器台?	4/5脚	-	10.1	6.0	にぶい橙	粗0.1~0.8 長石、角閃石、石英	良好	ヨコナデ 二次被熱なし	ヨコナデ	丁寧な作り
271	"	21	甕	4/5 ほぼ完形	(16.7)	-	22.4	にぶい橙	多、粗0.1~2.0 長石、赤色礫	良好	口~頸：ヨコナデ 体上： ケズリ 体：ハケ 体下： ケズリ 底：削り出し	口~頸：ヨコナデ 体：ケ ズリ	底部 自立しない

通し図号	種別	地点	遺構時期	出土状況	残存部位	胎土(単位mm)	色	焼成	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	糸切痕	布目(本/cm)	備考
32	平瓦	514住	8C後葉~9C前葉	カマド	体部	砂有り、0.2白色粒子	暗灰黄色	還元	(7.8)	(9.6)	2.2	縦目+周縁ナデ	布目+ナデ	ケズリ+凹面側を面取り	なし	7×7	
33	平瓦	515住	8C中葉	覆土	体部	砂有り、0.2~1.0石英、赤色粒子	にぶい黄橙色	酸化気味	(18.4)	(13.8)	2.2	平行タタキ(斜状)	布目	凹面側を布目+凸面側をケズリ	なし	6×5	側面まで布目押圧痕、1枚作り
34	平瓦	517住	9C前葉	覆土	体部(採掘側)	砂有り、0.5~2.0黒色粒子	暗灰色	還元	(22.3)	(10.8)	2.3	縦目+ナデ少	布目+軟部側ナデ	ケズリ+ナデ	なし	7×7	還元焼成良好
35	平瓦	308建(SF301)	平安	礎石下の覆土	体部	砂有り、0.1~3.0角礫	にぶい褐色	やや酸化気味	(11.7)	(8.5)	1.8	平行タタキ	布目	-	なし	6×7	
36	丸瓦	4503坑(井戸跡)	9~10C前半	覆土	端部小片	砂有り、0.1~2.0灰石、褐色粒子	暗灰色	やや還元気味	(7.8)	(5.6)	1.9	ナデ	布目	ケズリ	なし	7×8	
37	平瓦	402溝	古墳後期、6C後半以前	覆土	体部	砂有り、0.1~1.3長石、雲母ほか	暗黄褐色	酸化	(11.5)	(10.0)	2.0	縦目	布目	-	なし	7×8	覆土混入
38	平瓦	501溝	11C以降	覆土	体部	砂やや有り、0.1~2.0白色粒子	暗灰色	還元	(6.1)	(6.5)	1.6	縦目+布目	-	-	なし	-	凹面が歪む
39	平瓦	③区B-11		IIIb層	体部	砂やや有り、0.1~1.0白色粒子	-	良好(内部酸化)	(7.5)	(10.5)	2.0	平行タタキ+ナデ	横骨痕+布目	ケズリ	なし	7×7	凹面軟部痕あり、稀薄き作り
40	平瓦	③区B-12		IIIb層	体部	砂有り、0.1~2.5白色粒子	明黄褐色	良好(酸化)	(7.3)、(7.8)	(4.3)、(5.3)	1.8~1.9	ナデ	ナデ	ケズリ+ナデ	なし	-	2点、建瓦か
41	丸瓦	③区H-16		IIIb層	体部	砂有り、0.1~3.0褐色粒子	明黄褐色	酸化	(12.1)	(6.6)	2.4	ナデ	ナデ	ケズリ+凹面側を面取り	凹面(斜状)	-	
42	平瓦	③区H-22		IIIb層	体部	やや粗、砂有り、0.1~10.0角礫	暗褐色	酸化	(9.7)	(9.8)	-	-	布目	-	なし	7×7	凸面剥落
43	平瓦	⑤区遺構外(IIIb層)		IIIb層	体部	粗、砂多、0.1~5.0白色粒子、角礫	暗褐色	酸化	(13.2)	(9.3)	2.0	縦目+ナデ	ナデ	ケズリ+凹面側を面取り	凹面(斜状)	-	
44	平瓦(埴瓦)	⑤区遺構外(IIIb層)		I層	端部、体部	粗、砂多、0.5~5.0礫	褐色	良好(酸化)	(18.2)	(11.7)	2.2	縦目+ナデ少	布目	ケズリ	なし	6×6	
45	不明	⑤区遺構外(IIIb層)		端部	端部	粗、砂多、0.1~2.0白色粒子	にぶい黄褐色	酸化	(6.3)	(4.6)	1.5	ナデ	布目	ケズリ	なし	7×7	
46	平瓦28点	⑤区遺構外(IIIb層)		一括	一括	-	-	還元12、酸化16	-	-	-	縦目14	布目15	-	なし	-	
47	丸瓦5点	⑤区遺構外(IIIb層)		一括、玉縁部3、体部2	一括、玉縁部3、体部2	還元、砂有り、長石、酸化、小角礫	灰色4、赤褐色1	還元4、酸化1	-	-	-	ナデ	還元、布目、酸化、ナデ	ケズリ	なし	-	赤褐色の酸化焼成1点あり
48	平瓦	⑥区遺構外(IIIb層)		端部	端部	砂有り、0.1~1.0白色粒子	灰黄色	還元	(4.7)	(9.3)	1.6	縦目	布目+周縁ナデケズリ	-	なし	8×8	
49	平瓦	⑥区遺構外(IIIb層)		端部	端部	粗、砂多、0.1~3.0白色粒子、褐色礫	-	酸化不良	(6.1)	(8.6)	1.9	縦目	布目+周縁ナデケズリ	ケズリ	なし	5×5	
50	丸瓦	⑥区遺構外(IIIb層)		体部	体部	砂少、0.1白色粒子	灰色	還元	(4.8)	(4.4)	1.0	ナデ	布目+ハケナデ	-	なし	7×6	非常に薄い作り
51	平瓦	⑥区遺構外(IIIb層)		体部	体部	砂やや有り、0.1~2.0褐色粒子	黄褐色	酸化	(3.0)	(3.0)	-	-	布目	-	-	7×8	小片

表17 紡錘車（土製・石製・鉄製）観察表

通し No.	図版 No.	P L No.	出土位置	断面形	材 質	色 調	状 態	法 量					備 考
								上外径 (cm)	下外径 (cm)	孔 径 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	
土1	276	-	373住	扁平な円盤状	砂有り/ 焼成：良好	にふい橙色	1/4残存	-	(4.60)	-	(1.95)	(7.85)	ナデ調整
土2	276	-	3400住	略台形	砂多/ 焼成：良好	にふい黄褐色	1/3残存	(5.70)	(6.80)	(1.00)	(4.70)	(212.45)	ナデ調整.孔部は芯を上方に引き抜く
土3	276	97	414住	台形	砂有り/ 焼成：良好	にふい橙色	ほぼ完形	6.00	8.90	1.30	4.40	(331.43)	大型.ナデ調整
土4	276	-	431住	略台形	砂多/ 焼成：良好	にふい黄褐色	1/3残存	(2.80)	-	(0.40)	(2.70)	(13.10)	小型
土5	276	-	3100坑	略台形	砂やや多/ 焼成：良好	にふい橙色	1/4残存	(2.65)	(3.05)	(0.80)	3.10	(30.00)	ナデ調整
土6	276	97	③区 B-16IIIb層	扁平な半楕 円形	砂少/ 焼成：良好	にふい黄褐色	1/2残存	-	(5.50)	0.80~0.90	(1.50)	(26.04)	上下面にミガキの条痕 側面に刻みあり
石1	276	97	320住床上	略台形	滑石	暗灰色	完形	2.00	3.70	0.80	1.50	28.32	上面斜め放射ミガキ.側面縦ミガキ
石2	276	97	350住	略台形	滑石	暗オリーブ灰色	一部欠損	2.90	4.20	0.80	1.90	(55.53)	上下面には斜めミガキ 側面は横ミガキ
石3	276	97	359住	略台形	滑石	オリーブ灰色	完形	2.60	4.40	0.70	2.10	60.34	ミガキ密.側面ケズリ後ミガキ
石4	276	97	441住	略台形	滑石	灰黄褐色	一部欠損	2.80	4.50	0.75	2.00	(57.88)	全面ミガキ 側面には平行線と三角形の線刻画
石5	276	97	303溝 (G-2)	扁平な半楕 円形	滑石	灰黄褐色	一部欠損	2.50	3.60	0.75	1.80	(32.85)	上下面斜め放射ミガキ.側面横ミガキ
石6	277	-	508溝	(略楕円形)	粘板岩	暗赤褐色	上部欠損		4.20	0.80	(0.80)	(13.67)	下面放射ミガキ
石7	277	97	④区表土	略台形	滑石	オリーブ灰色	一部欠損	2.50	4.50	0.80	2.20	(59.56)	上下面斜め放射ミガキ 側面縦ミガキ中心
石8	277	97	④区IVb層	略台形	滑石	灰色	1/2残存	(3.40)	(4.90)	(0.80)	1.90	(32.32)	側面縦ケズリ後ミガキ 穿孔内横ケズリ後縦ミガキ
金26	299	106	520住 カマド焼土	円盤	鉄	-	完形.錆化	4.50	-	0.40	0.50	10.25	全面錆化.軸部欠損
金27	299	106	⑤区IIIb層	円盤	鉄	-	完形.錆化	5.40	-	0.55	0.50	12.61	全面錆化.鍛造成形 錘部周辺のみ軸残存.軸断面円形

()は復元値 ()は復元値 ()は復元値 ()は現存値 ()は現存値

表18 玉（土製・石製）・模造品観察表

通し No.	図版 No.	P L No.	遺物名称	出土位置	材 質	色 調	状 態	法 量					備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
土7	277	97	丸玉	326住床上	砂有り/ 焼成：良好	暗赤褐色	完形	1.90	1.90	0.20~0.30	1.50	5.50	外面ナデ調整?
土8	277	97	勾玉	383住	砂少/ 焼成：良好	橙色	1/2残存	(2.63)	(1.62)	0.38未貫	(1.70)	(8.60)	断面円形.穿孔部は未貫通。
土9	277	97	管玉	443住	砂有り/ 焼成：良好	にふい橙色	完形	2.00	0.75	0.17	0.70	1.06	丁寧な調整。
石9	281	97	管玉	302住床面	碧石	光沢ある緑色	1/3ほど残存	(1.10)	(0.60)	0.20	(0.60)	(0.47)	
石10	281	97	管玉	③区B-11	碧石	光沢ある緑色	ほぼ完形	2.50	0.70	0.25	0.70	(2.23)	
石11	281	98	勾玉	321住	粘板岩	灰色	両端部欠損	(4.40)	(2.70)	0.25	0.90	(12.10)	
石12	281	97	勾玉	339住	滑石	暗オリーブ灰色	完形	3.20	2.00	0.20	1.10	9.48	
石13	281	98	白玉	306住	滑石	褐灰色	3/5欠損	(1.10)	(1.10)	(0.35)	(1.00)	(0.49)	
石14	281	98	白玉	310住	滑石	オリーブ灰色	完形	0.80	0.70	0.25	0.40	0.36	
石15	281	98	白玉	321住	滑石	明緑灰色	2個に分割	0.70	0.70	0.15	0.40	(0.25)	
石16	281	98	白玉	321住	滑石	灰白色	1/3欠損	0.70	0.70	0.20	(0.40)	(0.23)	
石17	281	98	白玉	3400住	滑石	灰白色	一部欠損	0.90	0.80	0.25	(0.70)	(0.69)	
石18	281	98	白玉	342住	滑石	オリーブ灰色	一部欠損	1.10	1.10	0.30	0.80	(1.30)	
石19	281	98	白玉	342住	泥岩	暗赤灰色	ほぼ完形	0.80	0.90	0.25	0.40	(0.30)	
石20	281	98	白玉	366住	滑石	明オリーブ灰色	一部欠損	(1.00)	1.00	0.20	0.60	(1.00)	
石21	281	98	白玉	371住	滑石	明オリーブ灰色	一部欠損	0.60	0.60	0.15	0.40	(0.21)	
石22	281	98	白玉	371住	滑石	灰オリーブ色	一部欠損	0.60	0.60	0.15	0.40	0.23	
石23	281	98	白玉	374住	滑石	緑灰色	ほぼ完形	1.20	1.30	0.30	0.50	(1.37)	
石24	281	98	白玉	445住	滑石	灰オリーブ色	1/3欠損	(1.20)	1.20	0.25	(1.40)	(1.59)	
石25	281	98	白玉	447住	滑石	明緑灰色	一部欠損	(1.30)	1.30	0.25	0.60	(1.44)	
石26	281	98	白玉	447住	滑石	暗オリーブ灰色	一部欠損	1.20	1.20	0.25	(0.90)	(1.59)	
石27	281	98	白玉	447住	滑石	明緑灰色	ほぼ完形	1.20	1.20	0.30	0.70	(1.51)	
石28	281	98	白玉	447住	滑石	暗緑灰色	1/2欠損	(1.20)	1.20	0.35	(0.40)	(0.78)	
石29	281	98	白玉	449住	滑石	明緑灰色	一部欠損	1.20	1.20	0.25	(0.60)	(1.47)	
石30	281	98	白玉	470住?	滑石	浅黄色	一部欠損	1.50	1.50	0.25	1.00	(3.27)	

第3章 調 査

通し No	図版 No	P L No	遺物名称	出土位置	材 質	色 調	状 態	法 量					備 考
								長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
石31	281	98	白玉	3056坑	滑石	黒褐色	完形	0.50	0.50	0.15	0.20	0.05	
石32	281	98	白玉	③区B-22	滑石	灰白色	ほぼ完形	0.70	0.70	0.20	0.40	(0.28)	
石33	281	98	小玉	374住	滑石	暗緑灰色	完形	0.40	0.40	0.15	0.30	0.06	
石34	281	98	管玉	321住	滑石	暗緑灰色	ほぼ完形	2.20	0.50	0.20	0.50	(0.70)	
石35	281	98	管玉	③区	滑石	暗緑灰色	ほぼ完形	1.50	0.60	0.25	0.50	(0.77)	
石36	282	98	勾玉	320住	滑石	にふい黄色	先端部欠損	(3.80)	2.10	0.15	0.50	(6.93)	
石37	281	98	単孔円板	308溝	滑石片岩	灰色	一部欠損	2.90	2.90	0.20	0.80	(9.43)	
石38	281	98	双孔剣	3400住カマド	滑石片岩	暗オリーブ灰色	ほぼ完形	4.00	2.10	上部、下部0.15	0.50	(6.14)	
石40	282	98	剣	302溝	滑石片岩	緑灰色	両端部欠損	(2.60)	(2.10)	—	(0.50)	(3.12)	
石39	281	98	単孔剣	308溝	滑石片岩	灰オリーブ色	一部欠損	3.40	2.30	0.20	0.60	(6.99)	
石41	281	98	単孔剣	308溝	滑石片岩	灰色	一端剥落	3.00	1.50	0.25	0.40	(3.08)	
石42	281	98	単孔剣	308溝	滑石片岩	黄灰色	先端部	2.20	2.00	0.17	0.60	(4.93)	
石43	282	98	不明品(単孔)	④区P-12	滑石片岩	にふい黄褐色	一部欠損	2.80	2.80	0.25	0.80	(6.61)	

表19 土錘観察表

通し No	図版 No	P L No	出土位置	形状	材 質	色 調	状 態	法 量					備 考
								長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
10	277	96	331住	筒形	胎土：砂多/焼成：良好	浅黄橙色	完形	6.70	2.80	0.70	2.60	49.32	不整形。指オサエ。
11	277	96	413住床上	筒形	胎土：砂有り/焼成：良好	橙色	ほぼ完形	4.20	1.60	0.50	1.40	(10.01)	小型。横ナデ。
12	277	96	442住	筒形	胎土：砂少/焼成：良好	橙色	両端部欠損	(4.10)	1.30	0.30	1.30	(7.33)	小型。横ナデ。
13	277	96	④区IIIb層	丸形	胎土：砂多/焼成：良好	にふい橙色	1/2残存	4.60	4.60	(0.90)	(4.60)	(59.39)	外面ナデ、孔内縦ミガキ。

表20 ミニチュア土器観察表

通し No	図版 No	P L No	出土位置	状 態	色 調	胎 土 (単位mm)	焼 成	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	調 整
14	277	95	315住	完形	にふい橙色	砂有り、長石、石英他	良好	4.5	3.5	5.4	外面：横ナデケズリ。内面：指オサエ。
15	277	95	317住	ほぼ完形	橙色	砂少、0.1 長石	良好	2.1	—	1.5	手捏ね。
16	277	95	317住	ほぼ完形	にふい橙色	砂有り、0.2~1.0 長石、赤色礫	良好	7.8	—	4.9	横ナデ。
17	277	—	330住	脚部のみ	にふい褐色	砂少、0.1 長石	やや不良	—	—	(2.3)	高環ナデ。
18	277	95	347住	2/3全位	黒色	やや粗、0.1~0.5 石英、長石	良好	5.0	5.2	4.7	短頸壺形。外：指オサエ、ケズリ。内：ヨコハケ、ナデ。
19	277	—	336住	一部剥落	灰白色	砂有り、0.1~0.5 長石、角閃石他	良好	2.6	—	(3.6)	壺形。手捏ね。
20	277	—	341住	1/4全位	橙色	砂多、0.1~3.0 長石他	良好	(9.2)	(4.6)	5.8	鉢形。外：ミガキ。内：ヘラナデ。
21	277	—	359住	2/3全位	明褐色	粗、砂多、0.5 白色粒子	不良	—	3.9	(2.1)	外：指オサエ。
22	277	—	366住	2/3底部~体部	浅黄橙色	砂少、0.2~0.5 白色粒子	良好	—	—	(3.0)	外：指オサエ。
23	278	95	368住	1/4	橙色	砂有り、0.1~1.0 長石、白色粒子	良好	7.2	—	(3.1)	鉢形。内外：指オサエ。
24	278	95	368住	1/4	にふい黄褐色	砂有り、0.1~0.5 長石他	良好	—	—	(3.9)	壺形。内：指オサエ。
25	278	95	368住	1/4全位	にふい褐色	砂多、0.1~2.0 長石、雲母、赤色粒子	良好	(5.6)	(4.4)	3.5	鉢形。外：ヘラケズリ。内：指オサエ。
26	278	95	371住	ほぼ完形	浅黄橙色	砂多、0.1~1.0 長石、小礫	良好	8.2	4.0	4.4	鉢形。内外：ヘラケズリ後ナデ。
27	278	95	371住	完形	にふい黄褐色	砂有り、0.2 長石、小礫	良好	2.4	—	2.2	手捏ね。
28	278	95	398住	完形	橙色	砂多、0.2~1.0 長石、石英	良好	5.5	—	5.6	壺形。外：ケズリ、ナデ。内：ヘラナデ。
29	278	95	3400住	3/4全位	にふい橙色	砂多、0.1~1.0 長石、雲母、石英他	良好	9.4	4.4	5.3	鉢形。口縁折り返し。内外：ヘラケズリ。
30	278	95	414住	ほぼ完形	にふい褐色	砂有り、0.1~3.0 黒色粒子、白色粒子、角礫	やや不良	4.5	—	2.6	坏形。外底部：赤形。
31	278	95	417住	完形	にふい黄褐色	砂有り、0.1~1.0 雲母、長石、赤色粒子	やや良好	2.4	—	3.2	口縁部に1対のオサエ痕。
32	278	95	427住	1/3体部	にふい黄褐色	砂、褐色粒子やや有り	良好	(4.5)	(4.2)	(5.4)	壺形。
33	278	95	458住	4/5全位	灰褐色	砂少、長石	良好	(6.9)	4.6	(5.7)	甕形。体部内外：ヨコミガキ。
34	278	95	303溝	ほぼ完形	にふい黄褐色	砂多、0.1~0.5 長石	良好	6.7	3.9	5.2	鉢形。外：口縁ヨコハケ。内：ハケ。
35	278	—	3330坑	完形	橙色	砂多、0.1~1.0 長石、小礫	良好	5.5	4.5	4.3	鉢形。外：指オサエ。

通しNo.	図版No.	P L No.	出土位置	状態	色調	胎土(単位mm)	焼成	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調整
36	278	95	㊸区B-16	1/5体部	にぶい黄橙色	砂やや有り、0.1~1.0 長石	ほぼ良好	-	-	(3.3)	壺形。外：人面？
37	278	-	㊸区B-16	2/3全位	浅黄色	砂少、0.1~0.2 長石他	良好	(5.6)	4.0	3.2	鉢形。外：指オサエ。内：ヘラナデ。
38	278	-	㊸区G-14	ほぼ完形	にぶい赤褐色	砂やや有り、0.1~0.5、1.5 長石、小礫	ほぼ良好	4.7	3.1	3.4	鉢形。内外：ヘラナデ。
39	278	-	㊸区	1/4体部~底部	にぶい黄橙色	砂多、0.1~1.0 長石、石英	ほぼ良好	-	(3.2)	(4.7)	壺形。内：ヨコヘラ。
40	278	-	㊸区U-13	3/4全位	にぶい黄橙色	砂やや有り、0.1~1.0 長石、黒雲母他	良好	(5.5)	4.2	4.6	鉢形。内外：ヘラナデ。

()は復元値 ()は復元値 ()は現存値

表21 土器片板観察表

通しNo.	図版No.	P L No.	出土位置	形状	色調(表面)	状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	周縁状態
41	279	96	307住	不整楕円形	橙色	ほぼ完形	4.1	3.8	0.5	(12.7)	
42	279	96	336住	半円形	赤色	2/3残存	4.8	(7.2)	(0.5)	(17.9)	打欠・研磨
43	279	96	358住	不整楕円形	にぶい黄橙色	完形	3.8	3.3	0.9	14.8	
44	279	96	359住	略六角形	明赤褐色	完形	4.7	4.7	0.9	21.3	打欠・研磨
45	279	96	371住	不整楕円形	にぶい褐色	完形	6.9	6.4	0.8	41.4	打欠
46	279	96	371住	不整楕円形	橙色	完形	6.1	5.5	0.8	31.3	打欠
47	279	96	371住	不整楕円形	にぶい黄橙色	完形	5.2	4.9	1.0	29.7	打欠
48	279	96	371住	不整楕円形	浅黄橙色	完形	5.8	5.0	0.9	28.4	打欠
49	279	96	371住	不整楕円形	暗灰黄色	完形	5.8	5.5	0.6	22.5	打欠
50	279	96	3400住	不整楕円形	黄灰色	完形	3.8	3.7	0.6	11.6	打欠・研磨
51	279	96	3400住	不整楕円形	橙色	完形	4.3	3.7	0.7	13.8	打欠・研磨
52	279	96	3400住	不整楕円形	黒色	完形	3.3	2.9	0.7	9.8	打欠・研磨
53	279	96	517住	不整楕円形	にぶい橙色	完形	4.3	4.5	1.0	23.1	打欠
54	279	96	303建	不整楕円形	にぶい黄橙色	完形	3.5	3.4	0.9	13.1	打欠・研磨？
55	279	96	3182坑	不整楕円形	にぶい褐色	完形	3.5	3.2	0.5	8.7	打欠・研磨
56	279	96	㊸区B-16	不整楕円形	橙色	完形	4.3	3.9	0.6	16.1	打欠・研磨
57	279	96	㊸区	不整楕円形	にぶい赤褐色	完形	4.4	3.6	0.8	18.5	打欠・研磨？
58	279	96	㊸区IIIb層	略円形	にぶい黄橙色	完形	3.8	3.9	0.8	15.1	打欠・研磨

表22 その他土製品観察表

通しNo.	図版No.	P.L.No.	遺物名称	出土位置	材 質	色 調	状 態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
59	280	96	土製円板	317住	酸化炎焼成	にぶい黄橙色	完形	4.1	4.2	1.1	19.0	
60	280	96	土製円板	344住	酸化炎焼成	(地)橙色(塗彩)明赤褐色	1/2?	5.2	(4.0)	(1.5)	(22.6)	
61	280	96	土製円板?	393住	酸化炎焼成	橙色	1/4?	(3.8)	(2.3)	(1.4)	(10.3)	
62	280	96	板状土製品	412住	酸化炎焼成	浅黄色	端部欠損	(5.0)	(2.9)	(0.8)	(11.3)	
63	280	96	匙形土製品	391住	酸化炎焼成	(表側)黒色(裏側)褐色	両端部欠損	(6.8)	2.8	匙部0.8、軸部1.3	(19.8)	
64	280	96	匙形土製品	3400住	酸化炎焼成	にぶい黄橙色	一部欠損	(9.7)	(3.4)	匙部0.5、軸部2.3	(42.8)	
65	280	97	土製鈴	③区B-2	酸化炎焼成	にぶい黄橙色	完形	4.0	3.4	2.9	35.9	内部に土玉4
66	280	96	人形	④区	酸化炎焼成	にぶい褐色	完形	8.7	5.4	3.1	75.9	
67	280	-	棒状土製品	309住	酸化炎焼成	にぶい褐色	不明	(2.7)	(2.2)	(1.7)	(11.2)	

表23 軽石製品観察表

通しNo.	図版No.	P.L.No.	出土位置	平面形	色 調	状 態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
47	-	-	313住	不整楕円形	灰黄褐色	ほぼ完形	6.8	5.8	3.2	(40.0)	擦り痕有り
48	-	-	321住	楕円形(半割)	黄灰色	ほぼ1/2残存	(6.8)	(3.7)	(4.0)	(28.8)	
49	-	-	327住	桃種形	暗灰黄色	完形	3.8	2.9	1.9	6.1	全面擦り痕有り
50	282	98	3400住	略円形	灰黄褐色	一部欠損	8.2	7.9	5.8	(212.5)	転石。一面に擦り痕
51	-	-	3400住カマド付近	楕円形	黄灰色	完形	6.0	5.2	2.2	18.0	全面擦り痕有り
52	282	98	3400住	円板状(穿孔)	灰白色	一部欠損	4.2	(3.9)	1.9	(10.9)	転石。表裏面：研磨。周縁：滑らかに加工。穿孔方法：両方向
53	282	98	344住	略円形	灰黄色	完形	8.5	8.0	3.9	79.6	転石の半割。裏面に工具痕。抉り：長軸両端(打欠)。溝：正面長軸
54	-	-	368住	略三角形	黄灰色	一部欠損	8.9	8.6	(6.2)	(126.2)	擦り面1
55	283	98	383住	円形	灰黄褐色	完形	6.6	7.1	4.8	68.7	転石。抉り：短軸両端(打欠調整)。溝：抉り間全周
56	283	98	432住	円錐形	浅黄色	ほぼ完形	4.7	3.4	2.8	(10.8)	縦断面：不整二等辺三角形。横断面：七角形。下面：平坦。側面：ほぼ平坦。砥石?
57	283	98	462住	楕円形	暗灰黄色	ほぼ完形	6.7	4.1	3.8	(34.0)	転石。砥面8面。表裏：平坦。上下：丸み。多方向の擦り。砥石?
58	283	98	467住	不整楕円形	暗灰黄色	ほぼ完形	6.0	5.2	2.9	(25.0)	3面やや膨らむ平坦面
59	283	98	468住	板状(穿孔4)	灰白色	一部剥落	6.2	4.2	2.4	(13.2)	正面：丸みをもつ平坦。右側下部：平坦。穿孔4、正面から裏面
60	283	98	304溝	板状	黄灰色	ほぼ完形	4.1	2.4	1.3	(4.4)	板状。左側上部剥落。正・裏：ほぼ平行する平坦面

表24 石錘（編物石含む）観察表

通しNo	図版No	PLNo	出土位置	平面形	材質	色調	状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
62	284	99	335住	不整長楕円形	安山岩	灰色	完形	9.6	4.6	3.4	221	中央がわずかに細まる
63	284	99	335住	楕円形	安山岩	灰白色	完形	8.9	6.0	2.6	207	短軸両端に抉り
64	284	99	IIIb層	楕円形	安山岩	灰色	完形	8.7	7.4	3.0	319	長軸両端に抉り
65	284	99	327住	不整楕円形	安山岩	褐灰色	完形	9.8	6.3	3.0	240	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
66	284	99	327住	不整長楕円形	珪化岩	浅黄色	完形	10.8	5.6	4.8	310	
67	284	99	327住	不整長楕円形	閃緑岩	灰白色	完形	11.7	5.6	3.3	265	
68	284	99	327住	楕円形	安山岩	褐灰色	完形	10.3	6.4	3.3	338	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
69	284	99	327住	楕円形	安山岩	黄灰色	完形	11.0	7.5	3.7	430	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
70	284	99	327住	不整長楕円形	安山岩	浅黄色	完形	12.4	5.0	3.7	315	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
71	284	99	327住	長楕円形	安山岩	灰白色	完形	10.6	5.9	4.0	359	
72	284	99	327住	不整長楕円形	安山岩	灰白色	完形	10.0	5.7	4.3	280	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
73	284	99	327住	不整長方形	安山岩	灰白色	完形	11.6	5.1	4.3	349	
74	-	-	396住	不整長楕円形	砂岩?	オリーブ灰色	完形	17.5	5.1	5.1	614	長辺部中央わずかに細まる摩耗痕有り
75	-	-	396住	不整長方形	変質玄武岩	オリーブ色	完形	15.0	6.6	5.6	928	
76	-	-	396住	不整楕円形	珪化岩	浅黄色	完形	13.8	6.2	5.2	619	
77	-	-	396住	不整長楕円形	閃緑岩	灰白色	完形	13.8	8.2	4.4	735	
78	-	-	396住	不整長楕円形	安山岩	灰オリーブ色	完形	15.4	8.0	5.0	841	
79	-	-	3400住	不整長楕円形	安山岩	オリーブ灰色	完形	15.4	5.3	5.2	673	
80	-	-	3400住	不整長方形	変質玄武岩	オリーブ灰色	完形	17.0	7.2	4.9	861	
81	-	-	3400住	不整長方形	安山岩	灰オリーブ色	ほぼ完形	14.1	6.7	4.4	725	長辺部中央わずかに細まる
82	-	-	3400住	不整長方形	ヒン岩	灰色	完形	15.1	5.8	5.0	712	長辺部中央わずかに細まる
83	-	-	3400住	不整長楕円形	変質玄武岩	灰オリーブ色	完形	17.8	4.7	3.8	493	長辺部中央きわめて細まる摩耗痕有り
84	-	-	420住	楕円形	安山岩	灰白色	完形	12.6	7.4	6.3	822	
85	-	-	420住	楕円形	安山岩	褐灰色	完形	12.4	7.0	4.9	650	
86	-	-	420住	不整楕円形	石英安山岩	灰白色	完形	12.4	7.1	4.9	583	
87	-	-	420住	不整楕円形	安山岩	灰色	完形	12.4	6.8	5.5	659	
88	-	-	420住	楕円形	安山岩	暗灰色	完形	12.3	8.4	5.8	731	
89	-	-	420住	不整楕円形	安山岩	灰色	完形	13.1	9.0	5.0	685	長辺部中央わずかに細まる
90	-	-	420住	不整楕円形	閃緑岩	灰白色	完形	12.9	9.5	4.3	751	長辺部中央わずかに細まる
91	-	-	420住	楕円形	安山岩	灰白色	完形	12.4	8.2	4.2	541	長辺部中央に帯状の摩耗痕が全周
92	-	-	420住	不整楕円形	石英閃緑岩	灰白色	完形	13.0	7.2	6.4	837	長辺部中央わずかに細まる
93	-	-	420住	長楕円形	安山岩	灰色	完形	13.8	7.4	4.5	642	長辺部中央わずかに剥落する敲打痕あり
94	-	-	420住	不整長楕円形	安山岩	灰オリーブ色	完形	13.9	7.2	5.4	706	長辺部中央わずかに細まる
95	-	-	420住	不整長楕円形	安山岩	オリーブ灰色	完形	14.0	7.0	4.8	736	長辺部中央わずかに細まる
96	-	-	437住	不整長楕円形	安山岩	灰オリーブ色	完形	12.8	7.0	4.0	557	長辺部中央に帯状の摩耗痕がほぼ全周
97	-	-	437住	不整長楕円形	安山岩	オリーブ黄色	完形	10.6	5.2	5.2	441	長辺部中央に帯状の摩耗痕が全周
98	-	-	437住	不整長楕円形	安山岩	灰色	完形	12.0	6.2	4.2	453	長辺部中央わずかに細まる
99	-	-	437住	不整長方形	安山岩	灰オリーブ色	完形	13.6	6.7	4.0	652	長辺部中央わずかに細まる
100	-	-	437住	不整長方形	安山岩	黄灰色	完形	11.5	7.1	4.3	634	
101	-	-	437住	長楕円形	安山岩	灰オリーブ色	完形	13.6	7.5	4.1	565	長辺部中央わずかに細まる
102	-	-	437住	長方形	安山岩	灰オリーブ色	完形	14.0	4.6	4.8	587	長辺部中央わずかに細まる
103	-	-	437住	不整長楕円形	安山岩	オリーブ灰色	完形	13.2	4.6	4.2	423	
104	-	-	437住	楕円形	安山岩	オリーブ灰色	完形	11.1	7.2	4.3	451	
105	-	-	437住	不整長楕円形	安山岩	灰白色	完形	13.3	6.0	3.8	452	長辺部中央わずかに細まる

表25 砥石観察表

通し No	図版 No	P.L No	分類	出土位置	状	態	材		質		法				量		砥		面	備	考
							岩石名	色調	粒度(mm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	砥面数	形状	状況	方向				
106	284	99	A	320住掛床	上部欠損	砂質凝灰岩	灰白色	~0.2	(5.4)	(4.1)	(1.3)	(37)	6	滑らか、条痕	正裏：タテ						
107	284	99	A	395住	上下端部欠損後、摩耗	千枚岩質粘板岩	灰色	極めて微細	(8.0)	(3.3)	(0.6)	(24)	2	全体摩耗	不明					長軸一端に穿孔、横位に溝	
108	284	99	A	520住	一部剥落	凝灰岩	灰白色	0.3~1.6	4.1	4.0	(1.3)	(15)	2,外周	滑らか、摩耗	多方向					側面も使用	
109	284	99	A	301建ビット3	周囲剥離有り	砂岩(第3系)	灰白色	~0.3	(3.9)	(4.3)	(0.9)	(21)	2	滑らか	正：ヨコナナメ、右：タテ						
110	284	99	A	302溝	一部残存	砂岩(第3系)	灰色	0.2~0.3(均質)	(3.2)	(3.3)	(1.0)	(15)	3	滑らか、浅い条痕	タテ、ナナメ						
111	284	99	A	304溝	一部剥落	千枚岩質粘板岩	灰色	極めて微細	4.3	3.8	(1.4)	(21)	5	滑らか、条痕	正：ヨコ、ナナメ、裏：ヨコ					穿孔	
112	285	99	B	327住	両端部欠損	ヒン岩	灰黄色	0.2~2.0	(6.7)	(4.2)	(4.2)	(173)	4	滑らか	裏左：タテナナメ						
113	285	99	B	336住	両端部欠損	凝灰岩	灰白色	0.1~0.8	(12.0)	(4.7)	(4.2)	(246)	6	滑らか、正：条痕	タテ、タテナナメ						
114	285	99	B	354住	完形	凝灰岩	灰黄色	0.2~0.5	7.6	3.3	3.1	142	6	滑らか、浅い条痕	タテ、タテナナメ						
115	285	99	B	368住	上部欠損	凝灰岩	浅黄色	0.2~0.5	(10.8)	(6.1)	(5.4)	(362)	7	下部以外滑らか、条痕	正左右：タテ、タテナナメ						
116	285	99	B	396住カマド横	一部欠損	凝灰岩(緻密)	灰白色	0.1~0.3(緻密)	6.8	4.7	3.6	(174)	6	滑らか、正下：条痕顯著	多方向					ヨコケツリ顯著	
117	285	99	B	471住	先端部欠損	凝灰岩	灰白色	0.1~0.3	(8.9)	(2.3)	(2.2)	(80)	4	滑らか、左：条痕	多方向						
118	285	-	B	505住	小破片	凝灰岩?	灰白色	0.1~0.3(微粒子)	(3.7)	(2.9)	(2.1)	(20)	3	滑らか、条痕	ヨコ、ナナメ						
119	285	99	B	506住	一部欠損	凝灰岩	にぶい黄褐色	計測不可(微粒子)	(9.4)	(2.0)	(1.7)	(30)	4	滑らか、条痕	多方向					端部は自然面と思われる	
120	285	99	B	522住	小破片	凝灰岩	灰白色	~1.0	3.7	(2.4)	(1.4)	(16)	5	滑らか、条痕	タテ、タテナナメ					粒径微粒でまれに1mm程の結晶粒物有り	
121	285	99	B	606住	小破片	凝灰岩	浅黄褐色	計測不可	(4.6)	(2.2)	(1.5)	(15)	4	滑らか	多方向						
122	285	99	B	308建	上部欠損	凝灰岩(微中粒)	灰黄色	0.1~0.8	(8.0)	(6.8)	(4.7)	(240)	11	滑らか、摩耗、鋭い条痕	多方向					分銅形中央で折れたもの	
123	286	-	B	306溝(V-22)	下部欠損	凝灰岩	灰白色	0.1~0.3(緻密)	(6.0)	(1.6)	(9.5)	(8)	3	滑らか	タテ、タテナナメに浅く						
124	286	99	B	⑤区T-5	下部欠損	凝灰岩	灰白色	~0.5	(15.5)	(3.1)	(2.9)	(186)	4	正：滑らか、側：0.6~0.9ケズリ	正：ヨコナナメ、タズリはタテ						
125	286	99	B	⑤区O-20	上部欠損、下部一部剥落	安山岩?	灰白色	0.1~1.5	(4.5)	(3.5)	(2.0)	(48)	5	滑らか、条痕	正：ナナメタテ、裏：タテナナメ						
126	286	100	C	313住	両端部欠損	砂岩(第3系)	灰黄褐色	0.1~0.5	(17.9)	(11.7)	(3.5)	(1014)	3	滑らか、条痕	正：ナナメ						
127	286	100	C	379住ビット2	完形	珪化岩(中粒)	明オリブ灰色	~0.3	24.4	9.0	3.6	1240	5	滑らか、条痕	正左：タテ、右：ナナメ、裏：タテ					両端部は自然面と剥離面	
128	287	100	C	340住ビット3	先端部欠損	砂岩(第3系)	浅黄色	0.1~0.3	(20.0)	(10.2)	(6.0)	(1500)	8	滑らか、正・裏、条痕	多方向						
129	286	100	C	442住	完形	安山岩	灰色	~3.0	13.3	9.8	4.2	750	2	正・裏、条痕	多方向					側面に敲打痕	
130	287	100	C	448住	両端部欠損	安山岩(岩鏡状?)	灰黄褐色	0.3~1.0	(19.0)	(11.7)	(9.6)	(3730)	4	凹点を残す	タテ、タテナナメ					断面台形の角柱状、下端は被熱	
131	287	100	C	3379坑	割れ欠け	ヒン岩	灰白色	0.1~0.5	(18.1)	(8.1)	(6.1)	(1900)	2	滑らか、裏：浅い条痕	ナナメ					峰三角形の板状品、一部被熱、石皿が置き紙か不明	
132	286	-	C	③区B-16 III層	一部分、全体形不明	砂岩(第3系)	灰赤色	0.1~0.4	(10.8)	(6.4)	(1.7)	(140)	2	滑らか、摩耗、浅い条痕	タテを主とした多方向					表面に被熱有り、二分銅嵌合、板状	
133	286	-	C	⑤区T-5	割れ欠け	砂岩(第3系)	灰黄色	~0.2	(9.6)	(6.4)	(1.7)	(125)	3	滑らか	タテ、タテナナメ					粒度は均一、板状	

表26 擦石観察表

通し No	図版 No	P L No	出土位置	材 質	色 調	状 態	法 量				擦 り 面			備 考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部 位	数	運動方向	
134	287	101	326住	安山岩(多孔質)	灰黄褐色	完形	6.7	6.9	7.9	476	正・下・右	3	多方向	
135	287	101	326住	安山岩	灰白色	ほぼ完形	8.5	6.8	4.7	(305)	正	1	多方向	擦り面以外は自然面。裏面一部欠損。
136	287	101	338住	安山岩	灰白色	完形	14.9	6.7	4.4	740	正・裏	2	ほぼ長軸	擦痕は中央ほど強い
137	287	101	338住	安山岩	灰色	完形	5.7	4.5	3.1	102	正	1	長軸?	
138	287	101	338住	安山岩	灰色	完形	9.8	5.3	4.0	286	正	1	多方向	擦痕は中央、その他自然面
139	287	-	343住	安山岩	灰色	完形	9.7	5.2	3.3	220	正	1	長軸?	丸みをもつ面にいくつかの面が形成
140	287	-	393住	安山岩	黒褐色	完形	12.0	9.3	7.9	1030	右	1	長軸	一側面?
141	288	101	3400住	安山岩	灰黄褐色	下部欠損	(7.9)	(5.4)	(4.2)	(278)	全面(端部を除く)	4	長軸?	
142	288	-	449住	安山岩	にぶい黄色	完形	7.8	7.1	4.1	314	正・裏	4	多方向	表面の側部に面取りした擦面2ヶ所
143	288	101	449住	安山岩	黄褐色	完形	13.2	5.2	6.1	608	正	1	長軸	稜の部分に擦り面有り
144	288	-	450住	安山岩	灰黄色	1/2上部欠損	(4.3)	6.2	3.0	(101)	正	1	多方向	
145	288	101	455住	安山岩?	にぶい黄色	完形	12.1	7.3	4.7	616	正	1	多方向	
146	288	101	455住	安山岩	オリーブ黒色	2/3以上欠損	(8.4)	(8.7)	(3.7)	(410)	正・裏	2	多方向	正: 条痕有り、裏: 磨かれたよう
147	288	101	457住	安山岩	オリーブ黒色	完形	5.9	5.2	3.7	150	正・裏	2	多方向	正: 裏 わずか条痕有り
148	288	-	461住	安山岩	灰黄色	完形	7.0	6.5	3.0	180	正・裏	2	正: 長軸、裏: やや擦り	正: 明瞭
149	-	-	462住	安山岩	にぶい黄褐色	完形	9.2	7.1	4.4	318	正・裏	2	多方向	その他自然面
150	288	101	462住	安山岩	灰オリーブ色	完形	14.4	7.4	7.0	968	正	1	長軸	
151	288	101	462住	安山岩	黄灰色	完形	6.8	5.3	3.5	164	正	1	長軸	正: 明瞭
152	288	101	462住	安山岩	灰褐色	完形	12.9	8.1	7.2	990	正	1	長軸ナナメ?	
153	288	-	463住	安山岩	灰色	完形	9.9	8.8	4.8	626	正	1	長軸ナナメ	正: 摩耗顕著
154	288	-	463住	安山岩	灰色	完形	13.0	9.1	4.1	690	正・裏	2	長軸?	
155	289	101	470住	安山岩	黄灰色	完形	12.5	6.7	6.3	680	正・裏	2	多方向	
156	289	-	470住	安山岩	黄灰色	完形	10.3	7.7	5.0	539	正	1	多方向	その他、自然面
157	289	101	470住	安山岩	暗灰黄色	完形	9.7	7.4	2.9	372	正・裏	2	長軸	
158	289	101	472住	安山岩	灰色	上部欠損	(9.6)	(7.2)	4.7	(454)	正・右	2	正: 多方向、右側: 長軸?	
159	289	101	472住	安山岩	黄灰色	完形	14.6	6.7	5.2	595	正・右・左	3	長軸ナナメ	
160	289	101	473住	安山岩	灰色	完形	8.4	6.6	4.1	284	正	1	長軸ナナメ	
161	289	101	473住	安山岩	灰オリーブ色	完形	11.8	6.9	3.7	475	正	1	多方向	
162	289	101	473住	安山岩	灰色	完形	16.9	7.0	6.0	1020	正・裏・右・左	4	多方向	全体に上端部に偏る傾向有り
163	289	101	473住	安山岩	灰色	完形	12.3	10.8	3.8	722	正・裏	2	長軸・長軸ナナメ	ほぼ全面わたる擦り
164	290	101	508住	安山岩	灰黄色	完形	13.4	11.6	4.4	861	正・左・上	4	正: 長軸ナナメ	上端側面にスリとタタキ?
165	-	-	508住	安山岩	灰白色	ほぼ完形	12.2	10.9	5.6	1035	正・裏	2	多方向	その他自然面
166	290	101	522住	安山岩	にぶい黄色	完形	11.0	8.8	4.6	660	正	1	長軸ナナメ	
167	290	-	303溝	安山岩	オリーブ黄色	完形	11.8	10.9	4.4	880	正・右	2	長軸、横軸	正: 明瞭、スリまたは磨き凹み
168	290	101	3002坑	安山岩(多孔質)	灰色	上部欠損	(13.3)	(10.4)	(8.8)	(1620)	正・右	2	正: 長軸、右: 長軸、横軸	
169	290	101	3150坑	安山岩(多孔質)	灰赤色	完形	6.7	5.7	3.6	146	正・裏	2	多方向	側面は自然面、正: 明瞭
170	290	101	3205坑	安山岩	灰色	完形	9.2	6.9	3.8	275	正	1	長軸	
171	290	-	3270坑	安山岩	灰色	下部欠損	(8.1)	(6.8)	(3.4)	(320)	正・裏	3	多方向	先端のツブレは自然
172	290	-	③区B-7	安山岩?	灰色	下部欠損	(11.0)	(5.5)	(4.4)	(415)	正・右・裏・左	4	多方向	右側の一部を残し連続する
173	290	-	④区P-17	安山岩	橙色	完形	8.0	6.3	3.2	156	正・裏	多数	多方向	いくつかの使用面が側面にも続く
174	-	-	⑤区O-20	変質玄武岩	灰白色	剥片	8.6	5.3	1.0	42	正?	1?	多方向	転石を用いた擦り石の剥片である

表27 敲石観察表

通しNo.	図版No.	P L No.	出土位置	材 質	色 調	状態	法 量				敲 き 面		
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部 位	数	形 状
175	291	102	313住	安山岩	灰黄色	完形	15.0	5.1	3.2	322	先端部	1	ツブレ・剥離
176	291	102	448住	安山岩	にふい褐色	完形	10.3	8.0	5.4	486	長軸両端部	2	ツブレ・剥離
177	291	102	455住	珪化岩(原岩はヒン岩)	浅黄色	完形	13.6	7.4	3.8	605	右	1	剥離
178	291	102	455住	安山岩	灰オリーブ色	完形	10.1	7.0	4.8	405	周縁部	1	ツブレ
179	291	102	460住	斑瀾岩質閃緑岩	灰オリーブ色	完形	33.4	8.5	5.0	2440	長軸両端部	2	ツブレ
180	291	102	462住	安山岩	灰色	完形	13.8	11.5	3.1	790	右	1	ツブレ・剥離
181	291	102	472住	変質岩	灰オリーブ色	完形	16.4	8.2	5.0	871	右	1	ツブレ・剥離
182	291	102	472住	安山岩	灰褐色	完形	11.3	12.1	4.8	830	短軸両端部・正面中央	3	ツブレ・剥離
183	292	-	③区B-16	砂岩(第3系)	暗オリーブ色	完形	10.9	9.1	2.8	395	2/3周縁部	1	ツブレ・剥離
184	292	-	③区B-17付近	安山岩	灰白色	完形	7.0	3.8	2.4	90	先端部	1	ツブレ・剥離
185	292	-	④区P-17	安山岩	灰白色	完形	10.5	8.7	5.0	595	周縁部	1	ツブレ
186	292	102	603住	変質玄武岩	オリーブ黄色	完形	14.3	4.9	3.6	372	長軸両端部	2	ツブレ・剥離

表28 擦・敲石観察表

通しNa	図版Na	P L Na	出土位置	材 質	色 調	状 態	法 量				擦 り 面			敲 き 面			備 考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部 位	数	運動方向	部 位	数	形 状	
187	292	103	326住	安山岩	灰白色	完形	7.6	5.9	4.0	250	正・左	2	多方向	上部	1	ツブレ	
188	292	103	327住	安山岩	灰白色	完形	6.6	5.6	2.7	136	右	1	長軸ナナメ	右を除く周縁部	1	ツブレ	
189	292	103	335住	安山岩(多孔質)	黒褐色	完形	14.4	10.9	4.3	865	正	1	長軸ナナメ	右・左(上部一部)	2	ツブレ・剥離	
190	292	103	339住	安山岩	灰白色	完形	13.2	10.1	4.6	878	正	1	長軸ナナメ	短軸両端	2	ツブレ・剥離	
191	292	103	354住	安山岩	オリーブ灰色	完形	13.2	12.7	4.0	942	正	1	長軸のみか?	周縁部	1	ツブレ	
192	292	103	376住	安山岩	にふい黄褐色	ほぼ完形	6.3	6.6	2.2	(111)	正・裏?	2?	多方向	周縁部	1	ツブレ	
193	293	103	3400住	安山岩	灰色	完形	9.5	6.7	5.9	538	正・右・裏	3	長軸?・長軸ナナメ?	長軸両端	2	ツブレ	
194	293	103	449住	安山岩	暗灰色	一部欠損	15.2	11.1	(5.2)	(1100)	正	2	長軸ナナメ	右	1	剥離	
195	293	103	455住	安山岩	灰オリーブ色	完形	11.9	7.3	4.1	490	裏	1	長軸	上部	1	ツブレ・剥離	
196	293	103	457住	安山岩	灰オリーブ色	完形	13.8	12.8	7.0	1770	右・左	2	多方向	上部周縁	1	ツブレ・剥離	
197	293	103	470住	安山岩	灰色	完形	12.4	10.0	4.4	710	正	1	多方向	右	1	ツブレ	
198	293	103	3002坑	安山岩	灰色	完形	14.5	8.4	4.1	718	正	1	長軸・横	右・左	2	ツブレ・剥離	
199	293	-	④区A-4	安山岩	灰色	完形	7.9	4.0	3.8	218	ほぼ全体	全面	右裏左:短軸、上下:多方向	上下端部の外縁	2	ツブレ・剥離	黒色物質の付着あり

表29 凹石類観察表

通しNo	図版No	PLNo	出土位置	形状	材質	色調	状態	粒径(mm)	法量				(凹み部)機能部				その他の機能部				備考	
									長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	部位	形	状態	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	深さ(cm)		部位
200	294	104	336住	楕円形	アイサイト	灰白色	完形	0.1~2.0	12.0	15.5	3.1	5.9	1110	正	敲き・擦り	8.4	8.9	1.4	正面凹み周縁	スリ	1	石皿。置き使用。
201	294	104	354住	隅丸三角形	安山岩	褐灰色	完形	0.1~2.0	12.9	13.7	3.5	6.8	1350	正	敲き・擦り	9.1	10.5	2.8	表面	条痕	1	石鉢。置き使用。
202	294	104	395住	略円形	安山岩	灰色	完形	~3.0	7.8	7.0	5.1	5.7	386	正/裏	擦り/擦り	5.0/5.0	5.0/4.0	0.5/0.6	表面			所謂凹み石。手持ち使用。
203	294	104	411住	楕円形	安山岩	灰色	完形	0.1~2.0	19.8	15.7	4.5	9.9	3170	正/裏	敲き・擦り/敲き	12.8/7.3	11.9/7.5	4.7/1.2	表面			石鉢。置き使用。
204	294	104	413住	楕円形	安山岩	灰黄色	完形	0.1~1.0	11.4	9.2	4.0	6.1	535	正	擦り・敲き	7.5	6.2	1.8	表面			石鉢？
205	295	104	512住床下	円形	安山岩	灰色	ほぼ完形	0.1~2.0	(12.8)	13.5	2.4	5.1	(1080)	正/裏	敲き・擦り/敲き	7.2/4.9	7.4/4.5	1.6/0.6	上部側面	打ち欠き裏	1	石皿。置き使用。両面使用。
206	295	104	3056坑	不整楕円形	安山岩	明褐色	完形	~5.0	9.9	7.8	3.2	4.9	446	正/裏	擦り・敲き/擦り・敲き	5.2/4.5	3.3/3.0	0.4/0.7	表面凹み周縁	スリ	1	手持ち使用。凹み部は敲き裏が縦二ヶ所。
207	295	104	508溝	楕円形	安山岩	灰白色	完形	0.1~2.0	16.5	15.0	8.3	10.3	3060	正	擦り・敲き	8.0	7.0	1.6	裏	タタキツブシ	1	石鉢。置き使用。
208	295	104	③区H-17	楕円形	安山岩	灰色	完形	~4.0	7.8	6.8	2.8	3.9	240	正	擦り	6.1	5.2	0.5	裏			手持ち使用。
209	295	104	④区P-16	不整楕円形	安山岩	灰白色	完形	~3.0	7.1	6.5	4.4	5.2	270	正	擦り・敲き	3.0	2.8	0.5	右側			手持ち使用。
210	295	104	④区P-16	長楕円形	安山岩	灰褐色	完形	~5.0	13.0	7.4	4.7	5.7	418	正/裏	敲き/敲き	4.0/3.6	1.7/3.9	0.5/0.4				手持ち使用。細かな凹み痕の集合。
211	295	104	④区P-21	楕円形	安山岩	赤灰色	完形	0.1~1.3	9.1	8.0	3.9	5.1	418	正	敲き・擦り	6.2	5.3	0.9	表面凹み周縁	スリ	1	手持ち使用。
212	295	104	⑤区O-20	楕円形	安山岩	暗灰黄色	完形	0.2~2.0	13.0	9.1	3.7	5.5	740	正	擦り・敲き	11.6	7.7	1.1	裏			置き使用。凹み部中央は敲き、外縁は擦り。

表30 台石観察表

通しNo	図版No	PLNo	出土位置	形状	状態	材質		法量				主要な機能部			燃熱	備考		
						岩石名	粒径(mm)	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	部位	形状			形態	
213	296	105	338住	半楕円形	左側部欠損	ハンノク岩質燧石	0.1~1.5	オリーフ灰色	(18.7)	(12.5)	(4.1)	(4.5)	(1480)	正	平坦	擦り	-	
214	296	105	338住	楕円形	ほぼ完形	安山岩	0.2~1.3	灰白色	19.7	16.7	3.9	3.9	(2100)	正	平坦	擦り	-	擦り面に長軸・ヨコ方向の条痕極めて多く残る
215	296	105	338住	楕円形	ほぼ完形	安山岩	0.1~3.0	灰黄褐色	19.5	1.6	6.4	6.7	(2500)	正	平坦/凹み	擦り/敲き	-	敲打点は散漫 擦り面：長軸ナメ？
216	296	105	341住	楕円形	ほぼ完形	アイサイト	0.1~2.0	灰白色	23.3	18.6	7.2	7.6	(4560)	正/左側(2)	平坦	擦り	-	正：やや左上に明確な条痕3条有り(長軸方向)、ヨコ方向も有り
217	296	105	361住	楕円形	完形	安山岩	0.1~2.0	灰白色	20.7	18.4	7.8	8	3760	正	平坦	擦り	-	正：右半分は擦り面有り、全体に使用され磨かれた状況
218	296	105	379住	不整楕円形	完形	変質玄武岩	0.1~1.5	灰白色	38.7	23.1	12.2	13.0	14550	正(5)/裏	凹み/平坦	擦り	有り	正：摩耗面を3ヶ所に擦り面長軸ナメ
219	296	-	459住	長楕円形	完形	安山岩	~4.0	ほぼ黄褐色	18.4	8.1	10.7	10.7	2420	正	平坦	擦り	-	正：多方向
220	296	105	470住	楕円形	完形	閃緑岩	0.2~4.0	灰白色	16.7	16.8	3.5	3.8	1500	正	平坦	擦り	-	正：長軸方向？
221	296	-	470住	不整楕円形	完形	安山岩	0.2~1.5	ほぼ黄色	26.8	17.6	13.4	13.5	5890	正	平坦	擦り	-	摩耗著しい 自然面の凹凸と対象的
222	296	105	515坑	略円形	完形	安山岩	0.1~0.5	灰色	24.3	22.3	7	7.8	4700	正/左側(2)右側	平坦/凹み	擦り/敲き	-	正：中央左側に摩耗痕、脚部3ヶ所に敲打痕、擦り後敲き？
223	297	-	533住	楕円形	完形	安山岩	~5.0	灰色	19.0	14.2	6.4	6.4	2200	正	平坦	擦り	-	正：左側面なる3ヶ所に擦り面長軸ナメ
224	297	105	601住	楕円形	ほぼ完形	安山岩	0.2~5	灰褐色	35.3	27.3	9.6	12.1	(12800)	正	凹み	擦り	-	4点接合で個体
225	297	105	303溝	不整楕円形	完形	安山岩	0.1~1.8	灰オリーブ色	18.5	15.9	5.3	5.3	2660	正/裏	平坦	擦り	-	正・裏：多方向

第3章 調 査

表31 その他石器観察表

通しNo.	図版No.	PLNo.	遺物名称	材 質	色調	状 態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
44	282	98	硯	頁岩	黒色	硯池右側部分	(4.8)	(3.1)	(1.1)	(16.73)	
424住2	—	—	土器転用硯	須恵器高台環	灰褐色	底部のみ	—	—	—	—	高台環の内面転用。摩擦痕、墨痕あり。
遺構外9	—	—	土器転用硯	灰釉陶器段皿	灰白色	1/3全位	—	—	—	—	段皿内面転用。朱痕あり。
45	282	98	基石状石製品	粘板岩	黒色	完形	0.5	1.7	1.5	2.06	よく磨いている。
46	—	98	基石状石製品	粘板岩	暗灰色	完形	1.8	1.5	0.5	2.02	よく磨いている。
61	282	98	石鍋?把手部分	滑石	赤灰色	把手部	(5.6)	5.3	(1.0)	(45.36)	丁寧な磨き。孔1あり。

表32 カマド構築材観察表

通しNo.	図版No.	PLNo.	出土位置	材 質	色 調	状 態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
226	297	105	413住カマド	凝灰岩	にぶい黄橙色	一部残存	(20.7)	12.3	(7.8)	(1340)
227	297	105	508住カマド	凝灰岩	灰黄色	両端部欠損	(16.3)	(14.8)	12.0	(2400)
228	297	105	508住カマド	砂岩(第3系)	灰白色に灰褐色が層状に入る	一部残存	(20.4)	(18.0)	(7.9)	(3420)
229	297	105	508住カマド	凝灰岩	灰黄色(被熱部:赤灰色)	両端部欠損	(23.9)	16.9	(12.5)	(5050)

表33 鉄製品観察表

通しNo.	遺物名称	図版No.	PLNo.	出土位置	部 位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考	保存処理
1	鉄	298	—	302住カマド	頸部(二分割)	(4.4)/(2.7)	6.5/6.5	0.5/0.5	(13.0)	長頸鉄。断面方形。X線写真利用。	—
2	鉄	298	—	302住	鐵身部	(4.3)	0.9	(0.3)	(7.1)	長頸鑿箭鐵? X線写真利用。	—
3	鉄	298	106	321住	ほぼ全位	(10.1)	1.0/0.4/0.3	0.2/0.3/0.2	(2.5)	長頸長三角形、逆刺有り。	済
4	鉄	298	—	340住	鐵身部	(4.0)	1.0	(0.2)	(5.0)	長頸片刃箭鐵?、X線写真利用。	—
5	鉄	298	106	341住	鐵身部・頸部	(6.6)	2.3/0.5	0.3/0.3	(3.5)	短頸長三角形、逆刺無し。	済
6	鉄	298	106	502住	鐵身部	(4.9)	(1.1)/(0.8)	(0.2)/(0.3)	(4.3)	長頸片刃箭鐵?	—
7	鉄	298	106	308溝	鐵身部	(4.5)	2.9	0.3	(6.7)	短頸長三角形、逆刺有り。	済
8	鉄	298	106	3270坑	頸部	(7.8)	0.6/0.4	0.3/0.3	(3.7)	長頸鉄。	済
9	鉄	298	106	⑤a区IIIb層	ほぼ全位	(4.7)	2.7/0.7/0.4	0.4/0.4/0.4	(5.5)	短頸三角形、逆刺有り。	済
10	鉄	298	106	試掘トレンチ	鐵身部	(4.6)	1.3/0.6	0.3/0.3	(2.3)	柳葉形、逆刺有り。	済
11	刀子	298	—	321住ビット11	刃部先端	(6.1)	1.0/1.2	(0.4)/(0.5)	(11.4)	片刃。全体錆ぶくれ。	—
12	刀子	298	—	344住	刃部?	(4.5)	1.2	0.5	(15.5)	刃部?。錆ぶくれ。	—
13	刀子	298	—	361住	ほぼ全位	(4.2)/(7.1)	0.7/1.2/0.5	(0.3)/(0.5)/(0.4)	(13.2)	推定全長(15.0)。片刃・片開。	—
14	刀子	298	106	412住床上	完形	18.1	1.5/2.0/1.3/0.9	0.3/0.4/0.4/0.3	12.1	刃部砥ぎ減り顕著。	済
15	刀子	298	106	413住カマド付近	基部	(5.2)	1.6/1.1	0.3/0.3	(2.7)		済
16	刀子	298	—	413住	ほぼ全位	(4.3)/(5.1)	1.0/0.6	0.4/0.4	(11.3)	接合は不可。図上復元。X線写真利用。	—
17	刀子	298	—	463住カマド	全位	(7.1)	0.9/0.4	0.3/0.1	(6.2)	二分割。小型。錆化顕著。	—
18	刀子	298	106	468住床上	ほぼ完形	17.2	1.0/0.6	0.3/0.3	7.5	両角タイプ。刃部研ぎ減り。	済
19	刀子	298	106	468住	両端部欠損	(17.7)	1.2/0.8	0.3/0.3	(7.4)	両開タイプ。刃部研ぎ減り。	済
20	刀子	298	106	470住	刃部・基部	(4.9)	0.7/1.4/1.0	0.2/(1.1)/0.6	(5.7)	柄の木質が残る。	済
21	刀子	298	106	502住	基部	(9.2)	1.7/1.3	(0.6)/0.4	(15.9)	刃部欠損。	済
22	刀子	298	106	303溝	刃部・基部	(4.9)	0.7/1.2/0.5	0.2/0.9/0.2	(4.7)	刃部の止金具(鉄製)が残る。柄の木質有り。	—
23	刀子	298	—	4503坑	基部?	(3.7)	0.7/0.9	0.3/0.2	(1.1)		済
24	刀子	298	—	⑤区III層	刃部	(7.1)	1.5	0.4	(19.2)	片刃。錆化顕著。	—
25	刀子	298	—	⑤区IIIb層	刃部先端	(4.6)	1.0	0.4	(6.1)	片刃。錆化顕著。	—
26	紡錘車	299	106	520住カマド焼土	錘部	4.5	4.3	0.5	10.3	孔径0.45cm。	済
27	紡錘車	299	106	⑤区III層	錘・軸部	5.5	5.4	0.4	(12.6)	軸部:残存長2.55cm 厚さ0.4cm。	済
28	斧	299	106	621坑	ほぼ完形	8.7	(3.1)/4.0	1.5/0.9	(100.0)	有袋有肩鉄斧。外部剥落気味。	済
29	鋸	299	106	511住	刃部	(3.7)	2.6	0.2	(6.6)	片刃のみ観察できる。目立ては均一に細かい。	—
30	鑿?	299	106	508住	刃部	(4.8)	1.3/2.0	0.8/0.4	(13.9)	下方部は内湾する。錆化顕著。X線写真利用。	—
31	釘	299	—	392住	軸部	(2.7)	0.6	0.3	(2.2)	断面矩形。全体錆化。	—
32	釘	299	—	455住	軸部	(4.5)	0.5	0.4	(4.8)	土砂付着。断面矩形。全体錆化。	—
33	釘	299	—	508住	軸部	(4.6)	0.6	0.3	(5.2)	断面矩形。錆化顕著。	—

通し No.	遺物名称	図版 No.	P L No.	出土位置	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考	保存処理
34	釘	299	—	508住	基部-軸部	(2.7)/(2.5)	0.6/0.5	0.5/0.4	(7.6)	ズレて錆化結合、X線写真により図上で合成。	—
35	釘	299	106	621坑	軸部-先端部	(9.3)	0.6	0.3	(11.7)	推定長9.3cm。基部付近やや歪む。断面矩形。錆化顕著。	—
36	釘	299	106	⑤区南西壁	軸部-先端部	(6.6)	0.5	0.4	(4.7)	推定長6.9cm。体部中程で歪む。断面矩形。	—
37	釘	299	106	⑤区南西壁	ほぼ完形	(4.9)	0.4	0.4	(2.3)	推定長5.25cm。基部は一方に僅か折れる。体部中程で曲がる。	—
38	板状品	299	106	523住	完形?	5.5	7.3	0.3	14.8	金具?	済
39	板状品	299	106	379住	不明	(7.9)	(0.9)/(2.2)/(1.7)	0.1/0.1/0.1	(9.3)	表面に2~10mm程の木質のこる。両端に2~3mmの孔2。	—
40	棒状品	299	106	413住	不明	(2.4)	2.9	0.6	(2.4)	T字状をなす。	済
41	棒状品	299	—	509住	完形?	8.5	1.8	0.2/0.2/0.2	(25.6)	住居覆土出土だが、混入の可能性有り。	—
42	不明板状品	299	106	313住	不明	(6.5)	(5.5)	(0.5)	(16.2)		—
43	不明板状品	299	—	321住	不明	(2.8)	2.2	0.5	(4.6)		—
44	不明棒状品	299	—	344住	不明	(3.3)	1.5	0.6	(8.7)	断面矩形。錆化顕著。X線写真利用。	—
45	不明棒状品	299	—	③区B-16	不明	11.7	0.7/2.7	1.3/1.0	(168.0)	重量感ある板状品。左端尖り、右端角形。	—

表34 銅製品・銭貨観察表

通し No.	図版 No.	P L No.	遺物名称	出土位置	部位・状態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考	保存処理
46	300	106	帯金具(巡方)	520住	表金具	2.4	2.6	0.3	(4.3)	垂孔0.6×2.4cm。外鋳式?	済
63	300	106	帯金具(巡方)	520住	表金具	2.4	2.6	0.4	(3.1)	垂孔0.6×2.4cm。外鋳式?	済
47	300	106	耳環	4531坑	半欠	4.6	(3.4)	0.7	(19.7)	箔剥落。	済
48	300	106	耳環	456坑	ほぼ完形	2.6	2.9	0.5	(4.9)	箔剥落。	済
49	300	106	耳環	459住	ほぼ完形	2.3	2.6	0.5	(6.7)	箔一部残る。	済
50	300	106	耳環	③区H-6	ほぼ完形	2.0	2.1	0.5	(4.0)	箔残る。	済
51	300	106	耳環	⑤区III層	ほぼ完形	2.9	3.3	0.8	(27.1)	箔一部残る。	済
52	300	106	飾り金具	515住	ほぼ完形	1.5	1.3	0.1	(0.5)	垂れ飾り?小形板に小孔。緑青。	済
53	300	106	和同開珎	⑥区III層	1/4(『開』)欠損	2.4	2.4	1.5	1.2	初鑄年708	済
54	300	106	嘉祐通寶	⑥区IIIb層	一部欠損	2.3	2.3	1.0	1.4	初鑄年1056	
55	—	106	嘉祐通寶	⑥区	一部欠損	2.3	2.3	1.3	2.8	初鑄年1056	
56	300	106	熙寧元寶	⑥区IIIb層	完形	2.4	2.4	1.4	3.0	初鑄年1068	
57	300	106	紹聖元寶	501溝	完形	2.4	2.4	1.3	3.2	初鑄年1094	
58	—	—	寛永通寶	⑤区O-20	1/2(『永』)欠損	1.7	2.3	1.0	1.8		
59	—	—	不明2枚	近世墓3390坑	ほぼ完形(二枚接着)	2.5	2.4	3.0	6.0		
60	—	—	寛永通寶	近世墓3390坑	ほぼ完形	2.5	2.5	3.2	3.7		
61	—	—	寛永通寶	③区H-17	1/2欠損	2.7	2.0	1.1	1.8		
62	—	—	寛永通寶	近世墓④区U-23	完形	2.8	2.8	1.3	5.1		

表35 羽口観察表

通し No.	図版 No.	P L No.	出土位置	材質	胎土	焼成	状態	個数	長さ(cm)	外径(cm)	口径(cm)	重量(g)	磁着度	メタル度
1	124	107	337住	酸化炎焼成	粗	やや良	(高杯脚部)径1/4	1				26.19	2	無
2	—	—	343住	酸化炎焼成	やや密	良好?	先端部	1	(2.3)	—	(2.6)	15.82	2	無
3	—	—	414住	酸化炎焼成	やや粗	良好	先端部	4				128.35	0~4	無
4	—	—	417住	酸化炎焼成	やや密	良好?	先端部 内径1/4	1	(3.3)	—	(2.4)	8.79	4	無
5	—	—	420住	酸化炎焼成	やや密	良好?	先端部	1	(4.6)	(5.4)	—	29.38	3	無
6	—	—	420住	酸化炎焼成	やや密	良好?	基部	1	(4.0)	(6.0)	(3.6)	23.51	2	無
7	—	—	430住	酸化炎焼成	やや密	不明	先端部	1	(3.0)	—	—	11.30	3	無
8	124	107	449住	土師高杯転用	砂やや有	良好	転用羽口(高杯脚部)径1/4	1	(6.6)			43.67	1	無
9	—	—	508住	酸化炎焼成	やや密	やや不良	先端部	1				27.37	3	無
10	—	—	③区	酸化炎焼成	やや密	良好?	先端部 1/4	1	(1.8)	(4.2)	(2.0)	6.52	4	無
11	—	—	③区B-8	酸化炎焼成	やや粗	良好	先端部 外径1/6	1	—	—	—	—	—	—

第3章 調 査

通し No.	図版 No.	P L No.	出土位置	材 質	胎 土	焼 成	状 態	個数	長さ(cm)	外径(cm)	口径(cm)	重量(g)	磁着度	メタル度
12	-	-	③区B-16	酸化炎焼成	やや密	良好	先端部 外径1/6以下	1	-	-	-	-	-	-
13	124	107	⑤区O-20	酸化炎焼成	やや粗	良好?	先端部 1/2	1				48.25	4	無
14	-	-	⑤区IIIb層	酸化炎焼成	やや密	良好?	先端部	1				30.85	3	無
15	-	-	⑤区IIIb層	酸化炎焼成	やや密	良好	身部 内径1/3	1				36.44	3	無

表36 鍛冶滓観察表

通しNo.	図版No.	P L No.	遺物名称	出土位置	残存率	個数	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	磁着度	メタル度	備 考
16	300	107	鍛冶滓	327住	破片	1	6.28	3.40	3.00	1.00	1	無	
17	300	107	鍛冶滓	335住	破片	1	12.74	4.00	3.10	1.60	3	無	ガラス質滓
18	-	-	鍛冶滓	343住カマド	破片	1	0.85	1.80	1.00	1.20	1	無	
19	300	107	椀形鍛冶滓	343住	破片	1	40.19	3.40	3.75	3.00	4	無	
20	-	-	椀形鍛冶滓	343住	破片	1	20.40	3.30	2.10	1.90	1	無	
21	300	107	椀形鍛冶滓	391住	破片	1	30.94	4.40	3.00	2.50	2	無	
22	301	107	含鉄椀形鍛冶滓	412住カマド付近	50%	1	191.96	6.00	5.30	4.00	8	M	
23	301	107	椀形鍛冶滓	429住	破片	1	18.86	5.10	4.70	1.00	3	無	
24	301	107	椀形鍛冶滓	438住	40%	1	156.29	6.45	6.90	3.90	8	無	錆化
25	301	107	椀形鍛冶滓	442住	破片	1	29.21	4.80	3.90	1.50	5	無	
26	-	-	椀形鍛冶滓	442住	破片	1	33.66	4.10	3.80	1.70	4	無	
27	301	107	椀形鍛冶滓	468住	70%	1	333.32	10.50	9.50	2.40	7	無	
28	301	107	含鉄椀形鍛冶滓	468住	50%	1	20.21	3.25	4.00	1.60	6	H	
29	301	107	含鉄椀形鍛冶滓	511住	90%	1	631.40	14.00	10.20	2.30	8	H	破面数1
30	301	107	椀形鍛冶滓	511住	50%	1	188.94	9.60	6.50	4.50	3	無	
31	301	107	椀形鍛冶滓	306建ビット	破片	1	35.76	3.95	2.80	2.40	3	無	
32	-	-	椀形鍛冶滓	306建ビット	破片	1	15.70	2.90	1.80	1.40	3	無	
33	301	107	椀形鍛冶滓	3205坑炭層	30%	1	60.03	6.35	5.50	1.40	4	無	錆化
34	-	-	椀形鍛冶滓	3205坑炭層	破片	1	15.84	4.10	2.90	1.50	2	無	錆化
35	301	107	椀形鍛冶滓	494坑	60%	1	279.62	9.80	6.50	3.20	4	無	破面数1
36	-	-	含鉄椀形鍛冶滓	③区U-10	20%	1	101.21	6.40	4.40	3.60	8	H	
37	-	-	椀形鍛冶滓	③区B-18	-	1	134.29	8.00	5.30	2.30	4	無	
38	-	-	鍛冶滓	③区B-18	-	7	15.94	-	-	-	2	無	
39	-	-	椀形鍛冶滓	③区B-19	-	1	49.80	8.70	7.50	1.10	2	無	
40	-	-	椀形鍛冶滓	③区G-6	-	2	206.93	-	-	-	2	無	
41	-	-	鍛冶滓	③区G-6	-	1	29.24	4.50	3.60	2.80	2	無	
42	-	-	鍛冶滓	③区U-10	破片	1	11.46	3.70	3.00	1.50	4	無	羽口先端付
43	-	-	椀形鍛冶滓	⑤区	40%	1	30.60	4.40	3.60	1.80	5	無	破面数2

表37 鹿角・貝製品観察表

通しNo.	図版No.	P L No.	遺物名称	整理番号	出土位置	材 質	色 調	状 態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
1	300	106	鹿角加工品		③区A-15	鹿角	黄白色	一部欠損	5.1	(3.7)	2.5	(24.7)
2	300	106	貝加工品		④区 表土	二枚貝(ハマグリ?)	外面 褐色	表面剥落	(2.1)	(2.0)	(0.4)	(1.95)

表38 遺構別遺物一覧

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
302住	床面	6 C中				管玉	9	○										
"	カマド	"							鉄鍍	1	○							
"		"							鉄鍍	2	○							
306住		6 C中~後				白玉	13	○										
307住		7 C前、以前	土器片板	41	○													
309住		5 C後	棒状土製品	67	○													
310住		5 C後、以前				白玉	14	○										

第1節 国分寺周辺遺跡群

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
313住		弥生後期				軽石製品	47											
"		"				砥石	126	○										
"		"				敲石	175	○										
"		"							不明板状品	42	○							
"		"																ベンガラ
315住		古墳中期	ミニチュア土器	14	○													
317住	カマド	6 C後	ミニチュア土器	15	○													
"		"	ミニチュア土器	16	○													
"	カマド	"	土製円板	59	○													
320住	床上	5 C後				紡錘車	1	○										
"		"				模・勾玉	36	○										
"	貼り床	"				砥石	106	○										
321住		5 C中～後				勾玉	11	○										
"		"				白玉	15	○										
"		"				白玉	16	○										
"		"				模・管玉	34	○										
"		"				軽石製品	48											
"		"							鉄鏃	3	○							
"	ピット11	"							刀子	11	○							
"		"							不明板状品	43	○							
"	No.1	"																稲粃
"	No.2	"																稲粃
"	No.3	"																稲粃
326住	ピット1付近	7 C初～前	丸玉	7	○													
"		"				擦石	134	○										
"		"				擦石	135	○										
"		"				擦・敲石	187	○										
327住		5 C末～6 C前				軽石製品	49											
"		"				編物石9個	65-73	○										
"		"				砥石	112	○										
"		"				擦・敲石	188	○										
"		"										鍛冶滓	16	○				
328住		8 C後													平瓦	1		
330住		古墳前期	ミニチュア土器	17	○													
331住		7 C前	土錘	10	○													
335住		6 C前、以前				石錘	62	○										
"		"				石錘	63	○										
"	ピット1	"				擦・敲石	189	○										
"		"										鍛冶滓	17	○				
336住		6 C中～後	ミニチュア土器	19	○													
"		"	土器片板	42	○													
"		"				砥石	113	○										
"		"				凹石	200	○										
337住		5 C末～6 C前										羽口	1	○				
338住		5 C後～6 C初				擦石	136	○										
"		"				擦石	137	○										
"		"				擦石	138	○										
"		"				台石	213	○										
"		"				台石	214	○										
"		"				台石	215	○										
339住		5 C中～後				勾玉	12	○										
"		"				擦・敲石	190	○										
341住	ピット1	6 C中～後	ミニチュア土器	20	○													

第3章 調査

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
341住		6 C中～後				台石	216	○										
"		"							鉄 鋸	5	○							
342住		6 C中～後				白玉	18	○										
"		"				白玉	19	○										
343住		6 C前～中				擦石	139	○										
"		"										羽口	2					
"	火床	"										鍛冶滓	18					
"		"										鍛冶滓	19	○				
"		"										鍛冶滓	20					
344住		6 C後～末	土製円板	60	○													
"		"				軽石製品	53	○										
"		"							刀子	12	○							
"		"							不明棒状品	44	○							
347住		6 C中～後	ミニチュア土器	18	○													
350住		6 C前～後				紡錘車	2	○										
354住		6 C中				砥石	114	○										
"		"				擦・敲石	191	○										
"		"				凹石	201	○										
358住		6 C前	土器片板	43	○													
359住		6 C後～末	ミニチュア土器	21	○													
"		"	土器片板	44	○													
"		"				紡錘車	3	○										
361住		9 C中				台石	217	○										
"		"							刀子	13	○							
363住	床直	8 C前～中													平瓦	2	○	
366住		5 C中～後	ミニチュア土器	22	○													
"		"				白玉	20	○										
368住		7 C初～前	ミニチュア土器	23	○													
"		"	ミニチュア土器	24	○													
"		"	ミニチュア土器	25	○													
"		"				軽石製品	54											
"		"				砥石	115	○										
369住	床直	5 C中～後													平瓦	3	○	
370住		5 C後～末																モモ種子
371住		5 C後	ミニチュア土器	26	○													
"		"	ミニチュア土器	27	○													
"		"	土器片板	45	○													
"		"	土器片板	46	○													
"		"	土器片板	47	○													
"		"	土器片板	48	○													
"		"	土器片板	49	○													
"		"				白玉	21	○										
"		"				白玉	22	○										
373住		8 C中～後	紡錘車	1	○													
374住		7 C初～前				白玉	23	○										
"		"				小玉	33	○										
376住		5 C後～6 C初				擦・敲石	192	○										
379住	ビット3	5 C後～6 C初				砥石	127	○										
"		"				台石	218	○										
"		"							板状品	39	○							
383住		6 C前～中	勾玉	8	○													
"		"				軽石製品	55	○										
391住		7 C代	匙形土製品	63	○													

第1節 国分寺周辺遺跡群

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
391住		7 C 代										鍛冶滓	21	○				
392住		6 C 中～後							釘	31	○							
393住		5 C 後～6 C 初	土製円板?	61	○													
"	ビット4	"				擦石	140	○										
395住		5 C 後				砥石	107	○										
"		"				凹石	202	○										
396住		7 C 前				編物石5個	74-78											
"	カマド横	"				砥石	116	○										
398住		5 C 前～中	ミニチュア土器	28	○													
3400住		5 C 中～後	紡錘車	2	○													
"		"	ミニチュア土器	29	○													
"		"	土器片板	50	○													
"		"	土器片板	51	○													
"		"	土器片板	52	○													
"		"	匙形土製品	64	○													
"		"				白玉	17	○										
"	カマド	"				模・剣形	38	○										
"		"				軽石製品	50	○										
"	カマド付近	"				軽石製品	51											
"		"				軽石製品	52	○										
"		"				編物石5個	79-83											
"	ビット3	"				砥石	128	○										
"		"				擦石	141	○										
"		"				擦・敲石	193	○										
"		"							鉄鏝	4	○							
411住		6 C 前～中				凹石	203	○										
412住		10 C 中～後	板状土製品	62	○													
"	床上	"							刀子	14	○							
"	カマド付近	"										鍛冶滓	22	○				
413住	床上	9 C 後	土錘	11	○													
"		"				凹石	204	○										
"	カマド	"				カマド材	226	○										
"	カマド付近	"							刀子	15	○							
"		"							刀子	16	○							
"		"							棒状品	40	○							
"		"													丸瓦	4		
"		"													丸瓦	5		
414住		6 C 前～中	紡錘車	3	○													
"		"	ミニチュア土器	30	○													
"		"										羽口	3					
417住		8 C 代	ミニチュア土器	31	○													
"		"																
420住		6 C 中～後				編物石12個	84-95											
"		"										羽口	5					
"		"										羽口	6					
423住		6 C 後																ベンガラ
427住		8 C 前	ミニチュア土器	32	○													
429住		8 C 代										鍛冶滓	23	○				
430住		7 C 中～8 C 初										羽口						
431住		9 C 初～前	紡錘車	4	○													
432住		7 C 代				軽石製品	56	○										
437住	414住床下	6 C 後				編物石10個	96-106											
438住		古墳後期										鍛冶滓	24	○				

第3章 調 査

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
441住		7 C前				紡錘車	4	○										
442住		5 C中	土錘	12	○													
"	"	"				砥石	129	○										
"	"	"										鍛冶滓	25	○				
"	"	"										鍛冶滓	26					
443住		6 C前	管玉	9	○													
445住		7 C中				白玉	24	○										
447住		6 C後				白玉	25	○										
"	"	"				白玉	26	○										
"	"	"				白玉	27	○										
"	"	"				白玉	28	○										
448住	カマド床下	8 C初～前				基石状	45	○										
"	"	"				砥石	130	○										
"	"	"				敲石	176	○										
449住		7 C初～前				白玉	29	○										
"	床下	"				基石状	46	○										
"	"	"				擦石	142	○										
"	"	"				擦石	143	○										
"	"	"				擦・敲石	194	○										
"	"	"										転用羽口	8	○				
"	カマド付近	"																モモ種子
450住		7 C中、以後				擦石	144	○										
455住		7 C後				擦石	145	○										
"	"	"				擦石	146	○										
"	"	"				敲石	177	○										
"	"	"				敲石	178	○										
"	"	"				擦・敲石	195	○										
"	"	"							釘	32	○							
457住		弥生後期				擦石	147	○										
"	"	"				擦・敲石	196	○										
458住		7 C代	ミニチュア土器	33	○													
459住		7 C中				台石	219	○										
"	"	"							耳環	49	○							
460住		7 C中				敲石	179	○										
461住	ビット3	8 C中				擦石	148	○										
462住		9 C後				軽石製品	57	○										
"	"	"				擦石	149											
"	"	"				擦石	150	○										
"	"	"				擦石	151	○										
"	"	"				擦石	152	○										
"	"	"				敲石	180	○										
463住		9 C中				擦石	153	○										
"	"	"				擦石	154	○										
"	カマド	"							刀子	17	○							
467住		弥生後期				軽石製品	58	○										
468住		8 C中～後				軽石製品	59	○										
"	床上	"							刀子	18	○							
"	"	"							刀子	19	○							
"	"	"										鍛冶滓	27	○				
"	"	"										鍛冶滓	28	○				
470住		6 C中				白玉	30	○										
"	"	"				擦石	155	○										
"	"	"				擦石	156	○										

第1節 国分寺周辺遺跡群

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
470住		6 C中				擦石	157	○										
"		"				擦・敲石	197	○										
"		"				台石	220	○										
"		"				台石	221	○										
"		"							刀子	20	○							
471住		古墳後期				砥石	117	○										
472住		7 C代				擦石	158	○										
"		"				擦石	159	○										
"		"				敲石	181	○										
"		"				敲石	182	○										
473住		6 C後				擦石	160	○										
"		"				擦石	161	○										
"		"				擦石	162	○										
"		"				擦石	163	○										
502住		9 C後~10C前							鉄鍬	6	○							
"		"							刀子	21	○							
505住		9 C中~後				砥石	118	○										
506住		9 C後				砥石	119	○										
"	カマド、他	"													平16丸2	6~23	○	
508住		8 C中~後				擦石	164	○										
"		"				擦石	165											
"	カマド	"				カマド材	227	○										
"	カマド	"				カマド材	228	○										
"	カマド	"				カマド材	229	○										
"	"	"							鑿	30	○							
"	"	"							釘	33	○							
"	"	"							釘	34	○							
"	"	"										羽口	9					
"	"	"													平瓦	24		
509住		7 C後							棒状品	41	○							
511住		10C後~11C前							鋸	29	○							
"		"										鍛冶滓	29	○				
"		"										鍛冶滓	30	○				
"		"													丸瓦	25	○	
"	カマド	"													丸瓦	26	○	
"	カマド	"													丸瓦	27	○	
"	"	"													丸瓦	28		
"	カマド	"													平瓦	29		
"	カマド	"													平瓦	30		
512住	床下	5 C後				凹石	205	○										
"		"													平瓦	31	○	
514住	カマド	9 C初~前													平瓦	32	○	
515住		8 C中~後							飾り金具	52	○							
"		"													平瓦	33	○	
517住		9 C前	土器片板	53	○										平瓦	34	○	
"		"																
520住		8 C前~中				砥石	108	○										
"	カマド焼土	"							紡錘車	26	○							
"		"							帯金具(巡方)	46	○							
"		"							帯金具(巡方)	63	○							
522住		6 C中				砥石	120	○										
"		"				擦石	166	○										
523住		8 C後							板状品	38	○							

第3章 調査

遺構名	地点名	時期	土製品	No.	図化	石器類	No.	図化	金属製品	No.	図化	鍛冶遺物	No.	図化	瓦	No.	図化	環境遺物
533住		弥生後期				台石	223	○										
601住		6 C前~中				台石	224	○										
603住		8 C末~9 C初				敲石	186	○										
606住		8 C中~後				砥石	121	○										
3002坑		古墳後期				擦石	168	○										
"		"				擦・敲石	198	○										
3056坑		5 C後				白玉	31	○										
"		"				凹石	206	○										
3100坑		古墳後期	紡錘車	5	○													
3150坑		8 C後				擦石	169	○										
3182坑		奈良平安	土器片板	55	○													
3205坑		古墳後期				擦石	170	○										
"	炭層	"										鍛冶滓	33	○				
"	炭層	"										鍛冶滓	34					
3270坑		古墳以後				擦石	171	○										
"		"							鉄鏃	8	○							
3330坑		古墳以後	ミニチュア土器	35	○													
3379坑		古墳後期				砥石	131	○										
456坑		6 C後							耳環	48	○							
494坑		奈良平安?										鍛冶滓	35	○				
4503坑		9 C中~後							刀子	23	○							
"		"													丸瓦	36		
4531坑		古墳後期							耳環	47	○							
515坑		9 C				台石	222	○										
621坑		11C後							斧	28	○							
"		"							釘	35	○							
302溝		6 C				剣	40	○										
"		"				砥石	110	○										
303溝		弥生後期	ミニチュア土器	34	○													
"	G-2	"				紡錘車	5	○										
"		"				擦石	167	○										
"		"				台石	225	○										
"		"							刀子	22	○							
304溝		古墳前期				軽石製品	60	○										
"		"				砥石	111	○										
306溝	V-22	6 C				砥石	123	○										
308溝		5 C後、以前				模・円板	37	○										
"		"				模・剣形	39	○										
"		"				模・剣形	41	○										
"		"				模・剣形	42	○										
"		"							鉄 鏃	7	○							
402溝		6 C後、以前													平瓦	37		
501溝		11C以後							紹聖元宝	57	○							
"		"													平瓦	38		
508溝		8 C前				紡錘車	6	○										
"		"				凹石	207	○										
301建	ビット3	古墳後期				砥石	109	○										
303建		奈良	土器片板	54	○													
306建		7 C以後										鍛冶滓	31	○				
"		"										鍛冶滓	32					
308建		平安				砥石	122	○										
SH301		平安以後													平瓦	35	○	

第2節 うえだじょうあと 上田城跡

1 遺跡の概観

上田城は、天正11年（1583）戦国時代の動乱の中、小県郡の統一を目指す真田昌幸により築かれた梯郭式の平城である。真田昌幸時代の上田城は関ヶ原の戦いの直後徳川側によって破却を受けるが、後に領主となった仙石忠政により復興され、仙石・松平氏時代の改修・明治維新以降の紆余曲折を経て今日に至っている。真田氏時代の上田城については不明の点も多いが、基本的な構造や規模などは仙石氏時代に踏襲されたものと考えられている。

城は千曲川を望む段丘崖上に位置し、本丸・二の丸は南を除く三方が堀で囲まれ、南面は比高差13m程の段丘崖を自然の要害として取り込んでいる。段丘崖下は尾ヶ淵と呼ばれる低位段丘で、絵図面では河川が描かれ川原や田畑と記されている。

北陸新幹線に伴う発掘調査はこの低位段丘面で、上田市天神2丁目1924他が調査地点である（図303）。

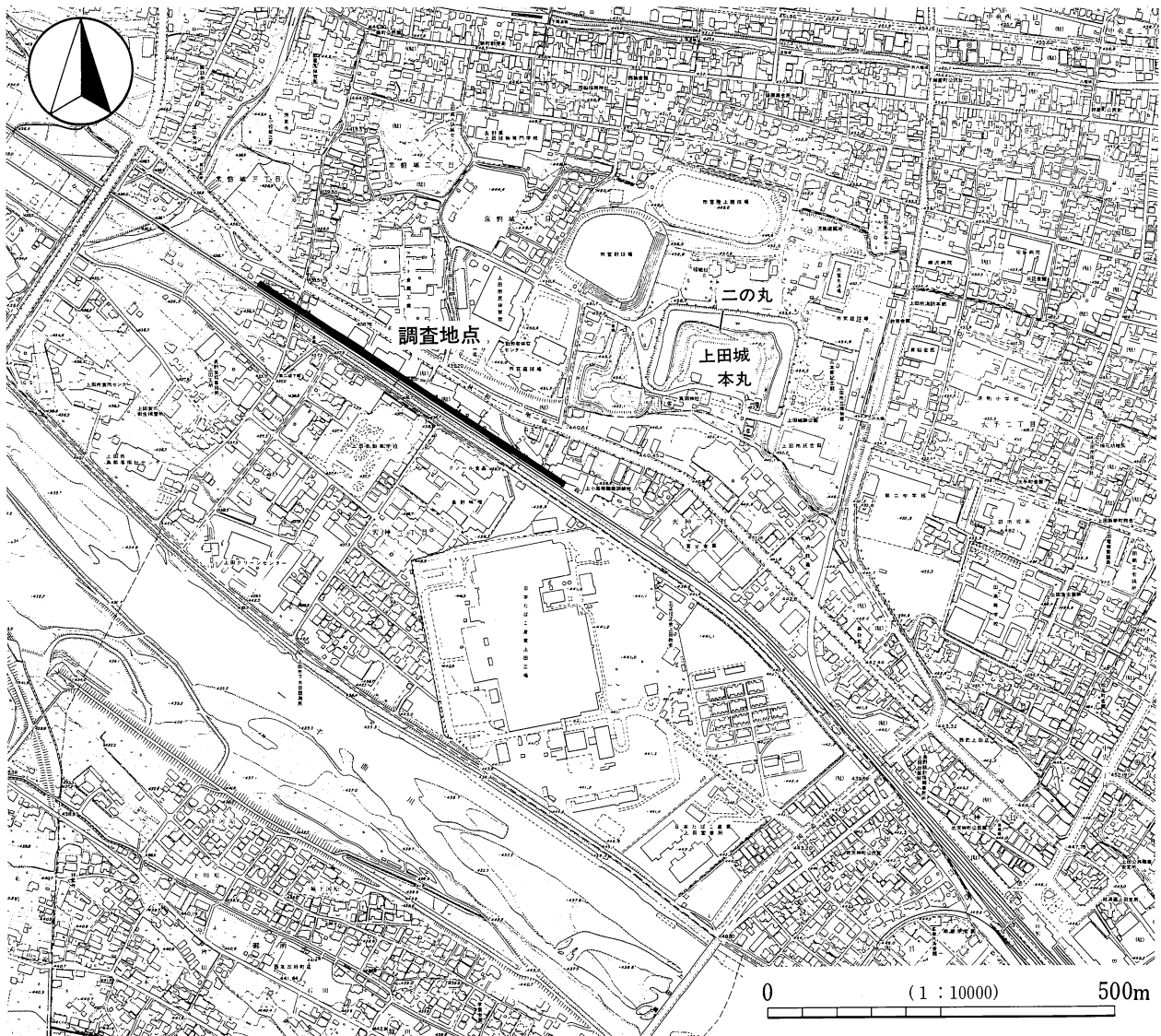


図303 遺跡周辺

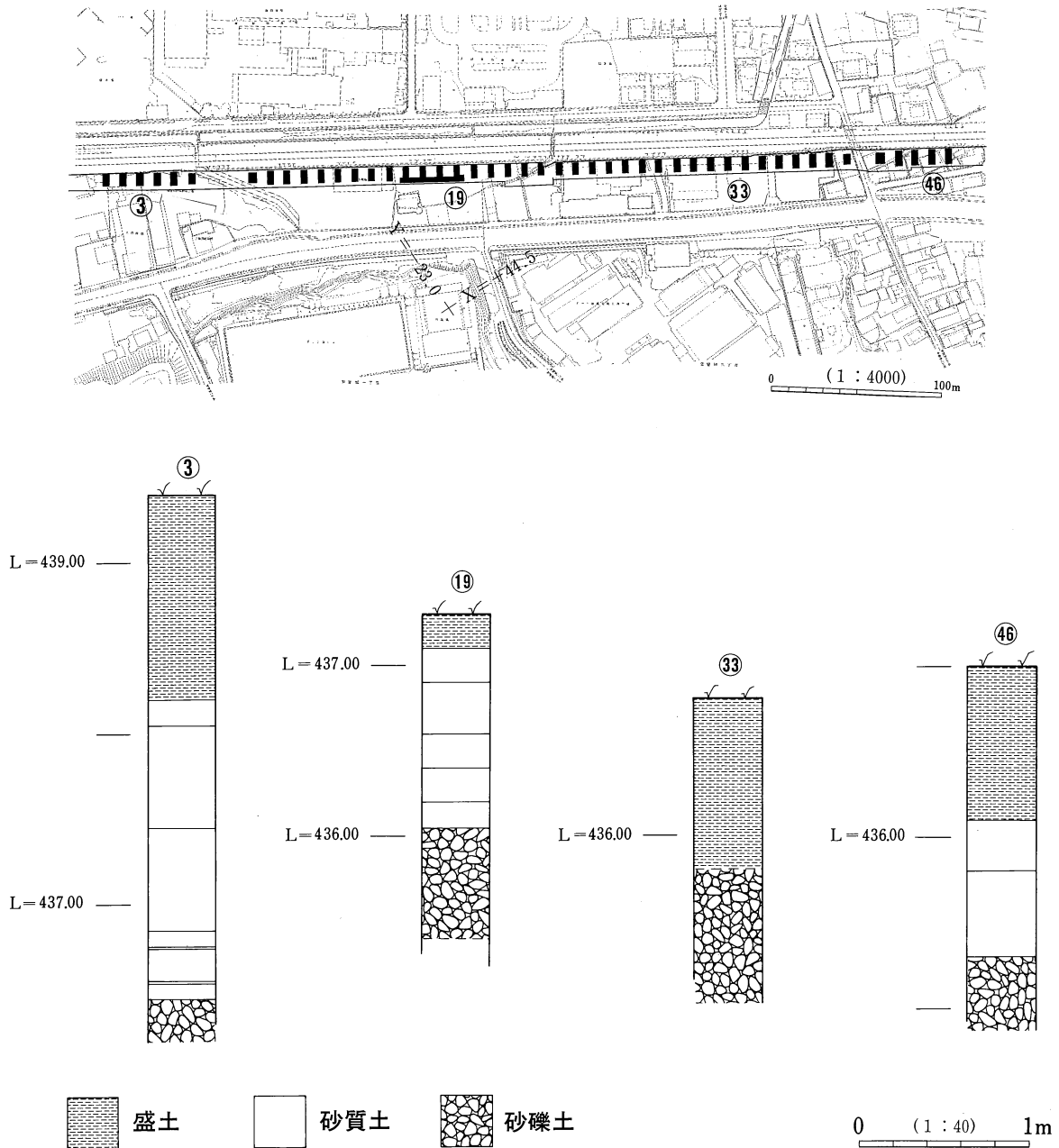


図304 トレンチ設定と基本土層

2 調査の経過と概要

上田城の縄張りは前述したように千曲川の段丘崖上に設定され、それに伴う城下町も城の東側から北側にかけて広がっている。上田城の本丸・二の丸の大部分は国の史跡指定地であるが、更に城下町や南面の段丘崖なども含んで埋蔵文化財包蔵地として周知されている。

上田駅を出た北陸新幹線はしばらくの間在来線と並行した後、市内塩尻地区で五里ヶ峯トンネルに入り長野へと向かう。この在来線と並行する上田駅西側は上田城崖下の千曲川低位段丘面にあたるため、調査対象となった(図304)。

調査地点は絵図面などの文献資料や周辺の状況などからみて上田城に關係する遺構等の存在は薄いものと想定された。また、調査地が在来線に隣接するため全面的な調査を行うには在来線の安全確保などについて十分な措置が必要であった。そこで、先ず部分的な試掘調査を行い、その結果によりその後の扱いを協議することとした。

試掘調査は平成5年9月に行われ、砂層・砂礫層が連続して堆積する状況が確認され千曲川の氾濫原の広がりと考えられた。なお、遺構・遺物は検出されなかった。この調査結果をもとに公団・県教委・埋文センターによる三者協議で、残りの調査対象地については本線工事に伴って実施していくこととなった。

調査は橋脚部分での確認を主として平成6年度中に断続的に実施された。調査結果は試掘調査と同様な河川氾濫原の堆積層を確認したのみであった。

3 基本土層

調査範囲は延長500mに及ぶが、河川氾濫による堆積層である砂層・砂礫層の互層という点では同一の様相を示す(図304)。砂層はシルト質や、数センチから拳大程度の礫を含む粗粒の層で、砂礫層には人頭大程度の礫が多量に包含されている。最上部の盛土以外では土壌化した土層は見られず、調査地点は常に河川の氾濫原であったと言えよう。

4 まとめ

上田城の調査は市街地の在来線隣接という悪条件の中の調査ではあったが、所期の目的は達成された。調査では千曲川と考えられる氾濫原の状況が明らかとなった。このことは、松平氏時代の享保17(1732)年5月に起こった千曲川の洪水により本丸や二の丸の南側崖が大きく崩壊し、石垣の修復を幕府に願い出た時の絵図面の状況とも一致する。また、それ以前の正保4(1647)年や元和年間の絵図面でも南側崖下の位置に河川や河原などの記載があることから、上田城の南段丘崖下は常に千曲川の影響を受けやすい状況であったものと想定できよう。尼ヶ淵は自然の要害としての意味はあったが、城本来の縄張りとしては組み込まれていないものと言えよう。

参考文献

上田市立博物館 1988 『郷土の歴史 上田城』

上田市教育委員会 1992・1993・1997 『史跡上田城跡』

第3節 風呂川古墳

1 遺跡の概観

所 在 風呂川古墳(図305-1)は、上田市秋和字風呂川1129番地に所在する。千曲川右岸、虚空蔵山の山裾の緩斜面上に立地している。

調査前の状況 墳丘は地権者が削土し、消滅している。しかし公図上に略円形の地籍があり、地権者の記憶とも一致することから、古墳の位置は上記地番に確定できている。

文献の記述 『小縣郡史』(小縣郡役所1922)には「秋和區風呂川の高塚よりは、鐵直刀總長三尺六寸五分の太刀を出せり。小縣郡出土の直刀中、現時最長なり。」とあり、112cm余りの太刀が出土したとする。

上田市秋和八幡大蔵京古墳の実測調査(常木他1986)には、参考資料として塩尻小学校所蔵の宮原古墳出土とする18口の直刀のうち、5口を実測している。いずれも古墳時代後期6~7世紀代所産とみていて、そのうち1口を『小縣郡史』中の風呂川古墳出土の直刀の記述と極めてよく類似することから、風呂川古墳出土品と推定している。

『長野県史「遺跡地名表」(以下、県史)』(長野県史刊行会1981)には、「円墳、横穴式石室〈伝〉直刀」と紹介され、後期古墳の様相を示している。

しかし、これらの文献はいずれも確証のある調査や遺物からの記述ではないため、本来の風呂川古墳の姿を正確に表わしているとは言いにくい。

周辺の遺跡 まず風呂川古墳周辺の古墳について概観する(図305)。上田市の西北部、秋和・塩尻集落の北にそびえる虚空蔵山南麓一帯には風呂川古墳を含めて、現在7基の古墳が確認され、上田市内では古墳の集中する地域である。古墳の立地は山脚部や裾部緩斜面などと共通しないが、いずれも南側が広く開放して、眼下に千曲川と上田盆地を望む場所が選定されている。

大蔵京(秋和八幡大蔵京)古墳(図305-2)は、風呂川古墳東220mの南向き緩斜面に自然地形を利用して立地する。昭和59年に詳細な測量調査が行われ、一辺32~35m、墳高5.0~8.0mを測る大型の方墳であることが分かっている(常木他1984)。墳頂標高470m、千曲川からの比高差46m。築造年代は測量時に墳丘斜面より採集された土師器の有段口縁壺片から4世紀後半から末葉と考えられ、今のところ上田小県地方で最古級の古墳であり、本地方の古墳築造は方墳から始まるとする根拠の一つとなっている。

弥陀平古墳(図305-7)は大蔵京古墳北側を上った山脚上南東部にある。『県史』によれば円墳で墳径17.5m、墳高3.0mを測るとある。現状で標高620m、千曲川からの比高差196m(図上計測)。時期は不明である。

宮原古墳(図305-3)は、風呂川古墳から南東の緩斜面上にある。現在は上田バイパス南側の工場敷地内にあたる。『県史』には「円墳、横穴式石室」を持つとされ、採集された直刀、鉄鏃、土師器といった遺物が塩尻小学校に保管されている。現在墳丘は消滅し、現状で標高430m、千曲川からの比高差は10m(図上推定)。

弥勒堂古墳として2基の古墳が、風呂川古墳北西の南向き緩斜面上にある(図305-4・5)。『県史』では「円墳、横穴式石室、〈伝〉勾玉、切子玉、金環」とある。現在2基とも墓地造成のために消滅していて位置を確定できない。

持越古墳(図305-6)は弥勒堂古墳北西の山脚上南端部にある。『県史』には「円墳、横穴式石室、〈伝〉鉄鏃、直刀、宝暦年間発掘」とある。現状で標高約560m、千曲川からの比高差140m(図上推定)。

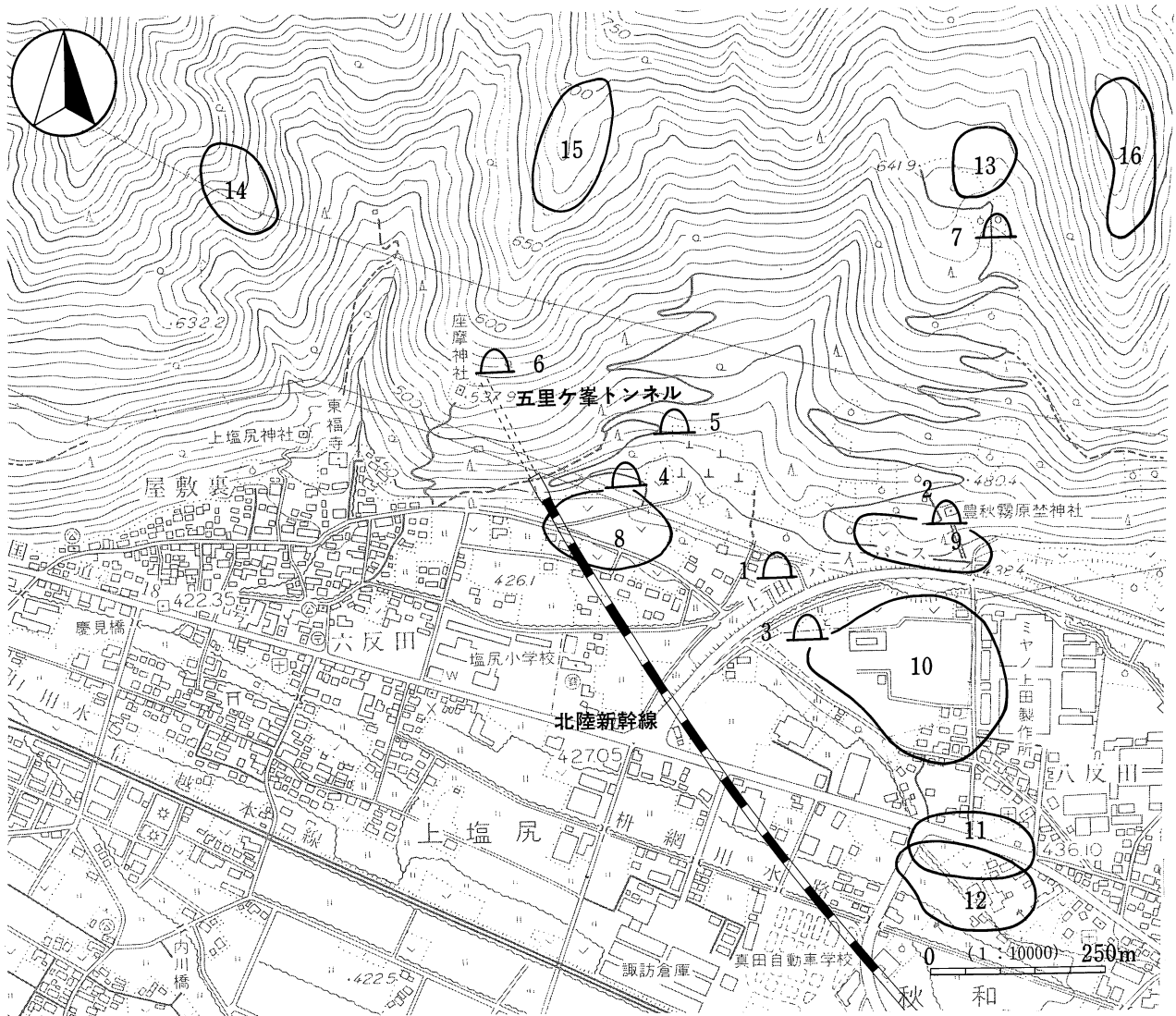


図305 周辺遺跡

表39 周辺遺跡一覧

No.	県No.	市No.	種別	時代	名称	所在地	備考
1	79	309	古墳	古墳	風呂川古墳	上田市秋和字風呂川	全壊
2	405	308	古墳	古墳	秋和八幡大蔵京古墳	秋和字大蔵京1391	上田市指定文化財
3	78	310	古墳	古墳	宮原古墳	秋和字宮原	全壊
4	80	311	古墳	古墳	弥勒堂古墳	上塩尻字弥勒堂	全壊
5	80	312	古墳	古墳	弥勒堂古墳	上塩尻字弥勒堂	全壊
6	82	313	古墳	古墳	持越古墳	上塩尻字持越	全壊
7	74	307	古墳	古墳	弥陀平古墳	秋和字甲弥陀平	
8	81	347	包蔵地	平安	弥勒堂遺跡	上塩尻字弥勒堂	
9	75	343	包蔵地	平安・中世	六句遺跡	秋和字六句	
10	76	345	包蔵地	縄文~平安	宮原遺跡	秋和字宮原	
11	77	746	包蔵地	平安	姥石遺跡	秋和字姥石	
12	459	なし	包蔵地	古墳	柿ノ木遺跡	秋和字柿ノ木	
13	73	342	包蔵地	平安	甲弥陀平遺跡	秋和字甲弥陀平	
14	420	067	城跡	近世	燕城跡	上塩尻字原	
15	455	なし	城跡	近世	持越城跡	上塩尻字持越	
16	418	065	城跡	近世	飯綱城跡	秋和字飯綱山	

このように周辺の古墳では、大蔵京古墳以外に詳細な考古学的調査は行われていないため、墳丘測量図や築造年代を明確にできる資料はない。そのため伝世する遺物を中心にして、古墳の形態や時期を推定するしかない現状である。

次に古墳以外の遺跡では、古墳時代中期の集落跡として柿ノ木遺跡（図305-12）がある。昭和51年の市教委の発掘調査（林1986）では、古墳時代中期の住居跡と土師器が出土している。上小地方ではそれまで中期の集落跡は検出例が少なく、稀少な遺跡であるとともに、また千曲川右岸の氾濫原まで集落が展開していることも明らかになった。

平安時代では、集落跡の弥勒堂遺跡（図305-8）、姥石遺跡（図305-11）、甲弥陀平遺跡（図305-13）がある。弥勒堂遺跡は崖錐地形の緩斜面に立地し、埋文センターの北陸新幹線建設関連の調査結果は、本報告第3章第4節にある。姥石遺跡は柿ノ木遺跡と一部重複している。甲弥陀平遺跡は、弥陀平古墳上の山脚の上部にあり、他の平安時代の遺跡と立地状況が異なる。

縄文時代から平安時代の包蔵地として宮原遺跡（図305-13）がある。また平安時代と中世の包蔵地として、六句遺跡（図305-9）がある。

近世の城跡は千曲川を望む山脚上部にあり、西から燕城跡（図305-14）、持越城跡（図305-15）、飯綱城跡（図305-16）である。

2 調査の経過と概要

調査の端緒 平成4（1992）年6月、新幹線五里ヶ峯トンネル建設のための工事用道路が、上田側の坑外施設から国道18号上田バイパス道路秋和地籍まで建設されることになった（図306）。そのルート付近には、風呂川古墳と弥勒堂遺跡があり、遺跡の破壊が予想された。なお坑外施設用地内の弥勒堂遺跡は、同年3月に埋文センターで発掘調査が終了している。

県教委文化課が鉄建公団上田鉄道建設所に問い合わせたところ、鉄建公団としては、埋蔵文化財包蔵地に配慮して、ルートは弥勒堂遺跡範囲内を盛り土とし、風呂川古墳を避けて設定している。ただ古墳近くは削平工事となるため、上田市教育委員会に工事立会を依頼している。市教委に工事立会依頼があったのは、工事用道路が工事終了後、市道となる計画があったためである。県教委としては、本事業が新幹線建設関連であるため、立会に同席することとした。

工事立会 平成4年7月3日現地にて行われた。工事用道路は古墳所在地として認識する略円形の地籍は避けたものの、すぐ北東をかすめるように通るため、掘削工事によって古墳周溝部の一部が露出した。立会は工事を一時止めて行われ、周溝について略測と写真撮影をした後、一旦埋め戻して終了した。

保護協議 すでに工事は始まっており、緊急を要するため、文化課と鉄建公団との保護協議が同日夕刻、鉄建公団上田建設所で行われた。その内容は以下の通りである。古墳周溝が発見されたため保護措置として発掘調査が必要である。工事はすでに着工しているのでルート変更は無理である。調査は工程に合わせて最小限の期日、1～2日間程で行う。期日は工事工程の調整を図り、後日決定する。調査に必要な重機などは鉄建公団JVが準備する。調査主体が県教委となるのか市教委となるのかは再度検討する。

調査体制 7月4日、県教委と市教委が協議した結果、今回は新幹線建設に伴う工事であるため、事業主体は鉄建公団であり、調査体制は県教委が整えることとした。しかし、短期間とはいえ直接文化課で調査はできないため埋文センターが協力を依頼された。調査期間は7月10、11日の2日間と計画された。

発掘調査 7月10日、県教委担当者1名、埋文センター職員1名により調査が開始。重機掘削、周溝検出にはJVの協力を得た。その結果、古墳周溝の北東部が検出され、方墳である可能性が高いことが明らかになった。また土師器の特徴は古墳時代中期といえそうであった。

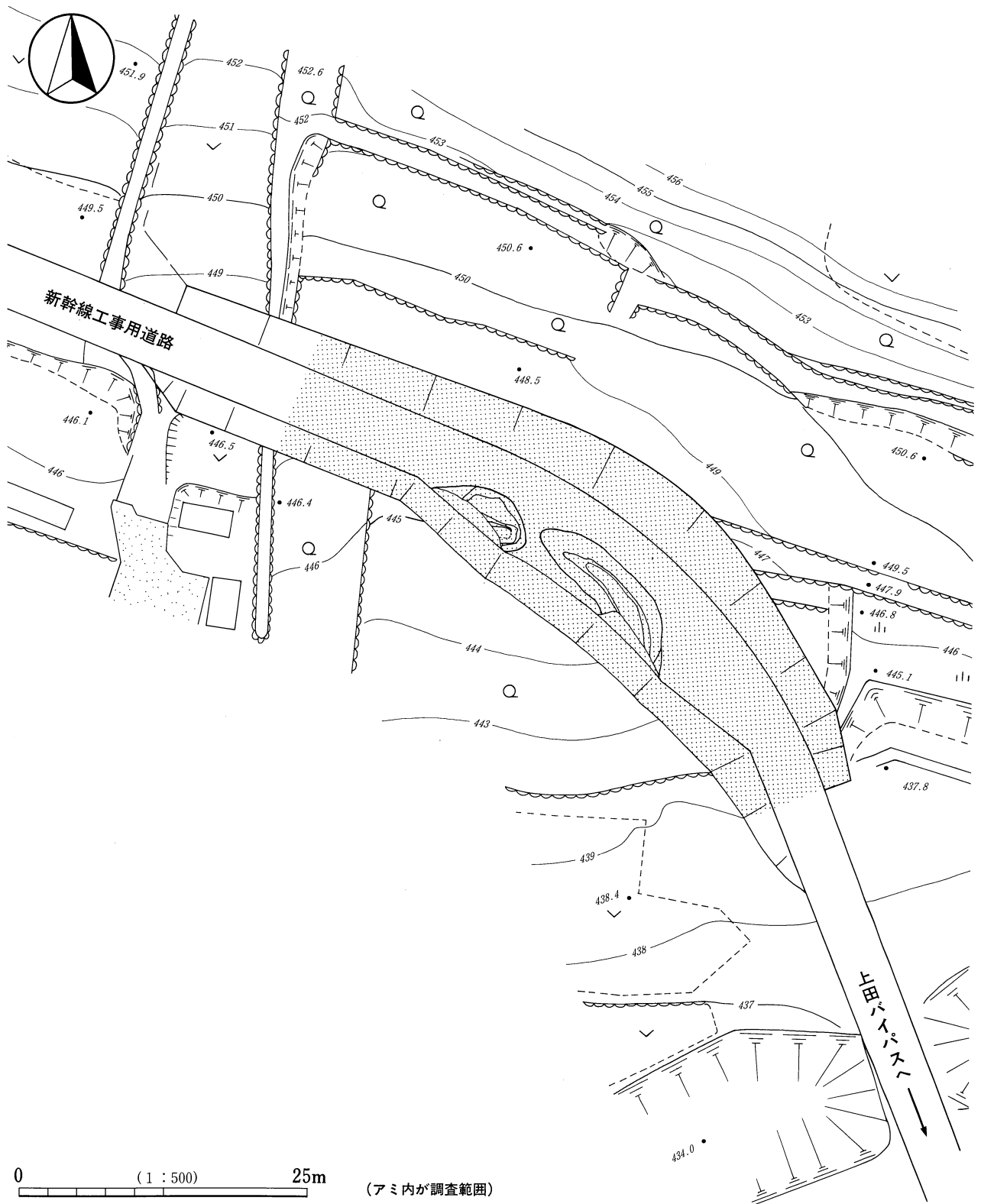


図306 調査範囲と周辺地形

周溝の実測、写真撮影、遺物取り上げを行って、翌11日調査は終了した。

整理状況 平成5年1月から、冬期整理作業にて遺物の洗浄・接合、記録の確認・修正といった基礎整理作業を実施した。本報告のための、本格的な整理作業は平成8年4月より開始した。

調査日誌抄

平成4年

6月30日 県教委文化課、工事用道路建設について鉄建公団に問い合わせ。

7月3日 工事立会、古墳周溝らしき跡発見。保護協議。調査実施と工事継続を決定。

4日 調査体制を県教委、埋文センターで整備することとする。

10日 調査開始。重機面剥ぎ、周溝検出。方墳と考える。

11日 諸記録終了後、鉄建公団に引き渡し。調査終了。



3 基本土層

工事掘削南側法面の調査地点にて、土層観察を行った(図307)。しかし遺構部分の観察に終始しているため、自然堆積物に関する観察は詳細ではない。

観察面は西から東へ傾斜していて、I層上面では26mで2m下がる。I層は層厚36~56cmあり、原表土にあたり、旧耕作土と考えられる。I層下には山側からの堆積である大小の角礫を含む土が見られる。これは溝覆土のX層および(図307)の斜線トーン部分にあたる。土壌化はしていない。

今回の調査面はこの角礫層上部からやや下がった部分にあたる。

なお、古墳に関する堆積物は、II~X層の9分層であり、その観察所見は以下の「4古墳の構造と遺物(1)構造」に記している。

4 古墳の構造と遺物

(1) 構造 (図307)

(i) 周溝

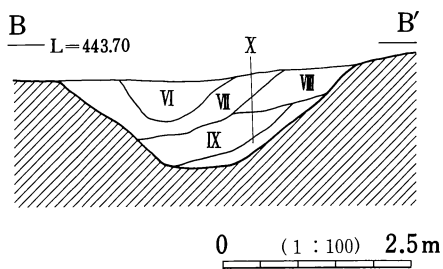
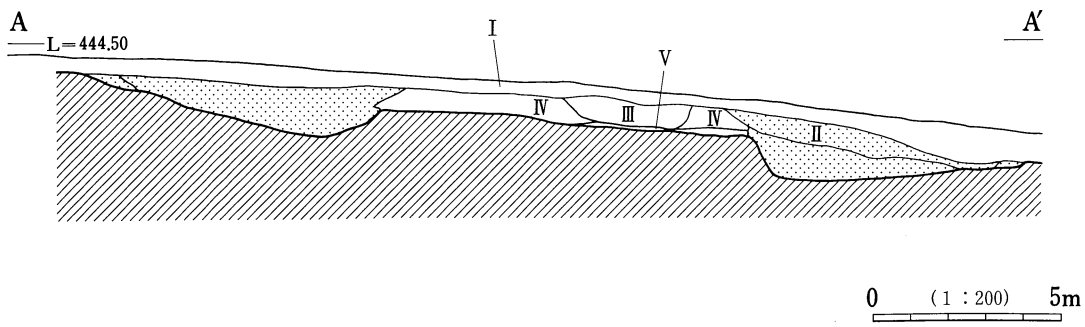
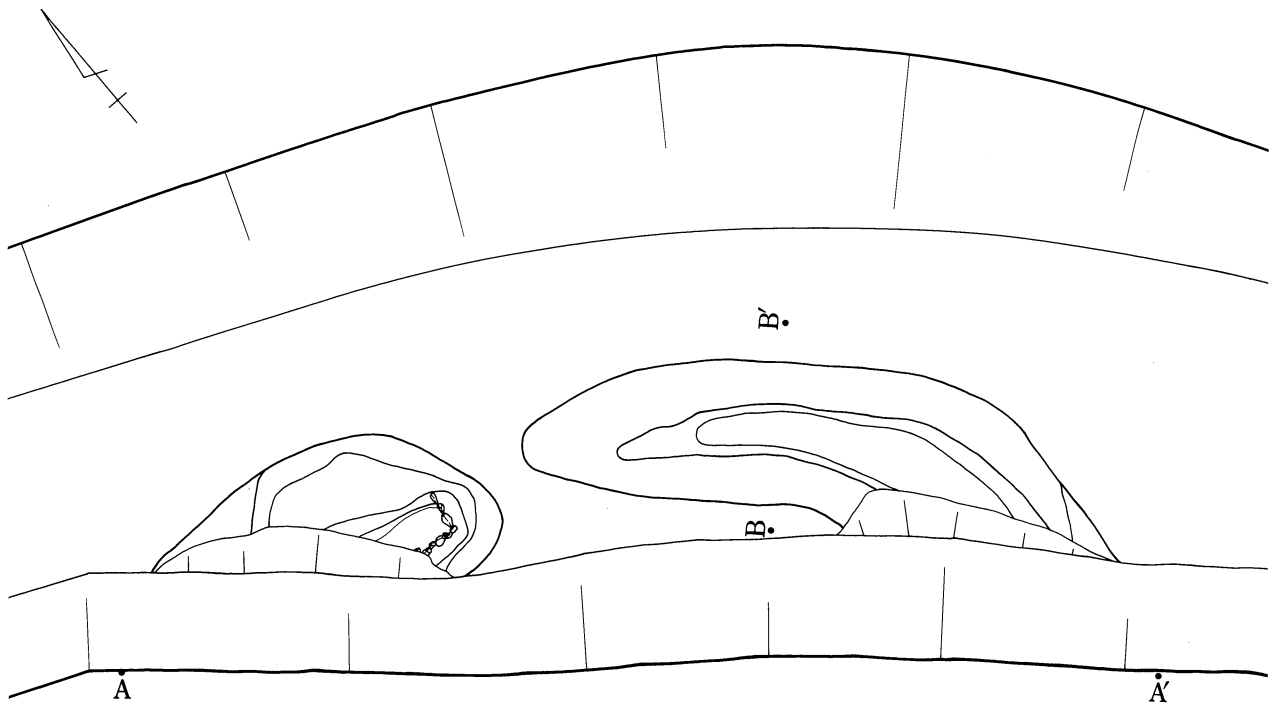
工事立会から、その存在が略円弧状の帯で広がる黒色土の状態を確認されていた。風呂川古墳の所在地とほぼ照合できる地点の外側であることから、古墳の周溝の一部であると予想して本調査に入った。

調査の結果、溝は主に北西から南東に向かうほぼ直線な部分と、その東隅で南から南西に屈曲する部分とで構成されていることが明らかになった。北隅も僅かながら方向を南寄りに変えつつあると推測された。また北隅寄りに掘り残している部分があり、そこで一旦途切れる事が分かった。遺物は途切れる部分の西側溝の、底部や南斜面を中心とした覆土内から、古墳時代中期の土師器がまとまって出土した。

この検出状況から墳丘形態は方墳と考えられ、調査地点は古墳の周溝の北東辺部分であると判断した。

周溝の各部位の所見を記すうえで、途切れる部分については、「途切れ部」とする。また途切れ部から西側を「西側周溝」、東側を「東側周溝」と呼ぶこととする。

西側周溝 検出されたのは、古墳北隅部分にあたる。平面形は、途切れ部墳丘側でやや尖り、全体的に丸みを持つ。周溝の傾斜は、墳丘側では比較的急角度であり、墳丘外に向かっては緩やかである。また内外の周溝傾斜中位に緩やかな平坦面らしき痕跡がある。底部では一度平坦部を作り、そこから更に凹めた部分に最下面を持っている。その最下面壁に石組みが認められる。



- I : (表土、旧耕作土)
- II : 褐色土 (角礫を多量に含む)
- III : 褐色土 (II層土より礫の混入が少ない、しまり悪い)
- IV : 暗褐色土 (墳丘盛り土と考えられる、角礫を含む、堅くしまる)
- V : 暗褐色土 (角礫やや含む、地山礫より小さい)
- VI : (人頭大の亜角礫から成る)
- VII : 黒色土 (拳大の亜角礫を多く含む)
- VIII : 暗褐色土 (1~2cmの亜角礫を若干含む)
- IX : 暗褐色土 (小亜角礫、黄色・白色粒子を若干含む)
- X : (地山層、大小の角礫を含む、崖錐地形の堆積物)

図307 周溝部検出状況

西側周溝の規模は調査面で、長さ9m、幅5m（推定）、深さは調査面から最深1.33m、工事掘削の法面の土層覆土上面から1.24mを測る。周溝底レベルはほぼ一定である。

埋没状況は覆土観察がないため、詳細には分からないが、現表土I層下には角礫を含む褐色土～黒色土が堆積している。

石組みは途切れ部付近の最下面で検出されている（図308）。礫はこの付近の地層表層部に含有される角礫を、ある程度の大きさに選択して用いている。またそれぞれの礫は、石組みの方向に合わせるように長辺をほぼ横長にして置かれている。

途切れ部側には比較的大きな礫を3点、真直ぐに一段一段並べている。墳丘側には、途切れ部からその方向を直角に折れ、連続して組み並べている。墳丘側では崩れてはいるが、石組みは一段二段まで認められる。

また調査区法面の墳丘側の土中にはふぞろいながら同様の礫が二段目より上にあること、浮いた状態の角礫が周溝底部に幾つかあることから、墳丘側斜面には、三段以上にこの石組みが続いていた可能性がある。

墳丘外側下には石組みは認められない。しかし底部下端の形状は墳丘側石組みと平行するように直線的であり、築造時の周溝形状が方形を意識したことを示唆すると理解する。

遺物は周溝底部の石組みに囲まれる位置と、墳丘側石組み上の斜面上、また覆土内から土師器が一括出土している。本古墳に伴う時期の土器が、ほとんどこの周溝から出土している。

内訳は合わせて高杯8個体以上、鉢1個体以上、壺（小型壺含む）15個体以上、甕1個体、甕1個体である。

出土状況は、底部では壺（10）が正位の状態で出土し、その周囲から別の壺が破片で出土している。また斜面上では高杯（3・6）や鉢（15）、甕（10）などがまとまりながら、逆さにつぶれたり、破片となって散乱したりしている。これらは墳丘上方より転落した状態と考えられる。

東側周溝 古墳北東辺から東隅までが検出されている。途切れ部側が西側周溝より細まっている。北東辺は幅が均一であり、直線的である。東隅は方向を緩やかに南西に変えつつある状態である。周溝の傾斜は残りの良い北東辺では底部が平坦で狭く、そこから中位までが最も急角度であり、中位から調査面まではやや緩やかに開く傾向にある。調査区南西法面の観察では、墳丘側は急角度に立ち上がり、外側は緩やかな傾斜である。

その規模は調査面で長さ16mを測る。北東辺では幅4m、調査面からの深さ1.53m、東隅では幅5.5m、法面の土層面では表土下から深さ1.56mを測る。周溝底のレベルは途切れ部下から東隅に向かって51cm下がる。また、西側周溝と東側周溝の最下位の比高差は1.26mあり、自然傾斜と同じく、東側が低くなっている。この周溝の比高差は、自然地形を大きく改変する築造はしていないことを示している。

埋没状況は、北東辺で観察した（図307B-B'）。ここではVI～X層の5層に分けられる。なおX層は自然堆積土である。

VI層は人頭大の亜角礫を含む性状である。覆土中央上部にある。VII層は拳大の亜角礫を多く含む黒色土で、覆土中央から墳丘側に堆積する。VIII層は1～2cmの亜角礫を若干含む暗褐色土であり、外側の立ち上がりにある。IX層は小亜角礫や黄色・白色粒子を含む暗褐色土で、底面を覆っている。埋没順はIX～VI層の順であり、墳丘内外から相互に重なっている。

遺物はほとんどなく、覆土中より壺片が出土しているが、図化はしていない。

途切れ部 周溝北東辺の北隅寄りの1カ所を掘り残している。調査面での平面形状は西側がやや直線的であり、東側はくびれている。

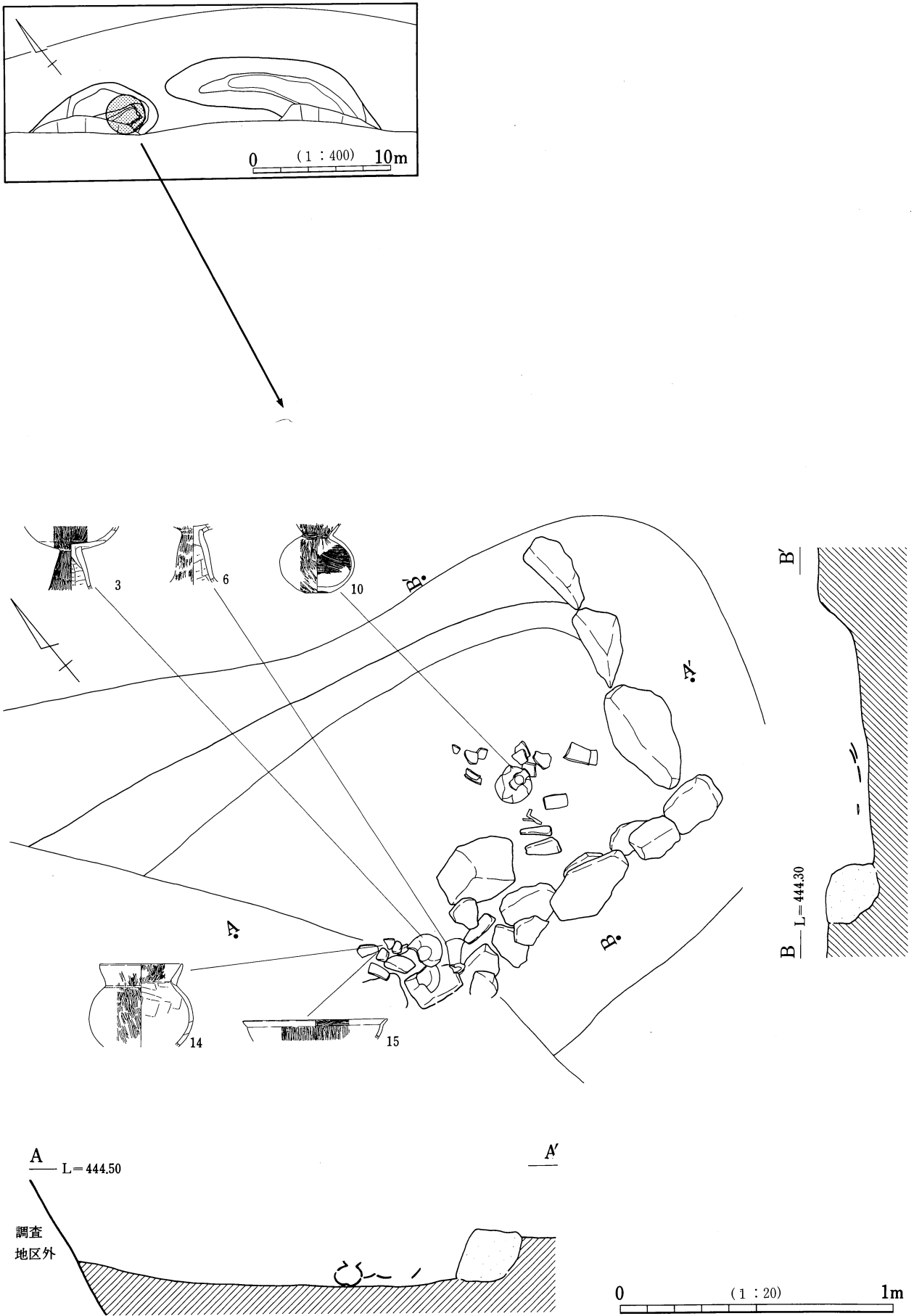


図308 西側周溝部石組と遺物出土状況

幅は墳丘側で4 m、最も括れた部分で1.3m、墳丘外側で6 mを測る。西側周溝下部の石組みの配列からすると、周溝底構造は明確に方形を意識していた状況を示しているため、途切れ部も築造時には方形に近い形状であったとも推定される。

(ii) 墳丘

墳丘に相当する部分のほとんどが調査地区外である。現在は削土された後、旧耕作地となり、草木が繁茂して築造時の状況は残していない。調査範囲内は重機で自然堆積面まで平坦に掘削しているため、盛り土などの痕跡は検出されていない。墳丘平面形は上記した通り、周溝部から方形であると推測する。

また調査区南西の法面の土層観察(図307)では、西側周溝と東側周溝に挟まれる範囲の自然堆積土上において墳丘に関連する可能性を持つⅢ～Ⅴ層の3層が見つかっている。

Ⅲ層は礫の少ない褐色土で、Ⅳ層を切るように堆積している。層厚64cm。人工的な陥ち込みとは考えられるが、性格は不明である。調査当初、埋葬施設の掘り込みとも推測したが、根拠に欠けている。

Ⅳ層は角礫を含む暗褐色土であり、よく締まっている。層厚48～68cm。堆積範囲は周溝立ち上がりまで続く。築造前の旧表土または盛り土の可能性が高い。これ以上の細分はできない。

Ⅴ層は角礫を含む暗褐色土であり、その礫径は地山堆積物より小さい。層厚8～24cm。Ⅳ層下位の西側周溝付近に薄く堆積している。Ⅳ層同様に旧表土または盛り土とも考えられる。

土層観察範囲が狭いことや削平などの状況から、この3層の観察所見より墳丘の築成方法などは導き出せない。また墳丘下の土壌化していない自然堆積土上面(図307の斜線トーン部分)は、周溝外の自然面の傾斜と近似することから、著しい地形の削平などは行われていないと判断する。

まとめ

以上、周溝を中心とした所見を記した。ここで改めて今回の調査から推定される風呂川古墳の形態をまとめてみる。

本古墳は北東に基軸の一方を持つ方墳と考える。墳丘には周溝が巡る。周溝は検出部分ではほぼ直線であり、東隅は直角とはいかないが鈍く屈曲している。また周溝の比高差は、自然地形の傾斜と同じく東側が低く、地形に沿った築造が行われている。

北隅東には周溝を掘り残した部分(途切れ部)がある。西側周溝の途切れ部付近の底部には自然礫の石組みが残り、その付近に古墳時代中期に属する土師器が一括出土する。

また図上から古墳の規模を想定すると、周溝を含めてさしわたし25～30 m程であると思われる。

(2) 土器(図309、表40、P L110)

土器のほとんどは西側周溝から出土した土師器である。図示した1～15はいずれも丁寧なつくりで、焼成は良好、胎土・色調などがよく似ている。同一器種内では器形・大きさ・調整手法も共通するところが多い。供献・祭祀土器としての性格をもつ土器群であり、本墳築造にあたって一括製作された可能性を窺わせる。16は周溝外の掘削面の検出で、縄文土器と思われる。なお、東側周溝から壺類と思われる須恵器片が1点出土している。小片のため図示し得なかった。

高環(1～7)

全体の器形を知りうるものはないが、坏部高6 cm、口径16cm、脚部高6.5～8.5cm、底径12～13cm程度である。脚部の形態から3分類できる。

A類(1・2・4) 脚部が「ハ」字状に開いて、端部付近でゆるやかに外反する。B・C類に比べ脚部が短い。

B類(5) 脚部が「ハ」字状に開き、端部付近で屈曲してさらに開く。

C類(3・6・7) 脚部は柱状部から屈折して裾部が開く。7は接合部のみであるが、本類に属すると思われる。

坏部は内湾する口縁部をもち、坏底部との境は鋭くはないが明らかな稜をなす。脚部に比べ坏部の形態の変化は少なく、ほぼ同形態とみてよい。ただし、一部、坏底部の稜の不明瞭なものがみられる。坏部内外面および脚部外面は非常に緻密で丁寧な縦方向のヘラミガキを施す。脚内面上部には絞り痕が残り、それより下部は横方向のケズリが行われるが、裾部には及ばない。A類の坏部と脚部の接合部外面には幅5～8mmの範囲でタテミガキが施されない部分があり、その部分はヨコナデ痕を残す。さらに空白部分を縁どるように、すなわちタテミガキ施行範囲を画するようにヨコミガキを1条巡らせる。脚部と坏部は脚内に差し込まれたホゾにより接合される。ホゾの先端を指頭で押し潰した後に、一部を脚内壁に押し付け引き下げるようになって接着度を高める手法が特徴的である。さらに接合部外面に若干の粘土を補充するが多い。ホゾの上面がそのまま坏底面を成すものは明確には認められず、ホゾ上を粘土板で覆って坏底面を形成するものが主体を成すようである。

小形壺(8～10)

壺は相対的に大形のものと小形のものがある。10は胴部径11cm、体部高8.5cm、器厚5～7mm。やや扁平な球形胴をなし、頸部は強くくびれる。口縁部はその上部を欠くが、かるく外反する。底部は上げ底状を呈する。外面は縦ないし斜め方向のヘラミガキを施し、さらに頸部に横方向のミガキを施す。内面は口縁部タテミガキ、頸部にヨコミガキ、胴部ハケナデ、頸部下に絞り痕が認められる。9は10より頸部のくびれが弱く、大きさと器形は類似する。外面調整はタテミガキで、口縁タテミガキの下端を画する太目のヨコミガキが1条巡る。内面は、口縁部タテミガキ、頸部下に絞り痕があり、それより下はヘラナデを行うが粘土痕を残す。8はさらに小形で、頸部から胴部中位を残すのみだが、胴部径8cm弱、体部高6cm弱と思われる。摩耗がやや進行しているものの、外面調整はミガキ、内面はナデ。

壺(11・12)

上記の壺よりひとまわり大形の壺だが、通常、小形壺の部類に含められるものである。やや扁平な球形胴をもつ。11は推定器高16cm弱、口径11cm、胴部径16cm、器厚7mm。口縁部は内湾して立ち上がる。頸部は強く屈曲するものの、屈曲部外面は稜を成さず丸みを帯びている。外面および口縁部内面は細く緻密な縦方向のヘラミガキを施す。体部内面はヘラナデによって調整し、さらに頸部付近にヨコナデを行う。12は器壁が若干薄く、口縁部の内湾、頸部のくびれは強いが、ほぼ同形態といえる。調整も共通する。胴内面上部に絞り痕を残す。接合しないがやや上げ底状を呈する平底の底部片がある。外面ヘラミガキ、内面はヘラナデ。

甕(13)

口縁部は、二重口縁を成し、突帯状の明瞭な段をもつ。頸部は強くくびれ、胴部はタマネギ形に近い。底部は完存しないが丸底であろう。肩部に外から内に向けて円孔を一孔穿つ。調整は外面および内面口頸部は丁寧なタテミガキ、胴部内面はヘラナデ。口縁端部を欠くが、推定器高15cm前後、口径10cm前後、胴部径15.5cm。

甕(14)

「く」字状の口縁をもつ小形の甕である。胴の張りは強い。外面および口縁部内面は縦方向のヘラミガキを施すが、壺・高坏に比べてやや粗雑である。胴部内面は横方向のヘラナデ。

鉢(15)

口縁部が短く「く」字状に外折する小形の鉢である。屈折部は明瞭な稜をなす。調整は、体部は内外面とも縦方向のヘラミガキ、口縁部は外面ヨコナデ、内面ヨコミガキ。

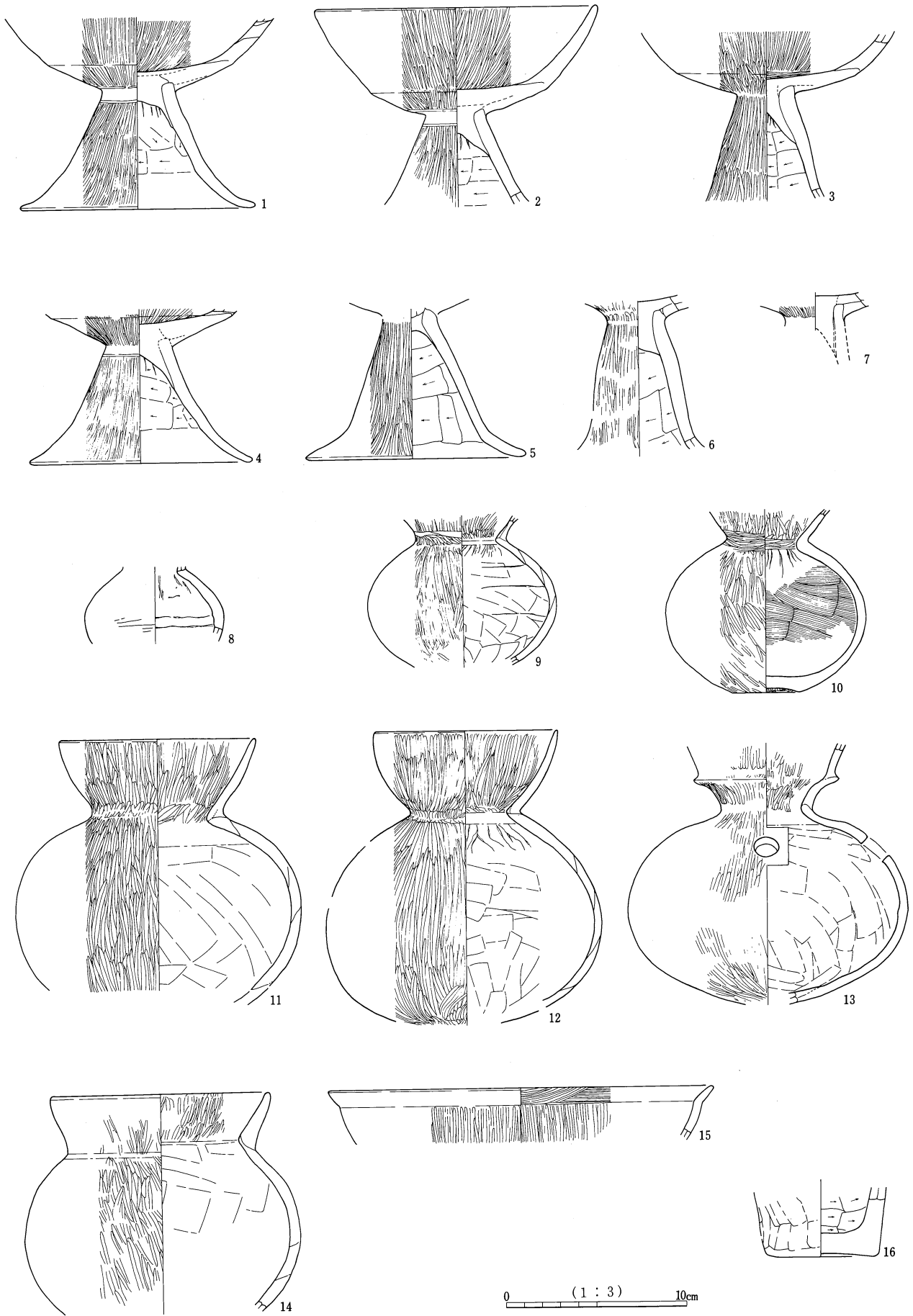


图309 出土土器

表40 土器観察表

図版No.	地点名	土器 No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
309	西側周溝	1	高環	環~脚 環3/4	-	12.9	(10.4)	にぶい黄橙	少	良好	環:タテミガキ 接合部:ヨコナテ後ヨコミガキ(一案) 脚:タテミガキ	環:タテミガキ 接合部:シボリ後ユビナテ 脚:ナテ後ケズリ 脚脛:ヨコナテ	
309	西側周溝	2	高環	3/4 環~脚	(15.6)	-	(11.0)	橙	少	良好	環:タテミガキ(その前:細い目のタテハケナテ) 接合部:ヨコナテ ヨコミガキ(一案) 脚:タテミガキ	環:タテミガキ 接合部:シボリ 脚:ヨコ方向ナテ ヘラケズリ	
309	西側周溝	3	高環	環~脚	-	-	(9.3)	にぶい橙	少	良好	環~脚:タテミガキ	環上:タテミガキ 環下:ミガキ 接合部:シボリ ナテハケ 脚:ヘラケズリ	図示
309	西側周溝	4	高環	環~脚 脚3/4	-	(12.3)	(8.2)	にぶい黄橙	少	良好	環下:タテミガキ 接合部:ヨコナテ ヨコミガキ(一案) 脚:タテミガキ	環下:タテミガキ 脚上:ナテ後ケズリ 脚脛:ヨコナテ	内面黒化
309	西側周溝	5	高環	脚2/3 脚1/3	-	(12.2)	(8.3)	橙	少	良好	脚:タテミガキ 脚脛:ヨコナテ後タテミガキ	脚:ヨコケズリ 脚脛:ヨコケズリ後ヨコナテ	
309	西側周溝	6	高環	脚	-	-	(8.2)	にぶい黄橙	少	良好	脚:タテミガキ	接合部:空際 脚:ヨコケズリ	
309	西側周溝	7	高環	脚柱片	-	-	(1.9)	にぶい黄橙	少	良好	接合部:タテミガキ		
309	西側周溝	8	小形壺	1/2体	-	-	(4.2)	にぶい黄橙	少	良好	体:ナテ後ミガキ	体:ナテ	
309	西側周溝	9	小形壺	頸~体 頸1/3体1/2	-	-	(8.3)	にぶい黄橙	少	良好	頸:ヨコナテ後タテミガキ後次めのヨコミガキ(一案) 体:タテミガキ	頸:ヨコミガキ後タテミガキ 体上:シボリ目 体:ヘラナテ	内面黒化
309	西側周溝	10	小形壺	口辺~底	-	3.8	(10.1)	にぶい橙	少	良好	口辺:タテミガキ 頸:ヨコミガキ 体:タテミガキ 底:赤影張?	口辺:タテミガキ 頸:ヨコミガキ 体:ハケナテ	図示
309	西側周溝	11	壺	1/2口~体	(11.0)	-	(13.9)	にぶい黄橙	少	良好	口~体:タテミガキ	口~頸:タテミガキ 体:ヘラナテ	
309	西側周溝	12	壺	口縁~体	10.2	-	(16.1)	にぶい黄橙	少	良好	口:ヨコナテ後タテミガキ 体:タテミガキ	口~体上:タテミガキ後ヨコナテ 体上:シボリ目 体:ヘラナテ	内面黒化
309	西側周溝	13	甗(壺A)	1/4口~体	-	-	(14.4)	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	少	良好	頸上:ヨコナテ 体:ミガキ	口:タテミガキ 頸:ヨコナテ 体:ヨコナテ	穿孔外から内
309	西側周溝	14	甗	口~体 口2/3体1/4	(12.2)	-	(12.1)	にぶい黄橙	少	良好	口:ヨコナテ後タテミガキ 体:タテミガキ	口:タテミガキ 体:ヘラナテ	図示
309	西側周溝	15	鉢	1/3口縁	(21.4)	-	(3.0)	橙	少	良好	口縁:ヨコナテ 口辺:タテミガキ	口縁:ヨコミガキ 口辺:タテミガキ	//
309	調査区北側掘削斜面	16	縄文深鉢	底	-	6.3	(3.8)	明赤褐	少	良好	体下:ヘラナテ	体下:ケズリ	

5 上田市地籍図(旧図)の調査

はじめに 今回の発掘調査開始に際して、公図には風呂川古墳所在地に略円形の土地区画が存在することが分かっていた。地権者の話からも、その部分に以前墳丘があったことは確かであった。しかし残念ながら現在は削土されて、旧耕地となり、草木の繁茂する状態で墳丘の面影すらない。そこで、上田市所蔵の地籍図を用いて、現在の状態と照らし合わせてみることにした。

旧図の入手 上田市の場合、地籍図は市役所財政部固定資産税課にて管理され、許可申請によって閲覧することができる。また地籍図は明治18年~21年頃作成されたものであるが、閲覧用ファイルにはその元図を用いている部分は少なく、昭和38年頃測量会社によって複製された図がファイルされている。また市では地籍図索引簿が作成されていて、小字ごとに登録番号が付され、検索は容易であった。

字風呂川全図 今回閲覧したい、上田市大字秋和字風呂川の地籍図は『小縣郡塩尻村大字秋和之内字風呂川全図』と記された元図がそのまま保管されていた。縮尺は記載されていないが、現在の基本図と照合すると、約600分の1縮尺であることが分かる。地籍図の通有、地種ごとに色分けがなされている。道は赤、水路が青、水田が緑、畑地が黄、山林は白で示され、地種名も記されている。字風呂川は字大蔵京の南、字宮原の北に隣接し、東西に細長い。土地利用は、宮原との地界を東西に流れる水路が字内の東側で大きく屈曲して南下している。そのため土地利用は水路沿いでは水田が多く、その周囲が畑地、山際は山林といった具合である。

風呂川古墳 その中で、特異な地籍は、北西隅にある千百三十番地である。方形に近い略円形の区画で、周囲は千百廿九番地の畑地に囲まれている。白抜きであり、地種名の『塚』・『原』が二本線で消され、『畑』に改められている。現在の2500分の1の基本図と照合すると(図310)、風呂川古墳の所在地とほぼ合致することが分かる。また鉄建公団の作成した工事用道路設計図(500分の1)に調査した周溝と地籍図の一部を照合すると(図310上)、周溝のほぼ中央に、略円形の土地区画が当たり、墳丘の位置を示すことが明らかになる。また地種名の『塚』・『原』はこの地籍が旧来「塚(古墳)」の伝承地であり、地籍図の作成時点では「原野」となっていたと判断する。それらの二文字が二本線で消されて、『畑』と記述されてい

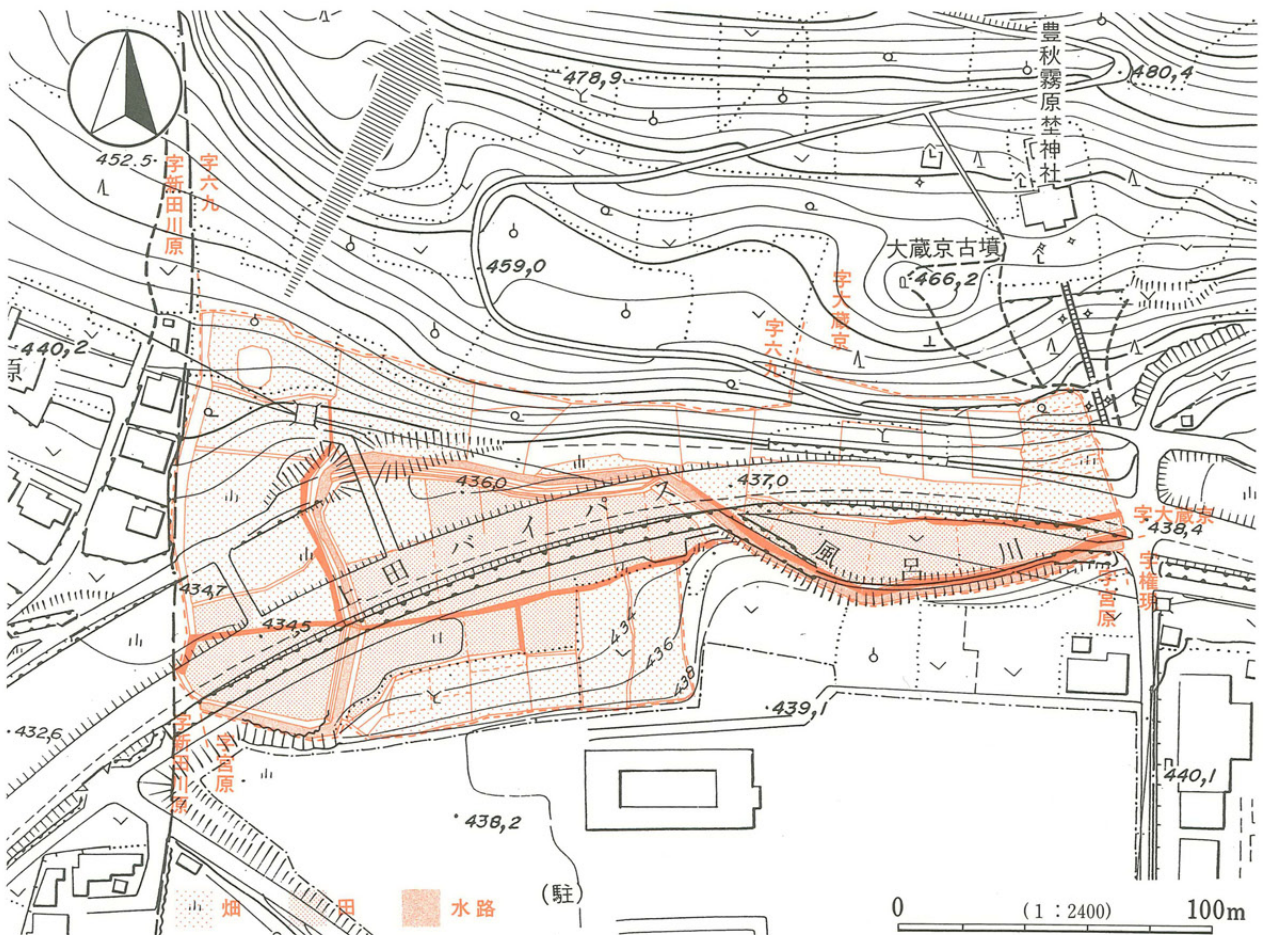
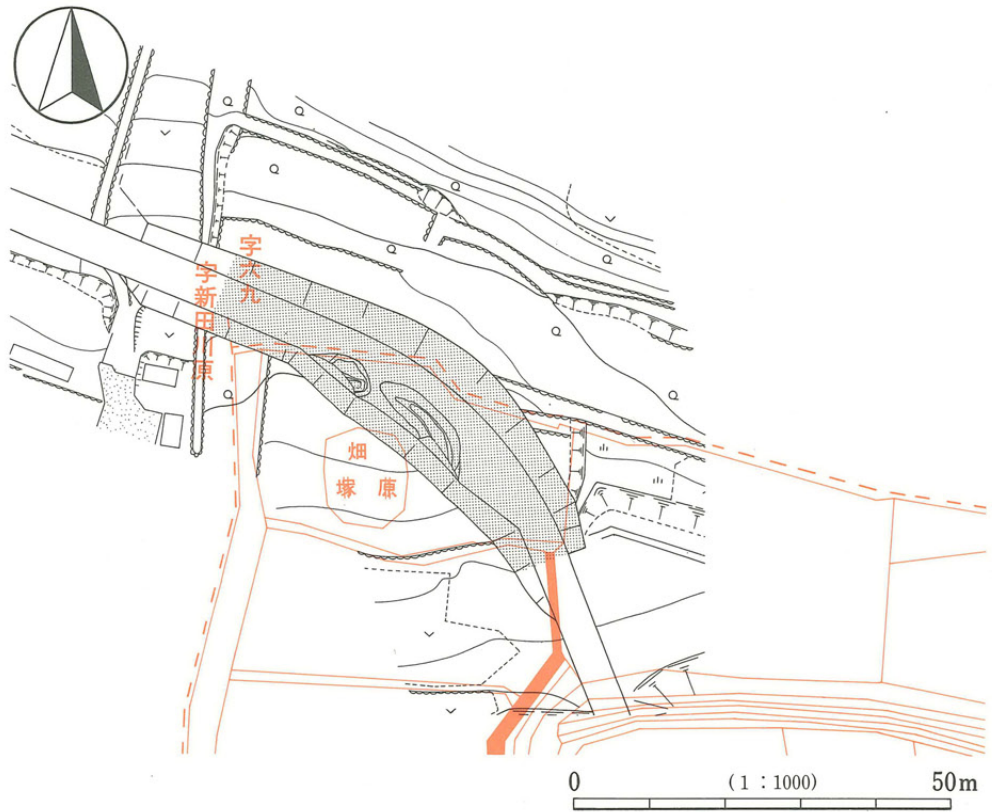


図310 旧図（小縣郡塩尻村大字秋和之内字風呂川全図）と現況図

るのは、地権者が作図後に削土して、畑地として利用していたことを示しているだろう。こうしてみると、地籍図の作成された明治20年頃には、まだ風呂川古墳は墳丘など、古墳（塚）としての痕跡を残していたかもしれない。

6 まとめ

今回の調査は、周溝の一部のみの調査に過ぎないため、古墳の形態・構造や築成方法について考察を加えるのは難しい。そのためここでは周溝から一括出土した土器の形態から、本墳の時代的な位置付けを試みたい。

本墳の土器が3期区分による古墳時代中期に属することは異論のないところであろう。本来なら、上小地方の当該期土器の型式学的変遷を整理し時期設定を行った上で、編年の位置付けを試みるのが妥当な手続であろう。しかし上小地方においては、資料が少なくそれが叶い難い現状にある。そこで、おもに善光寺平における編年と対比することによって、風呂川古墳の土器群を位置付けてみたい。

土口将軍塚古墳の高坏の検討の中で青木和明氏は、善光寺平における古墳時代中期の高坏は、篠ノ井型を祖型とし、駒沢型にみられる口縁部外反・長脚形態から、四ツ屋・浅川型を経て地附山型の口縁部内湾・短脚形態に至る型式変遷を示し、土口型を駒沢型と四ツ屋型の中間位置に置いている（青木1987）。この枠組みに本墳の高坏を当てはめると、口縁部が内湾する点において駒沢型に後出し、坏底部と口縁部の境が稜をもつ点において浅川型に先行すると考える。更に風呂川B類の脚部が短小化傾向を示していない点は四ツ屋・浅川型より先行的な要素といえよう。以上のことから、本墳の高坏を駒沢型と四ツ屋型の中間に位置づけたい。また土口型と本墳を比較した場合、外反ないし外反気味の口縁部、長い形態の脚部といった点から土口型が先行的である。

なお青木氏は四ツ屋・浅川型にTK216～208型式、駒沢型にはTK73型式を併行させ、さらに、土口型がTK73型式に遡る可能性も指摘している。とすれば、本墳の高坏はTK216型式に併行させるのが妥当となろう。

次に本村東沖遺跡の古墳時代中期以降の土師器を整理した千野浩氏は、浅川扇状地遺跡群出土資料を中心に当該期における編年を示した（千野1993）。それと比較すると本墳の土器は、柱状の脚部をもつ高坏と「ハ」字状に開く脚部の高坏が共存しかつ坏部口縁部が内湾する点、小型丸底土器がみられない点、（須恵器を伴う可能性がある点）、からみて4段階に最も適合する。ただし、千野氏があげた4段階の資料をみると、高坏口縁部の内湾化が風呂川に比べて進行しているものが大部分を占めていて、本墳の高坏は4段階の中でもより古相を示していると理解したい。内面黒色処理土器を伴わない点もそれを支持する要素であろう。3段階にはTK73型式の須恵器が伴い、4段階にはTK208型式が共伴する。風呂川古墳の土器がTK216型式期に併行する可能性は高いと考える。

なお須恵器諸型式の実年代比定には諸説あるが、小山田宏一氏の説（小山田1996）に従えば、風呂川古墳出土土器群の年代は5世紀第2四半期となる。

ところで前述した風呂川古墳出土と考えられている直刀は明らかに6～7世紀のものであり、上記の年代観と大きく食い違う。かつて周辺に存在した後期古墳から出土したものが、誤って伝えられたと考えざるを得ない。

第3章 調 査

引用・参考文献

- 青木和明 1987 「土口將軍塚古墳出土土師器の編年的位置」『土口將軍塚古墳』長野市・更埴市教育委員会
- 小山田宏一 1996 「近畿地方暦年代の再整理」『考古学と実年代』第40回埋蔵文化財研究集会発表要旨集
- 海津一朗 1993 「II村落調査の基礎E地誌・地名(17)地名の調べ方」『日本村落史講座9 特論』雄山出版閣
- 小林秀夫 1997 「千曲川流域における古墳の動向」『長野県考古学会誌』82号 長野県考古学会
- 坂井美嗣 1990 『塚原古墳群 他』東部町教育委員会
- 塩入秀敏 1995 「上田小県地方出土の直刀」『上田小県誌』第六巻 歴史編上(一)考古 第六章古墳時代の文化第三節武器・武具
- 小縣郡役所 1922 「第六部 高塚遺跡」『小縣郡史』
- 千野浩 1993 「本村東沖遺跡における古墳時代中期以降の土師器編年について」『本村東沖遺跡』長野市教育委員会
- 常木晃他 1984 「千曲川上流域における古墳の実測調査」『信濃』36-11
- 常木晃他 1986 「上田市秋和八幡大蔵京古墳の実測調査」『信濃』38-4
- 長野県考古学会古墳時代研究部会 1993 「科野における古墳出現期研究の現状と課題」『長野県考古学会誌』69・70号 長野県考古学会
- 長野県史刊行会 1981 「上田市」『長野県史 考古資料編』全1巻(1)遺跡地名表 194ページ
- 林和男 1986 「柿の木遺跡」『上小考古』No.21 上小考古学研究会
- 若林卓 1994 「東平古墳群」『長野県埋蔵文化財センター年報』10
- 若林卓 1995 「東平古墳群」『長野県埋蔵文化財センター年報』11

第4節 弥勒堂遺跡

1 遺跡の概観

弥勒堂遺跡は、上田市下塩尻地籍、虚空蔵山（1,067m）南側山麓の斜面地形から千曲川低位段丘面まで広がる。上田市遺跡分布図では平安時代の遺物包蔵地として周知されている。

本調査範囲は上田市大字下塩尻字越畑1044番地を中心とした、虚空蔵山山麓の崖錐地形の斜面上に立地する（図311）。この斜面地形は谷地形の裾部に形成され、10m程の段丘崖で千曲川低位段丘面と画されている。厚い堆積物の下から、平安時代以降の遺物や遺構が検出された。調査地点では標高436～439m、千曲川からの比高差約20mを測る。

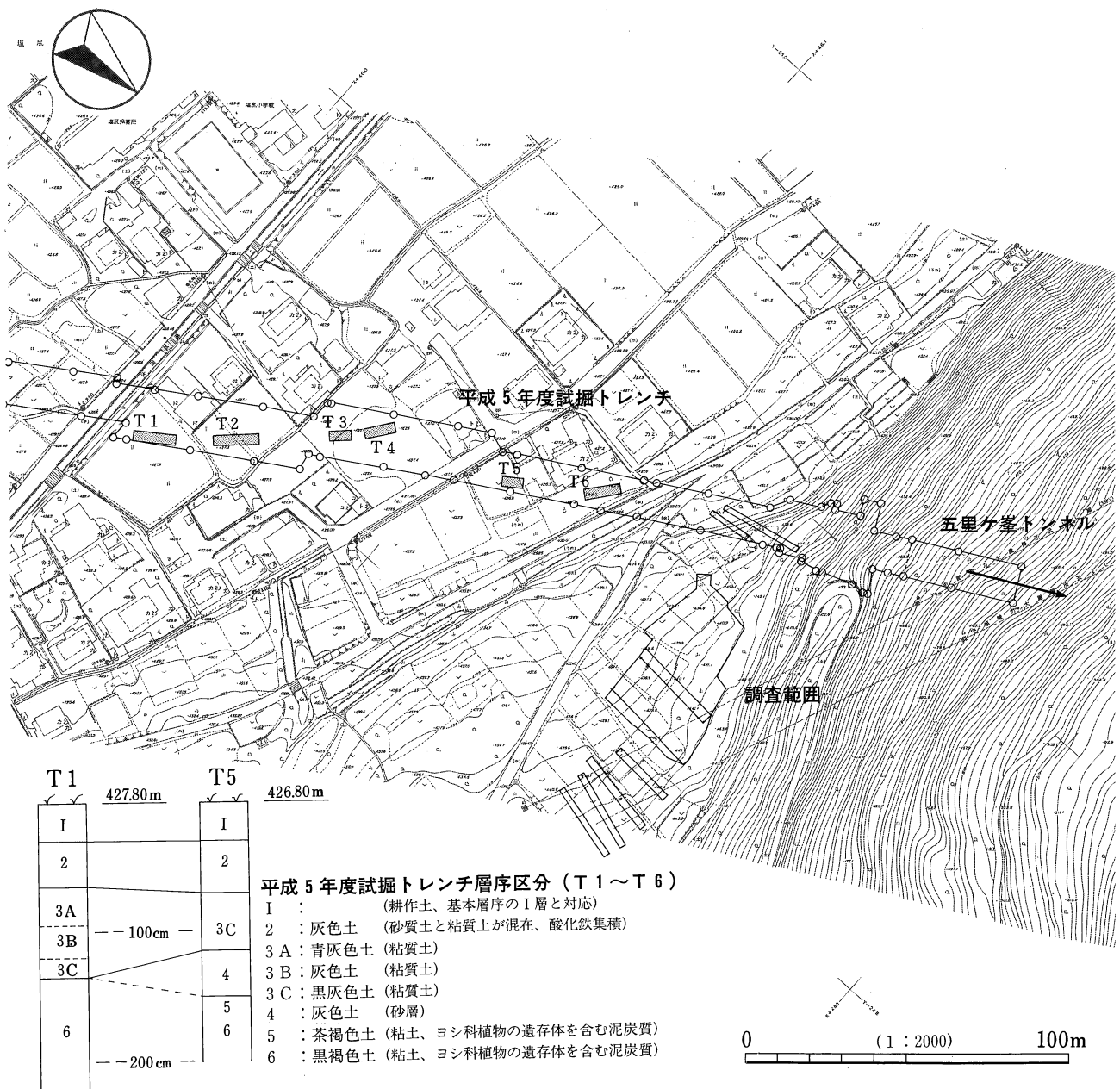


図311 調査範囲と新幹線路線（アミ部分は試掘トレンチ）

2 調査の経過と概要

調査の端緒 平成4（1992）年2月、新幹線五里ヶ峯トンネルの上田側坑外施設の建設の際、用地が弥勒堂遺跡にかかることが明らかになる。工事の工程上、施設建設は急を要し、遺跡の確認調査も早急に行われる必要があった。そこで鉄建公団から県教委に確認調査の依頼があった。県教委としては調査の緊急性から、直ちに対応しやすい埋文センターに調査要請を行った。当時、上田調査事務所は同年4月開所の準備段階であり、調査を担当することは不可能であったため、長野調査事務所が対応することとなった。

確認調査 同年2月17日から20日まで、トレンチ調査を実施する。用地内に斜面に沿ってトレンチを10本設定したところ、耕作土下には2m程砂礫層が堆積しているものの、その下に土壌化した黒色土が検出された。この黒色土内からは古代の土器などの遺物が出土し、また遺構らしき痕跡が見つかった。この結果から用地範囲の地中に古代の集落跡が包蔵されていることが予想され、本調査の実施が必要となった。そこで埋文センターでは、鉄建公団や上田市と現地で協議した後、3月から本調査に入ることにした。

本調査 同年3月2日～4月14日の延べ29日、本調査を実施した。調査には調査研究員4名が当たり、中旬から作業員16名が加わった。まず重機で遺物包含層まで掘削し、徐々に調査面を下げながら遺物の採集と遺構の検出を行う。しかし崖錐を形成する堆積土が厚く遺跡を覆い、遺構検出は難行した。特に検出面は同時期でも重複していて、最後まで不安定であった。また遺構も調査日程の後半に集中して検出され、急遽長野と上田の両調査事務所から複数回に分けて計21名の調査研究員の協力を得た。その後、降雪などの初春の変わりやすい天候にも悩まされたが、4月14日に全調査を終了した。

調査方法 基本的に面的調査を行った。しかし遺構検出面が不安定な点と期間の点から、埋文センターで常用されるグリッド法は用いず、遺構やトレンチ毎に必要な単点（ポイント）を打設して、そこからの測量図化という形式を採った。なお単点と各遺構の外形線は空中測量から図化し、整理作業で照合した後、正規のグリッド（8mメッシュ）も図上に画した。

平成5年度確認調査 新幹線路線内について、平成5年12月20・21日に試掘調査を行った（図311）。調査地点は本調査地点南側、段丘崖下の千曲川低位段丘面にあたり、現在は水田と宅地に利用されている。標高426.8～427.8m。調査は用地買収の済んだ土地に路線に沿って6本のトレンチを設定し、重機で掘削した。トレンチ壁の土層観察によると、1層は現水田層であり、2層がそれに伴う酸化鉄の集積層にあたる。その下の3層は粘質土であり、色調の違いから上より順に3A（青灰色）、3B（灰色）、3C（黒灰色）と細分した。3層の深度は地表下1m前後である。また4層は砂層で、部分的に堆積し、最下の5・6層は泥炭層で厚く堆積している。泥炭層の性状は粘質土にヨシ科植物の遺存体を含んでいる状態で、主に色調の差から分層した。地表下2m以下まで掘削したが、次層や基盤層は検出できなかった。

この試掘調査では遺構、遺物は全く検出されていない。このため、今回で埋蔵文化財調査は終了した。

調査日誌抄

平成4年	18日	降雪。作業休止。
2月17日	現地確認、重機稼働打ち合わせ	27日 空中測量、空中撮影実施。
19日	確認調査開始。トレンチ掘削。遺物採集、遺構検出。	29日 地元地区対象の現地説明会。
20日	遺構分布範囲を確定する。本調査打ち合わせ	4月1日 長野調査事務所から調査研究員応援開始。遺構実測の能率上がる。
3月2日	本調査開始。表土を重機で掘削。	7日 現調査面下を重機掘削。もう1面検出面を確認。
9日	作業員勤務開始。開始式。	平安時代の鍛冶遺構を検出。堆積土は短期間の崩土と理解。
11日	SBC信越放送取材。	13日 ポイントの光波測量実施。
13日	塩尻小学校3学年見学。	14日 調査終了。機材撤収。
17日	遺構調査本格化。平安時代の集落跡と中世の土壙墓。	
	塩尻小学校4学年見学。	

3 基本土層

土層堆積図は、主に調査区西壁と北壁で作成されている。I層（耕作土）以下は、崖錐という堆積地形のため、角礫その他大小の粒径の物質が共存する崩土の堆積であり、非常に不安定である。そのため分層されたI～VI層の全てが壁面に現れていない。また土層の分層や対比は、遺構の調査と平行して行われているが、それらを明瞭に示す図化資料はない。

以下に各土層の性状を記す。

I層は畑地耕作土であり、堆積状態は地形の傾斜と同じく南に傾いている。II層は褐色土であり、小角礫を多く含んでいる。層厚は山側から段丘面に向かって徐々に薄くなる。III層は黒褐色土で、土壌化している。層厚は薄い、遺跡全体を覆っている。各時期の遺物を多く包含する遺物包含層で、この層中で検出される遺構もあることから、生活面が存在していた可能性がある。IV層は褐色土であり、角礫を含み、あまり土壌化していない。IV層上面は、遺跡北側の傾斜上部では遺構検出面に相当する。V層は黒褐色土に土壌化していて、地形の上部ほど厚く堆積して、下部の緩斜面ではIII層黒褐色土と混合すると思われる。VI層は砂と粘土で構成され、その構成割合から砂の多い上部をVIa層（暗褐色土）、粘土の多い下部をVIb層（黄色土）と分ける。この層は上部の層の堆積と傾斜が異なり、比較的水平に近い。またVI層上面は、地形傾斜下部では遺構検出面に相当する。VII層は黄色土で、砂質の度合いが高い。VI層と同じく水平に近い堆積で、ラミナ状に粘土が含まれている。

この各層の性状からI～V層が崖錐を形成する崩土やそれらが土壌化した堆積土と考えられ、その下のVI、VII層は、水平な堆積で、砂質に富むことから、崖錐形成前の流水に伴う堆積物と推測される。

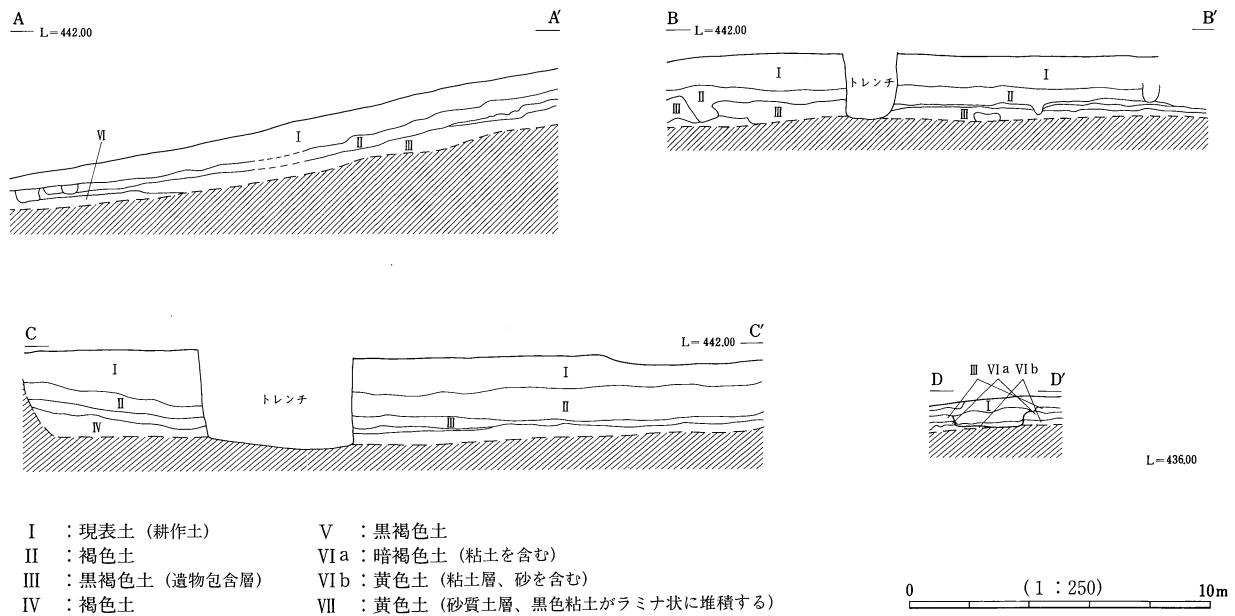


図312 基本土層

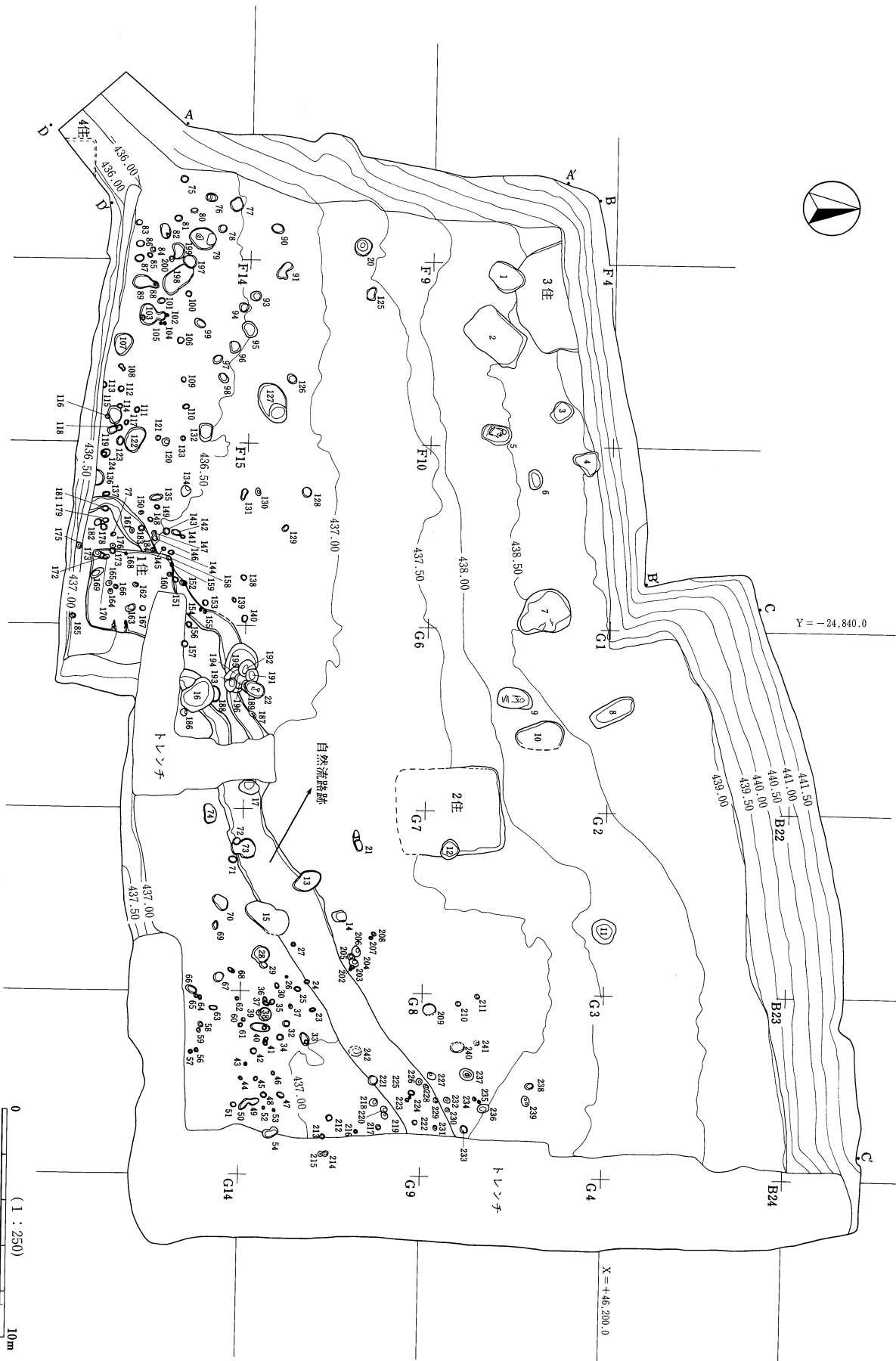


図313 遺構配置

4 遺構と遺物

遺構は平安時代の竪穴住居跡4軒、そのうち鍛冶工房跡1軒、土坑は時期を分けずに237基、そのうち土壙墓4基である。このほか自然流路跡が1筋検出されている。また縄文時代から平安時代までの遺物がⅢ層の遺物包含層を中心に出土している。

(1) 平安時代以降の遺構と遺物

ア 住居跡

1号住居跡 (図314、P L111) 位置 F-15、G-11

検出 調査区西側の南端において、Ⅵ層の暗褐色土上面にて、方形を呈する黒褐色土の陥ち込みとして検出する。覆土は薄く判然としないが、自然埋没と考えられる。自然流路を切る。また158~160、162~172坑に切られる。

構造 平面形態はほぼ方形であり、3.52×3.48mを測る。床面積11.85㎡。壁面は南辺がはっきりしないが、ほぼ垂直に掘り込まれ、深さ25cm程を測る。床面は掘り込み面が堅く締まるが、貼り床ではない。床面標高436.45m。ピットは10基検出され、そのうち主柱穴はP 1・4・6・8の4本柱で、やや不正な方形配列を成している。またP 2はカマド右の住居南東隅にあり、覆土に灰や炭ブロック、焼土などが混入することから、カマドに関係すると考えられる。

カマド 西壁中央のやや右寄りに1基付設される。両袖は角礫を芯材として、それを粘性土で固めている状況である。角礫の一部は使用時のまま据えられていて、残りはカマド内やその周辺に散乱している。支脚石も角礫で、燃焼部中央に据えられて残っている。火床は支脚石の手前に広がり、非常に強く被熱した状態で、平面は楕円形で住居床面より低い。煙道部はない。カマドの両側は床面より高く、特に右側は敢えてカマド構築土同様の土を盛って固めたように高まる。これはカマド脇の何らかの施設の残存とも考えられる。カマドの構築方法は、袖部と燃焼部を掘り込み、さらにその中央に支脚石を据える小穴を穿ち、袖と支脚に礫を立て、それを粘性のある土で固めている。

遺物 カマド中心に出土するが、数は少ない。カマド内からは土師器坏(1)、内黒坏(2)が出土している。いずれも口径13cm程で、底部回転糸切りである。また覆土内から北信型の甕(3)と、砥石(4)が出土する。3は口縁部に最大径を持ち、口縁部の屈曲の弱い器形で、体部は直線的である。4は偏平な風化した安山岩の転石の両面を用いている。両面とも滑らかで、擦り痕(研ぎ痕)は多方向に残る。

時期 土器の様相から、平安時代10世紀前葉と考える。

2号住居跡 「イ 鍛冶工房跡」として後に記す。

3号住居跡 (図315) 位置 F-3・4

検出 Ⅵ層上面まで重機で掘り下げた際、調査区北壁の東隅付近から、古代土器片と縄文後期土器片が集中して出土する。再検出したところ、暗褐色の陥ち込みが検出され、規模や形状などから古代の住居跡と判断した。なお縄文土器(遺構外-5)は掘り方覆土内に紛れ込んだものと考えられる。壁面の土層観察では、基本土層Ⅱ・Ⅲ層下から遺構の掘り込みが始まり、その覆土は単層で炭化物を僅かに含む、暗褐色土である。また隣接する1・2坑は先行して調査され、結果的に1坑が本跡を切っている。

構造 平面形態は不整な隅丸方形と推定される。東西幅は現存で4.68mを測る。壁は比較的垂直に掘り込まれて、深さ60cm程と深い。床面はほぼ水平で、掘り方を持つ東側では貼り床となる。床面標高437.90m。床面上に炉やカマド、ピット等は認められない。掘り方は住居西側にあり、床面から10cm程低い位置にほぼ平坦に広がる。掘り方底面には14基程の小ピットがあるが、その性格は不明である。

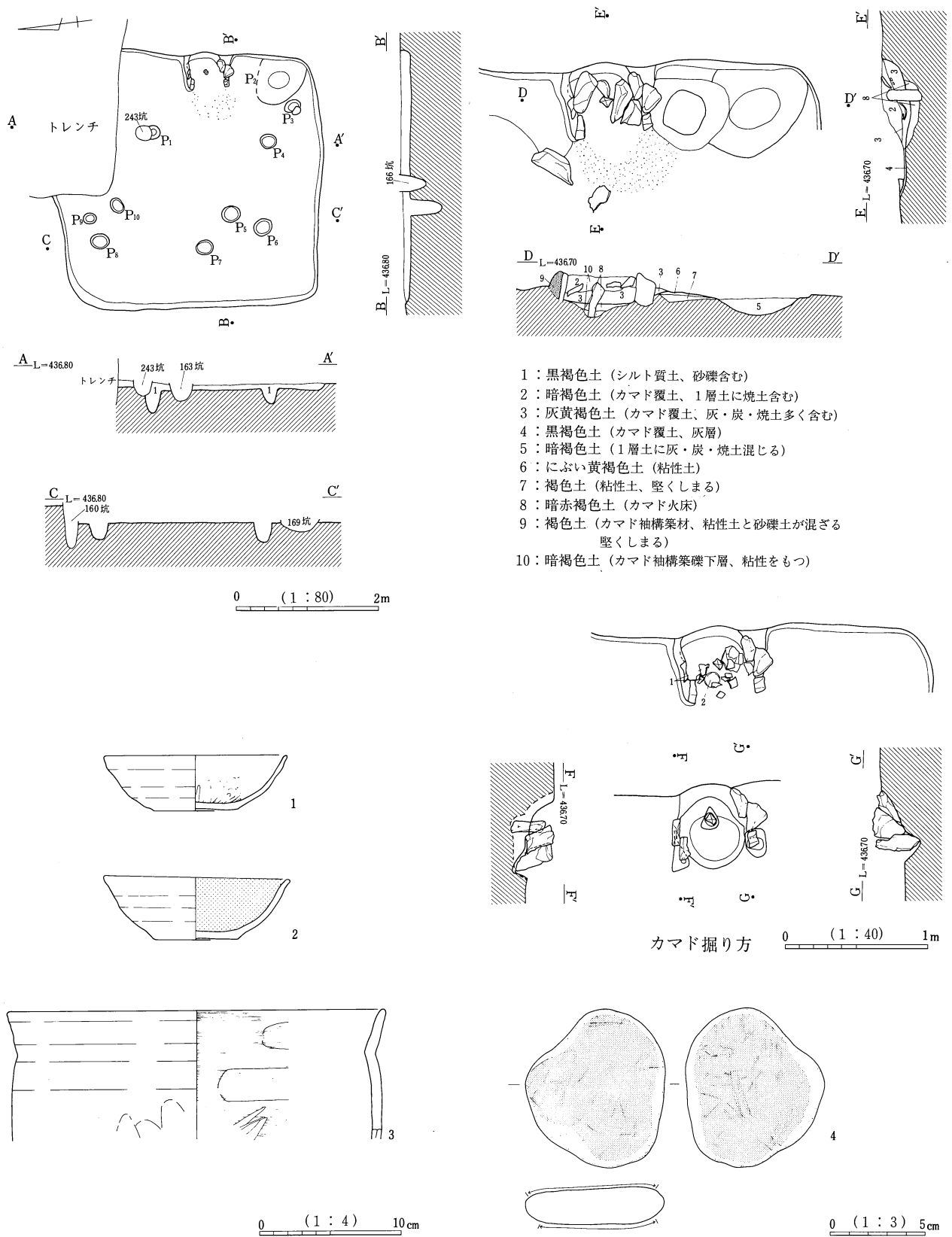


図314 1号住居跡

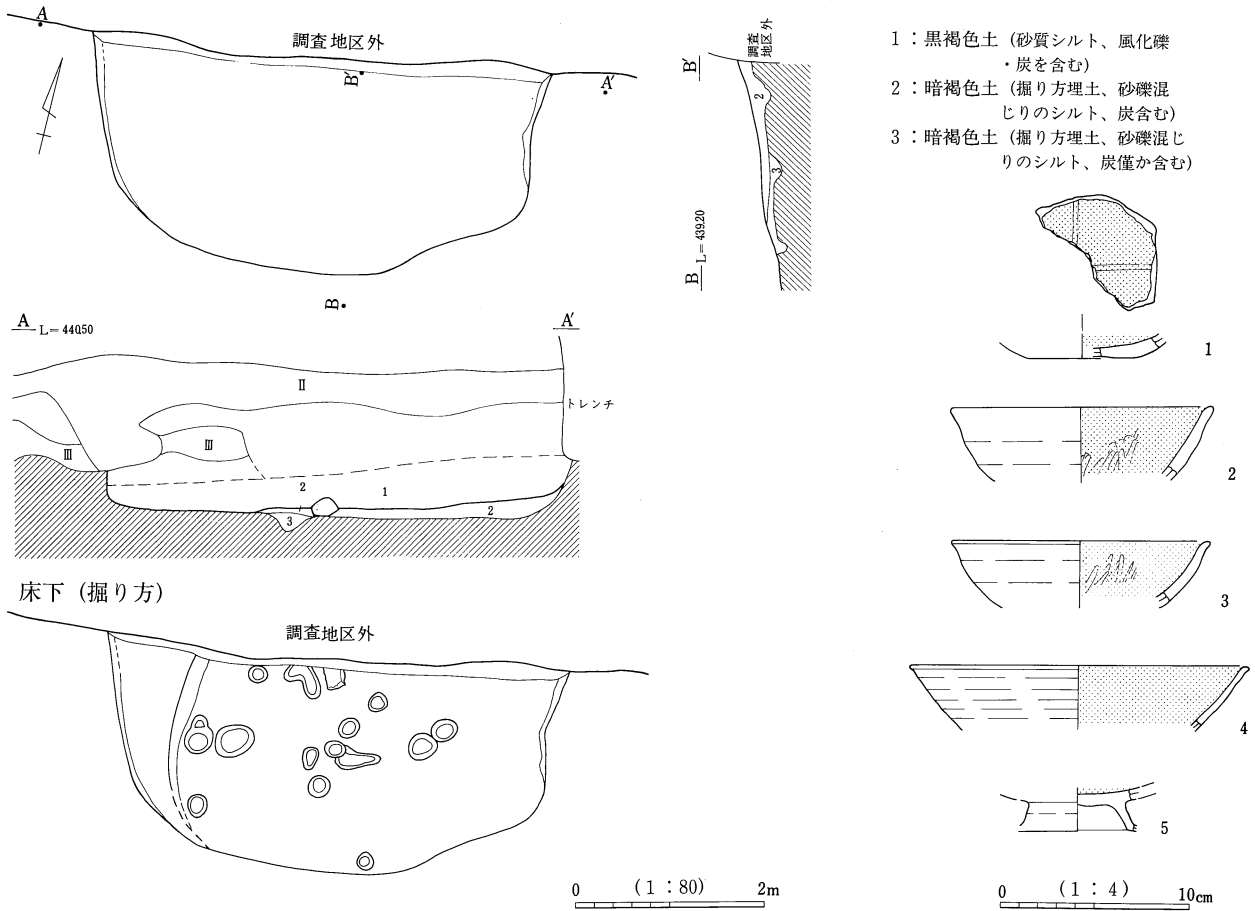


図315 3号住居跡

遺物 覆土内から、内黒杯（1～4）と、内黒の皿か碗の高台部分（5）が出土している。1は内面に暗文風のミガキが施されている。杯の法量は1～3の小型（口径平均13.9cm）と、4の大型（口径18.0cm）に分けられる。

時期 杯の様相から平安時代9世紀後葉～10世紀前葉とする。

4号住居跡

位置 F-13

検出 調査区南西隅に排水路を掘削した際、その壁面に陥ち込みが確認され、断面観察の結果から住居跡とする。掘り込み面はIII層中である。また覆土はIII層同質土と、その下に炭を僅かに含む暗褐色粘質土の2層が認められる。重複関係はない。

構造 平面形態は断面のみの調査で不明である。壁面は垂直気味に掘り込まれ、壁高は40cmを測る。また床面は平坦で、貼り床ではない様子である。床面標高434.80m。炉やカマドは検出されない。

遺物 覆土から土師器片が採集されている。

時期 土師器片が出土している点から、他の住居跡と同様の平安時代中頃と考えたい。

イ 鍛冶工房跡

2号住居跡は、カマドを持たず、鍛冶炉を備えた竪穴状遺構である。特殊な鍛冶関連施設や遺物が検出されているため、鍛冶工房跡として所見をまとめたい。なお、本跡出土の鍛冶関連遺物の分析結果は後出「付章第5節 弥勒堂遺跡出土の鍛冶関連遺物および鉄製品の分析・調査」にまとめられている。

2号住居跡 (図316・317・318、P L112) 位置 G-1・2

検 出 IV層上面まで掘り下げたところ、炭化物を多く含み、礫をほとんど含まない部分が検出される。平面精査の結果、長方形の陥ち込みが見つかり、住居跡と判断して調査を進める。床面付近の覆土は礫の混入が極端に少なく、人為埋没と考えられるが、上部は自然埋没と思われる。従って本跡機能の停止後、人為的に埋戻して、ある程度埋めた段階で放棄して、その後自然埋没していった過程が考えられる。直接の重複関係はないが、本跡より検出面の高い12坑に平面的には切られている。

構 造 平面形態は長方形で、長軸がほぼ北を向く。カマドはない。南側は遺構の遺存状態が悪い。規模は4.58×3.84mを測り、床面積は16.70㎡。壁は残りの良い北側では深さが24cmあり、急角度に掘り込まれている。床は貼り床で堅緻であり、部分的に焼土や炭化物が広がる。特に鍛冶炉北側の北壁付近は炭化物が集中する。床面標高436.50m。ピットは床面で14基、床下で9基検出されている。床面では住居中央から北側にピットが集中して、一部のピットは重複して掘られている。主柱穴ははっきりしないが壁柱穴として、西壁の3基が相当すると考えられ、形状からP5も柱穴の可能性があり。床下のピットは住居中央やや北側から、西壁に向かって真直ぐ連続して検出され、特に床面中央で確認される角礫の集中地点の下には3基のピットがある。

鍛冶炉 住居北壁寄りの、主軸よりやや東にずれる位置に1基付設される。床面を掘り込んだ地床炉であり、平面形態は東西に長軸を持つ楕円形で、規模は24×30cmを測る。深さは8cmと浅く、底面はよく被熱している。炉上部には炉壁など構築物は残っていない。

鍛冶工房跡の調査方法

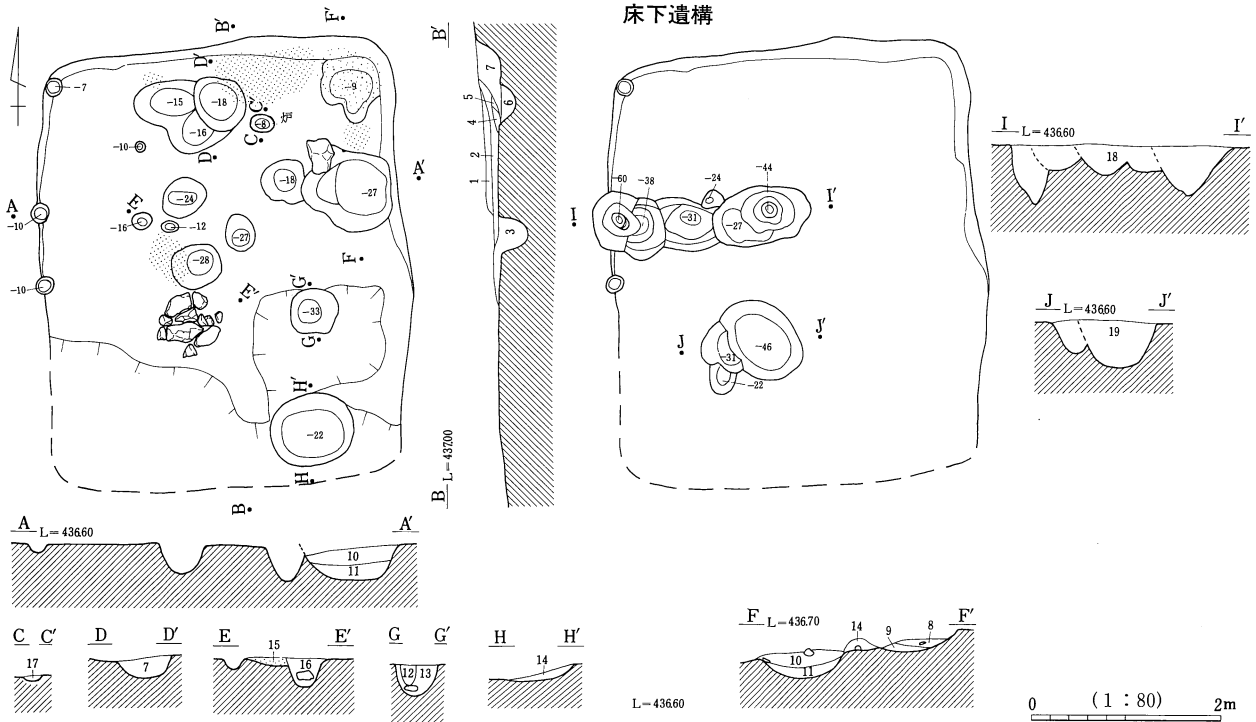
本跡は遺構検出から炭化物や鉄滓類が出土しているため、屋内鍛冶施設、いわゆる鍛冶工房としての竪穴遺構と予想して調査を行った。

鍛冶工房跡では通常、土器片や鉄滓、鞆羽口、木炭といった目に見える遺物以外に、鍛造剥片(金肌)や粒状滓(湯玉)に代表される微細な鍛冶関連遺物が覆土内に包括されている。現在の調査研究法ではこれらの微細遺物の採集には覆土毎取り上げて、整理作業で土の水洗、磁着選別を繰り返し行う方法が有効とされている。また、栃木県金山遺跡などでは更に詳細な方法として、床面全体を小グリッドで区切り、覆土を分割して取り上げて、遺物の分布を明確にした結果と、遺構の構造所見とを合わせて、鍛冶工程の段階と作業場としての空間配置を明らかにする方法も試みられている(栃木県教委1995)。

本跡では調査に時間的制約があるため、遺構覆土では分層毎に目に見える遺物を取り上げ、土自体は採集していない。床面で検出された鍛冶炉やピットの覆土については、目に見える遺物の取り上げと別に土嚢袋1袋ずつ(約7,000~15,000g)を基本として覆土を採集している。なお採集土量は鍛冶炉では1,790g、P11では32,390gといった具合に施設の法量に応じて幅を持つ。

出土遺物

土 器 日常用いる食器類も出土している(図316、表44)。その種類は須恵器坏、内黒坏、土師器坏、内黒碗、小型甕、甕、須恵器甕、灰釉陶器の碗や皿、壺の小片と、一般の住居跡と変わらず多彩である。出土位置は覆土が主であるが、施設内の出土状況では、P2・4から内黒坏、P3から内黒坏・碗、P4・6から小型の甕、特に鍛冶炉から甕が出土している。この状況から、本跡はカマドを持たないが、居住空間



- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 : 暗褐色土 (砂質土、炭僅かあり) | 11 : 黒褐色土 (2層土に似る、炭化物多い) |
| 2 : 黒褐色土 (砂質土、炭ややあり) | 12 : 黒褐色土 (風化礫含む) |
| 3 : 黒褐色土 (やや粘性をもつ砂質土、風化礫・炭僅かあり) | 13 : 黒褐色土 (風化礫やや含む) |
| 4 : 暗褐色土 (1層土に近似する) | 14 : 黒褐色土 (粘性シルト、炭化物多く含む) |
| 5 : にぶい赤褐色土 (焼土層) | 15 : (焼土層) |
| 6 : (粘性土) | 16 : 黒褐色土 (粘性シルト、風化礫僅か含む) |
| 7 : 黒褐色土 (シルト質土、風化礫多) | 17 : 黒色土 (鍛冶炉覆土、多量の灰を含む) |
| 8 : 黒色土 (炭化物層) | 18 : 黒褐色土 (礫、風化礫を多く含む) |
| 9 : 暗赤褐色土 (1層土に焼土含む) | 19 : 黒褐色土 (礫含む、風化礫やや少ない) |
| 10 : 暗赤褐色土 (1層土と近似する) | |

遺物出土状況

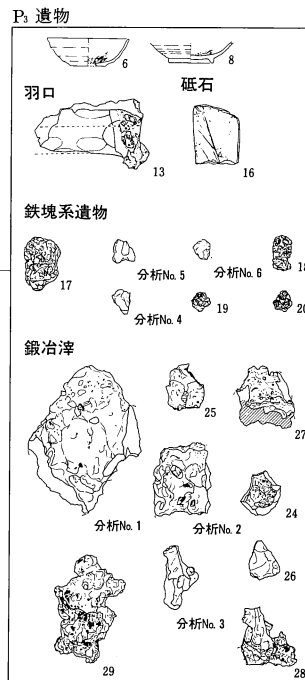
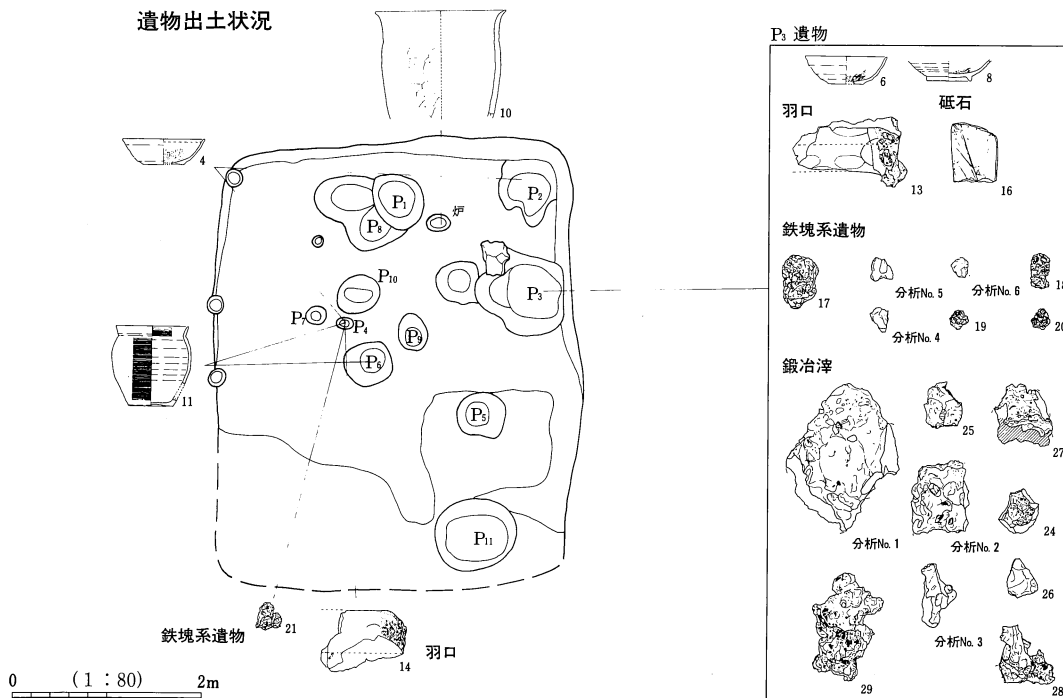


図316 2号住居跡(1)

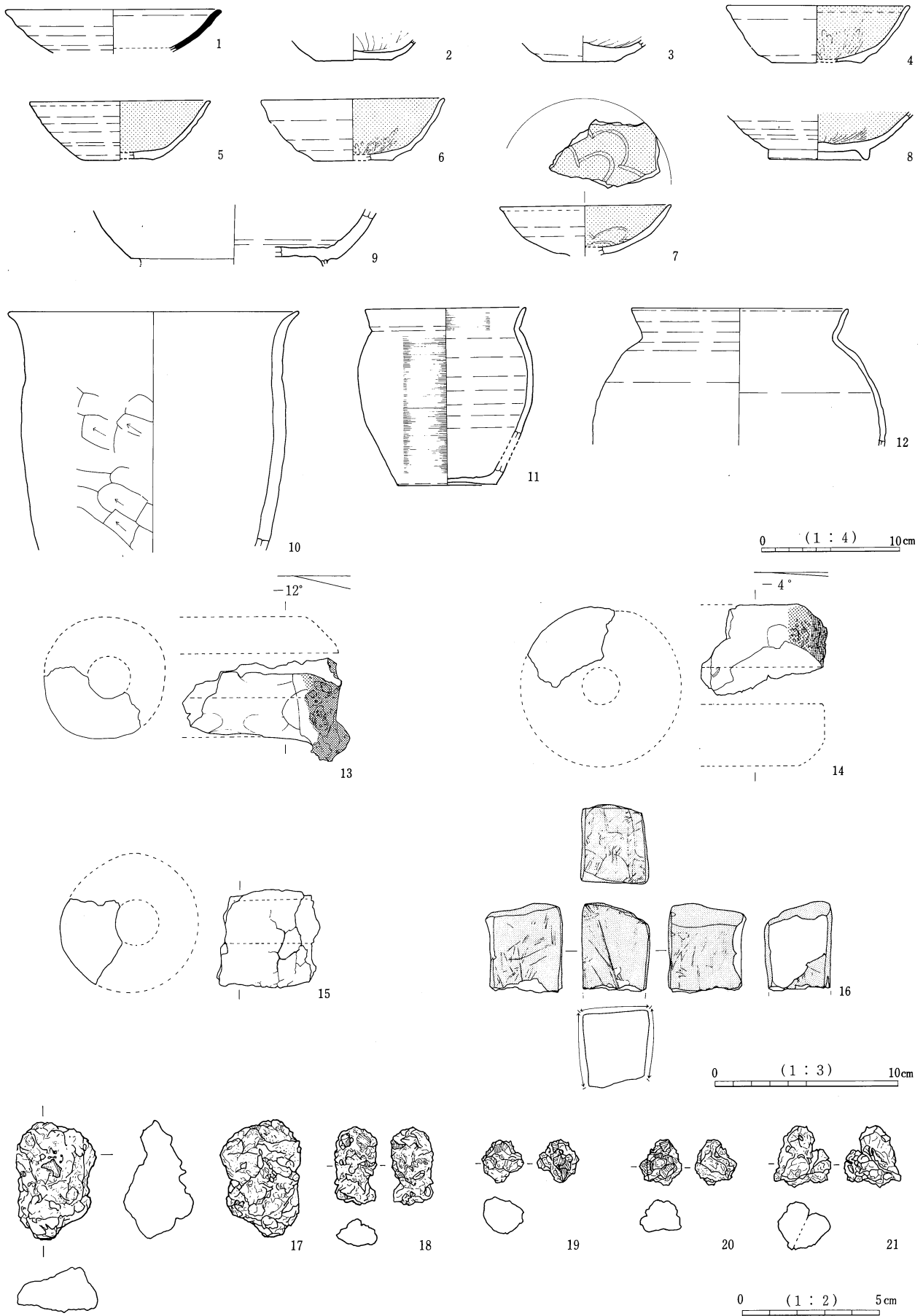


図317 2号住居跡(2)

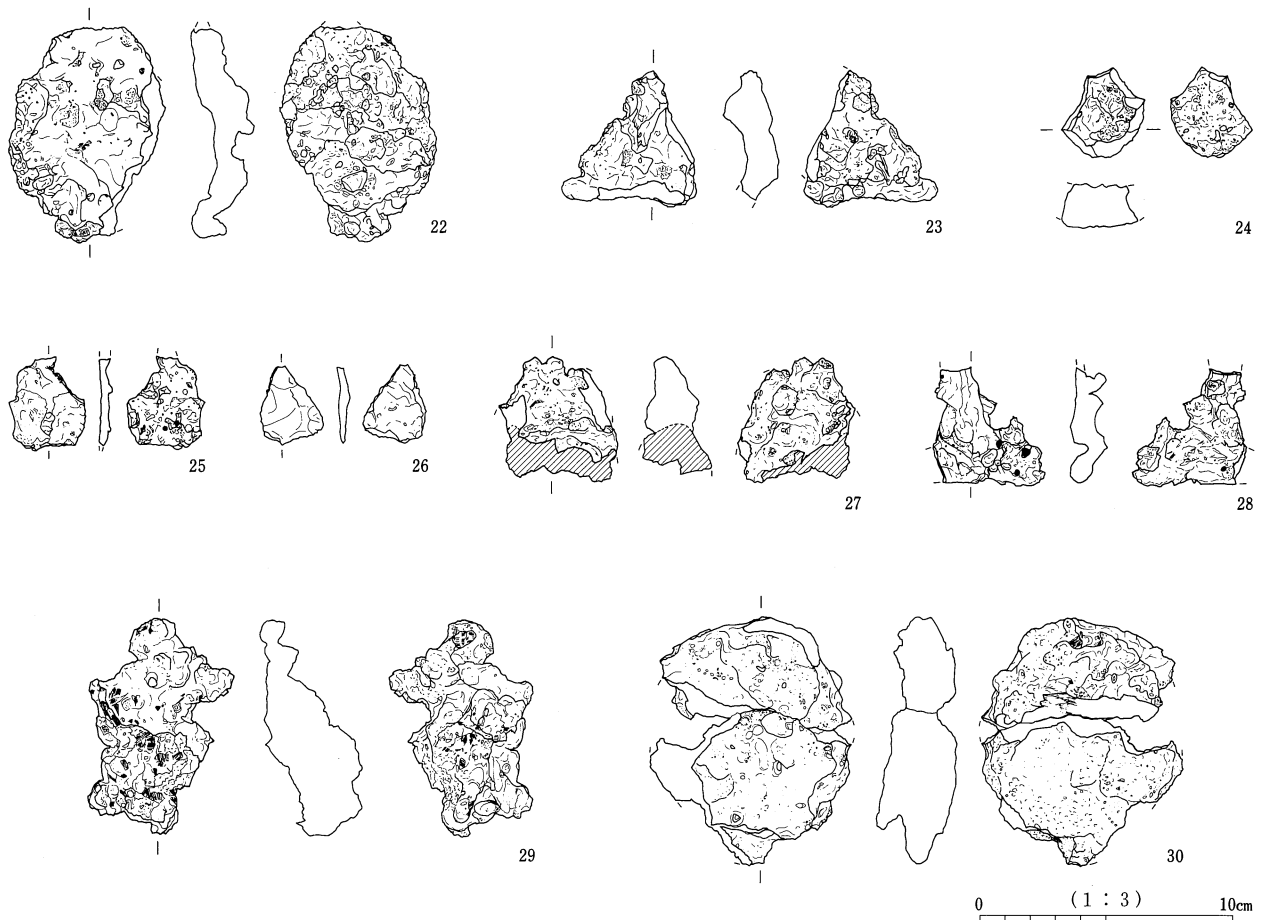


図318 2号住居跡(3)

としても利用していたと考えられ、更に炉を煮炊きにも併用していた可能性を持っている。

主な土器の特徴をまとめると、須恵器坏(1)は浅く開く器形で、軟質な焼成である。土師器坏(2・3)はロクロ成形で、内面調整は回転ヘラナデ後の放射状ヘラミガキが残る。内黒坏(4~7)は口径13cm前後で内面にタテミガキが残る。特に7には二重の暗文風ミガキがある。内黒塊(8)も内面にタテミガキが密に残っている。須恵器甕(9)は軟質な焼成である。土師器のロクロ甕(11・12)には大小の法量差があり、11は小形で口縁部が直線的に開き、平底の器形で、外面と口縁部内面にカキ目調整が顕著である。12は大形で砲弾形を成し、体部上半に最大径を持つ、いわゆる北信系の甕である。また広口で口縁部に最大径を持つ、寸胴な甕(10)もある。灰釉陶器塊は小片で図化できないが、光ヶ丘1号窯式と考えられる。

動物骨 覆土1層からイノシシ(ブタ)の上顎骨、2層からニホンジカの中手骨、P3内からウマの歯や橈骨、P6内から種不明の動物の肋骨片が出土している。

鍛冶関連遺物

羽 口(図317、表48、P L112) 遺跡全体で10個体以上(807.84g)出土し、そのうち9個体(722.20g)が本跡から出土している。

いずれも酸化炎焼成で作られ、破片で出土している。図化できる資料は4点あり、P2から1点(13)、P4から1点(14)、覆土から1点(15)、覆土2層から1点(試料No.11)である。胎土は全体に緻密で、一部には1cm程のスサを含んでいる。また調整はナデが基本で、ユビナデが観察できる資料もある。孔部

は先端から基部まで径の差異はほとんどなく、口径は復元計測できるもので、2.0～2.8cmを測り、平均2.4cmである。体部は先端部から基部へ向かって徐々に太くなる形状で、各資料の外径は6.6～8.8cmと個体差がある。13・14は先端部が残り、どちらも使用による二次被熱を強く受けて、溶解している様子が観察できる。特に13は滓化した溶解部分が下方に垂れている。2点とも被熱の状況から使用回数は1回ずつと判断され、使用角度は13が -12° 、14が -4° と比較的水平に近い状態で鍛冶炉に据えられていたと考えられる。

また試料No.11の分析結果では、この羽口の耐火度は約 $1,040^\circ\text{C}$ であり、先端部に付着した鉄滓には金属鉄が存在していた可能性を示している。またその鉄滓は鍛冶滓と推定されるため、鍛冶炉用の羽口と考えられる。

鉄滓類 (図317・318、表47、P L112) 本遺跡から出土した鉄滓類はいずれも鍛冶業から排出された「鍛冶滓」である。遺跡全体の出土総重量4,423.44gのうち、本跡出土重量は3,736.60gである。

それらを形状などから分けると椀形鍛冶滓、不定形鍛冶滓、鍛造剥片、粒状滓である。椀形鍛冶滓は鍛冶炉の炉底や木炭層中に溶解した滓や半溶解の鉄が上下に重層して椀形に形成されたもので、上面が平坦である。今回は更にメタルチェッカー^{註1}にてH反応以上の高反応を示したものを「含鉄椀形鍛冶滓」として区別する。不定形鍛冶滓は、椀形鍛冶滓の構造によく似て、その端部や碎片である場合が多いが、明確に形状分類できない滓全般を呼ぶ。そのなかには羽口や炉壁などが溶解して光沢を持って飴状になる滓もある。なお不定形滓は製鉄業の各工程から排出されるが、本跡には製錬業に伴う滓は出土していない。鍛造剥片は「スケール」や「金肌」とも呼ばれる、鍛錬鍛冶の工程で鉄素材から剥離する薄い酸化鉄の被膜である。また粒状滓は「湯玉」とも呼ばれ、鍛錬鍛冶の前半段階に、炉内で赤熱状態にした鉄素材の酸化と目減りを抑えるために、表面に塗布する粘土汁と鉄の酸化物が反応して、素材の鍛打の際飛散して球状に冷え固まった遺物である。

椀形鍛冶滓・含鉄椀形鍛冶滓 遺跡全体の椀形鍛冶滓の出土総重量は1,876.32g（そのうち含鉄椀形鍛冶滓383.45g）で、本跡から1,271.07g（109.40g）出土している。

椀形鍛冶滓には大形のもの（22・30・試料No.1）と中形のもの（29・試料No.2・3）がある。そのうち含鉄椀形鍛冶滓（29・30）は、見かけでは他の椀形鍛冶滓と区別しにくいのが、重量感があり、部分的にメタル度が高い状況を示している。

また椀形鍛冶滓は完形の状態よりも、割れて接合できる滓（30）や破面を持つ滓が多い。24は中型の椀形鍛冶滓が、側面全体を小割りされている。このことは、椀形鍛冶滓中に半溶解して落ち込んだ金属鉄を、もう一度鉄素材として利用するために、滓を打ち欠くという作業を想定させる。試料の分析によると、No.1は鍛錬鍛冶滓とされ、No.2は精錬鍛冶滓の可能性が高い。とすれば、鍛冶工程は精錬鍛冶から鍛錬鍛冶まで継続して操業されていたとも考えられる。

不定形鍛冶滓 飴状に光沢を持つ滓（23・27）は非常に軽量で、まさに不定形で形成時の天地を捉えにくい滓である。また27は一部羽口先端部が付着している部分（図318の斜線トーン範囲）があり、炉壁寄りの羽口付近で、炉壁や羽口が溶解して形成されたことが分かる。25・26は板状の鉄滓で、形状からの印象は鍛造剥片の大型品である。上面は平滑で、下面はざらざらした質感で起伏がある。鍛造剥片も鍛打された側が平滑で、鉄素材から剥離した側は凹凸があるため、この滓も何らかの鍛打時に形成された可能性がある。28の不定形鍛冶滓には全面に粒状滓が5点ほど付着している。これはこの滓がまだ熱を含んでいる状態で、粒状滓が散布している場所に排出されたことを示しているだろう。

鍛造剥片 (表41) 総重量279.74 g 採集された。

通常鍛造剥片は作業工程が進む程薄くなり、色調も黒色から灰色(鉛色)に変わるとされている。本跡の鍛造剥片も選別ふるいのメッシュを5段階に分けた結果、最大のメッシュ4mm以上では形状は茶褐色で剥離面が凹凸を持っているものが主体で、厚さは平均0.355mmと、最大である。それから小さくなるにしたがって薄くなり、最小メッシュ0.5mm~1.0mmでは形状は鉛色に光沢を持ち、両面とも平滑である。厚さは平均0.135mmと最小を示している。厚さの変化は3類と4類の間が最も大きい。また算出した個体数の割合は小さくなるにしたがって増し、5類は全体の21.0%、6類は全体の72.2%を占めている。

粒状滓 (表42) 総重量33.18 g 採集された。

鍛造剥片同様に選別ふるいのメッシュを用いると6段階に分けられる。メッシュ4mm以上では、光沢のない鉛色や赤褐色で、完全な球形のものではなく、平面楕円形や涙滴状の形が多い。サイズが小さくなるに従って、色調は黒っぽくなり、形状も球形に近づく。最小のメッシュ0.4mm以下では光沢のない黒鉛色でほぼ球形に共通している。また算出した個体数の割合では6類が全体の30.7%、7類が63.9%を占める。

試料No. 7の分析では、精練と鍛錬の鍛冶工程で発生した粒状滓の混合物の可能性が高い結果が出ている。

表41 鍛造剥片計測表

類	大きさ	厚さ	平均厚さ	出土総重量(g)	個体数	割合
1	7.1mm~					
2	4.1~7.0mm	0.1~1.2mm	0.49mm	9.48	126	0.1%
3	2.1~4.0mm	0.1~0.7mm	0.31mm	45.36	4,697	1.9%
4	1.6~2.0mm	0.1~0.3mm	0.16mm	47.34	12,029	4.8%
5	1.1~1.5mm	0.05~0.3mm	0.14mm	69.66	52,668	21.0%
6	0.5~1.0mm	0.05~0.2mm	0.11mm	107.90	180,940	72.2%
7	~0.4mm					
総計				279.74	250,460	

表42 粒状滓計測表

類	直径	出土総重量(g)	個体数	割合
1	7.1mm~			
2	4.1~7.0mm	10.31	41	0.1%
3	2.1~4.0mm	11.03	628	1.4%
4	1.6~2.0mm	3.31	553	1.2%
5	1.1~1.5mm	3.89	1,206	2.7%
6	0.5~1.0mm	3.53	13,873	30.7%
7	~0.4mm	1.11	28,865	63.9%
総計		33.18	45,166	

鉄塊系遺物 (17~21・試料No. 4~6) 遺跡全体で出土量は21点(104.76g)あり、本跡出土量は20点(78.49g)である。

鍛冶滓としてまとめられたものから、メタルチェッカーに高反応を示す遺物を抽出したものが「鉄塊系遺物」である。外部には滓や酸化土砂などを付着していて、一見すると小鉄滓であるが、小型であるが重量感があり、内部には金属鉄の小塊を包括している。内部の鉄の錆化膨張に伴う放射割れや黒錆の吹き出しなどの外見的特徴も示している。不定形で肉眼観察では鍛冶加工の有無は分からない。

分析結果では、試料No. 4・6は鍛冶加工を受けたと推定されるものであり、試料No. 5は炭素をほとんど存在せず(純鉄に近い)、鍛冶加工を受けていないと推定される。この結果から試料No. 5は、鉄素材として製錬遺跡から持ち込まれた「製錬鉄塊系遺物」の可能性がある。

砥石 (図317、表45、PL112) 1点出土している。灰色の凝灰岩製で、角柱状を呈する。長軸の一端が欠損するが、完形では長さが倍以上あると考えられる。破面以外は、全て砥面に利用されている。

鍛冶関連遺物の出土状況 各遺物の重量を用いて、施設毎の出土割合を求めた(図319)。遺物の重量には調査時に各施設毎に取り上げた遺物とサンプル土中から採集した遺物を合わせている。これによると、いずれの遺物もP3から集中的に出土していることが分かる。微細な鍛造剥片や粒状滓もサンプル土重量の比を大きく越えて大半がP3から出土している。P3は鍛冶炉右の工房跡東壁際にある略楕円形のピットである。規模は94×82cm、深さ27cmを測る。鍛冶炉同様に長軸方向を東西に持つ。底部は比較的平坦で、

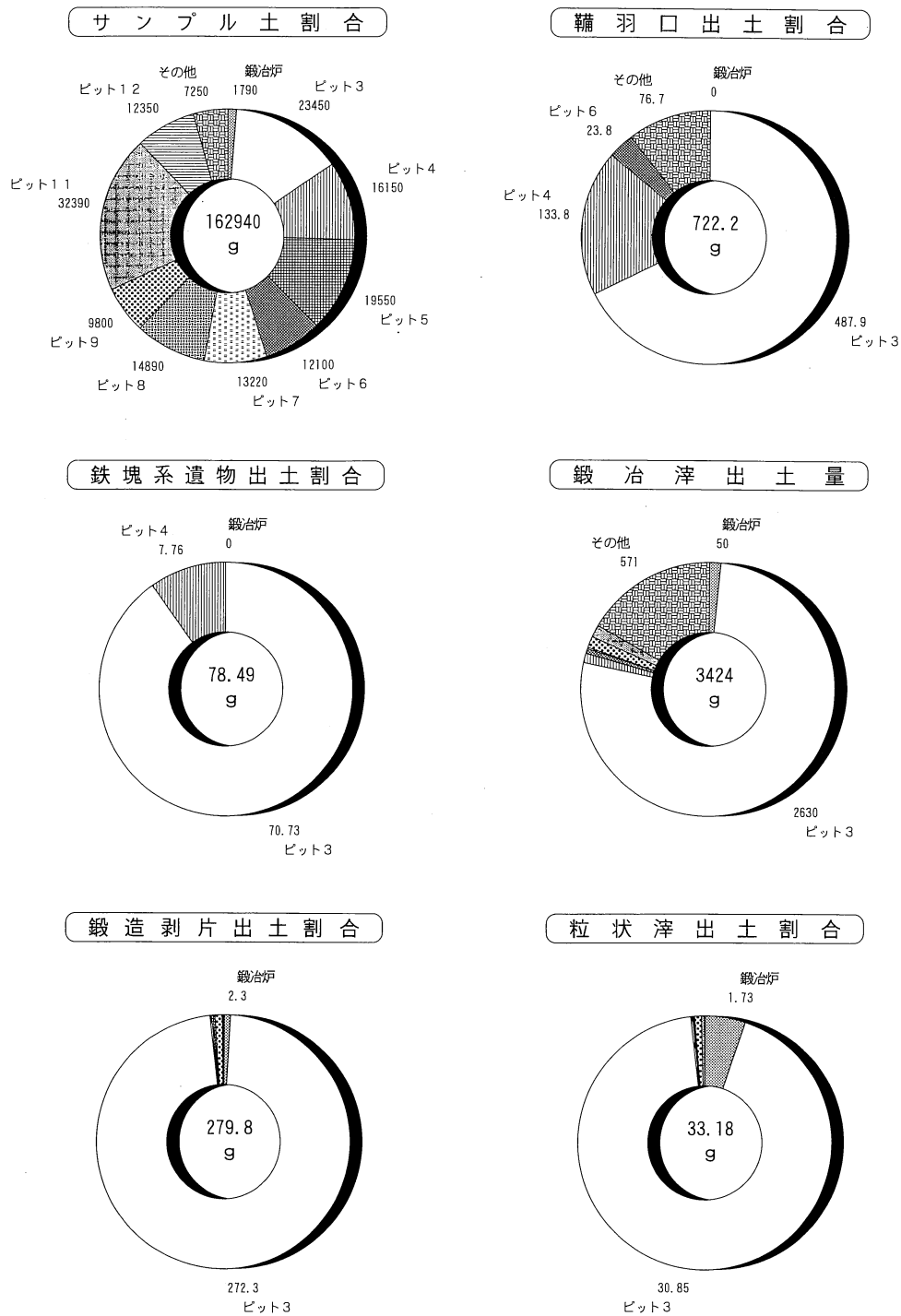


図319 2号住居跡 鍛冶関連遺物出土割合

底面付近の覆土 (11層) は炭化物層と捉えられるほど、炭化物が集中している。鍛冶関連遺物もこの炭化物層から集中的に出土している。

30の含鉄碗形鍛冶滓は自然流路跡の上流部から出土している。工房跡の操業時に排滓を流路に投げ込んだ可能性がある。

時期 土器の様相からすると、所属時期は10世紀前葉と考えられる。

鍛冶工房としての性格

これまでの所見から、この工房跡の性格を推察する。

施設としては、小型の鍛冶炉を1基付設し、炉の周囲には大小のピットが重なる。ピットには柱穴以外に、工人が鍛錬する際に入る作業場、排滓坑など、鍛冶業のための機能を持つことが予想される。

遺物では、まず土器が一定量出土していて、居住空間としての利用もあったとも考えられる。特に炉内からの甕の出土は、炉の利用が鍛冶炉と煮炊き炉の両用であったという推測ができる。また鍛冶関連遺物は鍛冶炉周辺、特にP3底部炭化物層から集中して出土している。これは、P3が鍛冶業に深く関わる施設であることを示し、底部から集中する点から、作業時にピットが開口していて、炉内や周辺から排出する燃え炭かすや鉄滓類を一旦捨て集める「排滓坑」の性格が強いと思われる。

分析結果からは、この工房跡は鍛冶業専門の操業を行い、鍛錬鍛冶を中心として、精練鍛冶段階も合わせて行っていたと考えられる。また鉄素材は別の製錬遺跡から小鉄塊（製錬鉄塊系遺物）の状態を持ち込まれた可能性を示している。なお鉄原料が砂鉄か鉱石か明らかにできていない。

このほかに本跡は動物骨の出土が集中する特徴がある。単なる食用ののちの廃棄か、鍛冶業に伴う遺物なのかは不明であるが興味深い。

ウ 土坑

土坑は237基検出されている。そのうち4基は埋葬人骨を伴う土壙墓である（後出：エ 土壙墓）。分布をみると、大形の土坑は調査区北側の比較的斜面の急な部分に広がっている。また小形の土坑は南側の緩斜面の範囲に密集する傾向にある。ここでは形状や遺物の特徴的な土坑を取り上げる。

1号土坑（図320、P L113） 位置 F-4

検出 IV層上面にて、黒褐色土の陥ち込みとして検出。調査後に、この下に3住が重なることが分かる。覆土は暗褐色土の単層、炭化物を僅かに含み、締まりは悪い。また南側は検出状況が悪く、立ち上がりが不明確である。

構造 平面楕円形で、断面は皿状である。底部は平坦である。規模は160×120cm、深さ14cmを測る。床面の北側から内黒坏が1点出土している。

時期 土器から平安時代、10世紀前葉と考えられる。

2号土坑（図320・321、P L113） 位置 F-4

検出 1坑の東側に隣接して検出する。検出面はIV層上面で、覆土は単層でにぶい褐色の粘性シルトに焼土と炭化物が混じる。

構造 平面略長方形で、底面は平坦である。規模は280×168cm、深さ34cmと大形で竪穴遺構といえる。北側の床は貼り床状に堅く締まり、一部に焼土や灰が散っている。床層は厚さ3cm程あり、焼土、炭化物の混じる砂質シルトである。貼り床範囲の西には浅いピットが1基あり、覆土には焼土や灰が溜まる。

遺物 土器が貼り床面付近から集中して出土する。出土状況からはまとめて廃棄集積された印象を受ける。土器のほとんどが土師器で、坏は内黒土器（3～9）が主体であり、土師器（1～2）も残る。また内黒碗（10）、高台皿（11）や黒色土器の皿（12）も出土する。甕には大小があり、大形甕は北信型のロクロ甕（16～20）が主体で、1点だけ東信型の武蔵型甕（21）が出土している。北信型の甕は口縁部が直線的にくの字に屈曲して、体部上半に最大径を持つものが主体であるが、20のような口縁部に最大径を持つものも入る。21は頸部のくびれが不明瞭で、コの字状の口縁形態が失われつつある。最大径は体部上半にあ

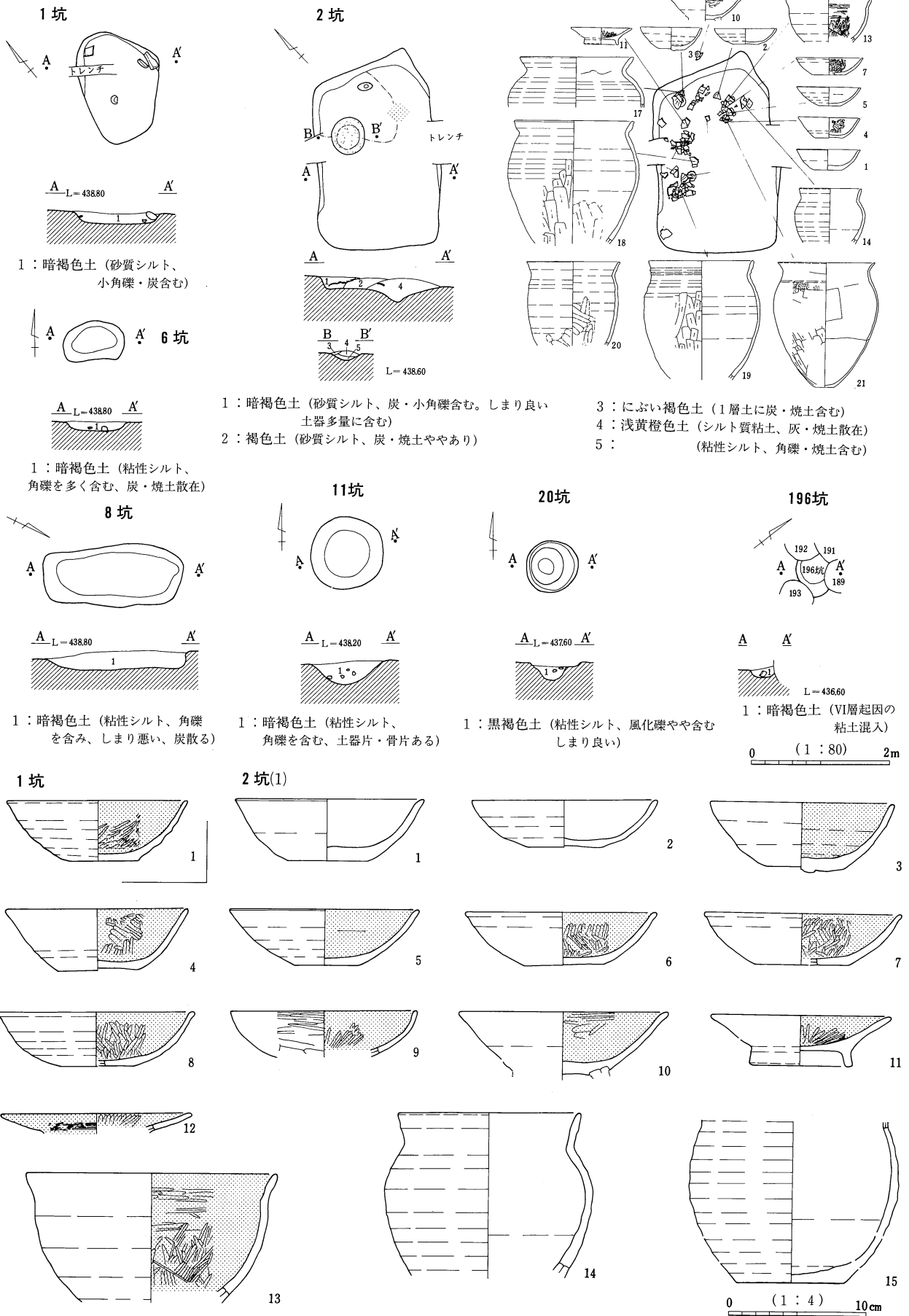
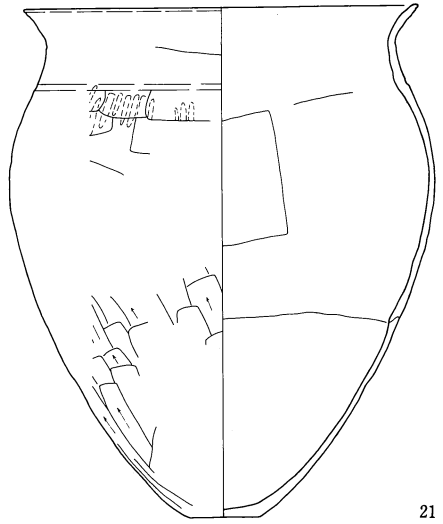
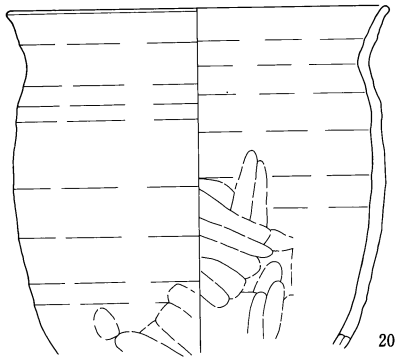
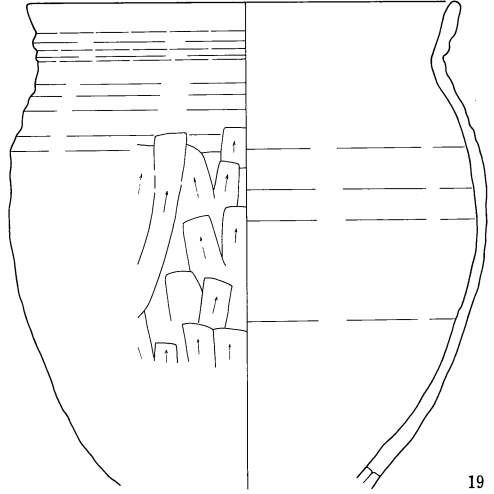
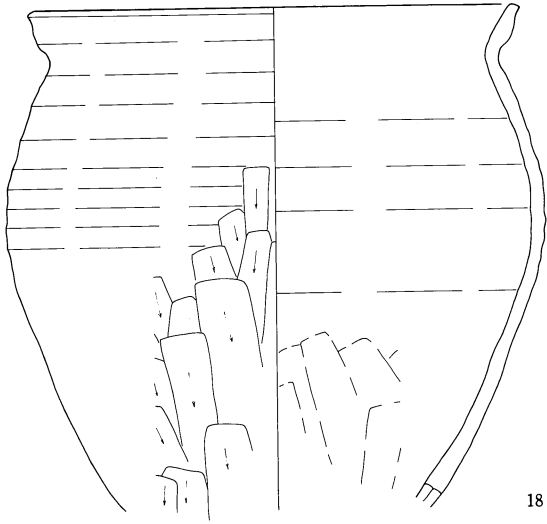
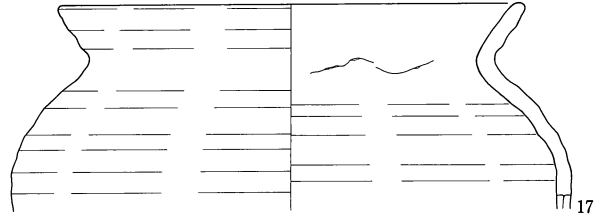
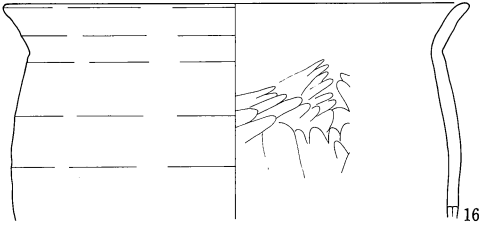
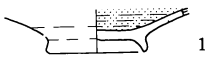


図320 土坑 (1)

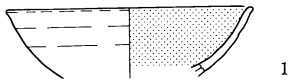
2坑
(2)



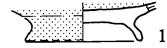
6坑



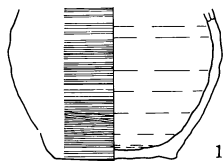
8坑



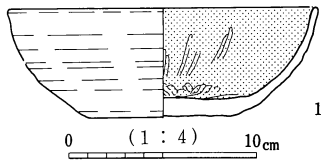
9坑



11坑



20坑



196坑

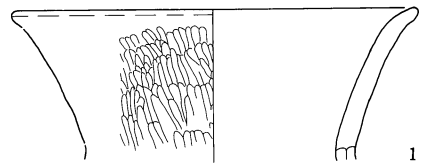


图321 土坑(2)

り、底部は非常に小型の平底となる。小形甕(14・15)は北信型甕に伴うとされるロクロ甕である。

時期 土器の様相から10世紀前葉と考えられる。

6号土坑 (図320・321、P L114) 位置 F-5

検出 調査区北側の斜面上部のIV層上面で検出する。覆土は暗褐色土の単層で、しまりが悪く、炭化物と焼土を含む。

構造 平面不整楕円形で断面は皿状である。規模は88×56cm、深さ12cmを測る。

遺物 覆土から内黒の高台皿が1点出土している。

時期 平安時代10世紀前葉に属すると考える。

8号土坑 (図320・321) 位置 B-21、G-2

検出 調査区北側の斜面上部で、IV層上面から検出する。覆土は暗褐色土の単層で、しまり悪く、炭化物が散っている。

構造 平面長楕円形で断面は皿状を呈する。規模は208×92cm、深さ28cmである。本址の南側に人骨を埋葬した土壙墓9坑があり、形状が近似しているため、本跡も土壙墓の可能性はある。

遺物 覆土から内黒杯が1点出土している。

時期 遺物からすると、10世紀前葉と考える。

11号土坑 (図320・321) 位置 B-22、G-2

検出 調査区北東側の斜面上部で、IV層上面から検出する。暗褐色土の覆土には、炭が多く混じり、土器片や骨片、拳大の角礫も含まれる。

構造 平面円形で断面は浅鉢状を呈する。規模は108×104cm、深さ32cmである。

遺物 土器器のカキ目調整を施した小型甕が1点出土している。また、ウマヤニホンジカ、ウシの歯や骨片が出土している。

時期 遺物から平安時代10世紀前葉と考える。

20号土坑 (図320・321) 位置 F-8

検出 調査区西側で、IV層上面から検出する。覆土は暗褐色土である。

構造 平面円形で断面は逆台形を呈する。規模は76×76cm、深さ20cmである。

遺物 覆土内から、内黒の大型の坏が出土している。

時期 遺物から平安時代10世紀前葉と考える。

196号土坑 (図320・321、P L114) 位置 G-6・11

検出 調査区南側で、VI層上面にて検出する。古代(平安時代)と考えられる189・191～195坑、人骨の埋葬されている土壙墓22坑に切られている。自然流路跡(旧SD3)との重複関係は不明である。

構造 平面はほぼ円形で、断面形は浅鉢状である。

遺物 弥生時代後期～古墳時代前期に属する壺の口縁部が出土している。

時期 土器からは弥生時代後期～古墳時代前期のうちに所属すると思われる。

その他の土坑の性格

上記した土坑と土壙墓以外の土坑について、覆土の相違から傾向を見たい。調査段階で181基の土坑について、覆土の性状から分類を試みた。

A' : III層起源の黒褐色土	……15基
A : III層起源の黒褐色土、A'より明調	……86基
B : II層起源の暗褐色土	……6基
C : "	……10基
D : IV層起源の粘質土	……7基
E : III層起源の黒褐色土、平安竪穴住居跡と同質	……57基

大まかな時期として、A'・A類は同質のIII層黒褐色土中に北宋銭が出土したことから中世に属すると考えられる。またB・C類はII層起源で、中世以降とする。D類は時期不明であるが、その形状と規模からA類と同時期に当てはまると推定する。E類は平安住居跡と同質であり、ほぼ同時期と考えたい。

このうち中世期の可能性のあるA'~D類の土坑分布を図に表すと(図322)、全体に調査区南側の低位の平坦部に集中している。更に各類で見るとA'・A類は調査区の南東側と南西側に集中する傾向にある。また同類は柱痕を残すものも多く、掘り込みが円柱状で深いこと、小群にまとまることなどから建物跡の柱穴の可能性を持つ。しかしながら、明確に並ぶものを見出していない。この他にB類はA'・A類と同様な地点以外に、調査区北側の高い地点にも散らばる。C・D類はA'・A類と同様の分布傾向を見る。

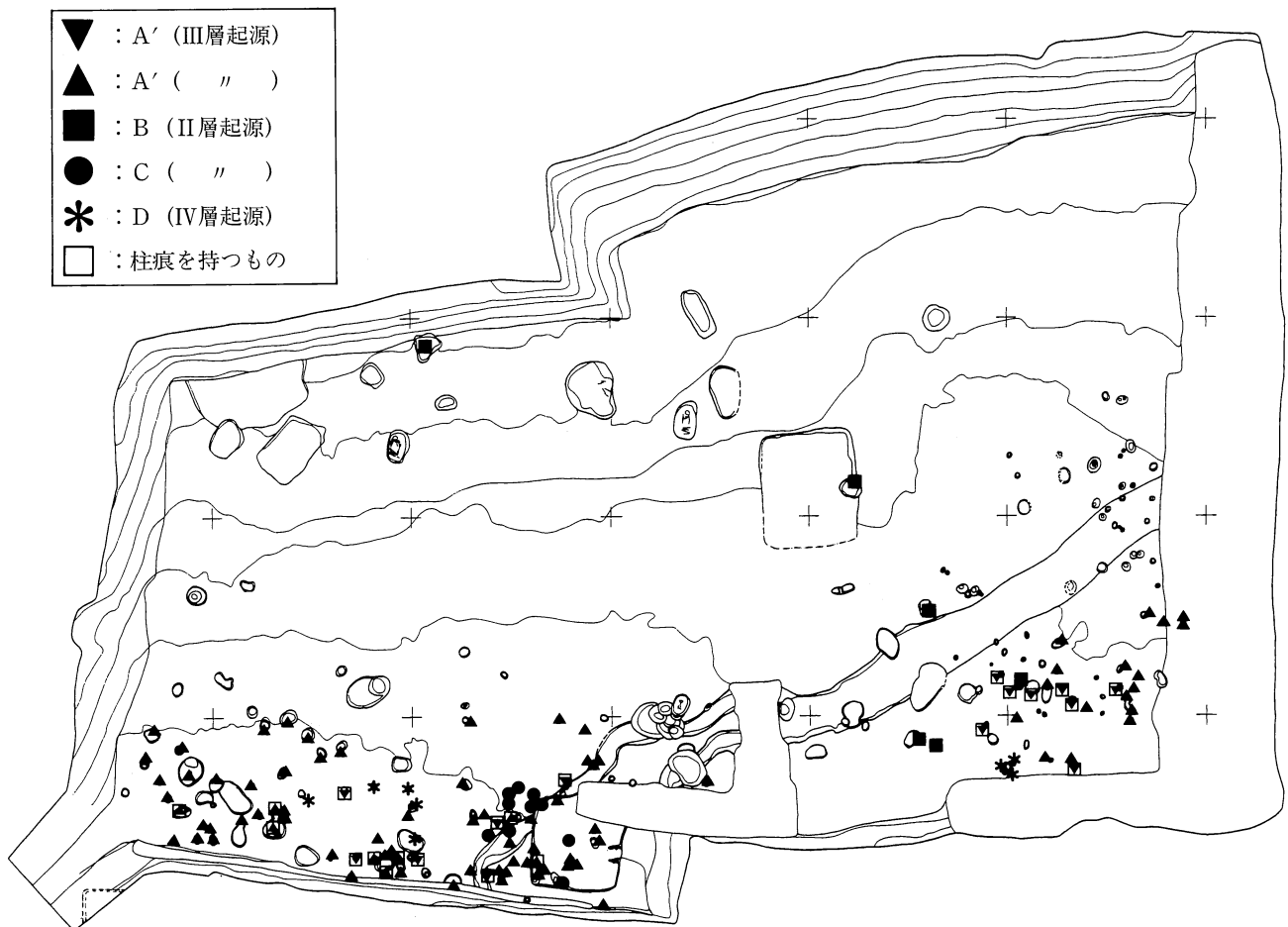


図322 各土坑の分布

エ 土壙墓

ここでは、人骨が出土した4基の土坑を土壙墓として取り上げる。5・9・22坑では、土坑形状は楕円形で、埋葬姿勢は頭位北で西向きの横臥屈葬であることが明らかであり、共通している。7坑も同様の可能性がある。このほかに、人骨は出土していないが、土坑の形状と位置から土壙墓の可能性を持つ土坑として8・10坑がある。

これらの土壙墓は埋葬形態や分布位置、覆土が似る点などから、埋葬の時間差は少ないと考える。実際の時期は、遺物からすると住居跡同様の平安時代の土器片が主体であるが、覆土が平安時代の遺構と異なり、土壌化が進み黒色が強い性状はⅢ層起源の土質であり、当該層から遺構外出土遺物ながら北宋銭「元祐通寶」(図326-9)が出土していることから中世に当てはまると推定する。

人骨の取り上げについては、人骨が全体的に脆弱なためボンコート液などの補強剤を塗布している。また土毎ブロックで取り上げた部位もあり、室内でクリーニングを行った。

その人骨については茂原信生氏(京都大学霊長類研究所)に鑑定を依頼して、報告は後出「付章第4節 弥勒堂遺跡出土の人骨および獣骨」にある。

5号土坑(図323、PL115) 位置 F-4

検 出 IV層上面で検出。検出段階で大腿骨の一部が露出しているため、土壙墓と推定した。覆土は、IV層より風化礫が少なく、中・大礫は含まない。

構 造 平面楕円形で、ほぼ南北に長軸を持ち、等高線に直交する。規模は128×80cm、深さは山側で16cmある。山側と谷側の検出面での比高差は26cmある。底面は人骨の取り上げの都合上、不明確であるが、人骨の3～4cm程度下にあると見られ、僅かに谷側が低いが、ほぼ平坦と考えられる。また土坑の周囲にある礫は地山に含まれる崖錐の堆積物である。

人骨の状態 西向きの横臥屈葬。椎骨は最も東側にあり、左腕は腰へ伸ばした状態である。右腕は体の右側で折り曲げ、手骨は顔の前にある。脚は左右とも右側へ折り曲げて重ねている。埋葬体位の上位にある左半身は多少原位置がずれたり、左上腕骨や肩・腰骨が不明な点が見られるが、下肢骨や右半身は原位置を保つと思われる。立面分布は上下差10cm内外にあり、頭部から下肢まで水平である。全体に遺存状態は良好だが、細部の骨や骨端部は脆弱である。人骨は露出させて記録した後、ナンバリングして取り上げている。

人骨鑑定結果 「四肢骨の状態から判断して男性的な個体である。年齢などは不明であるが成人には達していたであろう。」

その他の遺物 人骨と同位置から平安時代の土師器が出土している。

7号土坑(図323、PL115) 位置 F-5、G-1

検 出 IV層上面にて検出する。検出段階から人骨が露呈している。覆土は記録なし。

構 造 土坑の形状は不整である。また断面は皿状である。規模は240×180cm、深さ40cmである。人骨の分布は土坑東側に偏るため、土坑の実際の形状はその付近にあり、楕円形を呈していると推測する。

人骨の状態 非常に脆弱であり、僅かに上腕骨と大腿骨付近が残るのみである。また骨端部はほとんど残っていない。しかし、残存する骨からは頭位を北に置く西向きの横臥屈葬と考えやすい。

人骨鑑定結果 「この個体は、成人であると思われる。性別は不明である。」

その他の遺物 出土していない。

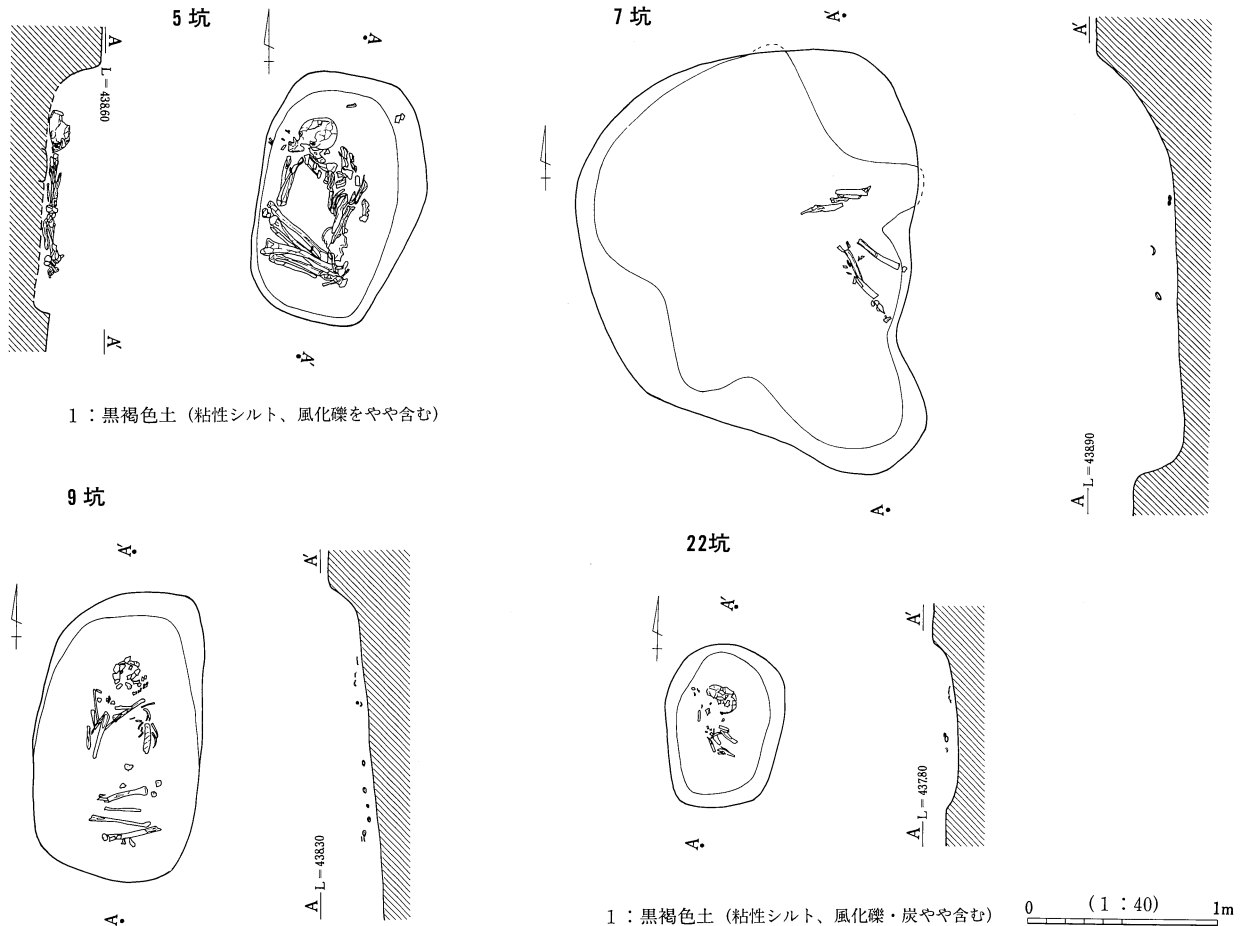


図323 土壙墓

9号土坑 (図323、PL115) 位置 G-1

検出 IV層上面で検出。検出段階で人骨が露出していたため、土壙墓と推測する。

構造 平面楕円形で、長軸は南北方向である。また断面は皿状である。規模は156×92cm、深さは20cmを測る。

人骨の状態 比較的遺存状態は良好である。頭位北に置き、西向きの横臥屈葬である。頭骨は細かく分解しているが、原位置を保っている。両腕骨は胸部手前で深く折り曲げている。椎骨と胸骨の遺存状態は悪く、消滅している部位が多い。両脚骨も腕骨同様に折り曲げている。人骨には図化記録の後、部位毎にナンバリングをして、取り上げている。

人骨鑑定結果 「この個体は、成人と思われるが、筋の発達はさほどではない。性別は不明だが、四肢骨はきゃしゃで女性的である。」

その他の遺物 覆土内から平安時代の黒色皿が出土している。

22号土坑 (図323、PL115) 位置 G-6

検出 III層の黒褐色土内から黒色土で土坑の平面形態は検出できた。遺構検出の際、頭骨の一部が検出され、土壙墓と考えて調査を進めた。位置は他の土壙墓から離れる調査区南側にある。覆土は黒褐色の粘性シルトであり、炭化物を含む。

構造 土坑は平面楕円形で、断面は浅い皿状を呈している。長軸が南北方向、等高線に直交する。規模は104×60cm、深さ15cmを測る。底面の高さは山側が高い。

人骨の状態 小児骨のためか、脆い。埋葬姿勢は他の土壙墓と同様、頭位北の西向きの横臥屈葬である。全体的に骨の位置は乱れている印象がある。特に顎骨付近の乱れが著しい。後世に何らかの手が加わった可能性も考えられる。

人骨鑑定結果 「この個体は2歳前後の乳児である。性別は不明である。」

その他の遺物 平安時代の土師器片が人骨の間や覆土内から出土している。

オ 自然流路跡 (図324、PL114) 位置 F-15、G-3・6・7・8・11・12

検出 VI層上面で検出する。調査時には東側の上流部をSD2とし、分流する南側を継続してSD2、北側の1住以東をSD3、1住以西をSD1とした。基本的に重複する遺構には全て切られているが、弥生時代後期～古墳時代前期頃の196坑との重複関係は不明である。

構造 北東から南西に向かって流れる自然流路跡である。調査区東壁から南壁に通過し、調査区内での長さは約32.5mを測り、上流部分の横幅1.80m、下流部分の北側では横幅約0.80m、南側の横幅は0.70～1.00mである。分流する地点(A-A')の断面観察では旧SD3が古い時期の流路で、SD2が新しい時期の流路であることが明らかである。同時期に流水のあったことも考えられるが、SD3が埋没した後もSD2が凹んでいることは明らかである。SD3を覆う土層は暗褐色土でVIa層起源といえる。

また分流地点の覆土には大礫が多く投棄されている。この礫の集中する部分は分流地点に限られ、礫は3層堆積後投入され、その後2層が堆積している。この人為的な埋没行為とも思われる状況と、古い流路SD1・3が1住に切られるのに対し、SD2が1住の手前で方向を南傾させている点とを合わせてみると、1住構築の際、意識的に流路変更を行った可能性も想定できる。

遺物 土器の時期は、主体は平安時代であり、弥生時代の土器は混入品と判断した。ただ、196坑との重複関係が不明なことから、特に北側のSD1・3辺りは弥生時代にも流路として存在していた可能性を残している。

平安時代の土器には須恵坏(1)、土師器坏(2)、内黒坏(4・5)、内黒埴(6)、灰釉陶器皿(7)、ロクロ小型甕(3)がある。

土器以外には、上流地点でウシの下顎骨と歯が出土している。

時期 土器の様相からは埋没時期は10世紀前葉頃と思われる。

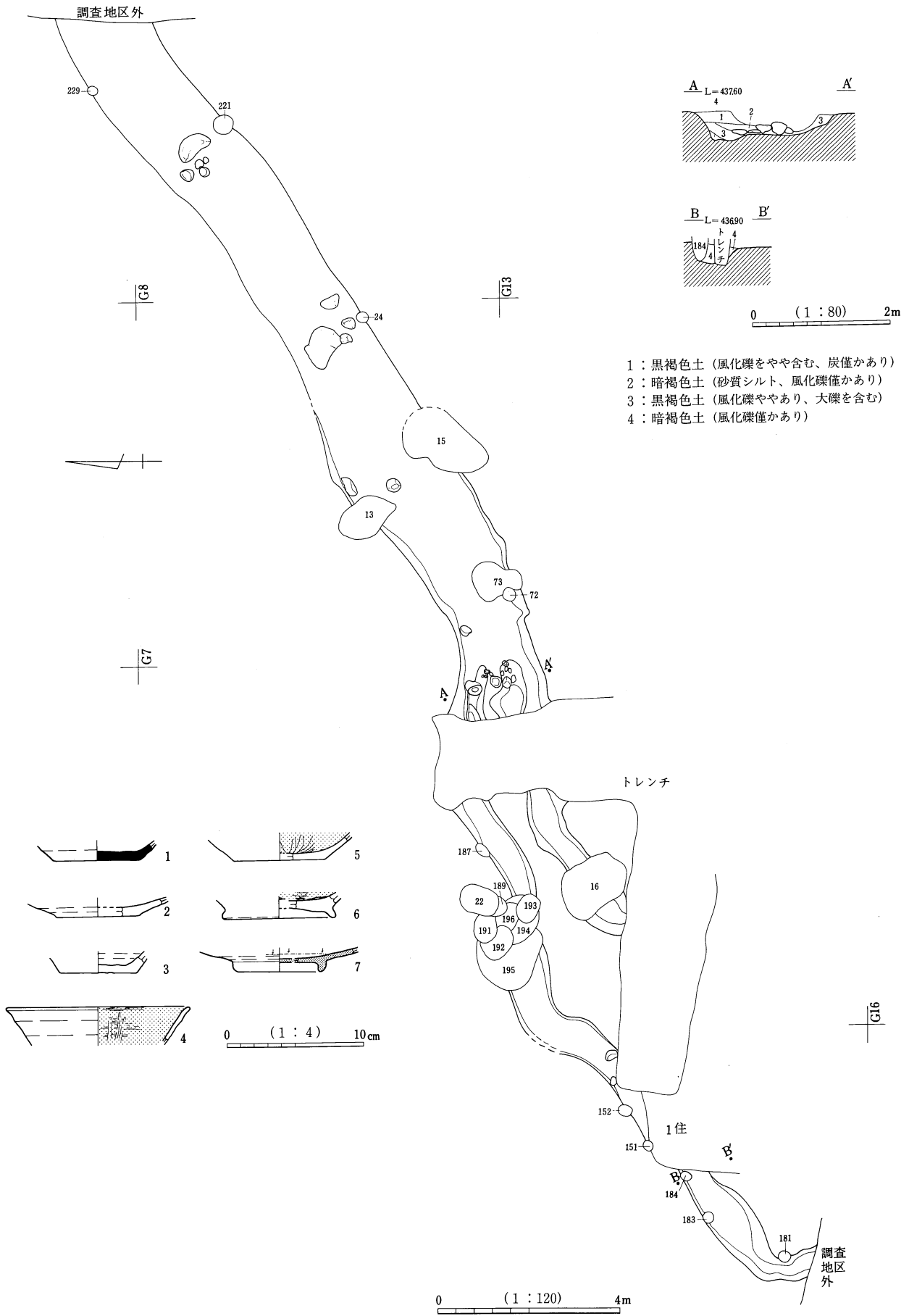


図324 自然流路跡

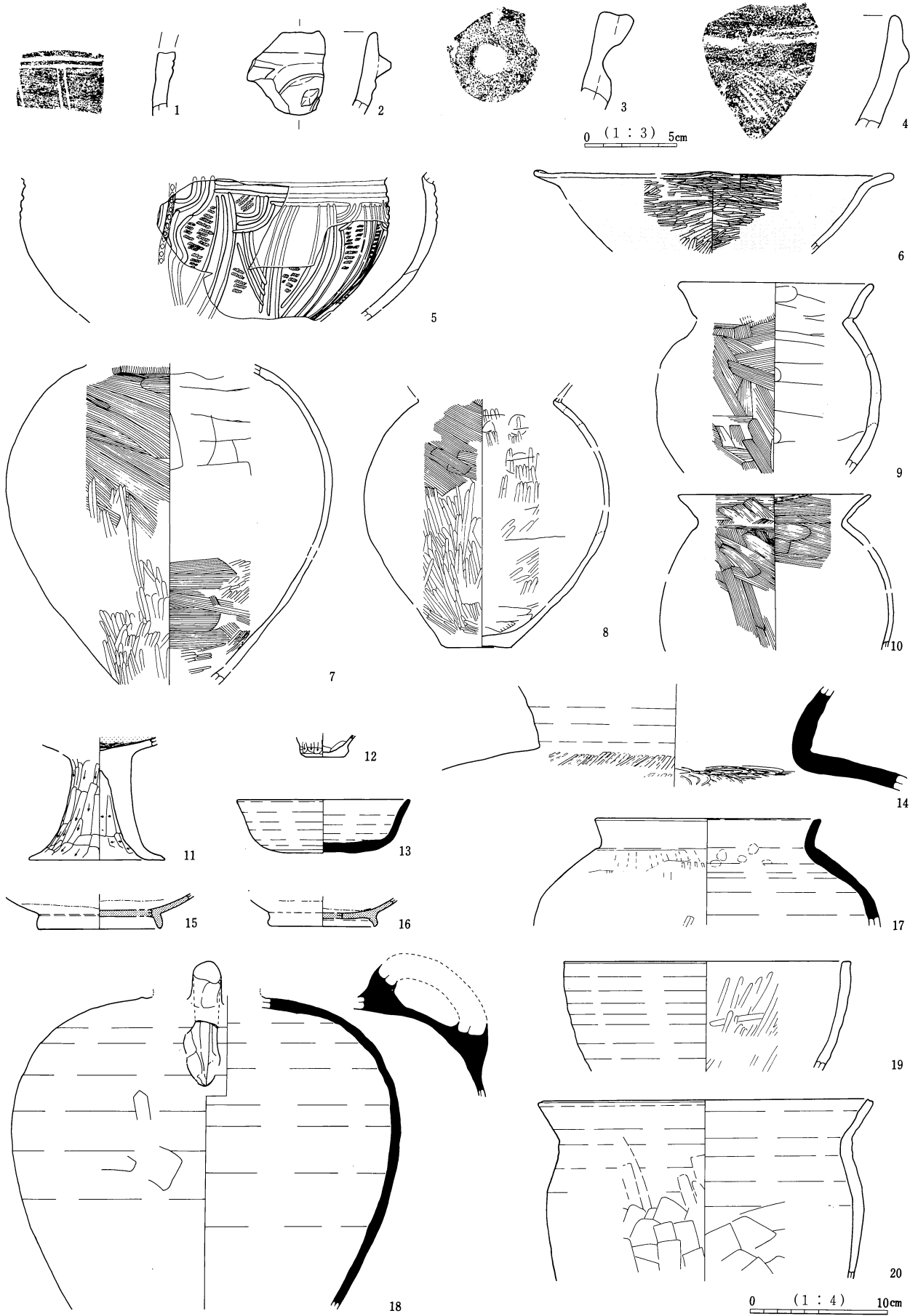


図325 遺構外出土遺物（土器）

(2) 遺構外出土遺物

Ⅲ層の遺物包含層を中心にして、縄文時代から平安時代の遺物が一定量出土している。そのうち図化可能な遺物を取り上げる。

縄文時代の石器では、灰色粘板岩と思われる槍先形尖頭器(1)、黒曜石製の刃器(2)・石鏃(3)、灰色の千枚岩質粘板岩製の打製石斧(4)が出土している。また時期は明確ではないが、転石を用いた敲き石(5・6)が出土している。5はハンレイ岩製で断面三角形の柱状を呈し、先端部にツブレ痕を持つ。6は安山岩製で円柱状を呈し、側部平坦面上半に横長のツブレ痕がある。

古代から中世の石器として、石鉢(7)がある。気泡の目立つ安山岩製で、凹み部には条痕が残る。

縄文時代の土器は中期と後期の資料が若干出土している。1～4は中期。1はおそらく口縁部直下の頸部と考えられる破片で、半截竹管状工具によって施文される中期初頭の土器か。2～4はともに隆帯を貼り付けた土器である。2の隆帯は断面三角形で、胎土には雲母がやや目立つ。中期中葉であろう。3も口縁部付近に隆帯を環状にして貼り付けたもの。中期中葉か。4はやや幅広のゆるい隆帯でおそらく楕円形などに区画するものだろう。地文は無節の縄文原体Rを横位回転押捺したもの。中期後葉の加曾利E式に対比できる。5は胴部上半を欠損しているので、厳密な器形はわからないが、おそらく口縁部文様帯を持ち、基本的に頸部を無文にする鉢形土器か。胴部文様は垂下した刻目隆線が配され、その中を三本単位を基本とする沈線文が充填される。縄文が沈線を切っている部分も見られるが、基本的には縄文を地文として、沈線施文し、さらに沈線区画内を磨り消したものと考えられる。沈線文の意匠は胴部下半で閉じることがなく、東部町古屋敷遺跡(東部町教委1984)、小諸市久保田遺跡(小諸市教委1986)例に代表される堀之内I式の新しい段階に位置付けられよう。

弥生時代後期では箱清水式期の赤彩された高坏(6)が出土している。内外面がよく磨かれ、全面に赤彩が施されている。

古墳時代前期では口縁部がくの字に屈曲してハケ目調整を施した甕(7～10)が4個体分出土している。7は大振りで肩が強く張る器形で、口縁部と底部は欠損している。体部外面上部は斜めにハケ目調整があり、仕上げとして体部下部を縦ミガキしている。内面は上部が横ヘラナデ、下部が横ハケ後横ミガキが施されている。8はやや小振りで体部中央に最大径を持つ平底の器形である。外面調整は7と共通する。内面は全体を縦ミガキで仕上げている。9・10は小振りで口唇部が肥厚する器形である。9は全体的に器厚が厚い。10は薄く作られ、内面にもハケ目調整が用いられている。

古墳時代後期～奈良時代の土器では、内黒土器の高坏(11)、手捏ねのミニチュア土器(12)、須恵器の底部回転ヘラ切り調整の坏(13)、大甕(14)、短頸壺(17)がある。14は強く肩が張り、肩部外面は平行叩き文、内面には同心円文が残る。17の短頸壺は口縁部は短く立ち上がり、口唇部は面取りされている。また肩部は強く張らない。肩部外面は平行叩き後ナデ調整、内面は円形のオサエの後ロクロナデ調整が施されている。焼成は軟質である。

また古墳時代の灰白色の玉髓製の勾玉(8)が1点出土している。

平安時代の土器では、灰釉陶器の壺(15・16)、須恵器の把手付壺の体部(18)、ロクロ成形の土師器の鉢(19)と甕(20)が出土している。15は大原2号窯式、16は光ヶ丘1号窯式の特徴を示す。18は内外面にロクロ成形が施され、肩部に断面円形の粘土紐を縦位にヘラオサエで貼り付けた把手(耳)を持つ。把手は1対か2対付くと思われる。19の鉢は深い器形で口唇部が面取りされ、内面が縦ミガキ調整されている。20の甕は口縁部に最大径があり、口唇部が面取りされ、肩部の張りがなく直線的に底部に向かう器形である。外面はロクロ成形後縦ハケケズリ、仕上げに肩部に横ヘラナデ調整がされている。口縁部内面は横ハケ調整である。このほか金属製品では、北宋銭の「元祐通寶」(9)、鉄製の釘(試料No.9)・鋊(あるい

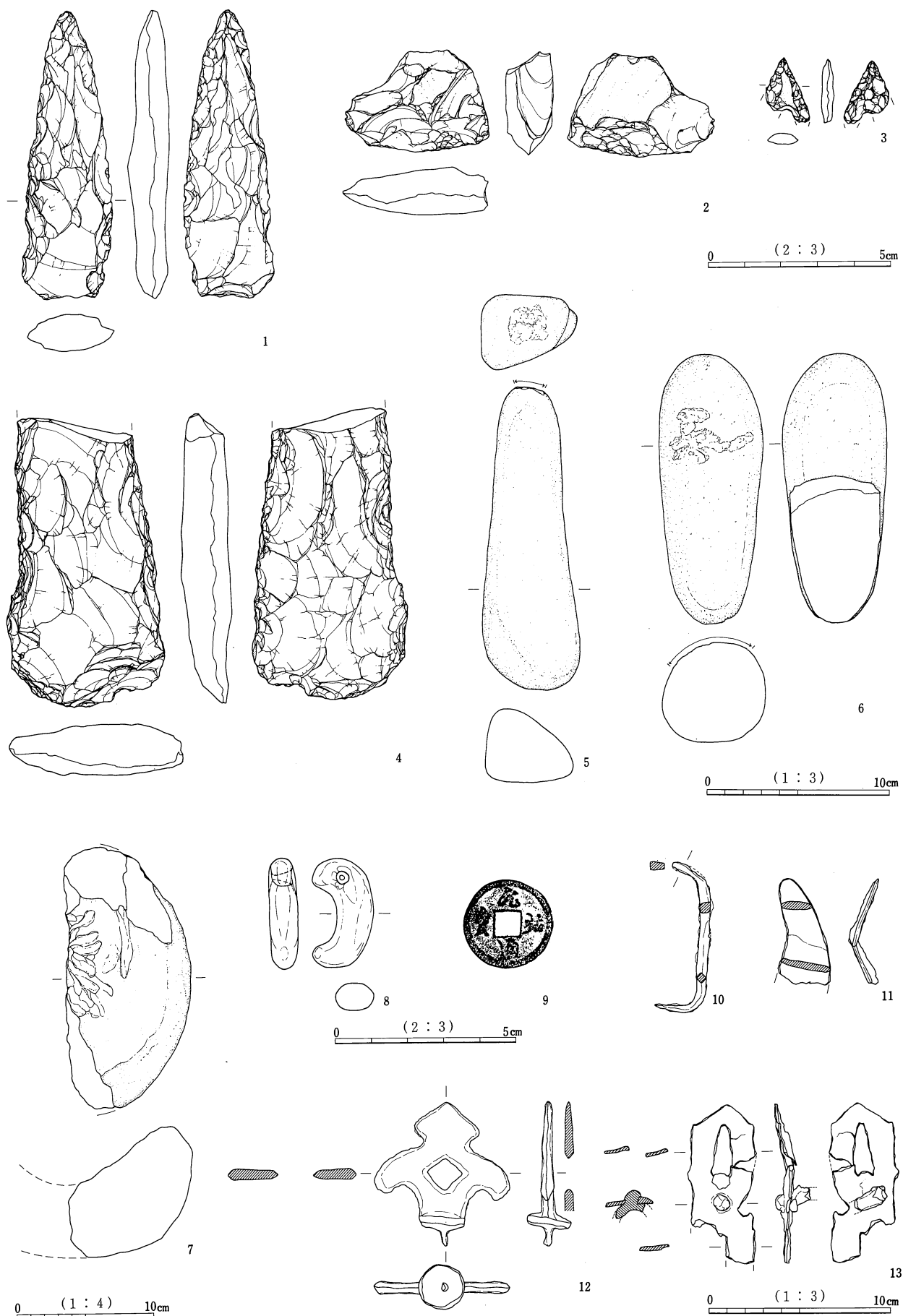


図326 遺構外出土遺物(石器、金属製品)

は釘) (10)・鎌先 (11)・金具類 (12・13) がある。10は釘を鏝に転用した形態と理解する。11は試料 No.10として、X線写真撮影を行ったが、銹化が顕著であり、それ以上の分析は行っていない。12は比較的遺存状態が良い。13は銹化が顕著である。

5 まとめ

今回の調査では、平安時代の集落跡と中世に属する土壌墓が検出された。特に平安時代の集落は住居跡の重複がなく、それぞれの土器様相が10世紀前半に収まることから、ほぼ同じ集団の生活跡といえそうである。そしてその範囲は山麓の崖下にあたる本調査地区を北限として、緩斜面が継続する地区外南側まで広がると考えられる。

4軒の住居跡のうち、2号住居跡は鍛冶炉を持ちカマドを設置しない竪穴の鍛冶工房跡である。地形的制約から検出状況が悪く、調査当初は構造を明らかにできなかったものの工房や内部施設の覆土を採取することによって、多量の鍛冶関連の微細遺物を取り上げることができている。合わせて遺物判断にメタルチェッカーや標準磁石^{註2}を用いたり、化学分析や出土分布の統計処理を行うことにより、遺構の性格や操業の在り方の解明により近づくことが可能になった。

その結果、本跡では長軸径30cm程の小形の地床鍛冶炉1基を使って、粗金属(鉄)の純度を高め精製する精練鍛冶と、製品の加工や修理を中心とした鍛錬鍛冶を操業していたことが分かってきた。特に鍛造剥片や粒状滓の大半は非常に小形で、このことは本跡の操業が、より鍛錬に近い精練鍛冶から本来の鍛錬鍛冶までの工程を主体であったことを示唆している^{註3}。また鍛冶関連の遺物の多さから、極めて集中的に鍛冶業を営んでいた印象を受ける。

当時、鍛冶業に必要な鉄素材については、製錬炉(製錬遺跡)で形成された、滓状の小鉄塊「製錬鉄塊系遺物」が流通していたと考えられている(穴澤1991a)。本跡でも化学分析により性格の異なる2種類の鉄塊系遺物が検出され、その1つの成分は純鉄に近く、鍛冶加工されていない状態であり、「製錬鉄塊系遺物」と判断される。もう1つは鍛冶加工され、より製品に近付いていて「鍛冶鉄塊系遺物」に当てはまるものである。その鉄源については限定できなかったが、分析では砂鉄の可能性の高い数値を示した鍛冶滓がある。

県内では「製錬鉄塊系遺物」の供給源となる古代の製錬遺跡は今のところ5遺跡見つかっているが、上小地方では未発見である。因みに本遺跡に比較的近いところでは、更埴市清水製鉄遺跡(県埋文センター1997)と長野市松原遺跡(長野市埋文センター1993)の調査が行われている。いずれも製錬炉は下部構造から円筒自立炉を設けていたとされ、遺構の所属時期は10世紀から11世紀前半代に収まるようである。

清水製鉄遺跡は本遺跡より直線距離で北北西方に13km、千曲川沿いに20km下流にあり、眼下に更埴条里遺跡や屋代遺跡群を臨む斜面地形をテラス状に開削して、そこに製錬炉や鍛冶炉を敷設し、製錬から鍛冶工程までを一貫して操業している。この調査では製鉄関連遺物の科学分析が行われ、多くの製錬鉄塊系遺物が検出されている。

松原遺跡は本遺跡より直線距離で北方に18km、千曲川沿いに27km下流の自然堤防上にあり、製錬炉10基は堤防縁辺部の1カ所に集中して敷設されている。また同じ堤防上に同時期の大きな集落跡が存在していることが明らかになっている(県埋文センター1990)。

調査例の少ない現状では、製錬遺跡からどの程度の範囲まで鉄素材が供給されていたのか明らかではないが、本跡の属する平安時代後半は集落で鍛冶遺構が増加することから、今後各地の山麓斜面に、そういった製錬遺跡が発見されることが予想される。上小地方においても、本跡に「製錬鉄塊系遺物」を供給した製錬遺跡の発見を期待したい。

第3章 調査

鉄素材の流通に限らず、長野県の古代鉄生産は未だ不明な点が多いが、鉄生産に関連する遺跡調査にメタルチェッカー等を用いた遺物判断法や化学分析を導入して、その遺跡には「どの工程に属する、どういった種類の遺構（鍛冶炉や炭焼成遺構、廃棄坑など）があるのか」を把握していくことは、新たな製錬遺跡の発見と合わせて、解明の重要な糸口となるであろう。

註

- 1 メタルチェッカーは、感度を「鉄塊系遺物」専用に設定した小形金属探知機。覆土内の金属製品の発見などにも有効である。
- 2 標準磁石は鉄滓や鉄塊系遺物などを相対的に評価したり、効率的に判別するために用いられる、特定の仕様のリング状の磁石である（小林1991）。
- 3 千葉県立房総風土記の丘資料館の鍛冶実験を参照すると、鍛冶工程が進行するに従い、鍛造剥片や粒状滓は小型になり、鍛造剥片は鍛錬鍛冶の最終段階まで、粒状滓は精錬鍛冶の最終段階まで排出されるとしている（山口1991、穴澤1991）。

引用・参考文献

- 穴澤義功 1991 a 「各地域の製錬・鍛冶遺構と鉄研究の現状 関東地方」『日本古代の鉄生産』たたら研究会
- 穴澤義功 1991 b 「V. 製鉄遺跡から実験炉へ」『千葉県立房総風土記の丘年報』15 シンポジウム「古代製鉄研究の現状」[記録集]
- 安間拓巳 1995 「古代の鍛冶炉—その形態および鍛冶工程との関連について」『考古学研究』第42号第2巻
- 市川隆之 1994 「長野県内の古代集落内における手工業生産予察」『信濃』46-4
- 岡田正彦 1992 「考古学上よりみたる長野県下の製錬・鍛冶関係遺構」『長野県考古学会誌』65・66号
- 国立歴史民俗博物館 1994 『日本・韓国の鉄生産技術〈調査編1〉』国立歴史民俗博物館研究報告第58集
- 国立歴史民俗博物館 1994 『日本・韓国の鉄生産技術〈調査編2〉』国立歴史民俗博物館研究報告第59集
- 小林信一 1991 「製鉄遺跡の発掘調査と整理について」『千葉県文化財センター研究連絡誌』32号
- 小諸市教育委員会 1984 『久保田』
- 東部町教育委員会 1986 『不動坂遺跡群II 古屋敷遺跡群II』
- 栃木県教育委員会 1995 『金山遺跡I』
- （財）長野県埋蔵文化財センター 1990 「(5)松原遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』7
- （財）長野県埋蔵文化財センター 1997 『清水製鉄遺跡・大穴遺跡』上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書22
- 長野市埋蔵文化財センター 1993 『松原遺跡III』長野市の埋蔵文化財第58集
- 山口直樹 1991 「考古学講座について(3)―「鉄づくり」の展開と鍛冶実験の記録報告―」『千葉県立房総風土記の丘年報』15

表43 土器観察表(縄文)

図版No.	地点名	土器No.	器種	時期	部位	色調	胎土(単位/mm)	焼成	調整・施文技法
325	遺構外	1	深鉢	中期初頭	胴	橙	0.5位の雲母・石英多、褐色粒子含	やや軟	半截竹管状工具による沈線
325	遺構外	2	深鉢	中期中葉	口縁	にぶい赤褐	0.5位の雲母多、石英少	並	
325	遺構外	3	深鉢?	中期中葉	口縁	にぶい赤褐	0.5位の石英・角閃石多	並	
325	遺構外	4	深鉢	中期後葉	口縁	にぶい橙	0.5位の石英・角閃石、褐色粒子含	やや軟	外：縄文Rの横位回転押捺
325	遺構外(3住下)	5	鉢	後期前葉	胴	黄橙	0.1~2.0の石英、長石、角閃石、砂粒含	良	縄文LR回転施文→沈線区画・磨消

表44 土器観察表(弥生~平安)

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
314	1住	1	坏	ほぼ完形	12.9	5.9	3.9	橙	少0.1~0.5長石、角閃石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	体上：ヨコミガキ 体下：放射ミガキ	カマド図示
314	"	2	内黒坏	ほぼ完形	13.0	6.0	4.4	にぶい黄橙	有0.1~0.3長石、角閃石	良好	体：ロクロ 底：糸切	体：ヨコナデミガキ	"
314	"	3	甕	1/5口~体	(26.8)	-	(9.1)	浅黄橙	有0.1~1.0長石、石英	良好	口辺：ロクロ 体上：ナデ	口辺：ヨコハケ 体上：ナナムハケ?	
317	2住	1	須恵坏	1/6口~体	(15.8)	-	(3.2)	褐灰・黒	有0.1~0.2長石	やや軟質	ロクロ	ロクロ	
317	"	2	坏	1/5底	-	5.4	(2.0)	橙	少0.1長石	良好	体下：ヨコナデ 底：糸切	体下：放射状に跡の残る回転ナデ	
317	"	3	坏	1/5底	-	5.1	(1.9)	橙	少0.1長石	ほぼ良好	体下：ヨコナデ 底：糸切	体下：放射状に跡の残る回転ナデ	
317	"	4	内黒坏	2/3全位	(13.4)	6.5	4.2	にぶい黄橙	有0.1~0.5長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	体：放射ミガキ	図示
317	"	5	内黒坏	1/4全位	(13.2)	4.8	4.3	暗灰黄	少0.1長石	ほぼ良好	ロクロ	ヨコナデミガキ	
317	"	6	内黒坏	1/2全位	(13.5)	5.6	4.5	にぶい黄橙	少0.1~0.2長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	体上：ヨコミガキ 体下：タテミガキ	図示
317	"	7	内黒坏	1/5坏	(12.5)	-	(3.6)	にぶい黄橙	有0.1~1.0赤色礫	ほぼ良好	坏：ロクロ	坏：ヨコナデ後二重の暗文ミガキ花模様?	
317	"	8	内黒坏	1/4体~底	-	7.4	(3.2)	橙	少0.1~0.2長石	良好	体下：ロクロ 底：糸切	体：放射ミガキ	図示
317	"	9	須恵甕	1/4底	-	-	(4.3)	灰黄褐	有0.1~1.0長石	やや軟質	体下：ロクロ 底：ヘラ調整	体下：ロクロ	
317	"	10	甕	1/4口~体	(10.6)	-	(17.3)	橙	少0.1~2.0長石、石英、角閃石	良好	口：ヨコナデ 体：ナナムケズリ	体：ヨコナデ	図示
317	"	11	小型甕	3/4全位	11.8	7.3	12.9	橙	少0.1~0.2長石	ほぼ良好	口~体：ロクロ (ハケ状) 底：糸切	口：ロクロ後ハケ状 体：ロクロ	"
317	"	12	甕	1/3口~体	(15.8)	-	(9.9)	赤褐	有0.1~1.0長石、小礫	ほぼ良好	口~体：ロクロ	口~体：ロクロ	
315	3住	1	内黒坏	1/10底	-	(5.6)	(1.3)	灰黄褐	少	ほぼ良好	底：糸切後周囲ヘラ調整	ヨコナデ後十字形の暗文ミガキ	
315	"	2	内黒坏	1/3口~体	(14.0)	-	(3.9)	にぶい黄橙	少長石	ほぼ良好	体：ロクロ	体：ヨコナデ後タテミガキ	
315	"	3	内黒坏	1/4口~体	(13.8)	-	(3.5)	褐灰	少0.3長石	ほぼ良好	体：ロクロ	体：ナデ、ヨコミガキ後タテ	
315	"	4	内黒坏	1/5口~体	(18.0)	-	(3.4)	灰黄褐	少0.3長石	ほぼ良好	体：ロクロ	体：ヨコナデ	
315	"	5	内黒皿(坏)	1/10底	-	(6.2)	(2.3)	にぶい褐	多0.1~2.5長石、雲母	良好	体下：ロクロ成形	底：ヨコナデ	
320	1坑	1	内黒坏	2/3全位	13.2	5.7	4.4	にぶい黄橙	少0.1~0.5長石、赤色礫	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ後ナナムミガキ	
320	2坑	1	坏	ほぼ完形	13.8	5.9	4.5	にぶい黄橙	有0.2~1.0長石、小礫	やや不良	体：ロクロ 底：糸切のちヘラ調整	ヨコナデ	図示
320	"	2	坏	1/4全位	(13.5)	5.4	3.4	にぶい褐	少0.1~0.5長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ	"
320	"	3	内黒坏	ほぼ完形	13.4	5.5	5.1	にぶい橙	有0.2~1.0長石、雲母	良好	体：ロクロ 底：糸切のちヘラ調整	ロクロ	"
320	"	4	内黒坏	2/3全位	13.3	5.9	4.5	明赤褐	有0.1~1.0長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ後放射ミガキ	図示 黒色処理不完全
320	"	5	内黒坏	4/5全位	13.9	4.6	4.1	橙	少0.1~0.5長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデミガキ	図示
320	"	6	内黒坏	2/3全位	14.0	5.8	3.7	暗褐	少0.3長石	やや不良	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ後タテミガキ	
320	"	7	内黒坏	1/3全位	(14.4)	6.8	3.7	にぶい黄橙	少0.1~0.2長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ後タテミガキ	図示
320	"	8	内黒坏	1/3全位	(14.3)	5.4	3.9	にぶい橙	少0.1~0.2長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ後タテミガキ	
320	"	9	内黒坏	1/5口~体	(13.6)	-	(3.3)	にぶい褐	少0.1~0.2長石	ほぼ良好	体上：ヨコミガキ 体下：ハケ状のヨコナデ	ヨコミガキ後放射ミガキ	
320	"	10	内黒坏	2/3口~体 高台欠	(15.8)	-	(4.5)	にぶい赤褐	少0.1~0.3長石	良好	ロクロ	ヨコミガキ	図示
320	"	11	内黒皿	1/3全位	(13.2)	7.5	36.5	内：にぶい赤褐 外：にぶい褐	少0.1長石	ほぼ良好	ロクロ	体：放射ミガキ 高台：ナデ	"
320	"	12	黒色皿	1/3口~体	(14.0)	-	(1.4)	黒	少0.1~0.5長石	良好	ヨコミガキ	体：放射ミガキ	
320	"	13	内黒鉢	1/4口~体	(18.3)	-	(9.3)	灰黄褐	少0.2長石	ほぼ良好	ロクロ	口：ヨコミガキ 体上：タテミガキ	図示
320	"	14	小型甕	2/3口~体	13.3	-	(11.8)	にぶい橙	少0.1~0.2長石	良好	ロクロ	ロクロ	"
320	"	15	小型甕	1/2体~底	-	7.8	(11.7)	にぶい橙	有0.2~0.5石英、長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ロクロ	

第3章 調査

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量 (cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
321	2坑	16	甕	1/4口~体	(24.6)	-	(11.4)	内：灰黄褐 外：橙	多0.1~1.0 長石、赤色粒子	やや不良	体：ロクロヨコナデ	口：ヨコナデ 体：タテナメミガキ	
321	〃	17	甕	1/4口~体	(24.6)	-	(10.8)	にぶい橙	有0.1~2.0 長石、小礫	良好	体：ロクロ	体：ロクロ	図示 やや還元気味 接合痕：1
321	〃	18	甕	1/3口~体	(25.8)	-	(26.5)	にぶい橙	有0.1~1.0 長石	良好	口唇：面取り 体上：ロクロ 体下：タテケズリ	口~体上：ロクロ 体下：ナメナデ	図示
321	〃	19	甕	1/2口~体	22.9	-	(25.6)	橙	多0.1~0.2 長石	ほぼ良好	口~体上：ロクロ 体上~体下： ヘラケズリタテ一部ナメケシ	ロクロ	〃
321	〃	20	甕	1/4口~体	(20.3)	-	(18.2)	内：にぶい褐 外：橙	有0.1~1.0 長石、小礫	良好	口~体上：ロクロヨコナデ 体下：ロクロヨコナデ後ナメケズリ	体：ロクロヨコナデ 体下：ロクロ ヨコナデ後ヨコナデはナメナデ	〃
321	〃	21	甕	1/2全位	20.9	(3.8)	26.9	橙	少0.1~0.2 長石	良好	口~頸：ヨコナデ 体上：平行タ タキ後ヨコケズリ 体下：ナメ ケズリ 底：ヘラケズリ	ヨコハケ	〃
321	6坑	1	内黒埴	1/5底	-	(5.4)	(2.3)	にぶい黄橙	有0.1~2.0 長石、小礫	良好	ロクロ	ロクロ	〃
321	8坑	1	内黒坏	1/3口~体	(13.2)	-	(3.7)	にぶい黄橙	有0.2~1.0 長石、石英	ほぼ良好	ロクロ	ヨコナデ	〃
321	9坑	1	黒色埴	1/10 底	-	6.3	(2.1)	内：暗灰 外：黒	有0.1~1.0 長石、石英	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	〃
321	11坑	1	小型甕	1/3体~底	-	6.6	(8.1)	褐灰	有0.1~1.0 長石、石英	ほぼ良好	体：カキ目 底：糸切	ロクロ	〃
321	20坑	1	内黒坏	4/5全位	(16.6)	7.7	(5.8)	灰褐	少0.1~1.0 長石、雲母	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナデミガキ後タテ放射 ミガキ	〃
321	196坑	1	壺	1/5口辺	(21.8)	-	-	にぶい橙	多0.1~2.0 石英、角閃石、 雲母、長石	良好	口辺：タテミガキ	口辺：ヨコナデ	〃
324	自然流路跡	1	須恵坏	1/4底	-	(6.6)	(1.5)	灰	少0.1~0.3 長石	やや不良	体下：ロクロ 底：糸切	ロクロ	(SD2)
324	〃	2	坏	1/5底	-	(6.2)	(1.4)	にぶい黄橙	有0.1~0.3 長石	良好	体下：ロクロ 底：糸切	ヨコナデ	〃
324	〃	3	小型甕	1/4底	-	(5.8)	(1.6)	内：橙 外：にぶい橙	有0.1~1.0 長石、石英	良好	体下：ロクロ 底：糸切	ロクロ	〃
324	〃	4	内黒坏	1/8口~体	(13.6)	-	(2.8)	にぶい黄	有0.1~1.0 長石、赤色粒子	良好	ロクロ	ヨコミガキ後タテミガキ	(SD3)
324	〃	5	内黒坏	1/4底	-	(6.6)	(2.0)	にぶい黄橙	少0.2 長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	タテミガキ	(SD2)
324	〃	6	内黒埴	1/5底	-	(8.4)	(1.9)	にぶい橙	有0.1~0.5 長石、角閃石、雲母	良好	体下：ロクロ 底：糸切	ヨコミガキ	(SD3)
324	〃	7	灰釉皿	1/6底	-	(7.0)	(1.8)	褐灰	有0.1~1.0 長石、黒色粒子	良好	体下：ロクロ		(SD2)
325	遺構外	6	赤彩高坏	1/10坏	(26.2)	-	(5.8)	赤	有0.1~0.2 長石	良好	全面赤彩 ヨコミガキ	全面赤彩 ヨコミガキ	〃
325	〃	7	甕	1/5体	-	-	(23.2)	橙	多0.1~1.0 長石、赤色礫	良好	頸：ナメハケ後タテハケ 体上：ナ メハケ 体下：タテミガキ	体上：ヨコヘラ 体下：ヨ コハケ後ヨコミガキ	東側黒色土
325	〃	8	甕	1/3底	-	5.2	(18.2)	明赤褐	有0.1~1.0 長石、雲母	ほぼ良好	体上：ナメハケ 体下：ヘ ラミガキ 底：ケズリナデ	体上：ヘラミガキヘラナデ後エビ オサエ 体中：ヘラミガキ後ヘラ ナデ 体下：ヘラミガキ	〃
325	〃	9	甕	1/3口~体	14.3	-	(14.0)	明赤褐	多0.1~1.0 長石、石英	良好	口辺：ヨコナデ 頸：ハケ ナデ 体：ハケナデ	ヘラヨコナデ	東側黒色土 接合痕：1 体下1
325	〃	10	甕	1/4口~体	14.2	-	(11.5)	にぶい黄褐	有0.1~1.0 長石、赤色礫	ほぼ良好	口辺：ヨコハケ 頸：タテハケナ メハケ 体：タテナメハケ	口辺：ヨコハケ 体上：ヨ コハケ 体下ナデ	黒色土
325	〃	11	内黒高坏	1/2脚	-	10.0	(8.9)	橙	多0.1~2.0 長石、赤色粒子	良好	脚：タテケズリ 裾：ヨコナデ	環：ミガキ 脚：ヨコケズ リ 裾：ヨコナデ	西側黒色土
325	〃	12	ミニチュア土器	1/2底	-	2.8	(1.7)	橙	多0.1~1.0 長石、角閃石	良好	体：ケズリ 底：ナデ	ヘラナデ	東側黒色土
325	〃	13	須恵坏	1/3全位	(12.8)	(8.1)	3.9	灰	有0.1~0.5 長石	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラ切り	ロクロ	〃
325	〃	14	須恵甕	1/4頸~体	-	-	-	外(施：暗オリーブ灰) 内(施：淡黄 内(施：灰色) 内(施：淡黄)	少0.1~0.5 長石	良好	頸：ロクロ 体上：平行多キ	頸：ロクロ 体上：青海波文タタキ	内外面自然 釉
325	〃	15	灰釉埴	1/6底	-	(9.0)	(2.5)	地：灰白 釉：灰黄	無 緻密	良好	施釉：漬け掛け?		黒色土
325	〃	16	灰釉埴	1/4底	-	(7.8)	(2.2)	地：灰黄褐 釉：黄灰	無 緻密	良好	施釉：刷毛塗		〃
325	〃	17	須恵短頸壺	1/4口~体	(16.6)	-	(7.7)	灰	少0.1~0.5長石 10.0の角礫1点	ほぼ良好	口：ヨコナデ(ハケ?) 体上：並行タタキ後ナデ	ロクロ(布?)円形のオサ エ	内面赤褐
325	〃	18	須恵把手付壺	1/3体	-	-	(22.8)	黄灰	有0.1~5.0 長石、角礫	良好	体：ロクロ 把手：粘土紐をヘラ オサエ 体中：ロクロ後ナデ	ロクロ	把手の 単位不明
325	〃	19	鉢	1/4口~体	(17.2)	-	(8.0)	にぶい赤褐	有0.1~0.5 長石	良好	ロクロ	ヨコナデヨコミガキ後タテ ミガキ	東側黒色土
325	〃	20	甕	1/4口~体	(24.6)	-	(13.1)	にぶい赤褐	多0.1~2.0 長石	良好	口：ロクロ 頸：ロクロ後弱いナ デケズリ 体：タテケズリ	口唇：中央やクボム面取り 頸：ロクロ 体：ハケナデ	〃

表45 石器観察表

図版No	PL No	No	器種	出土位置	材質	色調	状態	法量				機能部	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
314	111	1住-4	砥石	覆土	花崗岩(転石)	にぶい黄橙色	完形	8.4	7.4	2.0	169.2	正裏2面・多方向の擦痕、平滑。	
317	112	2住-16	砥石	ビット3	凝灰岩	灰色	下部欠損	(4.8)	(3.7)	(4.3)	(115.6)	砥面5、タテ方向主。	角柱状。
326	116	遺構外-1	槍先型尖頭器	東黒色土	粘板岩?	灰色	完形	7.9	2.5	1.0	21.3		基部に自然面あり。
326	116	遺構外-2	スクレイパー	東黒色土	黒曜石		右側欠損	(2.8)	(4.0)	(1.3)	(14.0)	刃部鈍角。	右側面折れ欠損。
326	116	遺構外-3	石鏃(無茎)	黒色土墓塚	黒曜石		基部一端欠損	1.7	(1.2)	0.3	(0.5)	先端角52°	無茎タイプ。自然面あり。
326	116	遺構外-4	打製石斧	15号坑	泥岩	灰色	上部欠損	(15.9)	8.6	2.8	(448.7)	刃部幅8.4cm/刃部角19°	大型品。身部両側面下部に光沢あり。
326	116	遺構外-5	敲き石	自然流路跡間	火成岩(転石)	緑灰色	完形	16.6	5.3	4.0	513.8	先端一部に敲打痕、ツブレ状。	三角柱状の河原石。
326	-	遺構外-6	敲き石	自然流路跡間	安山岩(転石)	灰色	裏面一部欠損	14.8	5.7	5.7	(629.7)	正面上部に敲打痕、ツブレ状。	略円柱状の河原礫。裏面に欠損あり。
326	116	遺構外-7	石鉢	表採	安山岩	灰色	2/3欠損	(19.2)	(9.3)	(5.5)	(1190.6)	凹み部内に条痕、加工痕か。	気泡の目立つ安山岩を加工成形。
326	116	遺構外-8	匂玉	東上層内	水晶	灰白色	一部剥落	3.0	1.7	0.8	4.8		孔径1.0mm。穿孔は正面から裏面へ。

表46 鉄製品観察表

図版No	PL No	番号	遺物名称	出土位置	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
326	116	遺構外-10	釘(鏃?)	東黒色土	基部~軸部	8.3/11.2	0.6	軸:0.6、基:0.5	9.45	鍛造釘を鏃に転用?
326	-	遺構外-11	鎌?	東黒色土	刃部先端	(5.8)	(2.9)	(0.5)	(12.75)	銹化顕著。分析試料No.10
326	116	遺構外-12	金具	黒色土	完形	7.9	7.5	板状部0.7	85.30	板状で接続部を持つ。
326	116	遺構外-13	金具	黒色土		(8.8)	(3.9)	0.3	(32.42)	銹化顕著。
	-	分析試料No.9	釘	東黒色土	両端欠損	(5.9)	0.5	0.4	(5.28)	銹化顕著。分析試料No.9

表47 鉄塊系遺物・鍛冶滓計測表

図版No	遺物No	遺物名称	出土位置	残存	重量(g)	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	磁着度	メタル度	備考
317	2住-17	鉄塊系遺物	P 2	-	24.21	4.25	2.95	2.3	8	M(◎)	木炭痕・酸化土砂
317	" 18	鉄塊系遺物	P 3 11層(黒色土)	-	4.76	2.8	1.55	0.9	8	H(○)	木炭痕・酸化土砂
317	" 19	鉄塊系遺物	P 3 11層(黒色土)	-	2.21	1.55	1.5	1.35	8	H(○)	木炭痕・酸化土砂
317	" 20	鉄塊系遺物	P 3 11層(黒色土)	-	1.91	2.2	1.5	1.1	8	H(○)	木炭痕
317	" 21	鉄塊系遺物	P 4	-	7.76	2.2	2.1	1.8	7	L(●)	放射割れ・鍛造剥片付着
318	" 22	椀形鍛冶滓	覆土	80%	61.29	8.6	6.2	1.7	6	無	破面数1
318	" 23	ガラス質滓	覆土	-	36.44	5.45	5.35	1.4	5	無	羽口先端付着
318	" 24	椀形鍛冶滓	P 3	-	31.99	3.6	3.3	1.5	8	無	鉛色、周縁部全てが破面
318	" 25	板状の鉄滓	P 3	-	6.29	3.75	3.1	0.3	4	無	鍛造剥片の様相
318	" 26	板状の鉄滓	P 3	-	4.57	3.1	2.5	0.3	3	無	鍛造剥片の様相
318	" 27	ガラス質滓	P 3	30%	37.62	5.7	5.0	1.6	4	無	羽口先端部付着
318	" 28	鍛冶滓	P 3	-	21.48	4.75	4.5	0.9	4	無	粒状滓付着
318	" 29	含鉄椀形鍛冶滓	P 3 11層(黒色土)	-	67.15	8.65	5.8	3.3	6	H(○)	
318	" 30	含鉄椀形鍛冶滓	自然流路跡	80%	274.05	9.6	8.0	2.7	8	L(●)	ほぼ完形

表48 羽口計測表

図版No	遺物No	出土地点	残存状況		重量(g)	現存長(cm)	外径(cm)	口径(cm)	磁着度	メタル度	設置角度	胎土	焼成	色調	調整
			部位	割合											
317	2住-13	P 3	滓化~先端	30%	144.83	8.7	(6.6)	(2.4)	3	無	12°	比較的緻密	良好	青灰色(二次被熱)	外:ナデ+ユビナデ 内:不明
317	" -14	P 4	滓化~先端	20%	96.74	5.5	(8.8)	(2.0)	2	無	4°	比較的緻密(1cm程のスサ)	良好	にぶい橙色	外:ナデ
317	" -15	覆土	先端~身部	20%	85.84	5.0	(7.6)	(2.4)	3	無	-	比較的緻密	良好	にぶい橙色	外:ナデ

第5節 かいぜいせき 開畝遺跡

1 遺跡の概観

遺跡の立地 開畝遺跡の調査地点は、埴科郡坂城町中之条字開畝2356番地を中心とした、千曲川右岸の緩斜面に所在する（図327）。

坂城町の千曲川右岸では屏風のようにそびえる坂城川東山脈から千曲川の氾濫原に向かって、幾筋もの河谷が砂礫を押し出して、それぞれの谷口を扇頂として半円錐形に扇状地をつくっている。その扇状地形上は、ほぼ全体が縄文時代から平安時代頃までの集落遺跡であるとされている。それぞれの遺跡範囲は大きく、その境界は現河川により画していることが多い。また遺跡名は代表する字名で呼称されている。

開畝遺跡も、北は砥沢川以南、南は御堂川以北、東は各扇頂部分の延長線上の以西、西は砥石川と御堂川の合流地点までというように、現河川によって遺跡範囲が括られている。従って本遺跡の立地する緩斜面も砥石川と御堂川などの形成した複合扇状地といえる。また今回の調査地点は砥沢川と、そのすぐ南にある南西方向に向く小さな谷地形とに挟まれた緩い尾根地形の最下位部分、あるいは複合扇状地の扇頂部分ともいえる南西向きの斜面地形にあたる。

現在、この辺りは地表の流水は扇状地面下に浸透して、扇面は乾燥地となっているため、果樹栽培などによく利用されている。また近年は、産業道路以東の宅地開発の一端がこのような扇頂部付近まで迫っている。

周囲の遺跡 開畝遺跡は上記した範囲に広がり、弥生時代から平安時代の集落跡とされている。『坂城町誌』によると、内外面とも黒色処理された埴2点が出土採集され、平安時代の集落跡の存在の一端が窺える。また、平成5（1993）年には坂城町教育委員会が都市計画街路事業に伴って、埋文センター調査地点より450m西方に下りた、産業道路沿いを発掘調査している。ここは御堂川による扇状地の扇央部にあたり、調査の結果、奈良～平安時代の住居跡3軒、土坑などが検出されている。

開畝遺跡の周囲の遺跡としては、本遺跡南東側に、一部遺跡範囲が重複するように開畝製鉄遺跡がある。この遺跡は、県下初の製鉄遺跡の学術調査が行われたことで著名である。昭和52・53（1977・1978）年の2回にわたる調査によって、製鉄炉2基が検出されている。この炉は上部構造が破壊されているものの、小型の円形縦形炉と考えられ、炉内の木炭をC14年代測定法で分析した結果、第一号製鉄炉址が16・17世紀代、第二号製鉄炉址が19・20世紀代となり、判定結果は大きく食い違ったが、遺物などの状況から鑑みて、第一号製鉄炉址のデータを操業年代と確定している。また鉄滓や砂鉄ピット内の砂鉄の化学分析から、鉄原料として千曲川起源の川砂鉄を利用していることが判明している。

また開畝遺跡南の戌久保遺跡は名沢川と砥沢川の合流点までが遺跡範囲であり、古墳時代から平安時代の集落遺跡である。『坂城町誌』にも11世紀所産とされる土師器類が資料紹介されている。

この他に、埋文センターが上信越自動車道建設に伴って、砥石川上流部にて3基の古墳の発掘調査を行っている。まず平成5（1993）年には大道山西麓末端の、砥沢川東岸に突き出した尾根状緩傾斜部にて、古墳時代前期5世紀中葉に属する仮称1号墳（円墳）と2号墳（方墳）が東西に並ぶ状態で新規に発見、調査されている。この2基の築造順は今のところ、1号墳、2号墳の順であると考えられている。また平成6（1994）年には1・2号墳より北東方向に100m程離れている砥沢古墳が調査されている。主体部は盗掘により、構造・遺物とも残存状態は不良であるが、東平1・2号墳に後続する、5世紀後葉～6世紀初め頃と想定している。なお、これら発掘調査の報告書は平成10年度に刊行される予定である。

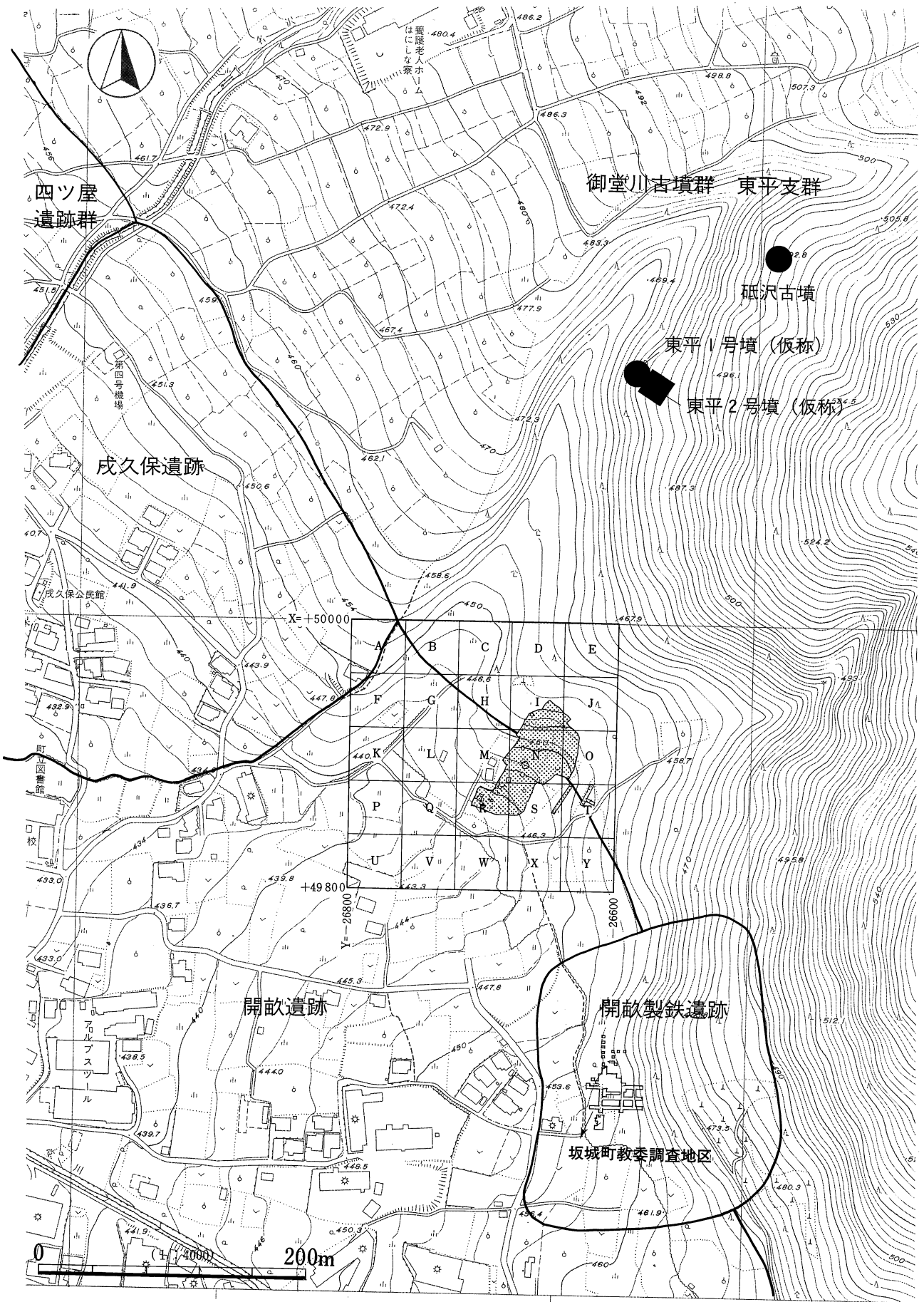


図327 周辺遺跡と調査グリッド

2 調査の経過と概要

今回の調査対象範囲は、開畝遺跡の東端部付近に相当し、標高444～455m、面積3,500㎡である。

北陸新幹線五里ヶ峯トンネルの坑外施設の建設地として鉄建公団が借り上げた5,500㎡内について、平成4年6月に県教委による確認調査が行われた。トレンチ調査面積920㎡の調査結果から、約1,500㎡内に住居跡や土坑群が分布することが予想された。この遺構分布範囲に、試掘調査の及ばなかった部分の要確認調査範囲を加えて3,500㎡が本調査範囲と策定された。

調査は同年7月6日より開始し、7月30日に終了した。調査に要した延べ日数は19日である。調査の体制として、人員は調査研究員2名と作業員16名で構成された。また重機などの土木工事は鉄建公団JV、測量は株式会社写真測図に委託した。測量は空中撮影1回のほか、遺構の細部実測のため技師1名が調査に常駐した。

調査はトレンチ法とグリッド（面調査）法を併用した。トレンチ調査は、県教委の確認調査による遺構分布範囲より西側で、地形的に小さな谷に画される西向き斜面について、3カ所を重機による掘削で行った。その土層観察から、地表下は押し出しによる角礫層の堆積のみで、遺構や遺物の検出は無く、トレンチ調査に止めることとした。

また、遺構分布範囲は、遺物包含層あるいは遺構検出面付近まで、重機により面剥ぎを行い、その後人力で精査と遺構検出を進めた。それにより、奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑35基と中世の土坑5基が検出された。遺構や地形の測量はグリッド法により、杭を設定して実施された。

基礎整理事業は平成5（1993）年1月より開始し、各種台帳の整備・台帳図面の確認および修正・遺物の洗浄・注記・接合復元を行った。

報告書刊行にむけての本格的な整理とまとめは、平成5（1996）年8月より着手し、他の新幹線関連の調査遺跡の整理と平行しつつ、平成9（1997）年度まで行い、本報告に至った。

調査日誌抄

平成4年

6月24日 県教委文化課による試掘調査開始。

26日 試掘調査終了。遺構分布範囲確認。

7月6日 センター本調査開始。重機によるトレンチ調査と面剥ぎ。坂城町高速道対策課新幹線係長、鉄建公団JV副所長来訪。

10日 遺構配置略図作成。

13日 作業員による発掘作業開始。住居跡の調査

15日 町教委来訪。

16日 グリッド杭打設開始。業者による遺構実測開始。

20日 地形測量開始（～24日終了）。

21日 文化課市沢指導主事、埋文センター事務局小林部長来訪。

24日 ラジコンヘリコプターによる空中撮影実施器材撤収開始。作業員終了。作業員延べ人数149人。

27日 北東部の拡張範囲調査。土坑2基検出（40・41号土坑）。

29日 遺構実測、写真撮影終了。

30日 調査終了。JVに引き渡し。



3 基本土層

層位は I 層：耕作土、II 層：明黄褐色土、III 層：暗褐色土、IV 層：黒褐色土、V 層：黄褐色土、VI 層：黄褐色土（角礫を多く含む）である（図328）。

I 層は遺構全体に広がり、僅かに遺物が採集できる。II・III層はIV層とI層との漸移層といえるが、一部客土した土も含まれるかもしれない。

IV層は所謂遺物包含層であるが、遺物の出土は全体に少ない。またIV層は黒褐色で粘性の強い腐植土で遺跡東側中央を縦断する小さな谷地形部分に厚く堆積する傾向がある。この層は谷地形の深部にあたる調査地区東外のトレンチ壁面では更に厚く堆積していて、谷地形の埋没に起因する層といえそうである。なお、この谷地形部分のIV層下位には伏流水が湧き出している。

V・VI層はいずれも黄褐色土であり、角礫の含有量で分層した。角礫は、扇状地形成の押し出しによる堆積物であり、下位にいくほど礫径・量ともに増加していく。

また、V・VI層上面は遺構検出面にあたり、それら黄褐色土内にIV層やそれに近似する黒褐色土が陥ち込む状況で遺構が検出されている。しかし本来の遺構掘削面（生活面）はIV層土以上であると思われ、僅かにIV層土内で遺構の輪郭を確認できる範囲もあったが、明確な遺構調査面はV・VI層上面に求めることになった。

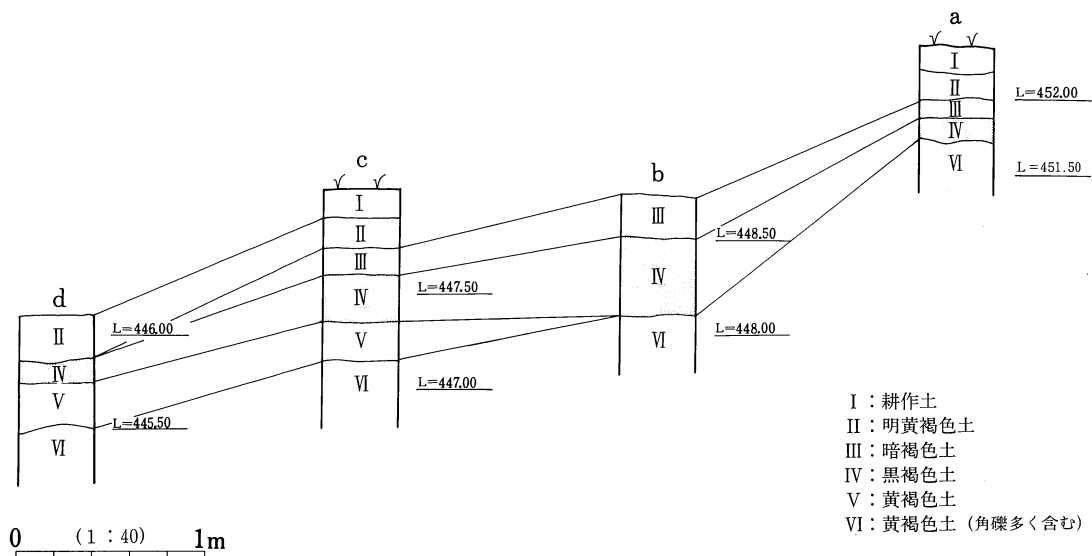


図328 基本土層

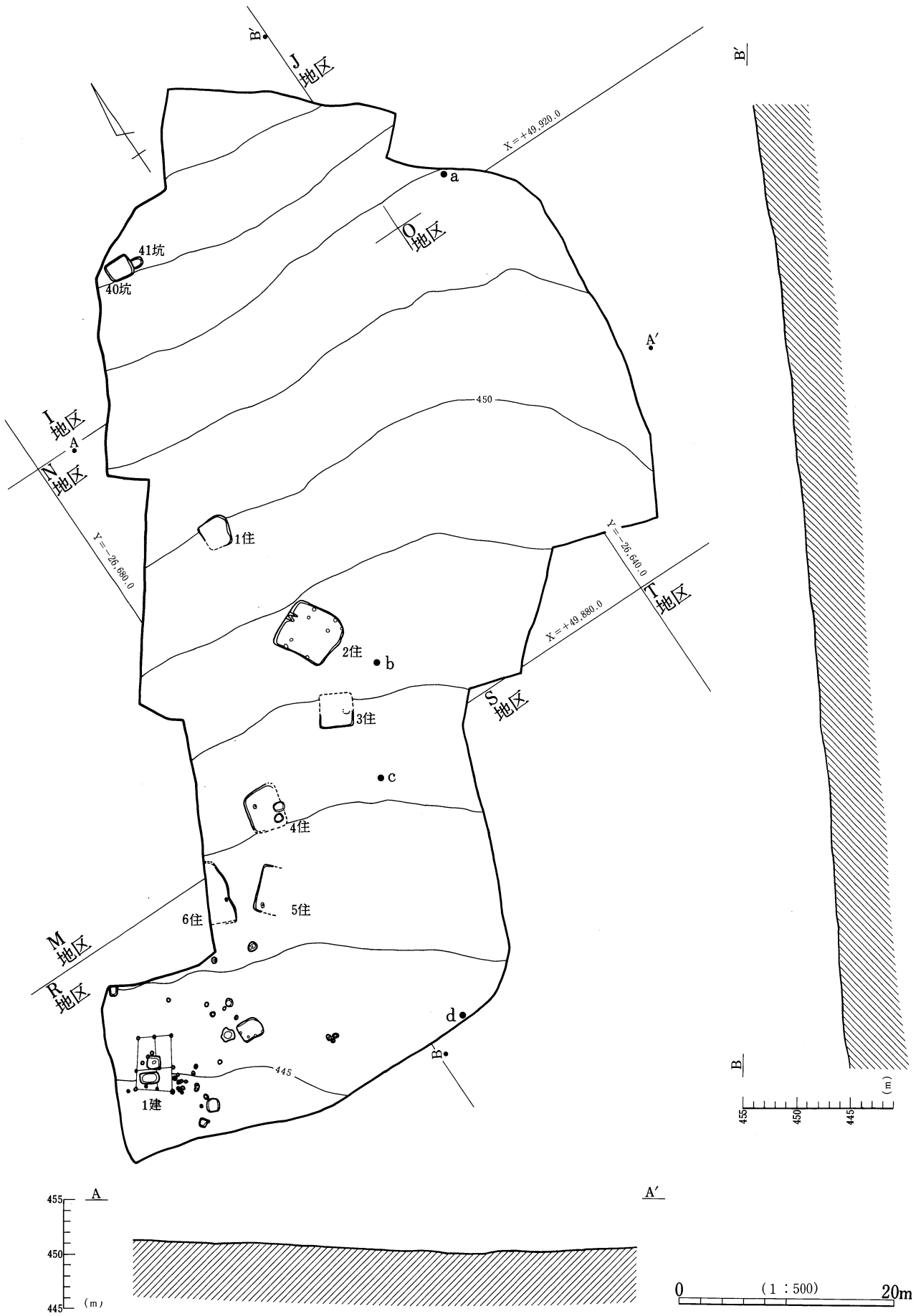


図329 遺構配置

4 遺構と遺物

検出された遺構は、奈良時代終わりから平安時代初め頃の住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑35基と中世の土坑が5基である。住居跡は、それぞれ重複せずに地形の傾斜に沿うように分布している(図329)。

また建物跡と平安時代の土坑のほとんどは調査区北西隅の比較的緩やかな斜面に集中する。中世の土坑も平安時代の土坑群と同範囲に分布している。検出面は土層堆積状況により基本土層V、VI層となった。

そのほか、遺構検出時に縄文時代前期頃の深鉢形土器片1点と黒曜石片10点も出土している。

(1) 奈良・平安時代

ア 住居跡

1号住居跡(図330、P L118) 位置 N-7

検出 I層(耕作土)直下のVI層上面で検出。覆土は砂礫の少ない黒褐色を主体とする自然堆積と考えられる。削平により南西隅の壁はほとんど残らない状況である。

構造 平面形態は不整な隅丸方形。規模は現状では2.74×2.60m、床面積6.21㎡を測る。主軸方位は長軸でS-16°-Wを指す。壁面は斜めで、残りの良い北壁が深さ21cmほどである。柱穴やピットはなく、床面は掘り込んだVI層面を平坦に整地した様子で、特に堅緻な部分は確認できない。床面標高449.33m。

カマド 削平により残存状況は悪く、焼土の広がり袖材らしき平石や土器片の集中から、南西隅に1基存在したと推察できるに過ぎない。

遺物 土器の出土量は少ない。カマド(推定)付近からは比較的多く、特に土師甕の破片が目立つ。その個体数は回転糸切り底の須恵坏2(1)、同甕1、回転糸切り底の土師内黒坏2以上(2・3)、ロクロ成形で器厚が薄い土師甕2以上(4・5)である。また南東壁際から、現存長9cmの鍛造釘(6)が出土している。

時期 土器の様相から、奈良時代末~平安時代初頭と位置付ける。

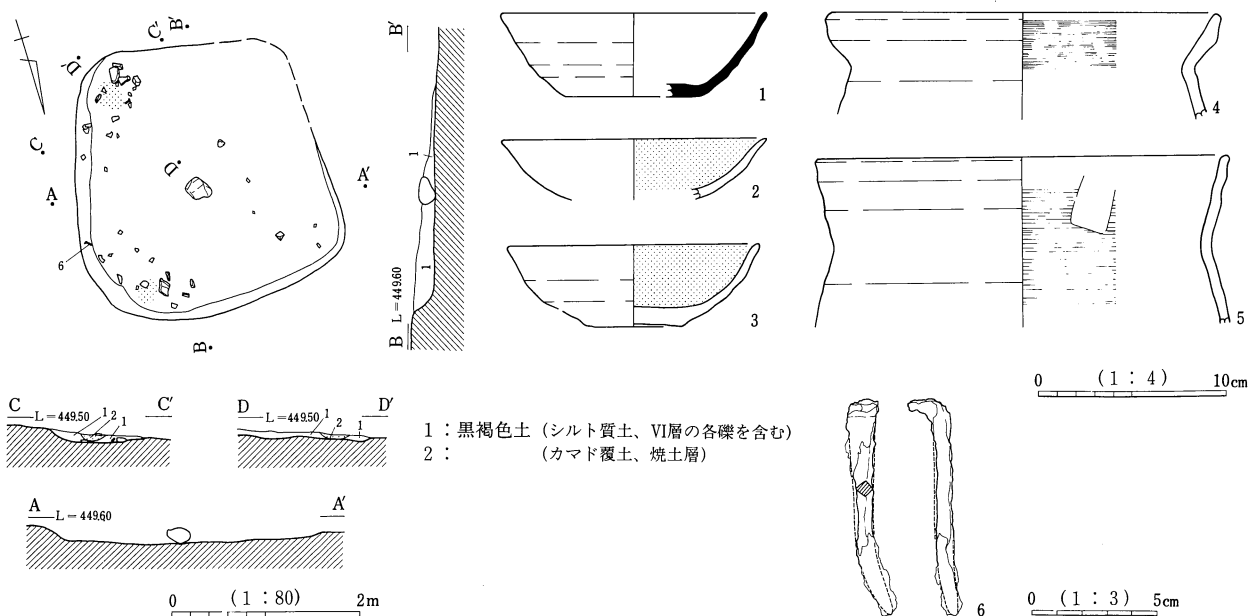


図330 1号住居跡

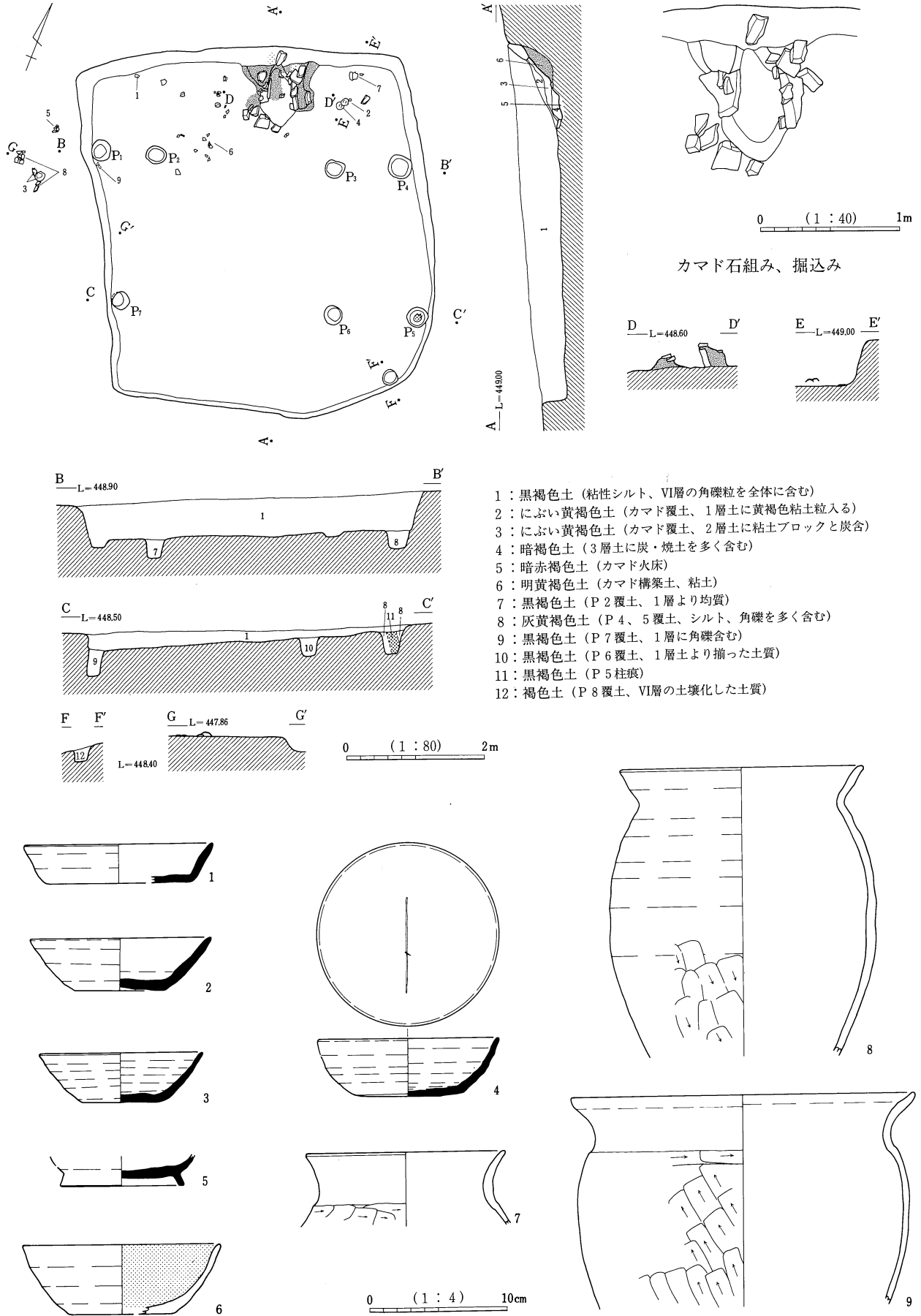


図331 2号住居跡

2号住居跡 (図331、P L118) 位置 調査地区の中央、N-12・17

検出 V (VI) 層上面で検出する。また東側のV層上面に土器集中地点があり、本跡と関連すると考える。覆土はVI層起因の風化した小角礫を含む黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

構造 平面形態はやや不整な縦長方形である。規模は4.94×4.66m、深さ60cm、床面積21.0㎡を測る。主軸方位はN-23°-W。壁面は垂直に近い。南西に傾斜した立地のため、検出面からの深さは北から南に向かって、60~10cmと浅くなる。床面はVI層上面を平坦に整地した状態で、全体に南に15cm傾いている。床面標高は448.15m。ピットは8基検出された。主柱穴はP 2・4・5・7と考えられ、P 2以外が壁際に設けられる特徴を持つ。P 5には壁際に傾斜する状態で柱痕が残る。またP 1・3・6・8も形状から柱穴と判断してよいだろう。

カマド 北壁中央やや右寄りに1基ある。廃絶時の破壊のためか、両袖部分の砂岩礫と粘性土以外に原位置を止める部分は少なく、カマド上部や前庭部周辺に礫が散乱している状態で検出された。その状況からカマドの構築法と使用時、廃絶時の状態を考察すると、両袖部の地山をやや掘り残したところに、粘性土(6層)と砂岩の角礫を貼りつけて袖を完成させている。また燃焼部奥壁にも袖同様の粘性土を貼り、傾斜を緩やかにしている。天井部は残存しないが、カマド覆土(2層)に粘性土粒が含まれることから、天井部にも粘性土を貼っていたことが予想される。煙道部は全く検出されなかった。燃焼部は床面よりやや窪められ、火床は焚口部奥に楕円形に残る。廃絶時には天井部と袖の構築材を破壊した後、それらをカマド周辺に放置している。また支脚石と考えられる柱状の角礫も抜いて、燃焼部奥壁に置いている。

遺物 出土量は少なく、カマド寄りの覆土中からの出土がほとんどであるが、カマド東横の床面に近い位置で完形の須恵坏2(2・3)が重なって出土している。土器の様相は、1は底部が広く回転ヘラ調整の須恵坏、4は静止ヘラ調整底で内面にヘラ記号を持つ須恵坏、2・3が回転糸切り底で焼成が軟質な須恵坏、5は焼成が軟質の須恵高台坏、6はロクロ成形で静止ヘラ調整底の内黒坏、7・9は外面ヘラ削りの土師甕、8はロクロ成形後に外面下部ヘラ削り調整をした土師甕である。なお、3・5・8は本跡東に隣接の土器集中地点出土であるが、関連する遺物と考えて本跡資料とした。

時期 土器の様相から奈良時代末~平安時代初頭に当てはまると考える。

3号住居跡 (図332) 位置 N-22

検出 確認調査時のトレンチ断面から、焼土と黒褐色土の扁平な浅い陥ち込みが確認される。その後V

(VI) 層上面で検出される。トレンチにより、北側半分は痕跡を止めない。覆土は黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

構造 平面形態は方形と推測され、規模は主軸で2.92mを測る。主軸方位はE-34°-Sを指す。壁面は斜めで、深さ10cmと浅い。床面は掘り込んだVI層上面を平坦に整地した状態であり、全体に南に5cm余り傾く。床面標高447.60m。ピットは検出なし。

カマド 削平とトレンチで残存状況は極めて悪い。火床部は厚さ10cmほど

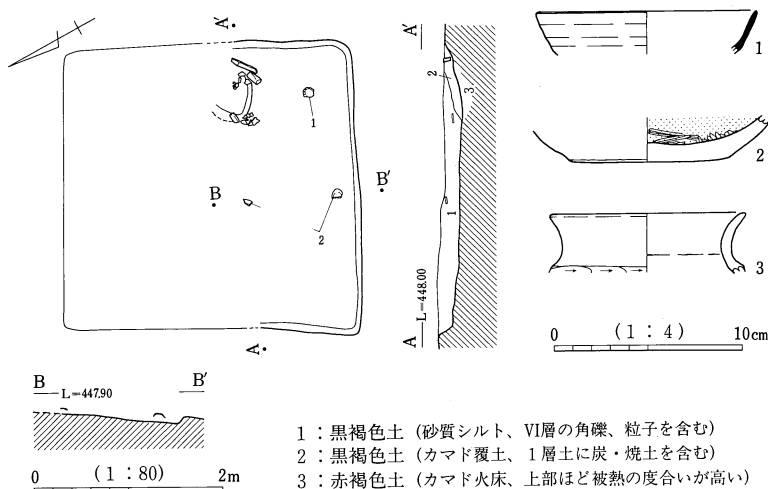


図332 3号住居跡

で、右袖には構築材の扁平な角礫が立った状態で検出されたが、原位置を止めているかどうか不明である。
遺 物 非常に少なく、全て土器の小片である。図化資料では1は須恵器坏、2は静止へう調整底の土師内黒鉢、3は外面にへう削り調整をもつ土師甕がある。この他に須恵甕片が出土している。いずれも床面に近い覆土中から出土した。

時 期 少量であるものの、土器の様相から奈良時代末～平安時代初頭頃と推定する。

4号住居跡 (図333、P L120) 位置 M-25、N-21

検 出 確認調査トレンチで、カマド付近を確認。V層上面で全体形を検出する。全体に削平により残存状況は悪く、南側は壁の立ち上がりが定まらない。覆土は黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

構 造 不整な隅丸方形と推測する。規模や主軸方位は不明。壁面は斜めに掘り込まれ、深さ22cmを最大とする。床面は掘り込んだVI層面を整地した状態で、全体に南に10cm傾斜している。床面標高は447.00mを測る。ピットは2基検出された。カマド南横のP1は平面不整形円で径80cm、深さ10cmの扁平な皿状の断面形態を呈する。炭や焼土、土器片を含む。P2は北寄りの床面で検出され、平面円形で深さ10cm程と小さい。柱穴の可能性を持つ。

カマド 西壁中央やや右寄りに1基検出された。残存状況は極めて悪く、天井部や袖は全く確認できない。燃烧部は浅く掘り窪められ、底部には火床の残存と思われる焼土が広がる。土器片が廃棄されている。

遺 物 全て土器片であるが、他の住居跡に比べて残存状況は良い。カマド内、P1、覆土の土器片が接合する場合もある。図化資料では1・3は回転糸切り底で軟質気味の焼成の須恵器坏で、1には火嚢痕がある。2はやや底部径が大きく底部調整不明の軟質の須恵坏、4・5は回転糸切り底で外面ロクロ成形の

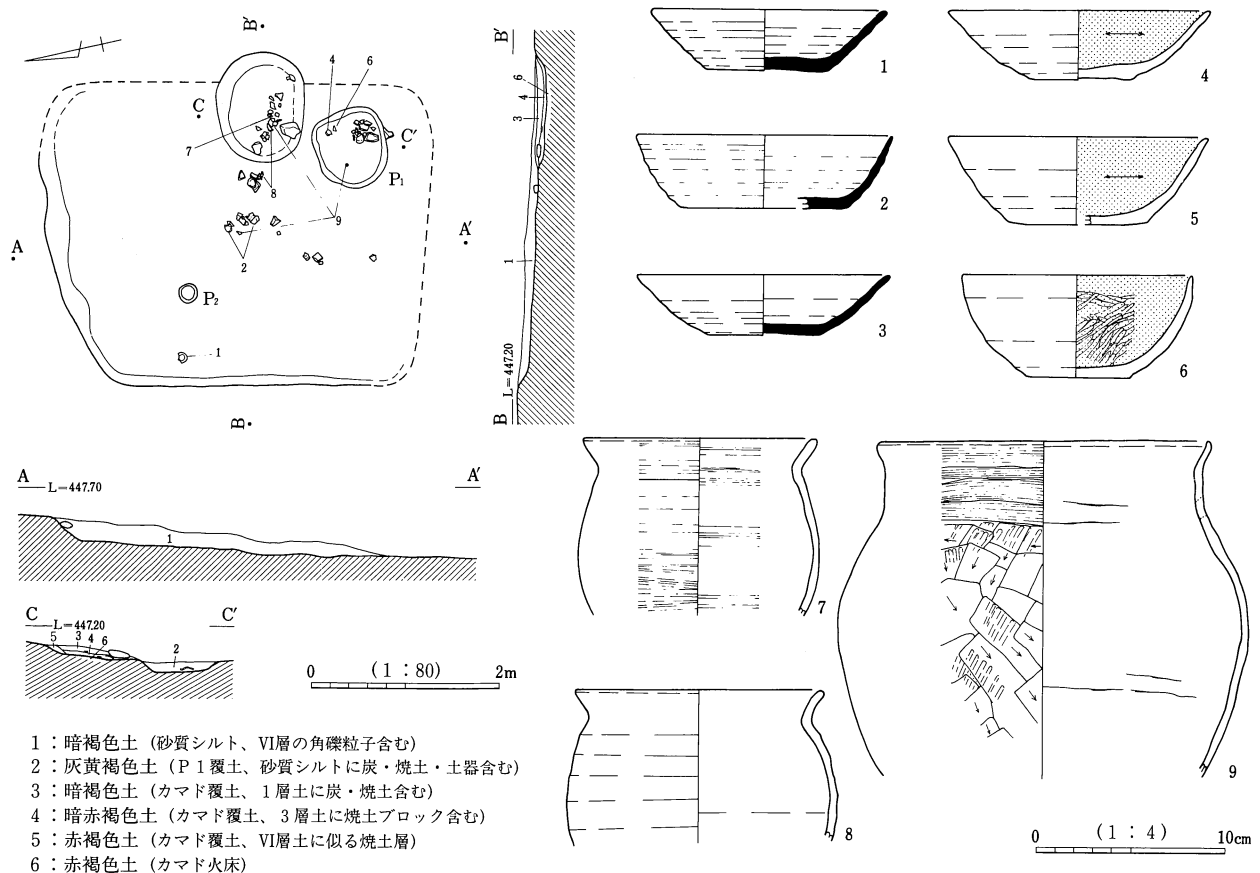


図333 4号住居跡

土師器内黒坏、6は丸みを持ちやや深い器形で、外面ロクロ成形、内面黒色で斜めミガキ調整の坏であり、7はロクロ成形で外面にカキ目を残す土師小型甕、8はロクロ成形で7と同型の小型甕、9はいわゆる武蔵型甕である。器厚は薄く、やや肩が張る長胴気味の胴部に「コ」の字状の口縁部を持つ器形であり、調整は口縁部外面は横ハケ、胴部は平行タタキのち斜めケズリ、内面は全体に横ナデが施されている。他には須恵甕片も出土している。

時期 土器の様相から奈良時代末～平安時代初頭に位置付ける。

5号住居跡 (図334)

位置 R-5

検出 確認調査トレンチの断面観察で、扁平な陥ち込みとして検出。VI層上面で平面的に広がるが、削平とトレンチで東側の大半が消失している状態である。覆土は浅く黒褐色土の単層である。

構造 唯一残る北西壁付近の状況から方形の住居跡と判断し、その壁の向きを主軸方位とするとN-42°-Wを向く。また軸方向で長さ4.24mである。壁面は斜めで、深さは10cmと浅い。床面は掘り込んだVI層面を整地した状態で、平坦であるが全体に南に26cm傾く。床面標高446.57m。ピットは南西隅の床面

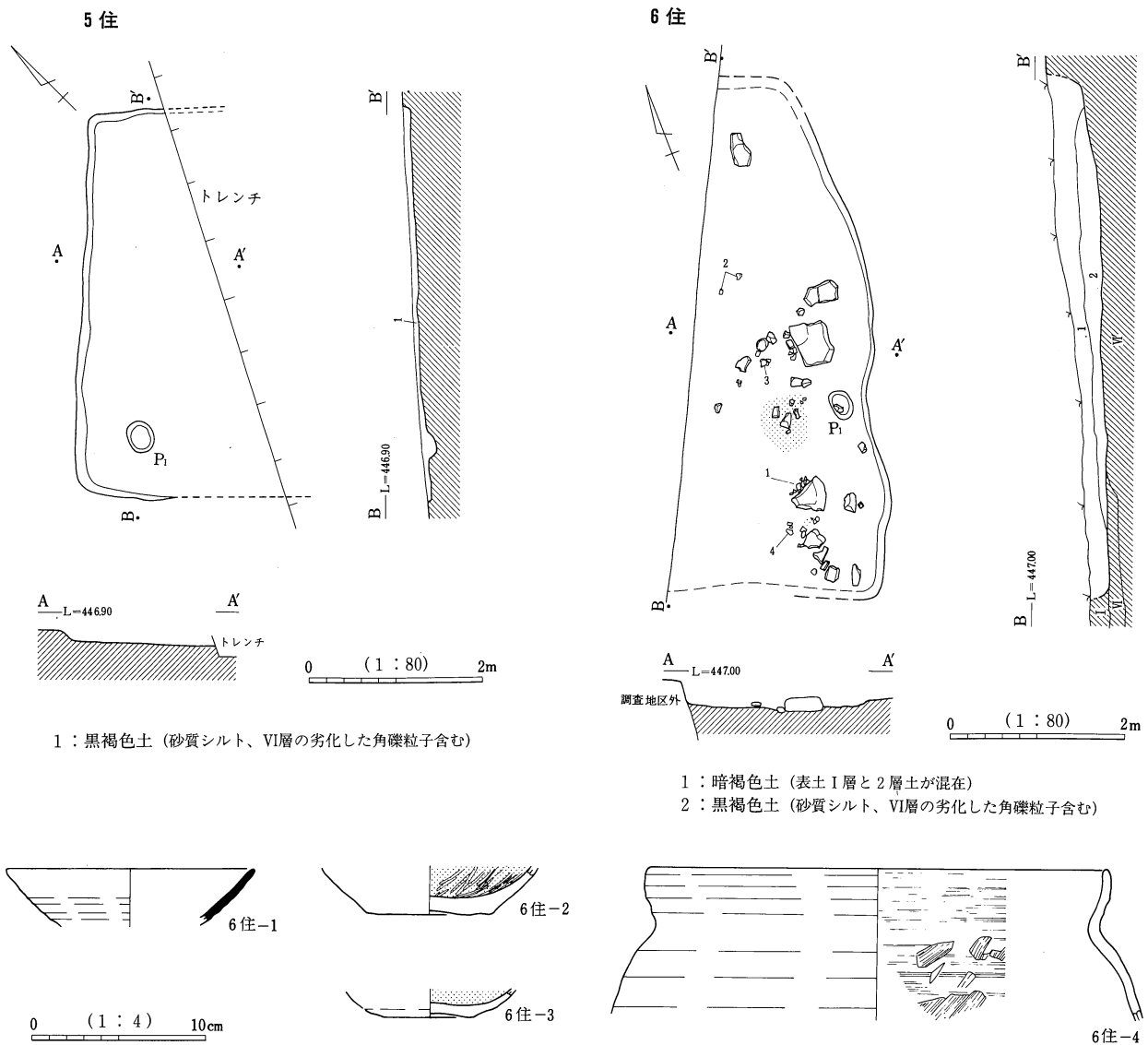


図334 5号・6号住居跡

に1基検出された。長径30cm、深さ10cmの大きさで位置からは柱穴の可能性はある。カマドは全く検出されていないが、他の住居跡の状況からは南東壁に存在したと想定される。

遺 物 いずれも土器の小片であり量は極めて少ない。

時 期 土器の様相から、9世紀前後、奈良時代末～平安時代初頭頃と思われる。

6号住居跡 (図334) 位置 M-24、25、R-04、05

検 出 VI層上面で検出するものの、その大半は調査区外に伸びているため、全体像はつかめない。覆土は自然堆積と思われる黒褐色土(2層)の上に、耕作土(1層)と2層土が混ざる暗褐色土が厚く堆積している。この状況から、遺構の壁なども攪乱と削平の影響を受けている事が分かる。

構 造 推定で平面形態はほぼ方形であると判断する。東壁の向きを主軸方位とするとN-13°-Eを指す。壁は斜めに掘り込まれ、東壁で深さは20cmを測るが、南壁などはほとんど確認できない。床面は掘り込んだVI層面を整地した状態で、全体に30cm南に傾く。床面標高446.60m。また東側には焼土が円形に広がる。ピットは東壁際の床面に1基検出された。円形で径20cm、深さ10cmを測る。カマドは調査範囲では確認できない。なお床面には様々な大きさの角礫が散乱していて、カマド構築材とも考えられる。

遺 物 土器の破片が床面に近い覆土中で少量出土する。主なものは、焼成がやや軟質の須恵坏(1)、回転糸切り底の土師内黒坏(2・3)やロクロ成形で口縁部がやや直立する土師甕4がある。

時 期 土器の様相から奈良時代末～平安時代初頭以降と考える。

イ 掘立柱建物跡

1棟のみ検出された。調査地区の南西隅の古代と中世の土坑の集中する地点であり、その切り合い関係から古代(平安時代)に帰属する建物跡と考える。

また周辺にはこの建物跡を構成するピット(柱穴)と同形同種の小土坑が30基検出されているが、他の建物跡を構成する柱穴として明確に組める土坑は検出できなかった。しかし、検出した1号掘立柱建物跡も斜面という地形や礫を多く含む地質に少なからず制約されながら建造された所見を得ているため、それら小土坑を建物跡の柱穴ではないと明確に結論付ける根拠はない。

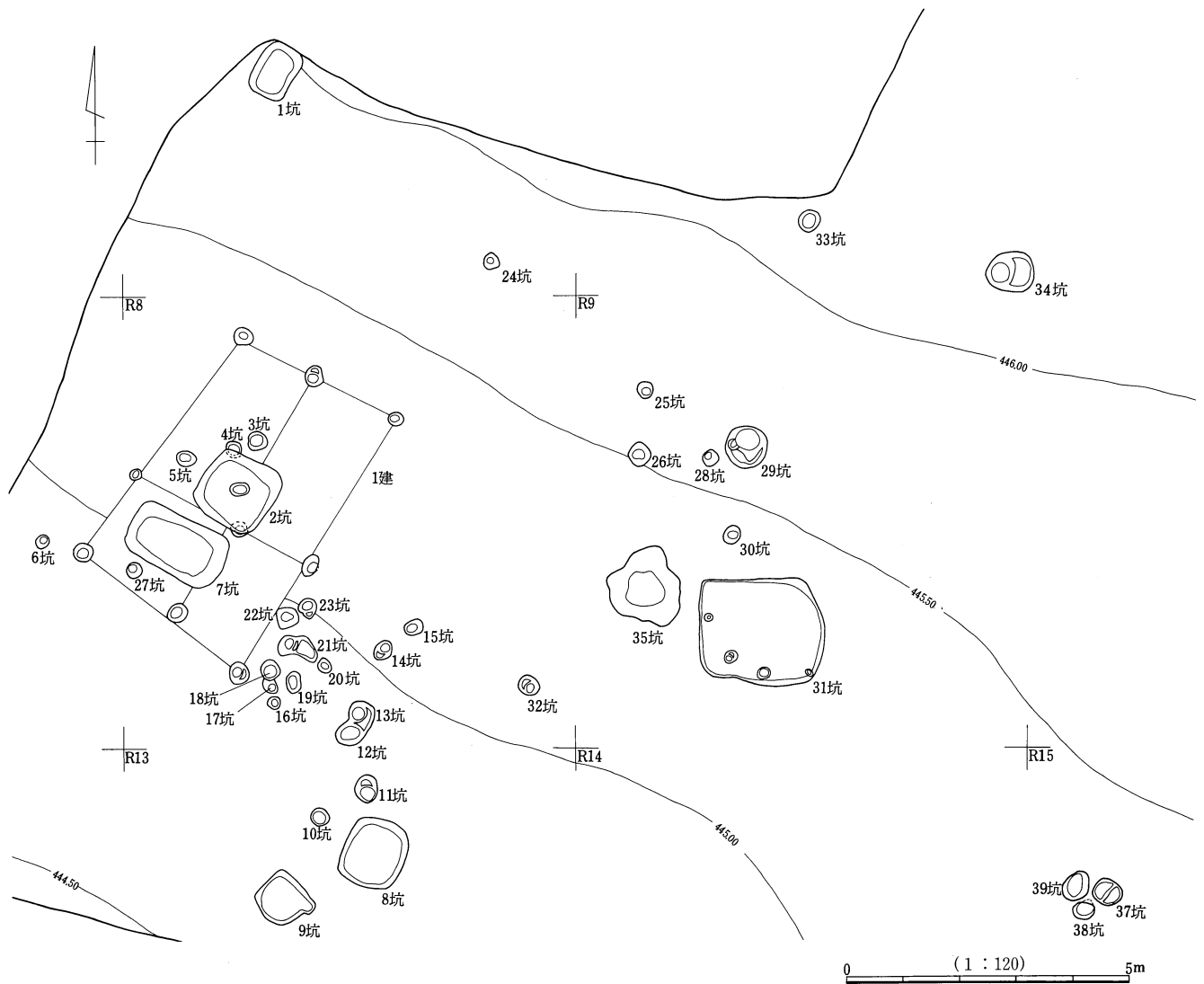
なお、報告では建物跡の短軸方向を梁行、長軸方向を桁行としている。

1号掘立柱建物跡 (図335、P L119) 位置 R-7、8

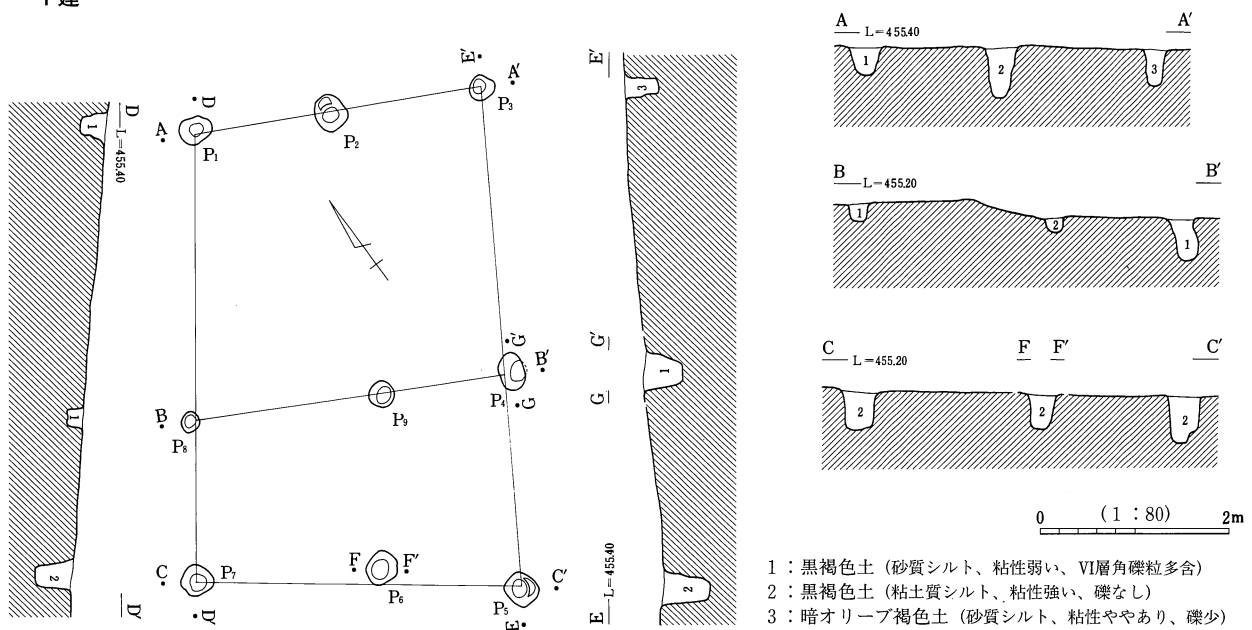
検 出 IV層上面で検出された小土坑群のうち、やや不定形ながら2間×2間のやや東に傾いた南北棟、総柱式の平面形態を想定する、ピット9基を建物跡と判断した。P9が中世の2号土坑に切られる。

構 造 規模は桁行4.80m、梁行3.46mで、面積16.31㎡を測る。主軸はN-36°-Eを指し、これは地形の傾斜軸と平行に近い。柱間は南北列の北側1間が3.0m、南側1間が1.7~2.3mと開きがあり、東西列は1.4~2.0mを測る。柱穴の形は平面が円形を基本として、断面は底部が小さな台形様が多い。形状が歪むのは、礫の多い地質に制約された結果と思われる。また大きさは柱穴上面で23~40cm、下面で15~22cmであり、深さは14~55cmを測る。覆土は全て単層であり、P1・4・8が粘性の弱い、VI層起因の劣化小礫と炭化物を含む黒褐色土(1層)、P2・5~7・9は粘性の強い均質な黒褐色土(2層)に炭化物ブロックを含み、P3は粘性の1、2層土の中間にあたる暗オリーブ褐色土(3層)に覆われる。柱痕はないが、いずれの覆土にも大小の炭化物を含み柱が焼失した可能性を示している。

なお、柱穴の底部の水平高(位置)は、地形傾斜上部の柱穴ほど高く、逆に傾斜下部の柱穴ほど低い傾向がある。これは埋設する建物柱上端を水平に保つ場合、各柱の地表からの長さは標高の高い柱穴位置は



1 建



- 1 : 黒褐色土 (砂質シルト、粘性弱い、VI層角礫粒多含)
- 2 : 黒褐色土 (粘土質シルト、粘性強い、礫なし)
- 3 : 暗オリーブ褐色土 (砂質シルト、粘性ややあり、礫少)

図335 (上) 遺構配置、(下) 1号建物跡

ど短く、標高の低い柱穴位置ほど長くする必要があり、それに応じる結果とも想定される。

遺 物 炭化物以外になし。

時 期 中世土坑に切られる点、周囲の古代土坑（平安時代初頭頃）と覆土が似る点などから、平安時代の建物跡である可能性が高い。

ウ 土坑（図335・336、P L119）

35基検出され、そのうち遺物の出土した土坑は24坑・31坑・36坑・40坑の4基のみである。したがってその他の土坑は所属時期決定が困難であるが、その分布や覆土の状況、中世土坑との切り合いや性格（形態、覆土など）の差異などから、おおむね住居跡と同じ奈良時代末～平安時代初頭頃であると判断する。

以下に形態、覆土、遺物出土などの点から特異な状況を示す土坑の所見を記し、最後にその他の土坑について触れたい。

29号土坑（図336、P L119） 位置 R-9

検 出 VI層上面で25・26・28・30坑と隣接して検出された。覆土は2層に分かれ、粘性のある土壌化の進んだ黒褐色土（1層）が土坑中央に底部まであり、その周囲を小礫を含む黒褐色土（2層）が囲むように堆積する。

形 態 平面円形で、内部南側にテラス部をもつ有段状の断面形態を呈する。規模は上面径76cm、下面径40cmであり、深さは底部まで44cmを測る。大半の小土坑より規模が大きく、また覆土状況も異なる。

遺 物 なし。

時 期 決定できないが、奈良時代末～平安時代初頭か。

31号土坑（図336、P L119） 位置 R-9

検 出 VI層上面で検出。切り合いはなく、西に35坑が隣接する。覆土は劣化した小礫を含む黒褐色土の単層であり、ピットの覆土も同様である。

形 態 東西に長軸を持ち、東壁がやや膨らむ不整な長方形を呈する。規模は2.20×1.86mを測り、深さは東側で20cm、西側で8cm程である。底部は平坦で、南西側の壁に沿うように小ピットが4基検出される。P1・4は径12cmで深さ12cmと特に小さく、P2・3は径20cm、深さ16cmを測る。いずれも柱穴の可能性がある。また底面中央には炭化物が分布し、内黒坏（2）が出土している。明らかに他の土坑と性格が異なり、ある程度の平面的な空間とピットを柱穴とした上屋構造を合わせ持つ、住居跡に準ずるような施設を想定する。

遺 物 2は底部手持ちへう削り調整で、覆土出土の須恵坏（1）は底部回転糸切り未調整である。

時 期 土器から奈良時代末～平安時代初頭と考える。

35号土坑（図336） 位置 R-9

検 出 VI層上面。覆土は全体に炭と焼土粒を含む、粘性のある黒褐色土の単層である。

形 態 円形に近い不整な平面形態で、浅い皿状を呈する。規模は1.30×1.20cm、深さ12cmをはかる。また本跡北西側検出面には炭化物の集中がある。土坑内で被熱を受けた部分はないことから、炭や焼土が意識的に入れられたと考えられる。

遺 物 土器などは出土していない。

時 期 決定する根拠はないが、周囲の土坑との状況から古代と推定する。

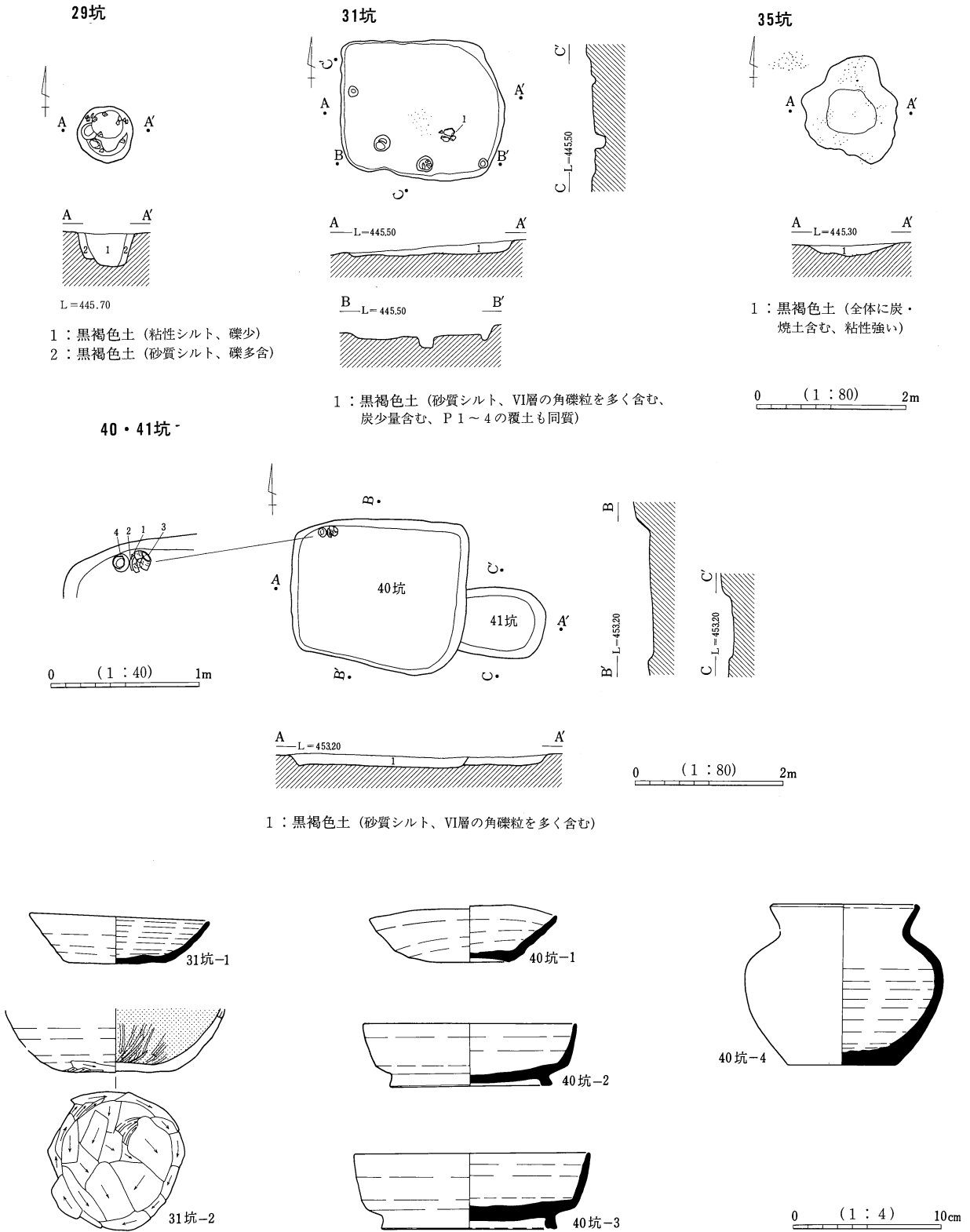


図336 古代土坑

40号、41号土坑 (図336、P L120) 位置 他の土坑と離れた調査区北隅、I-17・18

検出 VI層上面。覆土の相違では40坑が41坑を切る関係にある。覆土は40坑が粘性、しまりともに弱い黒褐色土の単層である。

形態 40坑は浅い皿状で東西に長軸を持つ平面長方形を呈し、41坑は隅丸の長方形で西側を40坑に切られる。規模は40号が2.40×2.00m、深さ15cm、41坑が現状で1.10×0.94m、深さ12cmをはかる。いずれも底面は平坦である。

遺物 40坑北西隅床面上に、いずれもほぼ完形の須恵坏(1)、同高台坏(2・3)、同短頸壺(4)の4個体がまとまって出土している。それらは坏の上に高台坏2個体が半ば逆位に重ねられ、その西横に短頸壺が置かれた状況であり、意識的に安置後に埋納した様相を呈する。須恵坏は底部回転糸切り未調整で大きく歪んだ器形であり焼成は良い。高台坏はいずれも底部回転ヘラ調整のち、やや内側に高台を付けている。焼成は軟質である。短頸壺は肩部に最大径を持ち、口縁部は直線的に短く外傾して、その端部内面がやや内側に屈曲するように面取りされている。底部は回転糸切り未調整である。焼成は良好である。

時期 土器の在り方から、奈良時代末～平安時代初頭と考える。

その他の土坑 (図335)

前述した通り、土坑は40・41坑以外が全て調査区南西隅に集中して検出された。これらを平面形態、断面形態、覆土の状況から分類を試みる。

平面形態は円形から楕円形(それに近い不整形含む)、方形、長方形の3種類に分け、断面形態は有段(テラス部を持つ)、方形(台形)、房垂形、半球形、不整形の5種類に分けた。また覆土は、A:VI層起因の風化した小礫を含まない黒褐色土、B:VI層起因の風化した小礫を含む、粘性の弱いにぶい黄褐色～黒褐色土と大きく2種類に分けて、その中で炭化物を含む覆土をそれぞれA'、B'とした。この平面形態と断面形態、覆土の状況を合わせて整理すると以下ようになる。

1 タイプ

平面が円形、また楕円形、断面が方形 ……13基(土層A:1、B:5、B':7)
規模:長軸長23～56cm(平均34.2cm) 深さ9～44cm(平均22.1cm)

2 タイプ

平面が円形から楕円形、断面が半球形から房垂形…5基(土層A:1、B:4)
規模:長軸長28～41cm(平均32.6cm) 深さ22～34cm(平均30.0cm)

3 タイプ

平面が円形から楕円形、断面が有段形 ……5基(土層B:3、B':2)
規模:長軸長48～87cm(平均55.6cm) 深さ25～33cm(平均28.2cm)

4 タイプ

平面が方形、断面が房垂形 ……1基(土層B:1)
規模:長軸長38cm 深さ24cm

5タイプ

平面が円形から楕円形、断面が不整形 …… 3基（土層B：1、B'：2）
 規模：長軸長30～36cm（平均31.7cm） 深さ15～27cm（平均20.0cm）

6タイプ

平面が不整形、断面が有段形 …… 2基（土層A：1、B'：1）
 規模：長軸長35～72cm（平均53.5cm） 深さ15～27cm（平均24.5cm）

7タイプ

平面、断面共に不整形 …… 1基（土層B'：1）
 規模：長軸長46cm 深さ25cm

この分類と数値から土坑の性格を導き出すのは非常に困難であるが、土坑分類の1、2タイプは何らかの構造物の柱穴と成り得る形状ではないかと思われる。ちなみに、1号掘立柱建物跡の各ピットは土坑の分類の1タイプ（または2タイプ）に考えられる。その規模は長軸長で23～40cm（平均32.2cm）、深さ14～55cm（平均36.4cm）であり、土坑の1、2タイプに近い数値である。

(2) 中世

ア 土坑（図337）

中世の遺構の全てが土坑である。1・2・7・8・9坑の5基は、いずれも調査区北西隅に分布している。どれも平面形が方形、または長方形という特徴がある。古代の土坑と重なるが、重複関係は形状と覆土から明白であった。中世の土坑同士は重複せず、その性格は同じであると判断する。

1号土坑跡（図337、PL119） 位置 R-3

検出 他の中世土坑からやや北に離れた位置で、VI層上面にて長方形の黒褐色土の陥ち込みとして確認する。切り合いはない。覆土は粘性の弱い黒褐色土の単層で、VI層起因の小礫や劣化した石粒が全体に散る。上部は耕作の影響を受け均質な性状を示す。

構造 平面形は長方形で、長軸は等高線に直交するように北北東を指す。規模1.00×0.70mをはかる。底面は長方形で、規模0.75×0.4mである。比較的平坦であるが、VI層の礫が露出する部分もある。深さは土坑中央で23cmをはかる。

遺物 内耳土器の体部片（1）が1片出土している。軟質の土師質である。

時期 他の土坑の土器から、中世後期の16世紀頃と推定する。

2号土坑（図337、PL119） 位置 R-8

検出 VI層上面で7坑と隣接して検出する。1建を切る。覆土は黒褐色土の単層で、粘性があって、しまりは良い。炭化物を含む。周辺の古代の土坑の覆土に比べて均質な性状である。

構造 平面形は北壁がやや歪むが、一辺1.30mの方形を呈する。底面形も一辺1.00mの方形であり、その中央部には直径25cmで深さ10cmの円形の陥ち込みが確認されている。重複関係を持つ別土坑の可能性もあるが、調査段階では一括性のあるこの土坑に帰属するピットと判断した。

遺物 内耳土器の口縁部片（1）と、粘板岩製の方形の硯（2）が出土している。内耳土器は体部がやや外傾して立ち上がり、口縁部が直立気味の形態で軟質の土師質である。また硯は池部の右隅の破片であり、その外面には無数の擦り痕や条痕が残るため、破片を砥石などに再利用した可能性がある。

時期 内耳土器の形状から、中世後期の16世紀前半とする。

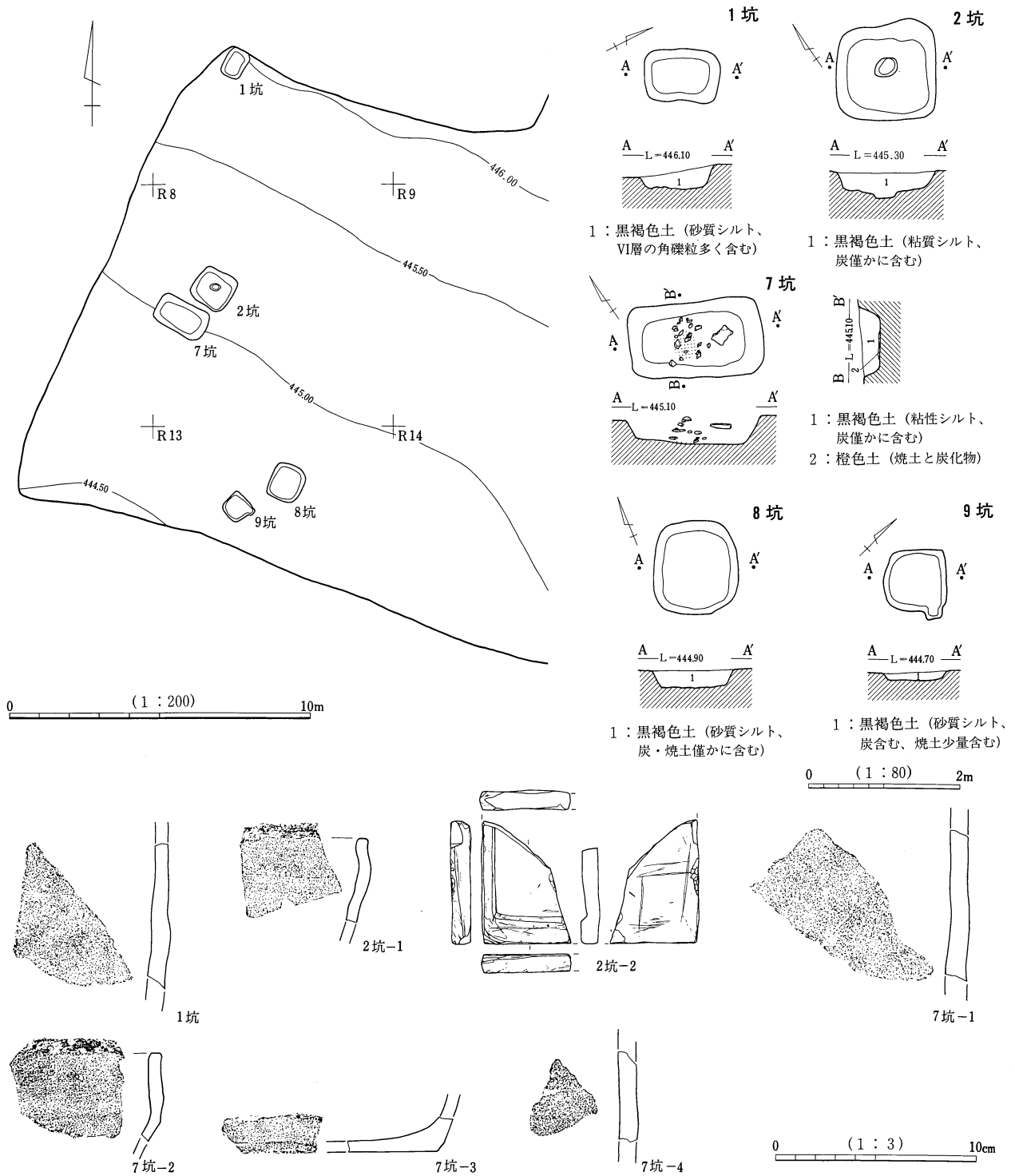


図337 中世土坑

7号土坑 (図337、P L119) 位置 R-8

検出 VI層上面で、2坑の南側に隣接して検出する。覆土は2層に分かれ、底部に焼土と炭化物の堆積の2層があり、土坑全体を覆う1層には大小の礫が含まれていて、人為的に埋められた性状がある。

構造 長軸を北西に向けた長方形を呈し、1.80×1.00mの規模である。底面も1.35×0.70mの隅丸長方形であり、IV層の礫は出土するが平坦である。底部には焼土と炭化物が溜まる(2層)。

遺物 内耳土器片が出土している(1~4)。そのうち2は2坑出土の口縁部とほぼ同形といえる。また3は底部であり、立ち上がりはやや緩やかである。

時期 中世後期の16世紀前半であろう。

8号土坑 (図337) 位置 R-13

検出 調査区南端で、VI層上面にて検出する。9坑が南西側に隣接する。1号土坑の覆土と似て、粘性が弱く、しまりの良い黒褐色土の単層である。下部にはIV層起因の礫を多く含み、1cm程の炭化物が全体に散る。僅かに焼土粒も含む。

構造 平面形態はほぼ隅丸長方形で、規模1.20×1.15mを測る。底面は1.00×0.80m、深さ24cmであり、礫が露出するが平坦である。

遺物 他の土坑同様、内耳土器片が出土している。いずれも体部片である。軟質で土師質である。

時期 土坑の形状、遺物から16世紀頃と考える。

9号土坑 (図337) 位置 R-13

検出 8坑に隣接して、IV層上面で検出する。覆土は8坑に似る粘性の弱い黒褐色土で、炭化物が多く混ざる。2mm程の焼土も見られる。

構造 平面形態は基本的に一辺80cm四方の方形を呈するが、南辺がやや膨らみ、東隅には方形に張り出した部分も認められる。底面は上端線と同様の形状で、規模は一辺70cm四方で、深さ10cmをはかる。礫は露出するが平坦である。

遺物 なし。

時期 土坑の形状から、同時期の16世紀としたい。

中世土坑の性格 中世に当てはまる土坑5基について所見を記したが、その性格について触れたい。

まず、土坑の分布は、調査地区の北西隅の最も緩斜面となる辺りにまとまっている。更に細かく分布状況を見れば、1坑、2坑と7坑、8坑と9坑と北から順に3カ所に分けられる。切り合い関係はない。

次に形状は、いずれも隅丸気味の四角形として括れる。軸方向は、北北東にあり、斜面の傾斜軸に共通する特徴を持つ。深さは12~34cmであり、底面は上端線同様の形状で平坦である。2坑には底面中央に小ピットがある。

覆土の状況は、1坑以外の土坑では、いずれも炭化物と焼土が含まれている。また7坑では底面に炭化物と焼土が溜まり、土坑全体は人為的に埋められた状況である。

また出土遺物は内耳土器片が主体で、8坑から石製の方形硯片が1点出土している。内耳土器片はいずれも小片であるが、口縁部の特徴は、やや内湾気味に直立する点にあり、中世信濃の内耳土器編年(小林1982・野村1990・服部1997)に照らし合わせると、16世紀代前半の範疇に収まりそうである。

以上の4点から、土坑の性格を明確にすることはできない。また調査地区外の南西側に土坑群の分布が広がりそうな気配がある。

5 まとめ

今回の調査により、開畝遺跡は古代の集落跡と中世16世紀前半頃の土坑群から構成される複合遺跡であることが明らかになった。

古代の集落跡は、住居跡が重複なく分布し、土坑と掘立柱建物跡は南西地点に集中する傾向がある。北の山側に離れて検出された40・41坑は遺物の出土状態からして、単なる生活施設ではなさそうである。

土器の様相では、坏類は須恵器と内面黒色処理した土師器が供伴し、どちらも底部調整は回転糸切りが主体であるが、静止ヘラ調整が残っている。この他須恵器の高台坏も見られる。

土師器の甕は法量から大小に分けられ、その形態と在り方を直井義尚氏の分類に照らし合わせると(直井1996)、大形甕は丸底と推定されて外面上部にロクロ成形を残し、下部をタテケズリした北信型甕「甕A」(1住-4・5、2住-8、6住-4他)と、頸部以下を強いケズリで薄く仕上げた東信型甕、所謂武蔵型甕「甕B」(4住-9)がある。その形態は肩部がさほど張らないことで共通するが、北信型甕の口縁部は短く外反または内湾気味に立ち上がるのに対し、東信型甕は頸部をやや上方に立ちあげ、そこから口縁部が外反する「コ」字状を呈する点で異なる。また小型甕は北信型甕に伴うとされる底径が大きく体部中央に最大径を持つ外面ロクロ調整またはカキ目調整された甕(4住-7・8)と、東信型甕に伴うとされる体部外面をケズリ調整された甕(2住-7)がある。このうち大形甕は直井氏の形態変化を用いた時期設定によると、どちらの系統の甕も8世紀末葉から9世紀初頭に当てはまり、坏類の構成もそれと符合すると考えてよいだろう。また、甕の構成は大形甕は同一住居内で供伴する例はないが、遺跡全体では北信型甕が大半で、東信型甕は少ない。それに対し小形甕は大形の北信型甕を持つ住居に東信型甕が伴い(2住)、その逆の構成(4住)も存在している。

直井氏によると、甕の分布は8世紀末葉から9世紀初頭の長野盆地ではほとんど北信型甕が占めるのに対して、上田盆地は東信型甕が多く、僅かに北信型甕が入る状況である。9世紀前半となると、長野盆地にも少ないながら東信型甕が入り、上田盆地では北信型甕が増加するが未だ東信型甕が多いとしている。

本跡の構成は9世紀前半の上田盆地に最も近い状況と捉えられるが、遺跡のある立地が長野と上田の中間地域と考えれば8世紀末葉から9世紀初頭の時期に、北信型甕主体でありながら確実に東信型甕を伴うという構成状況を地域の特徴として理解できないだろうか。

引用・参考文献

- 小林秀夫 1982 「中世以降の遺物」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書-茅野市その5-御社宮司遺跡』長野県教育委員会
- 坂城町教育委員会 1978 『開畝製鉄遺跡-第1次調査報告-』
- 坂城町教育委員会 1979 『開畝製鉄遺跡-第2次調査報告-』
- 坂城町教育委員会 1994 「1 開畝遺跡II」『町内遺跡発掘調査報告書-平成5年度試掘調査報告書-』第I章 試掘調査
- 塩野入忠雄 1979 「第二章 地形」『坂城町誌』上巻 第一編 自然編 坂城町誌刊行会
- 直井義尚 1996 「信濃における奈良・平安時代の土師器甕について」第4回東海考古学フォーラム『鍋と甕そのデザイン』
- 野村一寿 1990 「中世土器・陶磁器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4 -松本市内 その1-総論編』(財)長野県埋蔵文化財センター
- 服部敬史 1997a 「3 関東・甲信」『国立歴史民族博物館研究報告第71集 中世食文化の基礎的研究』[第1部] 中世食器の地域性
- 服部敬史 1997b 「内耳土鍋の研究(上)」『土曜考古 第21号』土曜考古学研究会
- 森島稔 1981 「(一) 考古」『坂城町誌』中巻 第三編 歴史編 坂城町誌刊行会
- 若林卓 1994 「東平古墳群」『長野県埋蔵文化財センター年報10』(財)長野県埋蔵文化財センター
- 若林卓 1995 「東平古墳群(砥沢古墳)」『長野県埋蔵文化財センター年報11』(財)長野県埋蔵文化財センター

表49 土器観察表

図版No.	地点名	土器No.	器種	残存率	法量(cm)			色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	備考
					口径	底径	器高						
330	1住	1	須恵環	1/4全位	(14.2)	(7.2)	4.4	灰白	少0.2~0.5 長石、角閃石	やや軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	
330	"	2	内黒環	1/5口~体	(14.2)	-	(3.2)	赤褐	有1.0~0.3 長石、雲母、石英	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	カマド
330	"	3	内黒環	1/3全位	(13.5)	5.2	4.4	にぶい赤褐	少0.2~0.3 長石、石英	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	クテミガキ	
330	"	4	甗	1/6口~頸	(21.2)	-	(5.6)	明赤褐	有0.1~0.5 長石	良好	口~頸：ロクロ	口：ハケナデ 頸：ヨコナデ	
330	"	5	甗	1/4口~頸	(22.2)	-	(9.0)	外：にぶい橙 内：橙	有0.2~0.4 長石	良好	口唇：ややオサエ 口~頸：ロクロ	ロクロハケナデ	カマド
331	2住	1	須恵環	1/2全位	(13.8)	(10.6)	2.8	灰	有0.2~0.2 輝石?	良好	体：ロクロ 底：回転ヘラ調整	ロクロ	図示
331	"	2	須恵環	2/3全位	13.2	6.4	3.8	橙	多0.1~2.0 長石	やや不良	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示 酸化傾向
331	"	3	須恵環	ほぼ完形	12.1	5.5	3.7	灰	極少	軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示
331	"	4	須恵環	ほぼ完形	(13.4)	8.0	4.3	灰	有0.1~0.5 長石	良好	体：ロクロ 底：ヘラ切、ヘラ調整	体：ロクロ 底：ヘラ記号	"
331	"	5	須恵高台環	1/5底	-	9.1	(2.3)	灰	有0.1~1.0 長石	やや軟質	ロクロ	ロクロ	"
331	"	6	内黒環	1/4全位	(14.4)	(7.7)	5.1	にぶい橙	有0.2~0.5 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：ヘラ調整	ヨコミガキ	"
331	"	7	甗	1/2口~頸	(14.6)	-	(5.4)	明赤褐	鈔2-1.0 長石、石英、角閃石	良好	口辺：ヨコナデ 頸：ヨコナズリ	ヨコナデ	"
331	"	8	甗	1/5口~体	(17.8)	-	(20.9)	橙	粗1-1.5 長石、角閃石、小礫	良好	口~体上：ロクロ 体下：クテミガキ	ヨコナデ	"
331	"	9	甗	1/5口~体	(25.1)	-	(15.3)	橙	粗多0.1~0.5 長石、雲母、赤色粒子	良好	口辺：ヨコナデ 頸：ヨコナズリ 体：クテミガキ	ヨコナデ	図示 口縁、内外合わせナデ
332	3住	1	須恵環	1/4体	(11.8)	-	(2.3)	黄灰	少0.1~0.2 長石	良好	ロクロ	ロクロ	図示
332	"	2	内黒鉢	1/5底	-	8.6	(2.4)	にぶい黄橙	粗0.1~1.0 長石、石英、雲母	良好	体下：ヨコナデ 底：ヘラ調整	ヨコナテミガキ	"
332	"	3	小型甗	1/6口~頸	(10.6)	-	(3.2)	にぶい赤褐	粗0.1~1.0 長石、石英、角閃石	ほぼ良好	口辺：ヨコナデ 頸：ヨコナズリ	ヨコナテミガキ	接合痕：頸1
333	4住	1	須恵環	2/3全位	12.6	6.4	3.4	灰	有0.1~0.2 長石	やや軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示 火鉢
333	"	2	須恵環	1/4全位	(13.7)	(9.0)	3.9	灰白	少0.2 長石	軟質	体：ロクロ 底：摩耗顕著	ロクロ	図示
333	"	3	須恵環	2/3全位	(13.5)	5.3	3.2	灰白	少0.1~0.2 長石	軟質	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	
333	"	4	内黒環	1/2全位	14.0	5.3	3.7	橙	粗0.1~1.0 角閃石、石英、長石	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコミガキ	図示
333	"	5	内黒環	2/3全位	(13.9)	(7.4)	4.7	橙	有0.1~0.8 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコミガキ	
333	"	6	内黒環	2/3全位	12.4	5.4	5.4	にぶい橙	有0.1~0.5 長石、雲母、赤色粒子	良好	体：ロクロ 底：糸切	ヨコナメミガキ	図示
333	"	7	小型甗	1/3口~体	(12.5)	-	(9.4)	橙	有0.1~0.5 長石、赤色粒子	ほぼ良好	ヨコハケ(ロクロ)	ヨコハケ	"
333	"	8	小型甗	1/2口~体	13.3	-	(8.0)	にぶい赤褐	鈔0.1~1.0 雲母、角閃石、長石	良好	ロクロ	ロクロ	"
333	"	9	甗	1/2口~体	(17.9)	-	(17.8)	橙	少0.2~0.5 長石	ほぼ良好	口辺：ハケナデ 体：平行 クテミガキ後ナメテズリ	ヨコナデ	"
334	6住	1	須恵環	1/3口~体	(14.4)	-	(3.3)	灰黄	少 長石	やや軟質	ロクロ	ロクロ	"
334	"	2	内黒環	1/5底	-	(7.4)	(2.8)	にぶい橙	鈔0.1~2.0 長石、雲母、赤色礫	良好	体下：ヨコナデ 底：ヘラ調整	クテミガキ	"
334	"	3	内黒環	1/5底	-	5.3	(1.7)	にぶい橙	有0.1~0.5 長石、角閃石	良好	体下：ロクロ 底：糸切	ヨコミガキ	"
334	"	4	甗	1/6口~体	(27.0)	-	(8.7)	橙	有0.1~0.5 長石、小礫	良好	ロクロ	ロクロハケナデ後ハケナデ	"
336	31坑	1	須恵環	2/3全位	12.3	6.6	3.5	灰	少0.2 長石	ほぼ良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	"
336	"	2	内黒環	2/3体~底	-	7.5	(4.3)	にぶい黄橙	鈔0.2~3.0 角閃石、赤色粒子	ほぼ良好	体上：ロクロ 体下：ロクロ 後ナメテズリ 底：糸切後ヘラ ズリ外周細ケズリ(時計回り)	ナナメ放射ミガキ	
336	40坑	1	須恵環	ほぼ完形	12.8	5.6	3.9	灰	少	良好	体：ロクロ 底：糸切	ロクロ	図示 察変
336	"	2	須恵高台環	ほぼ完形	14.6	11.1	4.4	灰白	少0.1~1.0 長石、小礫	軟質	体：ロクロ 底：回転ヘラ切	ロクロ	図示
336	"	3	須恵高台環	ほぼ完形	16.1	12.0	5.2	灰白	多0.1~2.0 長石、黒色粒子 火成岩粒	軟質	体：ロクロ 底：回転ヘラ切	ロクロ	"
336	"	4	須恵短頸壺	ほぼ完形	(10.3)	(7.6)	(10.9)	灰	多0.1~3.0 長石、角閃石	ほぼ良好	体：ロクロの丁寧なナデ、 ナデ消し 底：糸切	口~体上：ナデ消し 体下：ロクロ	図示 外口縁体部の一部自然粒
337	1坑	1	内耳鍋	体				灰黄褐	粗0.1~1.0 長石、石英、火山岩	良好	ケズリナデ	ヨコナデ	
337	2坑	1	鍋	口縁				暗褐	有0.1~1.0 長石	良好	口唇：面取、やや突出 体：ロクロ	ロクロ	
337	7坑	1	内耳鍋	体				にぶい黄褐	鈔0.1~1.5 長石、石英、雲母	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
337	"	2	鍋	口縁				褐	多0.1~0.5 石英、長石	良好	ヨコナテケズリ	ヨコナデ	
337	"	3	内耳鍋	底				黒褐	多0.1~1.0 長石、角閃石	良好	体下：ロクロ 底：ケズリ	ロクロ	
337	"	4	内耳鍋	体				にぶい赤褐	鈔0.5 長石、石英、角閃石	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	

付章 分析と鑑定

第1節 国分寺周辺遺跡群の自然科学分析・調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

1 はじめに

国分寺周辺遺跡群（長野県上田市国分所在）は上田市域の南東部にあり、千曲川右岸にみられる段丘面のうち最も低位の上田面Ⅱに立地する（本報告第2章第1節のⅤ面に対応）。上田市域の千曲川右岸の段丘面には、高位のものより虚空蔵面、染屋面、上田面Ⅱがみられ、上田面Ⅱは風成層を乗せない新しい段丘で、染屋面の浸食の後に堆積した泥流堆積物の堆積面である（飯島ほか、1969）。

今回の調査区のうち、3区・4区では弥生時代～平安時代の住居跡や溝跡が検出された。住居跡には、当時の住居構築材と考えられる炭化材や食料と考えられる炭化種実が出土した。本地域では、これまでも古墳時代や奈良・平安時代の焼失住居跡から出土した炭化材や炭化種実に関する調査が行われ、調査例が蓄積されつつある。今回は、住居構築材や食料に利用された植物や古環境の推定を目的として、以下のような調査課題を設定し、自然科学分析調査を実施することとした。

(1) 古墳時代～平安時代の住居構築材の樹種の確認

調査区内からは、弥生時代～平安時代の住居跡が検出され、当時の住居構築材と考えられる炭化材が出土した。今回は、これらの中から古墳時代～平安時代の309・321・347・379・420・435・447住の7軒の住居跡を対象として、16点の炭化材が採取された。これらの炭化材について樹種同定を行い、当時の構築材に関する情報を得る。

(2) 古墳時代の植物質食料の推定

古墳時代後期の焼失住居跡321住では、炭化した種実の集中部が2ヶ所認められた。発掘調査の段階では炭化米様の種実が密集した状態で認められたが、他の栽培植物の種実の混入も予想された。

また、同時期の336住のカマド内には灰を含む3層、361住ではカマドの周囲に灰層が認められた。このようなカマド内の灰などには、燃料材に用いた植物の灰が混入している場合がある。例えば、神奈川県藤沢市慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス内遺跡より検出された弥生時代住居跡の炉跡では、稲の粃殻が燃料材に利用されていたことが明らかになっている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1993）。そこで、炭化米集中部やカマドの灰試料を対象として種子同定と植物珪酸体分析を試み、当時の栽培植物に関する情報を得ることとした。

(3) 弥生時代～平安時代の古環境の推定

調査区内には、砂を主体とする堆積物が認められ、粘土質シルトが挟在される。また、調査区からは住居跡と同時期の溝跡が検出され、溝内には砂を主体とした埋積物が認められた。これらの堆積物には、当該期の植生を反映すると考えられる微化石の包含が期待された。そこで、これらを対象として珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を実施し、堆積環境を調べ、古環境に関する情報を得る。

(4) 赤色顔料や黒色付着物の由来の検討

調査区内からは、ベンガラと考えられる赤色顔料や炭化した穀物の可能性がある黒色物質が出土した。そこで、これらの遺物の材質を明らかにするために、分析調査を実施することとした。

以下に、調査結果を報告する。なお、本報告では送付試料に付されていた番号を試料番号とする。

2 古墳時代～平安時代の住居構築材の樹種

(1) 試料

試料は、住居跡床面から出土した、住居構築材と考えられる炭化材16点（試料番号77～82、84～91、93、94）である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に記した。

(2) 方法

木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 樹種同定結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号93は、肉眼では草本類（カヤ）に見えるが、組織を観察することはできなかった。その他の試料は、いずれも落葉広葉樹で3種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同列放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同列放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～30細胞高であるが、時に60細胞高を越える。しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。

表1 住居構築材の樹種同定結果

試料番号	遺構・地点名	該当時期	層位名	樹種
77	309号住	5 c 後	床直上	コナラ属コナラ亜属コナラ節
78	309号住	5 c 後	ピット5内	コナラ属コナラ亜属コナラ節
79	309号住	5 c 後	サンプリング	コナラ属コナラ亜属コナラ節
80	321号住	5 c 中～後	317号住床下	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
81	321号住	5 c 中～後	貼床	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
82	321号住	5 c 中～後	サンプリング	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
84	347号住	6 c 中～後	フクド	コナラ属コナラ亜属コナラ節
85	347号住	6 c 中～後	ドキNo.3内	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
86	420号住	6 c 中～後	W-1	コナラ属コナラ亜属コナラ節
87	420号住	6 c 中～後	W-2	コナラ属コナラ亜属コナラ節
88	420号住	6 c 中～後	W-3	コナラ属コナラ亜属コナラ節
89	420号住	6 c 中～後	W-4	コナラ属コナラ亜属コナラ節
90	420号住	6 c 中～後	W-5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
91	435号住	7 c 代	W-1	ケヤキ
93	447号住	古墳中後期	南壁覆土	草本類
94	379号住焼失住居	5 c 後～6 c 初		コナラ属コナラ亜属クヌギ節

(4) 考察

住居構築材と考えられる炭化材には、3種類の落葉広葉樹が認められた。今回は、古墳時代後期と奈良・平安時代の住居構築材の樹種同定を行ったが、結果を見る限り時代による用材の差は認められない。

本地域では、これまでも古墳時代や奈良・平安時代の焼失住居跡から出土した、住居構築材と考えられる炭化材の樹種が多数明らかにされている（パリノ・サーヴェイ株式会社、1988a、1988b、1989a、1989b、1989c、1992、1994a、1994b、1995）。それらの結果ではクヌギ節やコナラ節が多く認められており、古墳時代から平安時代の住居構築材の用材は、クヌギ節・コナラ節を中心としていたことが推定される。これらの成果は今回の結果とも調和的であり、本遺跡周辺でもクヌギ節・コナラ節を中心とした用材の選択が行われていたと推定される。

今回の調査では、古墳時代で7軒の住居跡から試料が採取されている。その結果を比較すると、321住では全てがクヌギ節であるのに対し、420住では多くがコナラ節であり、樹種構成に若干の違いが認められる。住居の用途や使用部位などによる木材の使い分けなども考えられるが、各住居跡の試料数が少ないことや、両種類が混在する住居跡もみられることから、断定はできない。

住居構築材の樹種構成は、遺跡周辺の植生を反映していることが関東地方における調査例から指摘されている（高橋・植木、1994）。このことを考慮すれば、本遺跡の周辺ではクヌギ節・コナラ節を主とする植生が見られたと考えられる。

3 古墳時代の植物質食料の推定

(1) 試料

試料は、321住の炭化米集中部より採取された試料番号1・2・3、336住のカマド3層（試料番号4）、361住のカマド周辺の灰層（試料番号19）の5点である。炭化種子抽出後の周囲の土壌を、植物珪酸体分析用試料とした。

(2) 分析方法

a. 種子同定

肉眼および双眼実体顕微鏡を用いて種実遺体を抽出し、形態的特徴を観察して種類を同定する。

b. 植物珪酸体分析

湿重10g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250KHz、1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリユウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

(3) 結果

a. 炭化種子

321住（試料番号1・2・3）からは、多量のイネ（*Oryza sativa* L.）の胚乳が得られた。特に、試料番号1で多量に検出される。大きさは4mm程度で胚の部分は欠如し、表面に数本の溝がある。しかし、全体的に保存が悪い。

336住では、微細な骨片が数個検出されるが、種実遺体はみられない。

361住からは、種実遺体が検出されない。

b. 組織片・植物珪酸体の産状

結果を表2、図1に示す。各試料からは、単体の植物珪酸体や植物珪酸体を含む組織片が検出される。

321住（試料番号1・2・3）では、イネ属やタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などが認められる。また、イネ属短細胞列やススキ属短細胞列、稲稈に形成されるイネ属類珪酸体も認められる。

336住（試料番号4）でも同様に、イネ属やタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などの植物珪酸体とともに、イネ属短細胞列やススキ属短細胞列、イネ属類珪酸体などの組織片が認められる。

361住（試料番号19）でも、イネ属やタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などの植物珪酸体とともに、イネ属短細胞列やススキ属短細胞列、イネ属類珪酸体などの組織片が検出される。

(4) 考察

321住の集中部にみられた炭化種実とは、いずれもイネの胚乳であった。また、籾殻がついた状態のものや籾殻自体は全く認められなかった。これより、炭化する過程で籾殻が外れたものでなく、

住居内に脱穀した状態で持ち込まれていたと考えられる。また、他の栽培植物の種実や植物珪酸体、組織片が認められなかったことから、集中部には他の栽培植物の種子などが混ざっていた可能性は低い。

なお、この集中部からはイネ属の類珪酸体や短細胞列、ススキ属短細胞列などの組織片も検出された。これは、籾殻や稲藁、ススキ属の植物体（いわゆるカヤ）が混在していたことを示唆する。これらが、そのままの状態でも混入していたものか、灰の状態でも混入したものか、現段階では不明である。前者の場合には、脱穀の過程で籾殻や稲藁が除去しきれなかったことや、種実が保存されている段階で住居構築材などに利用されていたススキ属が混入したことが考えられる。また、後者の場合には、住居床面にこれらの灰が存在していたことが考えられる。

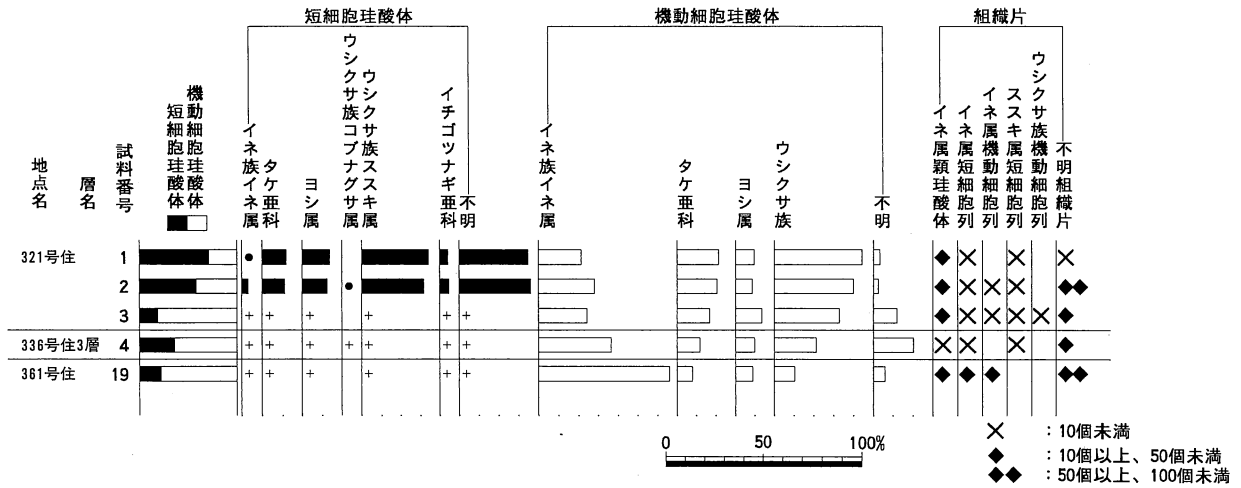
イネの胚乳は、竹花遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社、1994a、1994b）や、鋳物師屋遺跡（氏原、1988）などからも検出されている。また、塚田遺跡（古環境研究所、1994）や十二遺跡（近藤、1988）などイネ属の植物珪酸体が検出されている地点も多い。このことから、弥生時代以降、本地域ではイネが栽培され・利用されていたと考えられる。

336住のカマド3層（白色の灰と焼土粒子）からは種実遺体が検出されなかったが、植物珪酸体分析により、イネ属やススキ属の組織片が認められた。これより、イネ属やススキ属などの植物体がカマドの燃料材として利用されたことがうかがえる。また、微細な骨片数個も検出された。微細な破片のため、種類の同定には至らないが、おそらく食料とした動物遺体の残渣であろう。

361住のカマド周辺の灰層は、火床の上に灰が層状に堆積し、さらにその上に炭が認められる。この灰層からは、種実遺体が検出されなかったものの、イネ属やススキ属の組織片が認められた。この点から、このカマドでも336住のカマド同様燃料材として栽培植物や周囲に生育する草本類が利用されたことがうかがえる。なお、336住のカマドでみられたような白色の灰を含む灰層は、燃料材として利用された植物

表2 古墳時代試料の植物珪酸体分析結果

種 類	地点名 層名 試料番号	321号住			336号住 3層	361号住 19
		1	2	3	4	19
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ族イネ属		3	7	1	3	29
タケ亜科		37	25	6	30	4
ヨシ属		43	28	5	20	6
ウシクサ族コブナグサ属		—	1	—	1	—
ウシクサ族ススキ属		106	71	9	42	15
イチゴツナギ亜科		13	11	4	4	5
不明キビ型		69	52	10	16	8
不明ヒゲシバ型		28	18	6	11	2
不明ダンチク型		10	11	1	11	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ族イネ属		26	44	42	86	163
タケ亜科		26	32	29	28	20
ヨシ属		12	14	24	24	22
ウシクサ族		54	63	57	50	26
不明		4	4	21	48	15
合 計						
イネ科葉部短細胞珪酸体		309	224	42	138	72
イネ科葉身機動細胞珪酸体		122	157	173	236	246
総 計		431	381	215	374	318
組 織 片						
イネ属類珪酸体		11	26	17	8	15
イネ属短細胞列		2	6	1	2	22
イネ属機動細胞列		—	1	1	—	15
ススキ属短細胞列		4	2	1	2	—
ウシクサ族機動細胞列		—	—	1	—	—
不明組織片		7	51	33	12	69



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
 なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満の試料で検出された種類を示す。
 また、組織片の産状を記号で示す。

図1 古墳時代試料の植物珪酸体組成と組織片の産状

の痕跡を残している場合が多く、燃料材に関する調査には有効な試料となる。今後とも灰層を対象とした分析調査を継続し、資料を蓄積したい。

4 弥生時代～平安時代の古環境

(1) 試料

分析試料は、基本層序、303・304溝から採取された土壌21点である(表3)。

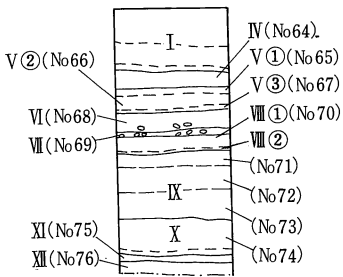
基本層序は砂を主体とする堆積物からなり、層相などからI層～ⅩⅩ層に区分される。このうち、Ⅸ層・Ⅴ層(①・②・③)・Ⅰ層は粘土質シルトで、特にⅣ層上面が弥生時代以降の遺物検出面、Ⅰ層(①・②)が

表3 土壌試料一覧

試料番号	遺構名 ・ 地点名 (時代・時期)	層	番	土質等	分析項目		
					珪藻	花粉	植物珪酸体
25	304号溝 (古墳時代前期)	5	1	10YR3/1黒褐色 砂質シルト	○	○	○
26		7	2	10YR3/3暗褐色 砂質シルト	○	○	○
27		11	3	10YR3/2黒褐色 シルト	○	○	○
51	303号溝 (弥生時代末～古墳時代初頭)	1	11	10YR3/1黒褐色 シルト質砂	○	○	○
53		5	13	10YR4/3にふい黄褐色 シルト質砂	○	○	○
54		6	14	10YR3/3暗褐色 砂質シルト	○	○	○
55		7	15	10YR2/3黒褐色 シルト	○	○	○
57		9	17	10YR4/2灰黄褐色 シルト質砂	○	○	○
64	セクション No. 1	Ⅳ	24	10YR4/2灰黄褐色 シルト質砂	○	○	○
65		V①	25	10YR2/2黒褐色 粘土質シルト	○	○	○
66		V②	26	10YR3/2黒褐色 粘土質シルト	○	○	○
67		V③	27	10YR3/3暗褐色 粘土質シルト	○	○	○
68		Ⅵ	28	10YR3/4暗褐色 シルト質砂	○	○	○
69		Ⅶ	29	10YR4/3にふい黄褐色 細～中粒砂	○	○	○
70		Ⅷ①	30	10YR3/4暗褐色 細～中粒砂	○	○	○
71		Ⅸ上	31	10YR4/6褐色 細～中粒砂	○	○	○
72		Ⅸ中	32	10YR4/6褐色 細～中粒砂	○	○	○
73		Ⅸ下	33	10YR4/3にふい黄褐色 細～中粒砂	○	○	○
74		Ⅹ	34	10YR5/3にふい黄褐色 細粒砂	○	○	○
75		ⅩⅠ	35	10YR3/4暗褐色 シルト質砂	○	○	○
76		ⅩⅡ	36	10YR4/2灰黄褐色 中粒砂	○	○	○
分析点数					21	12	12

セクションNo. 1 (基本層序)

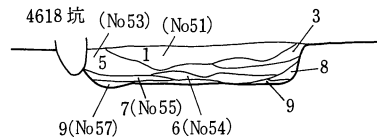
—L=462.60



- I : 灰褐色～灰黄褐色土 (表土、一部水田耕作でグライ化する。)
- II : 暗褐色土 (砂質シルト、粘性あまりなし、しまりやや良い。1 cm以下の円礫を僅かに含む。III a層との層界は互層が混在する。)
- III a : 黒褐色～黒色土 (粘土質シルトに5 cm以下の円礫が多く混入する礫層。)
- III b : 黒褐色～黒色土 (粘土質シルト、粘性ややあり、しまりはあまり良くない。⑥区では4 cm以下の円礫が散在し、⑤区では礫の混入が少ない。)
- IV : 暗褐色～黄褐色土 (細～中粒砂と砂土質シルトが混在。下部では黒褐色シルト粒が増す。)
- V : 暗褐色～黒褐色土 (粘土質シルト、一時土壌化(表土化)した可能性を持つ。)
- VI : 褐色土 (細～中粒砂。1 cmほどの小礫を僅か含む。10cm以下の円礫が下方に点在。)
- VII : 暗褐色土 (中粒砂土と6 cm以下の円礫から成る。シルト土は斑状にある。酸化鉄の集積。)
- VIII : 灰褐色～灰黄褐色土 (中～粗粒砂。下部に酸化鉄の集積。)
- IX : 橙色～にぶい黄褐色土 (中粒砂土。酸化鉄の集積顕著。)
- X : 灰黄褐色土 (細～中粒砂。均質でしまりの悪い砂層。酸化鉄が斑状に発達。)
- XI : 黒色土 (粘性シルト。粗粒砂混じる。しまり弱い。腐植土。)
- XII : 褐灰色土 (礫と粗粒砂の混在する層。礫は6～20cmと下方に向かって大型化する。しまり非常に悪い。)

303号溝跡

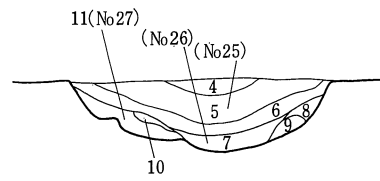
—L=462.00



- 1 : 黒色～黒褐色土 (砂質シルト、5 mm以下の小礫点在。比較的均質な性状。)
- 2 : 褐灰色土 (砂質土とシルト土がラミナ状に堆積する。)
- 3 : 黒褐色土 (シルト質砂土。黄褐色砂ブロックや小礫を含む。)
- 4 : 黒褐色土 (砂質シルト。粘性強く、堅くしまる。礫を含む。)
- 5 : 黒褐色土 (砂質シルト。黒色土や黄褐色土の小ブロックが多数混在。)
- 6 : 黒褐色～褐灰色土 (砂質シルト、粘性強い。黄褐色シルト土の小ブロックはあるが、比較的均質である。)
- 7 : 灰黄褐色土 (黒褐色・褐色・黄褐色の小ブロックが混在している。)
- 8 : 褐色土 (砂質土。中粒砂。黒褐色土ブロックに入る部分がある。)
- 9 : 黒褐色土 (砂質土。粗粒砂。酸化鉄が下部に発達。)

304号溝跡

—L=462.60



0 (1:80) 2m

- 1 : 黒褐色土 (砂質土。礫層の下に厚く堆積する。底部には炭化材が水平に分布し、焼土ブロックも見られる。)
- 2 : 黄白色土 (砂質土。IV層土の流れ込み。ブロック状に堆積。)
- 3 : 暗褐色土 (砂質土。細粒砂。底部は波状を呈する。)
- 4 : 黒色～黒灰褐色土 (砂質シルト。粘性あり。炭粒が上部に散見。)
- 5 : 黒灰色土 (シルト質土。砂粒少ない。)
- 6 : 黒褐色～暗褐色土 (砂質土。5層土との層界に黄褐色砂が薄く堆積。)
- 7 : 黒褐色～暗灰褐色土 (砂質シルト。暗褐色シルト質土と黒色・灰色・黄白色の砂がラミナ状に堆積する。底部形状もやや乱れていて、水流や滞水の影響が見られる。)
- 8 : 黒色土 (黒色土と黄白色砂、灰褐色砂のブロック土。ブロックは5 cmほどと大きい。水平堆積は見られない。)
- 9 : 黄褐色～黒色土 (黄褐色砂・灰褐色砂・黒色土のブロック土。ブロック径は小さいが水平堆積は見られない。)
- 10 : 黒色土 (黒色土と黄白色砂、灰褐色砂が2～4 cm厚の薄層で堆積。)
- 11 : 黒色～黄白色土 (10層土より黄白色砂の割合が多い。1～2 cm厚の薄層で堆積する。)

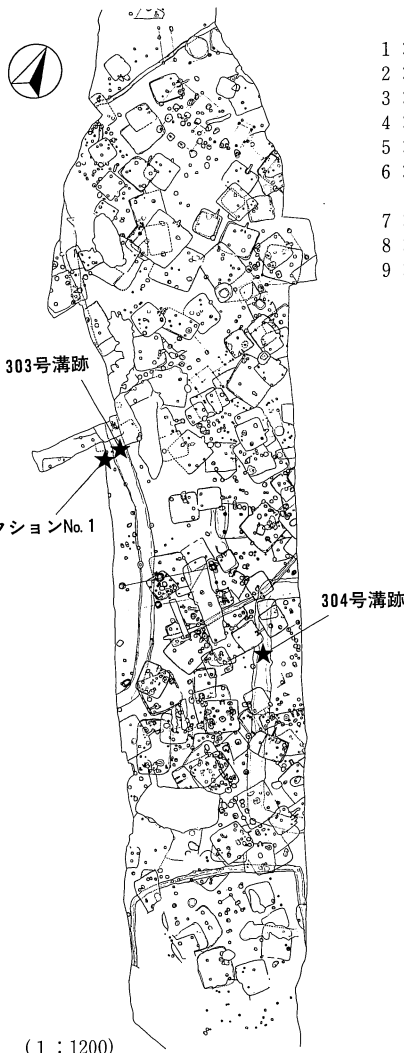


図2 土壤試料採取の土層断面

現耕作土および旧耕作土とされる。

また、303溝は調査区西側に位置し、南北方向に延びる。砂を主体とする埋積物が認められ、層相などから1層～9層に区分される。埋積物中には弥生時代末～古墳時代前期初頭の土器などの遺物が含まれ、特に後者の出土量が多い。

304溝は、調査区東側に位置し、一部分は303溝と平行に南北方向に延び、南北端が東方に延びる。溝内は砂を主体とする埋積物が認められ、層相などから1層～11層に区分される。埋積物中より古墳時代前～中期の遺物が出土した。

(2) 分析方法

a. 珪藻分析

湿重約7gの試料について、過酸化水素水・塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施し、珪藻殻の濃縮を行う。検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリユウラックスで封入して、プレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡（油浸600倍あるいは1000倍）で、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。珪藻化石の少ない試料は、この限りではない。同時に完形殻と壊れた殻を区別して計数し、珪藻化石の保存度（完形殻数/総数×100）を求め、考察の際に参考とした。珪藻の種の同定は、K. Krammer & Lange-Bertalot (1986・1988・1991) などを用いた。なお、珪藻の生態性の解説を表4に示した。

表4 珪藻の生態性

塩分濃度に対する区分		塩分濃度に対する適応性	生育環境(例)
海水生種:	強塩生種(Polyhalobous)	塩分濃度40.0パーミル以上に出現するもの	低緯度熱帯海域、塩水湖など
	真塩生種(Euhalobous)	海産性種、塩分濃度40.0～30.0パーミルに出現するもの	一般海域(ex 大陸および大陸棚以深の海域)
汽水生種: 中塩生種(Mesohalobous)	塩分濃度30.0～0.5パーミルに出現するもの	強中塩生強(α -Mesohalobous) 弱中塩生強(β -Mesohalobous)	河口・内湾・沿岸・塩水湖・潟など
淡水生種: 貧塩生種(Oligohalobous)	塩分濃度0.5パーミル以下に出現するもの		一般陸水域(ex 湖沼・池・沼・河川・沼沢地・泉)
塩分・pH・流水に対する区分		塩分・pH・流水に対する適応性	
塩分に対する適応性	貧塩-好塩性種(Halophilous)	少量の塩分がある方がよく生育するもの	高塩類域(塩水湖・温泉・耕作土壌)
	貧塩-不定性種(Indifferent)	少量の塩分があってもこれによく耐えることができるもの	一般陸水域(湖沼・池・沼・河川・沼沢地など)
	貧塩-嫌塩性種(Halophobous)	少量の塩分にも耐えることができないもの	湿原・湿地・沼沢地
	広域塩性種(Euryhalinous)	低濃度から高濃度まで広い範囲の塩分濃度に適応して出現するもの	一般淡水～汽水域
pHに対する適応性	真酸性種(Acidobiontic)	pH7.0以下に出現、特にpH5.5以下の酸性水域で最もよく生育するもの	湿原・湿地・火口湖(酸性水域)
	好酸性種(Acidophilous)	pH0.7付近に出現、pH7.0以下の水域で最もよく生育するもの	湿原・湿地・沼沢地
	pH-不定性種(Indifferent)	pH0.7付近の中性水域で最もよく生育するもの	一般陸水域(ex 湖沼・池沼・河川)
	好アルカリ性種(Alkaliphilous)	pH0.7付近に出現、pH0.7以上の水域で最もよく生育するもの	
	真アルカリ性種(Alkalibiontic)	pH8.5以上のアルカリ性水域で最もよく生育するもの	アルカリ性水域
流水に対する適応性	真止水性種(Limnobiontic)	止水域にのみ出現するもの	流水の少ない湖沼・池沼
	好止水性種(Limnophilous)	止水域に特徴的であるが、流水にも出現するもの	湖沼・池沼・流れの穏やかな川
	流水不定性種(Indifferent)	止水域にも流水域にも普通に出現するもの	河川・川・池沼・湖沼
	好流水性種(Rheophilous)	流水域に特徴的であるが、止水域にも出現するもの	河川・川・小川・上流域
	真流水性種(Rheobiontic)	流水域にのみ出現するもの	河川・川・流れの速い川・溪流・上流域
陸生珪藻	好気的環境(Aerial habitats) 水域以外の常に大気に曝された特殊な環境に生育する珪藻の一群で多少の湿り気と光さえあれば、土壌表層中のコケの表面に生育可能特に、土壌中に生育する陸生珪藻を土壌珪藻という	・土壌表層中や土壌に生えたコケに付着 ・木の根本や幹に生えたコケに付着 ・濡れた岩の表面やそれに生えたコケに付着 ・滝の飛沫で湿ったコケや石垣・岩上のコケに付着 ・洞窟入口や内部の照明の当たったところに生えたコケに付着	

註 塩分に対する区分はLowe (1974)、pHと流水に対する区分はHustedt (1937-38) による。

産出した化石が現地性の化石か他の場所から運搬・堆積した異地性の化石かを判断する目安として、完形殻の出現率を求め考察の際に考慮した。堆積環境の解析にあたり、塩分濃度に対する適応性から産出種を海水生種、海水～汽水生種、淡水生種に分類し、淡水生種については更に塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応性に基づいて生態区分する。そして、産出率2%以上の主要な分類群について、主要珪藻化石の層位分布図を作成する。堆積環境の解析にあたっては、安藤（1990）の環境指標種、伊藤・堀内（1991）を参考とする。

b. 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス処理の順に物理・化学的処理を施し、花粉・孢子化石を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は、出現個体数の一覧表として表示する。

c. 植物珪酸体分析

前述の通りである。

(3) 微化石の産状

a. 珪藻化石

結果を表5、図3に示す。珪藻化石は、303溝の試料番号55・57や基本層序の試料番号64～69・71・72を除いて、産出する。完形殻の出現率は、303溝、304溝が40%前後、基本層序が60%前後のものが多く、産出種の全ては淡水生種で構成され、産出分類群数は33属156種類である。産出種を水中に生育する水生珪藻と、陸上のコケの表面や土壌表面など多少の湿り気のある好気的な場所に生育する陸生珪藻に分けると、303溝・304溝ともに上位で陸生珪藻の増加する傾向がある。基本層序では試料番号70・75で陸生珪藻が約70%と高率に産出するが、それ以外は水生珪藻が優占する。淡水生種の生態性（塩分、水素イオン濃度、流水に対する適応度合い）の特徴は、一般的に貧塩不定性種、真・好アルカリ性種多産する傾向があるが、流水に対しては試料により違いが認められる。

以下に、地点別に珪藻化石群集の特徴を述べる。

304溝

試料番号27・26は、流水不定性で好汚濁性種の *Nitzschia amphibia*、流水不定性で貧塩好塩性種の *Rhopalodia gibberula*、陸生珪藻のA群の *Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、淡水浮遊性の *Melosira solida* がそれぞれ10%前後産出する。試料番号25になると、陸生珪藻のA群の *Hantzschia amphioxys*、好止水性の *Aulacoseira italica* が20～30%、同じくA群の *Navicula mutica* が約10%産出する。

303溝

試料番号54は、好流水性種で中～下流性河川指標種群の *Achnanthes lanceolata* が約40%と優占し、同じく中～下流性河川指標種群の *Meridion circularae* var. *constrictum*、流水不定性の *Gomphonema parvulum*、*G. angustatum*、同じ生態性で好汚濁性種の *Nitzschia amphibia* などを伴う。試料番号53・51は、流水性種は減少し陸生珪藻の中でも耐乾性の強いA群の *Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica* が10～40%産出する。これに付随して、同じくA群の *Amphora montana*、*Navicula contenta*、流水不定性の *Gomphonema parvulum* などを伴う。

基本層序

最下位の試料番号76は、好流水性の *Cocconeis placentula* var. *euglypta*、好止水性で好汚濁性種の *Fragilaria construens* fo. *venter*、陸生珪藻のA群の *Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica* がそれぞれ10～13%産出する。これに付随して、好流水性の *Cocconeis placentula* var. *lineata*、好流水性種で

中～下流性河川指標種群の*Cymbella sinuata*、上流性河川指標種群の*Gomphonema sumatrense*、流水不定性の*Gomphonema parvulum*、流水不定性で好汚濁性種の*Nitzschia amphibia*を伴う。試料番号75は、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*が約40%と優占し、同じ生態性の*Navicula mutica*、*Navicula ignota*、流水不定性で好汚濁性種の*Nitzschia amphibia*、沼沢湿地指標種群の*Navicula elginensis*が約10%産出する。試料番号74になると、陸生珪藻は減少し、淡水浮遊性の*Melosira solida*、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*が10～15%産出する。これに付随して、中～下流性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella sinuata*が5%前後産出する。試料番号73は、淡水浮遊性の*Melosira solida*が40%と優占し、好流水性の*Cocconeis placentula* var. *euglypta*、中～下流性河川指標種群の*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella sinuata*が5%前後産出する。試料番号70は、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*が30～35%と優占し、淡水浮遊性の*Melosira solida*が約13%産出する。

b. 花粉化石

いずれの試料からも、花粉化石は全く検出されない。残渣には、微細な木本質の破片が少量みられる。また、稀にシダ類胞子が1～2個検出される試料もみられる。

c. 植物珪酸体

結果を表6、図4に示す。以下に、各地点の産状を述べる。

304溝

いずれの試料からも植物珪酸体が検出され、イネ属、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などが認められる。このうち、試料番号27ではタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族の割合が高く、その上位の試料番号26ではヨシ属の割合が高くなり、試料番号25ではヨシ属の割合が減少し、ウシクサ族の割合が高くなる。

303溝

試料番号53を除いて、植物珪酸体が検出される。試料番号57～54ではヨシ属とウシクサ族の割合が高

表6 304号溝・303号溝・基本層序の植物珪酸体分析結果

種 類	地 点 名 層 名 試料番号	304号溝			303号溝					基本層序セクションNo.1			
		5層 25	7層 26	11層 27	1層 51	5層 53	6層 54	7層 55	9層 57	IV層 64	V①層 65	V②層 66	XI層 75
イネ科葉部短細胞珪酸体													
イネ族イネ属		3	4	3	7	—	5	—	1	—	—	—	—
キビ族キビ属		—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
タケ亜科		65	14	43	100	3	26	11	3	1	3	—	—
ヨシ属		24	77	50	31	4	81	77	87	1	186	2	7
ウシクサ族コブナグサ属		—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
ウシクサ族ススキ属		120	49	65	45	5	84	86	86	3	6	1	3
イチゴツナギ亜科		14	10	14	12	2	4	7	7	1	1	2	4
不明キビ型		34	29	36	15	7	24	28	27	—	4	3	8
不明ヒゲシバ型		18	28	27	7	2	12	11	10	1	18	1	3
不明ダンチク型		13	19	20	5	4	7	5	9	1	2	1	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体													
イネ族イネ属		12	12	31	16	2	14	2	3	—	—	—	—
タケ亜科		31	16	26	55	3	15	11	13	5	6	—	5
ヨシ属		23	59	43	12	8	57	50	69	4	108	5	8
ウシクサ族		46	39	78	49	9	58	73	76	8	17	18	10
不明		19	41	48	25	2	21	30	32	1	4	3	7
合 計													
イネ科葉部短細胞珪酸体		291	230	258	224	27	243	225	230	8	220	10	27
イネ科葉身機動細胞珪酸体		131	167	226	157	24	165	166	193	18	135	26	30
総 計		422	397	484	381	51	408	391	423	26	355	36	57
組 織 片													
イネ属類珪酸体		2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

く、イネ属やタケ亜科などが認められる。試料番号53では、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などがわずかに認められるに過ぎない。試料番号51では、タケ亜科の割合が高くなる。

基本層序

試料番号65を除いて、検出個数が少ない。また、概して保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。いずれの試料からもタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族が検出されるが、試料番号65ではヨシ属が優占する組成が認められる。

(4) 考察

溝周辺の古環境

ここでは、溝内の堆積環境を考察し、それを考慮して植生に関する検討を行う。

古墳時代前～中期の304溝では下位の7層・11層で流水性種が検出されるが、303溝ほど多くはない。このことから、溝構築当時は流水があったものの、303溝と比較して流れは弱かったと考えられる。また、本試料では好汚濁性種の*Nitzschia amphibia*が多産することから、水質の点では弱アルカリ性で富栄養であったと考えられる。1層になると、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*が増加するとともに止水性の*Aulacoseira italica*が急増する。後者は、池沼などの止水域に一般的であるが、流れの弱い流水からも認められる。溝内の状況や生態などを考慮すると、陸生珪藻の方が異地性の可能性が高い。したがって、1層は流れの弱い環境で水成堆積したと考えられ、溝内には引き続き水域が存在したと考えられる。また、溝の壁の崩落や周囲から陸生珪藻を含む土壌の流入が頻繁であったと考えられる。

植物珪酸体の産状からは、これらの層が堆積する間にタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと考えられる。また、組成を考慮すれば、11層の流水があった時期に湿潤な場所に生育することの多いヨシ属の割合が増加し、1層の流れが弱くなった段階でウシクサ族やタケ亜科の割合が増加したのかもしれない。また、イネ属の検出から溝の周辺で稲作が行われていたことも考えられる。

一方、弥生時代末～古墳時代初頭の303溝では下部の9・7層が珪藻化石の産出が少なかった。これら

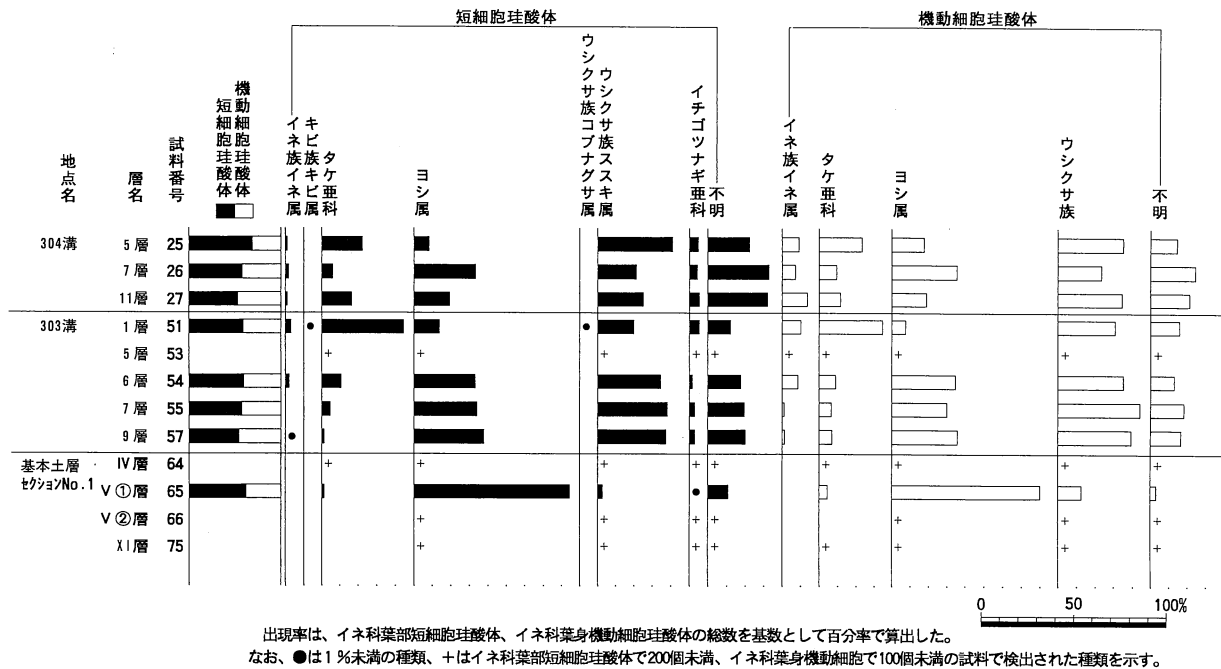


図4 304号溝・303号溝・基本層序の植物珪酸体組成

の層相は砂質土である。珪藻殻はシルト粒子などの微細粒子と挙動をともにする(小杉, 1989)ことを考慮すれば、珪藻化石は堆積しないで流亡してしまった可能性がある。6層は、好流水性の*Achnanthes lanceolata*が優占することを特徴とする。本種は、河川中～下流部や河川沿いの河成段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現する中～下流性河川指標種群(安藤1990)の一種である。これは、砂質シルトからなる層相とも調和的である。このことから、6層は、流水性の堆積物と考えられる。その上位の5層・1層になると、流水性種は減少し、乾いた好气的環境に耐性のある陸生珪藻が優占するようになる。この変化は、304溝よりも顕著である。6層が堆積した当時は水が流れていたことが推定される。しかし、5層・1層が堆積する頃になると水の流れは徐々に少なくなったと考えられる。8層で黄褐色シルトブロックを多量に含むことや、1層で礫が包含されることから、溝の壁の崩落や周囲の乾いた土壌が溝内に堆積するようになったと考えられる。陸生珪藻の急増は、これを反映していると考えられる。

また、植物珪酸体の産状から、この溝が埋積する過程でもタケ亜科やヨシ属、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと考えられる。植物珪酸体組成からは、9層～6層の頃にはヨシ属やウシクサ族の割合が高く、5層や1層になると溝の壁の崩落や周囲の乾いた土壌の混入に伴いタケ亜科が増加したのかもしれない。

基本層序形成時の古環境

基本層序では、珪藻化石はIX層(下)以深とVIII①層から産出されるだけである。最下位の12層は、*Cocconeis placentula* var. *euglypta*などの好流水性種や*Cymbella sinuata*などの中～下流性河川指標種群、*Gomphonema sumatrense*などの上流性河川指標種群を伴うことから、川のような流水域で堆積した堆積物と考えられる。とくに、層相が礫と粗粒砂からなること、近くに千曲川や神川が流れていることを考慮すると、洪水性の堆積物と考えられる。ところが、その直上のXI層になると流水性種は減少し、代わって耐乾性の強い陸生珪藻のA群が増加する。粗粒砂を混じる腐植土からなる層相を考慮すると、周囲の乾いた場所から土壌とともに二次的に混入したと考えられる。X層になると陸生珪藻は減少し、再び流水性種が増加するようになることから、再び氾濫性の堆積環境が推定される。これは、粗～中粒砂からなる層相とも調和する。IX層(下)になると、淡水浮遊性の*Melosira solida*が急増する以外は、XI層の群集に近似する。本種は、現生では形成年代の古い琵琶湖以外からは見いだされていない琵琶湖固有種とされている(根来, 1960)。現段階では詳細な調査をしていないが、年代などを考慮すれば上小湖成層に由来する可能性がある。本種は屋代遺跡や更埴条里遺跡、高速道路窪河原遺跡の様々な時代の堆積物から産出している。また、本層は主に中粒砂から構成されている。これらの点から、本層では外部からの流入が示唆され、流水下で堆積したことがうかがえる。

VIII①層ではXI層と同様に陸生珪藻のA群が優占するが、化石の保存が悪く、異地性種と考えられる*Melosira solida*が多産した。また、礫混じりの中～粗粒砂からなる層相である。そのため、外部からの流れ込みが多かったと考えられ、基本的には流水性の堆積物と考えられる。珪藻化石の少なかったVII層～VI層も、何れも砂礫や砂などを多く含む粗粒堆積物であることから、基本的には流水性の堆積物であったとみられる。これらの土層が堆積する間には、少なくともタケ亜科やヨシ属、ウシクサ族などのイネ科植物が生育していたと思われる。また、V①層では、ヨシ属の優占する植物珪酸体組成がみられたことから、一時的に湿潤な場所になったのかもしれない。その後、弥生時代後期以降の遺物包含層となるIV層では、ヨシ属が減少し水の影響を受けなくなったと考えられる。この点は、本段丘上に弥生時代後期以降の集落が形成される点と調和する。

弥生時代～平安時代の植生

前述のように、本遺跡群は染屋面の浸食の後に堆積した泥流堆積物の堆積面である上田面II(飯島ほか、

1969) に立地する。また、上述の調査結果を考慮すれば、千曲川か神川の洪水の影響を受けてきたこの段丘面が離水したのは、少なくとも弥生時代後期頃あるいはそれ以前と考えられる。今回の調査では花粉化石がほとんど検出されず、当時の森林植生や溝周辺の植生は十分に検討できなかった。花粉化石や植物珪酸体が検出されなかった原因として、堆積時に花粉や植物珪酸体を取り込まれにくかったことや好気的環境下によって花粉化石が二次的に分解したことなどが考えられるが、はっきりしたことは不明である。

なお、材同定の結果などを考慮すれば、弥生時代～平安時代には河岸にナラ類などの落葉樹が河岸林を形成していた可能性がある。

ところで、下流域の更埴条里遺跡や屋代遺跡群を対象とした花粉分析などにより、古墳時代～平安時代の森林植生に関する情報が得られている。それによれば、千曲川をはじめとする河川沿いにはクルミ類・シデ類・ニレやケヤキの類・カエデ属・トチノキ・シナノキ属などの比較的湿った場所を好む種類が湿地林・河岸林・渓谷林などの構成要素になり、周辺の山地ではナラ類やブナ属などの広葉樹、モミ属・ツガ属・コウヤマキ・スギ・ヒノキ科などの温帯性針葉樹が生育し、今日でいう冷温帯に類似した景観であったことが推定されている。これらの遺跡には、上流域に由来する堆積物も混入していると考えられており、上流域の植生もある程度は反映されていると考えられる。この点については、今後も調査例を蓄積し、さらに詳細に検討したい。

5 赤色顔料の材質推定

弥生時代後期の313住と古墳時代後期の423住からは、ベンガラとみられる赤色物質が検出された。この材質を明らかにするため、X線回折分析を行う。

(1) 試料

試料は、313住より採取された赤色顔料No.112 (313住-3392) と423住より採取された赤色顔料No.113 (423住-947) の2点である。

(2) 方法

試料をメノウ乳鉢で微粉碎 (200メッシュ以下) し、これをX線回折用アルミ板に充填して、次の条件でX線回折の測定を実施した (足立、1980; 日本粘土学会、1987)。

装置：島津制作所製XD-3A

Target：Cu (K α) Scanning Speed：2°/min

Filter：Ni Chart Speed：2cm/min

Voltage：30KVP Divergency：1°

Current：30mA Recieving Slit：0.3mm

Count Full Scale：5,000C/S Scanning Range：5～45°

物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラム (五十嵐、未公表) により検索した。

(3) 結果

試料のX線回折図と検出鉱物を図5・6に示す。両試料ともに、回折線から赤鉄鉱 (hematite)、斜長石 (plagioclase) が検出され、この他に回折線ベースが非常に高い状態が認められる。ベースの高い状態はX線回折装置のTargetがCu (K α) で、酸化鉄化合物が非常に多い場合になる。

また、No.112では石英 (quartz) も検出されている。

(4) 考察

検出された鉱物のうち、赤色を呈するのは赤鉄鉱 (hematite) である。これより、赤色顔料の材質は赤

鉄鉱などの酸化鉄化合物とみられ、いわゆるベンガラと判断される。

なお、ベンガラにはパイプ状の特徴的な構造の見られることが指摘されている（永嶋、1996など）。今回の試料を、走査型電子顕微鏡にて観察したところ、パイプ状の構造は認められなかった。この要因については、現段階では不明である。今後、標準的なベンガラ試料の観察例を増やして特徴を把握した上で、今回の試料についても改めて観察し、鉱物学的に検討したい。

また、斜長石（plagioclase）や石英（quartz）が検出されたが、これらはその鉱物学的性質から赤色顔料の材料とは考えにくい。おそらく、試料採取時に混入した土壌由来の鉱物と思われる。

6 土器の黒色付着物の材質推定

赤色顔料が検出された古墳時代後期の423住では、覆土中から黒色で光沢のあるタール状の黒色物質が付着した土師器片（坏?）が出土した。また、遺構外のIII b層からも同様な黒色物質が付着した土師器片（小型カメ）が出土している。これらの黒色物質は、それぞれ内面に当たる部分に付着していたことから、貯蔵されていた穀物が火を受けて炭化した、いわゆるオコゲである可能性も考えられた。今回は、この見解を検証するために赤外線吸収スペクトル分析（IR分析）を試みることにした。

なお、遺跡で検出される黒色物質の給源を穀物と想定して、その赤外線吸収スペクトルから同定を試みた事例は長野県篠ノ井遺跡の土器付着物を対象とした調査だけであり、現代の穀物類と化合物の状態が近いことが指摘されている。この方法は、炭化種実の同定へ応用できる可能性が模索されている段階であり、資料の蓄積が必要である。

(1) 試料

調査対象は、423住出土の土師器片（坏?）に付着した黒色物質No.96、およびIII b層出土の土師器片（小型カメ）に付着した黒色物質No.98の2点である。

(2) 方法

土器に付着する黒色物質をカッターナイフで数mg削り取り、分析試料とした。これをメノウ乳鉢で微粉砕し（200メッシュ以下）、KBr錠剤法により赤外吸収スペクトルを測定した（山田、1980）。

装置：島津製作所製FTIR-8100A

測光値（Measuring mode）：%T

分解能（Resolution）：4.0cm⁻¹

積算回数（No. of Scan）：40回

ゲイン（Gain）：自動

ミラー速度（Detector）：2.8mm/sec

アポダイズ関数（Apodization）：Happ-genzel

測定範囲：4600~400cm⁻¹

測定方法：KBr錠剤法

(3) 結果

各試料の赤外線吸収スペクトルを図7・8に示す。両試料のスペクトル図を比較するとピークの出現位置はほとんど同じであり、付着物が同質のものであることがわかる。

次に試料の主要ピークから推定される官能基については、3400cm⁻¹付近の幅広い吸収帯および1030、920、770cm⁻¹付近の吸収帯はO-H基、2930cm⁻¹付近の低波数側に肩のある吸収帯および1380cm⁻¹付近の高波数側に肩（1460cm⁻¹付近）のある吸収帯はC-H基（脂肪族アルキル基）、1600cm⁻¹付近の吸収帯はC=O基、530、470cm⁻¹の吸収帯はSi-O基（ケイ酸塩）と推定される。

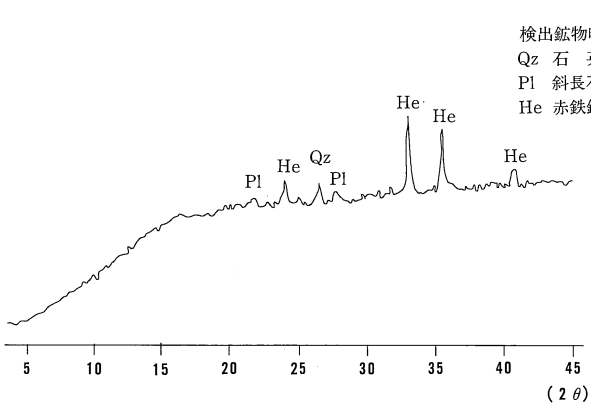


図5 赤色顔料No.112のX線回析チャート

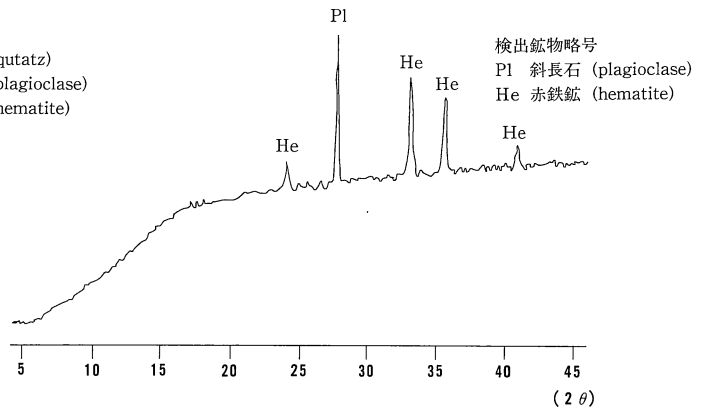


図6 赤色顔料No.113のX線回析チャート

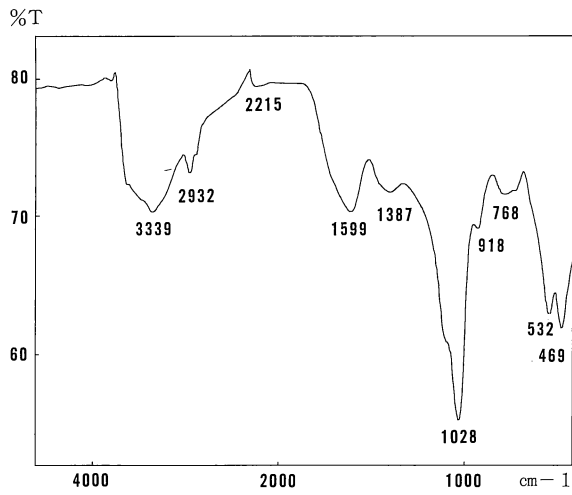


図7 黒色物質No.96の赤外線吸収スペクトル

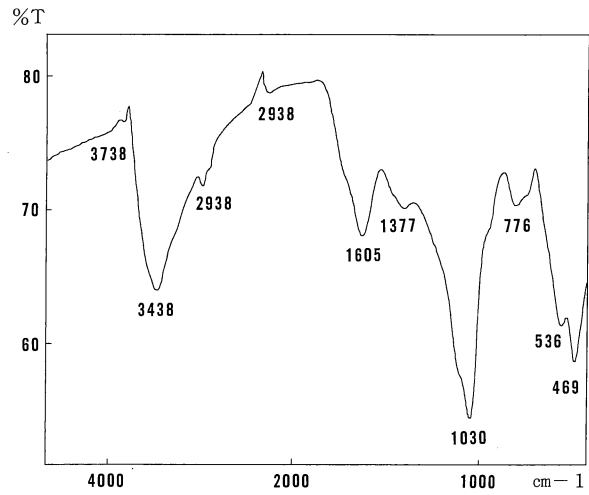


図8 黒色物質No.98の赤外線吸収スペクトル

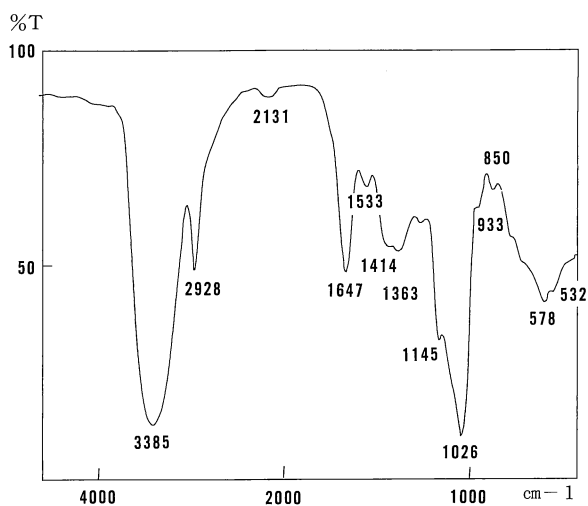


図9 現生ムギ種実(胚乳)試料の赤外線吸収スペクトル

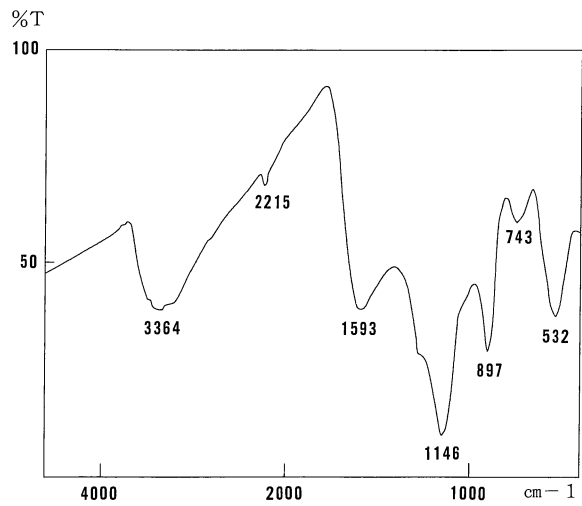


図10 炭化処理(350°C)した現生ムギ(胚乳)試料の赤外線吸収スペクトル

(4) 考察

遺跡から出土した黒色物質の代表例としては、炭、天然アスファルト、食物のオコゲが挙げられる。これらの赤外線吸収スペクトルは、当社にて実験的に調査している（パリノ・サーヴェイ、未公表）。このなかでは、今回のスペクトル図に完全に一致するものはみられなかった。しかし、現生ムギ種実（胚乳）の赤外線吸収スペクトル図（図9）に似たスペクトル図となっている。今回の試料は、 3400cm^{-1} 付近の幅広い強い吸収帯は相対的に弱く、 1600cm^{-1} 付近の吸収帯の位置が異なる。また、炭化処理した現生ムギ種実（胚乳）の赤外線吸収スペクトル図（図10）と比較すると、 3400cm^{-1} 付近の幅広い強い吸収帯の弱まりと 1600cm^{-1} 付近の吸収帯が一致する。これは、アワやヒエの種実（胚乳）の赤外線吸収スペクトルともほぼ同じである。これらの点から、土器に付着した黒色物質の赤外線吸収スペクトルは、いずれも穀物とその炭化処理試料の中間的なスペクトルとみられる。

以上より、これらの黒色物質は穀物などの食物のオコゲと化合物の状態が近いように思われる。この点については、標準物質を様々な条件で処理し（例えば、温度を段階的に変えた炭化処理など）、同様な分析手法によりさらに調査する必要がある、今後の課題とされる。

なお、 500cm^{-1} より低波数側の吸収帯はSi-O基（ケイ酸塩）と推定され、黒色物質を削り取る際の土器片鋳物に由来している可能性が高い。

7 古墳時代後期以降の遺構などから出土した貝類について

(1) 試料

遺構の重複関係などから古墳時代後期以降とみられる遺構や包含層より出土した貝片4点である。詳細は、結果とともに表7に示した。

(2) 方法

肉眼とルーペにより観察を行い、標本との比較検討を行った。鑑定には、金子浩昌氏にご協力頂いた。

(3) 結果

結果を表7に示す。同定した4点はいずれも海産の貝であり、食用となる。これらは特定の遺構などに集中していたわけではなく、またいずれも破片であったが、古墳時代以降海産の貝が本地域に搬入されたことを示す良い資料である。

表7 貝類鑑定結果

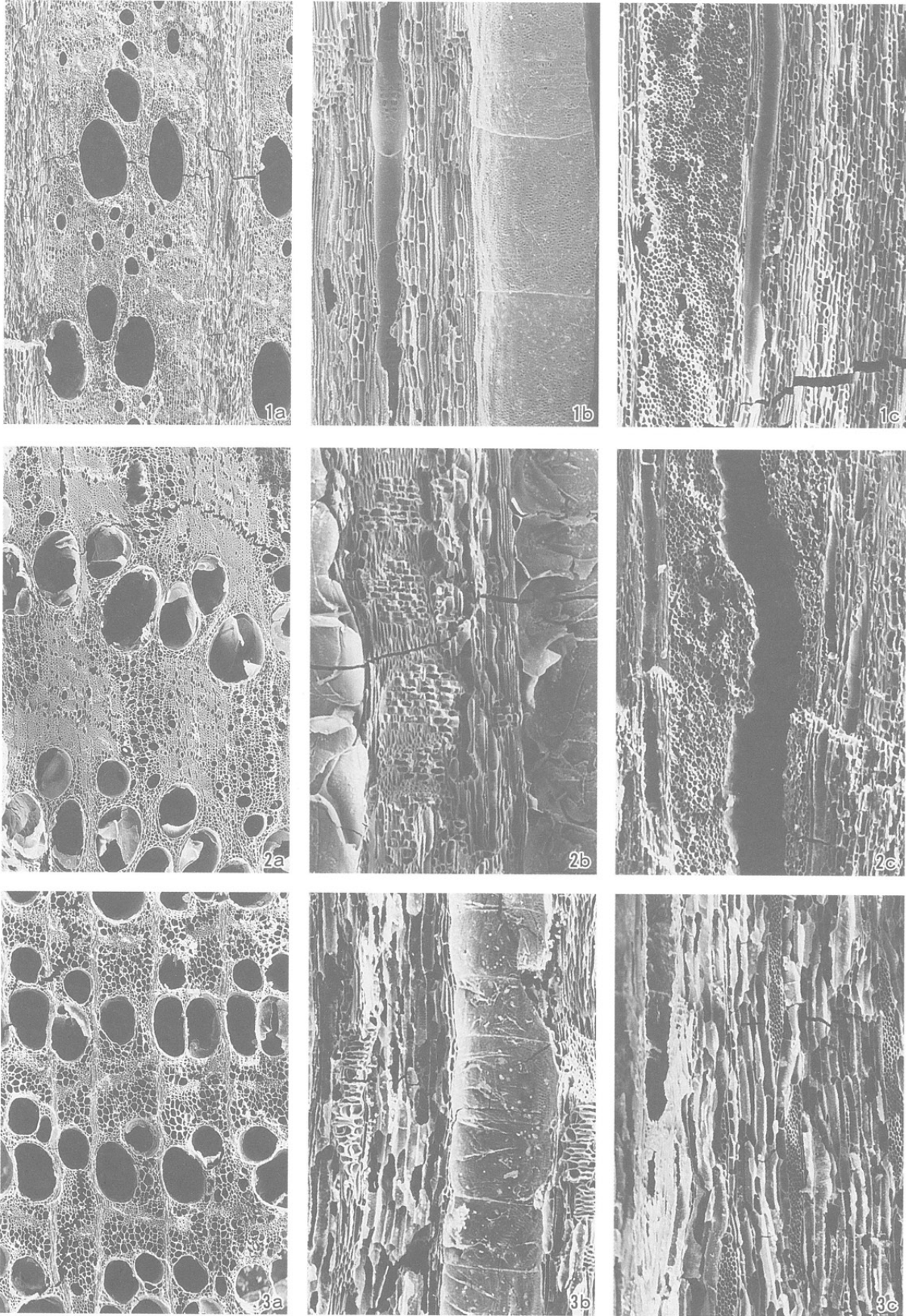
試料番号	出土位置・時期	種名
1	③区IV-B11付近第1検出面（III or IV a層）・11世紀以降	サザエ（殻口）
2	④区III層下位・11世紀以降	ウチムラサキ
3	⑤b区501号溝覆土・11世紀以降	ウチムラサキ
4	⑥b区601号坑覆土・古墳時代後期以降	ハマグリ

引用文献

- 足立吟也 (1980) 粉末X線回折法. 機器分析のてびき 3, p.64-76, 化学同人.
- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35-47.
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *東北地理*, 42, . 73-88.
- Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen Flora von Java, Bali und Sumatra Nach dem Material der Deutschen limnologischen Sunda Expedition. Teil I ~ III, Band. 15, p.131-506, Band. 16, p.1-155, 274-394.
- Hustedt, F. (1959) Die Kieselalgen. Deutschlands, Oesterreich und der Schweiz unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. Teil. 2. Kryptogamen - Flora von Deutschland, Oesterreich und der Schweiz. Band. VII., 845p., OTTO KOELTZ SCIENCE PUBLISHERS.
- 飯島南海夫・山辺邦彦・甲田三男・石和一夫・小宮山孝一 (1969) 千曲川上流地方の第四紀地質 (その3) - とくに上小湖成層について. *地球科学*, 23, 3, p.63-73.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. *珪藻学会誌*, 6, p.23-45.
- 古環境研究所 (1994) 塚田遺跡付近のプラント・オパール分析. 「塚田遺跡」, p.356-358, 御代田町教育委員会.
- 近藤錬三 (1988) 十二遺跡の植物珪酸体分析. 鑄師屋遺跡群十二遺跡-長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書, p.377-383, 御代田町教育委員会.
- 近藤錬三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. *第四紀研究*, 25, p.31-64.
- 小杉正人 (1989) 珪藻化石群集の形成過程と古生態解析. *日本ベントス研究会誌*, 35/36, p.17-28.
- Krammer, K. and Lange - Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange - Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange - Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von: Die Süsswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. p.1-353. BERLIN-STUTTGART.
- 久馬一剛・佐久間敏雄・庄子貞雄・鈴木 皓・服部 勉・三土正則・和田光史 (1993) 土壌の事典. 566p.,朝倉書店.
- 根来健一郎 (1960) 琵琶湖の珪藻 (第1報). *陸水学雑誌*, 21, p.200-220.
- 永嶋正春 (1996) 小型深鉢 (縄文時代中期) 内の赤色顔料について. 財団法人印旛郡市文化財センター「千葉県佐倉市神門房下遺跡発掘調査報告書」, p.82-83.
- 日本粘土学会編 (1987) 粘土ハンドブック 第二版. 1289p., 技報堂出版.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1994a) 竹花遺跡第40号住居址出土炭化米の同定・計測結果報告. 「小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原-長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書-」, p.589-592, 小諸市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1994b) 過去の植物利用について. 「小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原-長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書-」, p.613-624, 小諸市教育委員会.

付章 分析と鑑定

- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1988a) 十二遺跡出土炭化材の樹種同定. 「十二遺跡—長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書—」, p.393-399, 御代田町教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1988b) 鋳物師屋遺跡出土炭化材同定. 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集「鋳物師屋—長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書—」, p.116-117, 小諸市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1989a) 和田原遺跡出土炭化材同定. 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 13集「和田原・鎌田原—長野県小諸市和田原・鎌田原遺跡発掘調査報告書—」, p.83-88, 小諸市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1989b) 根岸遺跡出土炭化材の樹種同定. 「根岸遺跡—長野県北佐久郡根岸遺跡発掘調査報告書—」, p.291-293, 御代田町教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1989c) 広畑遺跡出土炭化材の樹種同定. 「広畑遺跡—長野県北佐久郡御代田町広畑遺跡発掘調査報告書—」, p.35-40, 御代田町教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1992) 下芝宮遺跡・下聖端遺跡炭化材同定報告. 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 9 集「国道141号線関係遺跡—長野県佐久市長土呂国道141号線関係遺跡発掘調査報告書(本文編)」, p.355-391, 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1993) 自然科学分析からみた人々の生活(1). 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」, p347-370, 慶應義塾.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1994a) 過去の植物利用について. 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集「東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原—長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書—」, p.613-624, 小諸市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1994b) 大塚原遺跡における平安時代の住居構築材. 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集「大塚原(第二次)—長野県小諸市大塚原遺跡発掘調査報告書—」, p.81-84, 小諸市教育委員会.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (1995) 第1号住居址出土の炭化材の樹種. 小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第24集「十石坂上遺跡—長野県小諸市十石坂上遺跡発掘調査報告書—」, p.12-13, 小諸市教育委員会.
- 高橋敦・植木真吾 (1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PALYNO, 2, p.5-18. 地学団体研究会・地学事典編集委員会 (1981) 増補改訂地学事典. 1612p., 平凡社.
- 氏原暉男 (1988) 鋳物師屋遺跡出土の炭化米について. 「鋳物師屋」, p.113-115, 小諸市教育委員会.
- 山田富貴子 (1980) 赤外線吸収スペクトル法. 機器分析のてびき 1. p.1-18, 化学同人.

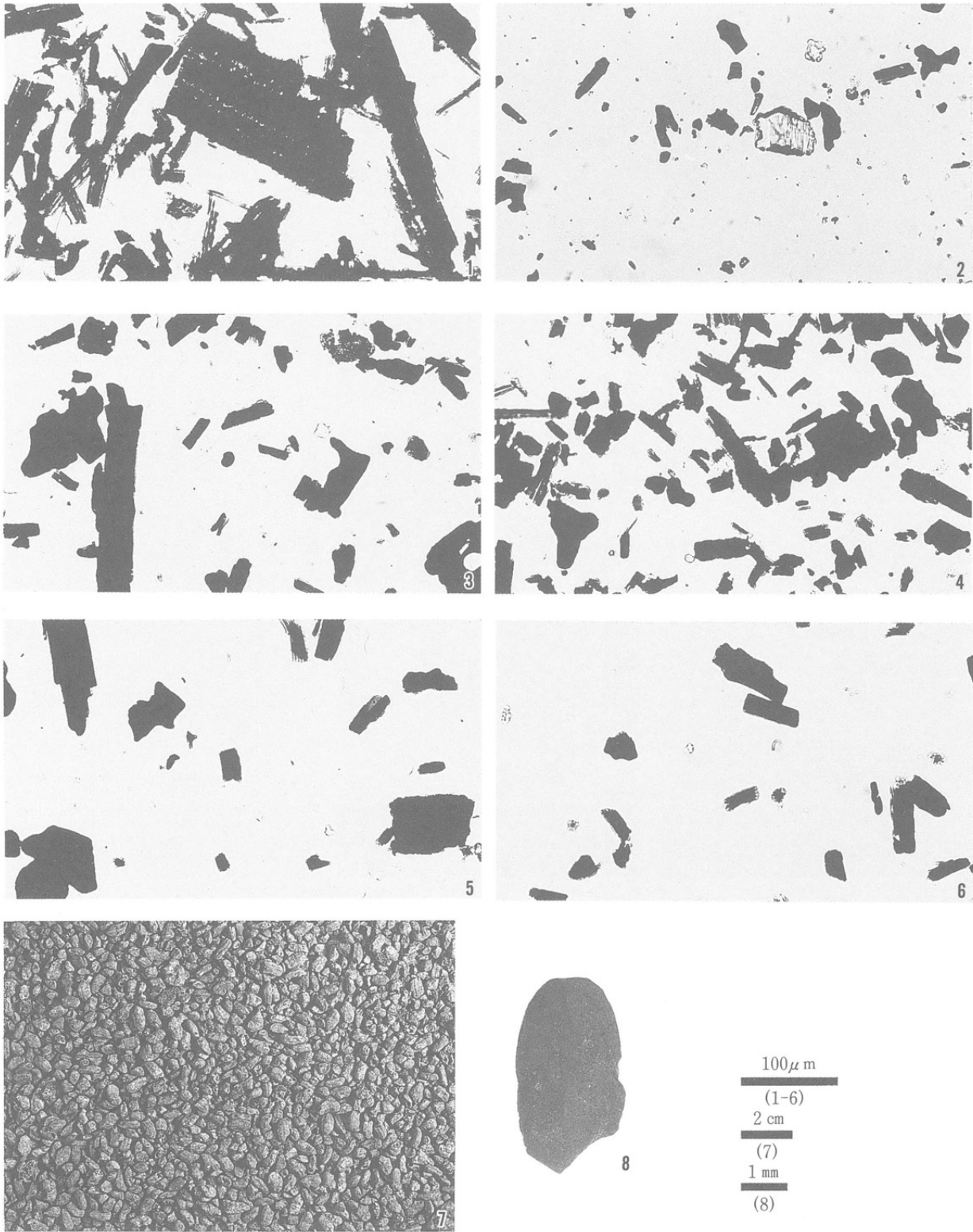


1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (登録番号94)
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (登録番号88)
3. ケヤキ (登録番号91)

a : 木口、b : 柁目、c : 板目

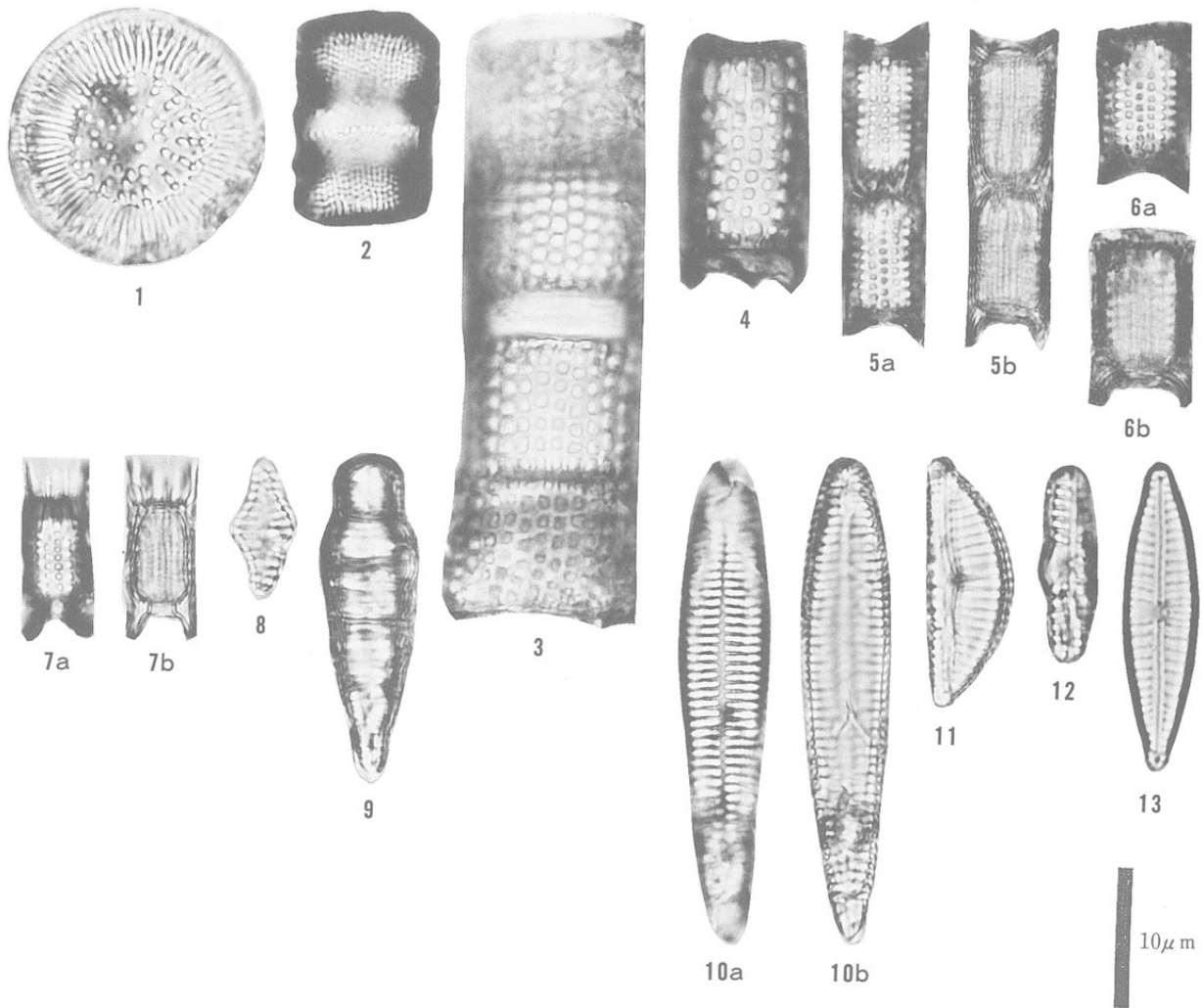
200 μ m : a
200 μ m : b、c

photo. 1 炭化材



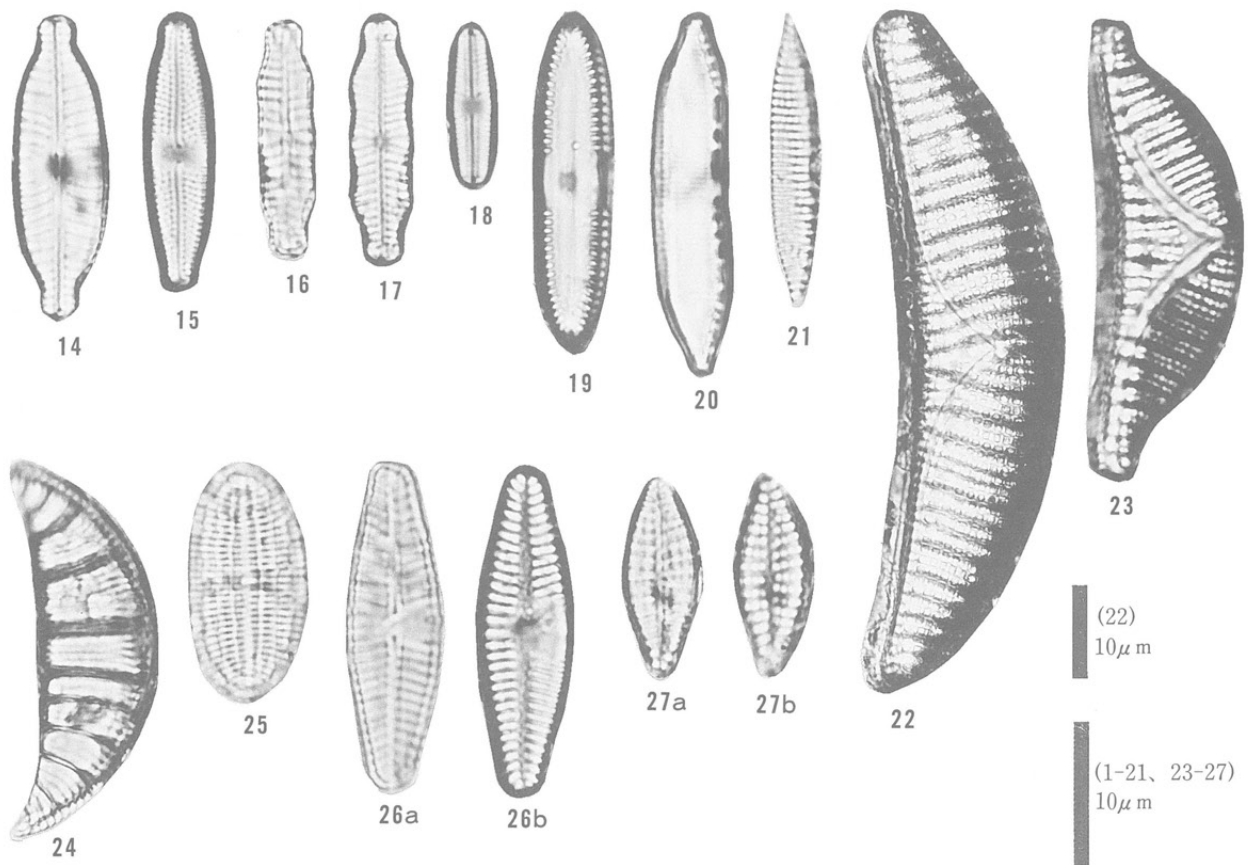
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 状況写真 (304号溝・5層; 25) | 2. 状況写真 (304号溝・7層; 26) |
| 3. 状況写真 (304号溝・7層; 27) | 4. 状況写真 (303号溝・1層; 51) |
| 5. 状況写真 (基本層序IV層; 64) | 6. 状況写真 (基本層序・V①層; 65) |
| 7. イネ (321号住; 1) | 8. イネ (321号住; 1) |

photo. 2 花粉分析プレパラートの状況写真・種実遺体



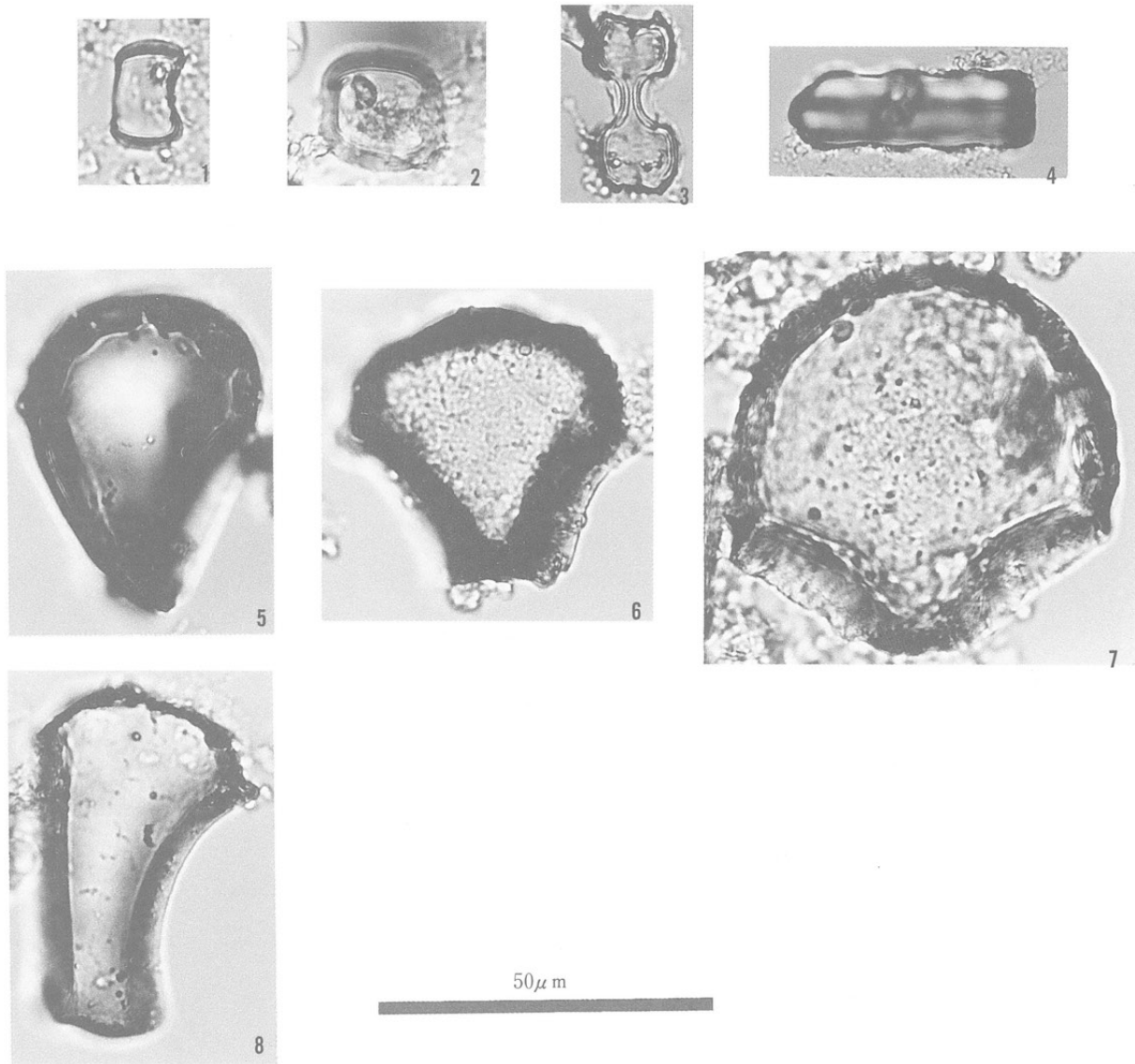
1. *Cyclotella comta* (Ehr.) Kuetzing (基本層序IX下層; 73)
2. *Orthoseira roeseana* (Rabh.) O'Meara (303号溝・1層; 51)
3. *Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen (基本層序区IX下層; 73)
4. *Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen (304号溝・5層; 25)
- 5a,b. *Melosira solida* Eulenstein (基本層序X層; 74)
- 6a,b. *Melosira solida* Eulenstein (基本層序VIII①層; 70)
- 7a,b. *Melosira solida* Eulenstein (基本層序XII層; 76)
8. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Hustedt (基本層序VIII①層; 70)
9. *Meridion circularae* var. *constrictum* (Ralfs) V. Heurck (303号溝・1層; 51)
- 10a,b. *Rhoicosphenia abbreviata* (Ag.) Lange-Bertalot (基本層序XI層; 75)
11. *Cymbella silesiaca* Bleisch (基本層序X層; 74)
12. *Cymbella sinuata* Gregory (基本層序VIII①層; 70)
13. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (304号溝・5層; 25)

photo. 3 珪藻化石 (1)



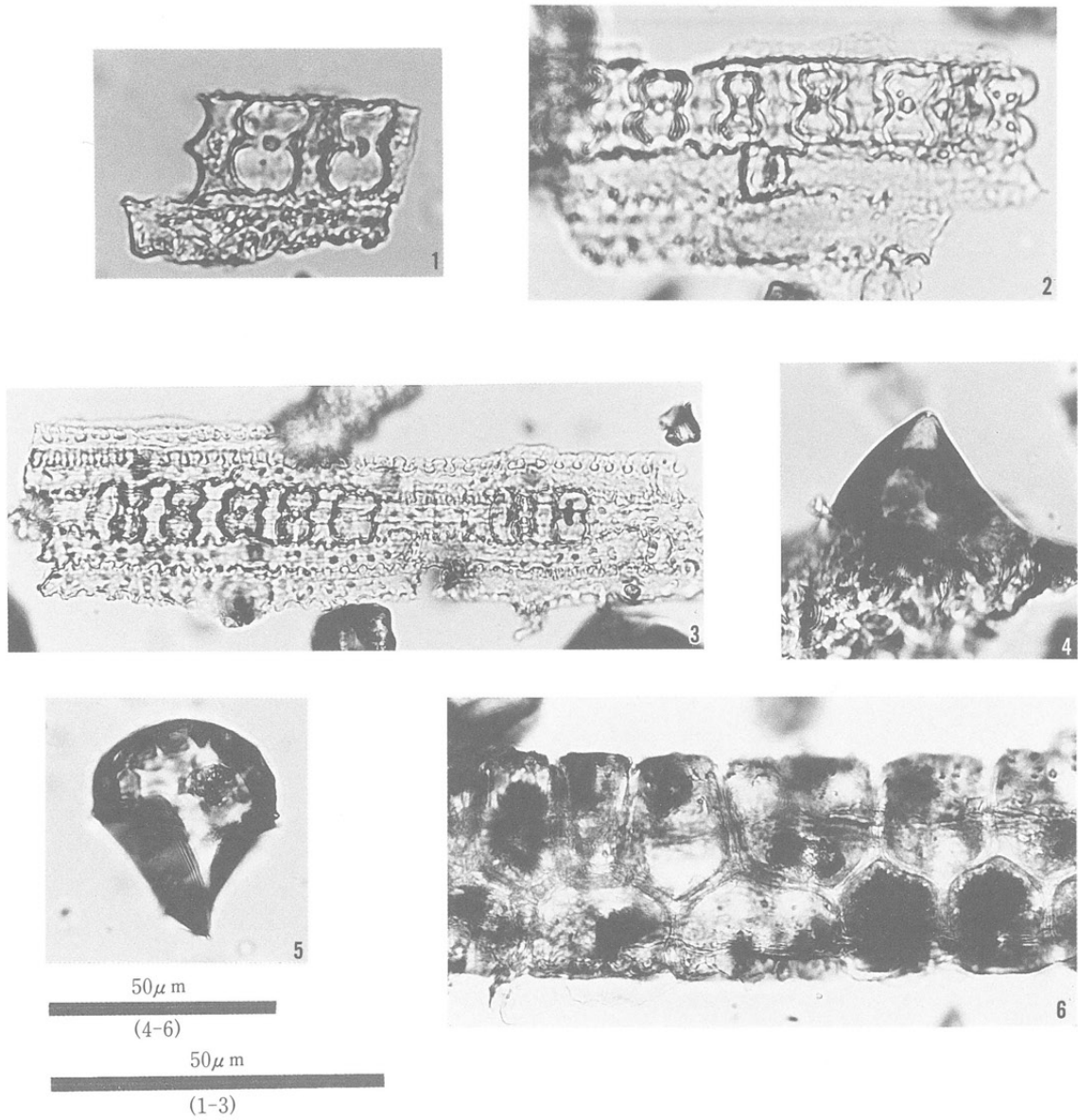
14. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (304号溝・5層; 25)
 15. *Navicula mutica* Kuetzing (304号溝・5層; 25)
 16. *Navicula ignota* Krasske (304号溝・5層; 25)
 17. *Navicula ignota* Krasske (基本層序XI層; 75)
 18. *Navicula tantula* Hustedt (基本層序XI層; 75)
 19. *Pinnularia schroederii* (Hust.) Krammer (303号溝・6層; 54)
 20. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (304号溝・5層; 25)
 21. *Nitzschia amphibia* Grunow (304号溝・5層; 25)
 22. *Epithemia turgida* (Ehr.) Kuetzing (基本層序X層; 74)
 23. *Epithemia sores* Kuetzing (基本層序X層; 74)
 24. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (基本層序XI層; 75)
 25. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (Ehr.) Cleve (基本層序IX下層; 73)
 26a,b. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (303号溝・5層; 53)
 27a,b. *Achnanthes clevei* Grunow (基本層序X層; 74)

photo. 4 珪藻化石 (2)



1. タケ亜科短細胞珪酸体 (304号溝・5層; 25)
2. ヨシ属短細胞珪酸体 (303号溝・7層; 55)
3. ススキ属短細胞珪酸体 (304号溝・5層; 25)
4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (304号溝・5層; 25)
5. イネ属機動細胞珪酸体 (304号溝・5層; 25)
6. タケ亜科機動細胞珪酸体 (304号溝・5層; 25)
7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (303号溝・7層; 55)
8. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (303号溝・7層; 55)

photo. 5 植物珪酸体



- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. イネ属短細胞列 (321号住; 2) | 2. イネ属短細胞列 (361号住; 19) |
| 3. イネ属短細胞列 (361号住; 19) | 4. イネ属穎珪酸体 (321号住; 2) |
| 5. イネ属機動細胞珪酸体 (361号住; 19) | 6. ウシクサ族機動細胞列 (321号住; 3) |

photo. 6 組織片・植物珪酸体

第2節 国分寺周辺遺跡群出土の土器に付着した昆虫の同定

八千穂村誌編纂委員長

(日本鞘翅学会々員) 興水 太伸

1 はじめに

(働)長野県埋蔵文化財センターから依頼を受けて、上田市国分寺周辺遺跡群4503号土坑(平安時代)出土の内黒椀外面に付着した昆虫について、その同定を行った。

2 検出の状況(埋文センター記載)

井戸跡と考えられる4503号土坑内の覆土中位から、ほぼ完形で出土した内黒椀を観察した際に、その口辺部外面に、昆虫のような跡を見つける。ルーペや実体顕微鏡で観察したところ、間違いなく頭位を右斜め下方に置く昆虫の圧痕であり、微細な触角や脚の部分まで残っていることが判明する(photo.1・2)。

なお残存理由としては、この昆虫は土器焼成前のナデ調整時に表面に押し込まれ、そのまま焼成された結果、虫そのものはなくなって痕跡が土器表面に残された状態と推察する。

3 検体の観察(背面観)

全体：1 圧痕は一見して、ハネカクシと判断できる。

2 検体は、体背面が土器側に位置して圧せられている。また体左側部が土器口縁部側になるように圧せられている。

3 体全体の形状は細長形で、体長9.5mm位である。

4 頭、腹部は平滑部の多い種であることが観察される。

頭：側頭部は、口部に向かって緩やかに、後頭部に向かっては強く弧状で、頭中央部で最大幅となる。

触角：左は基部が不明瞭だがほぼ全体の確認がされ、右は先端部全長の約3分の1が観察される。構造は数珠状で、端節は先端が尖る。

口器：口の部分の確認はされるが、付属器の観察は不能。大顎は大きくないと推測する。

頸：前胸が後頭部に接する部分は明瞭で、明らかに頸と外見できる部分はない。

前胸：背板幅は頭幅より狭く、全体に長めである。前胸側は平行と推測される。点刻及び点刻列は不明である。

後胸：前翅は離散してなく、後翅は半開してあるが、この現況からの復元推測は不可能。

肢：左前脚肢、基節、脛節、腿節(?)、及び左後肢、脛節が観察されるのみ。

腹部：ほぼ全容が見られるものの、節間・端節の付属器等は明らかでない。腹幅は頭幅より多少広いと見られるが、等幅と見てもよい。

4 同定結果

圧痕付着土器の製作年代に生息した昆虫は、現生昆虫と差異ないと考えられる。したがって、日本産現世ハネカクシ科のうち、長野県内に広く分布する種、個体数の多い種、比較的人の生活域またはそれに近い所に生息する種(図1)を選定し、現生種の標本をもとに比較検討した結果、次のようにしたい。

昆虫綱

鞘翅目

ハネカクシ科 (Staphylinidae)

アリガタハネカクシ亜科 (Paederinae)

ナガハネカクシ属の一種 (*Lathrobium* Sp.)

と判定した。

5 備考

ナガハネカクシ類は、約25種が知られ、それを一括して棲息場所、生活の様子などの傾向を捉えることはできないが、検体に、より近似すると思われる類は、広葉樹の落葉やワラの堆積した付近、これらのある水辺など、比較的湿度の高い所を好んで棲み、そこに集まる微小動物を餌として生活するらしい。



photo. 1 昆虫の付着した内黒碗 (4503坑-6)

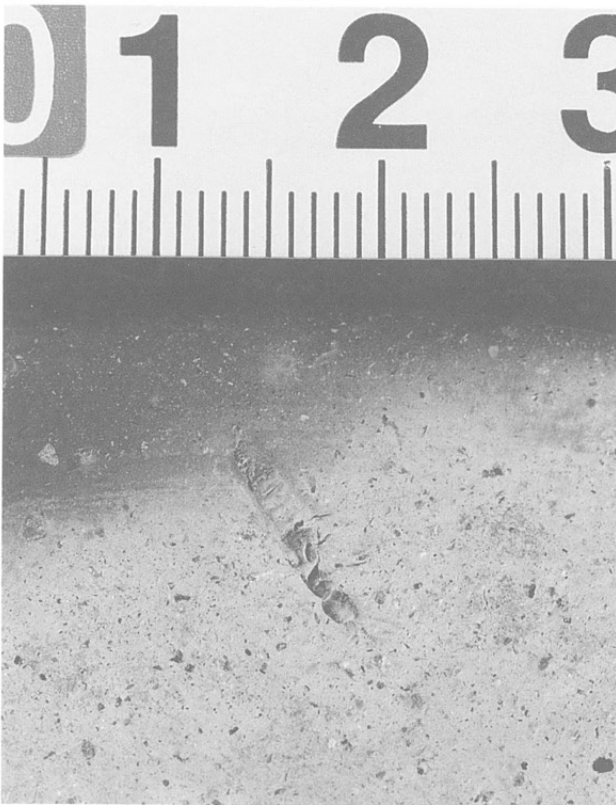


photo. 2 昆虫圧痕部 (×3)

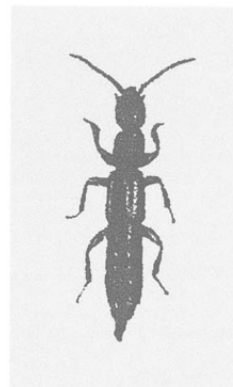


図1 検体と同属の1種
「アカバナガハネカクシ (体長: 8.4~9.4mm)」

註: 図1は株式会社 保育社『原色日本昆虫図鑑 (上) 甲虫編』(1974) 掲載図より複写・転載した。

第3節 国分寺周辺遺跡群出土の獣骨

京都大学霊長類研究所
茂原信生

1 はじめに

国分寺周辺遺跡群は、長野県上田市国分所在の遺跡で、北陸新幹線建設に伴って(財)長野県埋蔵文化財センターによって平成6・7年度に発掘調査された。本報告はその際出土した獣骨の同定結果である。

全体の出土量はごく少ない。同定できないような細片がほとんどで、火を受けた骨も見られた。

2 出土動物のリスト

同定されたものは、次のような動物(2目3科3種)である。哺乳類以外は出土していない。

哺乳綱 Mammalia

偶蹄目 Artiodactyla

シカ科 Cervidae

ニホンジカ Cervus nippon

イノシシ科 Suidae

イノシシ Sus scrofa

奇蹄目 Perrisodactyla

ウマ科 Equidae

ウマ Equus caballus

3 出土した動物骨の特徴

① ウマ

同一個体の左側の臼歯列と、それ以外に歯種が同定できない破損した歯の部分が出土している。同一個体と思われる臼歯の主な計測値は以下の通りである。

462号住ウマの上顎骨

	P 2	P 4	M 1	M 2	M 3
近遠心径		27.5	26.7	22.7	23.3
頬舌径	23.7	23.8	22.6	22.0	19.9

下顎骨は破損しているが、やはり同一個体で、先の上顎歯と対になっている。細片の中には火を受けた骨が含まれる。

② イノシシ

ブタの可能性もある。踵骨は骨端が未化骨の若い個体である。イノシシの小白歯にも咬耗が見られず、この踵骨と対応する程度の年齢である。

③ ニホンジカ

焼けた尺骨の一部と、加工された角の2点が出土している。尺骨はかなり小さい個体のものである。

4 まとめ

本遺跡から出土した獣骨は一般的な遺跡に普通に見られるものである。量は少なく、焼骨は少ない。ウマの歯がまとまって出ており、大きさは中型馬である。

表1 国分寺周辺遺跡群出土獣骨（種別）

出土地点	種名	骨名			左右	状態1	状態2	出土部位								備考	
								c	ph	dh	pe	ps	s	ds	de		
336住 カマド	イノシシ	頭蓋骨	上顎骨(1~3)		左	f	焼骨										歯はない
445住 覆土	イノシシ	歯	歯種不明	不明	不明	f	生骨										細片
452住 カマド付近	イノシシ	歯	切歯・小白歯	上顎	右	c・f	生骨										同一個体？
⑤区	イノシシ	足根骨	踵骨		右	c	生骨	1									若：骨端未化骨
462住	ウマ	歯	P2~M3	上顎	左	c	生骨										6本：同一個体
462住	ウマ	歯	P2~M3	下顎	左	c・f	生骨										6本：同一個体
462住	ウマ	歯	歯種不明	下顎	左		生骨										同一個体
4503坑 覆土	ウマ	歯	M3	上顎	右	f	生骨										頬側半：未咬耗
602坑	ウマ	歯	細片		不明	f	生骨										
⑥区 III b層	ウマ	歯	臼歯細片	下顎	不明	f	生骨										
⑥区 III b層	ウマ	歯	大白歯細片	上顎	不明	f	生骨										1本分
③区 A-15 III b層	ニホンジカ	角			不明	f	生骨										加工品
357住 付近	ニホンジカ	尺骨	近位骨幹		左	f	焼骨					1					細い

参考文献

藤田恒太郎 1949 「歯の計測規準について」『人類学雑誌』61；p1~6

第4節 弥勒堂遺跡出土の人骨および獣骨

京都大学霊長類研究所

茂原信生

1 はじめに

弥勒堂遺跡は、長野県上田市下塩尻所在の遺跡で、北陸新幹線の工事に伴って(財)長野県埋蔵文化財センターによって平成4年に発掘調査された。本報告はその際に出土した人骨および獣骨の同定結果である。

遺跡の出土品の調査から、いずれの骨も平安時代後半から中世に属すると思われる。

人骨の計測はマルチン法(馬場:1991)にしたがい、歯の計測は藤田(1949)にしたがった。

2 出土人骨の特徴

① 5号土坑人骨(写真1-1~6)

保存状態は比較的良好だが、頭蓋骨などは失われている。

四肢骨

四肢骨はよく保存されているが骨端が残っているものはない。右上腕骨の中央(推定)最小径と最大径はそれぞれ15.5mmと24.1mmで、骨体横断示数は64.3である。断面は扁平である。左橈骨は骨間縁がよく発達しており、骨体横径16.7mm、骨体矢状径は13.3mmである。

左右の大腿骨も両端が失われている。後面の粗線は比較的良好に発達しており、幅を持った稜状で、いわゆる柱状大腿骨である。上部外側の殿筋隆起はやや発達している。上横径28.8mm、上矢状径23.6mmであり、扁平示数は81.9で扁平大腿骨に属する。骨体中央横径24.6mm、骨体中央矢状径28.2mmである。左右の脛骨は骨幹が残っている。断面はヘリチカのII型に近い。左脛骨の中央付近の横径は18.6mm、矢状径は30.9mmである。断面示数は60.2で扁平脛骨である。骨間縁の発達はよい。腓骨は顕著な槌状を呈する。

同定結果

四肢骨の状態から判断して男性的な個体である。年齢などは不明であるが成人には達していたであろう。

② 7号土坑人骨

保存状態は悪く、四肢骨の骨端は失われている。

四肢骨

上腕骨は左側が残る。比較的頑丈である。橈骨は骨体横径が16.4mm、骨体矢状径が12.8mmである。

大腿骨は粗線がやや発達しているが柱状大腿骨ではない。骨質は厚い。骨体上横径27.8mm、上矢状径は24.8mmで、扁平示数は89.2である。大腿骨の骨質は薄い。

同定結果

この個体は、成人であると思われる。性別は不明である。

③ 9号土坑人骨(写真1-7・8)

保存状態は悪く、四肢骨は骨端などが失われておりすべて不完全である。

頭蓋骨

頭蓋骨は細片化している。頭蓋内面の中硬膜動脈溝は深くえぐれている。頭蓋冠の骨は厚い。

四肢骨

上腕骨の太さは普通であり、三角筋粗面もさほど発達していない。中央（推定）最大径は21.7mm、最小径は約17mmである。橈骨はきゃしゃで、骨体横径は13.4mm、矢状径は11.2mmである。

大腿骨は右側上部が残っている。殿筋隆起はさほど発達していない。骨体上横径は30.8mm、骨体矢状径は23.0mmで前後に薄く、扁平示数は74.7と超扁平大腿骨に属している。後面の粗線の発達もさほどではないと思われる。脛骨は左側の骨幹が残っている。中央付近の断面はヘリチカのI型に近い三角形で、およその中央で計測した横径は21.4mm、矢状径は24.9mmである。栄養孔位の最大径は27.4mm、横径は23.1mmで、扁平示数は84.3で広脛に属している。距骨の蹲踞面は、左は内果面だけが伸展する森本（1981）のB型、右は内側蹲踞面も伸展するC型である。

同定結果

成人と思われるが、筋の発達はさほどではない。性別は不明だが、四肢骨はきゃしゃで女性的である。

④ 22号土坑人骨

保存状態は比較的よいが、年少の個体のため破損や消失で観察出来ない部分が多い。

頭蓋骨

頭蓋は顔面以外が残っている。土圧で左右につぶれている。顔は右を向いている。骨質は薄い。下顎骨の一部も残っているがまだ第二乳臼歯が萌出しておらず、乳歯列は未完成である。萌出状態から判断すると2歳前後ということになる。小泉門は閉鎖しているが大泉門については不明である。

歯

下顎第1大白歯の咬頭と溝の型は+5型で、第6咬頭がある。

	下顎第1大白歯	下第一乳臼歯	上第二臼歯
m-d	11.9	9.5	10.5
b-1	10.9	7.8	11.1

四肢骨

四肢骨は保存状態が悪く、形態が観察出来るようなものはない。

同定結果

この個体は2歳前後の乳児である。性別は不明である。

⑤ 調査地区中央付近出土の人骨

右大腿骨の中央付近が出土している。後面の粗線は比較的発達しており、5mmほどの幅を持った稜状でいわゆる柱状大腿骨である。性別・年齢ともに不明である。

3 出土獣骨の特徴

出土した獣骨は次の2目4科の4種である（表1）。

哺乳綱	mammalia
偶蹄目	Artiodactyla
シカ科	Cervidae
	ニホンジカ <u>Cervus nippon</u>
イノシシ科	Suidae
	イノシシ（あるいはブタ） <u>Sus scrofa</u>
ウシ科	Bovidae
	ウシ <u>Bos taurus</u>

奇蹄目

ウマ科 Equidae

ウマ Equus caballus

① シカ

出土した2点は中手骨の前面であり、利用された残りかあるいは利用途中であった可能性がある。

② イノシシ

ブタの可能性もある。上顎骨で、歯根部分が残っているものもある。犬歯歯槽は小さい。

③ ウシ

歯だけが出土している。いずれも下顎歯である。

④ ウマ

歯と中手あるいは中足骨の1点と、若い個体の橈骨の近位骨端、および椎骨片である。

4 まとめ

弥勒堂遺跡からは5体の人骨と4種の獣骨が出土している。人骨は2歳程度の乳児、成人で性別不明の2体と、男性、女性と思われる各1体が出土している。柱状大腿骨や扁平脛骨が見られ、蹲踞面も観察された。獣骨はニホンジカ、イノシシ（あるいはブタ）、ウシ、ウマである。

本人骨および獣骨を調査する機会を与えてくださった(財)長野県埋蔵文化財センターの方々に厚く感謝いたします。

写真説明 (写真1)

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 1 : 5号坑人骨の左下顎骨外側面 | 6 : 5号坑人骨の左大腿骨前面と後面 |
| 2 : // 右上腕骨前面 | 7 : 9号坑人骨の左距骨 |
| 3 : // 右脛骨内側面 | 8 : // 右距骨 |
| 4 : // 左脛骨内側面 | 9 : 22号坑人骨の左下顎歯咬合面 (左が前方) と外側面 |
| 5 : // 右大腿骨前面と後面 | 10 : 自然流路跡出土のウシ下顎歯舌側 (P 4 ~ M 3) |

表1 弥勒堂遺跡出土獣骨

出土地点	種名	骨名	部位	左右	上下	歯種	状態	完形	pe	ph	pd	dd	dh	de	備考
2号住	イノシシ(ブタ)	頭蓋骨	上顎骨				f								切歯から第2小臼歯部歯槽
2号住	ニホンジカ	中手骨	骨幹前面	不明			f			1					
2号住	不明	肋骨骨					f								
2号住	ウマ	歯	切歯	不明		1									
2号住	ウマ	歯	切歯	不明		2、3									
2号住	ウマ	橈骨	近位骨端	右			f	1							若い個体(骨端未化骨)
11号坑	ウマ	中手?中足?	遠位半	不明			f							1	
11号坑	ウシ	歯		左	下	不明	f								
11号坑	ニホンジカ	中手骨	骨幹前面	不明			f			1					
11号坑	ウマ	歯		左	下	不明									
11号坑	ウマ?	椎骨	第二頸椎(軸椎)				f								
自然流路跡	ウシ	頭蓋骨	下顎骨+歯	右	下	P 4、M 1、M 2、M 3	f								
自然流路跡	ウシ	歯		左	下	M 2									
東黒色土	ウシ	歯		左	下	M 3	f								
東黒色	ウシ	歯		右	下	P 3、P 4、M 1、M 2	c								P 3、P 4 咬耗なし、M 3 僅か

参考文献

馬場悠男 1991 「人骨計測法」『人類学講座』別巻1, 「人体計測法」, 江藤盛治編集, 雄山閣; p159-358
 藤田恒太郎 1949 「歯の計測規準について」『人類学雑誌』61; p1-6
 森本岩太郎 1981 「日本古人骨の形態学的変異 - 扁平脛骨と蹲踞面 -」『人類学講座』5 「日本人(II)」, 雄山閣; p157-188

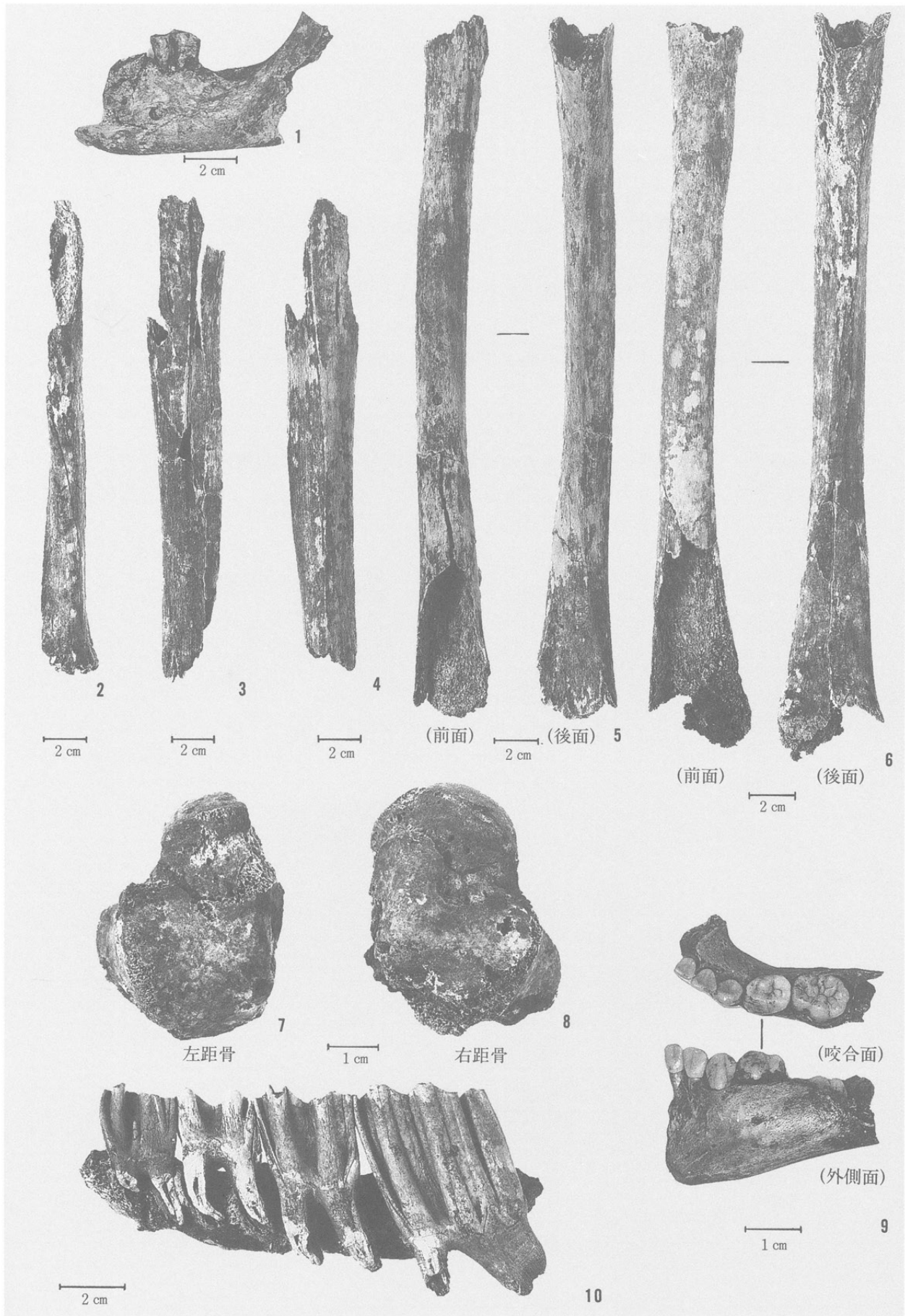


写真1 弥勒堂遺跡出土の人骨とウシの歯

第5節 弥勒堂遺跡出土の鍛冶関連遺物の分析・調査

(助)長野県埋蔵文化財センター
川鉄テクノロジーサーチ株式会社
分析・評価センター

1 はじめに

弥勒堂遺跡の鍛冶工房跡である2号住居跡出土の鉄塊系遺物、鍛冶鉄滓、羽口と遺物包含層出土の鉄製品について、化学分析を行った。

分析する遺物の選択とその分析部分の選定は穴澤義功氏の指導により行い、それらの肉眼観察・計測・実測・外観写真撮影は埋文センターで実施した。

その後、化学分析は川鉄テクノロジーサーチ株式会社 分析・評価センターに依頼した。

分析・調査の観点として、鉄塊系遺物と鉄滓類については、

①製鉄原料の推定、②製鉄工程上の位置付け、③観察上の特記事項など、
鉄製品については、

①残存金属の確認、②金属鉄成分の分析、③加工状況や観察上の特記事項など、
また、羽口については、

①耐火度、②粘土成分、③観察上の特記事項など、
を中心に調査した。

2 調査項目および試験・検査方法

(1) 調査項目

試料No.	総番号	出土位置	試料の性格	重量 (g)	長径×短径×厚さ (cm)	磁着度	メタル度	分析項目						
								成分分析	組織写真	X線回折	E P M A	X線透過	硬 度	耐火度
1	95-96	2住 ビット3	椀形鍛錬鍛冶滓	379.30	11.70×9.20×3.40	6	なし	○	○	○	○			
2	95-97	2住 ビット3	椀形精錬鍛冶滓	75.13	5.70×4.70×2.40	3	なし	○	○	○				
3	95-98	2住 ビット3	椀形鍛冶滓	16.59	2.00×1.50×1.40	4	なし							
4	95-99	2住 ビット3	鉄塊系遺物	4.49	2.00×1.50×1.40	5	L		○		○	○		
5	95-100	2住 ビット3	鉄塊系遺物	4.59	1.90×1.85×1.20	5	M		○		○	○		
6	95-101	2住 ビット3	鉄塊系遺物	2.99	1.65×1.40×0.90	4	L		○		○	○		
7	95-102	2住 ビット3	粒状滓	計測表 参照		-	-		○11点					
8	95-103	2住 ビット3	鍛造剥片	計測表 参照		-	-		○8点					
9	95-104	東側 黒色土	鉄製品 釘	5.28	5.85×0.45×0.40	7	M		○		○L,C	○	○	
10	95-105	東側 黒色土	鉄製品 鎌	12.75	5.80×3.90×0.50	8	L					○		
11	95-106	2住 覆土2層	鑪羽口	71.03	長さ6.60、口径2.40	5	なし	○滓部	○滓部					○

註：1 法量と磁着度、メタル度は埋文センターで測定した。

註：2 試料の性格は分析・調査の結果に基づいて記載した。

註：3 L、CのLは試料の長手方向、Cは断面（幅）方向を示す。

(2) 概観の観察と写真撮影

埋文センターにおいて、試料採取前の遺物の肉眼観察・計測・実測・外観写真撮影を実施した。計測については一般的な法量と合わせて、磁着度^{註1}とメタル度^{註2}の測定を行った。

註

- 1 遺跡出土の鉄滓や鉄塊系遺物を効率的に分類・判別し、遺跡の評価や遺跡間の情報を共通化するために採用された評価基準である。鉄滓分類用の標準磁石を定めた方法で用いて、試料の磁着反応を1～8までの数値で表わす。数値が大きいほど着磁性が強いことを意味する。
- 2 金属鉄を含む「鉄塊系遺物」などの中に遺存する、酸化していない金属鉄の量と位置を測定し、評価する基準である。H (○) → M (◎) → L (●) → 特L (☆) の順に、対象金属が大きいことを示す。特殊な整準をした小型の特殊金属探知機を使用マニュアルに応じて用い判定する。対象物の中に金属がない場合には錆化 (△)、あるいは「なし」と表示する。

(3) 化学成分分析

化学成分分析はJ I Sの分析法に準じて行った。分析方法および分析結果は各試料の考察結果のなかで一覧表に示した。

この調査は、化学分析から鉄を作るために使用した原料の指定と、生産工程のどの部分で発生した鉄滓かの判断用データを得るために行った。また、羽口に使用されている粘土も特別に選択使用していたのかの判断用に分析した。

分析項目は、鉄滓18成分、羽口12成分である。

(4) 顕微鏡組織写真

試料の一部を、埋文センターの指示とX線透過検査の結果とを踏まえて切り出し、樹脂に埋め込み研磨(鏡面仕上)した。その後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、溶解状況や介在物(鉱物)の存在状態等から加工状況や材質を判断する。鉄滓の場合にも同様に処理・観察を行い、製鉄・鍛冶過程での状況を明らかにする。原則として100倍と400倍で撮影した。必要に応じて実体顕微鏡による観察を行い、10倍で写真撮影した。金属鉄の観察にあたっては金属組織の識別のため、ナイトール液(硝酸-アルコール液)で軽くエッチング(腐食)加工した。金属鉄の断面組織はできるだけ2視野選択して撮影した。

(5) X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれの固有の反射(回折)されたX線が検出されることを利用して、試料の未知の化合物を観察・同定するものである。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

(6) EPMA (X線マイクロアナライザー) による観察

高速電子線を2 $\mu\text{m}\phi$ 程度に絞って、分析対象試料面に照射し、その微小部に存在する元素から発生する特性X線を測定するもので、金属中の介在物や鉄滓の成分構成を視覚から確認するために、二次元の面分析を行った。

(7) 耐火度試験

製鉄炉や鍛冶炉等に使用された炉壁や羽口について、どの程度の耐火性のある粘土を使用していたのかを判断するために試験した。この調査もJ I S規格『耐火れんがの耐火度の試験方法』に準じて実施した。

なお、試料は、羽口の熱影響の少ない胎土部分を採取した。

試験条件・結果は試料No.11の分析結果参照のこと。

(8) X線（放射線）透過試験

X線発生装置を用い最適のX線強度を選択して、写真撮影を行う。同一のX線強度と照射時間の場合には、照射される物質の質量が重い程、また寸法が厚い程X線が吸収され写真上では黒くなり、その反対ではX線が簡単に透過する関係上白く写る。したがって、凹凸や異種金属が共存されている場合や、錆化して金属部分が薄くなっている場合でも状況が濃淡で判別できる。

(9) 硬さ試験

試料前処理として、X線透過試験で確認された試料内の金属部分を切断採取したのち、アクリル樹脂にて埋め込んで研磨し、平滑な面を作った。試験方法は、なるべく巣および介在物のない部分を選んで、マイクロビッカース試験を行った。

3 各分析条件および装置一覧

(5) X線回折測定

① 測定装置 理学電気株式会社製ガイガーフレックス (RAD-II A型)

② 測定条件

①使用X線	Co-Ka (波長=1.79021 Å)
②Kβ線吸収フィルター	Fe
③管電圧・管電流	50kV・35mA
④スキヤニング・スピード	2°/min.
⑤サンプリング・インターバル	0.020°
⑥D. S. スリット	1°
⑦R. S. スリット	0.3mm
⑧S. S. スリット	1°
⑨検出器	シンチレーション・カウンター

③ 測定結果同定された物質は、チャートに記入し、各試料の考察結果末尾に記した。

④ 測定者のコメント

チャート中で、●印のピークは試料ホルダーからのものと思われる。

(6) EPMA (X線マイクロアナライザー)

① 測定装置 島津製作所製 EPMA-8705

② 測定条件

①加速電圧	20kV
②試料電流	0.02 μ A
③EBS像倍率	$\times 400$
④ライン分析速度	$\mu\text{m}/\text{cm}$
⑤ビーム径	$\mu\text{m}\phi$
⑥積算時間	sec

③ 測定結果

各試料のEBS像参照。

(8) X線(放射線)透過試験

① 試験装置 (株)理学電気製 RF250EGS-2

② 試験条件

①焦点・フィルム間距離	900mm
②電流・電圧	110kvp・5mA
③露出時間	0.2~0.3min
④使用フィルム	フジ #50
⑤現像条件	5分・28 $^{\circ}$ C

(9) 硬さ試験

① 測定装置

島津製作所製 H MV-2000 (荷重自動変換式・自動負荷方式)

② 試験条件

①荷重	1000gf
②荷重時間	15sec
③測定点	10点
④圧子	対面角136 $^{\circ}$ ダイヤモンド正四角錐

③ 測定結果

試料No.9の調査結果参照のこと。

4 調査および考察結果

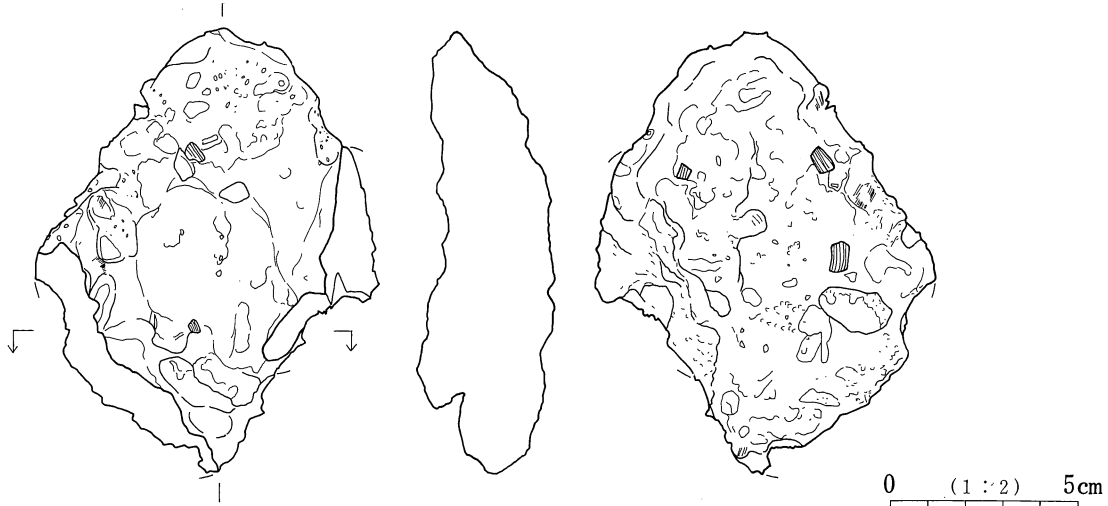
個別試料ごとにまとめた。埋文センターで記録・作成した①試料観察表、②実測図に続けて、(株)川鉄テクノロジー作成の③調査および考察結果と分析結果を列記した。また写真図版には、埋文センターで撮影した外観写真とあわせて、(株)川鉄テクノロジーの分析写真を掲載した。縮尺などは試料ごとに示した。

(1) 試料No. 1 (総番号95-96) 椀形鍛錬鍛冶滓

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住	ピット3	時期：根拠	10C前：土器		分析項目	成分分析	○	
遺物種類	椀形鍛冶滓							組織写真	○	
遺物データ	法量	長径	11.70cm	遺存度	破片	磁着度		6	X線回折	○
		短径	9.20cm	破面数	2	メタル度		なし	X線透過	○
		厚さ	3.40cm				硬度		—	
		重量	379.30g	色調	表：黒灰色／地：黒褐色		断面樹脂処理	—		
観察所見 (平面形と概観)	ほぼ楕円形を呈する、椀形鍛冶滓である。側縁部に破面を2ヵ所持つが、完形に近い状況である。酸化土砂の付着は少なく、酸化した部分も僅かである。特殊金属探知機には反応がない。									
(色調)	長軸一端の周縁部が赤褐色に酸化しているが、その他は黒灰色を呈している。破面から見える内面は黒褐色である。									
(上面の状況)	やや中央が窪むものの、ほぼ平坦である。細かな凹凸があり、全体にザラザラしている。5mm程の木炭痕が散在している。短軸一端の破面部分はガラス滓の様相を呈している。									
(下面の状況)	緩やかな椀形であり、全体に細かく波立っている状況である。周縁部は酸化気味、木炭痕も認められる。短軸一端には20×12mmの空洞がある。									
(側面の状況)	非常に細かな木炭痕の付着があり、酸化気味である。									
(破面の状況)	2ヵ所のうち、短軸一端にある1つは、ガラス滓で、光沢を持ち1mm以下の気孔が密にある。長軸一端の方は、黒褐色の滓であり、内面の中央は緻密であるが、表面に近い部分は薄く空洞ができています。									
分析備考	長軸端部1/5を直線状に切断して、その滓部分を用いる。 要アルコール洗浄。									

② 実測図 (1:2)



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto. 1 ①に示した。

化学成分分析の結果によると、全鉄 (T. Fe) は48.4%の値であり、酸化第一鉄 (ウスタイト: FeO) は53.7%と多く、酸化第二鉄 (ヘマタイト: Fe₂O₃) は8.42%と少ない。また、金属鉄 (M. Fe) が0.80%と僅かながら含まれている。滓中の成分の指標となる所謂造滓成分 (SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO) は33.7%とやや多い。砂鉄に含まれていたと考えられるチタニウム (酸化チタニウムで表示: TiO₂) が1.18%、バナジウム (V) も0.050%存在する。一般に鉱石に含有される成分の一つである銅 (Cu) の値は0.005%で、非常に少ない。したがって、鉄源は砂鉄の可能性が高い。結合水 (C. W.) の値は0.38%と少ないので、酸化第二鉄と水との化合物で鉄錆の一種であるゲーサイト等のオキシ水酸化鉄 (α -FeOOH等) はあまり存在しないものと推定される。

滓断面の10倍の視野での実体顕微鏡による観察で、滓の中に多くの空孔が認められる。滓部分の100倍で観た顕微鏡組織には、灰白色の繭状のウスタイト結晶と短冊がやや崩れた形状のファイヤライト (珪素と鉄の酸化化合物: Fe₂SiO₄) の結晶が観察される。他の鉱物質の結晶は特に認められず酸化鉄主体の滓と考えられた。

X線回折チャートから、ウスタイトの強いピークが検出され、この他中程度のファイヤライトと少量の鉱物質の化合物の存在が認められる。四三酸化鉄 (マグネタイト: Fe₃O₄) は検出されない。

photo. 1 ⑤~⑨に滓断面のE PMA写真を示した。鉄酸化物のウスタイトの他、珪素 (Si)、カルシウム (Ca)、マグネシウム (Mg) やアルミニウム (Al) の複合酸化物 (鉱物質) の存在が確認された。チタニウムやバナジウム元素は全く検出されなかった。これは鍛造が進み不純物が少なくなってきたため、必然的にTi、Vが滓として出てしまったためと考えられる。なお、走査電子顕微鏡写真 (SE) 像の下部に白い点があるがこれは写真キズであり、金属鉄ではない。以上の結果を総合すると、滓の形状を加味し椀形鍛錬鍛冶滓と言える。鉄源は砂鉄と考えてよい。

④ 化学成分分析表

成分 試料No.	T. Fe	M. Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	TiO ₂
No. 1	48.4	0.80	53.68	8.42	21.3	3.85	7.05	1.51	1.18
No. 2	41.7	2.03	43.58	8.31	27.4	5.66	8.87	1.80	0.42

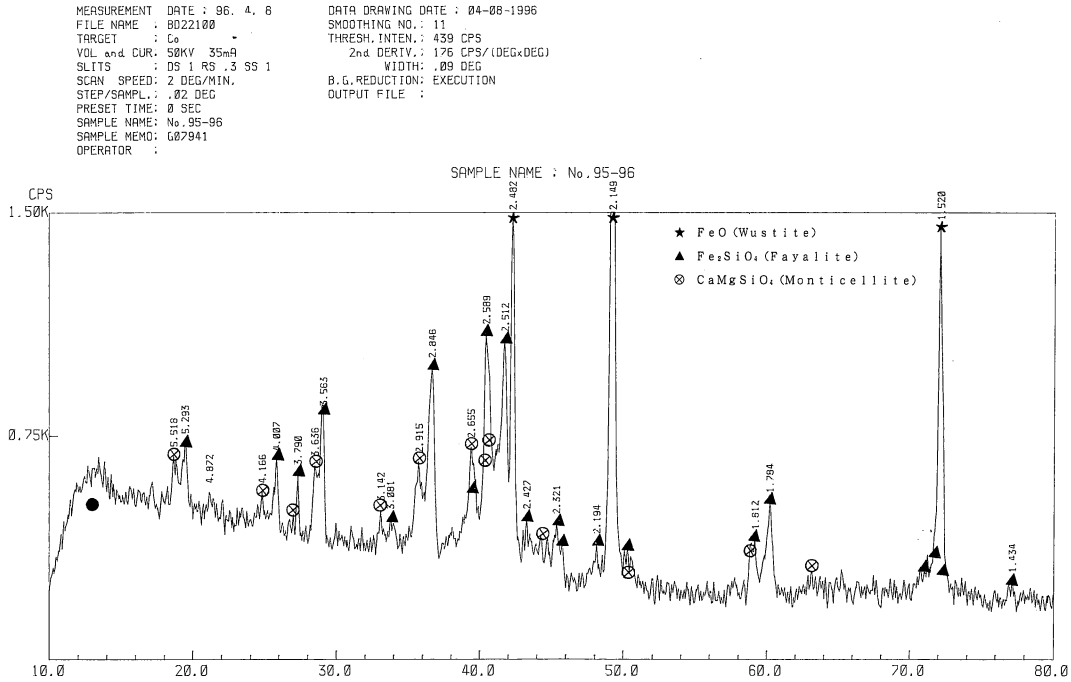
単位: % (m/m)

	MnO	P ₂ O ₅	Cr ₂ O ₃	Na ₂ O	K ₂ O	C	V	Cu	C·W
	0.25	0.284	0.050	0.48	0.76	0.071	0.050	0.005	0.38
	0.25	0.302	0.032	0.82	0.82	0.081	0.001	0.032	0.38

【分析方法】 分析方法はJ I S法に準拠し、以下の方法とした。

T. Fe: 三塩化チタン還元—二クロム酸カリウム滴定法	SiO ₂ , Al ₂ O ₃	} : ガラスビード蛍光X線分析法
M. Fe: 臭素メタノール分解—EDTA滴定法	CaO, MgO, TiO ₂	
FeO: 二クロム酸カリウム滴定法	MnO, P ₂ O ₅ , K ₂ O	
Fe ₂ O ₃ : 計算	Na ₂ O, Cr ₂ O ₃ , V, Cu	: I C P 発光分光分析法又は原子吸光法
C: 燃焼—赤外線吸収法		
C·W: カールフィッシャー法		

⑤ X線回折チャート

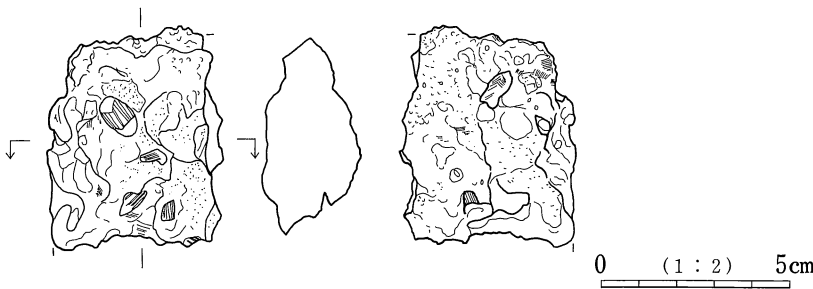


(2) 試料No. 2 (総番号95-97) 椀形精練鍛冶滓

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 ピット3		時期:根拠	10C前:土器			分析項目	成分分析 組織写真 X線回折 EPMA X線透過 硬度 耐火度	○ ○ ○ — — —
遺物種類	椀形鍛冶滓									
遺物データ	法量	長径	5.90cm	遺存度	破片	磁着度	3	断面樹脂処理	—	
		短径	4.70cm							
		厚さ	2.40cm	破面数	1	メタル度	なし			
		重量	75.13g	色調	表:灰褐色/地:灰褐色					
観察所見 (平面形と概観)	薄く軽量の椀形鍛冶滓である。ほぼ1/2を欠損するが、完形では平面長方形を呈すると考えられる。上下面ともやや酸化するが、際立ってはいない。									
(色調)	表面、地ともに灰褐色であり、表面の一部は黄赤褐色に酸化している。									
(上面の状況)	10mm前後木炭痕が目立ち、それによる凹凸も著しい。ザラザラした質感である。									
(下面の状況)	緩やかな曲面をを呈し、上面同様の大きめの木炭痕が認められる。また部分的に酸化している。									
(側面の状況)	上下面同様の木炭痕が観察できる。また細かな凹凸がありザラザラしている。									
(破面の状況)	破面から観察できる内面は比較的緻密であり、1mm以下の気孔が散在する状態である。									
分析部分	長軸端部1/2を直線状に切断して、滓部を用いる。									
備考	要アルコール洗浄。									

② 実測図 (1:2)



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto. 2 ①に示した。

化学成分分析の結果、T. Feは41.7%、FeOは43.6%といずれもやや低く、Fe₂O₃は8.31%と試料No. 1に較べると相対的にやや多い。また、M. Feが2.03%で金属鉄が存在する可能性が高い。滓成分の指標となる造滓成分はT. Feが少ないため反対に43.7%と多い。チタニウムは0.42%、バナジウムも0.001%と少ない。銅の含有量は0.032%である。また、C. W.の値は0.38%と少ないので、オキシ水酸化鉄は殆ど存在しないものと推定される。

滓断面の実体顕微鏡観察によると、滓の中には小さな空孔が多く認められる。滓部分の顕微鏡組織には、灰白色の繭状のウスタイト結晶と短冊形状がやや崩れたファイヤライトの結晶が観察される。100倍の写真で右側の黒い丸い領域は、炭素量の高い金属鉄が酸化してオキシ水酸化鉄に変化した(分析結果の知見とは異なるが)部分と推定される。

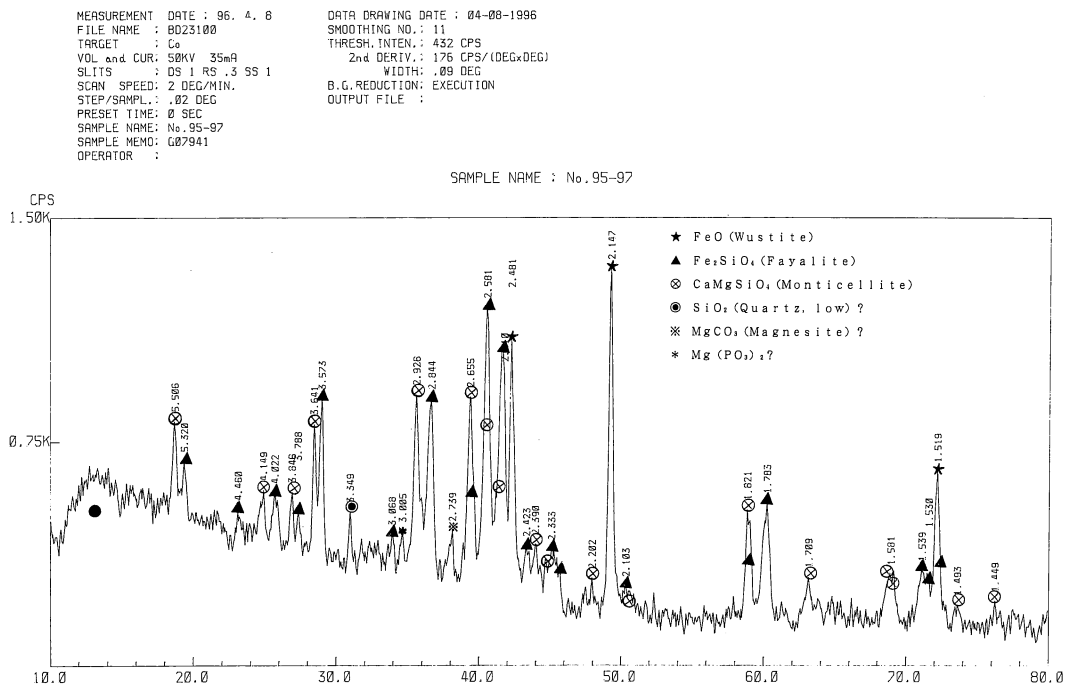
X線回折チャートから、ウスタイトの強いピークが検出され、この他中程度のファイヤライトと少量の鉱物質化合物の存在が認められる。四三酸化鉄(マグネタイト: Fe₃O₄)やチタニウム化合物は検出されない。

以上の結果を総合すると、滓の形状を加味し梔形精錬鍛冶滓と言える。鉄源に砂鉄が使用された可能性が高い。

④ 化学成分分析表

試料No. 1の分析表に記載している。

⑤ X線回折チャート

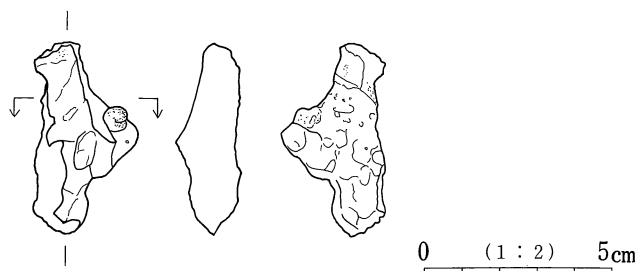


(3) 試料No. 3 (総番号95-98) 椀形鍛冶滓

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住	ピット3	時期：根拠	10C前：土器		分析項目	成分分析	—
遺物種類	椀形鍛冶滓							組織写真	—
遺物データ	法量	長径	5.10cm	遺存度	破片	磁着度		4	X線回折
		短径	2.80cm	破面数	2	メタル度	なし	X線透過	—
		厚さ	1.60cm					硬度	—
		重量	16.59g	色調	表：赤灰色／地：黒褐色		断面樹脂処理	—	
観察所見 (平面形と概観)	薄く軽量の椀形鍛冶滓の破片である。不定形な縦長の平面形を呈すると推測される滓のほぼ中央付近が遺存している。								
(色調)	周囲は全体に酸化気味で、赤灰色を呈する。内面は黒灰色である。								
(上面の状況)	緩やかな凹凸を持つ。隆起した部分が欠損して、内部の空孔が覗く。ガラス質に変質している部分も見られる。								
(下面の状況)	やや椀形に膨らむ。中央部分はガラス質に変質している。1mm程の空孔が見られる。								
(側面の状況)	緩やかな丸みを持つ。やや下方への垂れが見られる。								
(破面の状況)	内部は緻密な部分と、微小な空孔が集中する部分とがある。上下方向での変化はない。								
分析部分	軽量の試料であるため、分析可能ならば、他の鍛冶滓同様の分析項目で全量を用いる。								

② 実測図 (1:2)



③ 調査および考察結果

photo. 2 ⑤に示した外観写真撮影を行った。

(4) 試料No. 4 (総番号95-99) 鉄塊系遺物

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 ピット3	時期：根拠	10C前：土器		分析項目	成分分析	—		
遺物種類	鉄塊系遺物						組織写真	○		
遺物データ	法量	長径	2.00cm	遺存度			磁着度	5	X線回折	—
		短径	1.50cm	破面数	1		メタル度	L (●)	E P M A	○
		厚さ	1.40cm			X線透過			○	
		重量	4.49 g	色調	表：黄褐色／地：不明		硬度	—		
断面樹脂処理								耐火度	—	
観察所見 (平面形と概観)	非常に小さな鉄塊系遺物である。表面のほとんどは土砂に覆われ、放射割れが観察できる。また放射割れの結果の剥離が1ヶ所ある。特殊金属探知機にはL反応を示す。									
(色調)	表面は黄褐色である。剥離した部分は赤褐色に酸化している。									
(表面の状況)	平面は不整な三角形を呈し、ゴツゴツした凹凸がある。土砂の他に2mm程の木炭痕が観察できる。									
(破面の状況)	1ヶ所ある破面は13×7mm程であり、放射割れの結果によるものであろう。内面はほとんど赤褐色に酸化しているが、中央部はやや光沢のある鉛色を見せている。									
分析部分	長軸端部3/5を直線状に切断して、メタル部を用いる。									
備考	鍛冶工程の鉄塊系遺物であろう。要アルコール洗浄。残材断面には樹脂塗布のこと。									

② 実測図



③ 調査および考察結果

外觀写真をphoto. 3 ①に示した。磁着反応、メタル度反応が共に高く金属鉄の残存が予測されたのでX線(放射線)透過試験を行った。photo. 3 ②の写真に示すように塊試料の中心部に黒く濃い陰影が認められた。この部分を切断して検討を加えることとした。

試料断面の実体顕微鏡写真によると、塊の中に編み目状に金属鉄が分布している様子が認められる。金属鉄の顕微鏡組織には、白色の針状に伸びたセメントイト(鉄と炭素の化合物)が網目状に存在する。網目に囲まれた黒色部分にはパーライト(フェライト=純鉄とセメントイトが互いに層状になった)組織が認められる。

金属組織の観察から、この金属鉄の炭素含有量は0.8~1.7%の範囲で、針状セメントイトの結晶成長から見て徐冷却されたものと推定される。

金属鉄断面のE P M A写真をphoto. 3 ⑧~⑩に示した。S E像で灰黒色の葉脈の様な部分は金属鉄で、良く見ると葉脈部分に対応する鉄や炭素が筋状に存在するのが観察される。また、炭素が鉄のなかに様に分布している状態が判る。S E像で黒い部分は酸化鉄である。左中央の針状のものは介在物(不純物)で、鍛造加工を受けて長く延伸された形状を示している。その中にはチタニウム、少量のバナジウムの他珪素、カルシウム、マグネシウムやアルミニウムの複合酸化物(鉱物質)の存在が確認される。介在物にチタニウムが含有されるが、この鉄が砂鉄を原料として製造されたものか否かは明らかでない。

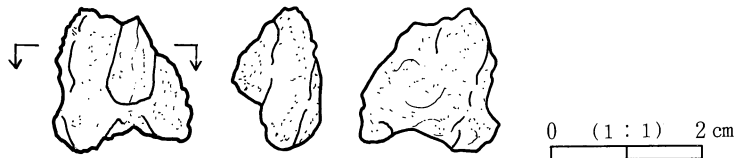
以上の結果を総合すると、試料は鍛冶加工を受けた炭素含有量が0.8~1.7%の範囲の鉄塊系遺物と言える。鉄源に砂鉄が使用されたか否かの判定はできなかった。

(5) 試料No. 5 (総番号95-100) 鉄塊系遺物

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住	ピット3	時期：根拠	10C前：土器		分析項目	成分分析	—	
遺物種類	鉄塊系遺物							組織写真	○	
遺物データ	法量	長径	1.90cm	遺存度	不明	磁着度		5	X線回折	—
		短径	1.85cm	破面数	不明	メタル度		M (◎)	E PMA	○
厚さ	1.20cm	色調	表：黄赤褐色／地：鉛色				X線透過		○	
重量	4.59g				断面樹脂処理		○	硬度	—	
観察所見 (平面形と概観)	小型で、不整な三角形を呈する。全体に酸化土砂に覆われ、全容は掴めない。また放射割れを起こし、非常に鉄量の多い試料と予測される。磁着度、メタル度共に高反応で、金属鉄の残存が良好であることが分かる。									
(色調) (表面の状況)	酸化土砂のため、周囲は赤褐色である。放射割れ部分から、内部は鉛色と判断する。幾つかの丸みのある隆起部分がまとまって出来上ったような印象を持つ概形である。酸化土砂の細かな凹凸が目立つ。鉄素材とする鉄塊系遺物であるとすれば、鍛打成形前の素材と考えやすい。									
分析部分 備考	メタル(金属鉄)の残存の集中する部分を判定して、そこを切断して用いる。鉄塊系遺物と考える。要アルコール洗浄。残材の断面には樹脂塗布のこと。									

② 実測図



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto. 4 ①に示した。磁着反応、メタル度反応が共に高く金属鉄の残存が予測されたのでX線(放射線)透過試験を行った。その結果、photo. 4 ②に示すように塊試料の中心部に黒く濃い陰影が認められた。この部分を切断して検討を加えることとした。金属鉄の化学成分分析は試料の量が少ないため、残念ながら不可能であった。

試料断面の実体顕微鏡写真によると、塊の中に主として4か所程に金属鉄が分布している様子が認められる。金属鉄の顕微鏡組織は、粒子のやや大きい純鉄に近いフェライト結晶で占められている。結晶内部には円い微粒の介在物が点在している。この金属鉄の炭素含有量は少ないものと推定される。

金属鉄断面のE PMA写真をphoto. 4 ⑧~⑩に示した。S E像で灰黒色の部分は金属鉄で不純物元素は殆ど存在しない。S E像で黒い面白い模様の部分は介在物である。鍛造加工を受けて長く延伸された形状は認められない。その中には極く少量のチタニウム、珪素、カルシウムやアルミニウムの複合酸化物(鉱物質)の存在が確認される。介在物にチタニウムが含有されるが、この鉄が砂鉄を原料として製造されたものか否かは明らかでない。なお、金属鉄の中には少量の炭素が一様に含有されている状況が認められる。

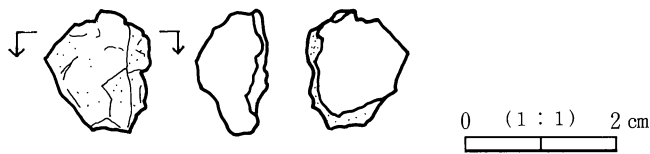
以上の結果を総合すると、試料は鍛冶加工を殆ど受けていない、炭素量の少ない純鉄に近い鉄塊系遺物と言える。鉄源に砂鉄が使用されたか否かの判定はできなかった。

(6) 試料No. 6 (総番号95-101) 鉄塊系遺物

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 ピット3	時期：根拠	10C前：土器			分析項目	成分分析	—	
遺物種類	鉄塊系遺物							組織写真	○	
遺物データ	法 量	長径	1.65cm	遺存度	破片	磁着度		4	X線回折	—
		短径	1.40cm	破面数	1	メタル度		L (●)	E P M A	○
		厚さ	0.90cm				X線透過		○	
		重量	2.99 g	色調	表：茶褐色／地：鉛色			硬度	—	
								耐火度	—	
観察所見 (平面形と概観)	非常に小さな鉄塊系遺物である。全体に酸化土砂に覆われている。錆ぶくれの結果から剥落した部分を持つ。特殊金属探知機にはL反応を示す。									
(色調)	表面は茶褐色であり、剥落した部分では、一部鉛色した内面が観察できる。									
(表面の状況)	平面は不整な三角形であり、ゴツゴツしている。小型で非常に軽量であるが、金属反応は高い。									
分析部分	長軸端部4／5を直線状に切断して、メタル部を用いる。									
備考	鍛冶系の鉄塊系遺物であろう。要アルコール洗浄。残材の断面には樹脂塗布のここと。									

② 実測図 (1:1)



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto. 5 ①に示した。磁着反応、メタル度反応が共に高く金属鉄の残存が予測されたのでX線(放射線)透過試験を行った。photo. 5 ②の写真に示すように塊試料の中心部に黒く濃い陰影が認められた。この部分を切

断して検討を加えることとした。

金属鉄の化学成分分析は試料の量が少ないため、残念ながら不可能であった。

試料断面の実体顕微鏡写真(photo. 5 ③)によると、写真左右の灰黒色に見える錆部分と塊の中に植物の導管に似た模様を持つ金属鉄の存在が認められる。金属鉄の顕微鏡組織観察(photo. 5 ④~⑦)によると、④・⑤の写真のように針状に伸びたセメンタイトの樹枝状結晶の間を埋めるパーライト組織の部分と、⑥・⑦の写真のように鋳物の鋳造組織を示す部分が認められる。前者の金属鉄組織の炭素含有量は0.8~1.7%の範囲で、後者の炭素含有量は1.7%を超えるものと推定される。針状セメンタイトの結晶成長から見て徐冷却されたものと推定される。

金属鉄と錆境界部断面のE P M A写真をphoto. 5 ⑧~⑨に示した。S E像で左側の灰黒色部分が金属鉄、稲の葉様の部分は介在物であり、他の部分は鉄錆である。左側の金属鉄中の炭素量は相対的に少ないが、植物の導管に似た模様の錆部には炭素が多く存在している。介在物は長く延伸された形状を示しているが、その中にはチタニウム、少量のバナジウム、他珪素、カルシウム、マグネシウムやアルミニウムの複合酸化物(鉱物質)の存在が確認される。介在物にチタニウムが含有されるが、この鉄が砂鉄を原料として製造されたものか否かは明らかでない。

以上の結果を総合すると、試料は鍛冶加工を受けた炭素量が1.7%前後(推定)の鉄塊系遺物と言える。鉄源に砂鉄が使用されたか否かの判定はできなかった。

(7) 試料No. 7 (総番号95-102) 粒状滓

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 ビット3	時期：根拠	10C前：土器	分析項目	成分分析 組織写真 X線回折 EPMA X線透過 硬度 耐火度
遺物種類	粒状滓					
遺物データ	法量	長径 短径 厚さ 重量	計測表 参照	遺存度	磁着度	断面樹脂処理
				破面数	メタル度	
		色調		下記参照		
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-1、102-2 4mm 光沢のない鉛色。赤褐色。 完全な球形をしたものは無く、平面楕円形や涙滴状のものが多い。					
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-3、102-4 2mm あまり光沢のない鉛色である。 ほぼ球形をしたものと涙滴状のものがある。気孔が見られるものがある。					
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-5、102-6 1.5mm 光沢のない鉛色である。 全体にはほぼ球形を呈している。僅かに涙滴状のものがある。					
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-7、102-8 1.0mm 光沢のない鉛色。 完全な球形をしたものと平面楕円形や涙滴状のものがある。					
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-9、102-10 0.4mm 光沢のない鉛色。 ほぼ球形をしたものが多い。					
登録番号 (メッシュサイズ) (色調) (表面の状況)	102-11 0.4mm以下 光沢のない黒鉛色である。 全体にはほぼ球形を呈している。					
分析部分	樹脂に埋め込んで、最大径の断面を顕微鏡で検討すること。					

計測表

遺跡名	CMR弥勒堂			出土位置	SBO2ビット3黒色土層
メッシュ	磁着度	番号	重さ(g)	直径(mm)	備考
4mm	強○	102-1	算出	5.0~7.8 Ave.6.61	9点抽出。 光沢のない鉛色。
	弱△	102-2	0.339	4.8~8.2 Ave.6.16	11点抽出。 鉛色6点。赤褐色5点。
2mm	強○	102-3	算出	2.0~3.3 Ave.2.60	11点抽出。 光沢のない鉛色。
	弱△	102-4	0.35	2.0~5.0 Ave.3.12	9点抽出。 光沢のない鉛色。
1.5mm	強○	102-5	算出	1.4~1.8 Ave.1.61	7点抽出。 光沢のない鉛色。
	弱△	102-6	0.0065	1.2~2.0 Ave.1.62	13点抽出。 光沢のない鉛色。
1.0mm	強○	102-7	算出	1.1~1.8 Ave.1.42	11点抽出。 光沢のない鉛色。
	弱△	102-8	0.0045	1.3~2.0 Ave.1.64	9点抽出。 光沢のない鉛色。
0.4mm	強○	102-9	算出	0.6~1.2 Ave.0.88	17点抽出。 光沢のない鉛色。
	弱△	102-10	0.0008	1.0~1.3 Ave.1.10	3点抽出。 光沢のない鉛色。
0.4mm 以下	計測 不可	102-11	算出 0.0002	0.3~0.5 Ave.0.40	100点抽出。 光沢のない黒鉛色。

② 調査および考察結果

粒状滓を大きさに従って12段階に区分しその外観写真をphoto. 6 ①に示した。粒径区分毎の断面を観察した10倍の実体顕微鏡写真をphoto. 6 ②~⑫に示した。粒径に関係なく丸い形状を示し、その内部には無数の気泡を持っている。滓には内部に気泡を持つものが多く、一部に内部の気泡が外部に開口したものも存在する。

引き続きphoto. 7・8に100~400倍で観察した滓部分の組織写真を示した。粒状滓の大小に係わりなく共通して言えることは、ウスタイト(酸化第一鉄: FeO) および/またはマグネタイト(四三酸化鉄: Fe₃O₄)の美しい白色の樹枝状結晶が存在し、滓中の鉄含有量が比較的高いものと推定される。特に試料No.95-102-5、95-102-7には一面にウスタイト結晶が認められ、鍛冶過程に発生する典型的粒鉄組織を呈している。一方、一部の滓(95-102-2、95-102-5等)には、金属鉄の白く見える小さな粒も存在した。比較的製錬初期の滓に多く存在する短冊状結晶のファイヤライト(鉄と珪素の酸化化合物)や灰褐色多角形板状のウルボスピネル(鉄とチタニウムの酸化化合物)(95-102-1、95-102-11等)が観察される。

以上の結果を総合すると、鍛錬加工の際に溶融不純物が飛び出し凝固した粒状滓で、精錬と鍛錬の鍛冶過程で発生した粒状滓の混合物の可能性が高い。また、ウルボスピネルの結晶が存在するので鉄源が砂鉄と考えられる。なお、粒状滓には金属鉄粒を含むものが存在した。

(8) 試料No. 8 (総番号95-103) 鍛造剥片

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 ビット3	時期:根拠	10C前:土器	成分分析 組織写真 X線回折 EPMA X線透過 硬度 耐火度	
遺物種類	鍛造剥片					分析項目
遺物データ	法	長径 短径 厚さ 重量	計測表 参照	遺存度	磁着度	
				破面数	メタル度	
観察所見						
登録番号 (メッシュサイズ)	103-1、103-2 4mm					
(厚さ)	0.1~0.8mm					
(色調)	鉛色と茶褐色が多く、表面が暗紫色に酸化したものが目立つ。					
(表面の状況)	表面はほぼ平坦であるが、剥裏面には不整に細かな凹凸が認められる。					
登録番号 (メッシュサイズ)	103-3、103-4 2mm					
(厚さ)	0.1~0.4mm					
(色調)	茶褐色のものと、一部光沢をもつ鉛色のものがある。					
(表面の状況)	表面はほぼ平坦であるが、剥裏面には不整に細かな凹凸が認められる。					
登録番号 (メッシュサイズ)	103-5、103-6 1.5mm					
(厚さ)	0.1~0.3mm					
(色調)	鉛色と茶褐色。一部光沢があるものもある。					
(表面の状況)	表面はほぼ平坦である。					
登録番号 (メッシュサイズ)	103-7、103-8 1.0mm					
(厚さ)	0.1~0.3mm					
(色調)	全て鉛色である。					
(表面の状況)	表面、剥裏面ともほぼ平坦である。					
分析部分	樹脂に縦にうめこんでその断面を顕微鏡で検討すること。					

計測表

遺跡名	CMR弥勒堂			出土位置		SBO2ビット3黒色土層
メッシュ	磁着度	番号	重さ(g)	大きさ(mm)	厚さ(mm)	備考
7mm						
4mm	強○	103-1	算定	6.2×4.5 ~9.2×5.0	0.3~0.8 Ave0.45	鉛色4点、 茶褐色5点
	弱△	103-2	0.065	5.0×5.0 ~7.0×11	0.1~0.5 Ave0.26	11点抽出。 鉛色9点、 茶褐色2点
2mm	強○	103-3	算定	4.2×2.6 ~7.8×4.0	0.1~0.4 Ave0.27	9点抽出 茶褐色5点、 鉛色4点
	弱△	103-4	0.0185	3.5×3.0 ~7.7×4.8	0.1~0.3 Ave0.17	11点抽出。 鉛色8点、 茶褐色2点
1.5mm	強○	103-5	算定	3.1×2.2 ~4.5×3.3	0.1~0.3 Ave0.13	13点抽出。鉛色。
	弱△	103-6	0.005	3.1×1.7 ~4.5×2.4	0.1~0.3 Ave0.20	7点抽出。茶褐色 5点。鉛色2点。
1.0mm	強○	103-7	算定	2.2×1.3 ~2.9×2.7	0.1~0.3 Ave0.17	15点抽出。 鉛色。
	弱△	103-8	0.003	2.2×2.0 ~3.0×1.7	0.10 Ave0.10	5点抽出。 鉛色。

② 調査および考察結果

鍛造剥片を大きさに従って8つに区分し、その外観写真をphoto. 9①に示した。試料は大きさに関係なく板状(偏平な)形状を呈する。写真から剥片の厚さは0.2~0.6mmと計測され比較的薄いと言える。

引き続きphoto. 9②~10⑥に100~400倍で観察した組織写真を示した。鍛造剥片の大小に係わりなく、滓内部にはウスタイトの灰白色繭状の結晶が緻密に存在する。

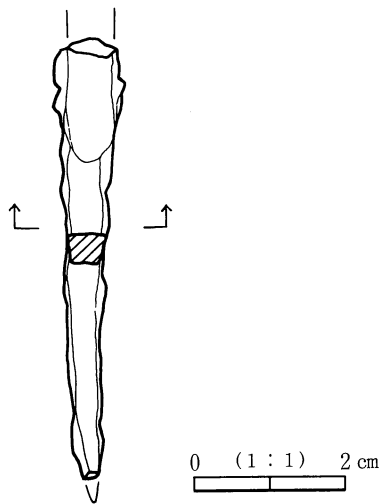
以上の結果を総合すると、この試料は鍛造剥片である。

(9) 試料No. 9 (総番号95-104) 鉄製品 (釘)

① 観察表

出土状況	出土位置	黒色土	時期：根拠	不明			分析項目	成分分析	—
遺物種類	鉄製品 釘							組織写真	○
遺物データ	法量	長径	5.85cm	遺存度	両端部欠損	磁着度	7	X線回折	—
		短径	0.45cm	破面数	2	メタル度		M (◎)	E PMA
		厚さ	0.41cm				色調		表：茶褐色／地：鉛色
		重量	5.28g	断面樹脂処理	○				
観察所見 (平面形と概観)	鍛造された釘である。基部と先端ともに欠損している。表面は酸化が著しい。特殊金属探知機にはM反応を示す。								
(色調)	表面は茶褐色を呈している。僅かにある剝落部では鉛色の内面が観察できる。								
(表面の状況)	断面四角形の鍛造製の釘である。基部から先端に向かって細くなる。基部付近は錆ぶくれと放射割れが目立つ。								
分析部分	長軸端部 1/2 を直線状に切断して、メタル部を用いる。								
備考	要アルコール洗浄。残材の断面には樹脂塗布のこと。								

② 実測図



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto.10⑦に示した。磁着反応、メタル度反応が共に高く金属鉄の残存が予測されたのでX線（放射線）透過試験を行った。photo.10⑧の写真に示すように試料の中心部に黒く濃い陰影が認められかなりの金属鉄が残存している。貴重な試料なので極く一部を切断して検討試料を採取した。

試料断面の実体顕微鏡観察によると、釘の表面は錆で覆われているものの内部に金属鉄が残存している状態が認められる。金属鉄の顕微鏡組織からは、L方向、C方向とも粒子の大きさが細かく整っておりしかも介在物の少ない良質の鉄（鋼）と認識された。組織はフェライトとパーライト結晶とが混ざった状況を呈

していることと、「④金属鉄断面の硬さ試験結果」の硬さ平均値HV142から鉄に含まれる炭素量は0.2~0.4%位と推定され、低炭素鋼（現代使用されている釘に較べるとやや炭素量が多い）と言える。焼き入れ等の熱処理は施されていない。

photo.10⑬のC方向の切断面の組織は右上から左下に向かって、3層の組織がやや異なる鉄で構成され、しかもその境界には介在物が連なって存在する。すなわち、3枚以上の鉄板を重ね鍛接した鉄錠から素材を鑿などで細かく切り出し、鍛冶加工して釘に製作された可能性が高い。

介在物のE PMA写真をphoto.11③~12⑥に示した。介在物の構成元素はL方向、C方向とも珪素、カルシウム、マグネシウムやアルミニウムの複合酸化物（鉱物質）と確認された。介在物には少量のチ

タニウムが含有されるがバナジウムは含まれない。この鉄が砂鉄を原料として製造されたものか否かは明らかでない。なお、金属鉄の中には少量の炭素が一様に分布している状況が認められる。

以上の結果を総合すると、この試料は鉄錠のような鍛造接合した素材を基に製作された釘と考えられる。現代の釘に比べ炭素量がやや多い。焼き入れ等の熱処理は施されていない。なお、鉄源が砂鉄か否かは明らかでない。

④ 硬さ試験報告

1. 件名
微小硬度計による鉄製品（釘）の硬さ試験
2. 試料前処理
X線透過試験で確認された試料内の金属部分を切断採取したのち、アクリル系樹脂にて埋め込み、研磨した面にて硬さ試験を行った。
3. 試験方法
硬さ試験：なるべく巣および介在物のない部分を選んで、マイクロビッカース試験を行った。
4. 測定装置
島津製作所製 HMV-2000（荷重自動変換式・自動負荷方式）
5. 測定条件

①荷重	1000gf
②荷重時間	15sec.
③測定点	10点
④圧子	対面角136° ダイヤモンド正四角錐

6. 測定結果

硬さ平均値 (HV)	C . V . (%)	硬さ最大値/最小値 (HV)
142	8.34	161/127

(10) 試料No.10 (総番号95-105) 鉄製品 (鎌)

① 観察表

出土状況	出土位置	東側 黒色土	時期：根拠	不明			分析項目	成分分析	—	
遺物種類	鉄製品 鎌							組織写真	—	
遺物データ	法量	長径	5.80cm	遺存度	刃部先端	磁着度		8	X線回折	—
		短径	3.90cm	破面数	1	メタル度		L (●)	E P M A	—
		厚さ	0.50cm				色調		表：黄赤褐色/地：黒灰色	X線透過
		重量	12.75 g	断面樹脂処理		硬度		—		
耐火度	—							—		
観察所見 (平面形と概観)	刃部がやや曲がる鎌の先端部の破片である。長軸とほぼ直角に折り取れて、またその破片中央部でも折れている。									
(色調)	周囲は酸化して、黄赤褐色である。剥落部分から見る内部も錆化が進み、黒灰色である。									
(表面の状況)	使用時の状況を残す部分はない。表面は酸化し、内部も放射割れや剥落を起こして錆化が著しい。刃部の鍛打成形状態も掴めない。									
分析部分	メタル部分を判定して、その部分を用いる。									
備考	錆化が著しいため、分析に耐え得るか判断して欲しい。									

② 調査および考察結果

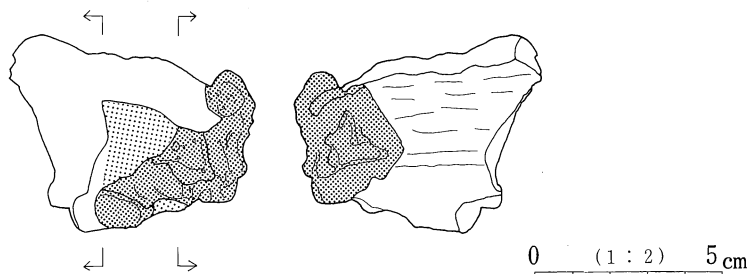
磁着反応、メタル度反応があり金属鉄の残存が予測されたのでX線（放射線）透過試験を行った。photo.12⑧の写真に示すように試料に薄い陰影が確認された。しかし、金属鉄が残存していても検討に充分な量が確保出来ないと推定されたので、photo.12⑦に示した外観写真撮影に止めた。

(11) 試料No.11（総番号95-106） 鞆羽口

① 観察表

出土状況	出土位置	2号住 覆土2層	時期：根拠	10C前：土器			分析項目	成分分析	○
遺物種類	羽口							組織写真	○
遺物データ	法量	先端外径	— cm	遺存度	先端部のみ (内径1/3周)	径の 絞り度	外径—% 口径—%	E PMA	—
		// 口径	2.40cm					使用回数	一回
		基部外径	— cm	磁着度	5	メタル度	なし()		
		// 口径	— cm					断面樹脂処理	—
現存長	6.60cm								
重量	71.03 g								
観察所見 (概形)	鍛冶羽口の先端部だけの破片である。側面はほとんど剥落して原形を留めない。僅かに内面と口部に着いたガラス滓部分を遺存している。使用角度・回数などは不明である。								
(胎土の状況)	比較的緻密で、微小な白色粒子を僅かに含むほかに含有物はない。焼成により白黄色を呈している。								
(表面の状況)	ごく僅かに観察できる表面は、丁寧にナデ成形が施され滑らかである。逆に内面は、芯材に粘土を巻き付けた時のよれをそのままに残っていて、無調整であることが推測される。ガラス滓は表面で最長3cm、内面には2cm程付着している。また、羽口自体は炉の被熱により、暗赤褐色、黄褐色に変色している。								
分析部分 備考	先端部と鞆側をそれぞれ1/4ずつ直線状に切断して、滓部と胎土を用いる。 全体に炉による被熱変化を受けた個体であるが、耐火度分析はできる限りその影響の少ない部分で行って欲しい。								

② 実測図(1:2)



③ 調査および考察結果

外観写真をphoto.12⑨に示した。羽口先端部に付着している鉄滓と鞆側の熱影響の少ない羽口胎土部分を採取し検討を加えた。

photo.12⑩・⑪の顕微鏡写真によると、滓内部には無数の大小の気泡が存在し、気泡の形状が丸いの

で溶融時には比較的ガラス状の粘稠な滓であったと推定される。滓中にはウスタイトやマグネタイトの結晶は少なく、全体がガラス状を呈する鉱物質で構成されている。

羽口先端の滓部分の化学成分分析によると、その主成分はシリカ（酸化珪素：SiO₂）、アルミナ（酸化アルミニウム：Al₂O₃）、マグネシヤ（酸化マグネシウム：MgO）やカルシア（酸化カルシウム：CaO）の粘土構成成分であり、その他の成分を含め合計は約73%あった。他にT. Feが21.5%存在し、鉄滓と粘土の溶融混合物であることが判る。また、鉄滓部の試料を空气中高温で加熱したときの灼熱減量（Ig. loss）が+1.05%と増量側にあり、したがって、試料中にM. Feが存在していたため（顕微鏡観察やメタルチェッカーによるテストでは判らなかつたが）灼熱時の鉄の酸化によって重量が増加したものと考えられる。

熱影響の少ない胎土部分を採取し耐火度試験を行った。その結果によると、耐火度はおおよそ1,040℃でそれ程高くない。羽口先端が溶融した理由の一つと言えよう。

以上の結果を総合すると、羽口に付着した鉄滓は鍛冶滓と推定されるので、試料は鍛冶炉用の羽口と考えられる。鉄滓には金属鉄が存在していた可能性が高い。

羽口粘土の耐火度は約1,040℃であった。

④ 化学成分分析

単位：%(m/m)

成分 試料No.	C	SiO ₂	MnO	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	TiO ₂	Na ₂ O	K ₂ O	T. Fe	C·W	Igloss
No.11	0.121	49.0	0.30	12.7	1.31	1.95	3.80	1.17	1.95	21.5	0.62	+1.05

【分析方法】 粘土の分析方法はJIS法に準拠し、以下の方法とした。

C：燃焼—赤外線吸収法 SiO₂, MnO, Al₂O₃ }
 C·W：カールフィッシャー法 CaO, MgO, TiO₂ } : ガラスビード蛍光X線分析法
 Igloss：重量法 Na₂O, K₂O, T. Fe }

⑤ 耐火度試験報告

試料番号	耐火度 (SK)	色調	膨張	試験錐の状況
No.11	3a	茶色	膨張	普通

試験条件：酸素プロパン炉法

ゼーゲルコーン溶倒温度比較表

温度(℃)	コーン番号	温度(℃)	コーン番号	温度(℃)	コーン番号	温度(℃)	コーン番号
600	022	960	07a	1,280	9	1,650	29
650	021	980	06a	1,300	10	1,670	30
670	020	1,000	05a	1,320	11	1,690	31
690	019	1,020	04a	1,350	12	1,710	32
710	018	1,040	03a	1,380	13	1,730	33
730	017	1,060	02a	1,410	14	1,750	34
750	016	1,080	01a	1,435	15	1,770	35
790	015a	1,100	1a	1,460	16	1,790	36
815	014a	1,120	2a	1,480	17	1,825	37
835	013a	1,140	3a	1,500	18	1,850	38
855	012a	1,160	4a	1,520	19	1,880	39
880	011a	1,180	5a	1,530	20	1,920	40
900	010a	1,200	6a	1,580	26	1,960	41
920	09a	1,230	7	1,610	27	2,000	42
940	08a	1,250	8	1,630	28		

注：コーンは正確な温度の測定をするものではない。
 耐火度の数値を概略の温度で示す場合のみ上の温度表が使われる。
 この表は J I S R0305付表による。コーン番号 = S K 番号

5 まとめ

(1) 鉄滓（試料No. 1～3、7、8）について

- ① 試料No. 1～3は形状から椀形滓と言える。
- ② 試料No. 1は鍛錬鍛冶滓、試料No. 2は精錬鍛冶滓の可能性が高い。（試料No. 3は外観の写真撮影のみ）
- ③ 試料No. 7は精錬と鍛錬過程で発生した粒状滓の混合物の可能性が高い。
- ④ 試料No. 8は鍛造剥片である。
- ⑤ 鉄滓の化学成分分析値をみる限りでは、鉄原料は砂鉄の可能性が高い。

(2) 鉄塊系遺物（試料No. 4～6）について

- ① 全ての試料とも金属鉄が存在する。
- ② 炭素含有量は試料No. 4と6で0.8～1.7%または1.7%以上、試料No. 5は殆ど純鉄に近いほど少ないと推定される。
- ③ 鍛冶加工を受けたと推定される試料は、試料No. 4と6である。
- ④ 炭素が殆ど存在せず（純鉄に近い）、鍛冶加工を受けていないと推定される試料は、試料No. 5である。
- ⑤ 全ての試料とも金属鉄の鉄源が砂鉄か鉱石かは判らなかった。

(3) 鉄製品（試料No. 9、10）について

- ① 釘は炭素量推定0.2～0.4%の低炭素鋼で、材料を重ね合わせるなどの方法で鍛造し、製作されたと推定される。鉄源が砂鉄か否かは判らなかった。
- ② 鎌先は金属鉄の残存量が少ないと判断されたので、外観の写真撮影のみに止めた。

(4) 羽口（試料No. 11）について

- ① 羽口先端に付着していた滓は鍛冶滓の組織を呈するので、鍛冶炉用に使用した羽口と推定される。また、この滓には金属鉄が存在していた可能性が高い。
- ② 羽口粘土の耐火度は約1,040℃であった。

6 参考

(1) 鉄滓の発生の分類（鉄の生産工程から）

- ① 製錬滓 ……砂鉄や鉄鉱石を木炭等の炭素で還元して、酸素を取り除き、金属鉄を取り出す時に発生するもので、炉内滓や炉底滓および炉外流出滓などがある。
- ② 精錬鍛冶滓……①で出来た鉄塊から、さらに不純物を取り出して加工しやすい状態の鉄素材（鉄塊）にする時に生成するもので、成分的には①の製錬滓に近い。
- ③ 鍛錬鍛冶滓……②で出来た鉄素材や製品の鉄を加熱・鍛打して、鉄製品を作っていく過程で生成する鉄滓で、その生成過程により椀形鍛冶滓、鍛造剥片や粒状鉄滓（通称湯玉）等の形となる。
- ④ 鋳物滓 ……鉄を溶解し、鋳型に流し込んで鋳物を作る時に生成するもの。

鉄は再加工（いわゆるリサイクル）の可能な素材として利用できるもので、鍛冶場には各所で新規に生産さ

れた鉄と同時にリサイクル品が持ち込まれてきた可能性もあると、考えるのが妥当である。

素材である鉄や鉄塊がどこで生産されたものか、製鉄技術の進歩の状況はどうであったか等については、特定製鉄遺跡に付随する鍛冶工房や、製品としての鉄器類の追跡調査研究を進めて行く過程で更に解明出来るものと思われる。

(2) 鉄の分析結果について

分析結果表に記載されている全鉄分 (Total Fe=T. Feと表示) の量と、その後に記載されている金属鉄 (Metalic Fe=M. Fe)、酸化第一鉄 (FeO) および酸化第二鉄 (Fe₂O₃) との関係を簡単に述べると、後者の二つは酸化鉄 (鉄と酸素の化合物) を示しており、それらの中の鉄 (Fe) の量とM.Feの量とを合計したものが前者のT. Feとなる。

したがって、分析値を合計する場合には全鉄分を除外して集計する必要がある。

また、酸化鉄にはこの他にもいろいろな形態をしたものがあり、鉄滓中の鉄の成分量を見る場合には、全鉄分 (T. Fe) が重要になる。

なお、酸化鉄の他の化合物としては四三酸化鉄 (FeO · Fe₂O₃=Fe₃O₄) があるが、化学成分分析から直接含有量は求められない。

また、水分との接触が多い鉄器や鉄滓の場合、水分 (C. W.) と酸化第二鉄とが結合したオキシ水酸化鉄 (Fe₂O₃ · H₂O=2FeOOH) が一般的に認められる。その時の鉄錆の形態は、ゲーサイト [Goethite: α-FeOOH]、アカゴナイト [Akagonite: β-FeOOH]、レピッドクロサイト [Lepidocrocite: γ-FeOOH] の3種であり、生成環境や条件により変化する。

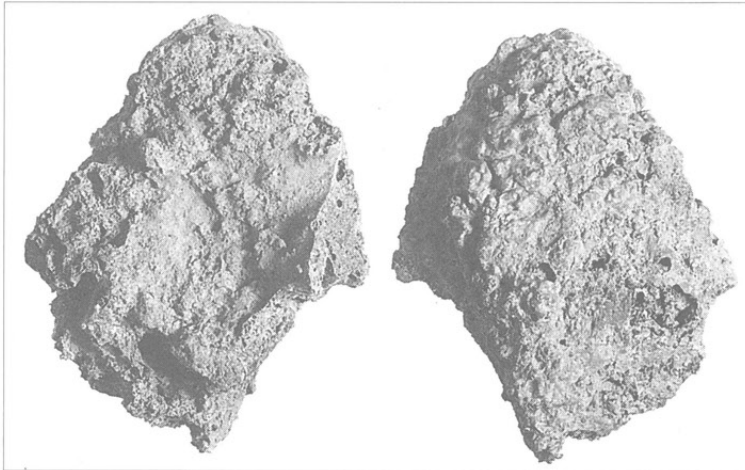
(3) 鉄滓の化合物について

鉄滓を構成する化合物は一般に次のようなものであり、顕微鏡写真およびX線回折の結果によると、原則としてこれらの存在がいずれかの組み合わせで認められる。なお、このほかにガラス質の化合物も存在する。

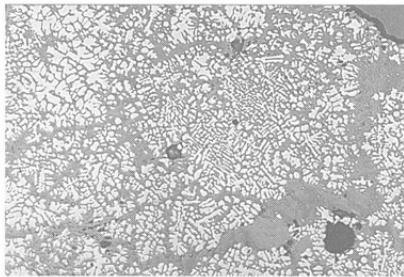
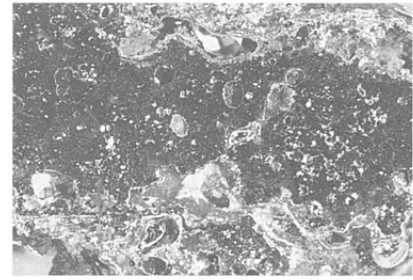
ウスタイト	: Wustite (FeO)	白色の繭玉又は葡萄の房状の結晶
ファイヤライト	: Fayalite (2FeO · SiO ₂)	短冊状やレース状の長い結晶
マグネタイト	: Magnetite (Fe ₃ O ₄)	白色、多角盤状または樹枝状の結晶
ヘマタイト	: Hematite (α-Fe ₂ O ₃)	赤褐色～赤紫色
マグヘマイト	: Maghemite (γ-Fe ₂ O ₃)	赤紫色～黒紫色
ウルボスピネル	: Ulvospinel (2FeO · TiO ₂)	淡褐色、角尖状～六角形状結晶
イルメナイト	: Ilmenite (FeO · TiO ₂)	褐色針状の長い結晶
シュードブルックサイト	: Pseudobrookite (Fe ₂ O ₃ · TiO ₂)	針状または板状結晶
ゲーサイト	: Goethite (α-FeOOH)	黄赤色、不定型
アカゴナイト	: Akagonite (β-FeOOH)	黄色、不定型
レピッドクロサイト	: Lepidocrocite (γ-FeOOH)	橙赤色、不定型
ヘーシナイト	: Hercynite (FeO · Al ₂ O ₃)	ウスタイト中に多く析出、胡麻粒状

この他、石英=クオーツ (Quartz: SiO₂)、ルーサイト (Leucite: KAlSi₂O₆)、プラギオレーゼ [Plagioclase: (Na, Ca) (Al, Si)₄O₈]、ドロマイト [Dolomite: CaMg(CO₃)₂] 等の鉱物やガラス質のものがある。なお、色調は前記したものと若干異なる場合もある。

試料No.1 外観(1:2)

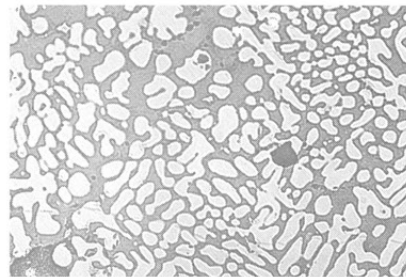


顕微鏡組織 ×10(1/2縮小)



EPMA ×400(1/2縮小)

×100(1/2縮小)



×400(1/2縮小)

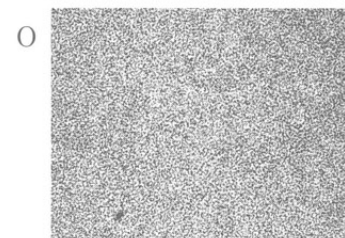
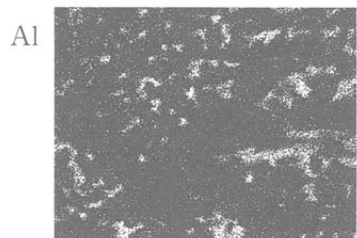
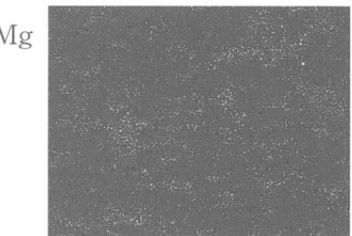
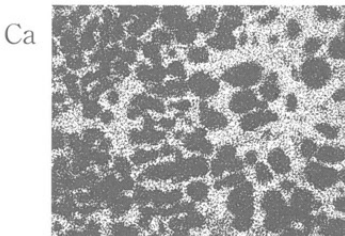
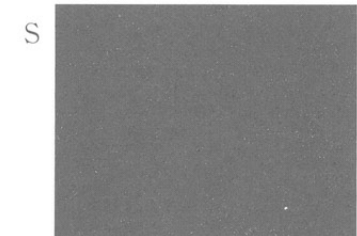
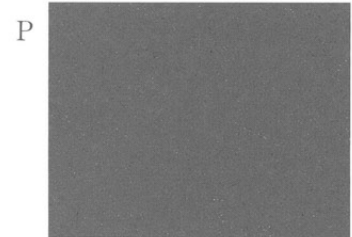
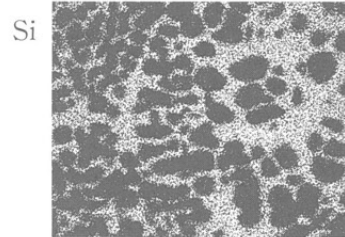
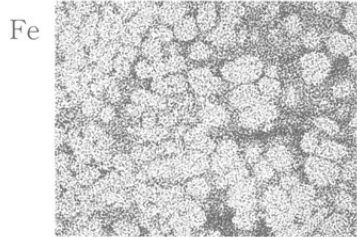
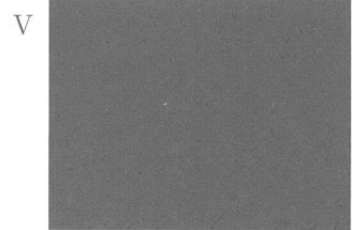
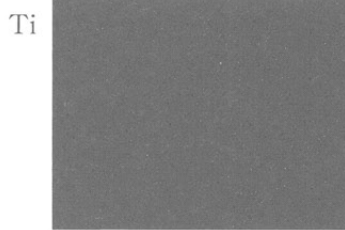
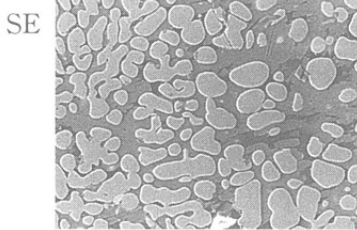
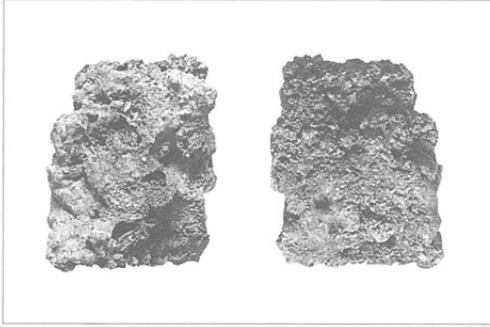
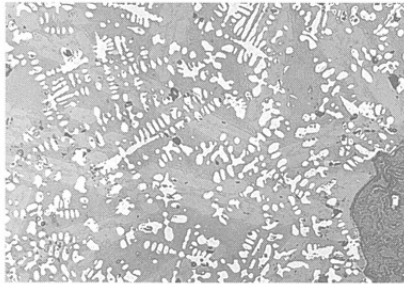
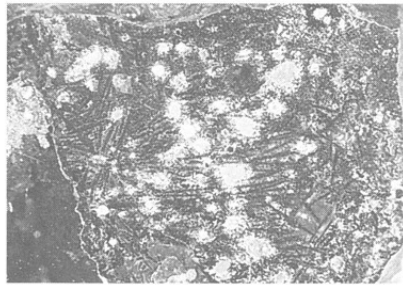


Photo.1 試料No.1 (椀形鍛練鍛冶滓)

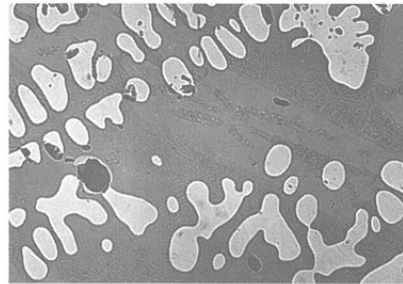
試料No. 2 外観(1:2)



顕微鏡組織 ×10(1/2縮小)



×100(1/2縮小)



×400(1/2縮小)

試料No. 3 外観(1:2)

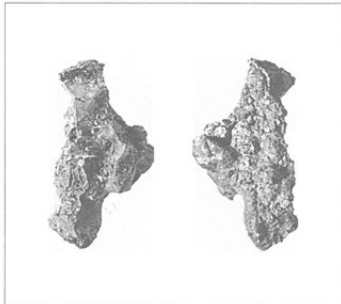
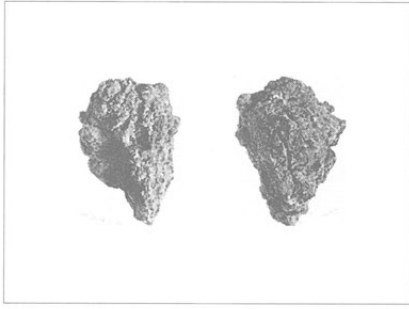


Photo.2 試料No.2(椀形鍛練鍛冶滓)・試料No.3(椀形鍛冶滓)

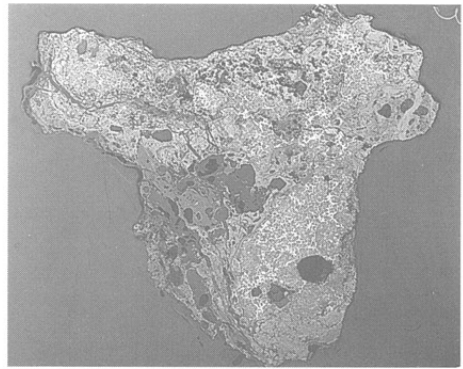
試料No. 4 外観 (1:1)



X線透過(1:1)



顕微鏡組織 ×10(1/2縮小)



金属顕微鏡組織

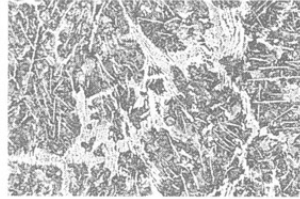
×100(1/2縮小)



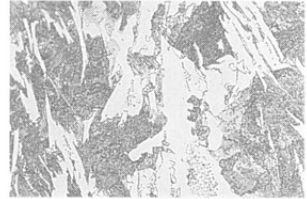
×400(1/2縮小)



×100(1/2縮小)

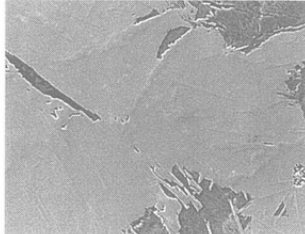


×400(1/2縮小)

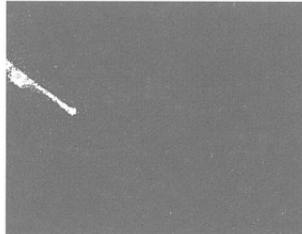


EPMA ×400(1/2縮小)

SE



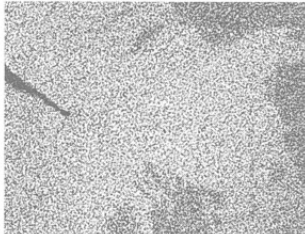
Ti



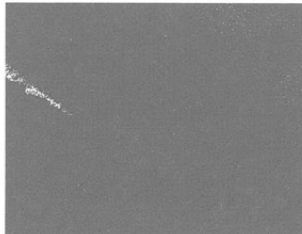
V



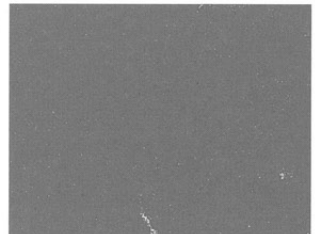
Fe



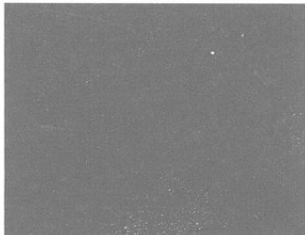
Si



P



S



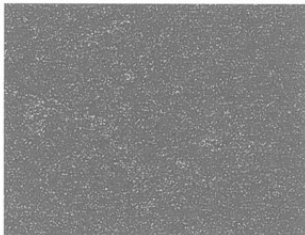
Ca



Mg



Al



O



C

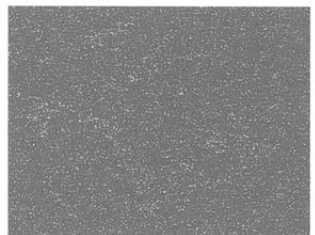
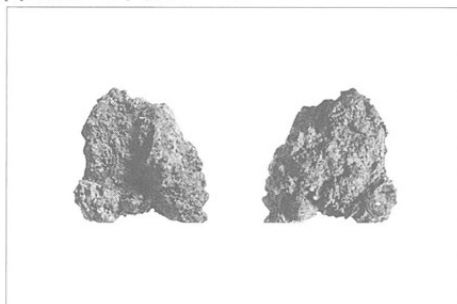


Photo. 3 試料No. 4 (鉄塊系遺物)

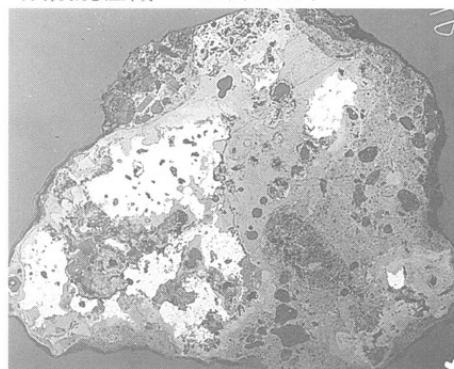
試料No. 5 外観(1:1)



X線透過(1:1)



顕微鏡組織 ×10(1/2縮小)

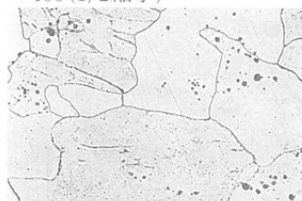


金属顕微鏡組織

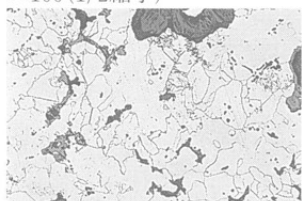
×100(1/2縮小)



×400(1/2縮小)



×100(1/2縮小)

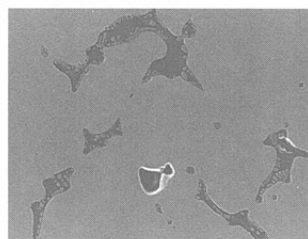


×400(1/2縮小)

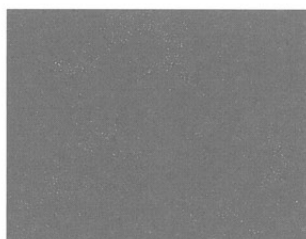


EPMA ×400(1/2縮小)

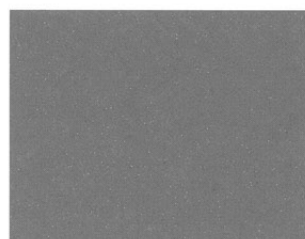
SE



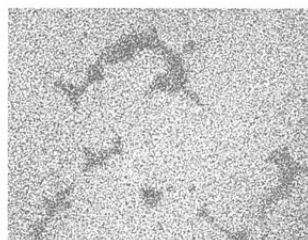
Ti



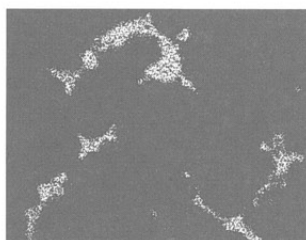
V



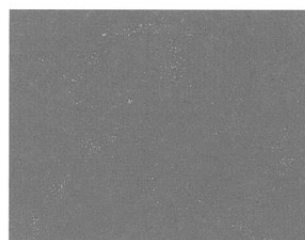
Fe



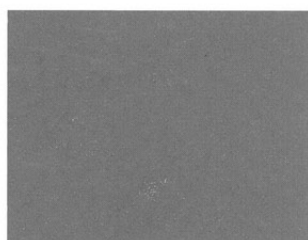
Si



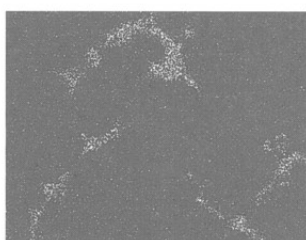
P



S



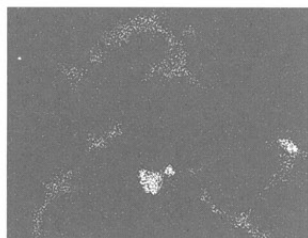
Ca



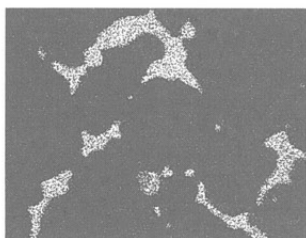
Mg



Al



O



C

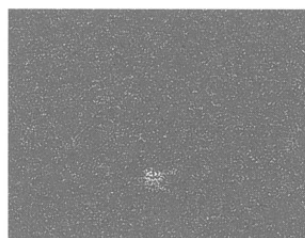
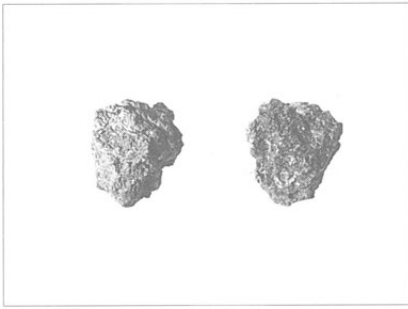


Photo. 4 試料No. 5 (鉄塊系遺物)

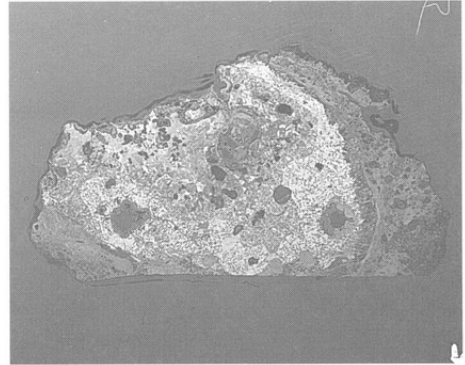
試料No. 6 外観(1:1)



X線透過(1:1)

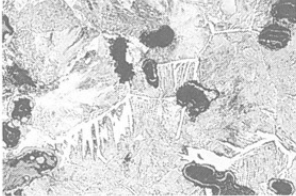


顕微鏡組織 ×10(1/2縮小)

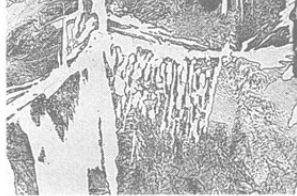


金属顕微鏡組織

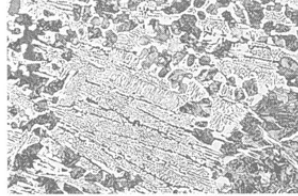
×100(1/2縮小)



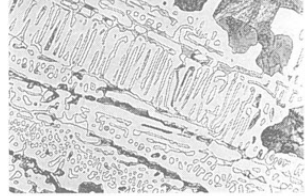
×400(1/2縮小)



×100(1/2縮小)

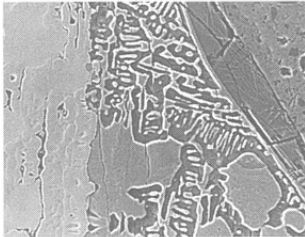


×400(1/2縮小)

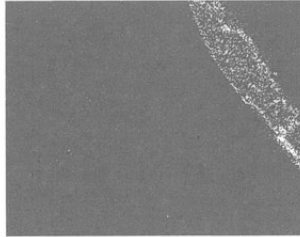


EPMA ×400(1/2縮小)

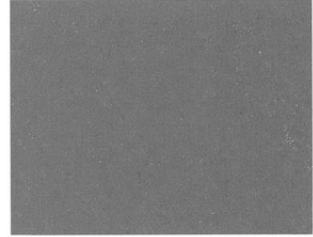
SE



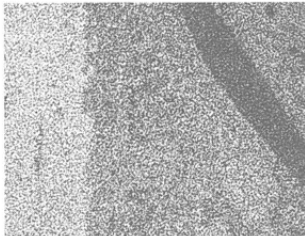
Ti



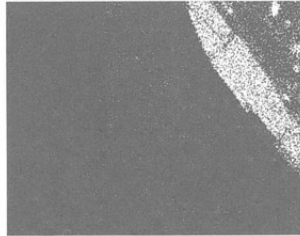
V



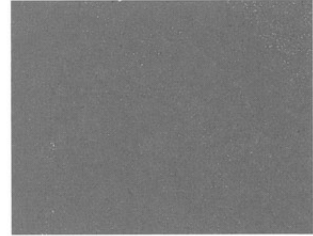
Fe



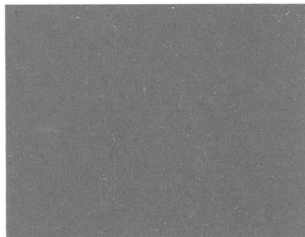
Si



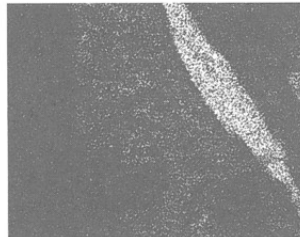
P



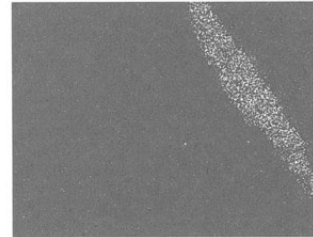
S



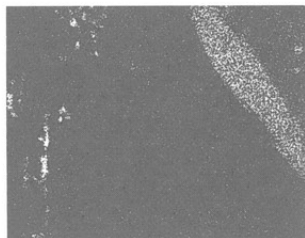
Ca



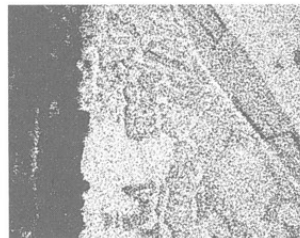
Mg



Al



O



C

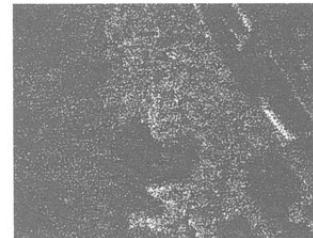
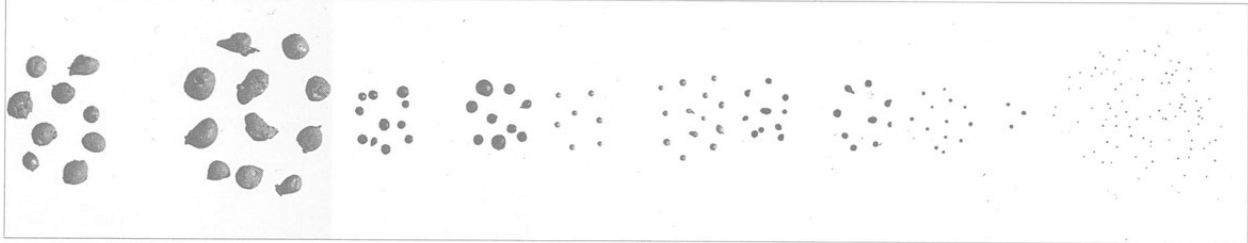


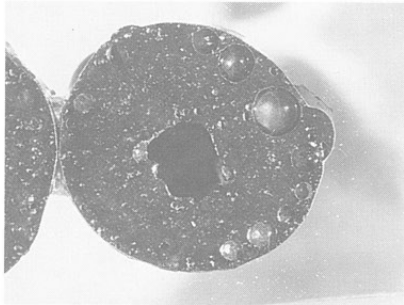
Photo. 5 試料No. 6 (鉄塊系遺物)

試料No. 7 外観(1:2)

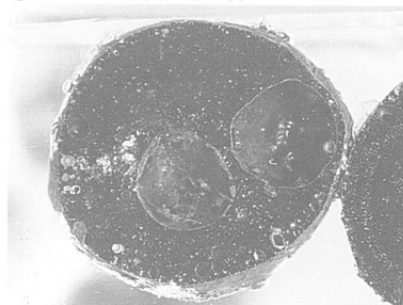


顕微鏡組織(1) ×10(1/2縮小)

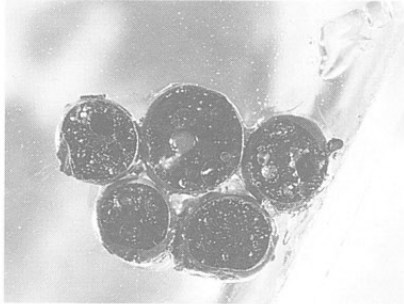
①(4.0mm以上) 磁:強



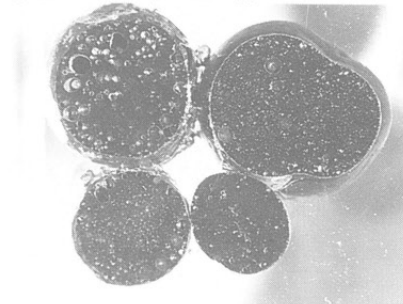
②(4.0mm以上) 磁:弱



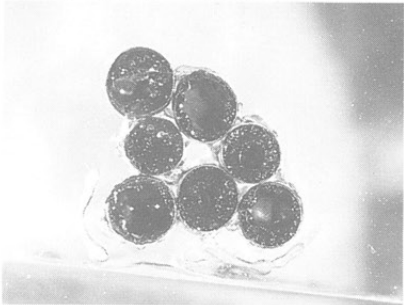
③(2.0~4.0mm) 磁:強



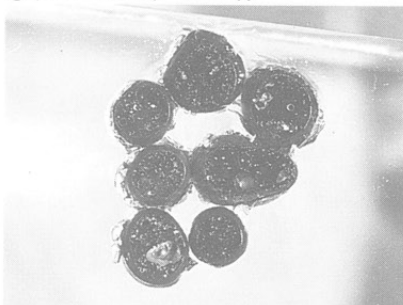
④(2.0~4.0mm) 磁:弱



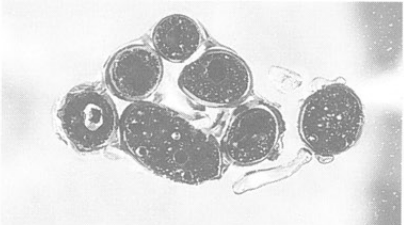
⑤(1.5~2.0mm) 磁:強



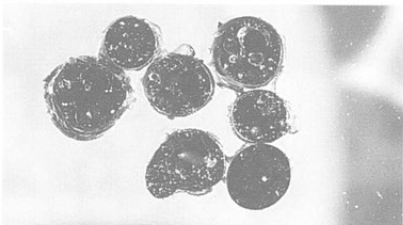
⑥(1.5~2.0mm) 磁:弱



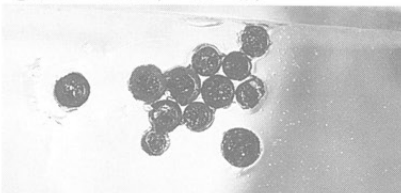
⑦(1.0~1.5mm) 磁:強



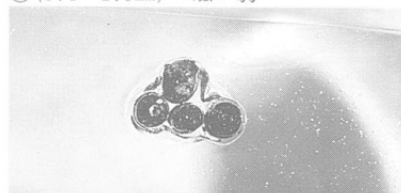
⑧(1.0~1.5mm) 磁:弱



⑨(0.4~1.0mm) 磁:強



⑩(0.4~1.0mm) 磁:弱



⑪(0.4mm以下)

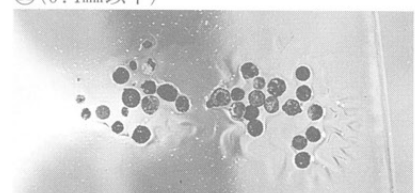
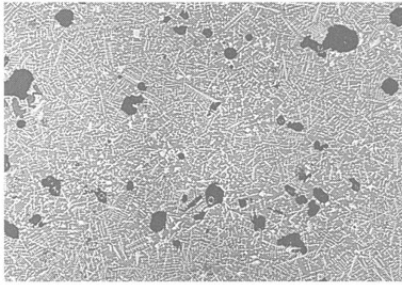
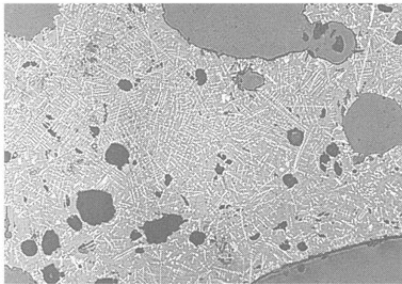


Photo. 6 試料No.7 (粒状滓)

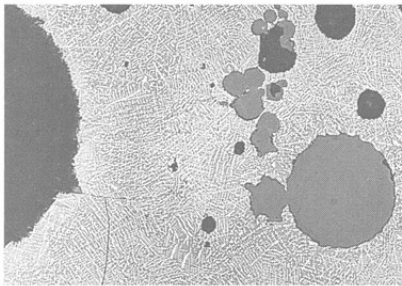
顕微鏡組織(2) ×100(1/2縮小)



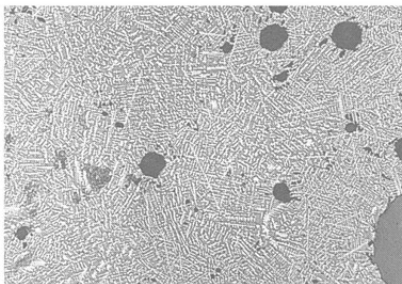
①(4.0mm以上)
磁：強



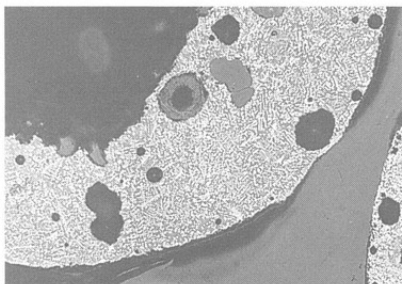
②(4.0mm以上)
磁：弱



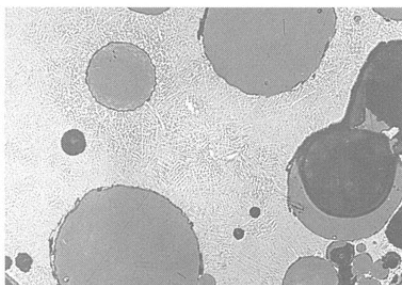
③(2.0~4.0mm)
磁：強



④(2.0~4.0mm)
磁：弱



⑤(1.5~2.0mm)
磁：強



⑥(1.5~2.0mm)
磁：弱

×400(1/2縮小)

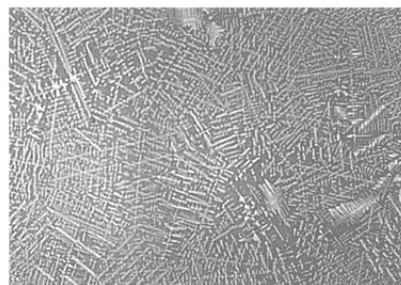
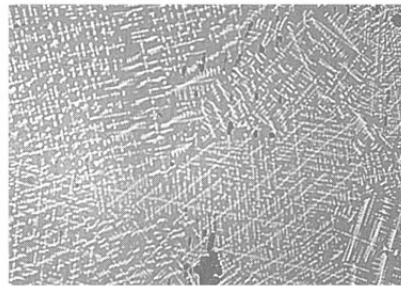
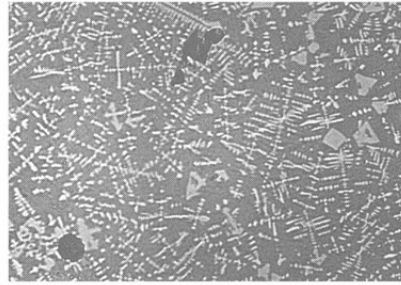
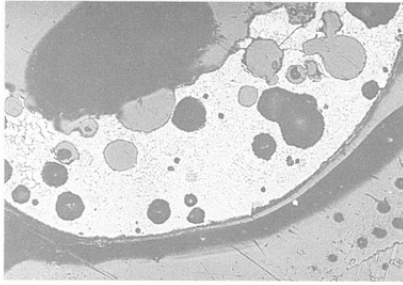
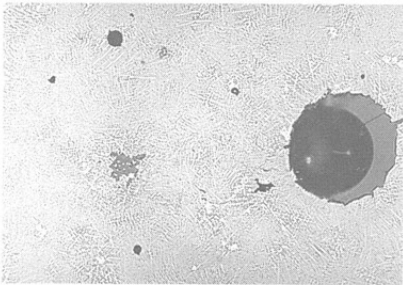


Photo. 7 試料No.7 (粒状滓)

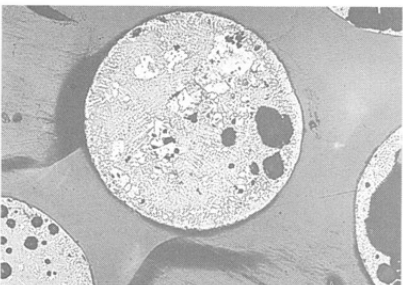
顕微鏡組織(3) ×100(1/2縮小)



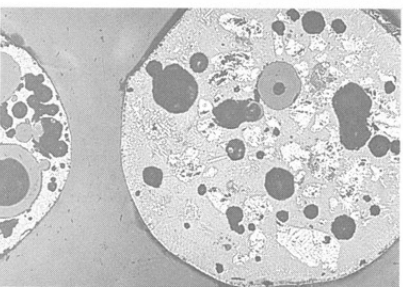
⑦(1.0~1.5mm)
磁：強



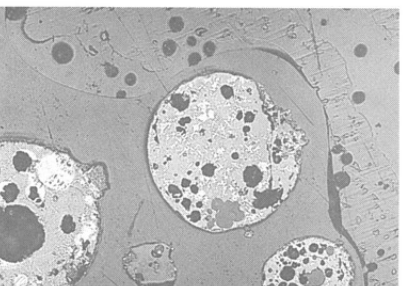
⑧(1.0~1.5mm)
磁：弱



⑨(0.4~1.0mm)
磁：強



⑩(0.4~1.0mm)
磁：弱



⑪(0.4mm以下)

×400(1/2縮小)

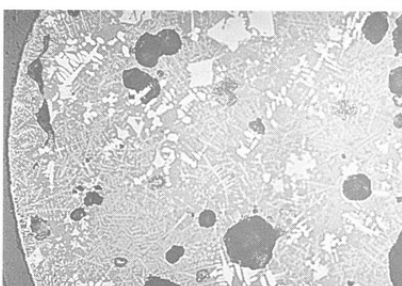
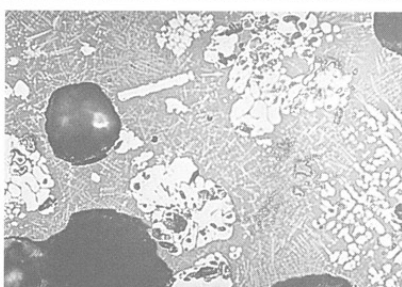
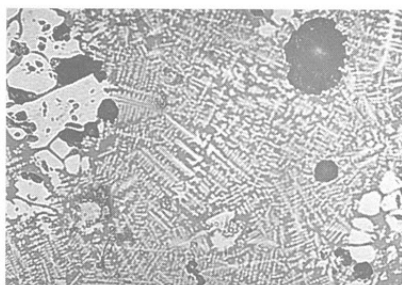
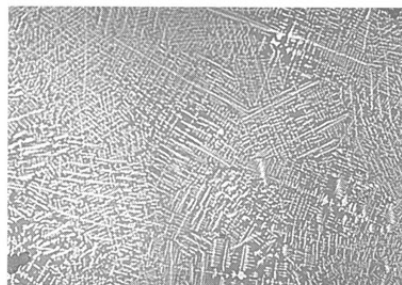
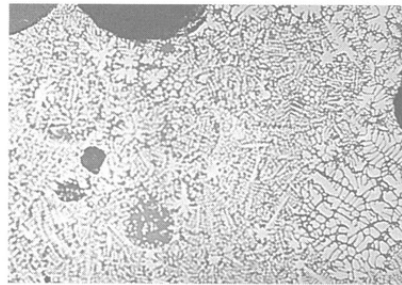
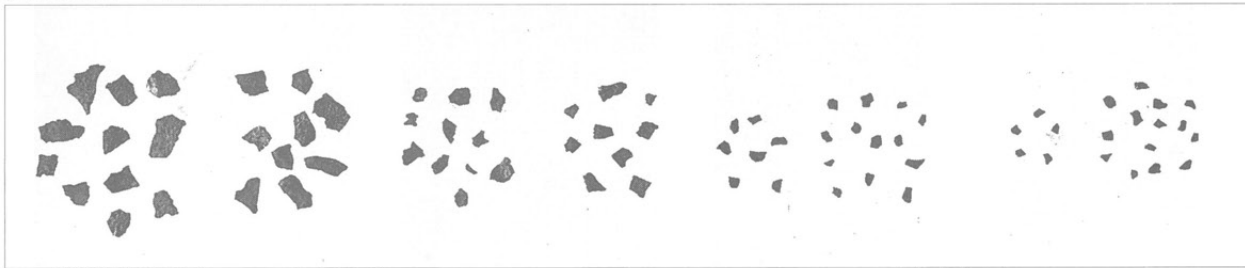
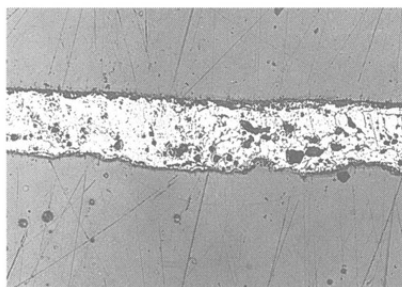
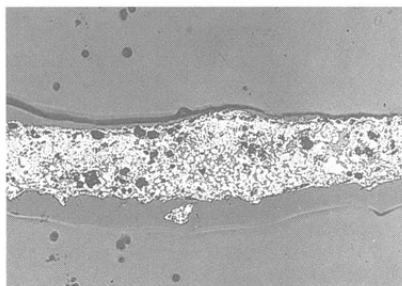
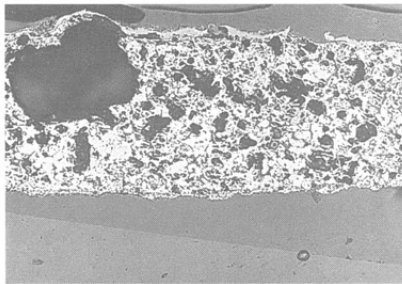
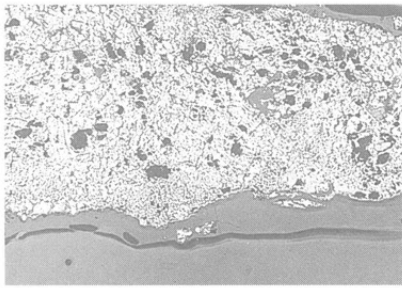
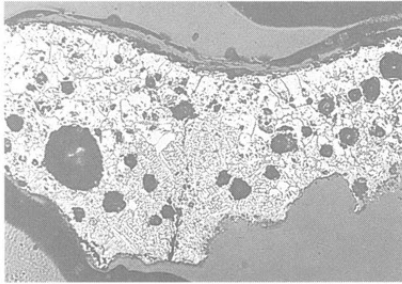


Photo. 8 試料No.7 (粒状滓)

試料No. 8 外観(1:2)



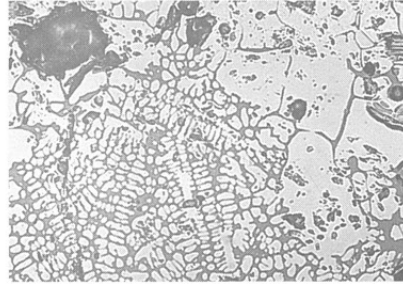
顕微鏡組織(1) ×100 (1/2縮小)



×400 (1/2縮小)

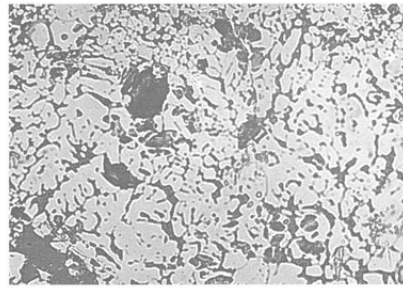
① (4.0mm以上)

磁：強



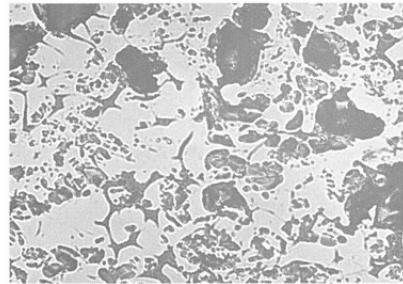
② (4.0mm以上)

磁：弱



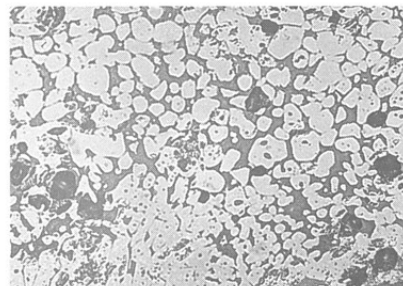
③ (2.0~4.0mm)

磁：強



④ (2.0~4.0mm)

磁：弱



⑤ (1.5~2.0mm)

磁：強

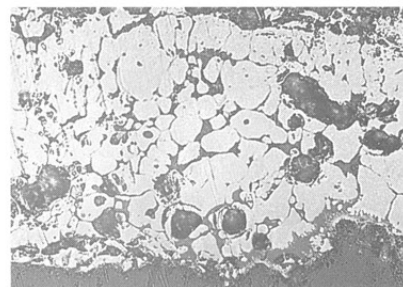
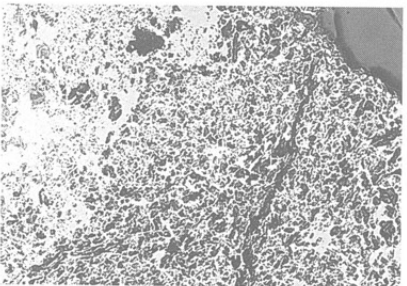
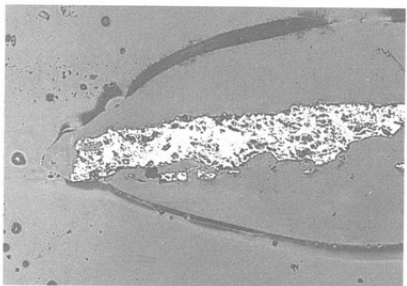
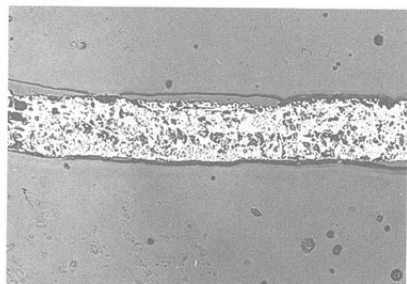


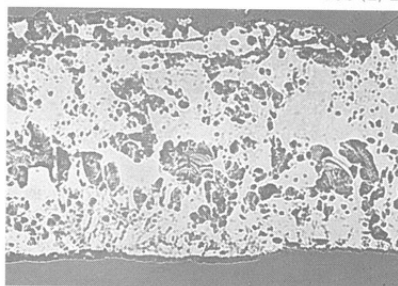
Photo. 9 試料No. 8 (鍛造剝片)

顕微鏡組織(2) ×100 (1/2縮小)



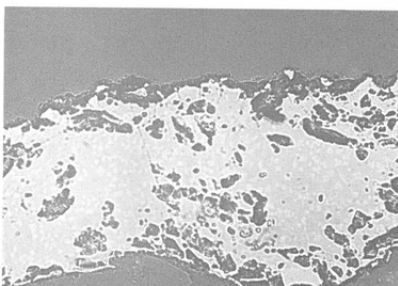
⑥ (1.5~2.0mm)

磁：弱



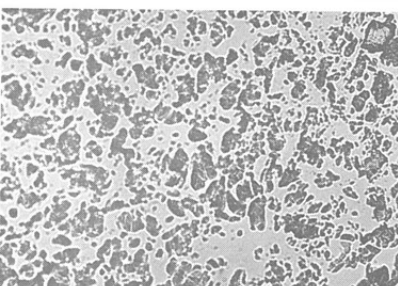
⑦ (1.0~1.5mm)

磁：強

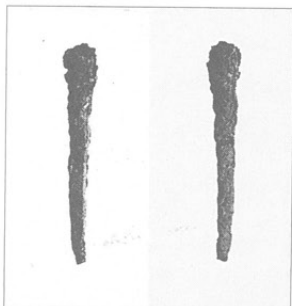


⑧ (1.0~1.5mm)

磁：弱



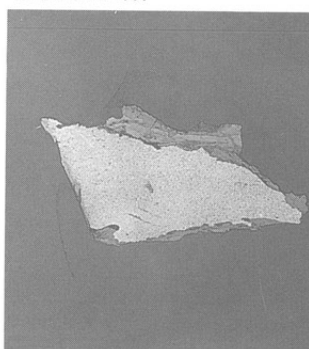
試料No. 9 外観(1:2)



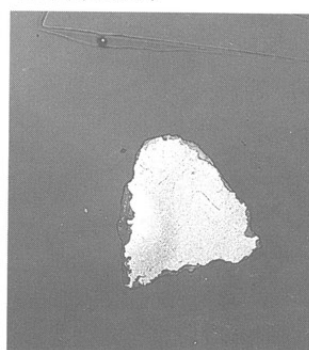
X線透過(1:2)



顕微鏡組織

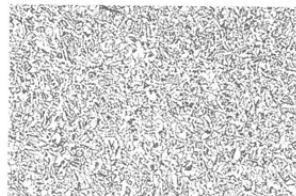


×10 (1/2縮小)

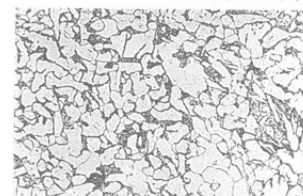


金属顕微鏡組織(1)L方向

×100 (1/2縮小)

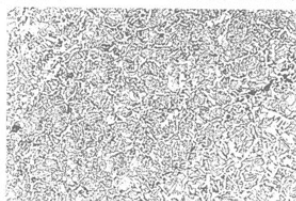


×400 (1/2縮小)



C方向

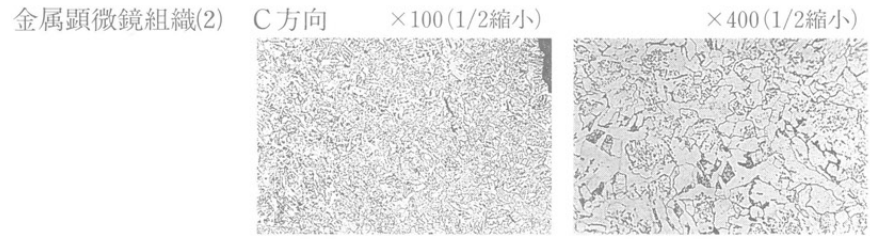
×100 (1/2縮小)



×400 (1/2縮小)

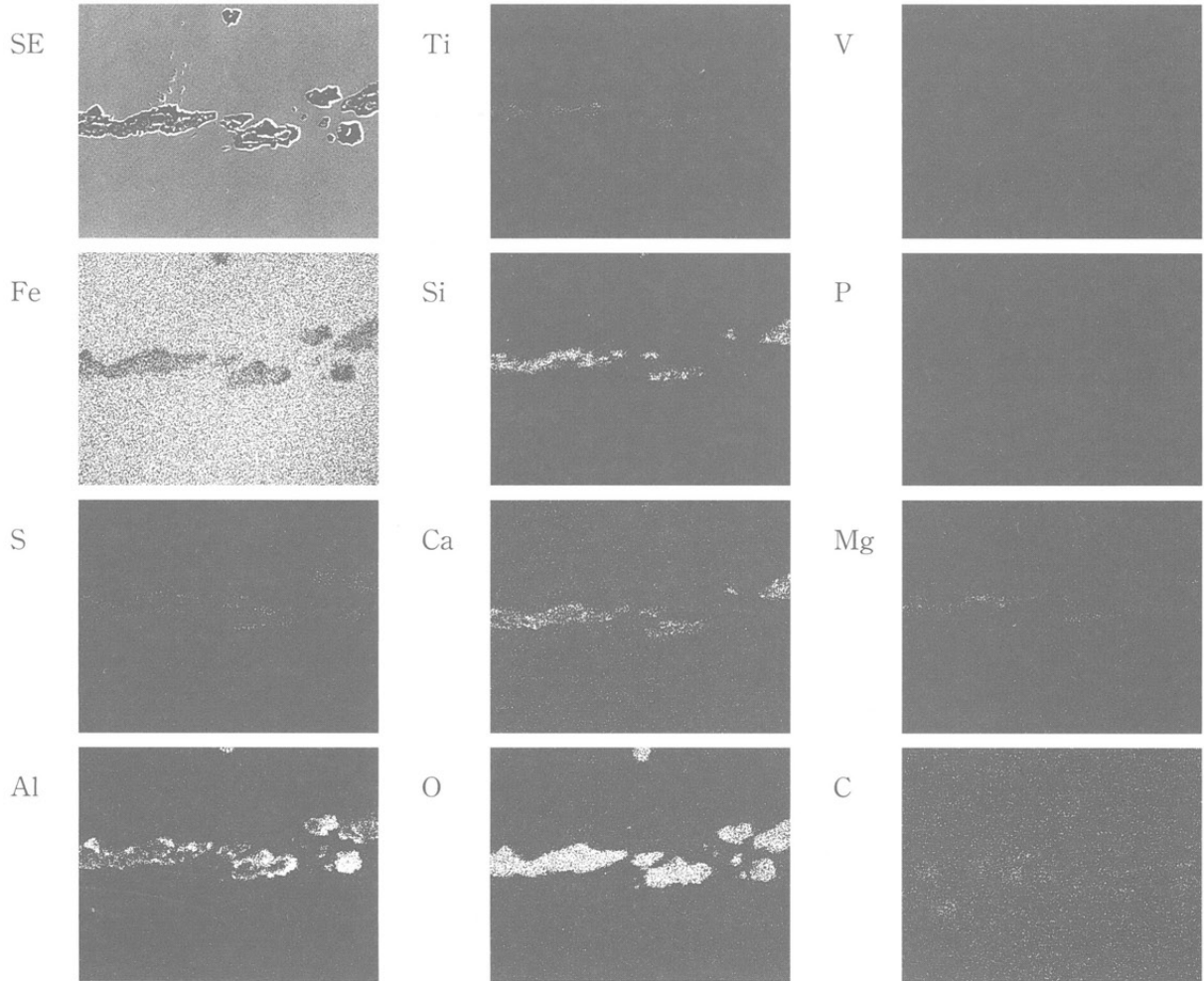


Photo.10 試料No.8 (鍛造剥片)・試料No.9 (釘)



EPMA(1) ×400(1/2縮小)

L方向



C方向

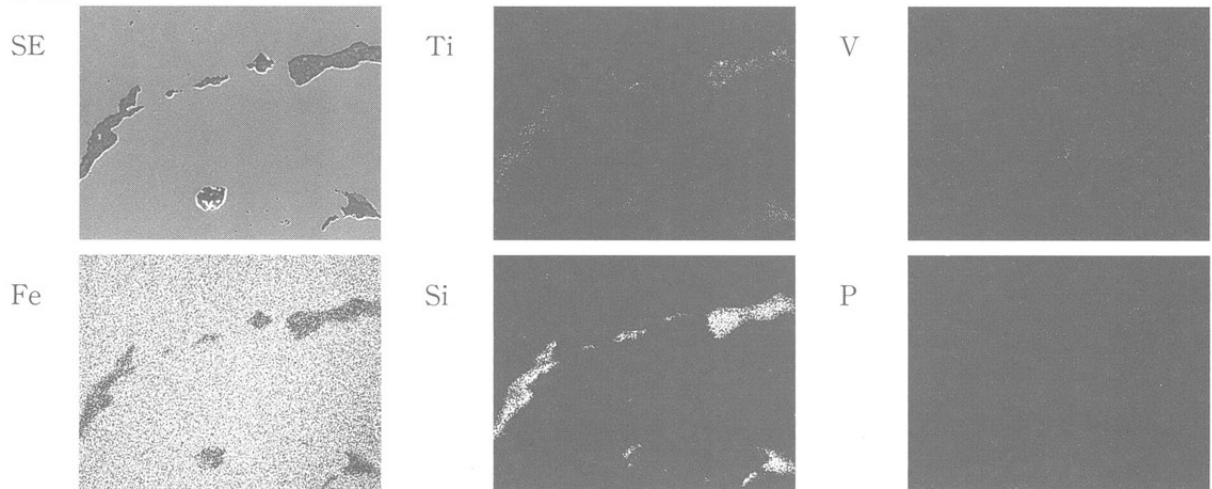
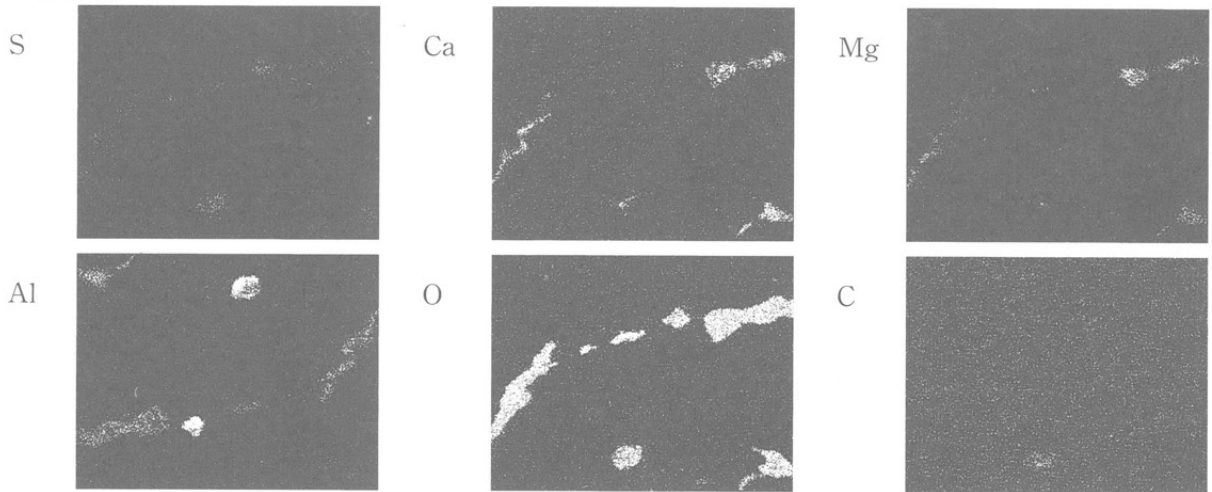


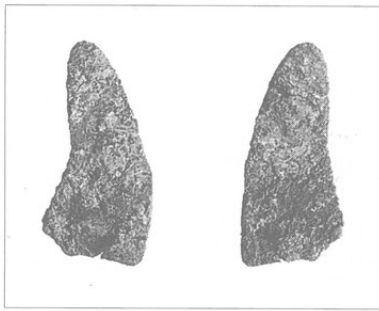
Photo.11 試料No.9(釘)

EPMA(2) ×400(1/2縮小)

C方向



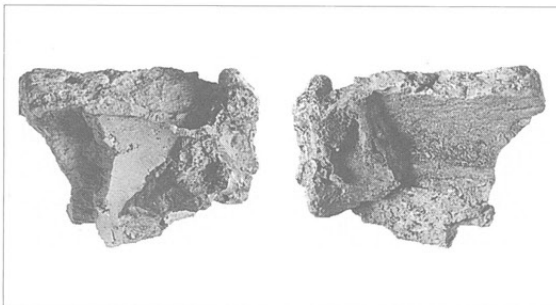
試料No.10 外観(1:2)



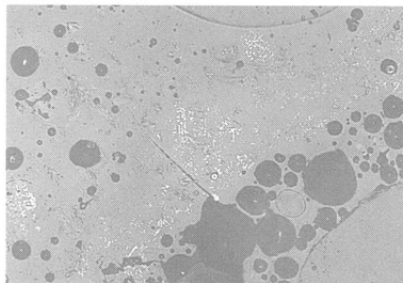
X線透過(1:2)



試料No.11 外観(1:2)



顕微鏡組織 ×100(1/2縮小)



×400(1/2縮小)

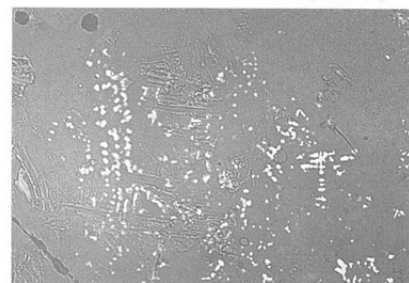


Photo.12 試料No.9(釘)・試料No.10(鎌)・試料No.11(羽口)

写真図版